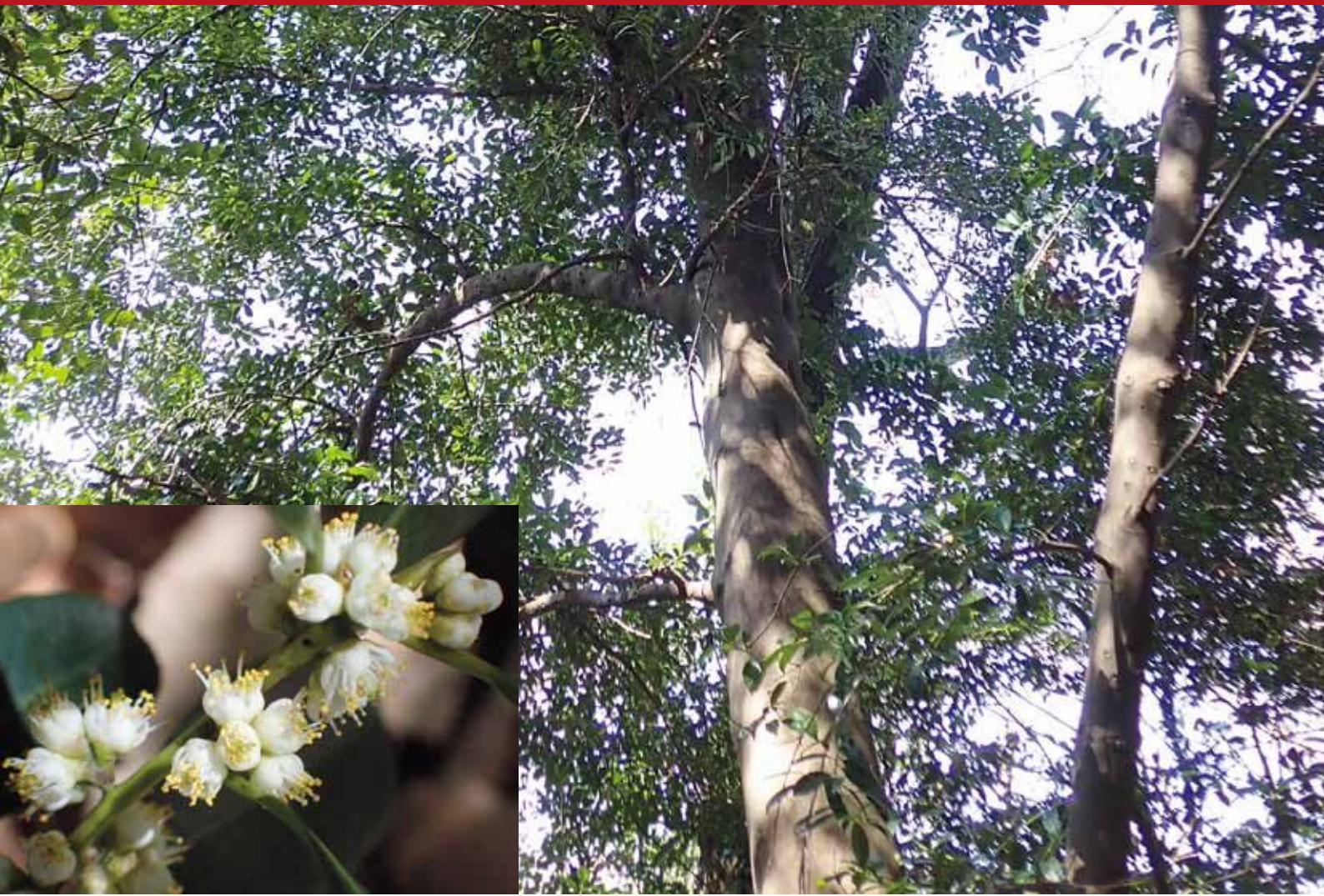


レッドデータブック なごや 2025



名古屋市の絶滅の
おそれのある野生生物

植物編

レッドデータブックなごや2025の発刊にあたって

名古屋市には、北西部の平野や、中央部の台地、東部の丘陵地など、それぞれの地域ごとに特色のある自然があり、そこでは多様な野生生物が「お互いにつながりあい」そして「バランスを取りながら」暮らしていました。しかし、都市化の進行など人間の活動による影響を受け、かつては身近にいた野生生物が見られなくなったり、その数を減らし絶滅のおそれが生じたりしているものがあります。

本市では、2010（平成 22）年に愛知・名古屋において生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）が開催されたことを契機に、身近な自然の保全・再生と生物多様性の持続可能な利用を、市民・事業者のみなさまとともに推進してきました。2022（令和 4）年に開催された COP15 においては、新たに、2030 年までに自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させる「ネイチャーポジティブ」の考え方が示され、それに向けて世界が大きく動きだしました。この「ネイチャーポジティブ」という新たな転換点を迎えた今、まちづくりや社会変革などの新たな視点も取り入れながら、生物多様性保全のための取組みを進めていくことが求められています。

生物多様性の指標となる、市内の野生生物の生息・生育状況については定期的に調査を行っており、2004（平成 16）年に絶滅のおそれのある野生生物の分布状況や減少の要因などについてとりまとめた「レッドデータブックなごや 2004」を発行しました。その後、2010（平成 22）年に補遺版を、2015（平成 27）年に改訂版の発行を経て、このたび最新の情報を反映させた「レッドデータブックなごや 2025」を作成しました。

本書がより多くの方々に、本市に残された自然環境への理解を深めていただくきっかけとなり、また、多様な野生生物を守る身近な取組みの輪を広げていくための一助となることを願っています。作成にあたり、ご協力、ご尽力いただきました名古屋市動植物実態調査に係る専門家会合の委員を始めとする多くの関係者のみなさまに、厚くお礼申し上げます。

令和 7 年 4 月

名古屋市長 広沢一郎

名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物
Threatened Wildlife of Nagoya City

レッドデータブックなごや 2025
RED DATA BOOK NAGOYA 2025

— 植 物 編 —

— Plants —

2025年4月

【 表紙写真 】

表：クロキ（主幹と花） 千種区、2023 年 3 月 20 日、長谷川泰洋 撮影
裏：カラコギカエデ（葉と果実） 天白区、2021 年 9 月 20 日、長谷川泰洋 撮影

目次

1. レッドデータブック作成の経緯と目的	1
2. 調査の概要	2
(1) 調査体制	2
(2) 調査対象と調査方針	3
(3) 調査方法	4
(4) レッドリストのカテゴリーと評価基準	5
3. 名古屋市版レッドリスト	9
①名古屋市版レッドリスト 2025 (種子植物)	9
②名古屋市版レッドリスト 2025 (シダ植物)	17
4. 名古屋市の野生生物の現状	19
種子植物	19
(1) 名古屋市における種子植物の概要	19
(2) 名古屋市における絶滅危惧種の概要	26
(3) 名古屋市で特に保全上の重要性が高い種類	29
(4) 掲載種の解説	32
絶滅 (EX)	34
絶滅危惧 IA 類 (CR)	105
絶滅危惧 IB 類 (EN)	150
絶滅危惧 II 類 (VU)	228
準絶滅危惧 (NT)	316
情報不足 (DD)	363
国リスト・県リスト	365
希少遇産種	376
シダ植物	381
(1) 名古屋市におけるシダ植物 (小葉植物を含む) の概要	381
(2) 名古屋市における絶滅危惧種の概要	381
(3) 名古屋市で特に保全上の重要性が高い種類	383
(4) 掲載種の解説	384
絶滅 (EX)	386
絶滅危惧 IA 類 (CR)	389
絶滅危惧 IB 類 (EN)	392
絶滅危惧 II 類 (VU)	402
準絶滅危惧 (NT)	419
国リスト・県リスト	429
希少遇産種	432
コケ植物	437

【資料編】	439
1. 名古屋市版レッドリストから削除された種	440
2. 県内分布の表示に用いた区画の略称と範囲	441
3. 評価手法の選定理由	444
4. 今回収録されなかった主要種	447
5. レッドデータブックなごや・植物編に関するQ & A	449
6. 文献について	454
7. 執筆責任者および協力者	455
【索引】	457
1. 索引（和名五十音順）	458
(1) 種子植物	458
(2) シダ植物	465
2. 索引（分類順）	467
(1) 種子植物	467
(2) シダ植物	474

1. レッドデータブック作成の経緯と目的

我が国は、昭和 40 年代に高度経済成長期を迎えて第 2 次産業が大きく発展し、人口は都市部に集中するようになり、道路や鉄道の整備、住宅団地の建設等が盛んに行われるようになった。それとともに自然生態系が圧迫されるようになり、野生生物の生息環境が改変されたり減少したりして、絶滅する種も生じるようになった。

このような現象に対応するため、国レベルで野生生物の絶滅のおそれのある種について調査が行われ、1989（平成元）年に（財）世界自然保護基金日本委員会と（財）日本自然保護協会が「我が国における保護上重要な植物種の現状」（植物編）を、1991（平成 3）年に環境庁（現環境省）が「日本の絶滅のおそれのある野生生物」（動物編）を発行した。その後、1994（平成 6）年に国際自然保護連合（IUCN）がレッドデータブックのより定量的な評価基準に基づく新たなカテゴリーを採択したことから、環境庁は 1995（平成 7）年度から植物編レッドデータブックの作成、動物編レッドデータブックの見直し作業を開始し、維管束植物については 2000（平成 12）年 7 月に「改訂・日本の絶滅の恐れのある野生生物—レッドデータブック植物 I（維管束植物）」が発行された。レッドデータブックはその後も継続的に見直しが行われており、2015（平成 27）年には改訂版、2025 年には植物の再改訂版が公表された。

国レベルでの情報の整備を受けて、各都道府県でもその地域で絶滅が危惧される生物に関する情報の収集整理が図られ、愛知県でも、1996（平成 8）年度から 5 年計画で調査が行われて、2001（平成 13）年 9 月に「レッドデータブックあいち—植物編 2001」、2002（平成 14）年 3 月に「レッドデータブックあいち—動物編 2002」が作成された。こちらも、その後国と同様に継続的な見直しが行われ、2009（平成 21）年には改訂版、2020 年には再改定版が発行されており、2025 年にはリスト部分の見直しが行われた。

名古屋市においても、環境省や愛知県と同様に 2000（平成 12）年度から市内における動植物の生息・生育実態調査を実施し、2004（平成 16）年 3 月に「レッドデータブックなごや 2004」を植物編と動物編に分けて作成した。そして、2010（平成 22）年 3 月にその補遺版、2015（平成 27）年 3 月に改訂版を発行し、2020（令和 2）年 3 月にリスト部分の見直しと追加種の解説を公表した。そしてこのたび、その後の調査を踏まえて、再改訂版「レッドデータブックなごや 2025」を発行することとした。

レッドデータブックは、レッドリストに選定された種の分布の概要、生息地の状況、減少の要因などを個別に記述し、絶滅危惧種の現状と保全上の留意点が理解できるように作成されている。規制等の法律上の効果を持つものではないが、絶滅のおそれのある野生生物に関する理解を深めていただくための基礎資料であり、各種開発事業の環境影響評価などに活用されることによって、野生動植物への配慮が適切になされることを目的としたものである。

なお、全国版レッドデータブック掲載種の中で特に保護の優先度が高い生物種は、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」に基づく国内希少野生動植物種に指定され、保護が図られている。愛知県版レッドデータブック掲載種の中で特に保護の優先度が高い生物種も、「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」に基づく「指定希少野生動植物種」に指定され、保護が図られている。また、国、あるいは各地方で文化財として重要な動植物は、「文化財保護法」等に基づく天然記念物に指定され、保護が図られている。

2. 調査の概要

(1) 調査体制

調査の実施にあたっては、2022（令和4）年度から野生動植物に関する学識者を中心とした「名古屋市動植物実態調査に係る専門家会合」を開催し、調査および検討を進めた。

各委員は担当分類群について協力者と連絡をとりながら情報を収集するとともに、専門家会合において調査・作業状況を報告し、意見交換した。

専門家会合の構成は表1のとおりである。

表1 名古屋市動植物実態調査に係る専門家会合の構成

担当分類群	委 員
種子植物	芹沢 俊介（愛知教育大学名誉教授）
	長谷川 泰洋（名古屋産業大学現代ビジネス学部・環境マネジメント研究科准教授）
シダ植物	村松 正雄（愛知植物の会会員）
哺乳類	野呂 達也（四日市大学環境情報学部特任准教授）
鳥 類	金澤 智（日本野鳥の会会員・名古屋市立大学大学院医学研究科学内講師）
爬虫類	矢部 隆（日本カメ自然誌研究会）
両生類	藤谷 武史（名古屋市緑政土木局東山動物園職員）
魚 類	谷口 義則（名城大学人間学部人間学科教授）
昆虫類	戸田 尚希（名城大学農学部昆虫学研究室研究員）
クモ類	加藤 修朗（日本蜘蛛学会会員）
エビ・カニ類	中嶋 清徳（名古屋港水族館飼育展示第一課長）
貝 類	川瀬 基弘（東海化石研究会会員）

また、株式会社テクノ中部が、検討結果のとりまとめおよび連絡調整を行った。

(2) 調査対象と調査方針

今回のレッドデータブックなごや 2025 では、植物関係の調査対象分類群は、維管束植物（種子植物、シダ植物）のみとなってしまった。コケ植物（蘚類、苔類）は、2015（平成 27）年のレッドデータブックで調査対象に加えたが、調査を担当して下さった成田務氏が他界されたため、今回は調査対象から除かざるを得なかった。追加情報が得られたササオカゴケ、コウライイチイゴケ、ヨツバゴケについては、437 頁に掲載した。維管束植物、コケ植物以外の植物群については、名古屋市内のフロラ調査がまだ十分に行われておらず、一部特定種の状況は判明していても現況が全体としてははっきり把握できないため、2004（平成 16）年以降ずっと調査対象から除外せざるを得ない状況が続いている。

維管束植物については、種（亜種、変種を含み、品種を除く。ただし基準品種が市内に生育していない植物については、品種レベルの名称でリストに掲載）を単位とし、市内に確実に生育している（いた）と判断された在来種 1,106 種を調査対象とした。名古屋市本来の生物多様性を保全するという観点から外来種（植栽種、国内外からの帰化種、人為的に導入されたものが野生化した逸出種等）は原則として対象外としたが、環境省のレッドデータブックに掲載されている種は調査対象に加えた。

調査範囲は、名古屋市全域とした。ただし河川が行政界になっている場合は、現在の流路の中心線をもって行政界とみなした。海域は陸地から観察できる範囲を調査したが、結果的に海産種子植物が全く確認できなかったため、実質的には対象地域外となった。

作成方針を検討する過程では、特に名古屋市では希少だが、周辺地域では普通に見られる種の扱いが問題となった。しかし、名古屋市のような都市化が進んだ地域では、国あるいは県レベルでは保全対象とならないような動植物についても、地域自然環境保全の観点から重要な意味を持つ場合があると考えられる。そのような、地域特性を踏まえたローカルレベルでの情報整備が、名古屋市が独自にレッドデータブックを作成する目的でもあることから、周辺地域での存在状況は再侵入確率（名古屋市で一度絶滅しても、周辺地域にたくさんある種は再度分布を拡大してくる可能性が高い）という観点からは考慮されても、それ以上は考慮しないという方針で作業を進めることとした。またこのことに関連して、保全上の重要性を評価に反映させるか否かも問題となった。絶滅が危惧される生物は、一般的に言えば全て保護の必要があるが、その程度は必ずしも絶滅が危惧される程度に比例するものではない。レッドデータブックは、本来は絶滅が危惧される生物種についての情報集以上のものではないが、現実には環境保全上の一つの基準として使われる可能性も考えられ、その意味で保全上の重要性を反映したリストができれば好都合という側面もある。しかし、一方で保全上の重要性はどのような観点から評価するかによって異なり、さらに植物とは直接関係しない価値観の影響も受ける。そのため今回のレッドデータブックでは、この点は考慮せず、市内で絶滅が危惧される程度だけに基づいて評価を行うこととした。名古屋市での絶滅が、日本全体、あるいは愛知県全体における生物多様性の減少に直結し、その意味で代替性が少なく特に保全の重要性が高いと考えられる種については、調査結果の項で 1 節を立てて記述すると共に、各種の解説の中で必要に応じ説明を加えることとした。

(3) 調査方法

維管束植物の現地調査は、2022（令和 4）年度から 2024（令和 6）年度にかけて行った。

維管束植物は 2022（令和 4）年に、なごや生物多様性センター職員の西部が中心となって標本室を整備し、標本資料の閲覧が可能になったため、今回からセンター所蔵標本を中心に作業を進めることにした。そして、以前から愛知みどりの会に蓄積されている維管束植物標本を加えた資料を基に、市内 16 区を単位として追加野外調査や現状確認調査を行い、現状および過去の状況を把握した。また、2024（令和 6）年 5 月にはそれまでの調査結果をまとめて、絶滅・野生絶滅 75 種、絶滅危惧 IA 類 45 種、絶滅危惧 IB 類 74 種、絶滅危惧 II 類 88 種、準絶滅危惧 44 種からなるレッドリスト（案）を公表した。そしてその後も追加調査を行い、できる限り現状を正確に反映したレッドデータブックになるように努めた。結果的に、名古屋市の植物に関するなごや生物多様性センターのデータベースは約 14,000 件に達し、その中に 5 件以上の情報が登録された標本採集者（このレッドデータブック作成に協力の意志があったとは限らない）は、巻末資料 7 に示す 74 名となった。

調査記録は、後日必要に応じ再検討ができるよう、裏付けとなる標本が公開されている標本室（ほとんどは、なごや生物多様性センターNBC または愛知みどりの会 AICH）に収蔵されているものに限定した。ただし、過去に市内で記録されている、あるいは生育していたという情報があるが、標本が確認できず、現存も確認できない一部の種については、今まで名古屋市を含む愛知県では自然史資料の集積体制が十分でなかったことを考慮し、确实と判断されるものに限定してリストに掲載した。裏付けの標本なしに掲載した種については、その根拠を各種の解説に記述した。

今回の調査では、なごや生物多様性保全活動協議会の里山林・社寺林部会が 2019（令和元）年から行っている市内の主要緑地、社寺林（2024（令和 6）年までに約 70 か所）の調査を基礎に、その他の調査も加えて、できる限り名古屋市における維管束植物の現状を把握することに努めた。しかし、調査者の人数が限られており、さらに名古屋市は植物の生育密度が低い地域であるため、特に残存緑地以外の場所については十分調査することができなかった。過去に記録がある場所についても、現況を全て再確認することはできなかった。そのため、本当は市内で絶滅が危惧されるのに、本書に収録されていない植物もあると思われる。過去に「ある／あった」という情報があり、確かに名古屋市に生育していても不思議ではないが、確認ができなかった種も少なくない。以下に、初版以降掲載見送り状態が続いている種のうち主要なものを例示する。

タコノアシ：庄内川下流部に生育しているという話を聞いたが、確認できなかった。

ハグロソウ：「緑区の社叢に生育」（中部植生研究グループ 1992）と報告されている。

フジバカマ：「庄内川畔（守山区）のヤナギ群落河川敷下にわずかに生育」（中部植生研究グループ 1992）と報告されている。

ビロードテンツキ：「海岸埋立地に生育」（中部植生研究グループ 1992）と報告されている。

このような種については、今後も注意して情報の収集に努めることにしたい。また、現存が確認できなくても調査がやや不十分でまだ再発見の可能性があるとされる種は、原則として「絶滅」と判定しなかったが、その一部は実際にはすでに絶滅している可能性がある。これらの種についてもできるだけ情報の収集に努め、次回の改訂の際にはより完全なリストを作成したいと考えている。

なお、植物編執筆にあたっては、新規掲載種および既掲載種のうち大幅な修正が必要なものにつ

いては長谷川または西部が原稿を書き、芹沢が加筆修正を行った。残りの既掲載種については、芹沢が加筆修正を行った。

(4) レッドリストのカテゴリーと評価基準

絶滅が危惧される程度を評価するためには、前提条件として、その種が名古屋市域に定着して生育していなければならない。そこで評価作業に際しては、まず対象種が名古屋市に定着している／いたかどうかについて検討した。名古屋市では開花に至らない幼木が 1 株確認されているだけの大型木本植物、開花している、または孢子をつけているが 1 株しか確認できない草本植物や小型木本植物は、まだ定着していないと判断し、評価の対象から除外した。開花するまでに成長した大型木本植物は、1 株であっても評価の対象とした。複数株が確認された草本植物は原則として評価の対象としたが、タカアザミのような、やや不安定な場所に生育し、しかもその場所で継続的に生育が確認できない植物、カエデドコロのような散発的に出現し、しかもほとんど開花が確認できない植物など定着状態に至っていないと判断される一部の種は、複数株が確認されていても評価の対象から除外した。定着状態に至っていないため評価の対象から除外した種については「稀少偶産」として、本文末尾に各種半ページ程度の解説を付した。

また、移入の可能性が高いラセイタソウ、オオシマカンズゲ、海浜植物としてある程度定着しているが、本来は帰化植物であるハマダイコンなどについては、評価対象から除外した。除外した種のうち国や愛知県のレッドリスト／レッドデータブックに掲載されているものは、国のレッドデータブックに掲載されているが名古屋市では絶滅危惧・準絶滅危惧種に該当しないと判断された種と共に、「国／県リスト」として、本文末尾に絶滅危惧種と同様の体裁で解説した。フタリシズカ、アズマガヤ、ツメレンゲ、コガクウツギ、クロキなどは、移入・逸出の可能性を否定しきれないものの自生とも考えられることから、評価対象に含めることにした。

レッドリストのカテゴリーについては、国および愛知県のレッドデータブックに準拠し、表 2 を用いた。ただし野生絶滅は、名古屋市では公的な系統保存の体制が整備されておらず、個人的に管理されているものを全て確認することもできなかったため、愛知県版と同様、絶滅から区別しないことにした。

各カテゴリーの判断基準のうち「絶滅」は、過去に名古屋市に生育しており、しかも最近 30 年の間に現存が確認されていない種とした。ただし、開発等により生育環境が破壊されて絶滅が確実視される種は、最後に確認された時が過去 30 年以内であっても、「絶滅」と判定した。この期間は、国際基準や国の基準では 50 年とされているが、名古屋市の場合は大都市で開発圧が高く 50 年では長すぎることに、日本全体と比較すれば詳細な調査が行われていて見落としが少ないと思われることから、30 年を用いることにした。

現在市内に生育している種の絶滅が危惧される程度を判定する基準としては、個体数、集団数、生育環境の減少傾向、人為的圧力の程度、県西部分布の 5 項目をそれぞれ表 3 に示す基準により 4 段階で評価し、さらに地域固有性に関する補正を加えて、その合計点をもとに判定することにした。

各評価項目のうち集団数は、およそ 1km²（三次メッシュ相当）を 1 か所として数えた。狭い範囲にいくつかの小集団がある場合は、まとめて 1 集団と見なした。個々の集団についても、かなり丁寧に調査したのに再発見できなかった集団、開発等により生育環境が破壊されて絶滅が確実視される集団、最後に確認されたのが 30 年以上前の集団は、「絶滅」と判断し、集団数から除外した。個体

数は、草本および小型木本では繁殖可能な個体の数、大型木本では背丈程度の幼木も含むものとした。ただし栄養的に繁殖する傾向が強い植物や小型の1年生草本などで個体数の年変動が著しい植物については、存続の基盤が脆弱であることを考慮し、実数より1桁ないし2桁少なく見積もることとした。定性的な評価になる生育環境の減少傾向と人為的圧力の程度については、表3の具体例をもとに複数の調査者で評価を行い、不一致が見られた場合は協議して調整した。県西部分布については、名古屋市を除く愛知県内55区画（枝番をつけた区画は一つにまとめた）のうち、西部（藤岡、豊田旧市域、岡崎旧市域、幸田、西尾南部以西）の32区画を対象として、分布区画数を数えた。2004年版および2015年版では県全域を対象として分布区画数を数えたが、再侵入確率という点では名古屋市に近い低山地～平野部の分布状況が重要で、三河山地の標高が高い場所に生育している植物が市内に侵入してくる可能性は低いことから、今回から評価の基準をこのように変更した。数える範囲の変更に伴い、区画数の数値基準も変更した。各区画の略称と範囲は、県内分布の説明に使用した県東部の区画と合わせて、巻末資料2に示した。また、狭い範囲で絶滅リスクを評価すると地域固有性の高い植物の評価が相対的に低くなるので、これを補正するため、固有度補正項（固有種・著しい隔離分布種に+2、準固有種・全国的に希少で分布域の限界になる種に+1）を加えた。その他特殊事情がある種についても、補正項を加えた。補正を行った種については、その補正値を各種の解説に示した。合計点とカテゴリーの対応は、愛知県版レッドデータブックにあわせ、原則として表2右端の基準により行った。このような手法を用いた根拠は、巻末資料3に示した。

一部の現存が確認できないが調査が不十分などの理由で再発見の可能性のある種については、その種の生態的特性等をもとに、定性的な評価を行った。

表2 名古屋市版レッドリスト 2025（種子植物・シダ植物）に用いたカテゴリーの区分と定義

区分および基本概念		国際基準の概要	名古屋市 版の基準
絶滅 Extinct (EX) ・ 野生絶滅 Extinct in the Wild (EW)	地域内ではすでに絶滅したと考えられる種。 野生では絶滅し、飼育・栽培下でのみ存続している種。	過去に生息したことが確認されており、少なくとも野生ではすでに絶滅したと考えられる種。（飼育・栽培下では存続している種を含む。） 【確実な情報があるもの】 1 調査や記録により、すでに野生で絶滅したと判断される。 【情報量が少ないもの】 2 過去 50 年間前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていない。	—
絶滅危惧 IA 類 Critically Endangered (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種。	次のいずれかに該当する種。 1 10 年間または 3 世代の減少率が、80%以上のもの。 2 生息地の面積が、10km ² 未満のもの。 3 減少率が 25%以上で個体数が 250 未満のもの。 4 成熟個体数が、50 未満のもの。 5 絶滅確率が、10 年間または 3 世代で 50%以上のもの。	表3の評価 点の合計 が 16 以上
絶滅危惧 IB 類 Endangered (EN)	I A 類ほどではないが、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難な種。	次のいずれかに該当する種。 1 10 年間または 3 世代の減少率が、50%以上のもの。 2 生息地の面積が、500km ² 未満のもの。 3 減少率が 20%以上で個体数が 2,500 未満のもの。 4 成熟個体数が、250 未満のもの。 5 絶滅確率が、20 年間または 5 世代で 20%以上のもの。	表3の評価 点の合計 が 14～15
絶滅危惧 II 類 Vulnerable (VU)	絶滅の危険が増大している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。	次のいずれかに該当する種。 1 10 年間または 3 世代の減少率が、20%以上のもの。 2 生息地の面積が、2,000km ² 未満のもの。 3 減少率が 10%以上で個体数が 10,000 未満のもの。 4 成熟個体数が、1,000 未満のもの。 5 絶滅確率が、100 年間で 10%以上のもの。	表3の評価 点の合計 が 12～13
準絶滅危惧 Near Threatened (NT)	存続基盤が脆弱な種。 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。		表3の評価 点の合計 が 11
リスト外	環境省レッドデータブックに記載されているが、名古屋市において上記の要件に該当しない種。		表3の評価 点の合計 が 10 以下

表3 名古屋市版レッドリスト 2025（種子植物・シダ植物）に用いた評価基準

評価点 評価項目	4	3	2	1
個体数	1～2	10 未満	100 未満	100 以上
集団数	1	2～3	4～5	6 以上
生育環境の減少傾向	著しく減少 ・自然湿地 ・里草地 ・やせ山・砂浜 ・塩湿地・湿田 ・貧栄養水域 ・平野部の非汚染水域 など	やや減少 ・自然林 ・非造成丘陵地（二次林、造林地を含む） ・岩場 ・堤防の草地 ・水田 など	増減なし ・中間的環境	増加 ・攪乱地 ・過栄養水域 など
人為的圧力の程度	極めて強い ・極度に強い開発圧または採取圧がある ・開発圧も採取圧もあり、少なくともどちらかが強い	強い ・強い開発圧または強い採取圧がある ・開発圧も採取圧もある	あり ・開発圧（伐採を含む）または採取圧（可能性を含む）がある	なし
県内分布	名古屋市以外の確認区画数 0～2	3～5	6～10	11 以上
補正項目	・固有種・著しい隔離分布：+2 ・全国的に少なく愛知県が分布の限界・準固有種：+1			

3. 名古屋市版レッドリスト

今回の改訂により、名古屋市版レッドリスト 2025（種子植物・シダ植物）に掲載された種数は表 4 のとおりとなった。各分類群のリストは以下に示す。

表 4 名古屋市版レッドリスト 2025（種子植物・シダ植物）掲載種数

評価区分 分類群	絶滅 (EX)	絶滅のおそれのある種				準絶滅 危惧 (NT)	情報 不足 (DD)	計	リスト外	
		絶滅 危惧 I A 類 (CR)	絶滅 危惧 I B 類 (EN)	絶滅 危惧 II 類 (VU)	小計				全国版 レッド データ ブック 掲載種	希少 偶産種 (評価 対象外)
種子植物	71	45	78	88	211	47	2	331	11	10
シダ植物 (小葉植物を含む)	3	3	10	17	30	10	0	43	3	9
計	74	48	88	105	241	57	2	417	14	19

① 名古屋市版レッドリスト 2025（種子植物）

科の範囲、名称、配列、種の和名、学名は、原則として「新版日本の野生植物 I～V」（平凡社）に準拠したが、一部執筆責任者の判断により、他の名称を用いたものもある。科内の配列は学名のアルファベット順とした。

絶滅（EX）

No.	種名	科名	学名	国 2025	県 2025	市 2020
1	ジュンサイ	ジュンサイ	<i>Brasenia schreberi</i> J.F.Gmel.	—	—	EX
2	ヒメコウホネ	スイレン	<i>Nuphar subintegerrima</i> (Casp.) Makino	CR	CR	EX
3	ヒツジグサ	スイレン	<i>Nymphaea tetragona</i> Georgi var. <i>angusta</i> Casp.	—	—	EX
4	ダンコウバイ	クスノキ	<i>Lindera obtusiloba</i> Blume	—	—	EX
5	スズタ	トチカガミ	<i>Blyxa echinosperma</i> (C.B.Clarke) Hook.f.	VU	CR	EX
6	ホッスモ	トチカガミ	<i>Najas graminea</i> Delile	—	—	EX
7	コウガイモ	トチカガミ	<i>Vallisneria denseserrulata</i> (Makino) Makino	—	VU	EX
8	セキシウモ	トチカガミ	<i>Vallisneria natans</i> (Lour.) H.Hara	—	—	EX
9	ウバユリ	ユリ	<i>Cardiocrinum cordatum</i> (Thunb.) Makino	—	—	EX
10	ツチアケビ	ラン	<i>Cyrtosia septentrionalis</i> (Rchb.f.) Garay	—	—	EX
11	サワラン	ラン	<i>Eleorchis japonica</i> (A.Gray) F.Maek.	—	CR	EX
12	ミズトンボ	ラン	<i>Habenaria sagittifera</i> Rchb.f.	NT	VU	EX
13	トキシソウ	ラン	<i>Pogonia japonica</i> Rchb.f.	NT	EN	EX
14	ヤマトキシソウ	ラン	<i>Pogonia minor</i> (Makino) Makino	—	VU	EX
15	クモラン	ラン	<i>Taeniophyllum glandulosum</i> Blume	—	—	EX
16	ナルコユリ	キジカクシ	<i>Polygonatum falcatum</i> A.Gray	—	—	EX
17	ミズアオイ	ミズアオイ	<i>Monochoria korsakowii</i> Regel et Maack	NT	CR	EX
18	オオホシクサ	ホシクサ	<i>Eriocaulon buergerianum</i> Koern.	—	CR	EX
19	クロホシクサ	ホシクサ	<i>Eriocaulon parvum</i> Koern.	NT	EN	EX
20	ヌカボシソウ	イグサ	<i>Luzula plumosa</i> E.Mey.	—	—	EX
21	イトハナビテンツキ	カヤツリグサ	<i>Bulbostylis densa</i> (Wall.) Hand. Mazz.	—	—	EX
22	カガシラ	カヤツリグサ	<i>Diplacrum caricinum</i> R.Br.	VU	CR	EX
23	ミクリガヤ	カヤツリグサ	<i>Rhynchospora malasica</i> C.B.Clarke	CR	CR	EX
24	シズイ	カヤツリグサ	<i>Schoenoplectus nipponicus</i> (Makino) Soják	—	EN	EX
25	ノグサ	カヤツリグサ	<i>Schoenus apogon</i> Roem. et Schult.	—	EN	EX
26	コウボウ	イネ	<i>Anthoxanthum glabrum</i> (Trin.) Veldkamp	—	—	CR

27	ヒナザサ	イネ	<i>Coelachne japonica</i> Hack.	NT	VU	EX
28	コゴメカゼクサ	イネ	<i>Eragrostis japonica</i> (Thunb.) Trin.	—	CR	EX
29	コメガヤ	イネ	<i>Melica nutans</i> L.	—	—	EX
30	オオアブラススキ	イネ	<i>Spodiopogon sibiricus</i> Trin.	—	—	EX
31	ヒメイカリソウ	メギ	<i>Epimedium trifoliatobinatum</i> (Koidz.) Koidz.	—	—	EX
32	クサボタン	キンボウゲ	<i>Clematis stans</i> Siebold et Zucc.	—	EN	EX
33	オキナグサ	キンボウゲ	<i>Pulsatilla cernua</i> (Thunb.) Bercht. et C.Presl	NT	CR	EX
34	オトコゼリ	キンボウゲ	<i>Ranunculus tachiroei</i> Franch. et Sav.	—	—	EX
35	チダケサシ	ユキノシタ	<i>Astilbe microphylla</i> Knoll	—	—	EX
36	シベリアメドハギ	マメ	<i>Lespedeza juncea</i> (L.f.) Pers.	—	—	EX
37	イヌハギ	マメ	<i>Lespedeza tomentosa</i> (Thunb.) Siebold ex Maxim.	NT	VU	EX
38	キジムシロ	バラ	<i>Potentilla fragarioides</i> L. var. <i>major</i> Maxim.	—	—	EX
39	シモツケ	バラ	<i>Spiraea japonica</i> L.f.	—	—	EX
40	クロウメモドキ	クロウメモドキ	<i>Rhamnus japonica</i> Maxim. var. <i>decipiens</i> Maxim.	—	—	EX
41	タカトウダイ	トウダイグサ	<i>Euphorbia lasiocaula</i> Boiss.	—	—	EX
42	ヒトツバハギ	ミカンソウ	<i>Flueggea suffruticosa</i> (Pall.) Baill.	—	VU	EX
43	ミズスギナ	ミソハギ	<i>Rotala hippuris</i> Makino	CR	EX	EX
44	コクサギ	ミカン	<i>Orixa japonica</i> Thunb.	—	—	EX
45	ハマボウ	アオイ	<i>Hibiscus hamabo</i> Siebold et Zucc.	—	VU	EX
46	コガンビ	ジンチョウゲ	<i>Diplomorpha ganpi</i> (Siebold et Zucc.) Nakai	—	—	EX
47	タニソバ	タデ	<i>Persicaria nepalensis</i> (Meisn.) H.Gross	—	—	EX
48	ナガバノイシモチソウ	モウセンゴケ	<i>Drosera toyoakensis</i> M.Watanabe et Seriz.	VU	CR	EX
49	ハマアカザ	ヒユ	<i>Atriplex subcordata</i> Kitag.	—	VU	EX
50	ギンリョウソウ	ツツジ	<i>Monotropastrum humile</i> (D.Don) H.Hara	—	—	EX
51	レンゲツツジ	ツツジ	<i>Rhododendron molle</i> (Blume) G.Don subsp. <i>japonicum</i> (A.Gray) K.Kron	—	—	EX
52	ヤマムグラ	アカネ	<i>Galium pogonanthum</i> Franch. et Sav.	—	—	EX
53	クサナギオゴケ	キョウチクトウ	<i>Vincetoxicum katoi</i> (Ohwi) Kitag.	VU	NT	EX
54	ホタルカズラ	ムラサキ	<i>Lithospermum zollingeri</i> A.DC.	—	EN	EX
55	マメダオシ	ヒルガオ	<i>Cuscuta australis</i> R.Br.	EN	EX	EX
56	オオヒナノウスツボ	ゴマノハグサ	<i>Scrophularia kakudensis</i> Franch.	—	—	EX
57	ケブカツルカソウ	シソ	<i>Ajuga shikotanensis</i> Miyabe et Tatew. f. <i>hirsuta</i> (Honda) Murata	—	EN	EX
58	コシオガマ	ハマウツボ	<i>Phtheirospermum japonicum</i> (Thunb.) Kanitz	—	—	EX
59	ノタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia aurea</i> Lour.	VU	VU	EX
60	フサタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia dimorphantha</i> Makino	VU	EX	EX
61	ミカワタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia exoleta</i> R.Br.	EN	CR	EX
62	コタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia intermedia</i> Heyne	—	CR	EX
63	ヒメミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia minutissima</i> Vahl	CR	EN	EX
64	ヒメシオン	キク	<i>Aster fastigiatus</i> Fisch.	—	EN	EX
65	ヤマジノギク	キク	<i>Aster hispidus</i> Thunb.	—	CR	EX
66	イナカギク	キク	<i>Aster semiamplexicaulis</i> (Makino) Makino ex Koidz.	—	—	EX
67	コヤブタバコ	キク	<i>Carpesium cernuum</i> L.	—	—	EX
68	リュウノウギク	キク	<i>Chrysanthemum makinoi</i> Matsum. et Nakai	—	—	EX
69	アキノハハコグサ	キク	<i>Pseudognaphalium hypoleucum</i> (DC.) Hilliard et B.L.Burt	EN	EN	EX
70	オナモミ	キク	<i>Xanthium strumarium</i> L.	VU	CR	EX
71	オトコエシ	スイカズラ	<i>Patrinia villosa</i> (Thunb.) Juss.	—	—	EX

絶滅危惧 IA 類 (CR)

No.	種名	科名	学名	国 2025	県 2025	市 2020
1	ハイイヌガヤ	イチイ	<i>Cephalotaxus harringtonia</i> (Knight ex Forbes) K.Koch var. <i>nana</i> (Nakai) Rehder	—	—	—
2	カヤ	イチイ	<i>Torreya nucifera</i> (L.) Siebold et Zucc.	—	—	CR
3	オニバス	スイレン	<i>Euryale ferox</i> Salisb.	VU	CR	CR
4	ヒメクロモジ	クスノキ	<i>Lindera lancea</i> (Momiya) H.Koyama	—	—	CR
5	スルガテンナンショウ	サトイモ	<i>Arisaema yamatense</i> (Nakai) Nakai subsp. <i>sugimotoi</i> (Nakai) H.Ohashi et J.Murata	—	—	CR
6	セトヤナギスプラ	トチカガミ	<i>Blyxa alternifolia</i> (Miq.) Hartog	CR	CR	CR
7	マルミスプラ	トチカガミ	<i>Blyxa aubertii</i> Rich.	VU	VU	CR
8	カタクリ	ユリ	<i>Erythronium japonicum</i> Decne.	—	—	CR
9	ヤマユリ	ユリ	<i>Lilium auratum</i> Lindl.	—	—	CR
10	コオニユリ	ユリ	<i>Lilium leichtlinii</i> Hook.f. f. <i>pseudotigrinum</i> (Carrière) H.Hara et Kitam.	—	—	CR
11	ナツエビネ	ラン	<i>Calanthe puberula</i> Lindl.	VU	VU	—
12	オオミヤマウズラ	ラン	<i>Goodyera tukamotoi</i> Seriz.	—	EN	CR
13	シュスラン	ラン	<i>Goodyera velutina</i> Maxim.	—	VU	CR
14	ムヨウラン	ラン	<i>Lecanorchis japonica</i> Blume	—	—	EN
15	ミクリ	ガマ	<i>Sparganium erectum</i> L.	NT	EN	CR
16	ウマスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex idzuroei</i> Franch. et Sav.	—	—	CR
17	ニシノホンモンジスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex stenostachys</i> Franch. et Sav.	—	VU	CR
18	ヒメアオガヤツリ	カヤツリグサ	<i>Cyperus pygmaeus</i> Rottb.	—	CR	CR
19	セイタカハリイ	カヤツリグサ	<i>Eleocharis attenuata</i> (Franch. et Sav.) Palla	—	VU	CR
20	ミカワシシユガヤ	カヤツリグサ	<i>Scleria mikawana</i> Makino	VU	VU	CR
21	ヒメタイズビエ	イネ	<i>Echinochloa crus-galli</i> (L.) P.Beauv. var. <i>formosensis</i> Ohwi	—	EN	CR
22	カザグルマ	キンボウゲ	<i>Clematis patens</i> C.Morren et Decne.	NT	EN	CR
23	スハマソウ	キンボウゲ	<i>Hepatica nobilis</i> Schreb. var. <i>japonica</i> Nakai f. <i>variegata</i> (Makino) Nakai	—	NT	EX
24	ウマノアシガタ	キンボウゲ	<i>Ranunculus japonicus</i> Thunb.	—	—	VU
25	タチモ	アリノトウグサ	<i>Myriophyllum ussuriense</i> (Regel) Maxim.	NT	NT	CR
26	マキエハギ	マメ	<i>Lespedeza virgata</i> (Thunb.) DC.	—	—	CR
27	オオバグミ	グミ	<i>Elaeagnus macrophylla</i> Thunb.	—	—	—
28	ミヤコミズ	イラクサ	<i>Pilea kiotensis</i> Ohwi	—	CR	CR
29	ウメバチソウ	ニシキギ	<i>Parnassia palustris</i> L.	—	—	CR
30	ヒメミソハギ	ミソハギ	<i>Ammannia multiflora</i> Roxb.	—	NT	CR
31	ヒメビシ	ミソハギ	<i>Trapa incisa</i> Siebold et Zucc.	VU	EN	CR
32	ハタザオ	アブラナ	<i>Turritis glabra</i> L.	—	—	EN
33	イシモチソウ	モウセンゴケ	<i>Drosera peltata</i> Thunb. var. <i>nipponica</i> (Masam.) Ohwi	NT	EN	CR
34	コガクウツギ	アジサイ	<i>Hydrangea luteovenosa</i> Koidz.	—	EN	CR
35	イワガラミ	アジサイ	<i>Schizophragma hydrangeoides</i> Siebold et Zucc.	—	—	CR
36	クロキ	ハイノキ	<i>Symplocos licida</i> Sieb. et Zucc.	—	CR	—
37	リンドウ	リンドウ	<i>Gentiana scabra</i> Bunge var. <i>buergeri</i> (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.	—	—	EN
38	コケリンドウ	リンドウ	<i>Gentiana squarrosa</i> Ledeb.	—	VU	CR
39	ヤマハッカ	シソ	<i>Isodon inflexus</i> (Thunb.) Kudô	—	—	CR
40	ミズネコノオ	シソ	<i>Pogostemon stellatus</i> (Lour.) Kuntze	NT	VU	CR
41	シマジタムラソウ	シソ	<i>Salvia isensis</i> Nakai ex Hara	VU	NT	CR
42	ムラサキミミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia uliginosa</i> Vahl	NT	NT	CR
43	キキョウ	キキョウ	<i>Platycodon grandiflorum</i> (Jacq.) A. DC.	NT	VU	CR
44	カセンソウ	キク	<i>Inula salicina</i> L. var. <i>asiatica</i> Kitam.	—	EN	CR
45	オミナエシ	スイカズラ	<i>Patrinia scabiosaeifolia</i> Fisch. ex Trevir.	—	—	CR

絶滅危惧 IB 類 (EN)

No.	種名	科名	学名	国 2025	県 2025	市 2020
1	オオバウマノズクサ	ウマノズクサ	<i>Aristolochia kaempferi</i> Willd.	—	VU	EN
2	シデコブシ	モクレン	<i>Magnolia stellata</i> (Siebold et Zucc.) Maxim.	NT	VU	CR
3	クロモジ	クスノキ	<i>Lindera umbellata</i> Thunb.	—	—	EN
4	ヤナギスズタ	トチカガミ	<i>Blyxa japonica</i> (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gürke	—	NT	EN
5	トチカガミ	トチカガミ	<i>Hydrocharis dubia</i> (Blume) Backer	NT	EN	EN
6	オオトリゲモ	トチカガミ	<i>Najas oguraensis</i> Miki	—	NT	VU
7	シバナ	シバナ	<i>Triglochin asiatica</i> (Kitag.) A. et D.Löve	NT	NT	EN
8	ヒルムシロ	ヒルムシロ	<i>Potamogeton distinctus</i> A. Benn.	—	NT	EN
9	アマナ	ユリ	<i>Amana edulis</i> (Miq.) Honda	—	—	VU
10	ササユリ	ユリ	<i>Lilium japonicum</i> Houtt.	—	—	EN
11	ギンラン	ラン	<i>Cephalanthera erecta</i> (Thunb.) Blume	—	—	CR
12	キンラン	ラン	<i>Cephalanthera falcata</i> (Thunb.) Blume	NT	NT	CR
13	サイハイラン	ラン	<i>Cremastra appendiculata</i> (D.Don) Makino var. <i>variabilis</i> (Blume) I.D.Lund	—	—	EN
14	カキラン	ラン	<i>Epipactis thunbergii</i> A.Gray	—	—	EN
15	タシロラン	ラン	<i>Epipogium roseum</i> (D.Don) Lindl.	NT	NT	EN
16	アキザキヤツシロラン	ラン	<i>Gastrodia verrucosa</i> Blume	—	VU	EN
17	ミヤマウズラ	ラン	<i>Goodyera schlechtendaliana</i> Rchb.f.	—	—	EN
18	ホクリクムヨウラン	ラン	<i>Lecanorchis hokurikuensis</i> Masam.	—	VU	—
19	クモキリソウ	ラン	<i>Liparis kumokiri</i> F.Maek.	—	—	VU
20	コバノトンボソウ	ラン	<i>Platanthera tipuloides</i> (L.f.) Lindl. subsp. <i>nipponica</i> (Makino) Murata	—	—	EN
21	ノハナショウブ	アヤメ	<i>Iris ensata</i> Thunb. var. <i>spontanea</i> (Makino) Nakai ex Makino et Nemoto	—	—	EN
22	キスゲ	ススキノキ	<i>Hemerocallis citrina</i> Baroni var. <i>vespertina</i> (Hara) M.Hotta	—	—	—
23	ノカンゾウ	ススキノキ	<i>Hemerocallis fulva</i> L. var. <i>disticha</i> (Don ex Ker Gawl.) M.Hotta	—	—	CR
24	オオバギボウシ	キジカクシ	<i>Hosta sieboldiana</i> (Lodd.) Engl.	—	—	EN
25	ミヤマナルコユリ	キジカクシ	<i>Polygonatum lasianthum</i> Maxim.	—	—	EN
26	ヤマトミクリ	ガマ	<i>Sparganium fallax</i> Graebn.	NT	VU	EN
27	シラタマホシクサ	ホシクサ	<i>Eriocaulon nudicuspe</i> Maxim.	VU	VU	EN
28	ミノボロスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex albata</i> Boott ex Franch. et Sav.	—	VU	EN
29	ハマアオスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex fibrillosa</i> Franch. et Sav.	—	—	EN
30	センダイスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex lenta</i> D.Don var. <i>sendaica</i> (Franch.) T.Koyama	—	VU	EN
31	アズマナルコ	カヤツリグサ	<i>Carex shimidzensis</i> Franch.	—	—	EN
32	ヒメガヤツリ	カヤツリグサ	<i>Cyperus tenuispica</i> Steud.	—	VU	EN
33	トネテンツキ	カヤツリグサ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> Debeaux et Franch. var. <i>tonensis</i> (Makino) Ohwi	VU	VU	CR
34	コシンジュガヤ	カヤツリグサ	<i>Scleria parvula</i> Steud.	—	VU	EX
35	アズマガヤ	イネ	<i>Asperella longearistata</i> (Hack.) Ohwi	—	—	VU
36	ウンズケ	イネ	<i>Eulalia speciosa</i> (Debeaux) Kuntze	VU	NT	EN
37	スズタケ	イネ	<i>Sasa borealis</i> (Hack.) Makino et Shibata	—	—	—
38	ヘビノボラズ	メギ	<i>Berberis sieboldii</i> Miq.	—	NT	VU
39	ホザキノフサモ	アリノトウグサ	<i>Myriophyllum spicatum</i> L.	—	—	EN
40	ヤブサンザシ	スグリ	<i>Ribes fasciculatum</i> Siebold et Zucc.	—	EN	EN
41	タヌキマメ	マメ	<i>Crotalaria sessiliflora</i> L.	—	—	VU
42	ケヤブハギ	マメ	<i>Desmodium podocarpum</i> DC. subsp. <i>fallax</i> (Schindl.) H.Ohashi.	—	—	EN
43	キハギ	マメ	<i>Lespedeza buergeri</i> Miq.	—	—	EN
44	ヒナノカンザシ	ヒメハギ	<i>Salomonina ciliate</i> (L.) DC.	—	—	EN
45	カワラサイコ	バラ	<i>Potentilla chinensis</i> Ser.	—	VU	EN
46	マメナシ	バラ	<i>Pyrus calleryana</i> Decne.	EN	CR	EN
47	ミヤマワレモコウ	バラ	<i>Sanguisorba longifolia</i> Bertol.	—	EN	EX
48	オオウラジロノキ	バラ	<i>Malus tschonoskii</i> (Maxim.) C.K.Schneid.	—	—	VU
49	アリマグミ	グミ	<i>Elaeagnus murakamiana</i> Makino	—	VU	EX
50	アカシデ	カバノキ	<i>Carpinus laxiflora</i> (Siebold et Zucc.) Blume	—	—	—
51	ヤマネコヤナギ	ヤナギ	<i>Salix caprea</i> L.	—	—	EN
52	カラコギカエデ	ムクロジ	<i>Acer ginnala</i> Maxim. var. <i>aidzuense</i> (Franch.) K.Ogata	—	VU	—

53	キハダ	ミカン	<i>Phellodendron amurense</i> Rupr.	—	—	—
54	ミヤマシキミ	ミカン	<i>Skimmia japonica</i> Thunb.	—	—	—
55	ニガキ	ニガキ	<i>Picrasma quassioides</i> (D.Don) Benn.	—	—	EN
56	クマノミズキ	ミズキ	<i>Cornus macrophylla</i> Wall.	—	—	—
57	キツリフネ	ツリフネソウ	<i>Impatiens noli tangere</i> L.	—	—	EN
58	ギンリョウソウモドキ	ツツジ	<i>Monotropa uniflora</i> L.	—	—	EN
59	アリドオシ	アカネ	<i>Damnacanthus indicus</i> C.F.Gaertn.	—	—	EN
60	カギカズラ	アカネ	<i>Uncaria rhynchophylla</i> (Miq.) Miq.	—	—	—
61	フデリンドウ	リンドウ	<i>Gentiana zollingeri</i> Fawe.	—	—	—
62	センブリ	リンドウ	<i>Gentiana zollingeri</i> Fawe.	—	—	—
63	イヌセンブリ	リンドウ	<i>Swertia tosaensis</i> Makino	NT	NT	EN
64	スズサイコ	キョウチクトウ	<i>Vincetoxicum pycnostelma</i> Kitag.	NT	国リスト	EN
65	マルバノホロシ	ナス	<i>Solanum maximowiczii</i> Koidz.	—	—	EN
66	オオアブノメ	オオバコ	<i>Gratiola japonica</i> Miq.	VU	VU	EN
67	オドリコソウ	シソ	<i>Lamium album</i> L. var. <i>barbatum</i> (Siebold et Zucc.) Franch. et Sav.	—	—	EN
68	ミズトラノオ	シソ	<i>Pogostemon yatabeanus</i> (Makino) Press	VU	VU	EX
69	オカタツナミソウ	シソ	<i>Scutellaria brachyspica</i> Nakai et H.Hara	—	—	EN
70	イガタツナミ	シソ	<i>Scutellaria kurokawae</i> H.Hara	—	—	EN
71	ニガクサ	シソ	<i>Teucrium japonicum</i> Houtt.	—	—	EN
72	ツルニンジン	キキョウ	<i>Codonopsis lanceolata</i> (Siebold et Zucc.) Trautv.	—	—	EX
73	オケラ	キク	<i>Atractylodes ovata</i> (Thunb.) DC.	—	—	EN
74	スイラン	キク	<i>Hololeion kramerii</i> (Franch. et Sav.) Kitam.	—	—	—
75	ミズギク	キク	<i>Inula ciliaris</i> (Miq.) Maxim.	—	NT	EN
76	ウラギク	キク	<i>Tripolium pannonicum</i> (Jacq.) Schur	NT	VU	EN
77	オオカメノキ	ガマズミ	<i>Viburnum furcatum</i> Blume ex Maxim	—	—	VU
78	タニウツギ	スイカズラ	<i>Weigela hortensis</i> (Siebold et Zucc.) K.Koch	—	—	EN

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

No.	種名	科名	学名	国 2025	県 2025	市 2020
1	フタリシズカ	センリョウ	<i>Chloranthus serratus</i> (Thunb.) Roem. et Schult.	—	—	—
2	ヘラオモダカ	オモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> A.Braun et C.D.Bouché	—	—	VU
3	アギナシ	オモダカ	<i>Sagittaria aginashi</i> Makino	NT	国リスト	VU
4	イトトリゲモ	トチカガミ	<i>Najas gracillima</i> (A.Braun ex Engelm.) Magnus	NT	NT	VU
5	ヒナノシヤクジョウ	ヒナノシヤクジョウ	<i>Burmannia championii</i> Thwaites	—	NT	VU
6	ホンゴウソウ	ホンゴウソウ	<i>Sciaphila nana</i> Blume	NT	国リスト	VU
7	ヒメドコロ	ヤマノイモ	<i>Dioscorea tenuipes</i> Franch. et Sav.	—	—	VU
8	シライトソウ	シュロソウ	<i>Chionographis japonica</i> Maxim.	—	—	—
9	クロヤツシロラン	ラン	<i>Gastrodia pubilabiata</i> Sawa	—	—	EN
10	ジガバチソウ	ラン	<i>Liparis kramerii</i> Franch. et Sav.	—	—	VU
11	サギソウ	ラン	<i>Pecteilis radiata</i> (Thunb.) Raf.	NT	VU	VU
12	ヤマラッキョウ	ヒガンバナ	<i>Allium thunbergii</i> G.Don	—	—	NT
13	キヨスミギボウシ	キジカクシ	<i>Hosta kiyosumiensis</i> F.Maek.	—	—	VU
14	コバギボウシ	キジカクシ	<i>Hosta Sieboldii</i> (Paxton) J.W.Ingram f. <i>spathulata</i> (Miq.) W.G.Schmid	—	—	VU
15	ナガエミクリ	ガマ	<i>Sparganium japonicum</i> Rothert	NT	国リスト	VU
16	ツクシクロイヌノヒゲ	ホシクサ	<i>Eriocaulon kiusianum</i> Maxim.	—	NT	EN
17	イセウキヤガラ	カヤツリグサ	<i>Bolboschoenus planiculmis</i> (F.Schmidt) T.V.Egorova	—	—	EN
18	ケタガネソウ	カヤツリグサ	<i>Carex ciliatomarginata</i> Nakai	—	—	CR
19	ツクバスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex hirtifructus</i> Kük.	—	—	VU
20	ヒロードスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex miyabei</i> Franch.	—	—	VU
21	インヤマテンツキ	カヤツリグサ	<i>Fimbristylis sieboldii</i> Miq. ex Franch. et Sav.	—	—	VU
22	イガクサ	カヤツリグサ	<i>Rhynchospora rubra</i> (Lour.) Makino	—	—	EN
23	マツカサススキ	カヤツリグサ	<i>Scirpus mitsukurianus</i> Makino	—	—	EN
24	スマカゼクサ	イネ	<i>Eragrostis aquatica</i> Honda	—	—	VU

25	ハイチゴザサ	イネ	<i>Isachne nipponensis</i> Ohwi	—	—	—
26	ワセオバナ	イネ	<i>Saccharum spontaneum</i> L. var. <i>arenicola</i> (Ohwi) Ohwi	—	—	VU
27	シダミコザサ	イネ	<i>Sasa samaniensis</i> Nakai var. <i>yoshinoi</i> (Koidz.) Sad.Suzuki f. <i>hidejiroana</i> (Koidz.) Sad.Suzuki	—	VU	VU
28	クサノオウ	ケシ	<i>Chelidonium majus</i> L. subsp. <i>asiaticum</i> H.Hara	—	—	—
29	ボタンヅル	キンボウゲ	<i>Clematis apiifolia</i> DC.	—	—	—
30	マンサク	マンサク	<i>Hamamelis japonica</i> Siebold et Zucc.	—	—	NT
31	ヤマネコノメソウ	ユキノシタ	<i>Chrysosplenium japonicum</i> (Maxim.) Makino	—	—	—
32	ツメレンゲ	ベンケイソウ	<i>Orostachys japonica</i> (Maxim.) A.Berger	NT	NT	VU
33	ホドイモ	マメ	<i>Apios fortunei</i> Maxim.	—	—	VU
34	カワラケツメイ	マメ	<i>Chamaecrista nomame</i> (Siebold) H.Ohashi	—	—	VU
35	ノササゲ	マメ	<i>Dumasia truncata</i> Siebold et Zucc.	—	—	—
36	ハマエンドウ	マメ	<i>Lathyrus japonicus</i> Willd.	—	—	VU
37	ザイフリボク	バラ	<i>Amelanchier asiatica</i> (Siebold et Zucc.) Endl. ex Walp.	—	—	VU
38	ダイコンソウ	バラ	<i>Geum japonicum</i> Thunb.	—	—	—
39	クマヤナギ	クロウメモドキ	<i>Berchemia racemosa</i> Siebold et Zucc.	—	—	—
40	オオサンショウソウ	イラクサ	<i>Pellionia radicans</i> (Siebold et Zucc.) Wedd.	—	—	—
41	フモトミズナラ	ブナ	<i>Quercus crispula</i> Blume var. <i>mongolicoides</i> (H.Ohba) Seriz.	—	NT	VU
42	ウラジロガシ	ブナ	<i>Quercus salicina</i> Blume	—	—	VU
43	カワラハンノキ	カバノキ	<i>Alnus serrulata</i> Callier	—	—	VU
44	イヌシデ	カバノキ	<i>Carpinus tschonoskii</i> Maxim.	—	—	—
45	サイコクキツネヤナギ	ヤナギ	<i>Salix vulpina</i> Andersson subsp. <i>alopochloa</i> (Kimura) H.Ohashi et Yonek.	—	—	—
46	キヌヤナギ	ヤナギ	<i>Salix kinuyanagi</i> Kimura	—	NT	VU
47	アギスミレ	スミレ	<i>Viola verucunda</i> A.Gray var. <i>semilunaris</i> Maxim.	—	—	VU
48	サワオトギリ	オトギリソウ	<i>Hypericum pseudopetiolatum</i> R.Keller	—	—	VU
49	ミズオトギリ	オトギリソウ	<i>Triadenum japonicum</i> (Blume) Makino	—	—	VU
50	ウスゲチヨウジタデ	アカバナ	<i>Ludwigia greatrexii</i> H.Hara	NT	国リスト	VU
51	ガンビ	ジンチョウゲ	<i>Diplomorpha sikokiana</i> (Franch. et Sav.) Honda	—	—	VU
52	ミズタガラシ	アブラナ	<i>Cardamine lyrata</i> Bunge	—	NT	EN
53	コイスガラシ	アブラナ	<i>Rorippa cantoniensis</i> (Lour.) Ohwi	NT	国リスト	VU
54	ナガバノウナギツカミ	タデ	<i>Persicaria hastatosagittata</i> (Makino) Nakai	NT	NT	VU
55	コミゾソバ	タデ	<i>Persicaria mikawana</i> Hanai et Seriz.	—	NT	EN
56	ウナギツカミ	タデ	<i>Persicaria sieboldii</i> (Meisn.) Ohki var. <i>aestiva</i> (Makino)	—	—	VU
57	アキノミチヤナギ	タデ	<i>Polygonum polyneuron</i> Franch. et Sav.	—	—	VU
58	カワラナデシコ	ナデシコ	<i>Dianthus superbus</i> L. var. <i>longicalycinus</i> (Maxim.) F.N.Williams	—	—	NT
59	イズセンリョウ	サクラソウ	<i>Maesa japonica</i> (Thunb.) Moritz et Zoll.	—	—	—
60	クサレダマ	サクラソウ	<i>Lysimachia vulgaris</i> L. subsp. <i>davurica</i> (Ledeb.) Tatew.	—	—	EN
61	マタタビ	マタタビ	<i>Actinidia polygama</i> (Siebold et Zucc.) Planch. ex Maxim.	—	—	VU
62	スノキ	ツツジ	<i>Vaccinium smallii</i> A.Gray var. <i>glabrum</i> Koidz.	—	—	—
63	ホソバニセジュズネノキ	アカネ	<i>Damnacanthus indicus</i> C.F.Gaertn. var. <i>major</i> (Siebold et Zucc.) Makino	—	—	VU
64	キクムグラ	アカネ	<i>Galium kikumugura</i> Ohwi	—	NT	CR
65	ホソバノヨツバムグラ	アカネ	<i>Galium trifidum</i> L. subsp. <i>columbianum</i> (Rydb.) Hultén	—	—	VU
66	ツルアリドオシ	アカネ	<i>Mitchella undulata</i> Siebold et Zucc.	—	—	—
67	コカモメヅル	キョウチクトウ	<i>Tylophora floribunda</i> Miq.	—	—	EN
68	サワトウガラシ	オオバコ	<i>Deinostema violaceum</i> (Maxim.) Y.Yamaz.	—	—	—
69	メハジキ	シソ	<i>Leonulus japonicus</i> Houtt.	—	—	—
70	ハッカ	シソ	<i>Mentha canadensis</i> L. var. <i>piperascentis</i> (Malinv. ex Holmes) H.Hara	—	—	VU
71	ミゾコウジュ	シソ	<i>Salvia plebeia</i> R.Br.	NT	国リスト	VU
72	タツナミソウ	シソ	<i>Scutellaria indica</i> L.	—	—	VU
73	シソバタツナミ	シソ	<i>Scutellaria laeteviolacea</i> Koidz.	—	—	VU
74	タマミズキ	モチノキ	<i>Ilex micrococca</i> Maxim.	—	—	VU
75	サワギキョウ	キキョウ	<i>Lobelia sessilifolia</i> Lamb.	—	—	VU
76	タニギキョウ	キキョウ	<i>Peracarpa carnosus</i> (Wall.) Hook.f. et Thomson	—	—	VU
77	ガガブタ	ミツガシワ	<i>Nymphoides indica</i> (L.) Kuntze	NT	NT	VU
78	ヌマダイコン	キク	<i>Adenostemma lavenia</i> (L.) Kuntze	—	—	EN

79	オクモミジハグマ	キク	<i>Ainsliaea acerifolia</i> Sch.Bip var. <i>subapoda</i> Nakai	—	—	VU
80	キッコウハグマ	キク	<i>Ainsliaea apiculata</i> Sch.Bip.	—	—	EX
81	カワラハハコ	キク	<i>Anaphalis margaritacea</i> (L.) Benth. et Hook.f. subsp. <i>yedoensis</i> (Franch. et Sav.) Kitam.	—	—	VU
82	ムラサキトキンソウ	キク	<i>Centipeda</i> sp.	—	NT	VU
83	オグルマ	キク	<i>Inula britannica</i> L. subsp. <i>japonica</i> (Thunb.) Kitam.	—	—	VU
84	ムラサキニガナ	キク	<i>Paraprenanthes sororia</i> (Miq.) Cauge ex C.Shih f. <i>glabra</i> Yonek.	—	—	VU
85	カシワバハグマ	キク	<i>Pertya robusta</i> (Maxim.) Beauv.	—	—	EN
86	オオバチドメ	ウコギ	<i>Hydrocotyle javanica</i> Thunb.	—	—	—
87	ノダケ	セリ	<i>Angelica decursiva</i> (Miq.) Franch. et Sav.	—	—	VU
88	ムカゴニンジン	セリ	<i>Sium ninsi</i> L.	—	—	VU

準絶滅危惧 (NT)

No.	種名	科名	学名	国 2025	県 2025	市 2020
1	スズカカンアオイ	ウマノスズクサ	<i>Asarum rigescens</i> F. Maek. var. <i>brachypodium</i> T.Sugaw.	—	—	NT
2	カゴノキ	クスノキ	<i>Litsea coreana</i> H.Lév.	—	—	NT
3	シロダモ	クスノキ	<i>Neolitsea sericea</i> (Blume) Koidz.	—	—	NT
4	ウラシマソウ	サトイモ	<i>Arisaema urashima</i> H.Hara	—	—	NT
5	ミズオオバコ	トチカガミ	<i>Ottelia alismoides</i> (L.) Pers.	NT	国リスト	—
6	ショウジョウバカマ	シュロソウ	<i>Helonias orientalis</i> (Thunb.) N.Tanaka	—	—	—
7	チゴユリ	イヌサフラン	<i>Disporum smilacinum</i> A.Gray	—	—	VU
8	ヒメコウガイゼキショウ	イグサ	<i>Juncus bufonius</i> L.	—	—	NT
9	ヤマズズメノヒエ	イグサ	<i>Luzula multiflora</i> (Ehrh.) Lejeune	—	—	VU
10	ショウジョウスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex blepharicarpa</i> Franch.	—	—	NT
11	ホソバヒカゲスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex humilis</i> Leyss. var. <i>nana</i> (H.Lév. et Vaniot) Ohwi	—	—	—
12	ヤガミスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex maackii</i> Maxim.	—	—	—
13	コジズスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex parviflora</i> Boott var. <i>macroglossa</i> (Franch. et Sav.) Ohwi	—	—	—
14	シオクグ	カヤツリグサ	<i>Carex scabrifolia</i> Steud.	—	—	NT
15	ヒメコヌカグサ	イネ	<i>Agrostis valvata</i> Steud.	NT	国リスト	NT
16	アシカキ	イネ	<i>Leersia japonica</i> (Honda) Makino ex Honda	—	—	NT
17	サヤヌカグサ	イネ	<i>Leersia sayanuka</i> Ohwi	—	—	VU
18	スズメノコビエ	イネ	<i>Paspalum scrobiculatum</i> L. var. <i>orbiculare</i> (G.Forst.) Hack	—	—	NT
19	ウキシバ	イネ	<i>Pseudoraphis sordida</i> (Thwaites) S.M.Phillips et S.L.Chen	—	NT	NT
20	キケマン	ケシ	<i>Corydalis heterocarpa</i> Siebold et Zucc. var. <i>japonica</i> (Franch. et Sav.) Ohwi	—	—	—
21	ワタゲカマツカ	バラ	<i>Pourthiaea</i> sp.	—	—	NT
22	コアカソ	イラクサ	<i>Boehmeria spicata</i> (Thunb.) Thunb.	—	—	NT
23	サクラバハハンノキ	カバノキ	<i>Alnus trabeculosa</i> Hand. Mazz.	NT	国リスト	NT
24	ゴキツル	ウリ	<i>Actinostemma tenerum</i> Griff.	—	—	VU
25	ケイリュウタチツボスミレ	スミレ	<i>Viola grypoceras</i> A.Gray var. <i>ripensis</i> N.Yamada et M.Okamoto	—	—	NT
26	ミズマツバ	ミソハギ	<i>Rotala mexicana</i> Cham. et Schltdl.	NT	国リスト	国リスト
27	サクラタデ	タデ	<i>Persicaria macrantha</i> (Meisn.) Haraldson	—	—	NT
28	コギシギシ	タデ	<i>Rumex dentatus</i> L. subsp. <i>klotzschianus</i> (Meisn.) Rech.f.	NT	国リスト	NT
29	モウセンゴケ	モウセンゴケ	<i>Drosera rotundifolia</i> L.	—	—	NT
30	ホソバハマアカザ	ヒユ	<i>Atriplex patens</i> (Litv.) Iljin	—	—	NT
31	ミズキ	ミズキ	<i>Cornus controversa</i> Hemsl. ex Plain	—	—	—
32	コアジサイ	アジサイ	<i>Hydrangea hirta</i> (Thunb. ex Murray) Siebold et Zucc.	—	—	—
33	カラタチバナ	サクラソウ	<i>Ardisia crispa</i> (Thunb.) A.DC.	—	—	—
34	クロミノニシゴリ	ハイノキ	<i>Symplocos paniculata</i> (Thunb.) Miq.	—	—	NT
35	イチヤクソウ	ツツジ	<i>Pyrola japonica</i> Klenze ex Alefeld	—	—	VU
36	ネナシカズラ	ヒルガオ	<i>Cuscuta japonica</i> Choisy	—	—	NT
37	イヌノフグリ	オオバコ	<i>Veronica polita</i> Fr. var. <i>lilacina</i> (T.Yamaz.) T.Yamaz.	NT	国リスト	NT
38	ヤブムラサキ	シソ	<i>Callicarpa mollis</i> Siebold et Zucc.	—	—	NT
39	コシロネ	シソ	<i>Lycopus cavaleriei</i> H.Lev.	—	—	—
40	ウツボグサ	シソ	<i>Prunella vulgaris</i> L. subsp. <i>asiatica</i> (Nakai) H.Hara	—	—	—

41	イヌゴマ	シソ	<i>Stachys aspera</i> Michx. var. <i>hispidula</i> (Regel) Vorosch.	—	—	NT
42	ナンバンギセル	ハマウツボ	<i>Aeginetia indica</i> L.	—	—	NT
43	イヌタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia australis</i> R.Br.	NT	国リスト	NT
44	ミミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia bifida</i> L.	—	—	NT
45	ホザキノミミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia caerulea</i> L.	—	—	NT
46	カワラニンジン	キク	<i>Artemisia carvifolia</i> Buch. Ham.	—	—	NT
47	キセルアザミ	キク	<i>Cirsium Sieboldii</i> Miq.	—	—	NT

情報不足 (DD)

No.	種名	科名	学名	国 2025	県 2025	市 2020
1	ムサシアブミ	サトイモ	<i>Arisaema ringens</i> (Thunb.) Schott	—	DD	—
2	オオハンゲ	サトイモ	<i>Pinellia tripartita</i> (Blume) Schott	—	DD	—

国リスト・県リスト

No.	種名	科名	学名	国 2025	県 2025	市 2020
1	ニッケイ	クスノキ	<i>Cinnamomum sieboldii</i> Meisn.	NT	国リスト	国リスト
2	ムサシモ	トチカガミ	<i>Najas ancistrocarpa</i> A.Braun ex Magnus	EN	EN	国・県リスト
3	シラン	ラン	<i>Bletilla striata</i> (Thunb.) Rchb.f.	NT	NT	国・県リスト
4	オグラノフサモ	アリノトウグサ	<i>Myriophyllum oguraense</i> Miki	VU	CR	国・県リスト
5	ナラガシワ	ブナ	<i>Quercus aliena</i> Blume	—	EN	県リスト
6	ヤチヤナギ	ヤマモモ	<i>Myrica gale</i> L. var. <i>tomentosa</i> C.DC.	—	CR	県リスト
7	ホルトノキ	ホルトノキ	<i>Elaeocarpus zollingeri</i> K.Koch	—	VU	県リスト
8	サクラガンビ	ジンチョウゲ	<i>Diplomorpha pauciflora</i> (Franch. et Sav.) Nakai	VU	国リスト	国リスト
9	カワヂシャ	オオバコ	<i>Veronica undulata</i> Wall.	NT	国リスト	国リスト
10	アサザ	ミツガシワ	<i>Nymphoides peltata</i> (S.G.Gmel.) Kuntze	NT	EN	国・県リスト
11	ハクサンボク	ガマズミ	<i>Viburnum japonicum</i> (Thunb.) Spreng.	—	VU	県リスト

希少偶産種

No.	種名	科名	学名	国 2025	県 2025	市 2020
1	カナクギノキ	クスノキ	<i>Lindera erythrocarpa</i> Makino	—	—	—
2	カエデドコロ	ヤマノイモ	<i>Dioscorea quinquelobata</i> Thunb.	—	—	—
3	キツネノカミソリ	ヒガンバナ	<i>Lycoris sanguinea</i> Maxim.	—	—	—
4	ブナ	ブナ	<i>Fagus crenata</i> Blume	—	—	—
5	ヤマハンノキ	カバノキ	<i>Alnus hirsuta</i> (Spach) Turcz. ex Rupr.	—	—	—
6	ウリハダカエデ	ムクロジ	<i>Acer rufinerve</i> Siebold et Zucc.	—	—	—
7	ラセンソウ	アオイ	<i>Triumfetta japonica</i> Makino	—	—	—
8	ヒメシャラ	ツバキ	<i>Stewartia monadelphica</i> Siebold et Zucc.	—	—	—
9	ナナミノキ	モチノキ	<i>Ilex chinensis</i> Sims	—	VU	—
10	タカアザミ	キク	<i>Cirsium pendulum</i> Fisch.	—	—	—

② 名古屋市版レッドリスト 2025（シダ植物）

科の範囲、名称、配列、種の和名、学名は、原則として「日本シダ植物標準図鑑Ⅰ～Ⅱ」（学研）に準拠したが、一部執筆責任者の判断により、他の名称を用いたものもある。科内の配列は学名のアルファベット順とした。

絶滅（EX）

No.	種名	科名	学名	国 2025	県 2025	市 2020
1	ミズニラ	ミズニラ	<i>Isoetes japonica</i> A. Braun	NT	NT	EX
2	デンジソウ	デンジソウ	<i>Marsilea quadrifolia</i> L.	NT	CR	EX
3	サンショウモ	サンショウモ	<i>Salvinia natans</i> (L.) All.	NT	EN	EX

絶滅危惧ⅠA 類（CR）

No.	種名	科名	学名	国 2025	県 2025	市 2020
1	アカハナワラビ	ハナヤスリ	<i>Sceptridium nipponicum</i> (Makino) Holub	—	—	—
2	イシカグマ	コバノイシカグマ	<i>Microlepia strigosa</i> (Thunb.) C.Presl	—	NT	EN
3	ツクシヤワラシダ	ヒメシダ	<i>Thelypteris hattorii</i> (H.Itô) Tagawa var. <i>nemoralis</i> (Ching) Sa.Kurata	—	VU	CR

絶滅危惧ⅠB 類（EN）

No.	種名	科名	学名	国 2025	県 2025	市 2020
1	モトマチハナワラビ	ハナヤスリ	<i>Sceptridium</i> sp.	—	EN	—
2	ヤマドリゼンマイ	ゼンマイ	<i>Osmundastrum cinnamomeum</i> (L.) C.Presl var. <i>fokiense</i> (Copel.) Tagawa	—	—	EN
3	オオバノハチジョウシダ	イノモトソウ	<i>Pteris terminalis</i> Wall. ex J.Agarth	—	—	EN
4	チャセンシダ	チャセンシダ	<i>Asplenium trichomanes</i> L.	—	—	VU
5	コモチシダ	シシガシラ	<i>Woodwardia orientalis</i> Sw.	—	—	EX
6	ウラボシノコギリシダ	メシダ	<i>Anisocampium sheareri</i> (Baker) Ching	—	—	—
7	ニセコクモウクジャク	メシダ	<i>Diplazium conterminum</i> H.Christ	—	VU	—
8	スカイタチシダモドキ	オシダ	<i>Dryopteris indusiata</i> (Makino) Makino et Yamam.	—	—	VU
9	スカイタチシダマガイ	オシダ	<i>Dryopteris simasakii</i> (H. Ito) Sa. Kurata	—	—	—
10	クリハラン	ウラボシ	<i>Neolepisorus ensatus</i> (Thunb.) Ching	—	—	EN

絶滅危惧Ⅱ 類（VU）

No.	種名	科名	学名	国 2025	県 2025	市 2020
1	コウヤコケシノブ	コケシノブ	<i>Hymenophyllum barbatum</i> (Bosch) Baker	—	—	VU
2	スリトラノオ	チャセンシダ	<i>Asplenium normale</i> D.Don	—	—	—
3	ウスヒメワラビ	メシダ	<i>Acystopteris japonica</i> (Luer) Nakai	—	—	VU
4	ヒメワラビ	ヒメシダ	<i>Thelypteris torresiana</i> (Gaudich.) Alston var. <i>calvata</i> (Baker) K.Iwats.	—	—	VU
5	サトメシダ	メシダ	<i>Athyrium deltoideifrons</i> Makino	—	—	—
6	ヘラシダ	メシダ	<i>Deparia lancea</i> (Thunb.) Fraser-Jenk.	—	—	VU
7	ウスバシケシダ	メシダ	<i>Deparia longipes</i> (Ching) Shinohara	VU	VU	VU
8	シロヤマシダ	メシダ	<i>Diplazium hachijoense</i> Nakai var. <i>shiroyamense</i> (Tagawa)	—	—	VU
9	オニヒカゲワラビ	メシダ	<i>Diplazium nipponicum</i> Tagawa	—	—	VU
10	ホソバナライシダ	オシダ	<i>Arachniodes borealis</i> Seriz.	—	—	—
11	イワヘゴ	オシダ	<i>Dryopteris atrata</i> (Wall. ex Kunze) Ching.	—	—	VU
12	クマワラビ	オシダ	<i>Dryopteris lacera</i> (Thunb.) Kuntze	—	—	—
13	ヒメイタチシダ	オシダ	<i>Dryopteris sacrosancta</i> Koidz.	—	—	—
14	ナガバノイタチシダ	オシダ	<i>Dryopteris sparsa</i> (Buch.-Ham. ex D.Don) Kuntze	—	—	—
15	タニヘゴ	オシダ	<i>Dryopteris tokyoensis</i> (Makino) C.Chr.	—	—	VU
16	アスカイノデ	オシダ	<i>Polystichum fibrillosopaleaceum</i> (Kodama) Tagawa	—	—	—
17	ミツデウラボシ	ウラボシ	<i>Selliguea hastata</i> (Thunb.) Fraser-Jenk.	—	—	—

準絶滅危惧 (NT)

No.	種名	科名	学名	国 2025	県 2025	市 2020
1	オニトウゲシバ	ヒカゲノカズラ	<i>Huperiza javanica</i> (Sw.) Fraser-Jenk.	—	—	VU
2	クラマゴケ	イワヒバ	<i>Selaginella remotifolia</i> Spring	—	—	NT
3	ハマハナヤスリ	ハナヤスリ	<i>Ophioglossum thermale</i> Kom.	—	—	NT
4	ウチワゴケ	コケシノブ	<i>Crepidomanes minutum</i> (Blume) K.Iwats.	—	—	VU
5	トキワトラノオ	チャセンシダ	<i>Asplenium pekinense</i> Hance	—	—	NT
6	タニヌワラビ	メシダ	<i>Athyrium otophorum</i> (Miq.) Koidz	—	—	VU
7	ヒロハイヌワラビ	メシダ	<i>Athyrium wardii</i> (Hook.) Makino	—	—	—
8	ヒカゲワラビ	メシダ	<i>Diplazium chinense</i> (Baker) C.Chr.	—	—	VU
9	キヨタキシダ	メシダ	<i>Diplazium squamigerum</i> (Mett.) Matsum.	—	—	—
10	オオカナワラビ	オシダ	<i>Arachniodes amabilis</i> (Blume) Tindale var. <i>fimbriata</i> K.Iwats.	—	—	—

情報不足 (DD)

No.	種名	科名	学名	国 2025	県 2025	市 2020
(該当種なし)						

国リスト・県リスト

No.	種名	科名	学名	国 2025	県 2025	市 2020
1	イヌカタヒバ	イワヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i> Hieron.	VU	国リスト	国リスト
2	マツバラン	マツバラン	<i>Psilotum nudum</i> (L.) P.Beauv.	NT	VU	国・県リスト
3	ハガクレカナワラビ	オシダ	<i>Arachniodes yasui-inoue</i> Sa. Kurata	VU	国リスト	国リスト

希少偶産種

No.	種名	科名	学名	国 2025	県 2025	市 2020
1	イヌシダ	コバノイシカグマ	<i>Dennstaedtia hirsuta</i> (Sw.) Mett.	—	—	—
2	ナチシダ	イノモトソウ	<i>Pteris wallichiana</i> J.Agardh	—	—	—
3	イブキシダ	ヒメシダ	<i>Thelypteris esquirolii</i> (H.Christ) Ching var. <i>glabrata</i> (H.Christ) K.Iwats.	—	—	—
4	カラクサイヌワラビ	メシダ	<i>Athyrium clivicola</i> Tagawa	—	—	—
5	サキモリイヌワラビ	メシダ	<i>Athyrium oblitescens</i> Sa.Kurata	—	—	—
6	オシダ	オシダ	<i>Dryopteris crassirhizoma</i> Nakai	—	—	—
7	イヌイワヘゴ	オシダ	<i>Dryopteris cycadina</i> (Franch. et Sav.) C.Chr.	—	—	—
8	キヨスミヒメワラビ	オシダ	<i>Dryopteris maximowicziana</i> (Miq.) C.Chr.	—	—	—
9	オオマルバベニシダ	オシダ	<i>Dryopteris medioxima</i> Koidz.	—	—	—

4. 名古屋市の野生生物の現状

種子植物

(1) 名古屋市における種子植物の概要

種子植物とシダ植物は、実際の調査は同時並行的に行われることが多いため、この項は両者を合わせて記述する。名古屋市に野生状態で生育している維管束植物（シダ植物と種子植物、シダ植物は小葉植物を含む）は、まだ完全な植物目録が完成していないため多少の誤差があるかもしれないが、表5のとおりである。自生する変種以上の維管束植物は日本全体で約7,000、愛知県で2,381であるから、前者の約16%、後者の46.5%が名古屋市に生育していることになる。

表5 名古屋市産維管束植物集計表

植物群		シダ植物	裸子植物	被子植物			計
				原始被子植物	単子葉類	真正双子葉類	
在来	種	130	6	24	355	591	1,106
	品種	5	1	3	30	69	108
	雑種	19	1	0	12	39	71
帰化・逸出等※		13	6	11	174	597	801
計		167	14	38	571	1296	2,086

※国内帰化、品種、雑種、正確な種名が未同定のものを含む。在来種と帰化種の雑種もこちらに含めてある。

名古屋市に生育している在来維管束植物の数は、尾張東部、西三河、東三河の市町村に比べれば少ないが、それは最高地点が東谷山の198mにすぎず、市域のほとんどが開発されて、自然度の高い場所はわずかしが残存していない名古屋市の条件を考えれば当然のことで、むしろ名古屋市は、地理的な条件の割に多くの植物が生育していると考えられるべきである。

名古屋市の植物が比較的多いのは、主として、愛岐丘陵の末端にあたるため山地性の植物がある程度生育しているからである。名古屋市にある植物の中で、愛岐丘陵には比較的多いが丘陵地にはほとんど見られなくなる山地性植物としては、東谷山だけにあるオオウラジロノキ、ウラジログシ、サワオトギリ（中村区でも採集されている）、タマミズキ、マルバノホロシ、オオカメノキ、タニギキョウ、オオバチドメ以外にも、チゴユリ、ミヤマナルコユリ、ヒメドコロ、スルガテンナンショウ（日進長久手にもある）、ミヤマウズラ、クモキリソウ、マンサク（日進長久手にもある）、コアジサイ、イワガラミ、タニソバ、ギンリョウソウモドキ、タニウツギ、ツルニンジン、オクモミジハグマ、イナカギク（知多南部にもある）、カシワバハグマ、オトコエシ（知多南部にもある）など、相当の数に上る。カタクリ、アズマナルコ、ヤマネコヤナギ、クロウメモドキなどは、愛岐丘陵にも比較的小さい。しかしこれらの植物は、名古屋市ではいずれも生育地や個体数がきわめて少なく、ほとんどがこのレッドデータブックに掲載されている。それに対して、名古屋市には尾張での分布が限ら

れるような顕著な暖地性植物は少なく、イシカグマ、ニセコクモウクジャク、オオバグミ、ホソバニセジュズネノキ、カギカズラなどがあげられるにすぎない。

名古屋市東部の丘陵は、新生代第三紀瀬戸層群の粘土と礫の互層からできている。現在では大部分の場所はコナラやアベマキの落葉広葉樹二次林におおわれているが、一部には貧弱なアカマツが生育するやせ山状態の場所が辛うじて残っており、オキアガリネズ、ワタゲカマツカ、ミカワツツジ、ウンヌケなどが生育している。谷部に点在する小湿地には、サクラバハシノキ、モウセンゴケ、ハルリンドウ、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、ヌマガヤ、ミカヅキグサ、イトイヌノハナヒゲ、サギソウなどのほか、東海地方固有または準固有のヘビノボラズ、トウカイコモウセンゴケ、クロミノニシゴリ、シラタマホシクサなどが生育している。しかし、シデコブシ、フモトミズナラは分布域の末端が市の北東部にやっと達している状態で、ミカワシオガマはすぐ近くまであるが、市内にはない。熱帯系の植物で、しかもこの地方を特徴づける植物であるナガバノイシモチソウとヒメミミカキグサは、緑区に生育していたが絶滅してしまった。小さい谷にはため池が多く作られており、ガガブタ、イヌタヌキモ、ウキシバなどの水草が生育し、秋期干上がった底土上にはイヌノヒゲ類、ヌマカゼクサ、シロガヤツリ、メアゼテンツキ、アオテンツキ、トネテンツキなどが群落を作る。しかしこれらの植物も、名古屋市ではほとんどのものが個体数を減少させており、このレッドデータブックに掲載されている。

草地性植物については、名古屋市でもかつては丘陵地の谷戸田周辺に里草が点在しており、多くの種の生育場所になっていたと思われる。しかし、愛知みどりの会収蔵標本の基礎となった愛知県植物誌調査会が発足した 1990 年代初めには、既にそのような草地はほとんど消失していた。市の東部を流れる愛知用水の幹線水路沿いは、管理上の必要から毎年草が刈られるため、カワラナデシコ、タカトウダイ、コガンピ、クサレダマ、オミナエシ、リュウノウギク、カセンソウ、オオアブラススキなど、多くの草地性植物が生育していたが、愛知用水の改修工事のため、ほとんどの植物は絶滅、あるいは激減し、やはりこのレッドデータブックに掲載されるような状態になってしまった。

一方、市の西部は濃尾平野になり、本来は低湿地が広がっていた場所である。その南側は、伊勢湾に面している。そのようなわけで、低湿地性の植物や塩湿地性の植物も、代表的なものは一通り生育している。ただしこれらの植物も、開発や水の汚れによって絶滅、あるいは激減してしまったものが多く、ほとんどはこのレッドデータブックに掲載されるような状態に追い込まれている。

そのようなわけで、名古屋市の維管束植物は、種類数はそれなりにあっても、現状はきわめて危機的である。以下に、市内の地域ごとに、それぞれの状況を記述する。

ア 東谷山

東谷山は名古屋市東端にあり、トウゴクシダとシダミコザサの基準標本産地である。標高は198mで、市内の他地域と異なって古生代後期の砂岩、粘板岩や中生代白亜紀の伊奈川花崗岩からなり、名古屋市では唯一の山地的な地形を持つ場所である。山の北側は、庄内川に向かって急傾斜地になっており、かなり人間の手がかわっているが、それなりに自然度の高い林が残存している。瀬戸市との境界に谷があり、多少は陰湿な場所を好む植物も見られる。

庄内川の川岸は、庄内川が愛岐丘陵を刻んでできた古虎溪の末端部になっており、岩場にはカラハンノキ、ケイリュウタチツボスミレ、ツクバスゲなどが生育している。

山の南側はやや傾斜が緩く、ほとんどが造林地になっているが、瀬戸市との境界となる谷の下部に湧水湿地があり、ここにシデコブシのまとまった群落がある。この場所は、以前は開けた湿性草地があり、レンゲツツジ、コシンジュガヤ、カキランなどが生育していた。しかし、現在ではすっかり湿地林状態になってしまい、低木や草本はほとんど消滅した。

イ 東部丘陵地

名古屋市の東側は、かつては低い丘陵地が連なり、湧水湿地も点在しており、東海地方固有種を含む多くの植物が生育していた。過去の状況を示す資料は少ないが、現在はすっかり市街地化されている千種区覚王山で1932～34年に採集された標本がある程度まとまって残されており、その中にはオミナエシ、アキノキリンソウ、ヌカボシソウ、タチモ、アブノメ、ホザキノミミカキグサ、サワヒヨドリ、ミズギク、サギソウなどが含まれていて、当時は自然の豊かな丘陵地であったことが伺える。第二次世界大戦後も1975年頃までは、天白区や緑区では丘陵地の地形が連続的に残されていた。しかし現在では宅地化が著しく進行し、いくつかの残存緑地が島状に残されているだけである。一方、残された緑地では里山としての利用や管理が行われなくなったために森林化が進行し、少し前までのやせ山状態はほとんど失われた。

森林公園周辺の緑地

名古屋市の丘陵緑地の中では最も市街地から離れており、湿地やため池も多く、自然も多く残されている。かつてはヒツジグサ、ノタヌキモ、シズイ、カガシラ、ミズトンボなども生育していた。現在でも、減少したとは言ってもまださまざまな植物が生育している。場所によっては大きなサクラバハンノキ林があり、林床にはタニヘゴ、ヘビノボラズなども見られる。フモトミズナラ、ムカゴニンジンなどは、名古屋市では現在のところこの緑地でしか確認できない。

才井戸流と庄内川

中志段味の才井戸流は、庄内川に沿った崖から多量の水が湧き出して清流となり、ミクリ、ヤマトミクリ、ミズタガラシなどが生育している。崖地にはニガキ、ノダケなどが生育し、流れに沿った水田にはミズトラノオ、マツカサススキなどが見られ、地形的にも大変重要な場所であった。しかし、水源部の地形は名古屋市上下水道局の産業廃棄物処分場建設により改変され、周辺の水田も開発されてしまった。庄内川の礫の河川敷にはカラライサイコ、カラメドハギなどが生育し、堤防の草地にはイヌハギ、フシグロ、ヒトツバハギ、ヤマハッカ、タツナミソウなどが生育していたが、それらの一部もすでに消失してしまった。

小幡緑地・吉根・大森

守山区の丘陵前縁に位置する緑地で、ため池の周囲にマメナシが多い。しかし、最大の自生地である蛭池では、公園化のため現存する個体は保存されても繁殖の条件が失われ、将来の絶滅が約束されたような状態になっている。コガクウツギ、アキノギンリョウソウ、ニシノホンモンジスゲなどは、名古屋市ではこの地域だけに生育している。シデコブシもわずかに生育している。しかし、丘陵の西側は開発が進行しており、いくつかの植物がきわめて危機的な状況に追い込まれている。小幡緑地の中にはいくつかの湧水湿地があったが、最も大きかったものは公園整備のため埋め立てられてしまった。竜泉寺は庄内川の河岸段丘にあり、急峻な斜面や谷、市内で他に見られない崖地が残されている。コモチシダの小集団も残存しており、斜面下部の湿潤な草地にはヤマネコノメソウの小集団がある。ホドイモ、ダイコンソウ、ケツルニンジンも生育している。

明德公園

明德公園は名東区の東北部にある小規模な緑地で、東部は公園として整備されているが、西部には発達した二次林が残されており、尾根付近ではマツ林も見られる。ハイイヌガヤとニセコクモウクジャクは、この場所が市内唯一の生育地である。

猪高緑地

長久手町との境界にあり、ゴルフ場や大規模な公園がないという点で貴重な緑地である。緑地内にはため池が多く、ジュンサイ、ガガブタ、イヌタヌキモなどの水草やヒナノカンザシ、ヒメアオガヤツリ、ウキヤガラ、マネキシシジュガヤ、ミズニラなどの湿性植物が生育していたが、それらの一部は池の改修や遷移の進行により消失してしまった。林内はタケ類が増加しつつあるが、サイハイラン、キッコウハグマなどもわずかに生育している。

牧野ヶ池緑地

牧野ヶ池緑地は大きな緑地であるが、中央部がゴルフ場にされており、そのため生物多様性保全の場としての価値が著しく損なわれている。牧野池にはイヌタヌキモ、ガガブタなどの水草が生育しており、池の周辺には、クロミノニシゴリ、コシロネなどがみられる。ゴルフ場周辺部の林ではモトマチハナワラビ、アカハナワラビなどが確認されている。

東山公園／平和公園

丘陵地の最前縁に位置し、中央部は墓地や動植物園になっているが、周辺部にはそれなりに林が残されている。20年ほど前まではヒメコウホネの茂る小池やシラタマホシクサ、ムラサキミミカキグサ、イヌセンブリなどの生育するいくつかの湿地があり、タイムスリップしたかのような農耕地も残されていた。現在では森林化が進行しているが、現在でもチゴユリ、シライトソウ、ケタガネソウ、シデコブシ、カラコギカエデなどが僅かに生育している。植田山にクロキの大木が1本生育しているのも注目される。

荒池緑地・島田緑地

荒池にはウキシバが多く、池岸にはカラコギカエデ、クロミノニシゴリなどが生育している。西側にある島田緑地は、かつてはいろいろな植物が生育していたが、公園化されて自然度が低下してしまった。

相生山緑地

ゴルフ場や大規模な公園がなく、まとまった面積が確保されているという点で、猪高緑地とともに貴重な緑地である。林内にはウスバシケシダの大きな群落があり、フタリシズカ、ホクリクムヨウラン、カギカズラなども生育している。緑地内に湧水湿地はないが、近くには地下水がしみ出している場所があり、以前はミカワシンジュガヤなども生育していた。

みどりが丘公園とその周辺

林内にはクマノミズキが生育しており、クロミノニシゴリ、ワタゲカマツカなども見られる。公園の西側には愛知用水が通っており、その土手にはキスゲ、オオアブラススキ、タカトウダイ、リュウノウギク、オミナエシなど多くの草地性植物が生育していた。しかし、用水の改修によって土手の草地が失われ、これらの植物もほとんどが消失してしまった。

徳重熊野社と平針黒石市民緑地

徳重熊野社の社叢林は市街地に残存する緑地で、オニトウゲシバ、サイコクキツネヤナギなどが生育している。尾根沿いの一部には地域住民の継続的な管理によってアカマツの若齢林が維持されている。近接する平針黒石市民緑地には、市内で唯一現存が確認されているアリマグミが生育しており、林内の湿地にはコミゾソバの群落がある。

大高緑地とその周辺

緑区には滝の水湿地など多くの湧水湿地があり、全国的にも希少なナガバノイシモチソウ、ヒメミミカキグサをはじめ多くの湿地性植物が生育していたが、開発によりほとんどが失われてしまった。最大の残存緑地である大高緑地は大部分が公園化されているが、マルバグミやケヤブハギが生育しているほか、水辺にキヌヤナギの群落があり、ハナショウブが植えられた湿地にも雑草としてヒメタイヌビエ、ナガバノウナギツカミなどが生育している。周辺の小緑地にはウラシマソウなどが生育している。

ウ 中部市街地

名古屋市の中部はすっかり市街地化されているが、名古屋城と熱田神宮に大きな緑地がある。

名古屋城

名古屋城は名古屋市の市街地では最大の緑地である。大部分は公園化されているが、石垣など人が接近しにくい場所にはいろいろな植物が生育している。石垣の植物で特に目立つのはツメレンゲで、本来の自生ではないかもしれないが、愛知県では最大の群落である。ウチワゴケ、トキワトラノオ、チャセンシダなどのシダ植物も生育しており、特にチャセンシダは尾張では唯一の自生地であ

る。堀の土手斜面には、キクムグラの小群落があった。堀にはフサタヌキモなど多くの水草が生育していたが、現在では水が汚れてかなりのものが絶滅してしまった。しかし現在でも、オニバス、トチカガミ、ヒメビシなどが復活・残存している。水辺の湿地には、ゴキヅルが多い。堀川は庄内川からの導水によって清流が蘇り、ヤナギモ、アイノコイトモなどの水草が見られるようになった。

熱田神宮とその周辺

市街地南部の熱田神宮にも、よく茂った社叢がある。社叢内はまだ十分に調査できていないが、過去にはアズマガヤが確認されている。他の樹木等について持ち込まれた可能性は否定しきれないが、尾張では唯一の自生状生育地であった。周辺にもいくつかの社叢や古墳があり、カゴノキ、シロダモ、ウラシマソウなどが生育している。

エ 西部低地

北区から西区にかけての庄内川右岸は、もともとは広い水田地帯であった。しかし現在では住宅地化が進行し、住宅地の間に僅かに残存していた水田もほとんど消失した。このような水田では強力な農薬が使用されないためにミズネコノオなども残存していたが、このような水田雑草も消失した。中川区や港区の水田、水路、小河川では、サンショウモ、トチカガミ、コウガイモなどの水草が生育していたが、水の汚れによって絶滅してしまった。ウスゲチョウジタデなど、海部郡の水田では普通にみられる植物も、名古屋市内では希少である。低湿地性植物が将来ともある程度残存する可能性があるのは、庄内川などの河川敷と庄内緑地公園だけであろう。海岸部は著しく改変が進み、砂浜的な部分は全く残されていない。しかし、河口部や入江には泥質の場所があり、大都市域の割には比較的多くの塩湿地性植物が生育している。

庄内川河川敷

庄内川河川敷は耕作地や公園になっている部分が多く、まとまったヤナギ林は残されていない。しかし、愛知県から琵琶湖岸にかけての固有種であるキヌヤナギが、個体数は少ないが点々と生育している。オオタチヤナギも点在するが、この地域のものは他の地方のものに比べると葉が著しく幅広く、保全上の配慮を要する。低湿地性の草本植物は河川規模の割に少なく、河口部以外ではミゾコウジュなどが見られるにすぎない。

庄内川／日光川河口部

庄内川河口部には広いヨシ原があり、良好な自然景観が保たれている。生育している植物の種類はそれほど多くないが、カワラニンジン、シオクグ、イセウキヤガラなどは個体数が多い。一部の場所にはシバナの群落があった。藤前干潟は植物に関してはほとんど注目すべきものがないが、そこに流入する日光川の河口部には、ウマスゲなどが僅かに残存している。

名古屋港東側の沿海地

南区加福町の貯木場跡地は、放棄後次第に自然状態が回復し、伊勢湾の愛知県側では唯一の個体であったハマボウ、愛知県では数か所しか生育していないハマアカザをはじめ、ホソバハマアカザ、ウラギク、シオクグなどかなりの塩湿地性植物が生育していたが、東海豪雨に伴う名古屋市の廃棄

物最終処分場設置により埋め立てられてしまった。現在多少なりとも塩湿地性植物が生育しているのは大江川河口部だけで、ここではアキノミチヤナギなどが見られるほか、コギシギシが多く生育している。

(2) 名古屋市における絶滅危惧種の概要

レッドリスト掲載種の数を集計して、表 6 に示した。

表 6 名古屋市版レッドリスト 2025 (種子植物) 掲載種数

評価区分 分類群	絶滅 (EX)	絶滅のおそれのある種				準絶滅 危惧 (NT)	情報 不足 (DD)	計	リスト外	
		絶滅 危惧 I A 類 (CR)	絶滅 危惧 I B 類 (EN)	絶滅 危惧 II 類 (VU)	小計				国／県 リスト (lc)	希少 偶産種 (評価 対象外)
種子植物・裸子植物	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0
被子植物・原始被子植物	4	2	3	1	6	3	0	13	1	1
被子植物・単子葉類	26	17	34	26	77	16	2	121	2	2
被子植物・真正双子葉類	41	24	41	61	126	28	0	195	8	7
計	71	45	78	88	211	47	2	331	11	10

かつて名古屋市に生育していた植物の中ですでに絶滅したと判定されるもの（絶滅／野生絶滅）は 71 種、現在生育している、あるいはまだ生育している可能性が高いが絶滅が危惧される状態にあると判定されたもの（絶滅危惧 IA 類、絶滅危惧 IB 類、絶滅危惧 II 類）は 211 種、現時点で直ちに絶滅が危惧されるというほどではないが、今後の状況によっては絶滅危惧種に移行する可能性がある種（準絶滅危惧）は 47 種、評価するだけの情報が不足している（具体的には、自生ならば絶滅危惧種に該当するが、自生か逸出か判断するだけの情報が不足している）種（情報不足）は 2 種となった。また、環境省が 2025（令和 7）年に発行した第 5 次レッドデータブック（維管束植物）、および愛知県が 2025（令和 7）年に公表した愛知県版レッドリスト（維管束植物）に掲載されている種のうち、名古屋市での生育状況から絶滅危惧に該当しないと判定されたものはカワヂシャ 1 種、名古屋市に生育するものは雑種性である可能性が高いものはオグラノフサモ 1 種、名古屋市に生育するものは全て逸出で評価の対象にならないと判定されたものはニッケイ、シランなど 9 種であった。名古屋市では個体数が極めて少なくてもまだ定着状態に至っておらず、評価の対象にならないと判定されたもの（希少偶産）はカナクギノキ、カエデドコロなど 10 種であった。

植物群ごとに見ると、園芸目的で採取されることが多いラン科、ユリ科、水草や湿地性植物の多いトチカガミ科、ヒルムシロ科、イバラモ科、ホシクサ科、カヤツリグサ科などを含む単子葉植物は、他の群に比べて絶滅危惧種の割合が高くなった。ラン科は特に絶滅種、絶滅危惧種の割合が高く、名古屋市の自生種のほとんどが今回のリストに掲載された。生育環境別では特に水生植物が危機的で、タヌキモ類は 5 種中 4 種が絶滅、1 種が準絶滅危惧、スイレン科は 4 種中 2 種が絶滅、1 種が絶滅危惧 IA 類、1 種が準絶滅危惧、トチカガミ科は 7 種中 5 種が絶滅である。

掲載種数を環境省第 5 次レッドリスト、および愛知県 2025 年版レッドリストと比較した結果を、表 7 に示した。

表 7 レッドリスト掲載種数の比較（種子植物）

	自生種 総数	絶滅	絶滅のおそれのある種				準絶滅 危 惧	情報 不足	計	国・県 リスト*
			IA 類	IB 類	II 類	小計				
名古屋市	976	71	45	78	88	211	47	2	331	11(1)
愛知県	2,071	42	99	165	162	425	99	6	573	27 (25)
全国	約 6,300	20	446	476	634	1,556	332	41	1,949	

*在来自生種の中で、上位リストに掲載されているが絶滅危惧種に該当しないと判断されたもの＋未定着と判断され評価対象から除外されたもの。後者（希少偶産種）の数は（ ）に入れて示した。

自生種総数に対する絶滅・絶滅危惧種の数、および準絶滅危惧種・情報不足種を含むリスト掲載種総数の割合は、名古屋市ではそれぞれ 28.9%および 33.9%になった。この数字は、愛知県の場合それぞれ 22.5%、27.7%、日本全国の場合それぞれ 25.0%、30.9%であるから、名古屋市は国や県に比べて絶滅危惧種の割合が高いことになる。これは、大都市域で著しく開発が進んでいるという名古屋市の地域特性を反映していると考えられる。

カテゴリー毎に見ると、リスト掲載種の中で絶滅／野生絶滅が占める割合は、日本全体で 1.4%、愛知県で 7.3%に対し、名古屋市は 21.8%に達し、割合が極めて高かった。これも、調査範囲が狭いことに加えて、大都市域ですでにかなりの植物の生育地が失われてしまったという名古屋市の地域特性を反映していると考えられる。絶滅種を除いた現存種の中で準絶滅危惧種・情報不足種を含むリスト掲載種総数が占める割合は、愛知県が 26.2%、名古屋市が 28.7%で、名古屋市の方が多少高いが、それほど差はない。絶滅以外のカテゴリーについての相対的な比率は、ほぼ同じ手法を用いた愛知県の結果と比較すると、名古屋市の方が絶滅危惧Ⅱ類の割合がやや高い傾向はあるが、全体としてそれほど差は見られなかった。愛知県全体と比較して評価結果の逆転現象が生じた種はマメナシ（愛知県：絶滅危惧ⅠA 類、名古屋市：絶滅危惧ⅠB 類）だけで、これは日本全国に生育している個体の半数以上が名古屋市内に集中しているという特殊事情による。

減少の原因は各種ごとにそれぞれ記述したが、全体としてみると里山の二次林や草地の利用停止に伴う遷移の進行、開発による生育地の破壊（水の汚染による生育環境の破壊を含む）、園芸目的の採取が、植物を絶滅の危機に追い込んでいる三大要因である。このうち遷移の進行は、それ自体は自然現象である。しかし、遷移の進行が問題になる背景としては、その前段階として、人間が生活域を拡大する過程でさまざまな遷移段階を含む本来の自然環境を破壊し、それらの植物のもともとの生活場所を奪って、彼らを薪炭林や採草地、あるいは用水岸や河川堤防の草地などに追い込んだという経緯がある。湧水湿地の植物にしても、治山事業等によって新たな湿地が形成される条件をなくせば、遷移に迫られた植物は次の行き場を失ってしまう。東海豪雨の際にも東谷山などではいくつかの崩壊地ができたが、いずれもすぐに復旧工事が行われ、新たな湿地の形成には結びつかなかった。このような見方をすれば、一部の先駆種的な植物以外の大部分の種については、遷移の進行も人為的な環境破壊の一つの型と見なすべきである。

その意味で、用水路の岸、ため池の堰堤、河川の堤防などは管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、多くの草地性植物の貴重な生育地となっている。改修の際には、これらの場所が生物多様性保全に果たしている重要な役割を考慮し、適切な配慮を行うことが望まれる。

なお、近年全国的にも愛知県でも大きな問題になっている林床性・林縁性の植物へのニホンジカ

の食害については、名古屋市の場合はニホンジカが侵入しにくい大都市圏ということもあって、東谷山以外では現在のところそれほど大きな問題になっていない。しかし東谷山では特に北側の斜面を中心に被害が拡大しており、イズセンリョウなどもほとんど消失した。将来的には、シカの人なれによって行動圏が拡大し、東部丘陵全域に被害が拡大する可能性もある。ニホンジカの食害に対しては、防護柵設置は範囲や維持管理に問題が多く、シカの個体数調整も現実問題としてはなかなか難しく、今後の大きな課題となっている。ニホンジカ以外ではイノシシの掘り起こしによる被害も大きく、スルガテンナンショウ、ムヨウランなどはそれが原因でほとんど見られなくなった。

(3) 名古屋市で特に保全上の重要性が高い種類

既に述べたように、名古屋市に生育する植物は、名古屋市では希少で絶滅が危惧される状態でも、周辺域に行けば普通種であることが多い。しかし中には、名古屋市を特徴づける、他地域では希少な植物も存在する。代表的なものとしては、マメナシ、ミヤコミズ、クロキがある。これらの植物は、他に代替がきかないという理由で、特に保全上の重要性が高い。

マメナシ *Pyrus calleryana* Decne. (バラ科)

マメナシは、日本、朝鮮半島中部、中国大陸中南部、ベトナム北部に隔離的に生育する樹木で、日本での生育地は愛知県、岐阜県（南西端）、三重県に限られている。名古屋市では小幡緑地、大森蛭池などにまとまった生育地があり、その他にもところどころに生育している。おそらくは日本に現存する個体の過半数が名古屋市内に生育しているものと思われる。名古屋市に生育する植物の中では、最も保全上の重要性が高いものである。本来ならば、名古屋市内に生育する全ての個体について個別に現状を確認し、モニタリング調査を継続すべきである。

ミヤコミズ *Pilea kiotensis* Ohwi (イラクサ科)

ミヤコミズは、本州西部の主として日本海側と九州北部に分布するイラクサ科の1年生草本で、全国的に見てもやや希少な植物である。環境庁の2000年版レッドリストでは、絶滅危惧Ⅱ類と評価されていた。名古屋市では名東区に小群落があるが、これが愛知県唯一の自生地であるとともに、分布の東限である。名古屋市に生育する植物の中では、マメナシに次いで保全上の重要性が高い植物である。

クロキ *Symplocos kuroki* Nagam. (ハイノキ科)

クロキは、従来鳥取県以西に分布するとされてきたハイノキ科の常緑性小高木であるが、千種区植田山の林内に、この種としては天然記念物級の大木が1本生育している。周辺には幼木も散在している。もし自生ならば、著しい東限産地になる。古い時代に植栽されたものである可能性は否定しきれないが、そのことを考慮しても貴重なものであり、保全上の重要性が高い。

以上3種の他に地域固有性が高く、あるいは愛知県では生育地が限られているという理由で保全上重要と考えられるものには、ハイイヌガヤ、シデコブシ、ヤマユリ、ヒメアオガヤツリ、アズマガヤ、シダミコザサ、カラコギカエデ、コガクウツギなどがある。すでに絶滅してしまった植物の中では、ナガバノイシモチソウ（紅花）とヒメミミカキグサが日本では東海地方だけに分布していて、しかも東海地方でも生育地の少ない植物であり、フサタヌキモが全国的に希少で、愛知県では名古屋市以外では確実な記録がなく、ヒメコウホネも、全国的にも愛知県でも希少な植物であった。スハマソウも、愛知県内の産地は限られていた。それぞれの種の特徴や生育地は、各種の解説に記述されているが、以下に要約を記述する。

ハイイヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight ex Forbes) K.Koch var. *nana* (Nakai) Rehder (イヌガヤ科)

イヌガヤの低木性の変種で、主として日本海側の山地に分布しており、県内産地は名古屋市以外は

北部の山地に限られる。名古屋市では名東区の 1 か所に少数個体が生育している。名古屋市に生育する日本海系の植物として、最も顕著なものである。

シデコブシ *Magnolia tomentosa* Thunb. (モクレン科)

東海地方の丘陵地に生育する落葉小高木または低木。名古屋市では守山区の東谷山北麓に比較的大きな群落があるほか、森林公園の 1 ケ所、吉根の 2 ケ所、千種区の 1 ケ所に少数個体が生育している。本地域の代表的な固有種であり、愛知県における分布域の末端にあたるという点でも保全上の重要性が高い。

ヤマユリ *Lilium auratum* Lindley (ユリ科)

林縁などに生育する多年生草本で、白色の大きい花をつける。東北地方から近畿地方まで分布しており、愛知県では東三河には点在するが西三河では産地がなく、尾張では犬山市と名古屋市にごく僅かに生育しているだけである。

ミノボロスゲ *Carex albata* Boott

北方系の多年生草本。長野県や岐阜県まで行けば山地の踏み跡などに普通に生育しているが、愛知県では稀少で、東三河の 3 区画（豊根東部、鳳来北東部、豊川）で確認されているにすぎない。名古屋市では、小幡緑地内の路傍に小群落がある。分布域の南限に近い自生地である。

センダイスゲ *Carex lenta* D.Don var. *sendaica* (Franch.) T.Koyama

通常は海岸のクロマツ林内などに生育する多年生草本。愛知県では田原西部、美浜南知多などで確認されているが、どちらも匍匐枝の短いセンダイスゲモドキと呼ばれる型が多く、典型的なセンダイスゲは個体数がごく少ない。名古屋市では中区の名古屋城内に小群落があった。古い時代に持ち込まれたものかもしれないが、県内では貴重な植物である。

ヒメアオガヤツリ *Cyperus extremeorientalis* Ohwi (カヤツリグサ科)

関東地方以西の溜池の岸などに生育する小型の 1 年生草本。愛知県では 2002（平成 14）年の調査で猪高緑地に生育することが確認された。同じような場所に生育するシロガヤツリに紛らわしい植物なので、注意して探索すれば尾張の他市町でも確認される可能性があるが、現在のところ他に県内の確実な記録はない。

トネテンツキ *Fimbristylis stauntonii* Debeaux et Franch. var. *tonensis* (Makino) Ohwi (カヤツリグサ科)

秋期干上がったため池の岸に生育する小型の 1 年生草本。全国的にも愛知県でも稀少な植物で、県内では尾張部の丘陵地にある数か所のため池で確認されているにすぎない。名古屋市では 2013 年に初めて生育が確認された。

ミカワシンジュガヤ *Scleria mikawana* Makino (カヤツリグサ科)

丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する多年生草本。「ミカワ」の名があるが愛知県三河地方では現在ほとんど見られなくなっており、全国的にも希少である。尾張では三河地方に比べるとやや出現頻度が高いが、それでも少ない。名古屋市では一時絶滅状態であったが、守山区で再発見された。

アズマガヤ *Asperella longe-aristata* (Hack.) Ohwi (イネ科)

林内に生育する多年生草本。愛知県では東三河の山地に点在し、渥美半島にも自生地があるが、それ以外では名古屋市が唯一の生育地である。名古屋市では熱田神宮境内に数 m 四方の群落があった。

ヒメタイヌビエ *Echinochloa crus-galli* (L.) Beauv. var. *formosensis* Ohwi (イネ科)

日本から東南アジア、インドにかけて広く分布する水田雑草であるが、識別がやや難しいこともあって、2013（平成 25）年に大高緑地で確認されるまで、愛知県では未記録であった。ただし雑草的な植物なので、注意して探索すれば他市町でも確認される可能性がある。

シダミコザサ *Sasa samaniana* Nakai var. *yoshinoi* (Koidz.) S.Suzuki form. *hidejiroana* (Koidz.) S.Suzuki (イネ科)

名古屋市産の標本をもとに記載されたミヤコザサの一型で、葉裏、節、桿鞘に毛があり、葉鞘に毛がない。愛知県では愛岐丘陵だけに分布しており、三河山地には見られない。名古屋市では守山区の東谷山上部に生育しており、ここが基準標本産地と思われる。

カラコギカエデ *Acer ginnala* Maxim. var. *aidzuense* (Franch.) K.Ogata (ムクロジ科)

湿地や沢沿いの湿潤な場所に生育する落葉性の小高木。温帯域の湿地に生育することが多いが、愛知県での生育地は濃尾平野に近い山すその水湿地に限られており、三河山地では見られない。名古屋市では 2 か所に少数株が生育しているにすぎない。そのうち荒池のものは胸高直径約 30cm の大きい個体で、果実をたくさんつけている。

コガクウツギ *Hydrangea luteo-venosa* Koidz. (アジサイ科)

近畿地方以西と伊豆半島に分布する落葉性の小低木。愛知県は 2 つの分布域をつなぐ重要な生育地である。しかし県内では、名古屋市守山区と尾張旭市、豊橋市北部に少数株が生育していたにすぎない。

以上のほか、ヘビノボラズ、クロミノニシゴリ、シマジタムラソウ、シラタマホシクサ、ウンヌケなどは、東海地方に固有の、あるいは東海地方に分布の中心を持つ植物であり、レッドリストでの評価の割に保全上の重要性が高い。また、この他に愛知県版レッドデータブックに掲載されている植物も、県全体として絶滅が危惧される状態にあるという点で、県全体としてリスト外の植物よりも相対的に保全上の重要性が高いと考えるべきである。

（芹沢俊介）

(4) 掲載種の解説

レッドリストに掲載された各植物について、種ごとに形態的な特徴や分布、市内の状況等を解説した。記述の項目、内容等は以下の凡例のとおりとした。準絶滅危惧、国・県リストの種についても、これらが目にふれる機会が多いことを考慮し、絶滅種・絶滅危惧種とほぼ同じ様式で記述した。

① 掲載種の凡例

分類群名等

対象種の分類上の位置を示す門、綱、科名等を各頁左上枠外に記述した。科の範囲、名称、配列は一部を除き、「改訂新版日本の野生植物 1～5」(大橋好ほか編、平凡社、2015～2017 年)に準拠した。

和名・学名

対象種の和名および学名を各頁上の枠内に記述した。和名および学名は大部分「改訂新版日本の野生植物 1～5」に準拠したが、一部執筆責任者の判断により、他の名称を用いたものもある。科内の配列は、学名のアルファベット順とした。

評価区分

対象種の名古屋市における評価区分を各頁右上枠内に記述した。参考として愛知県版レッドリスト(愛知県 2025)の愛知県での評価、および環境省第 5 次レッドリスト(維管束植物)(環境省 2025)の全国での評価区分も併記した。

評価理由

対象種が名古屋市において絶滅危惧の各階級と評価された理由について記述した。評価の基礎になった個体数、集団数、生育環境、人為的圧力、県西部分布の階級値、および補正を行った種についてはその理由と補正值も示した。

「国・県リスト」の種については【除外理由】として、対象種が名古屋市では絶滅危惧種と判断されなかった理由を記述した。

形態

対象種の形態の概要を記述した。この部分の記述は、特に断っていない限り全国的な資料に基づくものである。名古屋市のものが特に全国的な傾向と異なっている場合は、その点についても記述した。

分布の概要

対象種の分布状況について、市内・県内・国内・世界での概要を記述した。市内の分布は、原則として 1995 年以後に生育が記録された場所を区単位で示し、その裏付けとなる原則として最も新しい標本を、より詳細な採集地、採集者(長谷川、西部、村松、芹沢は名を省略)と標本番号、採集年月日と共に引用した。標本は、なごや生物多様性センターに収蔵されているものを優先し、次に愛知みどりの会収蔵標本を優先した。また、必要に応じて 1994 年以前に採集された標本はあるがその後確認されていない区、記録はあるが確認できない区を付記した。一部の、詳細な分布情報を公表すべきではないと判断された種については、区以下の地名表記を避けた。

標本の所在は、以下の略号で表記した。

- A : 愛知みどりの会 (AICH)
- CBM : 千葉県立中央博物館
- MAK : 首都大学東京牧野標本館
- N : なごや生物多様性センター
- TI : 東京大学総合研究博物館/理学部附属植物園
- TNS : 国立科学博物館
- CBM については、標本登録番号を併記した。

1995 年以前の記録があるが名古屋市産の標本が確認できない一部の種については、当時愛知県内で標本資料を集積できるシステムが構築されていなかったことを考慮し、現実と思われるものだけに限り文献をそのまま引用した。

市内分布図は、各区の境界を実線で表示し、自生個体群の現存が確認された、または現存の可能性が大きいと判断された区を濃色、絶滅、または絶滅の可能性が高いと判断された区を 、何ら

かの人為により移入されたと判断される外来個体群が存在する区を  で示した。

県内分布は、行政区分をもとに、200km²以上の市町村は分割して、県内（名古屋市を除く）を74に分け、区画ごとに原則として最も新しい標本を1点引用した。瀧崎吉伸氏からの情報提供による豊橋市立自然史博物館所蔵標本（芹沢は未確認）は、Tと表記した。紙面節約のため、区画名、採集者のうち上記4名に加えて小林元男氏と瀧崎吉伸氏の名、および愛知みどりの会所蔵標本については所蔵場所の表記を省略した。

生育地の環境／生態的特性

対象種の生育環境および生態的特性について記述した。

現在の生育状況／減少の要因

対象種の名古屋市における現在の生育状況、減少の要因等について記述した。

絶滅種については【過去の生育状況／絶滅の要因】として、対象種の名古屋市における過去の生育状況、絶滅の主な要因について文献、および標本調査結果に基づき記述した。

保全上の留意点

対象種を保全する上で留意すべき主な事項を記述した。

特記事項

異名、近似種との識別点、調査の際の留意事項、2024年5月公表のレッドリスト（案）と評価が異なる場合は前の評価区分と変更理由等、以上の項目で記述できなかった事項を記述した。

引用文献

記述中に引用した文献を、著者、発行年、表題、掲載頁または総頁数、発行機関とその所在地（または雑誌名と掲載巻・頁）の順に掲載した。

関連文献

対象種の理解の助けになる一般的文献を、著者、発行年、表題、掲載頁、発行機関とその所在地（または雑誌名と掲載巻・頁）の順に掲載した。

多くの種に関連する文献については、以下の略号を用いた。

保草本Ⅰ：北村四郎ほか,1957.原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ.保育社,大阪.
 保草本Ⅱ：北村四郎ほか,1961.原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ.保育社,大阪.
 保草本Ⅲ：北村四郎ほか,1964.原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ.保育社,大阪.
 保木本Ⅰ：北村四郎ほか,1971.原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ.保育社,大阪.
 保木本Ⅱ：北村四郎ほか,1979.原色日本植物図鑑 木本編Ⅱ.保育社,大阪.
 平新版1：大橋広好ほか（編）,2015.改訂新版 日本の野生植物 1.平凡社,東京.
 平新版2：大橋広好ほか（編）,2016.改訂新版 日本の野生植物 2.平凡社,東京.
 平新版3：大橋広好ほか（編）,2016.改訂新版 日本の野生植物 3.平凡社,東京.
 平新版4：大橋広好ほか（編）,2017.改訂新版 日本の野生植物 4.平凡社,東京.
 平新版5：大橋広好ほか（編）,2017.改訂新版 日本の野生植物 5.平凡社,東京.
 SOS旧版：愛知県植物誌調査会,1996.植物からのSOSー愛知県の絶滅危惧植物.同会,刈谷.
 SOS新版：愛知県自然史研究連絡会,2002.自然からのSOSーレッドデータブック愛知・植物編解説.愛知みどりの会,刈谷.

希少偶産種については、それらの種についても名古屋市内での生育状況について情報がほしいとの声が多かったことから、市内の生育状況、形態、県内・日本／世界の分布の概要、関連文献について半ページ程度で記述した。

② 執筆責任者

執筆責任者は、各種解説の末尾に、（ ）に入れて表示した。なお、ここで「執筆責任者」というのは「書かれている内容に責任を持つ者」という意味で、「文章を作成した者」という意味ではない。レッドデータブックは書く人によって内容が異なってはならないから、執筆責任者が「内容に問題がない」と判断した場合は、できるだけ過去の文章をそのまま使用することにした。他人の観察など執筆責任者が十分責任を持ってない項目は、伝聞形で表記するなどして、明確化に努めた。

維管束植物 <種子植物 被子植物 I 群 (原始被子植物) スイレン科>

ジュンサイ *Brasenia schreberi* J.F.Gmel.

評価理由

名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

浮葉性の多年生水草。根茎は底土中をはい、節から水中茎を伸ばす。浮葉は細長い葉柄の先に楕形につき、葉身は楕円形で長さ 5~15cm、幅 3~8cm、裏面は赤紫色がかかる。若芽や葉柄、葉の裏側は粘液に被われる。花期は 6~8 月、花は葉腋から伸びた長い柄の先につき、直径 1.5cm、暗褐色。がく片と花弁は 3 枚ずつ 2 列に並び、ともに長楕円形、長さ 12~14mm である。

分布の概要

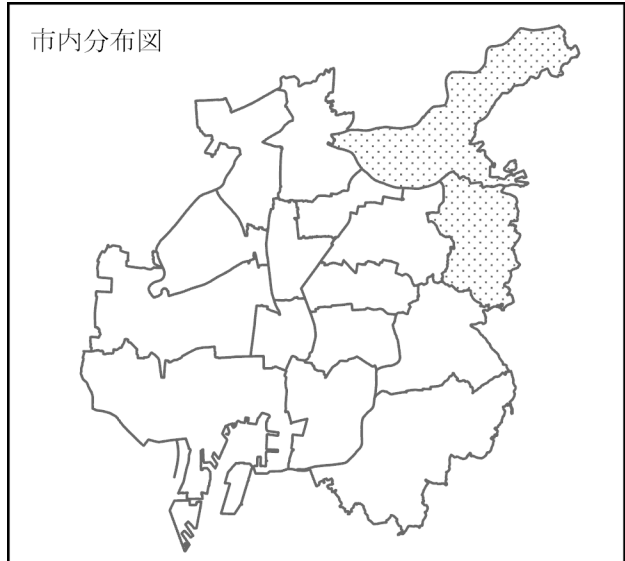
市内: 1 守山区 (上志段味東谷無名池、鈴木 淳 311, 1993-8-22, A)、2 名東区 (猪高緑地塚ノ丸池、飯尾俊介 s.n., 2009-6-28, N など) に生育していた。

県内: 丘陵部のため池に点在しており、6 (納庫、小林 19574, 1978-8-14)、11 (岩波、芹沢 56038, 1990-7-26)、23 (北一色、鈴木 淳 175, 1993-7-31)、24 (滝脇町、畑佐武司 4354, 2002-7-3)、25 (田辺町、芹沢 82206, 2007-9-10)、27 (黒笹、芹沢 62209, 1992-7-26)、32a (井ヶ谷町、加藤淳子 157, 1978 年) 37a (曾野町、鈴木 淳 128, 1993-7-28)、37b (新居町、鈴木 淳 488, 1993-10-10)、38a (愛知青少年公園、芹沢 77812, 2002-4-29)、43 (大谷、中井三従美 11, 1994-7-27)、48 (木附町、鈴木 淳 235, 1993-8-12) など確認されている。2 (宇連、加藤等次 s.n., 1968-10-5) で採集された標本もある。ただし人為的に持ち込まれた場所も多いと思われ、どこまでが真の自然分布かははっきりしない。

国内: 北海道、本州、四国、九州、琉球。

世界: 北アメリカからオーストラリア、アフリカにかけて広く分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

腐食栄養または貧〜中栄養の湖沼やため池に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

名東区 (猪高緑地塚ノ丸池) では、2011 年に行われた改修工事に伴う水位の減少によって消滅し、2012 年以降は生育を確認できなくなった。再度出現することを期待している。

保全上の留意点

生育地のため池の水質を維持するとともに、改修の際には慎重な配慮が必要である。また、水面を覆うように繁茂して本種を圧迫するスイレンの除去も必要である。

特記事項

若芽は吸い物の実や酢の物として賞味される。

関連文献

保草本 II p.250-251, 平新版 1 p.45.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.108. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド. 日本の水草 p.37. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 I 群 (原始被子植物) スイレン科>

ヒメコウホネ *Nuphar subintegerrimum* (Casp.) Makino**評価理由**

全国的にも愛知県でも減少傾向の著しい水生植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全 国 2025	絶滅危惧 IA 類

形態

浮葉性の多年生水草。地下茎は太くて白く、水底の地中を横にはう。葉は束生し、長くて中空の葉柄があり、水中葉の葉身は薄く、辺縁は波状になる。水上葉は水面に浮かぶが水位が低下すると水上に出て、葉身は広卵形、長さ 6~10cm、幅 5~8cm、やや厚く、基部は矢じり形にへこみ、表面は無毛で光沢がある。花期は 6~9 月、花柄は長く伸び、水上に出て、先端に 1 個の花をつける。花は黄色で直径 3~4cm、がく片は通常 5 枚である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味算池、村松 18170, 1998-9-13, N）、4 天白区（八事裏山、鳥居ちゑ子 646, 1994-6-18, A）、5 緑区（徳重、浜島繁隆 1080, 1968-8-30, A）に生育していた。

県内：県 RDB2020 p.102 参照。東三河、西三河、尾張に点在するが、尾張とそれに隣接する西三河の丘陵地に比較的自生地が多く、それ以外では極めて少ない。県西部では名古屋市のほかみよし、刈谷知立、瀬戸尾張旭、豊明東郷、大府東浦、東海知多、半田武豊、常滑、犬山、春日井で採集された標本があるが、いくつかの区画ではすでに絶滅していると思われる。

国内：典型的なものは、本州（関東地方～東海地方）に分布する。コウホネやオグラコウホネとの中間のような型は、本州西部や四国にも分布している。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

丘陵地の浅い池沼に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

算池は市内では最後まで残存していたが、水質の悪化に加えて東海豪雨で大きな被害を受け、絶滅した。一部の個体が尾張旭市吉賀池湿地に移植されたという話も聞くが、はっきりした記録は残されていない。天白区八事裏山では、小さい池に一面に生育していたが、急激に減少し絶滅した。森林化が進行し、水収支が崩れたこと、池が樹木に覆われて光条件が悪化したことが原因ではないかと思われるが、はっきりしない。県全体でも、ほとんどの自生地で開発が迫っていたり水質が悪化していたりして、存続が懸念される。栽培目的で盗掘されることも多い。

保全上の留意点

愛知県西部の丘陵地のため池では、一方で各種開発に伴う埋め立て、水の汚染、公園化・調整池化などの改修工事により、他方で利用停止に伴う管理放棄により、急速に生物多様性が失われている。現在良好な状態が保たれているため池は、文化遺産としての価値もあり、注意して保全する必要がある。

特記事項

典型的なものに限定すれば、全国的に見ても極めて危機的な植物である。

関連文献

保草本Ⅱp.252, 平新版Ⅰp.47, SOS 旧版 p.52+図版 21, SOS 新版 p.123.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.43. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 I 群 (原始被子植物) スイレン科>

ヒツジグサ *Nymphaea tetragona* Georgi**評価理由**

山間部のため池に多い水草で、名古屋市では過去に採集された標本があるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

浮葉性の多年生水草。太く短い地下茎から多数の葉を束生する。葉は長い柄があり、葉身は水面に浮かんで卵円形～楕円形、長さ 8～19cm、幅 5～12cm、基部は矢尻形に深く切れ込み、裏面は赤紫色である。花期は 6～9 月。花柄は長く伸び、先端に 1 個の花をつける。花は水面に浮かび、直径 3～7cm、がく片は緑色で 4 枚、花弁は白色で 8～15 枚、長楕円形、長さ 2.5～4cm、鈍頭である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味蛭池、飯尾俊介 31B, 1964-8-17, A, 下流の笥池にもあったという）、4 天白区（八事裏山、中沢 武 s.n., 1972-9-19, N）に生育していた。

県内：低山地～丘陵地に点在しており、11（長ノ山、芹沢 55872, 1990-7-8）、15（葦毛、瀧崎 11409, 1990-5-27）、23（北一色、芹沢 78048, 2002-9-4）、24（東広瀬町、芹沢 68871, 1993-10-22）、25（白山町、芹沢 61919, 1992-6-25）、27（黒笹、臼井里華 846, 1992-9-20）、28（水別、小林 53006, 1994-8-3）、32a（小堤西池、芹沢 42206, 1985-10-3）、37a（下半田川町、芹沢 78040, 2002-9-4）、38b（藤島町、半田多美子 2953, 2000-8-20）、43（大谷、中井三従美 10, 1994-7-27）、44a（奥田、相羽福松 4050, 1994-9-5）、45（今井、芹沢 95947, 2019-10-9）、48（西尾町、小林 58353, 1995-10-10）などで確認されている。ただし 27 と 32a は絶滅。他にもすでに絶滅した区画があると思われる。17（芦ヶ池、恒川敏雄 640, 1952-9-3, T）、37b（新居町、飯尾俊介 31A, 1964 年）で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：東アジアからインド、ヨーロッパにかけて分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

腐植栄養または貧～中栄養の湖沼やため池などに生育する。山間部の林に囲まれたため池に生育していることが多く、そのため愛知県全体では減少傾向はそれほど著しくない。

過去の生育状況／絶滅の要因

守山区では個体数は少なかったらしい。水の汚れにより絶滅したと思われる。天白区ではヒメコウホネと同じ池に生育していたらしいが、1990 年代はじめにはヒメコウホネのみが群生しており、ヒツジグサは見られなかった。

保全上の留意点

市内では本種の生育できそうなため池が残存しておらず、再発見は困難と思われる。

特記事項

市内にヒツジグサが現存しているという情報もいくつか寄せられたが、確認できた範囲ではすべて本来の自生ではなさそうなもの、またはスイレンであった。

関連文献

保草本 II p.251, 平新版 I p.48.

角野康郎.1994. 日本水草図鑑 p.109. 文一総合出版. 東京.

角野康郎.2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.50. 文一総合出版. 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 I 群 (原始被子植物) クスノキ科>

ダンコウバイ *Lindera obtusiloba* Blume**評価理由**

山地性の樹木で、名古屋市では生育地も個体数もきわめて少なかった。最近の調査では現存を確認できず、開発により絶滅したと思われる。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の低木。高さ数 m になる。葉は互生し、長さ 1.5~3cm の柄があり、葉身は広卵形、長さ 7~15cm、幅 5~13cm、通常浅く 3 裂し、裂片は鈍頭、基部は切形~浅い心形、裏面は帯白色で、はじめ淡黄褐色の長毛を密生する。花は葉が展開する前の 3~4 月に咲き、雌雄異株、花序は散形で小花柄は長さ 12~15mm、花被片は黄色で長さ 3mm 程度である。果実は球形で直径約 8mm、秋に赤~黒色に熟す。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷、鳥居ちゑ子 2324, 2003-5-29, A）に生育していた。

県内：東三河、西三河の山地には普通にみられるが、標本は 2 (望月峠, 芹沢 101593, 2023-5-28)、3 (本郷, 芹沢 100422, 2022-7-2)、7 (岩古谷山, 芹沢 61453, 1992-5-27)、8 (大島, 小林 40110, 1992-10-24)、12 (八名井, 小林 36360, 1992-4-9)、13 (吉祥山, 小林 36671, 1992-4-21)、19 八幡 (芹沢 65680, 1993-6-1)、22 (平畑, 芹沢 65927, 1993-6-8)、23 (折平, 塚本威彦 499, 1993-5-1)、24 (東広瀬町, 芹沢 65425, 1993-5-21)、25 (猿投山, 芹沢・磯貝 37, 1984-7-24) など、蓄積がやや不十分である。6 (段戸山, 恒川敏雄 1020, 1961-8-10, T) で採集された標本もある。尾張では名古屋市のほか、37a (片草町, 芹沢 92044, 2017-5-16)、38a (前熊, 半田多美子 1540, 1994-5-15) など確認されている。

国内：本州（関東地方および新潟県以西）、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島南部、中国大陸東北部。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地の落葉広葉樹二次林の構成種である。

過去の生育状況／絶滅の要因

道沿いに残存した林に 1 株だけ生育していたという。

保全上の留意点

生育地の地形を保全することが必要であった。

特記事項

「こんな植物が？」と思われる絶滅種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。1 株しかなかったようだが、開花するまで生長した個体だったので、定着していたと判断する。

関連文献

保木本 II p.189, 平新版 I p.84.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) トチカガミ科>

スブタ *Blyxa echinosperma* (Clarke) Hook. fil.

評価理由

全国的に減少傾向の著しい水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全 国 2025	絶滅危惧 II 類

形態

沈水性の 1 年生草本。茎は短く、多数の葉を束生する。葉は線形、長さ 10~30cm、幅 5~8mm、先はしだいに細くなり、辺縁に細かい鋸歯がある。花期は 7~10 月、花は葉の間に束生し、両性、円筒形で長さ 4~5cm の苞鞘があり、花弁は 3 個で白色、狭線形、長さ約 13mm である。種子は楕円形~紡錘形、長さ 1.5~2mm、両端に長いものでは 15mm に達する尾状突起があり、表面には細かい突起が散在する。

分布の概要

市内：1 守山区（守山町小幡、井波一雄 s.n., 1932-10-1, CBM222823, 種子の突起はごく短い）、4 天白区（八事、井波一雄 s.n., 1949-9-11, CBM145658）、5 緑区（徳重、浜島繁隆 s.n., 1968-8-30, A）に生育していた。

県内：県 RDB2020 p.107 参照。名古屋市のほか、豊川、豊橋南部、岡崎南部、刈谷知立、瀬戸尾張旭、長久手日進、春日井で確認されている。ただし刈谷知立は絶滅。このほか新城、蒲郡御津、豊橋北部、田原で採集された標本もある。かつては名古屋周辺の丘陵地のあちこちにあったという話も聞くが、資料はほとんど残されていない。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島、台湾、中国大陆、インドシナ半島、インド、マレーシア、オーストラリア。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

水のきれいなため池、谷戸田、その周辺の水路などに生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

詳細は不明である。開発により生育できる環境がなくなり、絶滅したものと思われる。

保全上の留意点

市内では本種が生育できそうな環境がほとんど残存しておらず、再発見は困難と思われる。

関連文献

保草Ⅲ p.395-396, 平新版 1 p.119, SOS 旧版 p.89, SOS 新版 p.126.

角野康郎.1994. 日本水草図鑑 p.24. 文一総合出版. 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.86. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) トチカガミ科>

ホッスモ *Najas graminea* Del.**評価理由**

名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。愛知県全体では比較的多く生育していたが、近年減少傾向にある。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

沈水性の1年生草本。茎は細くよく分岐し、下部の節から根を出す。葉は3輪生状、基部は短く葉鞘となり、葉鞘の上端は耳状に突出する。葉身は針形、長さ1.5~2.5cm、辺縁の鋸歯は低く小さい。花期は7~9月、雄花にも雌花にも苞鞘がなく裸出する。果実は通常1節に1個つく。種子は長楕円形、長さ約2mm、表面に不明瞭な細かい四角形の網目がある。

分布の概要

市内：5緑区(徳重、浜島繁隆 s.n., 1968-8-30)に生育していた。3千種区の水田(標本：田代町鹿子殿、滝川正子 2, 2014-9-29, N)で出現したという報告もある(小菅・寺本 2017)が、同所にムサシモ、イトトリゲモ、トリゲモ sp.も生育しており、水田造成時に使用した土に種子が入っていたと思われる。

県内：トリゲモ類の中では最も多かった種類で、低山地~丘陵地に点在しており、3(本郷、小林 53094, 1994-8-7)、4(能知、村松 21871, 2003-8-24)、9(竹ノ輪、芹沢 59267, 1991-7-24)、12(川路、小林 53187, 1994-8-18)、13(千両町、芹沢 76245, 1999-8-30)、20(中立、塚本威彦 1949, 1996-6-30)、21(下山田代町、芹沢 89531, 2014-8-28)、23(北一色、芹沢 78043, 2002-9-4)、24(上高町、村松 25297, 2010-8-19)、30(桑谷町、芹沢 78056, 2002-9-10)、32a(井ヶ谷町、芹沢 42208, 1985-10-3)、36(西幡豆、芹沢 71125, 1994-9-24)、37a(海上町、芹沢 82045, 2007-8-16)、38a(岩作、村松 27018, 2013-8-26)、37b(新居町、村松 21905, 2003-8-30, N)、39b(間米町、浅野守彦 2163, 2011-8-20)、42b(行人町、芹沢 76163, 1999-8-21)、43(小鈴谷、芹沢 53667, 1989-9-29)、44a(奥田、相羽福松 4049, 1994-9-5)、45(今井、芹沢 78124, 2002-9-15)、47(野口、日比野修 4956, 1999-8-23)などで確認されている。2(下黒川、加藤等次 s.n., 1968-9-22)、42a(阿久比町(鈴木國市 s.n., 1932-7-29)で採集された標本もある。

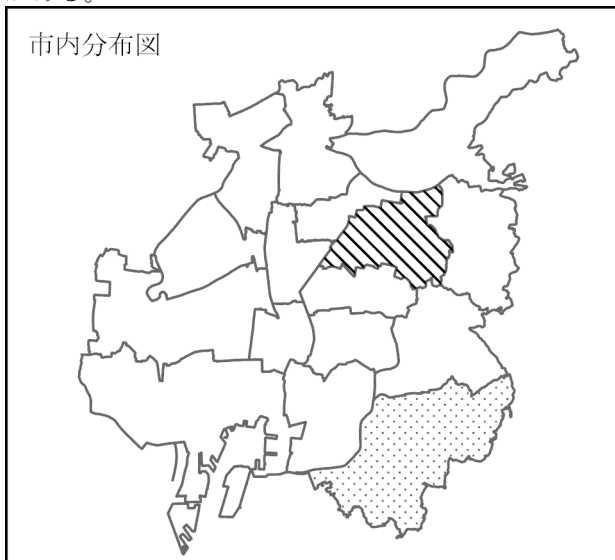
国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：アジア、ヨーロッパ、北アフリカ、オーストラリアに分布し、北アメリカに帰化している。

生育地の環境／生態的特性

谷戸田やその周辺の小水路、水のきれいなため池などに生育する。

市内分布図

**過去の生育状況／絶滅の要因**

詳細は不明である。開発により生育できる環境がなくなり、絶滅したものと思われる。

保全上の留意点

ていねいに探索すれば、再発見の可能性は残されている。

特記事項

トリゲモ類の中では最も葉縁の鋸歯が小さく、手ざわりもやわらかい。葉鞘の上端が耳状に突出するも他の種にない特徴で、これらの点に注意すれば種子がなくても同定できる。

引用文献

小菅崇之・寺本匡寛. 2017. 東山の水田における雑草調査. 平成28年度活動報告書資料編(水辺の生き物部会) 56-60. なごや生物多様性保全協議会, 名古屋.

関連文献

保草Ⅲ p.18, 平新版Ⅰ p.122

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.53. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.98. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) トチカガミ科>

コウガイモ *Vallisneria denseserrulata* (Makino) Makino**評価理由**

低地性の水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧Ⅱ類
全国 2025	—

形態

沈水性の多年生草本。茎は短く、葉を束生し、やや太くて多数の小さいとげがある走出枝を出し、栄養的に繁殖する。葉は線形、長さ 80cm に達し、先端は鈍頭～鋭頭、辺縁は全体にわたり明瞭なとげ状の鋸歯がある。花期は 8～10 月、雌雄異株、雄性の苞鞘は長さ約 1cm、中に小さい花が多数でき、花柄が切れて水面に浮き上がる。雌性の苞鞘は円筒形、柄は水深に応じて長く伸び、水面に達して 1 個の花をつける。苞鞘の柄は花後らせん状に巻く。秋に、走出枝の先端に長さ 1～3cm の殖芽をつける。

分布の概要

市内: 16 港区 (戸田川、榑原 靖 37, 1981-7-20, N) に生育していた。同日に同所でセキシウモも採集されている。上流からの流下個体は、港区藤前 (渡邊幸子 4470, 2000-9-9, A) でも採集されたことがある。

県内: 県 RDB2020 p.404 参照。県内で現存が確認できるのは、現在のところ蟹江川 (区画としては一宮東部、稲沢、あま大治、津島愛西、海部南部) だけである。濃尾平野の岐阜県側には多いところがある。

国内: 本州および九州に生育するが、関東地方と近畿地方以外では少ない。

世界: 日本および中国大陆。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

平野部の池沼や小河川に生育する。セキシウモより大きい河川に生育していることが多い。

過去の生育状況／絶滅の要因

詳細は不明。水質の汚濁により絶滅したものと思われる。

保全上の留意点

愛知県の水草は全般的に危急状態であるが、本種のような平野部に生育する水草は、特に危機的である。平野部に「めだかの学校」が見られるような澄んだ水辺を取り戻すことは、絶滅危惧種があるなしにかかわらず、重要な課題である。

特記事項

和名は、殖芽の形状が昔頭髮具として使われたこうがい に似ているからである。

関連文献

保草Ⅲ p.393, 平新版 1 p.124, SOS 旧版 p.90, SOS 新版 p.142.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.56. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.104. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) トチカガミ科>

セキショウモ *Vallisneria natans* (Lour.) H.Hara**評価理由**

平野部に多い水草。2015 年版では「おそらくは過去に名古屋市域に生育していて絶滅したと思われるが、確実な資料がない」とした植物であるが、その後市内で採集された標本が確認された。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

沈水性の多年生草本。茎は短く、葉を束生し、細くとげのない走出枝を出して栄養的に繁殖する。葉は線形、長さ 15~70cm、幅 3~7mm、先端は鈍頭~鋭頭、先端部の辺縁には小さい鋸歯があるが、中基部ではほぼ全縁となる。花期は 8~10 月、雌雄異株、雄花の苞鞘は長さ 1.2~1.5cm で短い柄があり、中に多数の花ができる。雌性の苞鞘は円筒形、柄は水深に応じて長く伸び、水面に達して 1 個の花をつける。苞鞘の柄は花後らせん状に巻く。ただし、名古屋市産の標本は花をつけていない。殖芽は分化せず、走出枝の先端部の芽が越冬する。

分布の概要

市内: 16 港区 (戸田川、榑原 靖 34, 1981-7-20, N) に生育していた。上流からの流下個体は、15 中川区 (下之一色町、高木順夫 8907, 2000-9-9, A) でも採集されたことがある。

県内: 名古屋市以外では、15 岩田町、小林 65071, 1998-9-6)、16 (牟呂町、小林 64974, 1998-8-28)、35 (細池町、芹沢 81110, 2006-10-8)、47 (西之島、福岡義洋 4729, 1999-10-11)、49c (師勝町六ツ師、福岡義洋 4776, 2000-9-10)、57b (早尾町木曾川、村松 33652, 2022-9-14, N) など確認されている。32a (井ヶ谷町、浜島繁隆 1091, 1980-8-2)、37b (新居町、飯尾俊介 s.n., 1963-9-2) で採集された標本もある。減少傾向の著しい水草であるが、西尾市や小牧市に大きい群落があるので、愛知県全体ではリスト外と評価されている。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: アジア、オーストラリア。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

平野部の池沼や小河川に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

詳細は不明。水質の汚濁により絶滅したと思われる。

保全上の留意点

コウガイモ (前頁) と同様である。

特記事項

最近増加しているコウガイセキショウモ *V. × pseudorosulata* S.Fujii et M.Maki は、葉の先端が円頭になることで容易に識別できる。

関連文献

保草本Ⅲp.392, 平新版 1 p.124.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.29, 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.105. 文一総合出版, 東京.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ユリ科>

ウバユリ *Cardiocrinum cordatum* (Thunb.) Makino**評価理由**

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下に白色の鱗茎がある。若い個体は根出葉だけであるが、開花株では中空の茎が伸長し高さ 60～100cm になる。茎葉は茎の中部に数個が集まってつき、長い柄があり、葉身は卵状楕円形、長さ 15～25cm、先端は鋭頭、基部は心形、網状脈がある。花期は 7～8 月、花は茎の先端に数個総状につき、横向きで長さ 12～17cm、先はあまり開かない。花被片は倒披針形で緑白色、内面に淡褐色の斑点がある。蒴果は楕円形、長さ 4～5cm、種子は扁平で膜があり、長さ 10～13mm である。

分布の概要

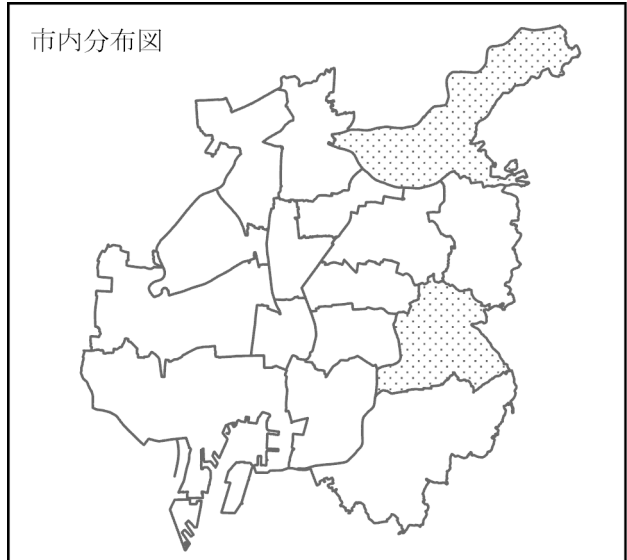
市内：4 天白区 (牧野ヶ池緑地, 渡邊幸子 4799, 2001-7-30) に生育していた。1 守山区 (翠松園) にもあったらしいが、標本資料は残されていない。

県内：東三河と西三河の山地には比較的多く、1 (大沼上, 小林 46585, 1993-8-17)、3 (三輪, 小林 53349, 1994-8-27)、4 (油戸, 小林 46640, 1993-8-19)、6 (田峯, 芹沢 67003, 1993-8-20)、7 (和市, 芹沢 66981, 1993-8-20)、9 (下吉田, 小林 46215, 1993-8-12)、10 (布里, 小林 46244, 1993-8-9)、11 (高松, 芹沢 67066, 1993-8-23)、13 (一宮町豊川, 小林 46123, 1993-8-11)、15 (嵩山町, 芹沢・芳山 140, 1984-7-27)、5 (面ノ木峠下, 鈴木 学 1653, 1983-8-7)、20 (寧比曽岳, 水野岸子 487, 1985-8-9)、21 (田折町, 芹沢 84646, 2009-8-8)、22 (樽俣, 日比野修 2491, 1994-8-16)、23 (折平, 日比野修 3053, 1995-8-12)、24 (国附町, 芹沢 67211, 1993-8-27)、28 (夏山, 福岡義洋 1003, 1990-7-30)、29 (岩戸町, 中西普佐子 1290, 1993-8-13) などで確認されている。ただしほとんどが 1990 年代に採集されたものなので、近況を再確認する必要がある。25 (猿投山, 岡本英一 252, 1958-8-18) で採集された標本もある。尾張ではやや少なく、名古屋市のほか 37a (川平町, 芹沢 56092, 1990-7-30)、44b (山海, 芹沢 102088, 2023-7-15)、45 (栗栖, 平嶋 敏 1157, 1989-9-21)、48 (外之原町, 日比野修 3018, 1995-7-29) で確認されている。

国内：本州 (宮城県・石川県以西)、四国、九州。

世界：日本固有種。変種のオオウバユリは全体に大型で、花はやや小さく多数つき、千島列島南部、サハリンから東北日本にかけて分布している。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地の平坦な林床に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

天白区では牧野ヶ池緑地の中に 1 株生育していたという。守山区では丘陵地の中に建てられた人家のわきに小群落があったが、毎年開花する前に草刈りされ、標本を採取できなかったと聞いている。どちらの場所も近年見られなくなったが、まだどこかに残存している可能性はある。

保全上の留意点

生育地の地形と林を保全することが必要である。

特記事項

和名は姥百合で、花期に葉が枯れてなくなるのを「歯がない」にかけたからである。

関連文献

保草本Ⅲp.126, 平新版 1 p.168.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

ツチアケビ *Cyrtosia septentrionalis* (Rchb.f.) Garay**評価理由**

林内に生育する腐生植物で、名古屋市では過去に生育していたという記録があるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

腐生の多年生草本。地下茎は太く、横にはい、大型の鱗片葉をつける。地上茎は直立し、高さ 40～80 cm、褐色で多くの枝を出し、各枝は更に分枝して多数の花をつける。茎の上部や枝には、褐色の短毛が密生する。花期は 6～7 月、花は淡褐色で半開し、苞は披針形、長さ 4～6mm である。がく片と側花弁はほぼ同形、長楕円形で長さ 15～20mm、唇弁は広卵形で側花弁より短く、肉質、辺縁は細かく裂ける。果実はソーセージ状で長さ 6～10cm、秋に赤く熟し、著しく目立つ。

分布の概要

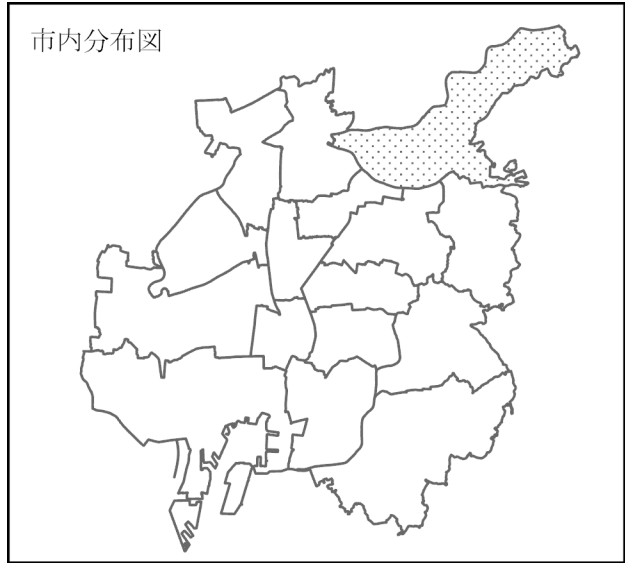
市内：「(1 守山区) 上志段味の麓のコナラ林の腐植土上に確認」と報告されている (中部植生研究グループ 1992)。果実の写真も掲載されているが、撮影データは示されていない。

県内：東三河、西三河の山地には点在しており、2 (茶臼山, 芹沢 81933, 2007-8-4)、3 (古戸, 小林 38370, 1992-7-25)、4 (東山, 芹沢 93119, 2017-9-2)、6 (段戸山裏谷, 芹沢 104322, 2024-9-7)、7 (小松, 芹沢 98181, 2021-7-3)、10 (塩瀬, 小林 46369, 1993-8-9)、12 (本宮山, 小林 39577, 1992-9-20)、19 (駒山, 芹沢 62180, 1992-7-25)、20 (大河原, 新井文子 908, 1994-8-3)、21 (田平沢, 長谷川朋美 549, 1992-7-13)、22 (田代, 日比野修 2353, 1994-7-11)、23 (白川, 日比野修 478, 1992-7-9)、24 (山中町, 山崎玲子 535, 1993-7-6)、25 (広幡町, 畑佐武司 4392, 2002-7-5)、28 (鳥川, 福岡義洋 656, 1990-6-2)、29 (蔵沢町, 中西普佐子 1337, 1993-8-28) など確認されている。尾張では少なく、37a (海上町, 芹沢 81734, 2007-7-7)、48 (廻間町, 山田果与乃 1253, 2005-6-18) で確認されているだけである。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地の林内や林縁に生育する。落葉樹林内に多いが、造林地やネザサ群落の中に生育することもある。

過去の生育状況／絶滅の要因

詳細は不明である。個体数は少なかったものと思われる。

保全上の留意点

本種のような生育密度の低い種を保全するためには、森林環境を全体として保全する必要がある。

特記事項

現存が確認できないため「絶滅」と判定したが、里山の森林化が進行しているので、どこかで再発見される可能性はある。更に注意して探索する必要がある。

引用文献

中部植生研究グループ. 1992. 名古屋市の植生自然度及び自然保護に関する調査報告 p.125. 名古屋市環境保全局.

関連文献

保草本Ⅲp.24, 平新版 1 p.194.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

サワラン *Eleorchis japonica* (A.Gray) F.Maek.**評価理由**

貧栄養の湿地に生育する植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全国 2025	—

形態

多年生草本。卵状の偽球茎がある。茎は細く、直立して高さ 15~30cm、基部近くに 2 個の鞘状葉がある。葉は 1 個につき、広葉樹ではほぼ直立し、長さ 6~15cm、幅 4~8mm、縦の脈が目立ち、先端は鋭頭、基部は鞘となって茎をつつむ。花期は 7 月、花は茎の先端に通常 1 個つき、紅紫色で横向きに半開し、苞は三角形、長さ 2~3mm である。がく片と側花弁は倒披針形で、長さ 2~2.5cm、先端は鈍~鋭頭、唇弁は倒卵状楕円形、他の花被片とはほぼ同長、先端で浅く 3 裂し、中裂片には縦の隆起線がある。

分布の概要

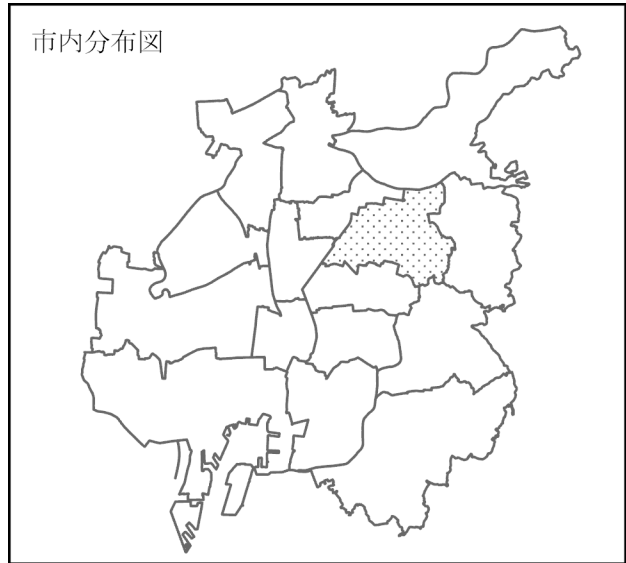
市内: 3 千種区 (東山, 井波一雄 s.n., 1958-6-13, CBM195368) で採集された標本がある。

県内: 県 RDB2020 p.116 参照。東三河と西三河の 4 区画で確認されている。

国内: 北海道、本州中部以北。

世界: 南千島、日本。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

日当たりのよい貧栄養の湿地に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

標本はよく発育した立派な個体である。愛知県では園芸目的の採取により激減しており、名古屋市でもおそらくは園芸目的の採取により絶滅したものと思われる。

保全上の留意点

注目度の高い植物だけに、市内に未知の自生地が残存していることはほとんど期待できない。自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題である。

特記事項

アサヒランとも呼ばれる。

関連文献

保草本Ⅲp.393, 平新版 1 p.197, SOS 旧版 p.90, SOS 新版 p.1422.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

ミズトンボ *Habenaria sagittifera* Rchb.f.

評価理由

全国的に減少傾向の著しい湿地性植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧Ⅱ類
全国 2025	準絶滅危惧

形態

多年生草本。楕円形で長さ 1~2cm の球茎がある。茎は 3 稜があり、直立して高さ 40~70cm、時には 150cm 近くになる。葉は茎の下半分につき、鞘状のものを除いて数個が互生し、葉身は線形、長さ 5~20cm、幅 3~6mm、先端は長くとり、基部は茎を抱いて葉鞘となる。上部の葉は小さく、鱗片状になる。花期は 7~9 月、花は茎の上部にやや多数が穂状につき、直径 8~10mm で淡緑色、苞は線状披針形、長さ 8~15mm である。背がく片は円心形、長さ約 4mm、側がく片は長さ約 5mm、幅約 6mm、側花弁は斜卵形で、背がく片と並んで立つ。唇弁は長さ 1.5~2cm、3 裂して十字形となり、側裂片は上を向く。距は下垂し、長さ約 15mm、先端は球状にふくらむ。

分布の概要

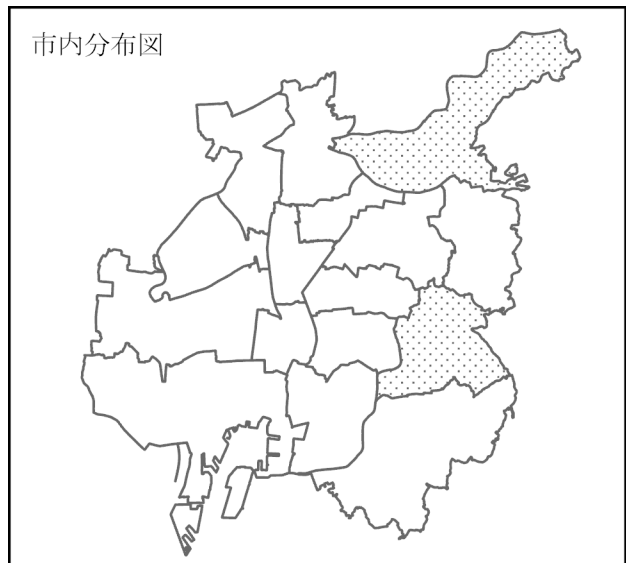
市内：1 守山区（上志段味蛭池、飯尾俊介 36, 1964-8-22, A）と 4 天白区？（平針~白土~天白、稲垣貫一 s.n., 1947-8, CBM101191）で採集された標本がある。近年東谷山で見たという話も聞くが、裏付けとなる標本が確認できない。

県内：県 RDB2020 p.416 参照。東三河の 2 カ所、西三河の数カ所、尾張の 1 カ所で生育が確認されている。

国内：北海道南部、本州、四国、九州。

世界：日本および中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

丘陵地~山地の湿地に生育する。谷戸の休耕田に生育することもある。日あたりのよい場所に多いが、林縁部にも生育している。

過去の生育状況／絶滅の要因

蛭池では池岸の湿地に数十株生育していたが、次第に減少し、最終的には大村池の水の落ち口の改修により絶滅したという。

保全上の留意点

再発見の可能性は残されている。

特記事項

和名は、湿地に生育し、唇弁の形状がトンボに似ているからである。

関連文献

保草本Ⅲp.8, 平新版 1 p.206, SOS 新版 p.111.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

トキソウ *Pogonia japonica* Rchb.f.

評価理由

貧栄養の湿地に生育する植物で、園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。名古屋市でも過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全国 2025	準絶滅危惧

形態

多年生草本。地下茎は細くてやや硬く、長く横にはう。地上茎は直立し、高さ 10~30cm になる。葉は茎の中部に 1 個つき、無柄、葉身は披針形~線状長楕円形で、長さ 4~10cm、幅 7~12mm、先端は通常鋭頭、基部は次第に細まって茎に翼状に流れ、鞘をつくらない。花期は 5~7 月、花は茎の先端に 1 個つき、横向きに開いて淡紅色、苞は葉状で披針形、長さ 2~4cm である。背がく片は長楕円状倒披針形、長さ 1.5~2.5cm、幅 3~5mm、先端は鈍頭、側がく片はやや幅が狭く、側花弁は長楕円形、がく片よりやや短い。唇弁はがく片と同長、3 裂し、側裂片は 3 角形で翼状、中裂片は大きく、内面や邊緣に肉質の毛状突起が密生する。距はない。

分布の概要

市内：1 守山区（前池、飯尾俊介 35, 1964-6-31, A）、3 千種区（東山、犬飼 清 s.n., 1959-6-10, A）、5 緑区（滝ノ水湿地、浜島繁隆 s.n., 1971-6-20, A）で採集された標本がある。名古屋産という個体の写真は、奥山（1960）に掲載されている。

県内：県 RDB2020 p.250 参照。名古屋市以外では 15 区画で記録されているが、かなりの区画ですでに絶滅していると思われる。

国内：北海道、本州、四国、九州に分布するが、北日本に多い。

世界：千島列島、日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

日当たりのよい貧栄養の湿地に生育する。

過去の生育状況／減少の原因

滝ノ水湿地ではかなり個体数が多かったらしいが、花が美しいため集中的に乱獲され、宅地造成のため湿地が破壊される前に絶滅したと言われる。どの湿地でも、人が入れば最初に消失するのは本種である。長く横走する根茎の途中から新株を出すため、繁殖力がそれほど弱いとは思えないが、採取圧はそれをはるかに上回っている。

保全上の留意点

注目度の高い植物だけに、市内に未確認の自生地が残存していることはほとんど期待できない。本種に限らず多くのラン科植物は、園芸目的の採取により絶滅が危惧される状態に追い込まれている。販売目的の採取は言うまでもないが、個人が楽しむための採取も影響は甚大である。基本的には、国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルを問題にする必要がある。

特記事項

和名は、花色が代表的な絶滅危惧生物であるトキの羽色に似ているからである。植物の名のもとになったことからわかるように、トキもかつては普通に見られる野鳥であった。

引用文献

奥山春季. 1960. 原色日本野外植物図譜 2:pl.161. 誠文堂新光社, 東京.

関連文献

保草本 III p.25, 平新版 1 p.225, SOS 旧版 p.114.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) ラン科>

ヤマトキシソウ *Pogonia minor* (Makino) Makino**評価理由**

湿った草地に生育する小型のラン科植物で、名古屋市では過去の記録はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧II類
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下茎は細くてやや硬く、横にはう。茎は直立し、高さ10～20cmになる。葉は茎の中部に1個つき、無柄、葉身は長楕円形、長さ3～7cm、幅4～12mm、先端は鈍～鋭頭、基部は次第に細まって茎に翼状に流れ、鞘を作らない。花期は6～8月、花は茎の先端に1個つき、淡紅色～ほとんど白色、上向きでほとんど開かず、苞は葉状で披針形、長さ2～4cmである。がく片は線状倒披針形、長さ1～1.5cm、側花弁はほぼ同長であるが、やや幅が広い。唇弁は長楕円形、がく片や側花弁よりやや短くて花外に出ず、3裂するが側裂片は小型、中裂片は表面に肉質の毛状突起が密生する。距はない。

分布の概要

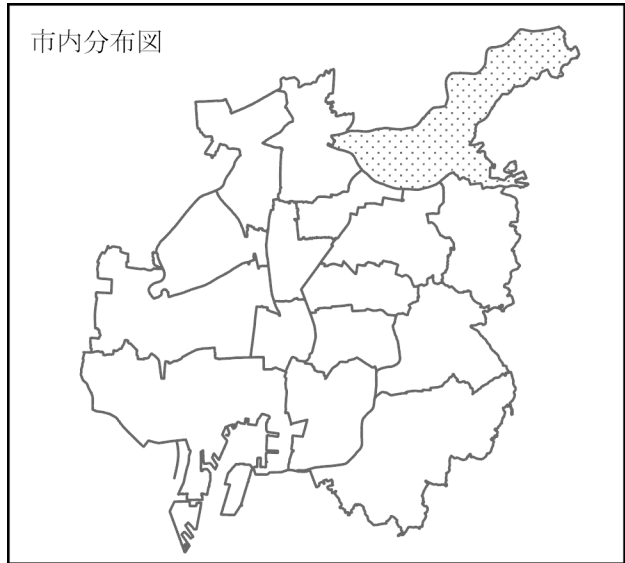
市内：市内で撮影されたという写真が、安原(1990)に掲載されている。撮影地ははっきりしないが、守山区ではないと思われる。

県内：県 RDB2020 p.426 参照。東三河の4区画、西三河の3区画、尾張の4区画で生育が確認されている。名古屋市に隣接する長久手市や尾張旭市には現在も生育している。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、台湾、朝鮮半島。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

日当たりのよい草地や湿地に生育する。愛知県では丘陵地の湧水湿地周辺、山間部の水田周辺の草地などに生育している。

過去の生育状況／減少の原因

詳細は不明である。愛知県全体では、点在するがどの場所でも個体数は少なく、丘陵地の開発、草地の利用停止に伴う大型草本の繁茂などにより、減少傾向にある。ササ類などの繁茂で絶滅した、あるいは絶滅寸前の場所もある。トキシソウほどではないが、園芸目的で採取されることもある。

保全上の留意点

再発見の可能性は皆無ではない。更に注意して探索する必要がある。

引用文献

安原修次. 1990. なごや野の花 p.65. エフエー出版, 名古屋.

関連文献

保草本Ⅲp.26, 平新版1p.225.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群(単子葉類) ラン科>

クモラン *Taeniophyllum glandulosum* Blume**評価理由**

樹枝に着生する小型の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

無葉の多年生草本。根は束生して基物上に放射状に広がり、長さ2~5cm、扁平で葉緑素を含み、灰緑色となる。茎は極めて短い。花期は6~7月、細い花柄の先に、1~4個の花を房状につける。苞は三角形で長さ約1mm、花は淡緑色、花被片は基部で合着して筒型となり、長さ約2mmである。果実は楕円形で長さ5~6mmになる。

分布の概要

市内：1 守山区（竜泉寺、井波一雄 s.n., 1935-1-3, CBM134214）で採集された標本がある。

県内：東三河と西三河の山地には点在するが、尾張では少ない。1（大谷、小林 48867, 1993-10-17）、6（三都橋、小林 45834, 1993-8-1）、7（清崎、夏目一平 27, 2009-11-26）、8（豊岡、芹沢 68788, 1993-10-17）、9（乗本、芹沢 74340, 1997-10-5）、10（椎平、芹沢 64546, 1992-11-8）、11（高松、小林 50977, 1994-5-1）、13（財賀寺、小林 60472, 1996-11-3）、15（嵩山町、小林 66710, 1999-7-17）、20（追分、鈴木万里亜 1147, 1995-10-20）、22（垂水、塚本威彦 1656, 1995-9-9）、23（北一色、塚本威彦 1439, 1995-4-25）、24（王滝溪谷、芹沢 81154, 2006-11-4）、25（猿投山、芹沢 86573, 2010-10-29）、29（蓬生町、堀田善久 260, 1991-6-9）、37a（白坂町、村松 33597, 2022-9-7, N）などで確認されている。36（三ヶ根山、小倉 s.n., 1936-8-17）で採集された標本もある。

市内分布図



国内：本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

世界：日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸、ヒマラヤ、マレーシア。

生育地の環境／生態的特性

主として山間部の集落、果樹園などの、樹幹や枝に着生する。特にウメの木に着生することが多い。

過去の生育状況／減少の原因

標本はこの種として平均的な大きさの4個体が、1枚の台紙に貼られている。空中湿度の低下などにより絶滅したのではないかと思われるが、はっきりしない。

保全上の留意点

尾張における現在の分布状況から見て、再発見は困難と思われる。

関連文献

保草本IIIp.63, 平新版 1 p.228.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) キジカクシ科>

ナルコユリ *Polygonatum falcatum* A. Gray

評価理由

山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。根茎は太く横にはう。茎は円柱形で稜はなく、無毛、上部は弓状に曲がり、高さ 50～100cm になる。葉は互生し、葉柄はごく短いかまたは無く、葉身は披針形、長さ 8～15cm、先は尾状に伸び鈍端、基部はややくさび形で、裏面脈上に小突起がある。花期は 5～6 月、花は葉腋に 3～5 個ずつつき、下垂する。花筒は緑白色で長さ 17～23mm、先端は色が濃くなる。液果は直径 8～10mm で、黒紫色に熟す。

分布の概要

市内: 4 天白区(天白町野並, 渡邊幸子 2137, 1995 リスト外 5-18, A) に生育していた。

県内: 東三河と西三河の山地には比較的多く、少ないが尾張丘陵地にも生育している。2 (上黒川, 芹沢 101605, 2023-5-28)、4 (白鳥山, 石田雄吉 499, 1979-6-17)、9 (上吉田, 小林 52146, 1994-6-14)、10 (布里, 加藤等次 1353, 1992-5-17)、12 (大原, 芹沢 61521, 1992-6-1)、13 (千両町、瀧崎吉伸 13698, 1992-8-30, T)、14 (相楽町, 鈴木美恵子 87, 1992-6-6)、15 (嵩山町, 芹沢 43979, 1986-6-3)、18 (石神, 小林 42962, 1993-5-19)、5 (大野瀬, 小林 44567, 1993-6-20)、19 (小渡, 日比野修 3436, 1996-6-8)、21 (梶, 長谷川朋美 446, 1992-6-19)、22 (田代, 日比野修 2937, 1995-6-28)、23 (北一色, 日比野修 1430, 1993-7-13)、24 (山中町, 山崎玲子 502, 1993-6-12)、25 (猿投山, 山崎玲子 1159, 1995-6-28)、28 (鳥川, 福岡義洋 568, 1990-5-15)、37a (片草町, 日比野修 2254, 1994-6-7)、44b (豊浜, 芹沢 61401, 1992-5-26)、45 (本宮山, 芹沢・松田 168, 1986-9-26) など確認されている。

国内: 本州、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地の林内に生育する。

過去の生育状況／減少の原因

相生山緑地の二次林内の道沿いに少数株が生育していたが、人の入り込みが多くなり道幅が広がって、踏みつけにより消滅したという。

保全上の留意点

自然とのふれあい活動は、それ自体が自然への負荷となる。緑地公園を利用する際には、このことを十分意識し、できるだけ負荷を減らすよう配慮する必要がある。

特記事項

花の大きいオオナルコユリ *P. macranthum* (Maxim.) Koidz. は、三河山地には点在するが、尾張では確認されていない。

関連文献

保草本Ⅲp.111-112, 平新版 1 p.259.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) ミズアオイ科>

ミズアオイ *Monochoria korsakowii* Regel et Maack**評価理由**

全国的に減少傾向の著しい低湿地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全 国 2025	準絶滅危惧

形態

1 年生草本。茎は多孔質でやわらかく、高さ 20~40cm になる。葉は根生または茎上に互生し、根出葉の柄は長く 10~30cm、茎葉の柄は短く 5~10cm、葉身は心形、長さ 5~10cm、幅 4~8.5cm、先端は鋭尖頭、基部は心形、辺縁は全縁、質は厚く、表面は深い緑色で光沢がある。花期は 9~10 月、茎の先に総状花序を作り、花は直径 1.5~3cm、花被片は 6 個で青紫色、基部まで離生し、楕円形、長さ 15mm 程度である。果実はさく果で卵状長楕円形、長さ約 10mm、先端につの状の花柱が残り、熟すと下向きになる。

分布の概要

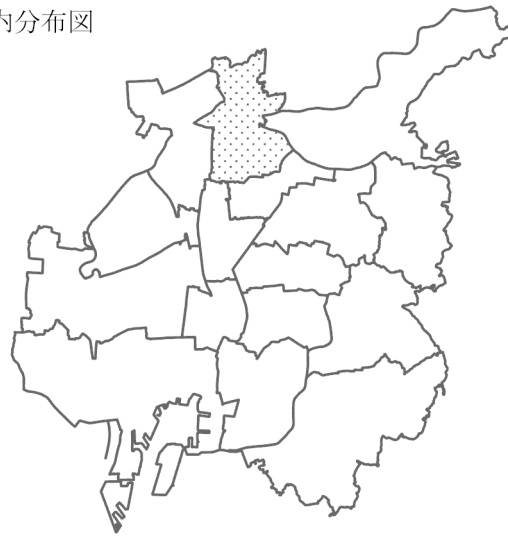
市内：12 北区(楠町、井波一雄 s.n., 1967-10-15, CBM165374)で採集された標本がある。「守山区の水田水口の泥浅水地に残る」という報告(中部植生研究グループ 1992)もある。

県内：県 RDB p.123 参照。最近では津島愛西と海部南部の木曽川河川敷攪乱地で一時的に生育したものが確認されているが、安定した生育地は知られていない。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

平野部の水路や、低湿地のやや攪乱された場所などに生育する。

過去の生育状況／減少の原因

詳細は不明であるが、水田の宅地化や水の汚染によって絶滅したものと思われる。

保全上の留意点

埋土種子集団を作る植物であるが、名古屋市では本種が生育できそうな水田そのものがなくなっており、再発見は困難と思われる。

特記事項

和名は水湿地に生育し、葉がフタバアオイに似ているからである。

引用文献

中部植生研究グループ. 1992. 名古屋市の植生自然度及び自然保護に関する調査報告 p.128. 名古屋市環境保全局.

関連文献

保草本Ⅲp.171, 平新版 1 p.270, SOS 旧版 p.96.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.60, 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.147. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ホシクサ科>

オオホシクサ *Eriocaulon buergerianum* Koernicke

評価理由

西日本系の湿地性植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。名古屋市では過去に生育していたという記録があるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全 国 2025	—

形態

1 年生草本。茎はごく短い。葉は束生して斜上し、披針状線形、長さ 8~20cm、基部で幅 5~8mm、全縁、先端は次第に細くなり、やや鈍端となる。花期は 8~10 月、花茎は多数つき、高さ 15~30cm、5~6 本の肋があって少しねじれ、先端に半球形の頭花をつける。頭花は直径約 6mm、多数の花からなり、総苞片は頭花より短く、広倒卵形、鈍頭、小花にははじめ白色の短毛があるが、後に少なくなる。子房と蒴果は 3 室である。

分布の概要

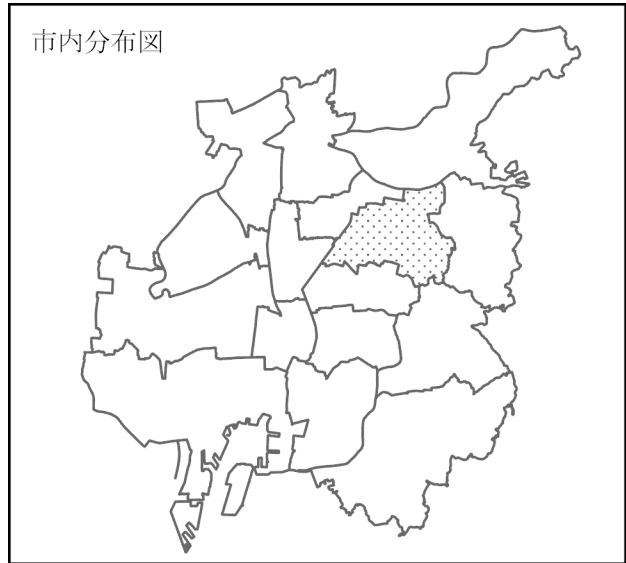
市内：井波 (1988) によれば、3 千種区池下にあったが絶滅したという。標本資料は未確認である。

県内：県 RDB2020 p.125 参照。現存する生育地は、春日井の 1 カ所だけである。ただしこの場所でも、2012 年には確認できなかった。

国内：本州 (愛知県以西)、四国、九州、琉球。

世界：日本、台湾、中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

干上がったため池の岸などの湿地に生育する。

過去の生育状況／減少の原因

詳細は不明である。都市化の進行により絶滅したものと思われる。

保全上の留意点

再発見は困難と思われる。

特記事項

シラタマホシクサに比べ、丈が低く、葉が幅広く、頭花は白色の短毛が少なく、淡黄褐色に見える。

引用文献

井波一雄.1988. 三河や知多 (ともに愛知県) にはヌマカゼクサは生育分布しない. 植物研究集録(24):7-13.

関連文献

保草Ⅲp.183, 平新版 1 p.283, SOS 旧版 p.98, SOS 新版 p.119.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ホシクサ科>

クロホシクサ *Eriocaulon parvum* Koern.

評価理由

湿地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全国 2025	準絶滅危惧

形態

1 年生草本。茎はごく短い。葉は束生して通常ロゼット状に広がり、線形、長さ 2~4cm、幅 0.5~1.8mm、全縁、先端は細くとがる。花期は 9~10 月、花茎は多数つき、高さ 8~15cm、5~6 本の肋があつて少しねじれ、先端に球形の頭花をつける。頭花は直径 4~5mm、藍黒色、多数の花からなり、総苞片は頭花より短く、倒卵形、小花には白色の短毛がある。子房と蒴果は 3 室である。

分布の概要

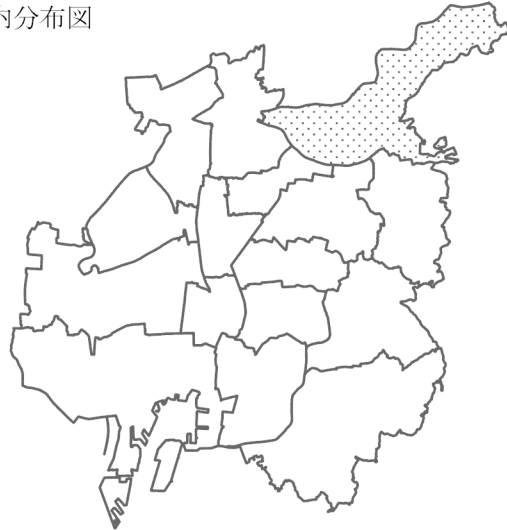
市内：1 守山区（上志段味大久手池、鳥居ちゑ子 1497, 1998-10-10）に生育していた。

県内：県 RDB2020 p.261 参照。名古屋市のほか、豊田東部と春日井で確認されている。ただし豊田東部では、貧弱な 1 個体が確認されただけである。豊川、豊橋北部で採集された標本もある。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本および朝鮮半島。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

ため池の周辺や水田などの湿地に生育する。名古屋市の生育地は、干上がったため池の岸である。

過去の生育状況／減少の原因

比較的大きい群落があつたが、ため池が改修されて水が引かなくなり、絶滅したという。ただし池底に埋土種子が残存している可能性は残されている。

保全上の留意点

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物や低湿地性生物の重要な生活場所になっている。水辺環境の保全が必要である。

特記事項

ホシクサ *E. cinereum* R.Br. と混生していることが多く、全体の形状はそれによく似ているが、頭花が黒く、小花に白色の短毛がある。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 10 に掲載されている。

関連文献

保草本Ⅲp.179, 平新版 1 p.282, SOS 新版 p.119.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イグサ科>

ヌカボシソウ *Luzula plumosa* E.Mey.**評価理由**

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本があるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

株になる多年生草本。葉は束生し、線形で長さ 5~15cm、幅 3~5mm、辺縁に白色の長毛がある。花茎も束生し、高さ 15~30cm、2~3 個の茎葉がつく。花期は 4~5 月、茎頂の花の基部からほとんど散形状に 3~5 本の長さ 1~3cm の細い側枝を分け、その先にも花を 1 個ずつつける。側枝先端の花の基部から、更に枝を出すこともある。花被片は 6 個で披針形、長さ約 3mm、先端は鋭く尖り、中央部は褐色、辺縁は淡緑色で膜質となる。果実は卵形、長さ 3~4mm である。

分布の概要

市内：3 千種区 (覚王山, 沢井輝男 s.n., 1934-5-13, A) で採集された標本がある。

県内：1 (村境~猿ヶ鼻, 小林 41336, 1993-4-11)、2 (茶臼山, 芹沢 95343, 2019-6-8)、3 (御園, 小林 36932, 1992-5-4)、4 (面ノ木峠, 芹沢 81416, 2007-5-28)、6 (川向, 伊藤昭康 37, 1989-5-21)、5 (小田木町, 芹沢 101558, 2023-5-24)、19 (八幡, 芹沢 64990, 1993-5-11)、20 (月原, 塚本威彦 1838, 1996-4-27)、21 (平瀬, 芹沢 61345, 1992-5-23)、22 (樽俣, 日比野修 2088, 1994-5-12)、23 (三国山, 日比野修 136, 1992-4-7)、24 (国附町, 畑佐武司 3072, 2002-4-15)、28 (切山, 芹沢 60949, 1992-4-9)、37a (海上町, 塚本威彦 29, 1992-3-28)、45 (栗栖, 芹沢 51184, 1989-4-20)、48 (内津町, 山田果与乃 1967, 2013-4-29) などで確認されている。

市内分布図



国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：千島列島、サハリン、アムールからインドにかけて分布する。

生育地の環境／生態的特性

明るい林内や林縁、草地などに生育する。

過去の生育状況／減少の原因

詳細は不明だが、丘陵地の開発により消失したことは明らかである。

保全上の留意点

目立たない植物なので、ていねいに探索すれば再発見の可能性は残されている。

特記事項

和名は、花がまばらに咲く状態を糠星にたとえたものである。

関連文献

保草本Ⅲp.168, 平新版 1 p.292.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

イトハナビテンツキ *Bulbostylis densa* (Wall.) Hand.-Mazz.

評価理由

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

小さい株を作る 1 年生草本。茎は糸状で、多数束生し、高さ 10~30cm になる。葉も茎の基部に束生し、糸状で茎よりも細い。花・果季は 8~10 月、小型の株では茎の先端に 1 個の小穂をつけるだけのことがあるが、通常は散房状に 2~10 個の小穂をつけ、頂小穂は無柄、側小穂には長さ 2~5cm の柄がある。側小穂の基部から更に枝を出すこともある。苞葉は通常短く目立たないが、時に長さ 4cm くらいになる。小穂は茶褐色、広披針形で長さ 2~4mm、鱗片の先端は芒状にならない。

分布の概要

市内：3 千種区？（八事～東山の曙峠付近、稲垣貫一 s.n., 1947-4, CBM110733）で採集された標本がある。

県内：三河山地には点在するが、尾張では少ない。4（油戸，芹沢 96256, 2020-9-6）、6（東納庫，芹沢 77552, 2001-8-26）、7（八橋，小林 52948, 1994-7-30）、15（賀茂町豊川，小林 67081, 1999-9-7）、5（野入町，芹沢 86236, 2010-9-19）、19（一色，塚本威彦 743, 1993-8-24）、22（東郷町，芹沢 92610, 2017-7-1）、23（三箇，日比野修 3241, 1995-10-7）、24（松嶺町，畑佐武司 2576, 2001-10-6）、26（水源神社，畑佐武司 4874, 2002-8-29）、27（黒笹，芹沢 81097, 2006-9-27）、28（水別，小林 53057, 1994-8-6）、29（大柳町，芹沢 86114, 2010-8-22）、33（小川町矢作川，小林 67041, 1999-9-4）、37a（上本町，日比野修 1878, 1993-9-17）、39a（愛知池，芹沢 90694, 2015-10-3）、42b（平和町，清水政美 s.n., 1999-9-2）、57b（福原，山田茂貴 800, 1993-10-2）などで確認されている。3（振草，恒川敏雄 113, 1945-10-10, T）で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、台湾、朝鮮半島、中国大陆、インド。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

日当たりのよい、やや乾燥した裸地状の場所に生育する。愛知県では山道のわきなどに見られることが多い。

過去の生育状況／減少の原因

詳細は不明だが、丘陵地の開発により消失したものと思われる。

保全上の留意点

注意して探索すれば、再発見の可能性は残されている。

特記事項

和名は線香花火状の花序に因む。最近 4 天白区（平針南、中島ひろみ 642, 2024-9-1, N）で採集された標本は本種の発育不良品に似ているが、どの株も茎の先端に 1 個の小穂をつけているだけで、果実の表面には格子紋があり、花柱は有毛、柱頭は 2 岐する。どの種にあたるか、更に検討が必要である。

関連文献

保草本Ⅲp.237, 平新版 1 p.297.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

カガシラ *Diplacrum caricinum* R. Br.

評価理由

全国的に減少傾向の著しい小型の湿地性植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全 国 2025	絶滅危惧 II 類

形態

小型の 1 年生草本。根は赤褐色となる。茎は単生または基部でまばらに分枝し、高さ 5~20cm になる。葉は 5~10 個が互生し、狭披針形、長さ 1~4cm、幅 1.3~4mm、先端は鋭頭、葉鞘は短く、長さ 2~8mm である。花期は 7~10 月、花序は最下 2~3 個を除く葉の葉腋につき、小型で頭状、長さ、幅とも 2~5mm、密に小穂をつける。小穂は長さ 1.2~2mm、淡緑色、小花は単性で、花被片はない。果実は球形で直径約 0.8mm、2 個の小さい三角状卵形の鱗片に包まれ、熟すと鱗片とともに脱落する。

分布の概要

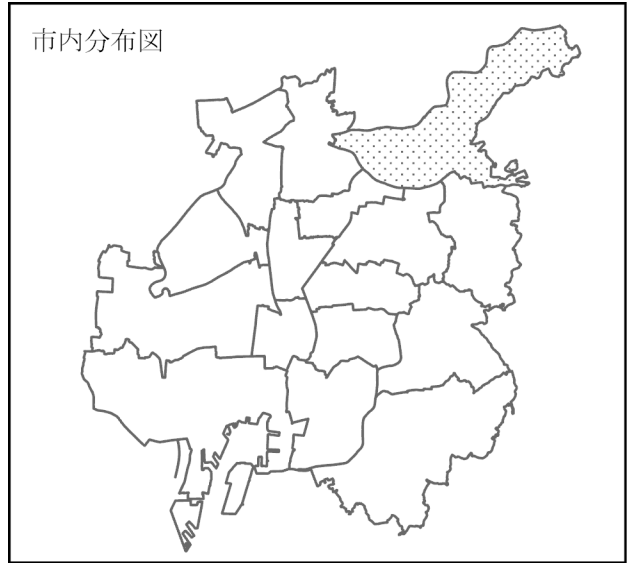
市内：1 守山区（上志段味東谷山麓、高木順夫 s.n., 1981-10-11, A; 上志段味蛭池、飯尾俊介 60, 1964 年, A）に生育していた。

県内：県 RDB2020 p.132 参照。新城、豊田東部の 2 区画で確認されている。豊川、豊橋北部、豊橋南部、藤岡、瀬戸尾張旭で採集された標本もある。

国内：本州（千葉県以西）、四国、九州、琉球。

世界：日本、台湾、マレーシア、インド、オーストラリア。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

丘陵地の湿地の、半裸地状の場所に生育する。

過去の生育状況／減少の原因

東谷山では湿地の上部に生育していたらしいが、遷移の進行により絶滅したと思われる。蛭池では池岸の湿地に群生していたという。上流にある森林公園内での農薬散布などによりため池の水質が悪化し、絶滅したと思われる。

保全上の留意点

貧栄養状態の湿地の保全が必要であった。

特記事項

再発見は困難と思われるが、小型で目立たない植物なので、調査の際には注意が必要である。

関連文献

保草本Ⅲp.254, 平新版 1 p.342, SOS 旧版 p.108.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

ミクリガヤ *Rhynchospora malasica* C.B.Clarke

評価理由

全国的に減少傾向の著しい湿地性植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全 国 2025	絶滅危惧 IA 類

形態

多年生草本、地下茎は長くはう。茎は通常丹精して直立し、高さ 40~100cm、中部に多数の葉をつけ、花序のつかない茎もやや伸長する。葉は互生し、幅広い線形、幅 5~10mm、先は長くとがり、下部は長い鞘となる。花期は 6~7 月、頭状花序は球状で直径 1.5cm、無柄、茎の上部に 2~5 個がやや離れてつく。小穂は披針形、長さ 6~7mm、黄褐色である。果実は長さ約 2mm、披針状花被片は 6 個で、長さは果実体の 2 倍程度である。

分布の概要

市内：千種区 (田代、井波一雄 s.n., 1934-10-14, CBM72362) で採集された標本がある。

県内：県 RDB2020 p.136 参照。現存が確認できるのは豊橋北部の 1 ヶ所のみである。豊橋北部の他の場所で採集された標本も残されている。

国内：本州 (東海地方以西)、九州、琉球。

世界：日本、台湾、マレーシア。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。

過去の生育状況／減少の原因

詳細は不明だが、丘陵地の開発により消失したものと思われる。

保全上の留意点

丘陵地の破壊が進行しており、再発見は困難と思われる。

特記事項

「日本の野生植物 I」152 図版には、豊橋市葦毛湿原で 1972 年に撮影された写真が掲載されている。

関連文献

保草本Ⅲp.252, 平新版 1 p.353, SOS 新版 p.107.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

シズイ *Schoenoplectus nipponicus* (Makino) Sojak**評価理由**

水のきれいなため池に生育する植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。愛知県全体でも減少傾向が著しい。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全 国 2025	—

形態

多年生草本。根茎は細く、先端に小さい塊茎をつける。地上茎は単生または少数が束生し、高さ 40～60cm、幅 2～4mm、3 稜形、下部に 3～5 個の葉をつける。葉は線形、茎よりやや短く、幅 2～3mm、平滑で、断面は三角形となる。花期は 7～10 月、花序は散房状で、枝は 2～3 本、分枝しないか 1～2 回分枝し、長いものは 4cm に達し、まばらに 5～8 個の小穂をつける。花序の基部につく苞は 1 個で、茎に続いて直立し、長さ 10～20cm、そのため花序は側生状に見える。小穂は長楕円形、長さ 1～1.7cm、幅 5～7mm、先端は鋭頭、黄褐色、鱗片は狭卵形で、長さ 4～5mm である。果実は倒卵形、レンズ状で長さ約 2mm、暗褐色で光沢はなく、刺針状花被片は果実のほぼ 2 倍の長さである。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味算池、飯尾俊介 85, 1964-8-31, A）、3 千種区（茶屋ケ坂、井波一雄 s.n., 1934-7-7, CBM71443）、5 緑区（桶狭間、稲垣貫一 s.n., 1947-6, CBM109995）で採集された標本がある。

県内：県 RDB2020 p.270 参照。津具、作手、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進の 5 区画で確認されている。ただしみよしは絶滅。このほか、新城、刈谷知立で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

丘陵地の池沼の、浅い水中に生育する。愛知県では丘陵地の奥や山間部にある小規模なため池に生育していることが多い。

過去の生育状況／減少の原因

詳細は不明である。水質の汚濁により絶滅したものと思われる。

保全上の留意点

愛知県では浅い丘陵地から山地まで見られるが、生育地は少なく、またどの場所でも個体数が少ない。市内での再発見は困難と思われる。

特記事項

テガヌマイとも呼ばれる。この名は、千葉県の手賀沼に因むものである。

関連文献

保草Ⅲ p.217, 平新版 1 p.357, SOS 旧版 p.108.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.201. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

ノグサ *Schoenus apogon* Roem. et Schult.

評価理由

湧水湿地周辺部に生育する植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全 国 2025	—

形態

1 年生草本。根茎はない。茎は束生して直立し、平滑で無毛、高さ 10~25cm になる。葉は根生するほか茎の中部にも 1~2 個つき、細い線形、幅約 0.5mm、葉鞘は長さ 1~2mm で一部赤紫色になる。花期は 6~8 月、花序は 2~3 個に分かれ、散状または頭状で、長さ幅ともに 0.8~1.5cm、数個の小穂をつける。小穂は披針形、長さ 4~6mm、扁平で一部赤褐色を帯びる。果実は球形、長さ約 1mm、白色、刺針状花被片は 6 個で、長さ約 2mm である。

分布の概要

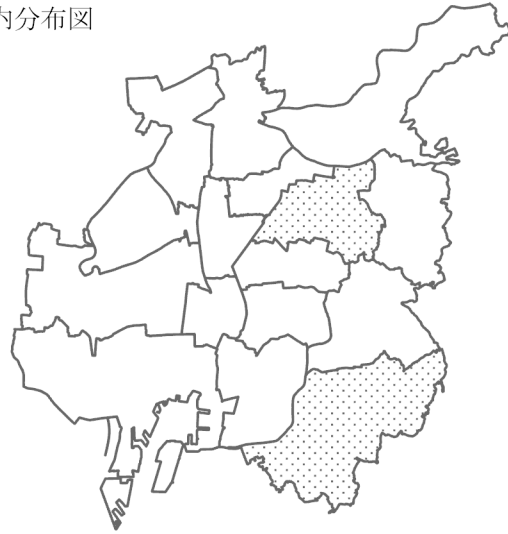
市内: 3 千種区 (東山, 井波一雄 s.n., 1940-4-30, CBM70351)、5 緑区 (鳴海町, 井波一雄 s.n., 1941-5-18, CBM70352) で採集された標本がある。

県内: 県 RDB2020 p.271 参照。豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、西尾南部、半田武豊で確認されているが、武豊の壱町田湿地以外はどこも危機的で、すでに絶滅した区画もあると思われる。

国内: 本州 (千葉県以西)、四国、九州、琉球。ただし静岡県以東のものと愛知県以西のものは、外部形態も染色体数も異なると報告されている (矢野・池田 2012)。

世界: 日本、マレーシア、オーストラリア。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

丘陵地の、日当たりのよい、やや湿った半裸地に生育する。愛知県の生育地は、西尾南部 (佐久島) 以外はいずれも湧水湿地周辺部である。

過去の生育状況／減少の原因

詳細は不明だが、丘陵地の開発により消失したものと思われる。

保全上の留意点

丘陵地の破壊が進行しているだけでなく、残存地の森林化も進行しており、再発見は困難と思われる。

特記事項

一部赤褐色を帯びる小穂が特徴である。

引用文献

矢野興一・池田博. 2012. カヤツリグサ科ノグサ属ノグサの分類学的研究. 日本植物分類学会第 11 回大会研究発表要旨集 96.

関連文献

保草本Ⅲp.251, 平新版 1 p.358, SOS 旧版 p.107, SOS 新版 p.109.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イネ科>

コウボウ *Hierochloa odorata* (L.) P.Beauv. var. *pubescens* Krylov**評価理由**

草地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。根茎は細く、長く横にはい、まばらに稈を出す。稈は直立し、高さ 20~45cm になる。葉は基部のものは線形、長さ 10~30cm、幅 2~5mm、稈上の葉は少数が互生し、披針形、長さ 1~4cm、幅 3~7mm、葉鞘には下向きの毛があり、葉舌は高さ 1.5~3mm である。花期は 4~5 月、円錐花序は広卵形、長さ 4~8cm、枝は開出し、小穂は広倒卵形、長さ幅とも 4~6mm、黄褐色で光沢がある。小花は 3 個、そのうち下の 2 個は雄性、上の 1 個は両性である。

分布の概要

市内：15 中川区(富田町供米田, 高木順夫 s.n., 1993-4-25, A) に生育していた。

県内：平野部から山地まで生育しているが、少ない。2 (御所平, 小林 36850, 1992-4-29)、5 (押山, 小林 41832, 1993-4-25)、23 (上川口, 小林 42203, 1993-5-2)、27 (黒笹, 中村裕治 265, 1994-4-12)、28 (本宮山, 芹沢 75525, 1999-5-9)、37a (鹿乗町, 日比野修 1938, 1994-4-11)、48 (岩成台, 山田果与乃 301, 1998-4-23)、54 (尾西市木曽川, 渡辺幸子 5277, 2003-4-15) など確認されている。11 (恒川敏雄 s.n., 1963-9-24, T)、33 (安城町付近, 大原準之助 1393, 1951-5-13) で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、シベリア。基準変種はヨーロッパに分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地の日当たりのよい草地や林縁に生育するが、愛知県ではしばしば河川堤防の草地に生育している。名古屋市の生育地も戸田川の堤防であった。

過去の生育状況／減少の原因

数 m の範囲に群落があった。現地の状況に大きな変化はないが、最近の確認できない。

保全上の留意点

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。堤防の改修に際しては、身近な自然の確保という観点も含めて、適切な配慮が必要である。

特記事項

和名は香茅で、乾燥すると香気があることに由来する。

関連文献

保草本Ⅲp.347, 平新版 2 p.43.

長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.268-269. 平凡社, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イネ科>

ヒナザサ *Coelachne japonica* Hack.**評価理由**

湿地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本があるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧Ⅱ類
全国 2025	準絶滅危惧

形態

小型の1年生草本。稈は細く、基部は横にはって分枝し、先は立ち上がって高さ5~20cm、節に短い毛がある。葉は互生し、葉身は披針形、長さ1~3cm、幅3~6mm、先端はとがり、基部は円形、両面とも無毛、葉鞘は節間より短く、ほとんど無毛、葉舌はない。花期は8~10月、花序は小さい円錐状で長さ1.5~3cm、枝は短く、4~20個の小穂がつく。小穂は長さ約2.5mm、淡緑色、1個の両性小花、または1個の両性小花と1個の雌性小花からなり、芒はない。

分布の概要

市内: 1 守山区 (竜泉寺丘, 稲垣貫一 s.n., 1927-9-12, CBM98748)、2 名東区 (牧野池, 井波一雄 s.n., 1949-10-2, CBM198144)、3 千種区 (東山, 井波一雄 s.n., 1940-10-7, CBM238305)、4 天白区 (天白村, 井波一雄 s.n., 1941-10-23, CBM251252)、5 緑区 (黒石, 浜島繁隆 s.n., 1969-10-10, A) で採集された標本がある。

県内: 県 RDB2020 p.451 参照。作手、新城、豊田北西部、みよし、岡崎南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、春日井で確認されている。ただしみよしは絶滅し、このほかにもすでに消滅した区画があると思われる。豊川、豊橋北部で採集された標本もある。

国内: 本州、四国、九州。

世界: 日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

丘陵地の水のきれいなため池の周辺などの湿地や、時には浅い水中に生育する。

過去の生育状況／減少の原因

緑区ではため池の岸に生育していたが、宅地造成により生育地の丘陵が崩され絶滅したという。

保全上の留意点

名古屋市では、本種が生育できそうなため池はほとんど残っていない。小型で目立たない植物であるが、再発見は困難であろう。周辺地域を含めても、本種が生育できるような生活排水が流入しない位置にあるため池は極めて少ない。良好な状態にあるため池を、一つでも多く保全することが必要である。

特記事項

愛知県全体では、管理放棄に伴うため池の消失によりなくなることも多い。瀬戸市では5カ所に生育していたが、そのうち4カ所はこれが原因で消滅した。

関連文献

保草本Ⅲp.339, 平新版 2 p.75, SOS 旧版 p.99, SOS 新版 p.114.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.656-657. 平凡社, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物<種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イネ科>

コゴメカゼクサ *Eragrostis japonica* (Thunb.) Trin.**評価理由**

全国的に見れば希少な植物ではないが、愛知県ではどういうわけか少ない。名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全 国 2025	—

形態

1 年生草本。稈は束生して小さい株をつくり、無毛、高さ 50~100cm になる。葉は叢生し、葉身は狭線形、長さ 10~20cm、幅 2~5mm、先端は細く尖り、葉鞘は無毛、葉舌は長さ約 0.5mm である。花期は 8~11 月、円錐花序は長い柱状で、直立して長さ 20~50cm、枝は多数あるが、やや短く、下部では輪生状となり、斜上またはほぼ直立して更に枝を分ける。小穂は多数つき、卵形で小さく、長さ 1~2mm、幅 1~1.2mm、淡緑色で一部紅紫色になり、3~7 個の小花をつけ、芒はない。

分布の概要

市内：3 千種区（東山、井波一雄 s.n., 1941-10-1, CBM161689, 写真は 2010 年版図版 1 図 4）で採集された標本がある。

県内：県 RDB2020 p.454 参照。1985 年以降で確認されているのは犬山の 1 カ所のみであるが、ここでも最近は見えていない。名古屋市のほか、新城で採集された標本もある。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：日本、台湾、朝鮮半島南部、中国大陸中南部、マレーシア、インド、アフリカ、オーストラリア。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

ため池の岸や水田の周辺などの湿地に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

生育地はおそらくため池の岸で、開発による埋め立て、あるいは水の汚染により絶滅したと思われる。

保全上の留意点

名古屋市東部の丘陵地に残存するため池の秋期に干上がった岸には、本種以外にもヌマカゼクサ、ヒメシロガヤツリ、ヒメガヤツリなどの希少な植物が生育している。本種の有無にかかわらず、水辺地形や水質の保全、現在行われている水管理の継続が必要である。

特記事項

和名は、小穂が小さいからである。

関連文献

保草本Ⅲp.332, 平新版 1 p.69.
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.470-471. 平凡社, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イネ科>

コメガヤ *Melica nutans* L.

評価理由

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。細い根茎があり、小さい株が集まって小群落を作る。稈は細くて直立し、高さ30～50cm、基部は紫色を帯びた葉鞘に包まれる。葉は茎の中部につき、細い線形でやわらかく、長さ5～15cm、幅2～5mmである。花期は4～5月、花序はほとんど総状になり、長さ8～15cm、数個～15個の小穂をつける。小穂は楕円形で米粒状、長さ6～8mm、白緑色で光沢があり、通常2個の完全な小花と1～2個の退化した小花をつける。包穎は膜質で周辺部は半透明になり、第一包穎は長さ3～4mm、第二包穎は長さ5～6mmで3脈、護穎は厚く、芒はない。

分布の概要

市内：3千種区？（八事～東山の曙峠付近、稲垣貫一 s.n., 1947-4, CBM110733）で採集された標本がある。

県内：丘陵地、低山地にはやや普通にみられるが、三河北部の山地にはなく、平野部にもほとんどない。10（黄柳野，芹沢 54716, 1990-4-30）、12（吉川，芹沢 58515, 1991-5-18）、13（宮路山，芹沢 77281, 2001-5-12）、14（清田町，井上美保子 709, 1993-5-16）、15（石巻萩平町，芹沢 64685, 1993-4-27）、17（赤羽根町若見，小林 41242, 1993-4-10）、18（高木，芹沢 54406, 1990-4-3）、20（上国谷，鈴木万里亜 569, 1995-5-27）、23（御作，塚本威彦 469, 1993-4-7）、24（西広瀬町，芹沢 64588, 1993-4-23）、25（篠原町，芹沢 51441, 1989-5-13）、29（丸山町，中西普佐子 508, 1993-5-1）、30（羽栗町，本多さおり 218, 1994-5-6）、31（遠望峰山，芹沢 71524, 1995-5-19）、36（東幡豆，壁谷重美子 242, 1994-4-22）、37a（海上町，芹沢 76758, 2000-6-2）、45（木曽川，佐分康之 324, 1996-5-12）、46a（木曽川，上山秀郎 253, 1993-4-17）、48（内津町，山田果与乃 1540, 2010-5-3）、53（奥町，渡辺幸子 5003, 2002-3-5）、54（富田木曽川，渡辺幸子 5283, 2003-4-15, N）などで確認されている。46c（木曽川，中西文治 345, 1980-5-5）で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：千島列島、サハリン、日本、中国大陆からヨーロッパにかけて広く分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

明るい林内や林縁、草地などに生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

詳細は不明だが、丘陵地の開発により消失したのではないかとと思われる。

保全上の留意点

再発見の可能性は皆無ではない。注意して探索する必要がある。

特記事項

和名は、楕円形のふくらんだ小穂を米粒に見立てたものである。

関連文献

保草本Ⅲp.330, 平新版 2 p.57.

長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 pp.220-221. 平凡社, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イネ科>

オオアブラスキ *Spodiopogon sibiricus* Trin.**評価理由**

山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下茎は匍匐し、鱗片でおおわれる。稈は少数が束生して直立し、高さ約 1m になる。葉は互生し、葉身は線形、長さ 15~40cm、幅 8~15mm、葉舌は高さ 1~1.5mm である。花期は 8~10 月、円錐花序は直立し、長さ 15~25cm、主軸、枝とも平滑、枝は各節から 2~数本が出て、その上部に有柄と無柄の小穂が対になってつく。小穂は柄とともに短い毛があり、長さ約 5mm、護穎は深く 2 裂し、その間からねじれた長い芒が出る。

分布の概要

市内: 5 緑区(鳴海町笹塚, 渡邊幸子 1182, 1993-8-26, A) に生育していた。

県内: 東三河には点在するが、西三河と尾張では極めて少ない。2 (上黒川, 芹沢 63324, 1992-9-9)、7 (岩古谷山, 芹沢 63043, 1992-9-4)、12 (宇利峠, 芹沢 52987, 1989-9-1)、15 (石巻萩平町, 芹沢 66848, 1993-8-6)、18 (亀山, 小林 45998, 1993-8-6)、5 (面ノ木峠, 横井邦子 353, 1993-8-29)、19 (伊熊, 芹沢 62507, 1992-8-22)、37b (新居町, 村松 33841, 2022-10-11, N)、39b (栄町, 浅野守彦 1447, 2002-8-11) などで確認されている。尾張では名古屋市とそれに隣接する尾張旭市、豊明市の愛知用水沿いに生育しているだけである。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸北部、シベリア。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地のやや乾いた明るい草地に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

愛知用水土手の草地に小群落があったが、用水の改修により絶滅したという。

保全上の留意点

尾張では希少な植物で、再発見は困難と思われる。愛知用水の改修に際して、生物多様性の保全における草地の重要性を十分意識していなかったことが絶滅の原因であり、この経験を今後の施策に生かす必要がある。

特記事項

オオアブラスキの名があるが、アブラスキと比較すればやや小型である。

関連文献

保草本Ⅲp.386, 平新版 2 p.97.

長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.664-665. 平凡社, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) メギ科>

ヒメイカリソウ *Epimedium youngianum* Fisch. et C.A.Mey.**評価理由**

名古屋市では1カ所で生育が確認されていたが、開発により消失した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。硬質の短い地下茎がある。地上茎は数本が束生し、伸長すると高さ20~40cmになる。葉は2回3出、あるいははじめ2出し、それぞれに3小葉をつけることが多いが、一定しない。小葉は卵形~卵状楕円形、長さ3~8cm、先端は通常鋭頭、基部は深い心形、少数の刺毛状の鋸歯がある。花期は4月。総状花序に数個の花をつけ、花は白色、花弁は4個で、長さ8~15mmの距がある。

分布の概要

市内: 1 守山区(吉根, 芹沢 51072, 1989-4-4, A)に生育していた。

県内: 丘陵地に点在しており、名古屋市のほか、14(西浦町, 鈴木恵美子 402, 1993-4-17)、17(蔵王山, 小林 50468, 1994-4-16)、18(高木, 芹沢 54403, 1990-4-3)、22(樽俣, 日比野修 2094, 1994-5-12)、23(木瀬, 日比野修 3134, 1995-9-9)、25(八草町, 畑佐武司 1644, 2001-4-22)、36(東幡豆, 壁谷重美子 236, 1994-4-20)、37a(曾野町, 村松 34043, 2023-4-14, N)、38b(岩崎町, 半田多美子 2470, 1997-10-18)、44b(豊浜, 芹沢 61039, 1992-4-21)、45(楽田, 芹沢 69266, 1994-5-17)、47(大山, 小林 56777, 1995-5-20)、48(細野町, 山田果与乃 23, 1993-3-30)などで確認されている。

国内: 本州西部、四国、九州。愛知県は分布域の東限にあたる。

世界: 日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

海岸近くの丘陵地の、林縁や明るい林内に生育することが多い。

過去の生育状況／絶滅の要因

10数株の小群落があったが、「保護」と称して他の場所に移植するため採取する人がいて、それによる集団の破壊が深刻であった。最終的には丘陵地の開発により絶滅した。

保全上の留意点

生育地が開発されればもちろん絶滅するが、開発されなければネザサなどに被陰されて衰退すると思われるし、管理を行えば今度は園芸目的の採取が懸念される。名古屋市に限れば手遅れだが、包括的な保護対策が必要である。自然環境下への移植は、真の保全にならないだけでなく移植先の自然状態を破壊するため、原則として行ってはならない。人為的な系統保存を行う場合は、公的機関の手で、人為的管理が行き届く場所で、しっかり記録を残して行うべきである。

特記事項

バイカイカリソウとイカリソウの交雑に起源する植物である。愛知県では28岡崎市額田地区にも生育していたが、標本を作成する前に何者かにすべて掘り取られて消失してしまった。標本はなるべくなら開花期に良好な状態のものを作りたいが、一方でこのような事態が起きると、「あった」とさえ言えなくなってしまう。

関連文献

保草本Ⅱp.202, 平新版2p.117.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）キンボウゲ科>

クサボタン *Clematis stans* Siebold et Zucc.**評価理由**

山地性の植物で、名古屋市では過去の記録があるが、現存を確認できない。愛知県内でも生育地、個体数ともに少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の半低木。茎は高さ 1m くらいになり、下部は木化して冬になっても残る。葉は対生で長柄があり、1 回 3 出複葉、小葉はほぼ卵形で 3 浅裂し、長さ 4~13cm、先端は鋭くとがり、基部はくさび形~切形、辺縁には不ぞろいなあらい鋸歯がある。花期は 7~8 月、茎の先端や葉腋に集散状の花序を作り、多数の花を下向きにつける。花は長い鐘状、長さ 1.2~2cm、がく片は 4 枚で、基部は合わさって筒状になり、先はそり返り、外面は短い白毛を密生し、内面は淡紫色である。

分布の概要

市内: 1 守山区の愛知用水沿いで撮影された写真が、安原（1990）に掲載されている。標本資料は残されていない。

県内: 県 RDB2020 p.468 参照。東栄、豊橋北部の 2 区画に、各 1 カ所生育地がある。

国内: 本州全域に分布する。四国、九州のものは、変種ツクシクサボタン *var. austrojaponensis* (Ohwi) Ohwi である。

世界: 日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

名古屋市では愛知用水沿いの草地に生育していたらしいが、一般的には林縁や崖状地に生育する。暖地では石灰岩地に多い。

過去の生育状況／絶滅の要因

1 株だけ生育していたが、愛知用水の改修により絶滅したという。

保全上の留意点

木曽川上流から水の流れに乗って偶然運ばれ、生育していたと思われる。愛知県では極めて希少な植物で、再発見は困難と思われる。愛知用水の改修に際して生物多様性の保全における草地の重要性を十分意識していなかったことが絶滅の原因であり、この経験を今後の施策に生かす必要がある。

特記事項

クサボタンの名はあるが、低木性である。希少偶産とする方が適切かもしれないが、一応木本性なので開花状態に達していたものは 1 株でも定着していたと見なし、リストに掲載した。

引用文献

安原修次. 1990. なごや野の花 p.128. エフエー出版, 名古屋.

関連文献

保草本 II p.223, 平新版 2 p.143.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) キンボウゲ科>

オキナグサ *Pulsatilla cernua* (Thunb.) Berchtold et J.Presl**評価理由**

大陸系の草地性植物。名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。全国的にも愛知県でも、草地の減少と園芸目的の採取により著しく減少している植物である。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全国 2025	準絶滅危惧

形態

多年生草本。根は太く、地中深く伸びる。根出葉は束生し、長い葉柄があり、葉身は2回羽状複葉、小葉は深裂し、さらに欠刻がある。茎ははじめ高さ10cm程度であるが、花後伸長して30~40cmになり、茎葉は3枚が輪生し、無柄、基部は多少合着し、葉身は線状の裂片に分裂する。根出葉や花茎には長い白毛がある。花期は4~5月、花は茎の先端に1個つき、鐘形で下向きに開く。がく片は6枚で長楕円形、外面は白毛で覆われ、内面は暗赤紫色。花柱は花後伸長して、果時には長さ3~4cmになる。

分布の概要

市内：1 守山区（竜泉寺、井波一雄 s.n., 1933-4-29, CBM222638）で採集された標本がある。

県内：県 RDB2020 p.141 参照。4 区画でそれぞれごく少数の株が生育していたが、いずれも最近の状況は十分確認されていない。かつては県中部の丘陵地、低山地に点在していたらしく、鳳来寺山自然科学博物館や豊橋市自然史博物館には富山、新城、豊川、豊橋北部で採集された標本が保管されている。また大原（1971）は、足助、豊田、蒲郡等も産地としてあげている。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

日当たりのよい草地に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

草地環境の消失により絶滅したものと思われる。園芸目的の採取もあったかもしれない。

保全上の留意点

市内には本種が生育できそうな環境が残存しておらず、再発見は困難と思われる。

特記事項

オキナグサの名は、果時の白い残存花柱が老人の白髪のようなからである。園芸目的の採取圧が極めて大きい植物の一つで、全国的にも人目につくところではまず残存していない。基本的には、国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題である。

引用文献

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.62. 名古屋営林局, 名古屋.

関連文献

保草本 II p.229, 平新版 2 p.154, SOS 旧版 p.50+図版 13.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）キンポウゲ科>

オトコゼリ *Ranunculus tachiroei* Franch. et Sav.**評価理由**

山間部の泥湿地に多い植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は直立し、高さ 60～100cm になり、中下部には開出する粗毛が多い。茎の基部の葉には長さ 12～30cm の柄があり、葉身は 2 回 3 出複葉で裂片はしばしば更に 2～3 裂し、長さ 7～12cm、終裂片は線状楕円形で幅 5～10mm である。上部の茎葉は次第に小さく、またほとんど無柄となる。花期は 7～8 月、花は茎の上部の枝先にまばらにつき、黄色で直径 10～15mm、花弁は 5 枚で楕円形である。果実は多数の分果が集まってほぼ球形の集合果となる。

分布の概要

市内：1 守山区（志段味、井波一雄 s.n., 1937-7-15, CBM163623）で採集された標本がある。

県内：愛知県では点在するがそれほど多くない植物で、2（茶臼山、芹沢 63240, 1992-9-9）、4（箱淵、芹沢 87291, 2011-8-27）、6（川向、芹沢 52608, 1989-8-11）、9（上吉田、小林 53050, 1994-8-5）、11（黒瀬、芹沢 49852, 1988-8-24）、5（中当、芹沢 52558, 1989-8-11）、20（四ツ松、芹沢 76880, 2000-7-16）、21（下山田代町、芹沢 104160, 2024-7-30）、22（大平、芹沢 52711, 1989-8-23）、24（林添町、山崎玲子 2716, 2002-8-13）、37a（下半田川町、芹沢 104137, 2024-7-28）などで確認されている。

国内：本州。

世界：日本、朝鮮半島。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山間部の泥質の湿地や休耕田などに生育する。湿地性の植物であるが、貧栄養の湧水湿地には生育しない。

過去の生育状況／絶滅の要因

標本はよく発達した大型の個体である。丘陵地の開発により絶滅したものと思われる。

保全上の留意点

尾張における現在の分布状況から見て、再発見は困難と思われる。

関連文献

保草本 II p.247, 平新版 2 p.161.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) ユキノシタ科>

チダケサシ *Astilbe microphylla* Knoll**評価理由**

山地の湿った草地に多い植物で、名古屋市では過去の記録はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。根茎は斜上し、地上茎は直立して高さ 50~80cm になる。葉は基部のものには長く、上部のものには短い柄があり、葉身は 2~4 回奇数羽状に分かれ、小葉は楕円形~倒卵形、長さ 2~4cm、先端は鈍頭、辺縁にはやや不ぞろいの鋭い重鋸歯がある。花期は 7~8 月。茎の先端につく細長い複総状花序に小さい花を多数つけ、花序の軸には腺毛が密生する。花弁は線状さじ形、長さ 3~5mm、淡紅色である。

分布の概要

市内: 1 守山区の愛知用水沿いで撮影された写真が、安原 (1990) に掲載されている。標本資料は残されていない。

県内: 三河山地では普通に見られる植物で、尾張にも点在しているが、平野部では見られない。2 (間黒, 加藤等次 3446, 1993-8-2)、3 (大入溪谷, 小林 61803**, 1997-7-26)、4 (白鳥山, 石田雄吉 143, 1979-8-10)、6 (川向, 芹沢 55938, 1990-7-25)、7 (和市, 芹沢 62315*, 1992-7-28; 荒尾, 芹沢 62326, 1992-7-28)、10 (玖老勢椎平, 小林 60161**, 1996-9-21)、11 (中河内, 芹沢 56014, 1990-7-26)、12 (有海, 芹沢 84422**, 2009-7-8; 庭野, 芹沢 98089*, 2021-6-26)、13 (赤塚山, 瀧崎吉伸 15008, 1994-6-29, T)、5 (三国山, 芹沢 87746*, 2012-8-10)、19 (伊熊, 村松 885, 1990-8-25)、20 (則定, 新井文子 844, 1994-7-26)、21 (花沢, 芹沢 62338, 1992-7-30)、22 (大平, 鳥居ちゑ子 47, 1992-7-26)、23 (白川, 日比野修 477, 1992-7-9)、24 (西広瀬町, 佐藤久美子 653*, 1993-7-27; 東広瀬町, 佐藤久美子 710, 1993-8-12)、25 (猿投山, 畑佐武司 354, 1999-7-24)、27 (福谷, 白井里華 630, 1992-7-31)、28 (鳥川, 福岡義洋 798, 1990-6-26)、29 (上里町, 中村さとし 518, 1993-7-8)、30 (鉢地町, 本多さおり 480*, 1994-7-7)、37a (東白坂町, 塚本威彦 2890, 2000-7-18)、38b (折戸, 半田多美子 1663, 1994-7-14)、43 (大谷, 中井三従美 59, 1996-7-27)、45 (栗栖, 平嶋 敏 762, 1989-7-17)、47 (石金, 日比野修 4893, 1999-7-11)、49c (師勝町熊之庄, 鈴木幸子 507, 1993-7-29) などで確認されている。*は白花品 (シロバナチダケサシ)、**は小葉の狭い溪岸型である。2 (大入溪谷, 加藤等次 54**, 1968-7-28)、3 (河内, 杉野文昭 s.n., 1964-7-5)、8 (棚山, 恒川敏雄 s.n., 1957-7-29, T)、13 (宮路山, 大原準之助 s.n., 1958-7-18) で採集された標本もある。

国内: 本州、四国、九州。

世界: 日本固有種。

生育地の環境/生態的特性

湿った草地や林縁に生育する。しばしば谷戸田の周辺に生育している。

過去の生育状況/絶滅の要因

詳細は不明。愛知用水の改修により絶滅したものと思われる。

保全上の留意点

県全体で見れば希少な植物ではないが、市内では里草地的な環境がほとんど残存しておらず、再発見は困難と思われる。

特記事項

和名は乳蕈刺の意味で、チダケ (白色の乳液を出すキノコの 1 種) を採りこの草の茎に刺して持ち帰ったことに由来するという。

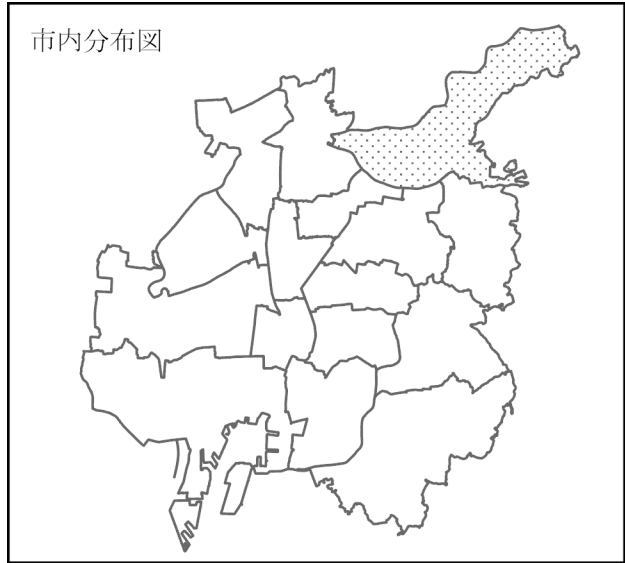
引用文献

安原修次. 1990. なごや野の花 p.93. エフエー出版, 名古屋.

関連文献

保草本 II p.148, 平新版 2 p.198.

市内分布図



(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) マメ科>

シベリアメドハギ *Lespedeza juncea* (L f.) Pers.

評価理由

大陸系の植物。名古屋市では1カ所に生育していただけで、最近の調査では生育を確認できなかった。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は直立またはやや斜上し、中上部で分枝し、やや紫色を帯び、高さ70~120cmになる。葉は互生し、下部のものには長さ1cm程度の柄があり、葉身は3出葉、頂小葉は側小葉よりやや大きく狭倒披針形~線形、長さ1~2.5cm、先は円頭または鈍頭で針状の小突起があり、基部はくさび形、裏面は圧毛がある。花期は9~10月、花は葉腋に2~4個が付き、長さ約7mm、ほとんど白色で紫条がある。がくは長さ4~5mmで5深裂し、裂片に3脈がある。通常花のほか、閉鎖花もつける。節果は扁平な広楕円形で、長さ約3mmである。

分布の概要

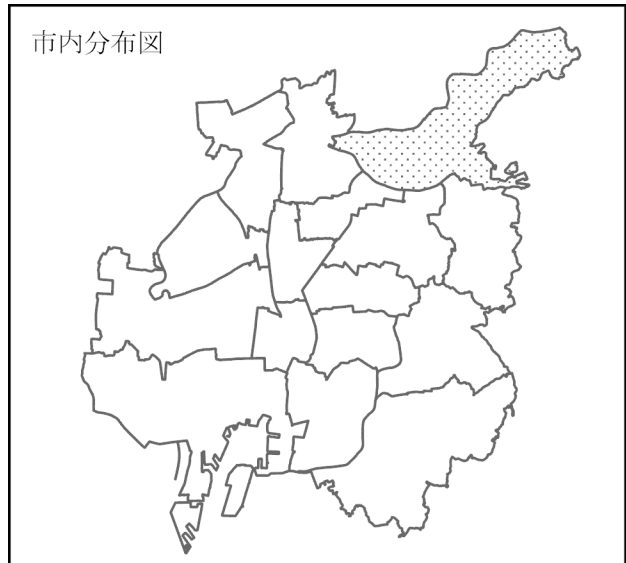
市内：1守山区(川庄内川河川敷、芹沢 77656, 2001-9-23, A)に生育していた。

県内：矢作川、庄内川、木曽川の河川敷に生育しており、名古屋市以外に19(時瀬、日比野修 1860, 1993-9-18)、22(築平、塚本威彦 1432, 1994-10-22)、35(西浅井町矢作川、芹沢 68449, 1993-10-4)、46c(木曽川、芹沢 60739, 1991-10-8)、52(光明寺木曽川、芹沢 60727, 1991-10-8)、53(尾西市木曽川、芹沢 77724, 2001-10-7)、54(祖父江町木曽川、芹沢 76366, 1999-9-18)、57b(八開村長良川、芹沢 75159, 1998-10-6)などで確認されているが、木曽川以外では少ない。37b(北山町、村松 23332b, 2006-9-16)でも採集されているが、これは明らかに移入である。

国内：本州。

世界：日本からアフガニスタンにかけて分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

日当たりのよい草地に生育する。愛知県の生育地は、ほとんどが礫の河原である。

過去の生育状況／絶滅の要因

メドハギに混じって少数株が生育していたが、2015年の調査では礫の河川敷がなくなっており、確認できなかった。出水の減少による河川敷の安定化と富栄養化によって、中流部の河川敷にも木本や高茎草本が侵入するようになり、本種が好む半裸地状の河原自体が減少している。

保全上の留意点

まだ残存している可能性は残されている。礫の河原を、適度に不安定な状態で保全することが必要である。

特記事項

メドハギ *L. cuneata* G.Don からは、茎が紫色を帯び、閉鎖花のがく裂片に3脈があることで区別される。

関連文献

保草本Ⅱp.97, 平新版2p.280.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) マメ科>

イヌハギ *Lespedeza tomentosa* (Thunb.) Siebold ex Maxim.**評価理由**

全国的に減少傾向の著しい草地性植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧Ⅱ類
全国 2025	準絶滅危惧

形態

多年生草本。高さ 60～150cm になり、全体に褐色をおびた斜上する毛がある。葉は互生し、下部の葉には長さ 2～4.5cm の柄があり、葉身は 3 出葉、頂小葉は楕円形～長楕円形、円頭、長さ 3～6cm、幅 1.5～3cm である。花期は 7～9 月、茎の先端や上部の葉腋から出た枝の先に長い総状花序をつける。花は黄白色で、多数つき、長さ 8～10mm の蝶形花、がくは 5 深裂し、長さ約 6mm である。通常花のほかに、閉鎖花が葉腋に集まってつく。豆果は卵形で、長さ 4～5mm である。

分布の概要

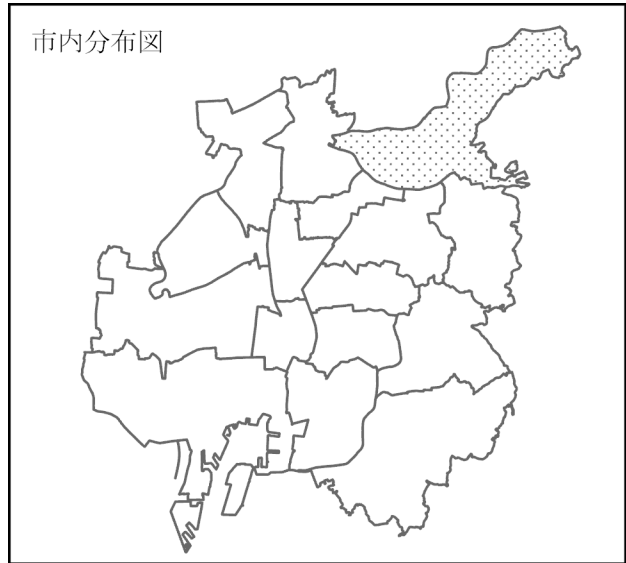
市内：1 守山区（上志段味東谷，高木順夫 8984, 2000-10-1, A; 吉根庄内川堤防，鳥居ちゑ子 2440, 2004-9-21, A）に生育していた。

県内：県 RDB2020 p.483 参照。名古屋市のほか、稲武、鳳来北西部、豊川、豊橋北部、豊田東部、西尾北部、東海知多で確認されている。ただし東海知多では絶滅した。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、インド、ヒマラヤ。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

日当たりのよい草地に生育するが、たいていはどの場所でも個体数が少なく、散在的に生育しているだけである。しばしば用水わきの草地に生育している。

過去の生育状況／絶滅の要因

どちらの場所でも 1 株確認されただけである。上志段味では、遷移の進行により低木が繁茂し、消失した。吉根ではその後確認できないようだが、生育環境は残っている。愛知県全体で見ても、採草地が利用されなくなったため、本種が生育できるような場所は著しく減少している。東海知多では愛知用水わきの草地に小群落があったが、改修工事により消滅した。

保全上の留意点

草地の保全が必要である。特に幹線水路わきの草地は多くの草地性植物の逃避場所になっており、改修工事の際には十分な配慮が必要である。

特記事項

和名は、植物体が直立し、全体に黄褐色の毛が多い状態に由来するものと思われ、おそらくネコハギに対する名である。

関連文献

保草本Ⅱp.97, 平新版 2 p.281, SOS 旧版 p.60+図版 13, SOS 新版 p.87.

(芹沢俊介)

維管束植物＜種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）バラ科＞

キジムシロ *Potentilla fragarioides* L. var. *major* Maxim.**評価理由**

愛知県では低山地～丘陵地に点在する植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。高さ 10～25cm になり、太い地下茎があるが、匍匐枝は出さない。根出葉は 5～9 小葉からなる奇数羽状複葉、葉柄や中軸には白色～淡褐色の長い開出毛が多い。小葉は楕円形、頂小葉と第 1 側小葉は長さ 1.5～4cm、幅 1～2cm、鈍頭、両面有毛、辺縁にはやや細かい鋸歯がある。茎葉は少数で通常三出葉となる。花期は 4～5 月、茎の先端に分枝した花序をつけ、直径 1.5～2cm の黄色の花を多数つける。がくは 5 裂し、裂片は狭卵形で鋭頭、副がく片はやや短く細い。花弁は 5 枚で倒卵形、先端は浅い心形になる。

分布の概要

市内：1 守山区（龍泉寺ヶ丘，稲垣貫一 s.n., 1950-4-9, CBM113646, 写真は 2010 年版図版 1 図 1）で採集された標本がある。

県内：低山地～丘陵地に点在するが、東三河北部の山地には見られず、平野部にもない。12（宇利峠北，瀧崎 12963, 1992-4-26）、13（三上町，加藤等次 4348, 1994-4-19）、14（西浦町，鈴木美恵子 389, 1993-4-17）、15（石巻萩平町，芹沢 64684, 1993-4-27）、17（笠山，芹沢 54373, 1990-4-3）、18（亀山町，芹沢 89116, 2014-4-26）、19（一色，日比野修 1962, 1994-4-21）、20（月原町，芹沢 81225, 2007-4-30）、22（市場，塚本威彦 884, 1994-4-8）、23（御作，塚本威彦 486, 1993-4-20）、24（西広瀬町，芹沢 64605, 1993-4-23）、25（広幡町，山崎玲子 733, 1994-3-21）、28（夏山，福岡義洋 79, 1990-3-25）、29（蓬生町，芹沢 65295, 1993-5-20）、31（深溝，金子律子 282, 1995-4-27）、36（東幡豆，壁谷重美子 228, 1994-4-20）、37a（上品野町，日比野修 153, 1992-4-11）、40b（緒川，渡邊麻子 302, 1995-5-13）、42a（草木，渡邊麻子 48, 1995-4-4）、43（常滑社辺，鳥居ちゑ子 2265, 2003-4-4）、44a（野間，芹沢 39601, 1984-4-26）、44b（豊浜，芹沢 61041, 1992-4-21）、45（善師野，山田果与乃 305, 1998-4-29）、48（廻間町，山田果与乃 910, 2003-4-13）などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本および朝鮮半島。種としてはシベリアや中国大陸にも分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

日当たりのよい林縁部の土手や明るい林内に生育し、時には岩場に生育することもある。

過去の生育状況／絶滅の要因

詳細は不明であるが、草地環境の消失により絶滅したと思われる。

保全上の留意点

市内のどこかで再発見できる可能性は残されている。引き続き探索が必要である。

特記事項

全国的に見れば普通種であるが、愛知県ではあまり多くない植物である。

関連文献

保草本 II p.135, 平新版 3 p.38.

（芹沢俊介）

種子植物 < 種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) バラ科 >

シモツケ *Spiraea japonica* L.f.

評価理由

草地や林縁に生える低木で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の小低木。高さ 1m 程度になる。葉は互生し、長さ 1~5 mm の柄があり、葉身は狭卵形、長さ 3~6cm、先端は鋭頭または鋭尖頭、基部は円形~くさび形、側脈は 4~8 対で、辺縁にはまばらな鋭鋸歯または欠刻状の鋸歯がある。葉面の毛の量は変異が大きい、名古屋市のものは表面が無毛、裏面は脈上に毛を散生~やや密生する。花期は 6~8 月。枝先に直径 3~10cm の複散房花序をつける。花は直径 4~6mm、紅色から淡紅色、花弁は 5 枚、広卵形~円形である。

分布の概要

市内: 4 天白区 (一ツ山, 中島ひろみ 547, 1996-6-12, A)、5 緑区 (鳴海町大清水, 岡本沙矢香 327, 2001-6-18, A) に生育していた。

県内: 県内の分布は比較的限定されており、東三河中部、岡崎周辺、および瀬戸から名古屋市にかけてに生育しているだけである。3 (明神山, 芹沢 84331**, 2009-6-27)、6 (三都橋, 小林 44073**, 1993-6-12)、7 (岩古谷山, 芹沢 61777, 1992-6-8)、9 (竹ノ輪, 芹沢 59258*, 1991-7-24)、12 (吉川峠, 芹沢 52976*, 1989-9-1; 太原, 芹沢 85898, 2010-6-20)、15 (石巻萩平町, 芹沢 66813, 1993-8-6)、28 鹿勝川, 福岡義洋 872, 1990-7-6)、31 (荻, 金子律子 760, 1995-6-22)、37a (東白坂町, 塚本威彦 1116, 1994-6-21)、38b (岩崎町, 半田多美子 2813, 1999-6-13)、39b (栄町, 浅野守彦 1300, 2002-5-19)、48 (西尾町, 太田さち子 154, 1993-6-20) など確認されている。*はほとんど無毛の型 (ケナシヒロハシモツケ)、**は逆に枝葉に毛の多い型である。

国内: 本州、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地の草地、林縁、岩場などに生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

天白区の状況は不明である。緑区では愛知用水沿いの草地に点在していたが、用水の改修により絶滅した。

保全上の留意点

愛知用水などの幹線水路わきの草地は、定期的に草刈りが行われるため遷移が進行せず、多くの草地性植物の逃避場所になっている。改修工事に際してはこれらの植物の最後の「頼みの綱」を断ち切らないよう、十分な配慮が必要である。

特記事項

和名は、下野国 (栃木県) に多かったからと言われる。

関連文献

保木本 II p.90-92, 平新版 3 p.88.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) クロウメモドキ科>

クロウメモドキ *Rhamnus japonica* Maxim. var. *deciapiens* Maxim**評価理由**

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の低木または小高木。枝はよく分枝し、先端は刺となる。葉は対生し、5～10mmの柄があり、葉身は倒卵形～倒披針形、長さ2～7cm（名古屋市のものは2.5～4.5cm）先は急尖しやや鈍端、基部はくさび形、辺縁には低い鈍鋸歯がある。側脈は3～4対で、裏面脈腋に毛がある。花期は4～5月。花は黄緑色で直径約4mm、小枝の基部の葉腋に雄花は3～6個、雌花は1～3個が束生する。果実は倒卵状球形、直径6～7mm、黒熟する。

分布の概要

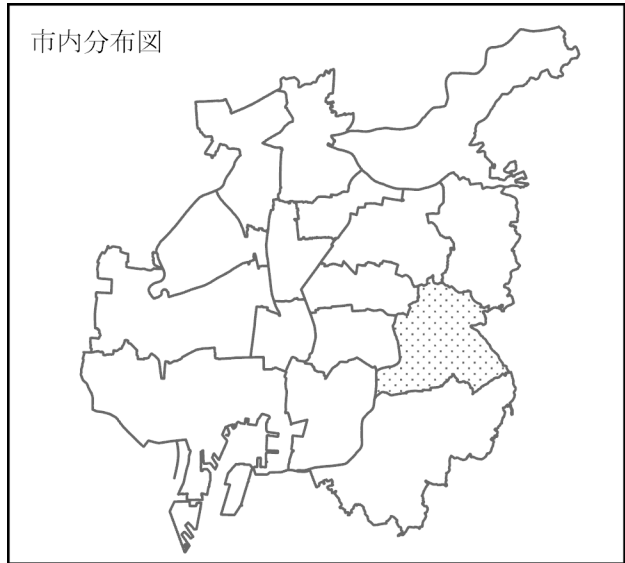
市内：4 天白区（天白町八事、犬飼 清 s.n., 1967-11-3, A）で採集された標本がある。

県内：東三河と西三河の山地に点在するが、尾張では少ない。2（佐久間湖、村松 14341, 1993-10-10）、3（三輪、芹沢 87412, 2011-9-24）、6（駒ヶ原、瀧崎吉伸 21695, 2005-7-3, T）、7（岩古谷山、芹沢 76210, 1999-8-29）、11（中河内、芹沢 87699, 2012-7-7）、12（吉祥山、小林 41593, 1993-4-22）、15（石巻西川町、芹沢 83989, 2009-5-9）、17（藤七原、芹沢 104042, 2024-6-1）、18（高木、芹沢 58204, 1991-4-29）、5（押山町、芹沢 84770, 2009-8-23）、19（坪崎、日比野修 1527, 1993-8-1）、20（御蔵、日比野修 3324, 1996-4-28）、21（下山田代町、芹沢 84462, 2009-7-14）、22（永太郎町、芹沢 92574, 2017-7-1）、23（木瀬、日比野修 1307, 1993-6-11）、25（猿投山、畑佐武司 5989, 2003-6-26）、28（雨山、小林 43236, 1993-5-25）、37a（曾野町、日比野修 5177, 2000-8-19）、45（入鹿、塚本威彦 1858, 1996-5-7）、48（外之原町、日比野修 2240, 1994-6-2）などで確認されている。葉の小さいものはコバノクロウメモドキ var. *microphylla* H.Hara と呼ばれるが、はっきり区別できるものではない。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地の林内に生育する。愛知県では点在するのみで、ほとんど群落にならない。

過去の生育状況／絶滅の要因

詳細は不明である。丘陵地の開発により消失したものと思われる。

保全上の留意点

丘陵地では稀な植物で、再発見の可能性は低いと思われるが、引き続き探索が必要である。

関連文献

保木本 I p.252, 平新版 2 p.322.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) トウダイグサ科>

タカトウダイ *Euphorbia lasiocaula* Boiss.**評価理由**

草地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は高さは 50～80 cm になる。葉は茎頂のものを除き互生し、短い柄があり、葉身は長楕円形～楕円状倒披針形、長さ 4～8 cm、幅 5～12 mm、辺縁には微細な鋸歯がある。花期は 6～7 月、花枝は茎頂に輪生する葉から通常 5 本が散形に開出するほか、葉腋からも出る。花序の下苞葉は菱状卵形で黄緑色、杯状花序の腺体は長楕円形で暗褐紫色である。さく果は直径 3.5 mm 内外で、表面にいぼ状の凸起がある。

分布の概要

市内：5 緑区 (鳴海町笹塚、武藤靖子 369, 1993-6-16, A) に生育していた。

県内：主に低山地に点在するが、それほど多いものではない。3 (下田, 小林 45410, 1993-7-18)、12 (富岡, 芹沢 55636, 1990-6-21)、13 (一宮町一宮, 小林 52408, 1994-7-1)、17 (笠山, 芹沢 52205, 1989-7-1; 姫島, 芹沢 88556*, 2013-7-14)、18 (初立ダム, 小林 44464, 1993-6-19)、5 (夏焼, 小林 47224, 1993-8-29)、19 (一色, 塚本威彦 749, 1993-8-24)、22 (五六, 塚本威彦 1141, 1994-6-26)、23 (北一色, 日比野修 1429, 1993-7-13)、24 (西広瀬町, 畑佐武司 4728, 2002-8-13)、25 (猿投町, 土場トシ子 243, 1992-9-6)、28 (雨山, 小林 45634, 1993-7-28)、37a (下半田川町, 村松 34512, 2023-7-24, N)、44b (篠島, 芹沢 71782, 1995-7-15)、46c (木曽川, 芹沢 67499, 1993-9-5) などで確認されている。*は海浜型 (ハマタカトウダイ) である。15 (石巻山, 恒川敏雄 s.n., 1963-6-23, T) で採集された標本もある。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

愛知用水わきの草地に 2～3 株生育していたが、用水の改修により絶滅したという。

保全上の留意点

市内では本種が生育できそうな環境がほとんど残存しておらず、再発見は困難と思われる。愛知用水の改修に際して、生物多様性の保全における草地の重要性を十分意識していなかったことが絶滅の原因であり、この経験を今後の施策に生かす必要がある。

特記事項

本種に限ればすでに手遅れであるが、幹線水路沿いの草地は丘陵地の生物多様性を保全する上では極めて重要な場所である。水路の改修に際しては、適切な配慮が必要である。

関連文献

保草本 II p.80, 平新版 3 p.154.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ミカンソウ科>

ヒトツバハギ *Flueggea suffruticosa* (Pall.) Baill.**評価理由**

林縁や草地に生える低木で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧Ⅱ類
全国 2025	—

形態

落葉性の低木。高さ 2~3m になる。葉は互生し、3~6mm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 4~7cm、先端は鋭頭または鈍頭、基部はくさび形、辺縁は全縁で小さく波打ち、両面無毛、表面は緑色、裏面は白色を帯びる。花期は 6~8 月。雌雄異株で、雄花は葉腋に多数束生し、雌花は葉腋に 1~5 個つく。蒴果は扁球形で、直径 4~5mm になる。

分布の概要

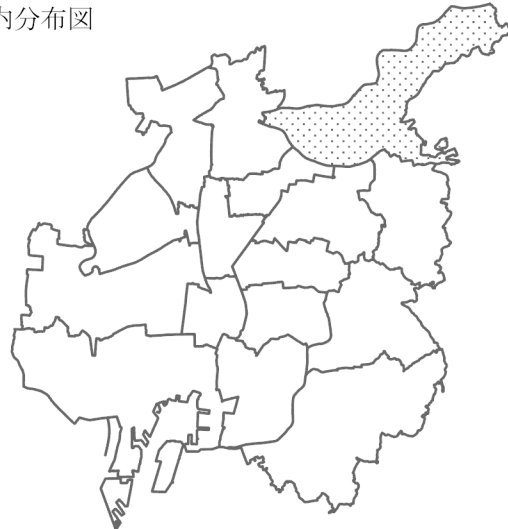
市内：1 守山区（中志段味庄内川堤防、芹沢 77892, 2002-7-1, A）に生育していた。

県内：豊橋市から渥美半島にかけてと瀬戸尾張旭から名古屋市にかけてに生育しているが、多いものではない。名古屋市以外では、15（嵩山町、芹沢 42046, 1985-9-9）、17（越戸、芹沢 78206, 2002-10-3）、18（亀山、小林 44490, 1993-6-19）、37a（鹿乗町、日比野修 5187, 2000-8-27）、48（木附町、山田果与乃 734, 2001-8-29）などで確認されている。

国内：本州（中部地方以西）、四国、九州。

世界：日本および朝鮮半島。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

丘陵地の林縁や疎林内、草地などに生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

庄内川の堤防に、少数の個体が生育していた。その後消失してしまったが、生育環境は残っている。

保全上の留意点

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。堤防の改修に際しては、身近な自然の確保という観点も含めて、適切な配慮が必要である。

特記事項

和名は、全体にハギに似ているが葉が単葉だからである。

関連文献

保木本 I p.339, 平新版 3 p.169.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ミソハギ科>

ミズスギナ *Rotala hippuris* Makino

評価理由

全国的に減少傾向が著しい低地性の水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅
全 国 2025	絶滅危惧 IA 類

形態

挺水性の多年生草本。茎の基部ははい、上部は直立して円柱状、下部から枝を分け、高さ 3~10cm になる。葉は 5~12 個輪生し、沈水葉は糸状線形、先端は短く 2 裂し、長さ 2~3cm、水上葉は線形、先端は切形で、長さ 0.5~1cm、幅 0.6~1mm である。花期は 9~10 月、花は水面上に伸びた部分の葉腋につき、無柄、白色、がく筒は鐘形で長さ約 0.6mm である。蒴果は球形で直径 1.5mm、赤色をおびる。

分布の概要

市内: 3 千種区 (旧田代村猫が洞、森貞次郎 s.n., 1906 年, TI) で採集された標本がある。

県内: 県 RDB2020 p.62 参照。名古屋市のほか東海知多と春日井で採集された標本があるが、そこでも絶滅した。

国内: 本州 (関東地方~近畿地方南部)、四国、九州に分布する。

世界: 日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

水のきれいな浅いため池に生育する。水田に生育することもあるという。

過去の生育状況／絶滅の要因

注意して探索している植物の一つであるが、名古屋市を含め愛知県では現存を確認できない。水質の汚濁が絶滅の原因と思われる。

保全上の留意点

市内で再発見される可能性はほとんどないが、愛知県全体では丘陵地のため池のどこかにまだ残存しているかもしれない。更に注意して探索する必要がある。

関連文献

保草本 II p.47, 平新版 3 p.259, SOS 旧版 p.65.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.120. 文一総合出版. 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.246. 文一総合出版. 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) ミカン科>

コクサギ *Orixa japonica* Thunb.**評価理由**

山地の沢沿いに多い植物で、名古屋市では1か所に生育していたが、開発が進み消失した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の低木。よく分枝し、高さ2~3mになり、植物全体に臭気がある。葉は伸長した枝では通常2枚ずつ交互に互生し、3~7mmの柄があり、葉身は倒卵形、長さ5~13cm、先端は鈍頭または短く尖り、基部はくさび形、辺縁にはごく低い鈍鋸歯がある。葉の裏面には、全体に毛と油点がある。花期は4~5月。雌雄異株で花は緑色、雄花は総状で長さ2~4cmの花序につき、雌花は単生する。

分布の概要

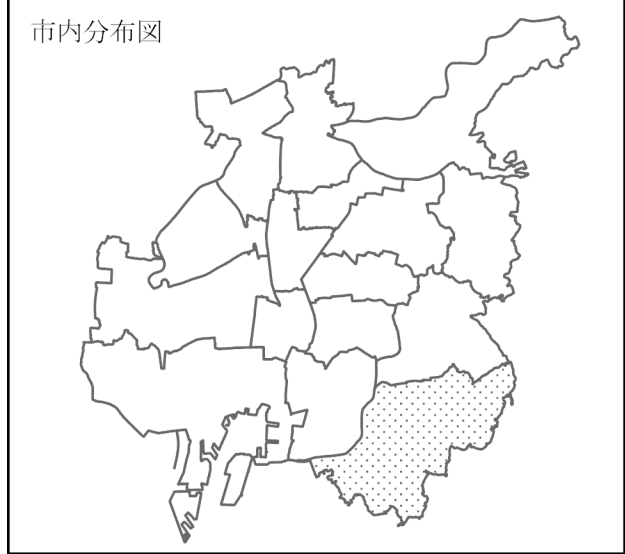
市内：5 緑区（鳴海町清水寺、渡邊幸子 5348, 2003-5-26, N）に生育していた。

県内：東三河と西三河の山地には普通に見られる植物で、尾張の丘陵地にも点在する。1（村境～猿ヶ鼻、小林 41342, 1993-4-11）、2（茶臼山、加藤等次 3008, 1993-5-24）、3（本郷、芹沢 100426, 2022-7-2）、4（天狗棚、鈴木 学 835, 1983-5-8）、7（平山、芹沢 86756, 2011-4-24）、11（保永、芹沢 64782, 1993-5-1）、12（一畝田、加藤等次 4309, 1994-4-12）、15（嵩山町、芳山朋子 460, 1984-5-2）、17（大久保町、瀧崎吉伸 25000, 2008-11-20, T）、18（若見、小林 41257, 1993-4-10）、19（駒山、芹沢 62068, 1992-6-27）、22（樽俣、日比野修 2045, 1994-5-3）、23（西市野々、塚本威彦 70, 1992-4-26）、25（猿投山、土場トシ子 125, 1992-6-21）、31（荻、金子律子 101, 1995-4-13）、33（東端町、堀田善久 5819, 1998-7-4）、36（東幡豆、壁谷恵美子 225, 1994-4-20）、37a（海上町、芹沢 75790, 1999-6-17）、45（八曽、芹沢・松田 57, 1986-4-22）、48（内津町、日比野修 2536, 1994-9-4）などで確認されているが、標本の集積はやや不十分である。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島南部、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地に多く、しばしば沢沿いの林内に群生する。

過去の生育状況／絶滅の要因

住宅地の中に1区画だけ残されたムクノキなどからなる藪状の林の中に、2m以上の株が数株、幼株はかなりの数が生育していたが、開発が進み消失した。

保全上の留意点

「こんな普通種が？」と思われる絶滅種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られるような植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。本種の場合も、市内で再度発見される可能性は低い。

特記事項

伸長した若枝では葉が2枚ずつ交互につくため、その特徴に着目すればすぐに同定できる。和名は植物体に強い臭気があり、クサギに比べて木が小さいからである。2002年11月の最初のレッドリストで絶滅としたところ、それに対して情報が寄せられ、生育が確認されたが、ここも消失してしまった。

関連文献

保木本 I p.328, 平新版 3 p.303.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) アオイ科>

ハマボウ *Hibiscus hamabo* Siebold et Zucc.**評価理由**

美しい花をつける代表的な塩湿地性植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。愛知県全体でも生育地は少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧Ⅱ類
全国 2025	—

形態

落葉性の低木または小高木。枝はよく分枝し、高さ 2~4m になる。葉は互生し、長さ 1~2cm の柄がある。葉身は円形~広卵形、長さ 4~7cm、幅 3~6cm、先端は鋭頭、基部は円形またはやや心形、葉質は厚く、辺縁には細かい鋸歯があり、裏面は星状毛が密生して灰白色となる。花期は 7~8 月、花は枝の上部の葉腋に 1 個ずつつき、淡黄色で中心部は暗赤色、直径約 5cm、花弁は 5 枚で倒卵形、先は円形で斜開し、長さ 4~5cm。果実は卵形で長さ約 3cm、褐色の毛が密生する。

分布の概要

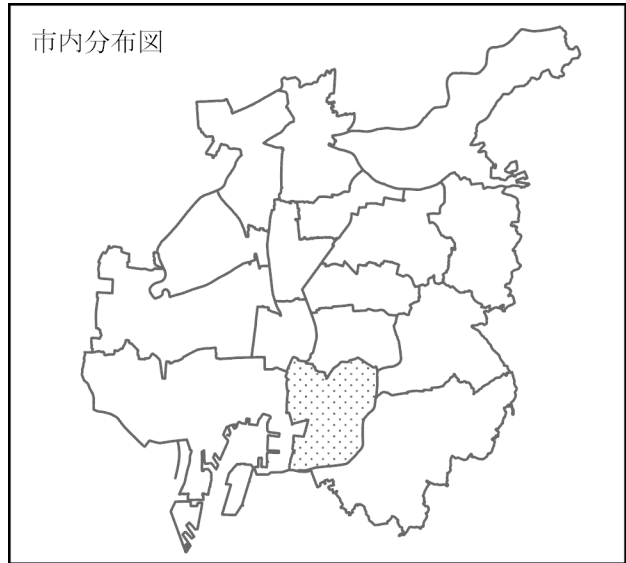
市内：11 南区（加福町貯木場跡地、高木順夫 8635, 2000-7-28, A）にやっと花をつけはじめた幼木が 1 株生育していた。

県内：県 RDB p.507 参照。豊橋南部、田原東部、田原西部、西尾北部（西奥田町矢作川、村松 35519, 2024-7-31, A）、西尾南部、美浜南知多に現存している。植栽または逸出と思われるものは、他の場所でも稀に見られる。田原市堀切の群落は、県の天然記念物に指定されている。豊橋市神野新田町にもよい群落がある。

国内：本州（関東地方南部、東海地方、紀伊半島、中国地方）、四国、九州、琉球北部（奄美大島まで）に分布する。

世界：日本および済州島。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

海岸の塩湿地に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

南区加福町の貯木場跡に幼木が 1 株あり、これが伊勢湾の愛知県側では唯一の個体であったが、やっと開花するようになった途端、一般廃棄物最終処分場建設のため埋め立てられて消滅した。

保全上の留意点

塩湿地は開発圧力の高い場所であり、特に注意して保全すべき環境の一つである。本種は海流により種子が散布されるので、多少攪乱された場所でも塩湿地状態が維持されれば、定着・生育が期待できる。加福町の個体も、そのような個体であったと思われる。

特記事項

この類としては、最も北に分布している種である。どうにか開花するまで生長していたので、一応定着していたと見なし、リストに掲載した。

関連文献

保木本 I p.229, 平新版 4 p.29, SOS 旧版 p.64, SOS 新版 p.154.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ジンチョウゲ科>

コガンピ *Diplomorpha ganpi* (Siebold et Zucc.) Nakai**評価理由**

草地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の低木。下部で多数分枝して叢生し、高さ 50~80cm になる。葉はらせん状につき、ごく短い柄があり、葉身は長楕円形、長さ 2~4.5cm、両端とも鈍頭またはやや鋭形で、全体に伏毛がある。花期は 7~9 月。多数分枝した枝先に小さい穂状花序をつけ、全体として円錐状となる。花は白色または淡紅色。がく筒は長さ 7~12mm、がく裂片は狭卵形で長さ 2~3mm である。

分布の概要

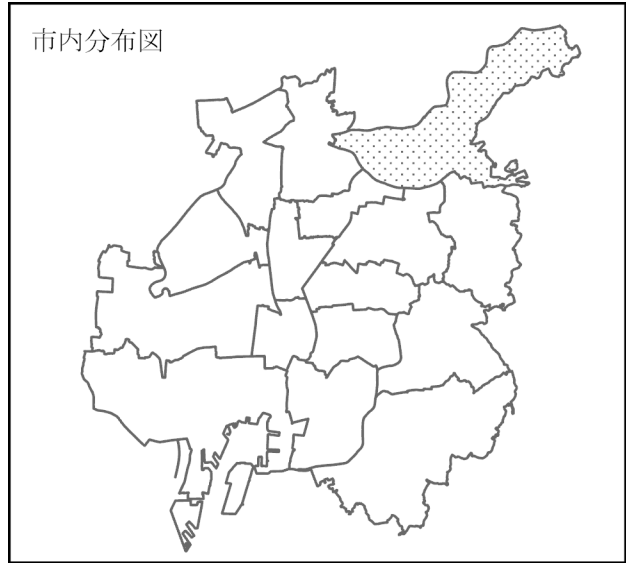
市内：1 守山区（上志段味、芹沢 52685, 1989-8-23, A）に生育していた。

県内：丘陵地に点在しており、9（乗本、芹沢 60125, 1991-8-29）、12（富岡、芹沢 52489*, 1989-7-31; 吉川、芹沢 60108, 1991-8-29）、13（一宮町東上、芹沢 66960, 1993-8-20）、14 三谷町、小林 65004, 1998-8-29）、15（石巻萩平町、芹沢 67030, 1993-8-23）、17（片西、小南藤枝 16, 1992-11-15）、18（伊川津、芹沢 59774, 1991-8-18）、24（林添町、山崎玲子 2715, 2002-8-13）、28（大代、福岡義洋 1211, 1990-8-28）、30（羽栗町、芹沢 70963, 1994-9-22）、36（鳥羽姫山、壁谷重美子 982, 1994-9-14）、43 大谷（芹沢 77037, 2000-10-8）、44a（浦戸、岡本沙矢香 368, 2001-7-18）などで確認されている。16（杉山町、恒川敏雄 s.n., 1952-8-11, T）で採集された標本もある。*は花が淡紅色の型である。尾張では愛知用水沿いに生育しているだけで、どの場所も絶滅状態である。

国内：本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球（奄美諸島）。

世界：日本および台湾。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。愛知県では、幹線水路沿いの草地に生育していることが多い。

過去の生育状況／絶滅の要因

愛知用水わきの草地に、狭い範囲であるが 20 株程度が生育しており、生育状態も良好であった。用水の改修により絶滅した。

保全上の留意点

市内では生育できそうな環境がほとんど残されておらず、再発見は困難と思われる。愛知用水の改修に際して生物多様性の保全における草地の重要性を十分意識していなかったことが絶滅の原因であり、この経験を今後の施策に生かす必要がある。

特記事項

別名イヌガンピ。樹皮の繊維は弱く、同属のガンピのように和紙の原料とはならない。

関連文献

保木本 I p.225, 平新版 4 p.40.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) タデ科>

タニソバ *Persicaria nepalensis* (Meisn.) H. Gross**評価理由**

山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

1年生草本。茎はよく分岐して斜上し、高さ10～50cmになる。葉は互生し、中下部のものには広い翼のついた長さ5～15mmの柄があり、翼の基部は茎を抱く。葉身は卵形、長さ2～7cm、先端は鋭尖形である。花期は7～10月。枝先や葉腋に頭状に多数の小花をつけ、花被は4裂し、緑色、白色または紅色、長さ2.5～3mm、そう果はレンズ形で光沢はない。

分布の概要

市内：4天白区(原天白川緑道、渡邊幸子 349, 1992-6-27, A) に生育していた。

県内：東三河、西三河の山地には普通に見られ、2(萩太郎山、芹沢 94453, 2018-9-2)、6(川向、芹沢 57060, 1990-9-13)、7(神田、芹沢 64083, 1992-10-5)、8(池場、芹沢 81627, 2007-6-27)、10(玖老勢椎平、芹沢 67810, 1993-9-17)、13(上長山～本宮山、小林 39535, 1992-9-20)、5(面ノ木峠、鈴木 学 10, 1982-9-25)、20(大河原、新井文子 45, 1993-9-28)、21(平瀬、長谷川朋美 921, 1992-9-28)、22(涼堂、塚本威彦 1129, 1994-6-22)、23(西市野々、塚本威彦 370, 1992-9-14)、25(猿投町、芹沢・磯貝 157, 1984-9-30)、28(本宮山、水野岸子 927, 1985-10-20)などで確認されているが、標本の蓄積はやや不十分である。尾張では名古屋市のほか、37a(上品野町、日比野修 846, 1992-9-19)、48(外之原町、太田さち子 501, 1993-8-13)で確認されている。3(振草、恒川敏雄 66, 1945-10-4, T)で採集された標本もある。

市内分布図



国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸から北アフリカにかけて分布する。

生育地の環境／生態的特性

山地の湿地や林内に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

天白区では、30年くらい前まではところどころに見られたらしい。最近では天白川沿いの土手に高さ10～15cmの小型の個体が数株生育していたが、堤防の整備により絶滅したという。

保全上の留意点

再発見の可能性は皆無ではない。更に注意して探索する必要がある。

特記事項

名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られるような植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

関連文献

保草本Ⅱp.307, 平新版4p.94.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) モウセンゴケ科>

ナガバノイシモチソウ *Drosera toyoakensis* M.Watanabe et Seriz.**評価理由**

東海地方に固有の食虫植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全国 2025	絶滅危惧 II 類

形態

食虫性の 1 年生草本。高さ 7~20cm になる。葉は互生し、狭線形、長さ 4~7cm、幅 1~2.5mm、先は細く糸状になり、表面に昆虫類を捕らえるための長腺毛が多い。若葉はぜんまい状に巻く。花期は 7~8 月、葉に対生して長さ 5~10cm の総状花序を出し、3~10 個の淡紅色の花をつける。花弁は 5 枚、長楕円形で長さ 6~8mm である。花の白いものはシロバナナガバノイシモチソウ *D. makinoi* Masam. である。シロバナナガバノイシモチソウを区別した場合、狭義のナガバノイシモチソウは国レベルでも絶滅危惧 IA 類になるはずである。

分布の概要

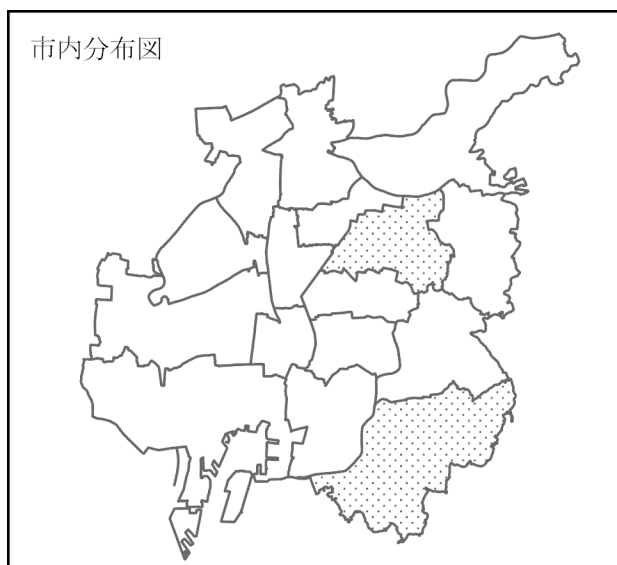
市内: 3 千種区 (田代村, 牧野富太郎 s.n., 採集日不明, TI) で採集された標本がある。5 緑区鳴海町にも生育していたというが、ここでも絶滅した。

県内: 県 RDB2020 p.162 参照。比較的最近では豊橋北部、豊橋南部、豊明東郷で確認されているが、豊橋南部は絶滅、豊橋北部と豊明東郷も人為的管理によって存続している状態である。

国内: 本州 (東海地方)。

世界: 詳細は不明。一般に旧世界の熱帯に広く分布するとされるが、熱帯域のものは日本産のものと同種の階級で異なる。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

湧水湿地の、半裸地状の場所に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

緑区で「ここにあった」と教えられた場所では、宅地造成により生育地が破壊された。

保全上の留意点

従来熱帯地域に分布する *D. indica* L. と同種とされていて、2015 年版ではこの学名で収録したが、1 年生草本で遺伝的な分化も見られる。ただし表記学名は、まだ正式には発表していない。本種については、市内に未知の生育地があることはまず期待できない。しばしば好事家による自然湿地への播種が行われているので、再発見されても保護の対象とする必要はなく、むしろ除去の対象と考える方がよい。播種や植え込みのような付け加え行為は、その場所の本来の自然に悪影響を与え、自然環境情報に混乱をもたらすだけである。本来ないものは、「ない」のが自然の状態であることを認識する必要がある。

特記事項

前項参照。本種ほどの希少種の場合、野外での系統保存は無意味ではない。しかしその場合は、公的機関の手で、造成地にできた湿地のような場所を使って行うべきである。シロバナナガバノイシモチソウは、市内では記録がない。

関連文献

保草本 II p.167, 平新版 4 p.107, SOS 旧版 p.53+図版 19.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）ヒユ科>

ハマアカザ *Atriplex subcordata* Kitag.**評価理由**

北方系の海浜植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。愛知県内においても生育地、個体数ともに少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧Ⅱ類
全 国 2025	—

形態

1年生草本。茎は斜上または直立して分枝し、高さ40～60cmになる。葉は互生し、有柄、葉身は3角状卵形～長卵形、長さ2～8cm、幅2～4.5cm、肉質、先端は鋭頭か鈍頭、基部はくさび形、辺縁には通常ふぞろいな歯牙がある。上部の葉は次第に狭く小さくなり、全縁になる。花期は8～10月、花は密集してかたまり、それが穂状につく。雌花の苞は果時に大きくなり、卵形～3角形、長さ6～11mm、幅5～9mmになる。

分布の概要

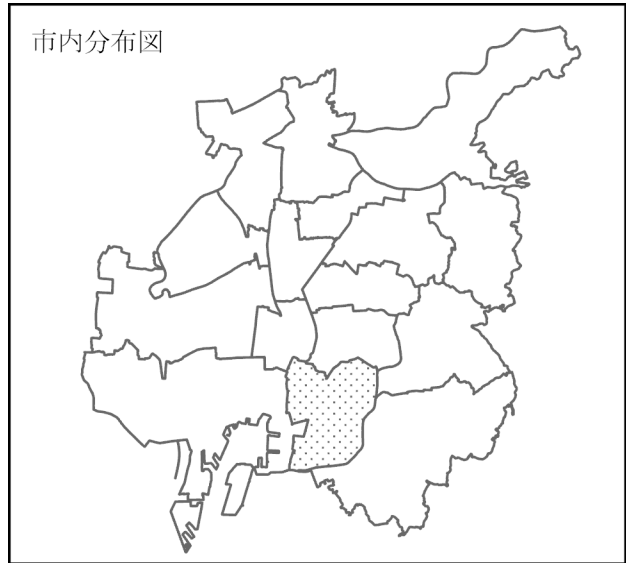
市内：11 南区（加福町貯木場跡地、高木順夫 8979, 2000-9-30, A）に生育していた。

県内：県 RDB2020 p.515 参照。名古屋市以外では、豊川、豊橋南部、田原東部、田原西部の三河湾沿岸部に生育している。

国内：北海道および本州。

世界：千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、ウスリー。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

海浜の塩湿地や河口部の砂地などに生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

高さ1mくらいの大株が数株見られたが、名古屋市の一般廃棄物最終処分場造成工事のため埋め立てられて絶滅した。

保全上の留意点

市内では生育可能な環境がほとんど残されておらず、再発見は困難と思われる。

特記事項

内湾の塩湿地やそれに隣接する砂浜は、開発圧力が高く、全国的にも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。

関連文献

保草本Ⅱp.290, 平新版4p.135.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）ツツジ科>

ギンリョウソウ *Monotropastrum humile* (D. Don) H.Hara**評価理由**

林内に生育する腐生植物で、名古屋市では生育していたと言われているが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

腐生の多年生草本。全体に白色だが、乾くと黒くなる。茎は 1～数本が束生し、高さ 8～20cm になる。葉は鱗片状で多数つき、下部のものは披針形で鈍頭、上部のものは倒披針形で円頭、長さ 7～15mm である。花期は 4～6 月。茎の先端に 1 個の花を下向きにつけ、がく片は 1～3 枚、長楕円形、花弁は 3～5 枚で長楕円状くさび形、長さ 1.5～2cm、基部はややふくらんで内側に白毛がある。花柱は太く短く、上端はやや広がって辺縁が青色の柱頭となる。果実は卵球形、液質で裂開しない。

分布の概要

市内：1 守山区東谷山、2 名東区猪高緑地などで見たという話を聞く。複数の情報があり、また誤認するおそれもある種類なので確かにあったものと思われるが、はっきりした記録にはなっておらず、また標本も残されていない。

県内：県 GDB2017 p.285 参照。東三河と西三河の山地には点在する。尾張では瀬戸尾張旭で生育が確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州、琉球。

世界：千島列島、樺太から東南アジア、ヒマラヤにかけて分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地のやや湿った林内に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

情報はいずれもやや曖昧で、詳細は不明である。その場所で絶滅したかどうかについてもはっきりしない。丘陵地の開発により、生育できそうな環境が激減していることは確かである。

保全上の留意点

何はともあれ、確実な資料が必要である。再発見の可能性はあるので、今後も注意して探索する必要がある。

特記事項

安全原則の立場からここに掲載しているが、確実な資料がないという点では、本来ならリストから除外すべきものである。薄暗い林の中に生え白色なので、ユウレイタケ（幽霊茸）とも呼ばれる。

関連文献

保草本 I p.235, 平新版 4 p.226.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ツツジ科>

レンゲツツジ *Rhododendron japonicum* (A. Gray) Suringar**評価理由**

温帯性の植物で、名古屋市では過去に生育していたと言われているが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の低木。よく分枝して高さ 1~2m になり、若枝にはやや開出する長毛がある。葉は互生し、3~5mm の柄があり、葉身は倒披針状楕円形、長さ 4~8cm、幅 1.5~3cm、先は鋭頭、鈍頭または円頭、下部はくさび形に細まって葉柄に流れ、葉縁や表面に剛毛がある。花期は 5 月、新葉の展開と同時に枝先に 4~9 個の花をつけ、花冠は朱橙色、漏斗形で 5 中裂し、長さ 5~6cm、雄ずいは 5 本、子房は長毛が密生し、花柱は無毛である。

分布の概要

市内：1 守山区 (東谷山) に生育していたというが、標本資料は確認できていない。

県内：東三河と西三河では山地に点在し、丘陵部にもいくつかの自生地がある。1 (漆島川上流、芹沢 82909, 2008-6-7)、2 (茶臼山林道、芹沢 103942, 2024-5-18)、4 (面ノ木峠、芹沢 51655、1989-5-27; 折元峠、小林 52157*, 1994-6-18)、6 (富士見峠、塚本威彦 1917, 1996-6-12)、9 (黄柳野、小林 61020, 1997-5-3)、11 (鴨ヶ谷、芹沢 79685, 2005-5-15)、12 (本宮山、小林 61088, 1997-5-5)、5 (小田木、塚本威彦 2618, 1998-5-14; 水別、日比野修 4486*, 1998-5-23)、19 (杉本、日比野修 1166, 1993-5-16)、20 (大多賀峠、芹沢 55540, 1990-6-19)、21 (花沢、長谷川朋美 255, 1992-4-29; 阿蔵、小林 51814*, 1994-5-29)、23 (西中山町、畑佐武司 9367, 2020-5-4)、24 (坂上町、山崎玲子 1838, 1999-5-10)、28 (千万町町、芹沢 81536, 2007-6-16)、30 (池金町、小林 57667, 1995-8-5)、37a (上平田川町、日比野修 260, 1992-5-9) などで確認されている。
*は葉裏が帯白色の型である。3 (振草、恒川敏雄 49, 1945-10-16, T)、13 (本宮山、加藤等次 s.n., 1957-5-19)、15 (石巻町、恒川敏雄 1009, 1962-4-30, T)、25 (猿投山、岡本英一 662, 1958-6-25) で採集された標本もある。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

長野県の高原などでは草地や林縁に大きな群落を作るが、愛知県や岐阜県美濃地方では湧水湿地の林縁部に生育することが多い。名古屋市の生育地もそのような場所であったらしい。

過去の生育状況／絶滅の要因

高さ 1m くらいの個体が 2 株あり、よく開花していたが、遷移の進行により湿地の森林化が進み、被陰されて消失したという。

保全上の留意点

よく目立つ植物なので、再発見はほとんど期待できない。早目に湿地に侵入した樹木を伐採し、日当たりのよい状態を維持すべきであった。

特記事項

本地域の湧水湿地に生育する温帯性植物の一例で、おそらく氷期の遺存植物と思われる。

関連文献

保木本 I p.150, 平新版 4 p.237.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) アカネ科>

ヤマムグラ *Galium pogonanthum* Franch. et Sav.**評価理由**

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。根は紅色を帯びる。茎は下部で分枝して立ち上がり、高さ 20～50cm、無毛で刺状突起はない。葉は 4 枚が輪生し、広線形～倒披針形、長さ 1～2cm、先端は鋭頭、対生する 2 枚は長く、他の 2 枚はやや短い。花期は 4～8 月、茎の上部にまばらな花序をつけ、小花柄は長さ 3～10mm、花冠は白色で 4 裂し、直径 1.5mm ほどである。果実は球形で 1.2～1.5mm、やや密に上向きに曲がった短毛がある。

分布の概要

市内：2 名東区（猪高，井波一雄 s.n., 1941-7-10, CBM196082）で採集された標本がある。

市内分布図



県内：東三河と西三河の山地、丘陵地に点在するが、尾張では少ない。7（岩古谷山，芹沢 61448, 1992-5-27）、8（鳳来寺山，加藤等次 1438, 1992-6-16）、9（黄柳野，芹沢 54976, 1990-5-22）、12（中宇利，芹沢 56121, 1990-7-31）、13（長沢，植之原耕治 s.n., 1993-5-3, T）、14（相楽町，芹沢 78599, 2003-5-10）、15（石巻萩平町，加藤等次 21495b, 1996-5-18）、17（野田，芹沢 55009, 1990-5-22）、19（市平，日比野修 1373, 1993-6-22）、20（月原，塚本威彦 1903, 1996-5-28）、22（寺平，日比野修 2212, 1994-5-24）、23（木瀬，塚本威彦 1531, 1995-6-16）、24（勘八町，畑佐武司 2311, 2001-8-13）、25（猿投山，土場トシ子 333, 1993-6-6）、29（古部町，堀田善久 315, 1991-6-15）、36（佐久島，芹沢 81366, 2007-5-21）、37a（下半田川町，塚本威彦 3016, 2002-5-5）、44a（豊岡，芹沢 61415, 1992-5-26）、44b（篠島，芹沢 81318, 2007-5-12）、45（栗栖，芹沢 91189, 2016-6-4）などで確認されている。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島。

生育地の環境／生態的特性

林縁部の草地に生育することが多い。

過去の生育状況／絶滅の要因

標本は高さ 50cm ほどの、よく発育した個体である。丘陵地の開発により絶滅したものと思われる。

保全上の留意点

尾張における現在の分布状況から見て、再発見は困難と思われる。

関連文献

保草本 I pp.112, 平新版 4 p.275.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) キョウチクトウ科>

クサナギオゴケ *Vincetoxicum katoi* (Ohwi) Kitag.**評価理由**

全国的に希少な植物で、愛知県が基準標本産地である。名古屋市では過去に採集された標本があるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	絶滅危惧II類

形態

多年生草本。茎は直立し、高さ 30~100cm、大きい個体では上部がややつる状に伸びる。葉は小さい個体では茎の上部、大きい個体では茎の中部に集まり、対生、長さ 5~10mm の柄があり、葉身は卵状披針形、長さ 8~17cm、幅 3~5cm、先端は鋭頭、基部はくさび形、全縁、質は薄くて脈上に短毛がある。上部のつる状の部分につく葉は小形になる。花期は 5~6 月、花序はまばらに分枝し、全体として大きい円錐花序となり、小花柄は細く、花冠は淡紫色で直径 6~9mm、5 裂する。袋果は披針形、長さ 4~5.5cm である。

分布の概要

市内：4 天白区（旧天白村、井波一雄 s.n., 1941-7-15, CBM134868）で採集された標本がある。名古屋東山（千種区？）で採集されたものという個体の写真は、奥山（1957）に掲載されている。

県内：県 RDB2020 p.647 参照。新城、豊川、豊橋北部、旭、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井で確認されている。東三河南部には比較的多いが、西三河は旭町以外では確認されておらず、尾張でも生育地が少ない。個体数も、東三河以外では犬山に小群落があるが、あとは散発的に見られるだけである。

国内：本州（関東、東海、近畿地方）、四国。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

丘陵地や低山地の落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。造林地内に生育していることもある。

過去の生育状況／絶滅の要因

詳細は不明である。

保全上の留意点

愛知県における本種の生育地は、ほとんどがいわゆる里山の二次林である。名古屋市のものに限れば手遅れだとしても、適度に部分的な伐採を行い、さまざまなステージが混在する里山の二次林を全体として保全することが必要である。

特記事項

本種は、品野村（現・瀬戸市）で加藤秀次郎氏によって発見され、熱田神宮の草薙の剣に因んで「クサナギオゴケ」と命名された。花が緑白色のものは、シロバナクサナギオゴケ *form. albescens* (H.Hara) Kitag. と呼ばれる。愛知県では、シロバナクサナギオゴケの方が多く見られる。

引用文献

奥山春季. 1957. 原色日本野外植物図譜 1:pl.41. 誠文堂新光社, 東京.

関連文献

保草本 1 p.209, 平新版 4 p.318, SOS 旧版 p.73+図版 5, SOS 新版 p.74.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ムラサキ科>

ホタルカズラ *Aegonychon zollingeri* (A.DC.) Holub**評価理由**

草地性の植物で、名古屋市では過去の記録はあるが、現存を確認できない。遷移途上のやや不安定な場所に生育することが多い植物で、愛知県全体でも減少傾向が著しい。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全 国 2025	—

形態

多年生草本。茎は細く、開出したあらい毛があり、高さ 15~25cm、花後基部から横にはう長い枝を出し、翌年の新苗をつける。葉は互生し、葉身は狭楕円形~広倒披針形、長さ 2~6cm、幅 0.6~2cm、先端は鋭頭、基部も鋭形、濃緑色で表面に剛毛があり、辺縁は全縁である。花期は 4~5 月、花は上部の葉腋につき、青紫色で直径 15~18mm、花冠は 5 裂し、各裂片の中央には縦の白色の隆起がある。分果は白色で平滑である。

分布の概要

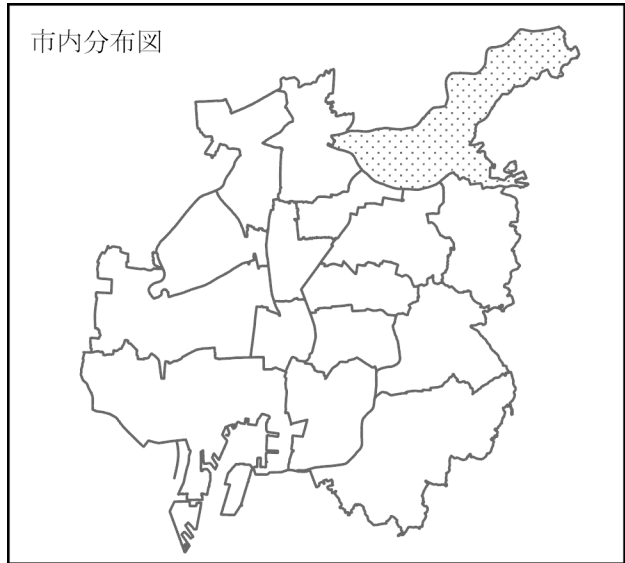
市内: 1 守山区の愛知用水沿いで撮影された写真が、安原 (1990) に掲載されている。標本資料は残されていない。

県内: 県 RDB2020 p.333 参照。新城、豊川、豊橋北部、田原西部、美浜南知多、犬山で確認されているが、かなりの区画ですでに絶滅している可能性がある。岡崎南部で採集された標本もある。

国内: 北海道、本州、四国、九州、琉球。

世界: 日本、台湾、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

低山地や丘陵地の日当たりのよい草地、林道わきの崖状地などに生育する。名古屋市では愛知用水わきの草地に生育していたという。

過去の生育状況／絶滅の要因

愛知用水の改修により絶滅したらしい。

保全上の留意点

愛知用水などの幹線水路わきの草地は、定期的に草刈りが行われるため遷移が進行せず、草地が全体的に減少する中で、多くの草地性植物のよい逃避地になっている。改修工事に際してはこれらの植物の最後の生育場所を奪わないよう、特に配慮が必要である。

特記事項

和名は、点々と咲く青い花をホタルの光にたとえたものと言われる。

引用文献

安原修次. 1990. なごや野の花 p.40. エフエー出版, 名古屋.

関連文献

保草本 I p.195, 平新版 5 p.52.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ヒルガオ科>

マメダオシ *Cuscuta australis* R.Br.**評価理由**

減少傾向の著しい寄生植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅
全国 2025	絶滅危惧 IB 類

形態

1 年生でつる性の寄生植物。茎は細く糸状で黄色を帯び、寄主にからみつく。茎上には薄膜質で卵形の鱗片葉がある。花期は 7～10 月、花は無柄で数個が束生し、花冠は長さ約 2mm で 5 裂し、裂片は円頭、筒部内側の鱗片は先端が 2 裂し、少数の突起がある。がくは低い三角形で薄膜質、長さは花冠の 1/2～1/3 である。果実は蒴果でほぼ球形、直径約 3mm、基部に花冠が残存する。

分布の概要

市内：3 千種区（東山村覚王山、久米道民 s.n., 1910-7-23, TNS）で採集された標本がある。ただしこの標本は、花冠内部の形態を確認していない。このほか MAK には、ラベルに「名古屋市千種区田代町」と書かれた標本がある。しかしこの地名は、標本送付者（岡田善敏氏）の住所かもしれない。

県内：県 RDB2020 p.67 参照。名古屋市以外では、13 豊川と 18 田原西部で採集された標本があるが、どちらの区画でも現存は確認できない。

国内：北海道、本州、四国、九州、琉球。

世界：日本、中国大陸、東南アジア、オーストラリア。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

日当たりのよい野原などに生育すると言われる。名古屋市での生育環境については情報が無い。

過去の生育状況／絶滅の要因

「豆倒し」という名から推定すれば、かつては作物の害草になるくらいあったのかもしれないが、残されている資料が少なく、過去の状況はよくわからない。近似種の帰化植物アメリカネナシカズラ *C. pentagona* Engelm. が急増した頃から見られなくなったが、もともと少なかったために紛れてしまったのか、競合により排除されたのかもはっきりしない。

保全上の留意点

注意して探索すれば、再発見の可能性は残されている。

特記事項

本種については、藤井伸二氏から情報をいただいた。アメリカネナシカズラは、花冠の裂片が鋭頭、筒部内側の鱗片は辺縁がふさ状に裂けるが 2 裂しない。

関連文献

保草本 I p.202, 平新版 5 p.26.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ゴマノハグサ科>

オオヒナノウスツボ *Scrophularia kakudensis* Franch.**評価理由**

山間部の湿性地に多い植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。根は数本が肥厚して紡錘状となる。茎は直立して高さ 1m くらいになり、四角柱状である。葉は対生し、長さ 1~3cm の柄があり、葉身は卵形~長卵形、長さ 7~15cm、先端は鋭頭~鈍頭、基部は広いくさび形~浅い心形、辺縁には多数の鋸歯がある。花期は 8~9 月、茎の上部に長さ 40cm に達する円錐花序をつけ、多数の花をつける。花冠は暗紅紫色、つぼ形で長さ 8~9mm である。果実は卵形、長さ 7~9mm になる。

分布の概要

市内：4 天白区? (平針~白土~天白、稲垣貫一 s.n., 1947-8, CBM101193) で採集された標本がある。

県内：三河山地には点在するが、尾張では少ない。3 (御園, 小林 38908, 1992-8-23)、9 (乗本, 芹沢 60130, 1991-8-29)、10 布里, 芹沢 70516、1994-8-28)、11 (高松, 小林 53267, 1994-8-19)、12 (市川, 芹沢 60151, 1991-8-29)、15 (嵩山町, 福岡義洋 2013, 1992-10-4)、5 (川手, 塚本威彦 2497, 1997-9-13)、19 (寺山, 日比野修 1868, 1993-9-24)、20 (下平, 塚本威彦 2094, 1996-9-6)、21 (野原, 芹沢 63770, 1992-9-24)、22 (樽俣, 日比野修 2580, 1994-9-12)、28 (大代, 福岡義洋 1208, 1990-8-28)、37a (上品野町, 芹沢 56781, 1990-9-1)、45 本宮山, 芹沢・松田 169, 1986-9-26) など確認されている。

市内分布図



国内：北海道南部、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島。

生育地の環境／生態的特性

やや湿った林縁などに分布する。

過去の生育状況／絶滅の要因

標本は 2 枚続きで、茎の中上部 80cm ほどのものである。丘陵地の開発により絶滅したと思われる。

保全上の留意点

名古屋市では本種が生育できそうな環境が残されておらず、再発見は困難と思われる。

関連文献

保草本 I p153, 平新版 5 p.95.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) シソ科>

ケブカツルカコソウ *Ajuga shikotanensis* Miyabe et Tatew. form. *hirsuta* (Honda) Murata**評価理由**

愛知県の丘陵地を特徴づける植物の一つで、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全国 2025	—

形態

多年生草本。花茎は単生して直立し、高さ 10~30cm、基部から葉をつけた長い走出枝を出す。根出葉は広倒披針形~倒卵形、長さ 2~5cm、先端は鈍頭、辺縁は少数の波状の鋸歯があり、基部はくさび状に細まって葉柄となる。茎葉は対生し、1~2 対、その上に 5~10 対の苞が続き、腋に仮輪をつくって淡紫色の花をつける。花期は 5~6 月、花冠は唇形、花筒は背面で長さ約 7mm、上唇はごく小さく、下唇は 3 裂して開出する。

分布の概要

市内: 1 守山区 (下志段味吉田, 鳥居ちゑ子 621, 1994-5-8, A)、5 緑区 (有松, 井波一雄 s.n., 1941-5-6, CBM251395) に生育していた。

県内: 県 RDB2020 p.341 参照。名古屋市のほか、豊田北西部、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、小牧、春日井などで確認されている。ただし豊明東郷では絶滅し、このほかにもすでに絶滅した区画があると思われる。刈谷知立で採集された標本もある。

国内: 種としては南千島 (色丹島) と本州に分布する。

世界: 日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

日当たりのよいやや湿った草地に生育する。愛知県では、丘陵地の水田のまわりの土手、草の生えた農道など、一昔前の谷戸田景観を象徴するような場所に生育している植物である。

過去の生育状況／絶滅の要因

下志段味では谷戸田のわきの草地に小群落があったが、耕地整理によって草地が削られ、絶滅した。愛知県全体でも、一方で丘陵地の開発による生育地の破壊、他方で谷戸田の放棄による植生遷移の進行により、急激に減少している。水田の周辺にあるため除草剤が散布され、その影響で減少することもある。

保全上の留意点

丘陵地の谷戸田は、本種以外にも多くの絶滅危惧生物が生育しており、生物多様性を保全する上で重要性の高い場所である。谷戸田とそこでの農業を使用しない水稻耕作の価値を、一つの文化遺産として認める必要がある。

特記事項

基準品種のツルカコソウ form. *Shikotanensis* は全体に毛が少ないもので、愛知県には自生しない。カコソウは夏枯草の意味で、ウツボグサのことである。

関連文献

保草本 I p.189, 平新版 5 p.109, SOS 旧版 p.76, SOS 新版 p.82.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) ハマウツボ科>

コシオガマ *Phtheirospermum japonicum* (Thunb.) Kanitz**評価理由**

生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1。名古屋市では生育地が少なかった上に、いずれの場所でも現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

半寄生の一年生草本。全体に軟らかい腺毛が密に生える。茎は直立し、高さ 30~70cm になる。葉は対生し、4~10mm の柄があり、葉身は三角状卵形、長さ 2~3.5cm、羽状に深裂し、下部の裂片は更に切れ込み、辺縁には不規則にとがった鋸歯がある。花期は 9~10 月、花は茎の上部の葉腋に 1 個ずつつき、花冠は淡紅紫色、長さ約 2cm、外面に軟毛と腺毛がある。

分布の概要

市内: 1 守山区(上志段味東谷, 鳥居ちゑ子 798, 1994-10-15, A)、2 名東区(猪高緑地, 鳥居ちゑ子 2525, 2006-10-10, A) に生育していた。

県内: 三河山地には比較的多いが、低山地や丘陵地には少ない。1 (大尾, 小林 48864, 1993-10-17)、2 (佐久間湖, 村松 14378, 1993-10-10)、3 (振草, 小林 48528, 1993-10-9)、4 (水梨川, 小林 48670, 1993-10-11)、6 (三都橋, 小林 48559, 1993-10-10)、8 (豊岡, 芹沢 68789, 1993-10-17)、9 (下吉田, 小林 48953, 1993-10-19)、10 (只持, 小林 49139, 1993-10-24)、11 (木和田, 芹沢 50675, 1988-10-8)、15 (嵩山町, 芳山朋子 1265, 1984-10-5)、5 (面ノ木峠, 芹沢 38677, 1983-10-14)、19 (惣田, 塚本威彦 847, 1993-10-3)、20 (平折, 鈴木万里亜 1171, 1995-10-20)、21 (平瀬, 長谷川朋美 914, 1992-9-28)、22 (大ヶ蔵連, 日比野修 2629, 1994-9-19)、24 (中切町, 畑佐武司 2559, 2001-10-6)、25 (猿投山, 土場トシ子 649, 1994-10-22)、28 (夏山, 福岡義洋 1745, 1990-10-15)、38b (米野木町, 半田多美子 2995, 2000-10-8)、44b (山海, 大西 博 1291, 1992-10-26)、45 善師野, 平嶋 敏 1457, 1989-10-18) などで確認されている。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

日当たりのよい草地や半裸地に生育する。しばしば林道わきの崖地などに見られる。

過去の生育状況／絶滅の要因

守山区では愛知用水わきの林縁に十数株生育していたが、15 年近く前にすでに見られなくなったという。名東区では遊歩道わきに 20 株程度が生育していたが、この場所でもその後見られなくなったらしい。

保全上の留意点

攪乱地や伐採跡地などに生育することが多い植物なので、そのうちに再度出現する可能性も残されている。さらに注意して探索する必要がある。

特記事項

東海地方の固有植物の一つであるミカワシオガマ *Pedicularis resupinata* L. var. *microphylla* Honda は、隣接する尾張旭市には生育しているが、市内ではまだ生育が確認されていない。

関連文献

保草本 I p.135, 平新版 5 p.161.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) タヌキモ科>

ノタヌキモ *Utricularia aurea* Lour.

評価理由

水生の食虫植物で、市境の数 m 先には現在でも生育している場所があるが、市内では現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧Ⅱ類
全国 2025	絶滅危惧Ⅱ類

形態

水中に浮遊する食虫性の1年生草本。茎は長さ1.5mに達する。葉は互生し、長さ3~8cm、基部で3本の枝に分かれ、更に何回か立体的に分枝し、裂片は細くてやわらかく、多数の捕虫囊をつける。花期は7~10月、花茎は長さ7~20cmで、水面から出て直立し、先端に数個の黄色の花をつけ、花柄は長さ0.5~1.5cmで、花時には細いが、花後下向きに曲がり、先の方が太くなる。果実は両側に突起があり、幅4~5mm、先端に花柱が残存する。殖芽はつけない。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味竈池、飯尾俊介 4, 1964-8-31, A, 群落の写真は名古屋市公害対策局 1990 に掲載されている）、3 千種区（田代町大薮池、井波一雄 s.n., CBM135458; 覚王山、稲垣貫一 s.n., 1937-9, CBM98770）で採集された標本がある。

県内：県 RDB2020 p.538 参照。名古屋市のほか、豊川、田原東部、藤岡、豊田東部、豊田北西部、刈谷知立、瀬戸尾張旭、長久手日進、東郷豊明（豊明市間米町峠下、長谷川 492、2022-9-12、N）、犬山の10区画で確認されている。ただし刈谷知立では絶滅した。

国内：本州（関東地方、新潟県以西）、四国、九州、琉球。

市内分布図



世界：東アジアからインド、オーストラリアにかけて分布する。

生育地の環境／生態的特性

丘陵地のため池に生育する。イヌタヌキモと異なり開けた場所にあるため池には少なく、水路や水田にも見られない。

過去の生育状況／絶滅の要因

詳細は不明。水の汚染により絶滅したものと思われる。

保全上の留意点

本種に限らず止水性の水草の生育地を確保するためには、溜池の水質を保全する必要がある。

特記事項

イヌタヌキモ *U. australis* R.Br. からは、葉が基部から3裂し、裂片が細くてやわらかいことで区別できる。イヌタヌキモは、タヌキモに含めて国リストに掲載されているため何かと注目されるが、愛知県では本種の方がイヌタヌキモよりずっと少なく、減少傾向も著しく、保全の必要性が高い。

引用文献

名古屋市公害対策局.1990. 名古屋市の淡水生物 no.2, pl.51. 名古屋市.

関連文献

保草本 I p.123, 平新版 5 p.166...

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.149. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.285. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）タヌキモ科>

フサタヌキモ *Utricularia dimorphantha* Makino

評価理由

全国的に減少傾向の著しい水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅
全 国 2025	絶滅危惧II類

形態

多年生の水草。茎は長さ 50cm くらいになる。葉は互生し、長さ 3~6cm、毛状の裂片に立体的に分裂する。食虫植物であるが、捕虫嚢はわずかにつくだけである。花期は 7~9 月、通常花と閉鎖花があり、閉鎖花は葉腋に単生して短い柄があり、通常花は水上に伸びた高さ 7~15cm の花茎の上部に、3~10 花がつく。花冠は黄色で直径約 1cm、がくは卵状楕円形で長さ約 2mm である。

分布の概要

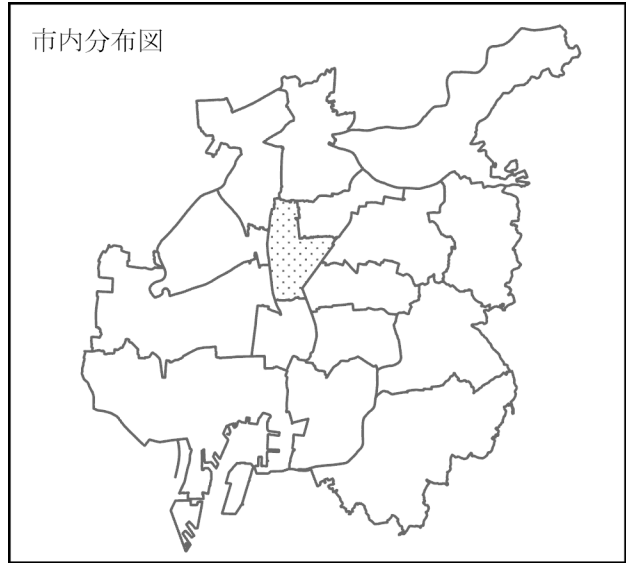
市内: 7 中区(名古屋城堀, 中井三従美 22, 1989-8-23, A) に生育していた。

県内: 名古屋市は県内で唯一の自生地であった。

国内: 本州（東北地方~近畿地方）。

世界: 日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

平野部の池沼の水中に浮遊する。現存する生育地は全国でも数カ所にすぎない。

過去の生育状況／絶滅の要因

1989 年に採集された標本があるが、その後見られなくなった。水質の汚濁が絶滅の原因と思われる。全国的には、食虫植物マニアによる採取も深刻とされている。

保全上の留意点

水質が改善されれば、再度出現する可能性も皆無ではない。

特記事項

他の日本産のタヌキモ類と異なり、通常花のほか、閉鎖花をつける。学名もこの特徴に基づく。標本写真は、SOS 旧版 p.82 に掲載されている。

関連文献

保草本 I p.122, 平新版 5 p.166, SOS 旧版 p.82.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.152. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.289. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) タヌキモ科>

ミカワタヌキモ *Utricularia exoleta* R. Br.

評価理由

全国的に減少傾向の著しい水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全国 2025	絶滅危惧 IB 類

形態

多年生の食虫性水草。茎は糸状で泥上をはい、捕虫囊をつけた地中葉で固着するが、水中を浮遊することもある。水中葉はまばらに互生し、長さ 1cm 程度、1~5 個の裂片に分裂し、まばらに捕虫囊をつける。裂片は幅 0.1~0.2mm である。花期は 8~9 月、高さ 5~8cm の花茎を水上に伸ばし、1~3 花をつける。花冠は黄色で直径 5~6mm、距は前向きで下唇と同長かやや長く、がくは長さ約 2mm である。殖芽は形成しない。

分布の概要

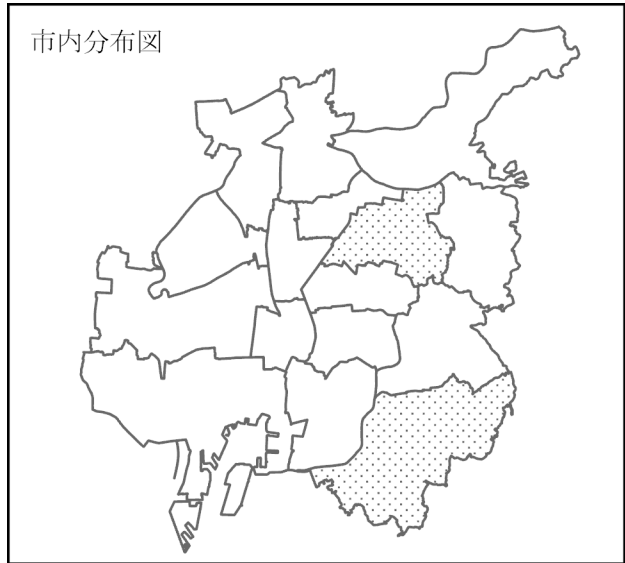
市内：3 千種区（田代町、井波一雄 s.n., 1937-8-18, CBM195716）、5 緑区（鳴海町瀧の水、浜島繁隆 1075, 1968-11-2, A）で採集された標本がある。

県内：県 RDB2020 p.349 参照。藤岡、豊田北西部、瀬戸尾張旭、長久手日進、半田武豊の 5 区画で確認されている。ただし藤岡、瀬戸尾張旭、長久手日進では見られなくなり、豊田北西部、半田武豊ではごく最近の状況が確認されていない。岡崎南部と刈谷知立で採集された標本もある。

国内：本州（関東地方以西）、九州、琉球。

世界：日本、台湾からインド、オーストラリア、アフリカにかけて分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

浅い池沼に生育する。愛知県の生育地は、いずれも人里に近い丘陵地のため池であった。

過去の生育状況／絶滅の要因

宅地造成により生育地が破壊され、絶滅した。

保全上の留意点

再発見できる可能性は低い、皆無というわけでもない。今後のことを考えると、外来のタヌキモ類を移入しないことが重要である。本種の場合は特に、オオバナイトタヌキモ *U. gibba* L. に対して注意が必要である。藤岡ではこれが原因で見られなくなったという。

特記事項

植物体が糸状で繊細なため、イトタヌキモとも呼ばれる。オオバナイトタヌキモは花が大きく、直径約 1cm あるもので、愛知県では半田武豊、常滑、名古屋南東部などに帰化している。本種を、オオバナイトタヌキモの亜種とする見解もある。

関連文献

保草本 I p.122, 平新版 5 p.165, SOS 旧版 p.82, SOS 新版 p.127.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.153. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.292. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) タヌキモ科>

コタヌキモ *Utricularia intermedia* Heyne

評価理由

湧水湿地性の食虫植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全国 2025	—

形態

多年生の食虫性水草。茎は泥上をはい、多数の捕虫囊をつけた地中葉で固着する。水中葉は互生して重なり合い、長さ 1cm 程度、二叉状に分岐して扇形となり、捕虫囊はなく、裂片は幅 0.3~0.6mm で辺縁に鋸歯がある。花期は 6~9 月、高さ 5~15cm の花茎を水上に伸ばし、1~5 花をつける。花冠は黄色で直径 12~15mm、距は前向きで下唇とほぼ同長、がくは長さ約 3mm である。秋には茎の先端に直径 3~8mm の球状~楕円状の殖芽を作り、越冬する。

分布の概要

市内：3 千種区（田代町竹下、井波一雄 s.n., 1937-8-18, CBM233671）、4 天白区（天白町八事、浜島繁隆 1078, 1968-8-25, A）で採集された標本がある。

県内：県 RDB2020 p.75 参照。名古屋市のほか豊川、豊橋南部、田原東部、藤岡、犬山で採集された標本があり、2020 年当時は絶滅と判断していたが、その後藤岡で現存が確認された（標本：芹沢 104127, 2024-7-9, A）。豊橋市の葦毛湿原にもあるが、これは移入されたものである。

国内：北海道、本州（三重県以北）、九州（大分県）。

世界：北半球の温帯に広く分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

浅い池沼に生育する。愛知県の生育地は、いずれも湧水湿地中の浅い水たまりであった。

過去の生育状況／絶滅の要因

詳細は不明である。

保全上の留意点

本種の生育できそうな湿地は、市内ではもはや残存していない。再発見は困難と思われる。

特記事項

愛知県では、まだ開花は確認されていない。ヒメタヌキモ *U. minor* L. は、森林公園の尾張旭市側で採集された標本はあるが、名古屋市側では発見されていない。

関連文献

保草本 I p.122, 平新版 5 p.165, SOS 旧版 p.83.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.152. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.290. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) タヌキモ科>

ヒメミカキグサ *Utricularia minutissima* Vahl**評価理由**

湧水湿地性の食虫植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全国 2025	絶滅危惧 IA 類

形態

多年生の食虫性草本。地下茎は糸状で、まばらに捕虫囊をつける。地上葉は線形、長さ 1~3mm である。花期は 8~10 月、花茎は直立し、高さ 1~3cm、1~3 花をつける。がくは長さ約 1mm、裂片は円形で花後も大きくならない。花冠は淡紅色で直径 2~2.5mm、距は前向きで下唇より長い。蒴果は長さ約 1mm、がくとほぼ同長である。

分布の概要

市内：5 緑区（鳴海町滝の水湿地、芹沢 30792, 1979-11-11, A、浜島氏に案内していただいた）に生育していた。写真は浜島（1979）に掲載されている。

県内：県 RDB2020 p.351 参照。名古屋市のほか、豊橋南部、豊田北西部、瀬戸尾張旭（絶滅）、長久手日進、豊明東郷、半田武豊で確認されている。

国内：本州中部（愛知県、三重県）。

世界：日本からインド、オーストラリアにかけて分布している。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

湧水湿地の、裸地状の場所に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

狭い範囲であるが、比較的多くの個体が生育していた。宅地造成により生育地が破壊され、絶滅した。

保全上の留意点

市内では、本種の生育できそうな湿地が残存していない。再発見は困難と思われるが、小規模な崖地状の湿地に生育している例もあるので、更に注意して探索する必要がある。

特記事項

とにかく小さい植物で、地面をどのようにして探さないとなかなか発見できない。通り一遍の調査ではまず見落としてしまうので、調査時には特に注意が必要である。

引用文献

浜島繁隆. 1979. 失われゆく滝の水（名古屋市）の小湿原. 植物と自然 13(12): 56-57.

関連文献

保草本 I p.121, 平新版 5 p.164, SOS 旧版 p.83+図版 19, SOS 新版 p.106.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）キク科>

ヒメシオン *Aster fastigiatus* Fisch.

評価理由

湿草地に生育する植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は直立し、上部で分枝し、高さ 30～100cm になる。葉は互生し、葉身は線状披針形または披針形、下部のものは長さ 5～12cm、幅 4～15mm で有柄、両端は次第に狭くなり、辺縁には低い鋸歯がある。上部の葉は次第に小さくなる。花期は 8～10 月、茎の先端に多数の頭花を散房状につけ、頭花は直径 7～9mm、3～8mm の柄があり、総苞は筒状、長さ約 4mm である。舌状花は 1 列に並び、白色である。

分布の概要

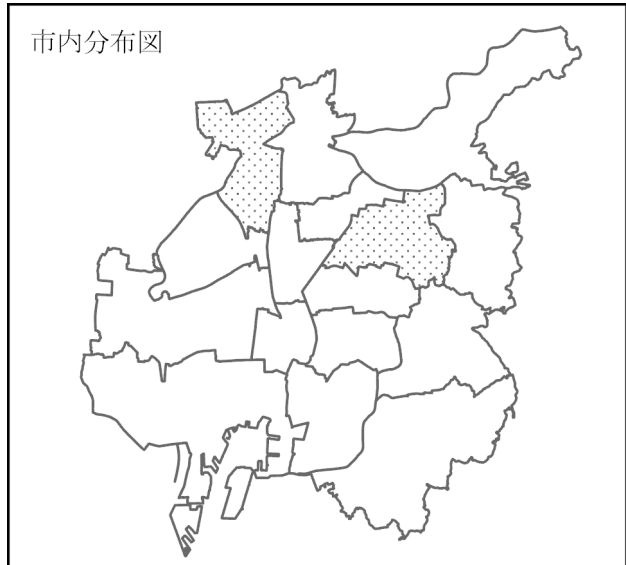
市内：3 千種区（光ヶ丘、犬飼 清 s.n., 1968-9-1, A）、13 西区（日比津庄内川、鈴木釘次郎 s.n., 1905-9-5, CBM208072）で採集された標本がある。

県内：県 RDB2020 p.543 参照。新城、豊川、豊橋北部、安城、高浜碧南、常滑、美浜南知多、犬山の 8 区画で確認されているが、一部の区画ではすでに絶滅していると思われる。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、ダフリア。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

川岸や堤防などの湿った日あたりのよい草地に生育する。特に自然度の高い場所に限定されるわけではないが、それでいて生育地も個体数も少ない植物である。

過去の生育状況／絶滅の要因

詳細は不明である。都市化の進行により、生育地が破壊されて絶滅したものと思われる。

保全上の留意点

再発見の可能性は皆無ではない。本種の生育可能地を確保するためには、地形の改変を避けると共に、将来とも草刈り等の適切な管理を継続することが必要である。

特記事項

和名がヒメジョオンに似ているため情報が混乱することがあり、注意が必要である。

関連文献

保草本 I p.82, 平新版 5 p.317.

(芹沢俊介)

維管束植物＜種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）キク科＞

ヤマジノギク *Aster hispidus* Thunb.**評価理由**

草地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、また減少傾向が著しい。名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全 国 2025	—

形態

越年生草本。茎はよく分枝し、高さ 30～100cm になる。根出葉は倒披針形で長さ 7～13cm、幅 10～15mm、開花時には枯れる。茎葉は互生し、倒披針形から線形、長さ 5～7cm、幅 4～20mm、基部はしだいに細くなる。上部の葉は小さく、線形になる。花期は 9～11 月、頭花は枝の先に散房状に集まってつき、直径 3.5cm 程度、総苞は長さ 7～8mm で、総苞片は 2 列にならぶ。舌状花は淡青紫色でごく短い白色の冠毛があり、筒状花は長さ 3.5～4mm の帯赤褐色の冠毛がある。そう果は扁平で、長さ 7～8mm である。

分布の概要

市内：9 瑞穂区（玉水町、稲垣貫一 s.n., 1947-10-20, CBM101395, 写真は 2010 年版図版 1 図 2）で採集された標本がある。

県内：県 RDB2020 p.180 参照。1985 年以降では、鳳来南部、新城、豊川、田原東部、田原西部、稲武、足助の 7 区画で生育が確認されている。ただしこれらのうちかなりの場所では、すでに絶滅している可能性が高い。尾張では名古屋市の上記標本のほか、美浜南知多（内海）で 1979 年に採集された標本があるが、近年の生育は確認されていない。

国内：本州（伊豆半島以西）、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地の日あたりのよい草地に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

詳細は不明であるが、草地環境の消失により絶滅したと思われる。

保全上の留意点

市内では生育可能な環境がほとんど残されておらず、再発見は困難と思われる。

特記事項

アレノギクとも呼ばれるが、攪乱地であってもそれなりに自然度の高い場所に生育していることが多いから、和名としては「ヤマジノギク」の方が適切である。新城や豊橋北部の超塩基性岩地には、葉も枝も著しく細い変種のヤナギノギクが生育している。

関連文献

保草本 I p.84, 平新版 5 p.314, SOS 新版 p.54,56.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) キク科>

イナカギク *Aster semiamplexicaulis* (Makino) Makino ex Nakai**評価理由**

名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は通常斜上し、長さ 50~100cm になり、白い短毛を密生し、基部から匍匐枝を出す。葉は互生し、無柄、葉身は長楕円状披針形、長さ 6~12cm、幅 1.5~3cm、鋭尖頭、下部は急に狭くなって、基部はやや茎を抱き、両面に白い短毛を密生する。花期は 9~11 月。頭花は枝先に散房状につき、白色、直径約 2cm、そう果の冠毛は淡褐色で、長さ 3.5~4mm である。

分布の概要

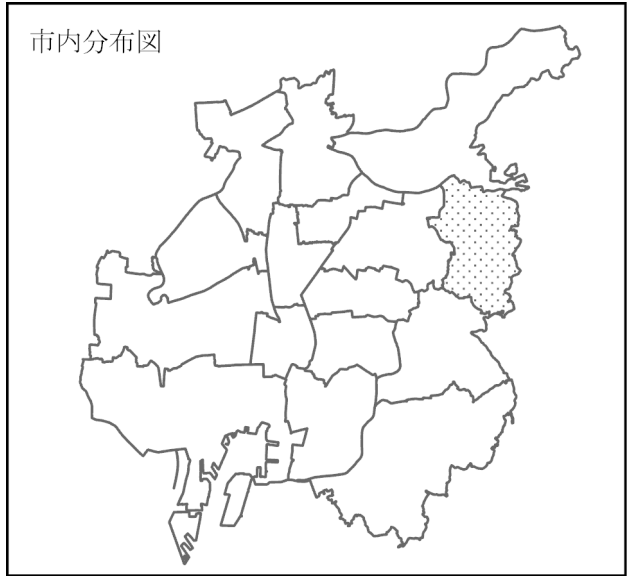
市内：2 名東区（猪高緑地、鳥居ちゑ子 2047, 2001-10-23, A）に生育していた。

県内：東三河南部、西三河、尾張西部の低山地ではやや普通に見られる。しかし丘陵地には少なく、東三河北部の山地にも少ない。3（御園、小林 39917, 1992-10-10）、8（槇原川、芹沢 68818, 1993-10-17）、11（菅沼、芹沢 68032, 1993-9-24）、13（宮路山、瀧崎 15405, 1994-11-3）、15（嵩山町、芳山朋子 1284, 1984-10-5）、18（泉福寺山~高木、小林 40545, 1992-11-22）、19（榊野、日比野修 1766, 1993-9-24）、20（御内蔵連、芹沢 78956, 2003-10-4）、21（田折町、芹沢 86482, 2010-10-12）、22（百月、日比野修 2703, 1994-10-23）、23（西市野々、日比野修 969, 1992-10-22）、24（押沢町、芹沢 68881, 1993-10-22）、25（猿投山、磯貝彰宏 111, 1983-7-27）、28（鹿勝川、福岡義洋 1794, 1990-10-19）、29（蓬生町、伊奈知子 1138, 1993-10-9）、30（鉢地町、本多さおり 1018, 1994-10-13）、31（遠望峰山、金子律子 1463, 1995-10-14）、37a（広久手町、芹沢 75149, 1998-10-3）、37b（平子町、村松 22013, 2003-10-19, N）、44b（内海、芹沢 64418, 1992-10-23）、45（池野、芹沢 71321, 1994-10-15）などで確認されている。

国内：本州（東海地方以西）、四国、九州に分布する。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地の林縁や草地に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

落葉広葉樹二次林の林縁に生育していたものと思われるが、2018 年 10 月に調査した時には見当たらなかった。モウソウチクの繁茂による被陰が原因と思われる。

保全上の留意点

竹林の増加は、里山の保全を考える上で最も深刻な課題の一つである。竹林内は一年中光条件が悪く、しかも落葉が厚く堆積し、手入れの悪い場所ではほとんど林床植物が生育できない状態になってしまう。竹林は日本の自然環境要素としては本来存在しなかったものと考えられており、利用しないならばできれば排除すべきものである。

特記事項

シロヨメナ subsp. *leiophyllus* (Franch. et Sav.) Kitam. は茎や葉に毛が少なく、葉の基部はくさび形で短柄があるもので、名古屋市ではまだ確認されていない。

関連文献

保草本 I p.83, 平新版 5 p.318.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) キク科>

コヤブタバコ *Carpesium cernuum* L.

評価理由

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

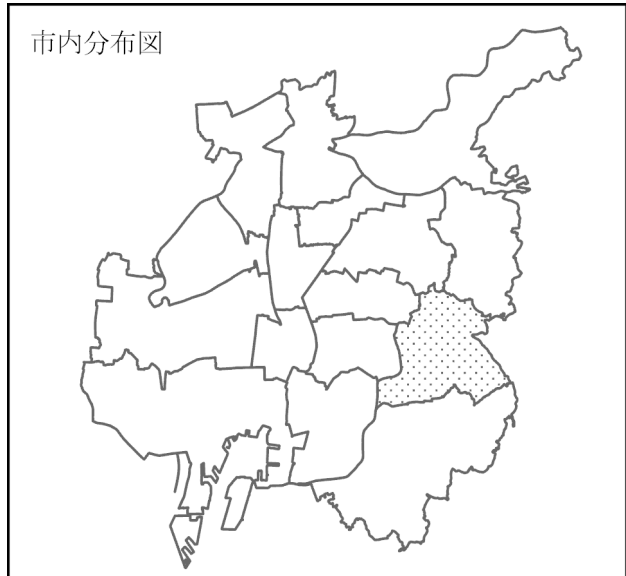
多年生草本。茎は高さ 50~100cm となり、枝を開出する。根出葉は花期には枯れる。茎葉は互生し、下部のものには広い翼のある柄があり、葉身は長楕円形、長さ 7~20cm、両面に軟毛があり、辺縁には不ぞろいな低い鋸歯がある。花期は 7~9 月、枝先に點頭した緑白色の頭花をつけ、その基部には線状披針形の苞が多数ある。頭花は直径 15~18mm、総苞は碗状で長さ 7~8mm、総苞はすべてほぼ同長、外片先端は小さい葉状となり反曲する。

分布の概要

市内：4 天白区（御幸山公園，渡邊幸子 1282, 1993-9-16, N）に生育していた。

県内：山地~丘陵地に点在するが、あまり多いものではない。1（佐太，小林 54017, 1994-9-23）、2 佐久間湖，村松 14355, 1993-10-10）、3（御園，小林 38899, 1992-8-23）、8（砥沢，芹沢 59879, 1991-8-24）、9（乗本，芹沢 60122, 1991-8-29）、12（川田原，小林 40131, 1992-10-25）、13（吉祥山，小林 40443, 1992-11-14）、14（相楽町，井上美保子 27, 1991-9-2）、15（石巻萩平町，芹沢 83313, 2008-9-14）、17（笠山，芹沢 53022, 1989-9-1）、18（石神，小林 47702, 1993-9-12）、25（篠原，奥村富枝 32, 1995-9-15）、26（水源神社，畑佐武司 443, 1999-8-7）、38b（岩崎，芹沢 62773, 1992-8-26）、44b（豊浜，大西 博 957, 1992-8-30）、45（善師野，平嶋敏 1069, 1989-9-17）などで確認されている。

市内分布図



国内：北海道、本州、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、インドシナ、シベリア。

生育地の環境／生態的特性

山地の林縁や林内に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

御幸山公園に少数株が生育していたが、消失したという。遷移の進行が原因と思われる。

保全上の留意点

残存緑地の里山的環境を、適切な管理のもとに保全することが必要である。過度の攪乱は困るが、全く放置しても里山的環境は維持できない。

関連文献

草本本 I p.71-72, 平新版 5 p.352.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) キク科>

リュウノウギク *Chrysanthemum makinoi* Matsum. et Nakai

評価理由

里草地に多い植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は高さ 40~80cm になり、まばらに分枝する。葉は互生し、短い柄があり、葉身は卵形または広卵形、長さ 4~8cm、下部の葉は 3 深裂し各裂片は更に浅裂するが、中上部の葉は通常 3 中裂、先端は鈍頭、基部はくさび形、表面は緑色で短毛があり、裏面は毛が密生して灰白色となる。花期は 10~11 月、頭花は細い枝先に 1 個ずつつき、直径 2.5~5cm、舌状花は白色である。

分布の概要

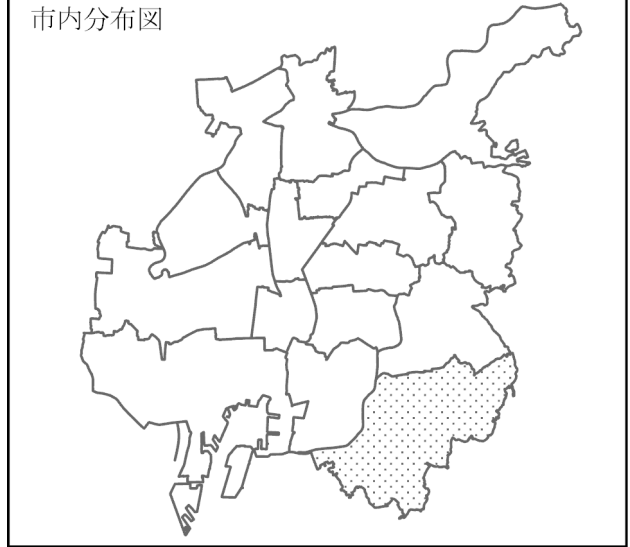
市内: 5 緑区(鳴海町笹塚、渡邊幸子 1404, 1993-10-20, N) に生育していた。

県内: 東三河、西三河の山地には広く分布しており、尾張の丘陵地にも点在する。2 (佐久間ダム西、(加藤等次 4154, 1993-10-23)、4 (天狗棚、鈴木 学 2693, 1983-10-6)、7 (岩古谷山、芹沢 64491, 1992-10-30)、8 (鳳来寺山、加藤等次 544, 1991-11-12)、9 (黄柳野、芹沢 54066, 1989-10-29)、11 (上菅沼、芹沢 50689, 1988-10-8)、13 (西浦町、鈴木美恵子 568, 1993-10-31)、15 (嵩山町、芳山朋子 1326, 1984-10-21)、17 (赤羽根町高松北、小林 49397, 1993-11-7)、18 (高木、芹沢 54090, 1989-11-2)、19 (駒山、芹沢 64322, 1992-10-17)、20 (追分、芹沢 72525, 1995-10-20)、21 (東大沼、芹沢 64449, 1992-10-26)、22 (大洞、伊藤泰輔 269, 1993-10-21)、23 (木瀬、日比野修 983, 1992-10-22)、24 (押沢町、芹沢 68878, 1993-10-22)、25 (猿投山、磯貝彰宏 1883, 1984-10-21)、28 (大代、芹沢 57979, 1990-10-17)、29 (小美町、伊奈知子 1234, 1993-10-26)、30 (鉢地町、本多さおり 1076, 1994-10-21)、36 (東幡豆、芹沢 71389, 1994-10-31)、37a (上品野町、日比野修 999, 1992-10-28)、37b (柏井町、村松 21026, 2001-11-3, N)、44b (豊丘、芹沢 64397, 1992-10-23)、45 (善師野、芹沢 54119, 1989-11-11)、47 (大山、日比野修 4691, 1998-10-31) など確認されている。12 (宇利峠、恒川敏雄 31, 1945-10-28, T) で採集された標本もある。

国内: 本州 (福島県・新潟県以西)、四国、九州 (宮崎県)。

世界: 日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地の林縁や崖地に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

みどり丘公園近くの愛知用水わきに生育していたが、土手の改修により絶滅した。

保全上の留意点

幹線水路わきの草地は、管理の都合上定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で草性植物のよい生育場所になっている。改修の際には、これらの植物の生育場所を奪わないよう、適切な配慮が必要である。

特記事項

市内に生育していた唯一の野生菊で、秋遅く開花する。和名は、茎や葉の香りが龍腦に似ているからである。

関連文献

保草本 I p.60, 平新版 5 p.337.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）キク科>

アキノハハコグサ *Pseudonaphthium hypoleucum* (DC.) Hilliard et B.L.Brutt

評価理由

全国的に減少傾向の著しい草地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全国 2025	絶滅危惧 IB 類

形態

1年生草本。茎は直立して上部で分枝し、高さ 40～100cm、白い綿毛がある。葉は多数ついて互生し、披針形、長さ 3～6cm、幅 2.5～7mm、表面は緑色、裏面は白い綿毛があり、基部は茎を抱く。花期は 9～10 月、頭花は茎の先端部に散房状に密集してつき、黄色、総苞は長さ約 4mm、小花はすべて筒状花である。

分布の概要

市内：3 千種区（東山公園、稲垣貫一 s.n., 1936-10, CBM115188）で採集された標本がある。

県内：県 RDB2020 p.361 参照。東三河北部の山地に点在するが、稀である。以前は西三河の低山地にも点在していたらしい。しかし尾張では、上記標本が唯一の資料である。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陆、東南アジア、インド。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地のやや乾いた日当りのよい場所に生育する。しばしば道路わきの崖状地に生育している。名古屋市でもおそらく同様の場所に生育していたものと思われる。どうということのない場所に生育しているが、それでいてなかなか見ることができない植物である。

過去の生育状況／絶滅の要因

標本は高さ 60cm ほどの個体である。森林化の進行に伴う草地の減少により絶滅したものと思われる。

保全上の留意点

尾張における現在の分布状況から見て、再発見は困難と思われる。

特記事項

ハハコグサも秋に開花することがあるが、それからは全体に大型で茎の上部で分枝し、葉が多数つき、表面が緑色であることで区別できる。ハハコグサは茎の下部で分枝することはあるが、茎の上部で大きく分枝することはない。

関連文献

保草本 I p.73, 平新版 5 p.349, SOS 旧版 p.87.

(芹沢俊介)

維管束植物<種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) キク科>

オナモミ *Xanthium strumarium* L. subsp. *sibiricum* (Partin ex Widder) Greuter**評価理由**

愛知県では極めて希少で、全国的にも減少傾向の著しい人里植物。名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全国 2025	絶滅危惧 II 類

形態

大型の1年生草本。茎は高さ1m以上になるが、愛知県に現存するものは30cm程度である。葉は互生し、長さ4~10cmの柄があり、葉身は卵状三角形~卵状五角形、長さ6~15cm、浅く3~5裂し、基部は心形、辺縁には不揃いな欠刻状の鋸歯がある。花期は8~9月、頭花は単性で、雄頭花は葉腋から出る短い円錐花序につき、雌頭花はその基部につく。果期の雌頭花は楕円形のいが状になり、先端に2個の嘴があり、嘴を含めて長さ10~15mm、表面は毛が多く光沢がない。いがの周囲の刺はオオオナモミに比べてまばらで短く、長さ1.5~2mmである。

分布の概要

市内：11 南区（富部、井波一雄 s.n., 1979-11, CBM204341, 写真は2010年版図版1図3）で採集された標本がある。

県内：県 RDB2020 p.189 参照。最近確認されているのは美浜南知多の1カ所のみである。過去の記録としては、名古屋市のほか新城（1940年）、豊橋南部（1942年）、田原西部（1963年）で採集された標本が残されている。

国内：北海道、本州、四国、九州、琉球。かつては全国各地の路傍等に普通に見られたというが、現在では容易に見ることができない植物である。古い時代にアジア大陸から帰化したものという説もある。

世界：ユーラシア大陸に広く分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

路傍、空き地などの攪乱地に生育する。

過去の生育状況／絶滅の要因

詳細は不明であるが、近縁の帰化種であるオオオナモミとの直接競合や交雑により絶滅したと思われる。

保全上の留意点

全国的な状況から見て、再発見は困難と思われる。

特記事項

愛知県ではしばらく現存が確認できなかったが、2006年に小林元男氏によって南知多町で再確認された（小林・深谷, 2008）。しかしこの場所でも、最近の調査では生育を確認できなかった。

引用文献

小林元男・深谷昭登司, 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.209, 266. 佐久島会, 刈谷.

関連文献

保草本 I p.89, 平新版 5 p.362.

長田武正, 1976. 原色日本帰化植物図鑑 p.84, 85. 保育社, 大阪.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) スイカズラ科>

オトコエシ *Patrinia villosa* (Thunb.) Juss.**評価理由**

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。長い走出枝を出し、その先に新株をつくる。茎は高さ 60~100cm、全体に毛が多い。葉は対生し、下部のものには柄があり、葉身は頂小葉が著しく大きい羽状に深裂するか、または裂けずに鈍鋸歯縁となる。花期は 8~10 月、枝先に上部がほぼ平らの集散花序を散房状につける。花は多数つき、白色、花冠は 5 裂し、直径約 4mm、距はない。果実は倒卵形で長さ 2~3mm、小苞が発達した円心形の翼がある。

分布の概要

市内：4 天白区（御幸山、渡邊幸子 s.n., 1980-9-7, A）に生育していた。1 守山区にもあったらしいが、標本資料を採取しないうちに消滅してしまった。

県内：山地には普通に見られるか、丘陵地では少ない。1（大沼上、芹沢 67348, 1993-9-2）、2（古真立、芹沢 100994, 2022-10-15）、3（三ツ瀬、芹沢 62452, 1992-8-15）、4（箱淵、芹沢 67387, 1993-9-3）、6（東納庫、芹沢 77556, 2001-8-26）、8（鳳来寺山、加藤等次 1789, 1992-8-22）、9（芹沢 104385, 2024-9-21）、11（菅沼、芹沢 67995, 1993-9-24）、12（上平井、小林 53521, 1994-9-4）、13（長沢、瀧崎吉伸 17966, 2000-8-24, T）、14（相楽町、鈴木美恵子 227, 1992-9-13）、15（嵩山町、芹沢 42021, 1985-9-9）、5（林道稲橋滝ヶ洞線、鈴木 学 1611, 1983-8-7）、19（日下部、芹沢 62535, 1992-8-22）、20（下国谷、鈴木万里亜 990, 1995-9-25）、21（梶、長谷川朋美 758, 1992-9-5）、22（築平、伊藤泰輔 110, 1992-9-27）、23（折平、塚本威彦 284, 1992-8-6）、24（西広瀬町、芹沢 66706, 1993-7-27）、25（猿投山、土場トシ子 194, 1992-8-30）、28（細光、福岡義洋 1158, 1990-8-21）、29（小丸町、杉田一記 2293, 2011-9-13）、30（山綱町、本多さおり 704, 1994-9-1）、36（東幡豆、壁谷重美子 1026, 1994-9-21）、37a（広久手町、芹沢 76192, 1999-8-23）、39b（栄町、浅野守彦 1817, 2003-9-27）、44b（豊浜、大西 博 955, 1992-8-30）、45（栗栖、平嶋 敏 926, 1989-8-17）、48（外ノ原町、秋山葉子 116, 1993-9-19）などで確認されている。7（田口、恒川敏雄 695, 1954-8-21, T）で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、四国、九州、琉球（奄美）。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

山地の林縁や攪乱跡地などに生育する。オミナエシと異なり、定期的に草刈りが行われる草地に依存する植物ではない。山地ではオミナエシよりずっと多いが、丘陵地では逆にオミナエシよりずっと少ない。

過去の生育状況／絶滅の要因

天白区では林の間の道沿いに数株生育していたという。守山区では丘陵地の中の広場状の場所に数株生育していたらしい。どちらの場所でも土地造成により生育地が破壊され、絶滅した。

保全上の留意点

再発見できる可能性は低い、皆無ではない。

特記事項

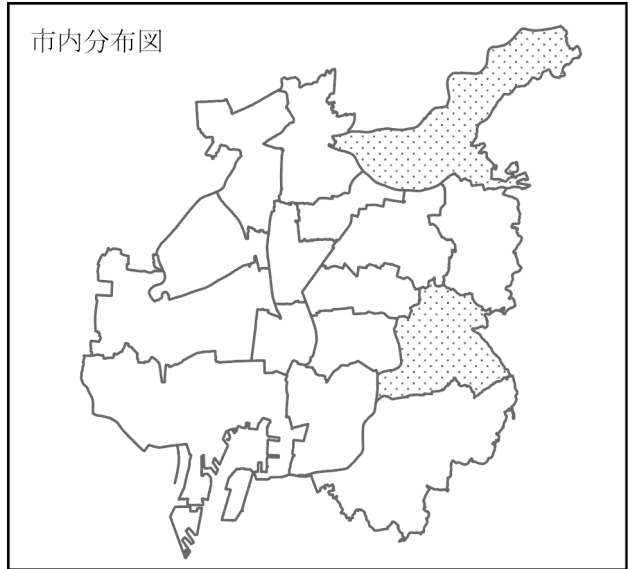
腐った豆腐のような悪臭があるため、中国では「敗醬」と呼ばれる。和名はオミナエシに似て強壯だからである。

関連文献

保草本 I p102, 平新版 5 p.423.

(芹沢俊介)

市内分布図



維管束植物 <種子植物 裸子植物 イチイ科>

ハイイヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight ex Forbes) K.Koch var. *nana* (Nakai) Rehder**評価理由**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県西部分布階級 4、総点 16。日本海系の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少なく、また県内丘陵地の生育地点としては唯一のものである。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の低木。幹の下部は地をはい、ときに多数の幹をだす。枝条は斜上して高さ 1-2m になる。葉は水平に 2 列にならび、線形で長さ 25-35mm、幅 2.5-3mm、イヌガヤより短く幅も狭く、先は短くとがるが触っても痛くない。花期は 3-4 月、雌雄異株、雄花は前年枝の葉腋につき、球形で 7-12 個の雄蕊がある。雌花は市内では確認できていない。

分布の概要

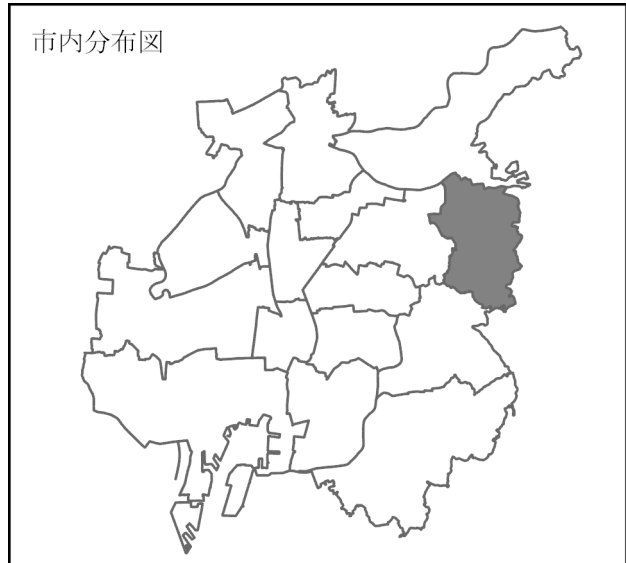
市内：2 名東区（明徳公園、長谷川 16, 2021-02-28, N）に生育している。

県内：日本海系の植物で、名古屋市以外の県内産地は北部の山地に限られる。2（茶臼山、芹沢 63243, 1992-9-9）、4（檜原、小林 52594, 1994-7-10）、6（段戸山裏谷、芹沢 85165, 2009-10-10）、5（面ノ木峠、鈴木 学 2495, 1983-9-29）、20（大多賀、日比野修 3614, 1996-7-17）、22（梅ヶ洞、日比野修 3466, 1996-6-16）、37a（三国山、日比野修 3607, 1996-7-13）などで確認されている。

国内：北海道（西部）、本州（主として日本海側）、四国。

世界：日本固有。基準変種のイヌガヤは、日本、朝鮮半島、中国大陸東北部に分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

北海道、本州、四国の多雪地に生育するイヌガヤの低木性変種であるが、名古屋市では丘陵地の尾根付近のやや疎なアカマツ・コナラ林内に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

地面に接した枝から発根した幼株を含めると、3 株ほどがまとまって生育している。過去からの増減は不明である。

保全上の留意点

生育地は保全緑地内であるが、本種については特に個別的な保全が必要である。

特記事項

愛知県尾張地区の丘陵地には、本州脊梁山脈の切れ目である関ヶ原に近いこともあって日本海側の山地に分布の中心を持つ植物がいくつか生育しているが、その中でも本種は、イワナシ（県 RDB2020 p.168 参照）と共に最も顕著な事例の一つである。

関連文献

保木本 II p.450, 平新版 I p.42.

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 裸子植物 イチイ科>

カヤ *Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc.**評価理由**

個体数階級 4、集団数階級 4、県西部分布階級 3。名古屋市ではただ 1 株が残存しているだけで、定性的に絶滅危惧 IA 類と評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の高木。高さ 25m に達する。樹皮は灰褐色～赤褐色で、浅く縦裂する。葉は 2 列に並び、線形、長さ 20～30mm、幅 2～3mm、先は鋭く触れると痛い。裏面には白色の気孔帯が 2 条ある。花期は 4～5 月、雌雄異株で、雄花は前年枝に多数つき、長楕円形で長さ約 1cm。雌花は前年枝の先に数個つき、うち 1 個が翌年の 10 月に熟す。種子は倒卵状楕円形、長さ 20～30mm、幅 10～15mm、はじめ緑色、のち紫褐色になる仮種皮に包まれる。

分布の概要

市内：7 中区（名古屋城、芹沢 78088, 2002-9-14, A、剪定された枝を拾ったもの）に築城以前からあったと伝えられる古木が 1 株あり、国指定の天然記念物として保護されている。

県内：東三河、西三河の山地には点在しているが、標本は 2（坂宇場、芹沢 63259, 1992-9-9）、4（天狗棚、鈴木 学 2683, 1983-10-6）、6（駒ヶ原、瀧崎吉伸 21741, 2004-10-30, T）、7（岩古谷山、芹沢 63031, 1992-9-4）、13（上長山～本宮山、小林 39550, 1992-9-20）、14（西迫町、井上美保子 764, 1993-4-17）、15（石巻山、瀧崎 11002, 1989-7-8）、20（月原、日比野修 3296, 1996-4-17）、21（東大沼、芹沢 62834, 1992-8-27）、22（坊洞、日比野修 2075, 1994-5-5）、23（三国山、日比野修 2764, 1995-4-29）、25（猿投山、芹沢・磯貝 59, 1984-7-24）、28（本宮山、小林 49207, 1993-10-30）などで、蓄積がやや不十分である。尾張では名古屋市のほか 45（入鹿、小林 49062, 1993-10-23）に自生のものが生育している。8（河合、恒川敏雄 41, 1946-1-16, T）で採集された標本もある。

国内：本州（宮城県以南）、四国、九州（南限は屋久島）。

世界：日本および朝鮮半島南部。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

通常は山地の沢沿いなどに生育する。

現在の生育状況／減少の要因

自生と伝えられているが、現在は庭園樹状態になっており、「野生絶滅」と判定する方が適切かもしれない。戦災で半分以上焼けたが、その後回復し、現在も樹勢は良好である。

保全上の留意点

天然記念物に指定されており、現在の管理を継続すればそれで十分である。

特記事項

名古屋城築城時に名古屋市域に生育していたが現在では絶滅してしまった植物は、他にもたくさんあると思われる。本種は記録が残されているためレッドデータブックに掲載したが、もし記録がなければ、名古屋市の自生植物リストから除外されたはずである。天白区（天白町平針黒石、中島ひろみ 305, 2018-10-30, N）で採集された標本もあるが、植栽の可能性がないか、更に検討が必要である。

関連文献

保木本 II p.452, 平新版 I p.43.

愛知県教育委員会社会教育課. 1968. 天然記念物（植物）緊急調査報告. 68pp. 同委員会.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 I 群 (原始被子植物) スイレン科>

オニバス *Euryale ferox* Salisb.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 4、総点 17。全国的にも減少傾向の著しい植物で、絶滅に瀕している水草の代表的な存在である。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全 国 2025	絶滅危惧 II 類

形態

浮葉性の 1 年生水草。茎は塊状で葉を束生する。ときには 2m を超えるような大きな水上葉をつけるが、名古屋市に現存するものは 30~40cm 程度で、稀に 70cm くらいになる。水上葉にはしわがあり、裏面は鮮やかな赤紫色で葉脈が椀状に隆起し、両面の脈上に鋭い刺がある。花期は 8~10 月、花には水中で自家受粉して結実する閉鎖花と水上に出て開花する開放花があり、開放花は直径 4cm くらいで、長い花茎に頂生し、昼に開き、夜に閉じる。がく片は 4 枚、外側は緑色で刺があり、内側は紫色、花弁は紫色で多数つく。果実は楕円形で長さ 5~13cm、幅 5~10cm、鋭い刺がある。

分布の概要

市内: 7 中区 (名古屋城外堀、中村肇 172, 2012-11-13, N など) に生育している。

県内: 県 RDB2020 p.100 参照。名古屋市以外では、田原東部 (芦ヶ池) と 40b 東浦 (飛山池) で採集された標本があるが、どちらの場所でも現存を確認できない。東浦では域外保全された個体に由来する種子の播種によって僅かに生育している。

国内: 本州 (宮城県以南)、四国、九州。

世界: 日本、台湾、中国大陸南部、インドなどに分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

やや富栄養化した湖沼やため池、河川などに生育する。

現在の生育状況／減少の要因

2012 年に再確認され、この時は名古屋城外堀北東部のヨシ帯付近に僅かに生育していた。その後しばらくは毎年数株の生育が確認される程度だったが、2022、2023 年には約 20 株が確認され、特に 2023 年は開花株もあって、近年では一番良好な生育状況であった。しかし 2024 年は 5 株の確認にとどまり、葉も生育不良で開花は確認できなかった。ミシシippアカミミガメ、コイなどによる食害が懸念される。

保全上の留意点

生育地の水質を維持するとともに、改修の際には慎重な配慮が必要である。また、生育期には急激な水位変動を避けるべきである。

特記事項

とげだらけで、かつては駆除に苦労した水草であつたらしい。

関連文献

保草本 II p.253, 平新版 I p.46, SOS 旧版 p.51+図版 20.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.109. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.39. 文一総合出版, 東京.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 I 群 (原始被子植物) クスノキ科>

ヒメクロモジ *Lindera lancea* (Momi.) H.Koyama**評価理由**

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1。山地に行けば普通に見られる植物だが、丘陵地では稀少である。名古屋市では生育地も個体数も少ない。最近の調査では現存を確認できなかったが、再発見される可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 IA 類と評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の低木。高さ数 m になる。若枝は黄緑色で無毛。葉は互生し、長さ 0.4~1cm の柄があり、葉身は菱状長楕円形、長さ 6~10cm、幅 2~3cm、先端は鋭尖頭になる。葉裏は帯白色、若時絹毛が多く、毛は成葉でも残存する。花は 4 月に咲き、黄緑色で直径 6~7mm、3~5 個が散形につく。花柄は長さ 2~3mm で短く、花柄の毛は赤味を帯びることが多い。果実は球形、直径 5~6mm、秋に黒色に熟す。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷、鳥居ちゑ子 1520, 1998-10-19, A）に生育していた。

県内：県 GDB2017 p.223 参照。山地には広く分布しているが、東三河の標高の低い場所では稀である。西三河や尾張ではクロモジよりずっと多く、また標高の低いところまで生育している。県西部では、名古屋市のほか豊田東部、豊田北西部、岡崎北部、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井で確認されている。

国内：本州（静岡県～紀伊半島）、四国（東部）。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

自然林、二次林、人工林の下層木として生育し、沢沿いから尾根まで見られる。クロモジと同じような場所に生育し、しばしば混生するが、西三河中西部の豊田旧市域、岡崎旧市域や尾張のクロモジ類はほとんどが本種である。

現在の生育状況／減少の要因

1998 年には二次林内に少数株が生育していたと聞いている。林の状態は特に変化してはいないので、更に探索する必要がある。

保全上の留意点

種子は鳥によって散布されるので、そのうちに他の場所で再出現する可能性もある。

特記事項

クロモジに似ているが、花序が小さく（従って秋期の花芽も細い）、小花柄の毛は赤褐色を帯び、葉柄は短く、葉身先端部は鋭く尖り、葉裏はより白色を帯びて絹毛が多いことで区別できる。ただし、葉だけの標本では識別が難しいこともある。

関連文献

- 保木本 II p.192, 平新版 I p.83.
 小山博滋, 1987. クロモジ群の分類と分布. 植物分類地理 38:161-175.
 芹沢俊介, 2009. クロモジとヒメクロモジ. くさなぎおごけ(3):8-10.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) サトイモ科>

スルガテンナンショウ *Arisaema sugimotoi* Nakai

評価理由

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1。山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。現状は絶滅状態であるが、東谷山などには残存している可能性があるため、定性的に絶滅危惧 IA 類と評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下茎は扁球形、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は通常 2 個、第 1 葉の葉鞘は長さ 20~50cm、葉身は鳥足状に分かれ、小葉は 7~17 枚、葉軸はよく発達し、小葉は長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯牙状の細鋸歯がある。第 2 葉は通常小さく、特に柄部分は短いことが多い。花期は 4~5 月、仏焰苞は葉よりやや早く開き、葉とほぼ同じ高さにつき、通常緑色、まれに帯紫色、筒部は長さ 4~7cm、口辺は狭く開出し、舷部は卵形、長さ 6~先端は鋭尖頭、内面は微小な乳頭状突起を密生し、帯白色になる。花序は肉穂状、偽雌雄異株、付属体先端は通常急にふくらんで前屈し、幅 5~7mm になるが、時には多少ふくらむだけの個体もある。

分布の概要

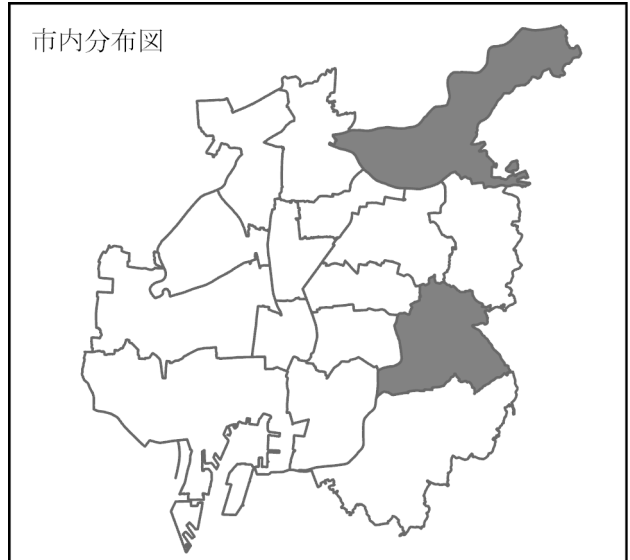
市内：1 守山区（上志段味東谷山、鳥居ちゑ子 1053, 1996-5-4, A）、4 天白区（相生山緑地、渡邊幸子 5018, 2002-4-6, A）に生育している。

県内：県 GDB2017 p.227 参照。東三河と西三河の山地には普通に見られるが、丘陵地では極めて少ない。県西部では名古屋市のほか、藤岡、豊田東部、豊田北西部、岡崎北部、岡崎南部、幸田、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、小牧、春日井に生育している。

国内：本州（静岡県、長野県南部、愛知県、岐阜県）。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地の林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では点在していたが、個体数は極めて少なく、最近は見えていない。天白区では相生山緑地にごく少数の株が生育していたが、ここでも最近は見えていない。

保全上の留意点

相生山緑地は、周囲が市街地化された中で里山状態がよく保たれており、本種を含む多くの希少な植物が生育している。特に注意して保全していく必要がある。この場所では多くの市民団体が自然とのふれあい活動を楽しんでいるが、活動の際には「他の場所から植物を持ち込まない」という原則を厳守しなければならない。持ち込み行為があると、本種のような希少な植物が発見された場合でも、それが保全の対象かむしろ除去すべきものか、わからなくなってしまう。

特記事項

市内に生育するテンナンショウ類（ウラシマソウ、ムサシアブミを除く）としては、唯一のものである。

関連文献

保草本Ⅲp.209, 平新版 1 p.104.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) トチカガミ科>

セトヤナギスブタ *Blyxa alternifolia* (Miq.) Hartog

評価理由

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級階級 3、総点 17。減少傾向の著しい水草で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全 国 2025	絶滅危惧 IA 類

形態

沈水生の 1 年生草本。茎は長さ 2～5cm になり、多数の葉を密につける。葉は線形、長さ 6～10cm、幅 3～5mm、先はしだいに細くなり、辺縁に細かい鋸歯がある。花期は 7～10 月、花は葉の間から出て、両性、円筒形で長さ 3～5cm の苞鞘があり、花弁は 3 個で白色、狭線形、長さ約 13mm である。種子は紡錘形、長さ約 2mm、尾状突起はなく、表面に 2～10 個の低い隆起がある。

分布の概要

市内：1 守山区 (吉根、村松 31437, 2020-8-9, N) に生育している。ただし同所にマルミスブタ、ヤナギスブタも生育しているので、人為的移入の可能性は否定しきれない。

県内：県 RDB2020 p.106 参照。名古屋市のほか、19 旭、37a 瀬戸、37b 尾張旭、38a 長久手、44b 南知多で確認されている。42c 武豊で採集された標本もある。

国内：本州 (中部地方以西)。

世界：東南アジア。

生育地の環境／生態的特性

水田やその周辺の小水路に生育する。名古屋市の生育地は辛うじて残された谷戸田である。

市内分布図



現在の生育状況／減少の要因

1 カ所で確認されているだけで、個体数も 2015 年は 2～3 株 (1 年生草本なので個体数階級は 4)、16 年もその程度であった。過去からの増減は不明であるが、耕作が放棄されればすぐに消滅する可能性が高い。

保全上の留意点

丘陵地の谷戸田は、周辺の里草地や二次林と共に、多様な生物の生育場所となっている。文化遺産としても重要である。注意して地形を保全すると共に、土地所有者が耕作を継続できるよう、あるいはそれが不可能なら、代表的な場所だけでも市民参加等の方策を講じて耕作状態を維持する努力が必要である。

特記事項

日本では愛知県瀬戸市で初めて確認された植物である (浜島 1982)。スブタとヤナギスブタの中間のような形態をしており、ヤナギスブタからは茎が短く、葉が長いことで区別できる。小型の個体は茎がほとんど伸長せず、むしろスブタと紛らわしい。

引用文献

浜島繁隆. 1982. 日本新産セトヤナギスブタ (新称). 植物研究雑誌 57: 223-224.

関連文献

平新版 1 p.119, SOS 旧版 p.89+図版 24, SOS 新版 p.126,128.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.24. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド. 日本のお花 p.85. 文一総合出版, 東京.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) トチカガミ科>

マルミスブタ *Blyxa aubertii* L.C.Rich.**評価理由**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級階級 3、総点 17。減少傾向の著しい水草で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全 国 2025	絶滅危惧 II 類

形態

沈水性の 1 年生草本。茎は短く、多数の葉を束生する。葉は線形、長さ 8~20cm、幅 4~6mm、先端はしだいに細くなり、辺縁に細かい鋸歯がある。花期は 8~10 月、花は葉の間に束生し、両性、苞鞘は円筒形で長さ 3~5cm である。種子は楕円形で尾状突起がなく、長さ約 1.5mm、表面には縦方向に稜があり、細かい突起が散在する。

分布の概要

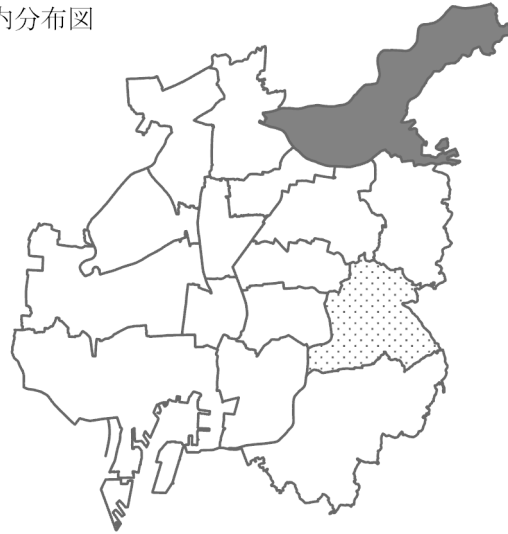
市内：1 守山区（吉根、村松 28146, 2015-10-5, A）に生育している。天白区（平針、井波一雄 s.n., 1967-9-16, CBM130670）で採集された標本もある。

県内：県 RDB2020 p.402 参照。名古屋市のほか、21 下山、24 豊田東部、45 犬山（花は紅紫色）、48 春日井の 4 区画で確認されている。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インド、オーストラリア。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

名古屋市では辛うじて残された谷戸田に生育していたが、ここ数年は現存を確認できない。愛知県および岐阜県南部で確認した限りでは、名古屋市以外の生育地はいずれも丘陵地または山間部の水のきれいなため池である。

現在の生育状況／減少の要因

1 カ所でセトヤナギスブタと共に確認されているだけで、個体数も 2~3 株であった。過去からの増減は不明であるが、耕作が放棄されればすぐに消滅する可能性が高い。

保全上の留意点

丘陵地の谷戸田は、周辺の里草地や二次林と共に、多様な生物の生育場所となっている。文化遺産としても重要である。注意して地形を保全すると共に、土地所有者が耕作を継続できるよう、あるいはそれが不可能なら、代表的な場所だけでも市民参加等の方策を講じて耕作状態を維持する努力が必要である。

特記事項

スブタからは種子に尾状突起がないことで区別されるが、この特徴を確認しない限り識別は困難である。

関連文献

- 保草本Ⅲp.396, 平新版 1 p.119.
 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.24. 文一総合出版, 東京.
 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド.日本の水草 p.87. 文一総合出版, 東京.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ユリ科>

カタクリ *Erythronium japonicum* Decne.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県西部分布階級 2、総点 16。代表的な早春植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下に筒状長卵形で長さ 5~6cm の鱗茎がある。花茎は高さ 10~20cm、葉はその下部に通常 2 個つき、長い柄があり、葉身は長楕円形または狭い卵形、長さ 6~12cm、先は鋭頭で鈍端、基部はくさび形で葉柄に流れ、全縁で両面無毛、黄緑色で暗紫色の斑紋がある。花期は 3 月末~4 月、花は花茎の先端に斜め下向きに 1 個つき、日中開花し、花被片は 6 枚、披針形で長さ 4~5cm、紅紫色で基部近くに W 字状の濃紫色の斑紋がある。蒴果は 3 稜形、長さ 12~15mm である。

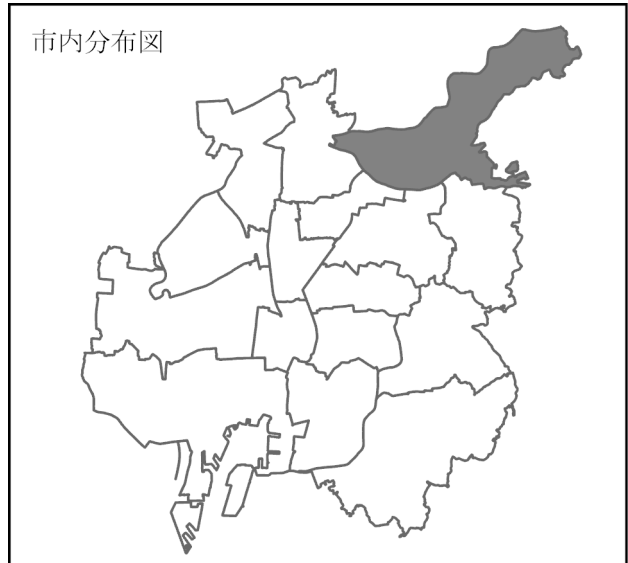
分布の概要

市内：1 守山区 (鳥居ちゑ子 842, 1995-4-30, A) に生育している。

県内：愛知県では生育地の限られた植物で、名古屋市のほか、3 東栄 (芹沢 86726, 2011-4-17)、6 設楽西部 (芹沢 54675, 1990-4-29)、8 鳳来北東部 (芹沢 86718, 2011-4-17)、12 新城 (小林 18335, 1978-4-5)、15 豊橋北部 (瀧崎 12882, 1992-4-5)、19 旭 (小林 42175, 1993-5-2)、20 足助 (鈴木万里垂 97, 1995-4-1)、23 藤岡 (塚本威彦 467, 1993-4-7)、25 豊田北西部 (山崎玲子 2245, 2001-4-4)、37a 瀬戸 (日比野修 85, 1992-3-26)、45 犬山 (芹沢 80496, 2006-4-12) などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州に分布するが、四国や九州では少ない。

市内分布図



世界：千島列島南部、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

本来は山地や丘陵地の落葉広葉樹林内に生育するが、里草地に生育することも造林地の林縁などに残存していることもある。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市では小群落があるだけで、個体数も極めて少なく、2014 年は 3 個体開花していただけである。未開花個体も少ない。園芸目的で採取されれば、容易に絶滅してしまう。採取されなくても訪れる人が多くなれば、踏み荒らし等の攪乱が懸念される。

保全上の留意点

園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる攪乱を防止するため、分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

特記事項

和名は、古名の「かたかご」から「かたこゆり」、さらに「かたくり」に転じたとされる。古くは鱗茎からでん粉 (かたくり粉) を採取した。

関連文献

保草本Ⅲp.117, 平新版 1 p.169.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ユリ科>

ヤマユリ *Lilium auratum* Lindley

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県西部分布階級 4、総点 18。白色の大きい花をつけるユリで、名古屋市を含む尾張では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下に扁球形で直径 6~10cm の鱗茎がある。茎は直立することも崖などから斜めに垂れることもあり、長さ 1m 以上になる。葉は互生し、短い柄があり、葉身は披針形、長さ 12~18cm、先端は鋭尖頭である。花期は 7~8 月、花は茎の先端に 1~15 個が横向きにつき、広杯形、花被片は 6 枚、外片は広披針形、内片は楕円形で長さ 10~18cm、先端は反りかえり、白色で中央に黄色条、そのまわりに赤褐色の斑点があり、基部内面に突起がある。蒴果は長楕円形、長さ 5~8cm である。

分布の概要

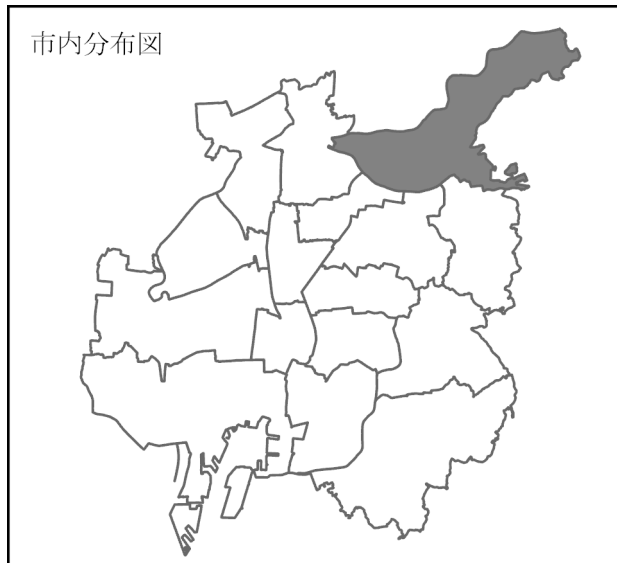
市内：1 守山区 (村松 31432, 2020-7-24, N) に生育している。

県内：東三河では 2 (大入溪谷, 加藤等次 3261, 1993-7-6)、3 (下田, 小林 45548, 1993-7-24)、4 (白鳥山, 小林 46053, 1993-8-8)、6 (三都橋, 小林 45831, 1993-8-1)、7 (荒尾, 芹沢 62325, 1992-7-28)、9 (乗本, 芹沢 59243, 1991-7-24)、12 (市川, 芹沢 101958, 2023-7-7)、17 (赤羽根町高松北, 小林 45103, 1993-7-10)、18 (江比間町, 芹沢 84068, 2009-5-24) などに生育しているが、西三河とそれに接する瀬戸市周辺には生育しておらず (21 下山で採集された標本はあるがおそらく植栽由来)、尾張では 45 (善師野, 芹沢 81852, 2007-7-25) と名古屋市に生育しているだけである。

国内：本州 (東北地方~近畿地方) に分布する。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地の林縁や明るい林内に生育する。崖地に生育することもある。

現在の生育状況／減少の要因

ももとは隣接した 3 地点に十数株生育していたらしいが、1 地点は盗掘されてなくなり、1 地点はササに被陰されて幼株がわずかに残る状態であった。残りの 1 地点では、2020 年には花を 1 個つけた高さ 1m 程度の個体が 3~4 株確認できた。未開花の幼株もあった。生育地はすぐ近くまで開発が進んでおり、いつ破壊されるかわからない状態であるが、その一方で詳細な場所を公表すれば、園芸目的の採取により瞬時にして消滅する可能性が高い。

保全上の留意点

何はともあれ、生育地の丘陵の地形を保全することが必要である。園芸目的の採取については、基本的には公共の資産である自然物を個人の庭に取り込もうという山草愛好家のモラルが問題である。周囲の市民が山草栽培に厳しい目を向け、「自然の植物は自然の中で」というルールを徹底させていくことが必要である。

特記事項

西三河とそれに接する瀬戸市周辺では自生地がないが、生育地の状況からは逸出とは考えにくい。尾張に隣接する岐阜県側にも見られるので、本来の自生と考えてよいと思われる。上述したように、詳細な分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

関連文献

保草本Ⅲp.130, 平新版 1 p.173.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ユリ科>

コオニユリ *Lilium leichtlinii* Hook.f. form. *pseudotigrinum* (Carriere) H.Hara et Kitam.**評価理由**

生育環境階級 4、人為圧階級 4、県西部分布階級 1。草地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。現存は確認できないが、再発見される可能性を考慮し、絶滅危惧 IA 類と評価した。

形態

多年生草本。地下にほぼ球形の鱗茎がある。茎は直立し、分枝せず、高さ 70~150cm になる。葉は多数つき、無柄、葉身は線状披針形、長さ 8~14cm、幅 5~12mm、先端は鋭頭~鋭尖頭、はじめは少し白綿毛があるが、後に両面無毛となる。花期は 7~8 月、花は茎の先端に 2~10 個が斜め下を向いてにつき、花被片は 6 枚、橙赤色で濃色の斑点があり、被針形、長さ 6~8cm、強く反りかえる。蒴果は楕円形、長さ約 3cm である。

分布の概要

市内：1 守山区 (鳥居ちえ子 1997, 2001-7-26, A) に生育しており、2015 年にも 1 株確認された。生育環境は残されている。

県内：東三河と西三河の山地には点在しており、1 (大沼上, 芹沢 67360, 1993-9-2)、2 (新野峠, 芹沢 56166, 1990-7-31)、4 (白鳥山, 石田雄吉 495, 1979-8-10)、6 (東納庫, 芹沢 53586, 1989-8-11)、7 (岩古谷山, 芹沢 62300, 1992-7-28, 葉細い)、9 (竹ノ輪, 芹沢 59271, 1991-7-24)、11 (中河内, 芹沢 56511, 1990-8-24)、13 (平尾町, 青山正宏 125, 1993-8-19)、15 (岩崎町, 瀧崎 9628, 1987-8-10)、16 (東細谷町, 小林 66890, 1999-8-13)、17 (野田, 芹沢 56321, 1990-8-9)、18 (伊良湖岬, 芹沢 52340, 1989-7-17)、5 (中当, 芹沢 55957, 1990-7-25)、19 (名柳, 日比野修 1648, 1993-8-24)、20 (追分, 新井文子 860, 1994-7-28)、21 (田平沢, 芹沢 62855, 1992-8-27)、22 (北, 伊藤泰輔 237, 1993-8-22)、24 (西広瀬町, 芹沢 67183, 1993-8-27)、27 (福谷, 臼井里華 635, 1992-7-31)、28 (檜山, 福岡義洋 928, 1990-7-24)、29 (切越町, 芹沢 67131, 1993-8-25)、30 (桑谷町, 本多さおり 629, 1994-8-14)、33 (木戸町 矢作川, 中村さとこ 675, 1993-8-11)、34b (矢作川, 芹沢 66757, 1993-9-5) などで確認されている。25 (猿投山, 岡本英一 253, 1958-7-31) で採集された標本もある。尾張では少なく、名古屋市のほかには 37a (海上町, 芹沢 76110, 1999-8-7)、41b (佐布里, 村松 28315, 2016-7-29)、48 (木附町, 日比野修 3013, 1995-7-29) で確認されているにすぎない。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー。

生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地の日当たりのよいやや湿った草地に生育する。岩場に生育することもある。

現在の生育状況／減少の要因

もともと個体数は少なく、しかも開花した次の年にはたいていなくなってしまう。草地の縮小も圧迫要因であるが、当面はそれよりも園芸目的の採取が問題である。

保全上の留意点

基本的には、公共の資産である自然物を個人の庭に取り込もうという山草愛好家のモラルが問題である。周囲の市民が山草栽培に厳しい目を向け、「自然の植物は自然の中で」というルールを徹底させていく必要がある。

特記事項

園芸目的の採取を防止するため、詳細な分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。オニユリ *L. lancifolium* Thunb. もしばしば逸出して野生化しているが、それからは花がやや小型で、葉腋にむかごが付かないことで区別できる。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 9 に掲載されている。

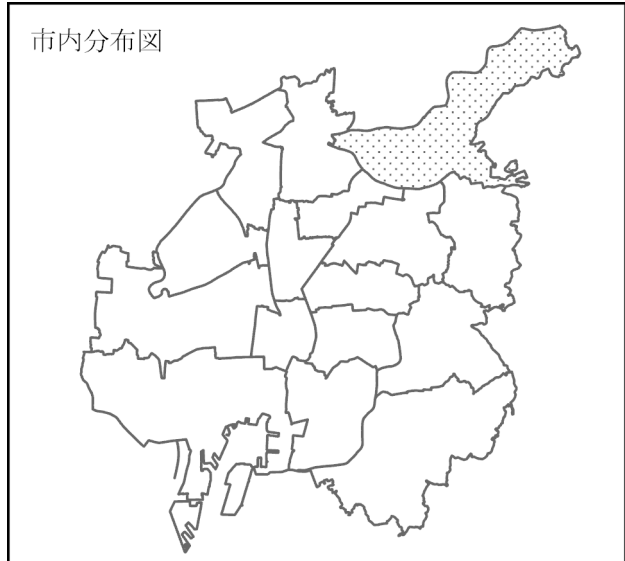
関連文献

保草本Ⅲp.226, 平新版 1 p.173.

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

市内分布図



(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

ナツエビネ *Calanthe puberula* Lindl.

評価理由

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県西部分布階級 3、総点 18。名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない植物で、園芸目的の採取圧も高い。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全国 2025	絶滅危惧 II 類

形態

地上生の多年性草本。葉は 3-5 個束生し、狭長楕円形、長さ 10~25cm、幅 3~6cm、先端は鋭尖頭、表面は光沢がなく白みをおびた緑色で、縦じわが多い。花期は 7-8 月。花茎は高さ 20cm-40cm で、上部に 10~20 個の花をまばらに総状につける。苞は披針形、長さ 1~2cm、鋭尖頭である。花は淡紫色、萼片は長さ 15-20mm、背萼片は狭卵形、側萼片は斜卵形で、いずれも鋭尖頭、反曲する。

分布の概要

市内：2 名東区（長谷川 1100, 2024-08-01, N）に生育している。

県内：県 RDB p.409 参照。県内ではあまり多くない植物で、設楽西部、鳳来北東部、鳳来南部、作手、蒲郡、瀬戸尾張旭、春日井で確認されている。西三河ではまだ発見されていない。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

温帯～暖帯のよく成長した林の、やや湿った林床に生育する。市内でも空中湿度が保たれた湿潤な林内に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

現地では 3 株が確認されているが、開花するのは 1 株のみ（そのため個体数階級は 4）である。標本は花 1 個のみで、完全なものではない。過去からの増減は不明であるが、園芸目的の採取により消失する可能性がある。

保全上の留意点

緑地全体の水環境に配慮し、適度に湿った状態を維持する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、位置情報の公開には慎重な配慮が必要である。

関連文献

保草本Ⅲp.54, 平新版 1 p.188.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) ラン科>

オオミヤマウズラ *Goodyera crassifolia* H.-J.Suh et al.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県西部分布階級 2、総点 16。愛知県の湧水湿地周辺に分布の中心がある植物で、かつては比較的多い場所もあったが、近年激減している。名古屋市でも生育地、個体数共に少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全 国 2025	—

形態

常緑性の多年生草本。茎は横にはい、先端は直立して高さ 25～40cm になる。葉は直立部の基部に数個が互生し、長さ 0.5～1.2cm の柄があり、葉身は長卵形～楕円形、大きいもので長さ 4～6.5cm、幅 2～2.5cm、先端は鋭頭、表面は全体緑色のことが多いが白斑が入ることもある。葉柄の基部は葉鞘となって茎をつつむ。花期は 9 月、花は茎の上部に 0.7～2cm の間隔で 8～14 個つき、白色で平開せず、花被片は長さ 10～13mm、苞は広披針形で長さ 6～17mm である。

分布の概要

市内：1 守山区（芹沢 92748, 2017-7-29, A）に生育している。

県内：県 RDB2020 p.244 参照。名古屋市のほか、田原西部、旭、豊田北西部、幸田、西尾南部、瀬戸尾張旭、小牧、春日井の 8 区画で生育が確認されている。

国内：本州（関東地方南部～紀伊半島）、九州。四国にも分布していると思われる。

世界：日本、朝鮮半島。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

全国的には特に湿地性というわけではないが、愛知県では丘陵地の湧水湿地周辺に成立する湿地林内に生育することが多い。

現在の生育状況／減少の要因

1 カ所に少数個体が生育しているが、開花は確認していない。守山区の他の場所では開花していたが、そこでは近年生育が確認できない。愛知県全体でも近年激減してどこも僅かに残存しているという状態になってしまった。環境がほとんど変化していない場所でも減少していることから原因としては園芸目的の採取が疑われるが、確証はない。

保全上の留意点

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

特記事項

ミヤマウズラに似ているが、全体に大型、葉は白斑が入らないことが多く、花は大きくて平開せず、互いにやや離れてつき、花期も半月以上遅い。瀬戸市の一部ではミヤマウズラと混生しているが、形態的な差違は明瞭で中間型は出現しない。

関連文献

現在のところ公表されている一般的な文献はない。

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

シュスラン *Goodyera velutina* Maxim.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県西部分布階級 3、総点 16。愛知県では生育地が少なく、また園芸目的の採取により減少している植物で、名古屋市でも生育地、個体数共に少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全 国 2025	—

形態

多年生草本。茎は横にはい、先端は斜上して高さ 10～15cm になる。葉は数個が互生し、長さ 1～1.5cm の柄があり、葉身は長卵形、長さ 2～4cm、幅 1～2cm、先端は鋭頭、表面は紫色を帯びた暗緑色でビロード状の光沢があり、中央の白条が目立つ。葉柄の基部は葉鞘となって茎をつつむ。花期は 8～9 月、花は茎の上部に一方に偏って 4～10 個つき、淡褐色、苞は線状披針形、長さ 6～12mm である。がく片は狭卵形、長さ 7～8mm、花序の軸や子房と共に白色の短毛がある。側花弁は広倒披針形、背ががく片に接してかぶと状になり、唇弁はがく片とほぼ同長、基部はふくらみ、舷部は卵形で全縁、内面に毛がある。

分布の概要

市内：1 守山区（村松 28786, 2017-9-24, N）に生育している。

県内：県 RDB2020 p.415 参照。名古屋市のほか、豊川、蒲郡、幸田、西尾南部の 4 区画で確認されている。尾張では瀬戸尾張旭（上半田川町、日比野修 814, 1992-9-14）にもあったがここでは絶滅し、名古屋市は現存が確認できる唯一の自生地である。

国内：本州（関東地方南部以西）、四国、九州。

世界：日本および朝鮮半島。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

通常は低山地の常緑広葉樹林内に生育する。名古屋市の生育地は湿地に形成された二次林である。

現在の生育状況／減少の要因

小群落があり、2017 年には 20 株程度が開花していた。周辺には未開花株も多かった。瀬戸市では 2 カ所にあったようだが、山草愛好家に持ち去られたらしく、現在では見られなくなった。

保全上の留意点

開発により失われるおそれがあるが、その一方で園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

特記事項

和名は、光沢のある葉の感じを繻子に例えたものである。

関連文献

保草本Ⅲp.40, 平新版 1 p.205.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

ムヨウラン *Lecanorchis japonica* Blume**評価理由**

生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1。名古屋市では現存が確認できないが、再出現する可能性もあるので、定性的に絶滅危惧 IA 類と評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

腐生の多年生草本。地下茎は長さ 5~15cm、木質で硬く、はじめ下を向き、すぐ反転して屈曲しながらまばらに分枝し、地表近くまで伸びる。地上茎は直立し、高さ 20~50cm、淡褐色、3~7 個の鱗片葉を互生する。鱗片葉は長さ 7~15mm、先端は鋭頭である。花期は 5~6 月、花は茎の上部にややまばらに 4~10 個つき、長さ 6~15cm の総状花序となり、淡褐色で平開し、苞は三角形、長さ 3~7mm である。がく片と側花弁はほぼ同形、倒披針形で長さ 17~25mm、唇弁も倒披針形で長さ 15~20mm である。ずい柱側部の小突起はない。果実は線状楕円形で長さ 3~4cm、茎とともに乾くと黒色になる。

分布の概要

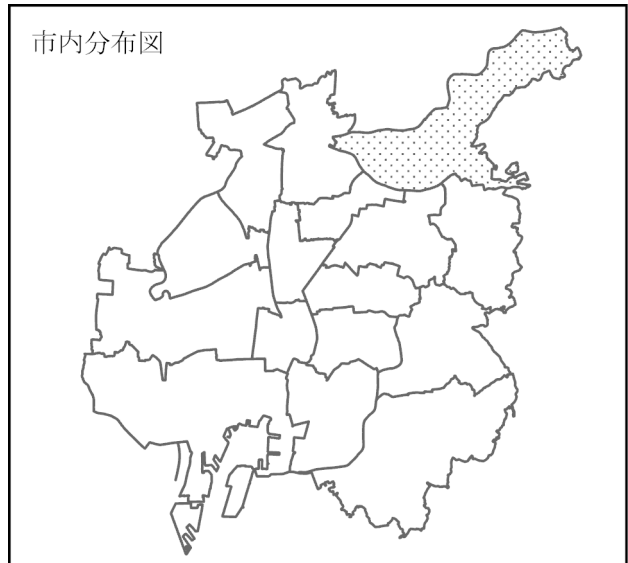
市内: 1 守山区 (上志段味東谷山, 飯尾俊介 s.n., 2003-6-4, A) に生育していた。

県内: 県 GDB2017 p.236 参照。名古屋市のほか、豊根東部、豊根西部、東栄 (東菌目、芹沢 100322, 2022-6-2, A)、鳳来北東部、藤岡、豊田東部、豊田北西部、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井などで確認されている。

国内: 本州 (東北地方南部以南)、四国、九州。

世界: 日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

丘陵地の林内に生育する。常緑広葉樹林だけでなく、落葉広葉樹の二次林内にも生育している。

現在の生育状況／減少の要因

1 カ所で少数の個体が確認されたことがあるだけで、その場所でも最近ではイノシシの掘り返しにより見られないという。

保全上の留意点

生育地の地形と森林を保全することが必要である。

特記事項

愛知県のムヨウラン類の中では大型の種類で、根が深いこと、花が平開すること、花序が長いことが特徴である。

関連文献

保草本Ⅲp.28, 平新版 1 p.210.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ガマ科>

ミクリ *Sparganium erectum* L.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 3、総点 16。低地性のやや大型の水草で、愛知県では 3 カ所に生育しているだけである。名古屋市の群落は 3 カ所の中で最大であった。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全 国 2025	準絶滅危惧

形態

抽水性の多年生水草。地中を横に這う根茎がある。茎は立ち、高さ 60～150cm になる。葉は 2 列に互生して立ち、線形、長さ 50～120cm、幅 7～20mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁、裏面に稜があって断面は三角形になり、下部は葉鞘となる。花期は 6～8 月、雌雄同株、茎の上部の葉腋から枝を出し、各枝の下側に 1～3 個の雌性頭花、上側に多数の雄性頭花をつける。雌性頭花は無柄、球形、果期に直径 2～3cm になり、果実は紡錘形、長さ 6～9mm である。

分布の概要

市内: 1 守山区 (中志段味才井戸流, 芹沢 82963, 2008-7-16, A) に生育している。

県内: 県 RDB2020 p.259 参照。名古屋市のほか、豊明東郷と春日井に各 1 カ所生育している。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 北半球に広く分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

湖沼や河川、水路などに生育しており、流水域では沈水形となることもある。名古屋市の生育地は水路である。豊明東郷 (豊明) はため池、春日井は小河川に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

2～3 の小群落があるが、周囲の開発が進んでおり、水質汚濁により失われるおそれがある。守山高校わきには大きな群落があったが、道路拡幅のため失われた。

保全上の留意点

周辺の地形を含め、生育地全体を保全することが必要である。

特記事項

才井戸流はミクリのほかヤマトミクリ、ナガエミクリも生育しており、愛知県内で最もミクリ類の多様性に富む場所である。和名は、果序の形状がクリに似ているからである。

関連文献

保草本Ⅲp.419, 平新版 1 p.278.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.77. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.149. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

ウマスゲ *Carex idzuroei* Franch. et Sav.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 15。低湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。総点は 15 であるが、最近の状況が十分確認されていないことを考慮し、絶滅危惧 IA 類と評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。長い匍匐枝を出し、小さい株を作る。茎は高さ 40～60cm、基部の葉鞘は淡褐色で、一部が暗赤紫色となり、後に多少繊維状に分解する。葉は細い線形、幅 4～8mm である。果期は 5～6 月、小穂は 4～5 個でやや離れてつき、上部の 1～2 個は雄性、線形で長さ 2～4cm、下部の 2～3 個は雌性、長楕円形で長さ 2～3cm、緑色、下部の雌性小穂には短柄がある。雌鱗片は卵形で、長さ約 5mm。果胞は狭卵形、長さ約 10mm、長い嘴がある。雌花の柱頭は 3 個である。

分布の概要

市内:15 中川区 (戸田西三丁目, 永田晴美 922, 2000-6-8, A)、16 港区 (藤前五丁目, 渡邊幸子 5034, 2002-4-27, N) に生育していた。

県内: 平野部に生育しており、名古屋市のほか、13 (行明町豊川, 小林 42723, 1993-5-14)、15 (大村町豊川, 小林 43879, 1993-6-8)、33 (川島町矢作川, 小林 66023, 1999-5-3)、45 (八曾, 小林 56740, 1995-5-20)、49d (下河原庄内川, 芹沢 77347, 2001-5-21)、55 (奥田町, 水野峰子 434, 1995-5-17)、56a (上萱津五条川, 芹沢 88474, 2013-6-11)、57b (立田村長良川, 芹沢 74601, 1998-5-22) など確認されている。

国内: 本州 (関東地方以西)、四国、九州。

世界: 日本および中国大陸中部。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

平野部の低湿地に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

中川区は小群落があったようだが、最近の状況は確認されていない。港区では日光川河口近くに大きな群落があったが、ヨシが繁茂して被陰され、ほとんど消失した。

保全上の留意点

河川敷やその周辺に残存する低湿地は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所である。河川改修に際しては、その状態が失われないよう、十分配慮する必要がある。

特記事項

果胞が大形で、この点で他種から容易に識別できる。

関連文献

保草木Ⅲp.297, 平新版 1 p.333.

勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド日本のスゲ p.326. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

ニシノホンモンジスゲ *Carex stenostachys* Franch. et Sav.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 3、総点 17。西日本系の植物で、愛知県は分布域の太平洋側の東限にあたる。名古屋市では生育地がきわめて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全 国 2025	—

形態

多年生草本。匍匐枝はなく、大きい株を作る。茎は高さ 30～50cm、3 稜があり、基部の葉鞘は栗褐色～黒褐色で硬く、やや繊維に分解する。葉は細い線形、幅 2～3mm である。果期は 4～5 月、小穂は 3～4 個、最下のものはやや離れてつき、頂小穂は雄性、線形で長さ 2～3cm、側小穂は雌性で円柱形、長さ 1.5～2cm、直径約 3mm、柄は葉鞘中にあるか、伸びても短い。苞は小さい葉状または刺状で、長さ 8～20mm の鞘がある。果胞は紡錘状楕円形、長さ約 3mm、短毛があり、先端の嘴はやや短い。雌花の柱頭は 3 個である。

分布の概要

市内： 1 守山区（大森八竜、鳥居ちゑ子 1595, 1999-5-26, A）に生育している。

県内： 県 RDB2020 p.437 参照。名古屋市のほか、藤岡、犬山、春日井の 3 区画で確認されている。

国内： 本州（中部地方以西）に分布する。北陸地方西部や近畿地方に多い。

世界： 日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

丘陵地～低山地の林内や林縁に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

二次林の林縁部に生育していたが、市民グループの除草作業により、極めて危機的な状況である。

保全上の留意点

「きれいな花」ばかりをかわいがる自称保全活動は、悪意はないと思うけれども、往々にして生物多様性に対する深刻な脅威となる。保全活動を行う際には、生物多様性全般に対する目配りが必要である。

特記事項

鈴鹿山脈まで行けば最も普通に見られるスゲ類の一つである。

関連文献

保草本Ⅲp.271, 平新版 1 p.319.
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド日本のスゲ p.212. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

ヒメアオガヤツリ *Cyperus extremiorientalis* Ohwi

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県西部分布階級 4、総点 17。湿地性の植物で、愛知県では名古屋市が唯一の自生地である。名古屋市でも生育地はきわめて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全 国 2025	—

形態

1 年生草本。茎は束生し、高さ 3～5cm、基部は赤紫色を帯びる。葉は茎の下部につき、幅 1mm 程度である。花期は 9～10 月、花序は茎の先端につき、頭状で球形～広卵形、長さ幅ともに 7～10mm、苞は数個あって葉状、長さ 3～6cm である。小穂は淡緑色、披針形～広披針形、長さ 3～5mm、やや扁平で、鱗片は 2 列につく。果実は長楕円形、縁は鋭形であるが翼はない。

分布の概要

市内：2 名東区（猪高緑地、芹沢 78213, 2002-10-4, A）に生育していた。

県内：現在のところ名古屋市で確認されているだけである。

国内：本州（関東地方以西）、四国、九州。

世界：日本からインド、オーストラリアにかけて分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

干上がったため池の岸に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

2002 年には少数株が干上がった底土上に散在していた。その後も時折注意しているが、水が引かず確認できない年も多い。

保全上の留意点

時折水を落とすなど、ため池の適切な管理を継続する必要がある。

特記事項

シロガヤツリ *C. pacificus* (Ohwi) Ohwi に似るが、小穂の鱗片は基部まで 2 列につく。

関連文献

保草本Ⅲp.245, 平新版 1 p.340.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

セイタカハリイ *Eleocharis attenuata* (Franch. et Sav.) Palla

評価理由

生育環境階級 3、人為圧階級 4、県西部分布階級 3。湿地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。現存は確認できないが、どこかに残存している可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 IA 類と評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全国 2025	—

形態

1 年生または多年生の草本。明らかな匍匐枝はない。茎は束生して株をつくり、細い円柱形、高さ 30～50cm、直径約 0.7mm、葉は茎の基部について葉鞘のみに退化し、赤褐色である。花期は 7～10 月、小穂は茎の先端に 1 個つき、長卵形～卵形、長さ 7～10mm、直径 3～4mm、淡褐色、鱗片は広卵形、長さ約 2.5mm、先端は鈍頭、全体に薄質で淡色である。果実は倒卵形、3 稜があり、淡茶色に熟する。刺針状花被片は 6 個、果実よりわずかに長く、逆向きの小刺がある。

分布の概要

市内: 5 緑区(久方 3 丁目、渡邊幸子 4553, 2000-10-9, A) で採集された標本がある。

県内: 県 RDB2020 p.443 参照。名古屋市のほか、新城、豊橋北部、田原、小牧、海部西部の 5 区画で確認されている。

国内: 本州、四国、九州、琉球。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸、ニューギニア。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

ため池の岸などの湿地に生育する。愛知県では、谷戸田の畔、河川堤防の湿った場所などに生育している。

現在の生育状況／減少の要因

意識して採集されたものではなく、その後も確認できないため、詳細は不明である。開発により減少して、現在の状態に至ったものと思われる。愛知県全体でも、生育地はいずれも人の手が入りやすい場所、開発等により消滅する危険性が高い。

保全上の留意点

おそらくはあちこちで出現と消失をくり返しているものと思われる。湿地的環境の全体的な保全が必要である。

特記事項

幅広い卵形の小穂が特徴である。

関連文献

保草本Ⅲp.227, 平新版 1 p.345.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

ミカワシンジュガヤ *Scleria mikawana* Makino

評価理由

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級階級 2、総点 17。湿地性植物で、2015 年版では絶滅と判断したが、その後再確認された。しかし、生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全国 2025	絶滅危惧 II 類

形態

1 年生または多年生の草本。根茎はなく、根は赤紫色である。茎は少数が束生して直立し、灰緑色、3 稜形、高さ 30~100cm になる。葉は茎上に互生してほぼ直立し、細い線形、長さ 10~40cm、幅 2~5mm、先端は次第に細まり、葉鞘は長さ 2~7cm で密に茎を包み、稜は鋭いが翼はない。花期は 7~10 月、花序は茎の先端と上半部の葉腋につき、2~4 個、長さ 2.5~4cm、枝は斜めに立ち、腋生のものの柄はほとんど葉鞘内にかくれる。小穂は長さ約 5mm、花は単性で、花被片はない。果実は球形、直径 2~2.5mm、網目状の紋があり、はじめ緑白色であるが、熟すと黒灰色になる。

分布の概要

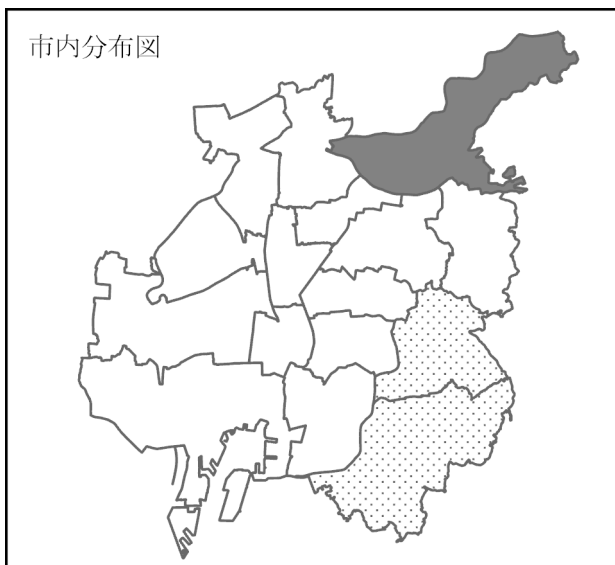
市内：1 守山区（東谷山、村松 30095, 2018-10-21, N）に生育している。4 天白区（海老山町、渡邊幸子 4922, 2001-10-13, N）、5 緑区（鳴海町水広下池付近、芹沢 59849, 1991-8-23, A）で採集された標本もあるが、これらの場所では現存を確認できない。

県内：県 RDB2020 p.449 参照。名古屋市のほか、豊川、みよし、長久手、日進、東海、阿久比、武豊、常滑で確認されている。新城、豊橋北部、豊橋南部、刈谷で採集された標本もある。

国内：本州（千葉県以西）、九州の湿地にややまれに生育する。

世界：日本、インドシナ、ニューギニア、インド、アフリカ。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

丘陵地の日あたりのよい湿地に生育する。多少攪乱された場所に生育していることが多い。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では 2 株確認できたそうである。天白区では造成地にややまとまった群落があったが、宅地化により絶滅した。緑区にもややまとまった群落があったが、これも宅地造成により埋め立てられ、絶滅した。

保全上の留意点

湧水湿地を、水源部の地形を含めて保全することが必要である。また豊橋市葦毛湿原では、一時ほとんど見られなくなったが、湿原回復のためイヌツゲを除去したところ、再度出現したと聞いている。この例から判断すれば、富栄養化を伴わない軽度の攪乱は、本種の存続のためにはかえって好都合らしい。もちろん大規模な攪乱があれば、消滅してしまう。

特記事項

「ミカワ」の名があるが、西三河、東三河では少なく、むしろ尾張に多い植物である。

関連文献

保草本Ⅲp.255, 平新版 1 p.361, SOS 旧版 p.108, SOS 新版 p.107,108.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イネ科>

ヒメタイヌビエ *Echinochloa crus-galli* (L.) Beauv. var. *formosensis* Ohwi**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 4、総点 16。雑草的な植物であるが、愛知県でも名古屋市でも極めて稀少である。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全 国 2025	—

形態

あまり大きい株にならない 1 年生草本。稈は直立し、高さ 50～60cm になる。葉身は斜上し、線形、長さ 8～15cm、幅 5～7mm、先端は鋭尖頭、鮮緑色で縁に狭い白色部がある。花期は愛知県では 10 月、花序は長さ 5～7cm、幅 1～3cm、枝は 3～5 本で、密に小穂をつける。小穂は淡緑色、卵形で長さ 2～3mm、芒はない。

分布の概要

市内：5 緑区 (大高緑地、芹沢 89062, 2013-10-16, A) に生育している。天白区 (八幡山) にもそれらしいものがあつたが、小穂がかなり脱落した標本で再確認しようと思っているうちに、水が枯れて消失してしまった。

県内：現在のところ他の場所では確認されていない。ただし特殊な環境に生育する植物ではないので、注意して探索すれば他でも発見できる可能性はある。

国内：本州 (関東以西)、四国、九州、琉球。イシモチソウ

世界：日本から東南アジア、インドにかけて広く分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

水湿地に生育する。名古屋市の自生地は人工的に整備され、ハナショウブが植栽された湿地であった。

現在の生育状況／減少の要因

1m 四方ほどの範囲に、イヌビエと混生して生育していた。過去からの増減は不明である。

保全上の留意点

雑草的な植物であるから、現実問題として保全は難しい。まずは愛知県での分布状況を正確に把握する必要がある。場合によっては、生育地外での系統保存を考えてもよい。

特記事項

イヌビエやタイヌビエに比べ植物体は全体に細く、鮮緑色である。ヒメイヌビエからは水湿地に生育することで異なる。

関連文献

長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.574-575. 平凡社, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）キンボウゲ科>

カザグルマ *Clematis patens* C.Morren et Decne.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県西部分布階級 1、総点 16。湿地周辺の自然を象徴する植物の一つで、開発圧力の高い場所に生育しており、園芸目的の採取も無視できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全 国 2025	準絶滅危惧

形態

つるになる落葉性の半低木。葉は対生し、羽状複葉、小葉は 3～5 枚、卵形で先はとがり、基部は円形または浅い心形、長さ 4～8cm、ときに 3 裂するが鋸歯はない。花期は 5～6 月、1～3 対の葉をつけた枝の先に 1 個の花を頂生する。花は上向きに平開し、直径 7～12cm、がく片は通常 8 枚、淡紫色のものもあるが愛知県ではすべて白色、狭倒卵形、上部は広がり、先端は急に細まって鋭尖頭になる。そう果は広卵形で長さ 5mm、残存花柱は 3～4cm で強く曲がり、黄褐色の長毛がある。

分布の概要

市内：1 守山区（鳥居ちゑ子 1931, 2001-5-7, A）にわずかに残存している。安原（1990）にはよく花のついた写真が掲載されている。5 緑区（滝の水、浜島繁隆 s.n., 1971-5-18, A）にも生育していた。

県内：県 RDB2020 p.285 参照。名古屋市のほか、東三河、西三河、尾張の 16 区画に分布する。ただし渥美半島には少なく、知多半島からは知られていない。

国内：本州、四国、九州北部。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

湿地周辺の林縁、湿った土手などに生育する。

現在の生育状況／減少の要因

開発により生育地が破壊されたり、園芸目的で採取されたりして、現在の状態に至ったものと思われる。守山区では湧水のある林縁に、小群落を作って生育していた。茎葉は比較的良好に茂っていたが、着花数は少なかった。遷移の進行により、被陰されて衰退することが懸念される。

保全上の留意点

丘陵地の崩壊地がなかなか放置できない現状では、地形の改変を伴わない二次林の伐採は本種の個体群維持にとって不可欠である。園芸目的の採取やカメラマン、観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

特記事項

園芸的には、遺伝子資源の確保という点で重要である。園芸植物のクレマチスは、本種などから交配により作出されたものである。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 4 に掲載されている。

引用文献

安原修次. 1990. なごや野の花 p.46. エフエー出版, 名古屋.

関連文献

保草本 II p.226, 平新版 2 p.145, SOS 旧版 p.50(シロバナカザグルマとして), SOS 新版 p.103.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) キンボウゲ科>

スハマソウ *Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai form. *variegata* (Makino) Nakai**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県西部分布階級 2、補正+1 (遷移進行)、総点 16。名古屋市では 1 カ所に生育していただけで、その場所でも開発と被陰により見ることができない状態であったが、最近になってまだわずかに残存していることが確認された。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	—

形態

常緑性の多年生草本。匍匐する根茎がある。根出葉は根茎の先に束生し、長い葉柄があり、やや三角形で基部は心形、幅 3~6.5cm、3 浅~中裂し、裂片は広卵形で先は鈍形である。名古屋市を含む愛知県のは、若時表裏に毛が多い。花期は 3~4 月、高さ 10~15cm の花茎の先端に、直径 1~1.5cm の花を 1 個頂生する。花のすぐ下には、がくのように見える小さい茎葉が 3 枚輪生する。がく片は 6~10 枚、白色、披針形~卵状披針形である。ミスミソウ form. *japonica* からは、根出葉の裂片の先端が鈍頭で、茎葉の裂片の先端が鈍頭~円頭となることで区別される。

分布の概要

市内：1 守山区 (吉根、芹沢 51071, 1989-4-4, A, 現在も現存しているという) に生育している。

県内：県 RDB2020 p.607 参照。名古屋市のほか、西三河と尾張の一部地域 (区画数にして 4 区画) に生育している。ミスミソウは東三河の一部地域に生育している。

国内：本州 (山形県、宮城県以南)、四国。

世界：日本固有とされている。種としてはヨーロッパと東アジアに隔離的に分布している。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

通常落葉広葉樹の二次林内に生育するが、造林地内に生育していることもある。

過去の生育状況／減少の要因

個体数はかなり多かったが、園芸目的の採取により著しく減少し、最終的には生育地の丘陵が造成により破壊され、わずかに残った場所はネザサなどの繁茂が著しく、そのため本種が生育できそうな環境はほとんど消失してしまった。しかし現在でも、十数株が辛うじて残存しているという。

保全上の留意点

生育地が開発されればもちろん絶滅するが、開発されなければ被陰により衰退するし、ササ刈りなどの管理を行えば今度は園芸目的の採取が懸念される。包括的な保護対策が必要である。

特記事項

スハマソウとミスミソウは通常品種の階級で区別される植物で、環境庁のレッドデータブックでは一括してミスミソウの名で評価されている。しかし愛知県のレッドデータブックでは、県内の分布域が異なるため、両者を別のものとして評価している。名古屋市には狭義のミスミソウが分布していないので、両者を区別してもしなくても、評価は同じである。2024 年に公表した仮リストでは絶滅としたが、それに対し寄せられた情報により評価を変更した。

関連文献

保草本 II p.230, 平新版 2 p.153.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) キンボウゲ科>

ウマノアシガタ *Ranunculus japonicus* Thunb.**評価理由**

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1。名古屋市では生育地が極めて少ない。現存は確認できないが、どこかに残存している可能性もあるので、定性的に絶滅危惧 IA 類と評価する。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は高さ 40～70cm、上部でよく分枝し、中部から下部に開出する長毛を密生する。根出葉は数個あり、長い柄があり、葉身は腎円形、幅 3～7cm、3～5 裂し、各裂片はさらに 2～3 裂する。花期は 4～5 月。花は径約 2cm、花弁は広倒卵形、長さ 10～12mm、黄色で光沢がある。集合果は球形、そう果は倒卵形、長さ 2.5mm、残存花柱はごく短い。

分布の概要

市内：守山区志段味で撮影された写真が、安原(1990)に掲載されている。標本資料は残されていない。11 南区(大江川緑地、伊藤泰輔 17, 1992-4-26, A)で採集された標本もあるが、これは樹木と共に人為的に持ち込まれた可能性がある。

県内：県 GDB2017 p.250 参照。東三河と西三河の山地、丘陵地には普通に見られる。県西部では名古屋市のほか、藤岡、豊田東部、岡崎北部、幸田、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、美浜南知多、犬山、春日井で確認されている。

国内：北海道(西南部)、本州、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

日当たりのよい土手や路傍の草地に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

詳細は不明である。

保全上の留意点

周辺の自生状況から判断すれば、確実な自生集団があっても不思議ではない。更に注意して探索する必要がある。

特記事項

山里の春を飾る代表的な花の一つで、「こんな普通種が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

引用文献

安原修次. 1990. なごや野の花 p.26. エフエー出版, 名古屋.

関連文献

保草本Ⅱp.244, 平新版 2 p.159.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) アリノトウグサ科>

タチモ *Myriophyllum ussuriense* (Regel) Maxim.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 16。汚染されていない溜池に生育する植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	準絶滅危惧

形態

多年生で抽水性の小形の水草。陸生型となることもある。茎は下部で分枝し、上部は直立して枝はなく、水中にあるものは長さ 50cm くらいになることがあるが、水上に出て湿地にはえるものは高さ 5～20cm である。水中葉は 3～4 個輪生し、披針形～広披針形、羽状深裂し、長さ 1.5～2cm、裂片は糸状線形である。花期は 6～8 月、花序は茎の先端につき、穂状、水面から出て直立し、花は淡紅色で小さく、雌雄異株、花序の葉は針形となって、羽裂しない。水中のものは、冬も植物体の一部が枯れずに残る。

分布の概要

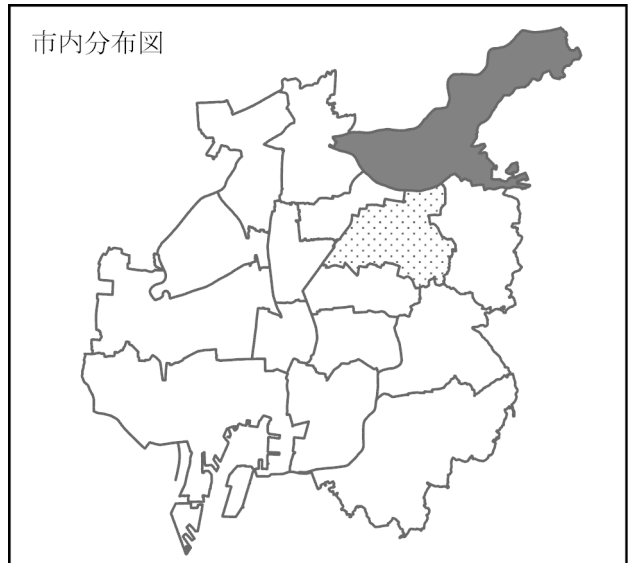
市内: 1 守山区 (下志段味滝ノ水池, 村松 30868, 2019-10-10, N) に生育している。守山区の他の場所 (吉根平池, 飯尾俊介 21, 1964 年, A)、3 千種区 (覚王山猫ヶ洞池, 沢井輝男 s.n., 1932 年, A) で採集された標本もある。

県内: 県 RDB2020 p.614 参照。名古屋市のほか、豊川、豊橋北部、田原東部、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進、半田武豊、常滑、犬山で確認されている。尾張東部から知多半島にかけての丘陵地には比較的多いが、他では極めて少ない。西三河では、現在のところみよしで確認されているだけである。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸東北部、アムール、ウスリー。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

丘陵地の浅いため池などに生育する。

現在の生育状況／減少の要因

滝ノ水池 (海老蔓池) の池畔に小群落がある。池自体は将来も存続すると思われるが、現在の水質が維持されなければ、本種の存続は困難である。

保全上の留意点

滝ノ水池は本種以外にもオオトリゲモ、ツクシクロイヌノヒゲなど名古屋市では希少な植物が生育しており、周辺の丘陵地と共に、現在の水質と環境を維持すべき場所である。

関連文献

- 保草本 II p.36, 平新版 2 p.232.
 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.136. 文一総合出版, 東京.
 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.236. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) マメ科>

マキエハギ *Lespedeza virgata* (Thunb.) DC.**評価理由**

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1。草地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。現存は確認できないが再発見される可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 IA 類と評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の半低木。茎は細くて硬く、高さ 40～60 cmになる。葉は互生し、下部の葉には長さ 1～2cm の柄があり、葉身は 3 出葉、小葉は楕円形、長さ 7～25mm、先端は円頭または僅かに凹頭で針状の小突起がある。花期は 8～9 月、花は短い総状花序に 2～5 個つき、ごく淡い紅紫色、長さ 5～6 mm、がくは 5 深裂し、長さ約 5mm である。通常花のほかに、数個の閉鎖花を葉腋に束生する。豆果は広卵形、長さ約 4mm である。

分布の概要

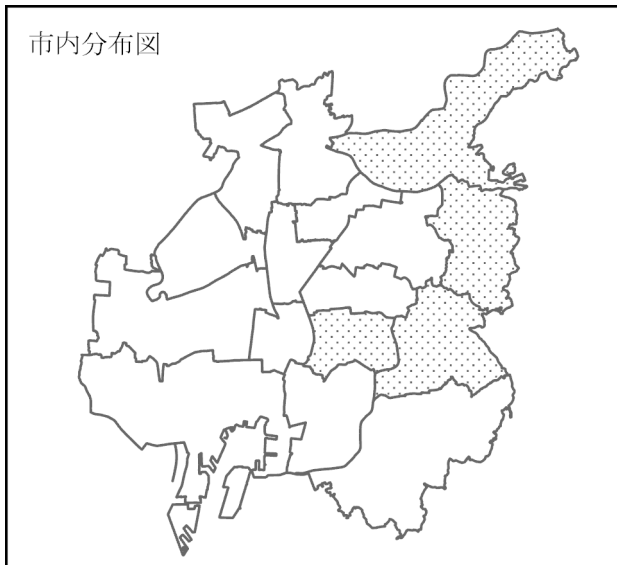
市内：1 守山区（吉根庄内川堤防、鳥居ちる子 2365, 2003-9-3, A）、2 名東区（香流、鳥居ちる子 2659, 2008-9-15, A）、4 天白区（天白町八事、渡邊幸子 5161, 2002-9-21, N）、9 瑞穂区（下山町、渡邊幸子 2742, 1996-9-15, A）に生育していた。

県内：低山地～丘陵地に点在するが、少ない。8（海老棚山、小林 66925, 1999-8-21）、10（椎平、小林 53874, 1994-9-17）、12（庭野、芹沢 62410, 1992-8-15）、13 吉祥山、小林 39064, 1992-8-31）、14（砥神山、小林 26232, 1983-10-6）、20（下佐切、芹沢 72526, 1995-10-20）、23（西中山、芹沢 77965, 2002-8-6）、24（中切町、畑佐武司 4844, 2002-8-27）、25 伊保町、芹沢 67011, 1993-8-20）、36（東幡豆、壁谷由美子 808, 1994-8-5）、39a（諸輪、濱嶋育子 1226, 2018-9-24）、42a（草木、渡邊麻子 685, 1995-8-24）、43（矢田池南、芹沢 76906, 2000-8-30）、44a（浦戸、芹沢 77596, 2001-9-13）、44b（山海、芹沢 63675, 1992-9-22）、45（今井、塚本威彦 2047, 1996-8-11）などで確認されている。15（金田、恒川敏雄 s.n., 1963-9-24, T）、47（小木、伊藤寛保 s.n., 1932-8-3）で採集された標本もある。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島、台湾、中国大陆。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

丘陵地や低山地の日当たりのよい乾いた草地や林縁に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では庄内川堤防に十数株生育していたが、その後見かけなくなったという。名東区でも生育地が畑になり、消失した。天白区では駐車場わきの斜面草地に 10 株程度が生育していたようだが、2014 年には確認できなかった。瑞穂区では住宅地内に残存した林のへりに 2～3 株生育していたようだが、最近の状況は確認されていない。散発的に生育する植物で、存続の基盤は脆弱である。

保全上の留意点

一般的に言えば、草地の保全が必要である。しかし、おそらくは個別的な対策では効果が少なく、自然環境の全体的な保全が必要と思われる。効果的な保全対策を立てることができないまま、いつの間にか消失してしまいそうな植物の一つである。

特記事項

和名は、直線的な細い花柄が蒔絵の筆法に似ているからである。

関連文献

保草本 II p.98, 平新版 2 p.281.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）グミ科>

オオバグミ *Elaeagnus macrophylla* Thunb.

評価理由

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 3、総点 16。海岸性の植物で、尾張での既知の産地は知多半島南端部だけであったが、近年名古屋市で生育が確認された。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の木本。枝はつる状に伸長し、分枝は下向する。小枝はやや太く、明らかな稜角があり、白茶色の鱗片におおわれる。葉は互生し、1~2cm の柄があり、葉身は広卵形、長さ 5~9cm、幅 4~6cm、先端は鋭尖頭、基部は円く、全縁でしなやかな革質、上面は深緑色で光沢があり、はじめは白鱗片でおおわれ、下面は銀白色の鱗片があり、その上にさらに淡黄褐色の鱗片を散生することもある。花期は 10-11 月、花は白く、葉腋から出る短い枝の基部に数個つく。

分布の概要

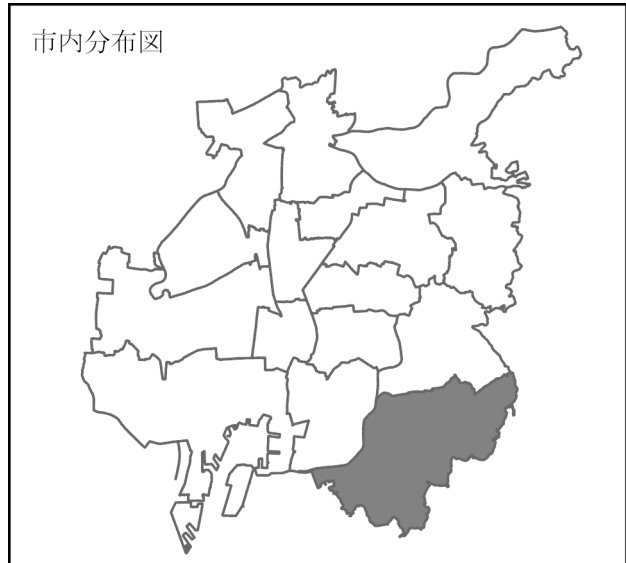
市内：5 緑区（大高町、長谷川 1038, 2024-5-5, N）に生育している。

県内：東三河南部、西三河南部、知多半島先端部の海岸近くに生育しており、14（竹谷町、芹沢 94991, 2018-11-3）、16（西赤沢町、小林 40323, 1992-11-1）、17（姫島、芹沢 93679, 2017-10-11）、18（伊川津町、芹沢 101403, 2022-10-25）、44a（野間、芹沢 88217, 2012-11-3）、44b 日間賀島（渡辺 幸子 1429, 1993-11-30）などで確認されている。

国内：本州（宮城県以南）、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸沿海部。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

沿岸部の樹林地の林縁や林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

林縁に数株が生育しており、開花も 1 個体で確認されている。過去からの増減は不明である。

保全上の留意点

個別的な保全が必要である。

特記事項

マルバグミともいう。名古屋市の本種は、既知の産地からかなり離れた新産地になる。移入の可能性も皆無ではないので、複数の目で確認する必要がある。

関連文献

保木本 I p.214, 平新版 2 p.315.

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) イラクサ科>

ミヤコミズ *Pilea kiotensis* Ohwi

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 4、補正+1 (分布東限)、総点 17。西日本系の植物で、名古屋市では 1 カ所に生育しているだけであり、これが愛知県で唯一の自生地である。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全国 2025	—

形態

多汁質の 1 年生草本。茎の下部は地上をはって枝を分けるとともに不定根を出し、上部は斜上または直立して高さ 20~30cm になる。葉は対生し、長さ 6cm に達する柄があり、葉身は卵形、長さ 4~9cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形で左右非対称、片側は外に凸、片側は内に凸の曲線になり、辺縁には 4~8 個の大きい鋸歯がある。花期は 9~10 月、集散花序は葉腋から出て、茎の先端部につくものは雄花が多く、直径 8~15mm、下のものほど長い柄があつて全体として茎頂に集まり、それより下の葉腋につくものは雌花が多く、柄は短い。花序の柄は片側に毛がある。

分布の概要

市内：2 名東区 (芹沢 93305, 2017-9-9, A) に生育している。

県内：名古屋市が県内では唯一の自生地である。

国内：本州西部と九州北部。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

沢沿いの湿った林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

小川の岸に小群落がある。現地は市内では奇跡的に開発を免れた、やや深山的な感じのする場所である。

保全上の留意点

生育地の地形を保全すること、川に生活排水が流入しないよう注意し、水質を維持することが必要である。目立たない植物なので園芸目的の採取は考えにくい、希少ということで多くの人に知られるようになれば、観察者や写真撮影者の踏み荒らしも懸念される。

特記事項

全国的に見ても希少な植物で、分布域の東限にもなっており、名古屋市の植物の中ではマメナシに次いで保全上の重要性が高い植物の一つと思われる。

関連文献

保草本 II p.334-335, 平新版 2 p.350.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) ニシキギ科>

ウメバチソウ *Parnassia palustris* L.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県西部分布階級 1、総点 16。湧水湿地に生育する温帯系の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

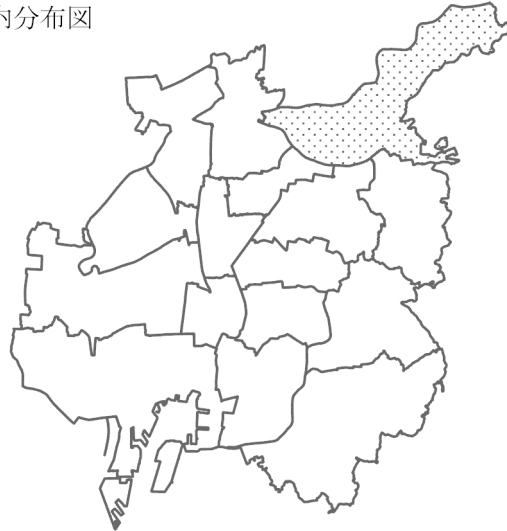
多年生草本。根茎は短く直立し、数個の長柄のある根出葉と 1~15 本の花茎を束生する。葉身は卵形または広卵形、長さ幅とも 1.5~4cm、全縁、先端は円形で僅かに尖り、基部は心形である。茎葉は 1 個で、無柄、基部はやや茎を抱く。花期は 10 月、花は高さ 15~60cm の花茎の先端に 1 個つき、白色で直径 2~2.5cm、花弁は通常 5 枚、全縁、仮雄ずいは糸状に 15~22 裂する。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷山、鳥居ちゑ子 1168, 1996-11-4, A）に生育していた。

県内：東三河と西三河の山地には点在し、尾張でもところどころの湧水湿地に生育している。23（萩太郎山、小林 39841, 1991-10-4）、4（箱淵、芹沢 67403, 1993-9-3）、6（川向、芹沢 57802, 1990-10-19）、11（中河内、堀田善久 3053, 1991-10-5）、12（中宇利、芹沢 54049, 1989-10-29）、13（千両町、小林 40216, 1992-10-26）、15（石巻萩平町、小林 40208, 1992-10-25）、16（高塚町、小林 40588, 1992-11-23）、17（野田、芹沢 54081, 1989-11-2）、5（黒田、塚本威彦 2587, 1997-10-23）、19（余平、芹沢 57555, 1990-10-2）、20（四ツ松、鈴木万里亜 1196, 1995-10-28）、21（平瀬、長谷川朋美 1051, 1992-10-22）、22（万作、塚本威彦 1423, 1994-10-22）、23（御作、芹沢 53925, 1989-10-13）、24（上高町、芹沢 60862, 1991-10-16）、25（伊保町、芹沢 54039, 1989-10-26）、28（切山、芹沢 71309, 1994-10-14）、29（小呂町、芹沢 50876, 1988-10-22）、30（池金町、芹沢 50892, 1988-10-30）、36（西幡豆、岡田 速 25, 1991-10-15）、37a（西山路町、芹沢 74413, 1997-10-28）、37b（旭ヶ丘町、村松 21005, 2001-10-27, N）、45（善師野、芹沢 60746, 1991-10-8）、47（石金、日比野修 5007, 1999-9-19）、48（廻間町、山田果与乃 190, 1996-10-20）などで確認されている。3（三ツ瀬、杉野文昭 s.n., 1964-10-18）で採集された標本もある。

市内分布図



国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：東アジア北部。種としては北半球の温帯~寒帯に広く分布する。

生育地の環境／生態的特性

丘陵地から高山までの、日当たりのよい湿地に生育する。山地では湿地と言うほどでないやや湿った草地に生育していることもあるが、愛知県の丘陵地では生育地は湧水湿地に限られる。

現在の生育状況／減少の要因

生育地の周辺は近年道路や駐車場が整備され、交通量も次第に増加しており、生育状況は徐々に悪化している。園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる攪乱も懸念される。

保全上の留意点

名古屋市東部を含む愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、絶滅危惧種も多く、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。また、湿地が小さい場合は周囲の森林を伐採し、光条件を確保する必要がある。森林の伐採は、水収支の回復という点でも重要である。「森林を伐採すると水が枯れる」と心配する人もいるが、実際には話が逆で、森林化が進むと蒸散量が増加し、湿地の水が枯れてしまう。

特記事項

湿地の花の中では、リンドウやヤマラッキョウとともに、最も遅く咲くものの一つである。和名は花の形が梅鉢紋に似ているからである。

関連文献

保草本Ⅱp.144, 平新版 3 p.138.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ミソハギ科>

ヒメミソハギ *Ammannia multiflora* Roxb.

評価理由

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 16。水田雑草で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	—

形態

1 年生草本。茎は直立し高さ 20~40cm、無毛で 4 稜がある。葉は対生し、ほとんど無柄、葉身は長楕円形、長さ 2~5cm、先端は鈍頭~鋭頭、基部はやや耳状で茎を抱く。花期は 9~11 月、花は葉腋に密につき、直径約 1.5mm、がく筒は鐘形でやや 4 稜があり、花弁は 4 個で小さく、倒卵形、淡紫色。雄蕊は 4 個である。蒴果は球形で直径約 2mm、紅紫色、不規則に裂けて多数の種子を出す。

分布の概要

市内：1 守山区（中志段味才井戸流付近、村松 26191, 2011-10-2, A）に生育している。守山区の他の場所（大森米野、福岡義洋 1993, 1992-10-2, A）で採集された標本もある。

県内：東三河中南部には比較的多いが、西三河では少なく、尾張では稀である。10（知幸部、小林 53853, 1994-9-17）、12（中市場、小林 39269, 1992-9-12）、13（萩町、芹沢 89718, 2014-10-4）、15（嵩山町、芹沢 76538, 1999-10-2）、16（老津町、小林 48842, 1993-10-16）、17（仁崎、芹沢 71197, 1994-10-4）、18（石神、小林 47721, 1993-9-12）、5（押山、塚本威彦 2584, 1997-10-18）、19（築和合、日比野修 1858, 1993-9-18）、20（大蔵、山崎玲子 1772, 1998-11-17）、24（東広瀬町、畑佐武司 5155, 2002-9-19）、25（広幡町、畑佐武司 5421, 2002-10-12）、30（本宿町、芹沢 64101, 1992-10-7）、31（坂崎、壁谷祥和 3, 1991-8-15）、33（東端町、堀田善久 7259, 1999-9-26）、36（東幡豆、壁谷重美子 1047, 1994-9-21）、38b（浅田、村瀬美智子 450, 1992-9-21）、44b（山海、村松 26684, 2012-10-27）などで確認されている。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：アジア、アフリカ、オーストラリアの熱帯~暖帯に広く分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

水田や湿地に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

標本は高さ 70cm に達するよく発育した個体だが、株数は僅かであったという。小幡米野ではその後の状況は確認されていないが、宅地化が進んでいるので、この場所ではすでに絶滅したと思われる。

保全上の留意点

才井戸流は、水の恵みを象徴するような場所であるにもかかわらず、水源部に産業廃棄物処分場が設置され、土地区画整理事業も進行している。生物多様性という点では名古屋市で最も重要な場所の一つで、地形的にも貴重であり、可能な限り保全策を講じる必要がある。

特記事項

名古屋市でも普通にみられる帰化植物のホソバヒメミソハギ *A. coccinea* Rottb. からは、葉が幅広く、基部があまり耳状に張り出さず、花弁が小さいことで区別できる。

関連文献

保草本 II p.46-47, 平新版 3 p.257.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）ミソハギ科>

ヒメビシ *Trapa incisa* Siebold et Zucc.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 4、総点 17。名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全国 2025	絶滅危惧 II 類

形態

浮葉性の 1 年生水草。茎は地中から長く伸びて水面に達し、節から羽状に分裂した根状の沈水葉を出す。浮水葉は茎の先端に放射状に叢生し、葉柄は長さ 0.5~5cm、中央部は長楕円状にふくらみ、浮きぶくろとなり、葉身は広卵状菱形、幅 1~2cm、上部の辺縁には粗い欠刻状の鋸歯があり、裏面の脈上にはまばらに毛がある。花期は 7~10 月、花は葉腋から出た柄の先に 1 個ずつつき、白~淡紅色（今回名古屋市で確認した個体は白色であった）、直径 6~8mm。果実は石果で倒三角形、幅約 20mm、4 個の刺がある。

分布の概要

市内：7 中区（名古屋城外堀、芹沢 89707, 2014-9-29, A）に生育している。

県内：県 RDB2020 p.316 参照。名古屋市のほかは、24 豊田東部の 3 カ所のため池で確認されているだけである。

国内：本州、四国、九州。

世界：東アジア。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

平野部や丘陵地の池沼に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋城の外堀に僅かに生育していたが、2024 年の調査では確認できなかった。外堀では春にはヒシ属の芽生えが多数確認されるが、夏になるとほとんど消えてしまう。外堀に堆積する植物遺骸の中からは本種の果実も確認されるが、調べた範囲では発芽能力を失っていたらしい。

保全上の留意点

生育地の水質を保全する必要がある。ヒシ属は水草の中では比較的汚染に耐性があるが、本種だけは汚染に弱いらしく、全国的に減少傾向が著しい。愛知県においてもかつては点在していたと思われるが、標本は残されていない。過去の記録はコオニビシ *T. japonica* Flerov var. *pumila* (Nakano) Kadono と混同されている可能性があり、再検討が必要である。

特記事項

今回得られた標本は、典型的なヒメビシに比べると、果実の刺がやや太く短い。しかし底土中の植物遺骸の中から出てきたものは、典型的な本種の果実であったという。

関連文献

- 保草本 II p.45, 平新版 3 p.261.
 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.129. 文一総合出版, 東京.
 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.250. 文一総合出版, 東京.

（西部めぐみ 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) アブラナ科>

ハタザオ *Turritis glabra* L.**評価理由**

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1。草地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。現存は確認できないが、再発見される可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 IA 類と評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

全体に緑白色の越年生草本。茎は直立し、通常分枝せず、高さ 60～120cm になる。根出葉は倒披針形、長さ 5～10cm、先端は鈍頭、中下部に 3～6 の欠刻状鋸歯があり、両面に 2 分した毛と星状毛がある。茎葉は披針形、長さ 3～9cm で上へいくほど小さくなり、上向につき、基部は矢じり形で茎を抱き、全縁、無毛である。花期は 5～8 月、花弁は倒卵形、長さ 5～7mm、淡黄白色、果実は直立して花軸に接し、線形、長さ 4～8cm である。

分布の概要

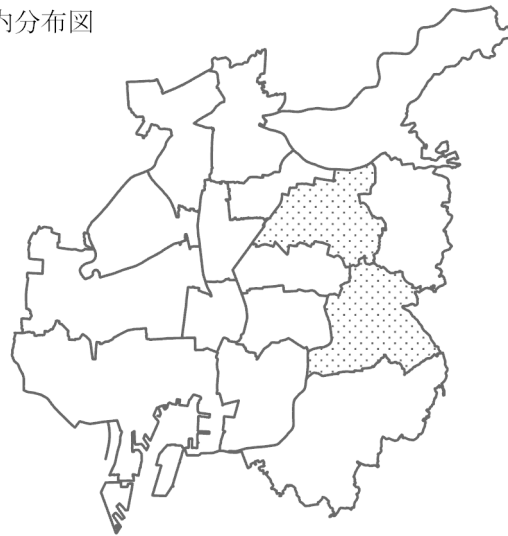
市内：3 千種区（香流橋矢田川、鳥居ちゑ子 2086, 2002-5-7, A）、4 天白区（井口二丁目天白川、渡邊幸子 5328, 2003-5-15, A）に生育していた。

県内：県 GDB2017 p.273 参照。丘陵地～平野部に生育するが、多いものではない。県西部では名古屋市のほか、豊田東部、豊田北西部、豊田南西部、岡崎北部、岡崎南部、安城、高浜碧南、瀬戸尾張旭、江南丹羽、一宮東部、一宮西部、津島愛西に生育している。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：ユーラシア大陸に広く分布し、北アメリカやオーストラリアにも帰化している。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

愛知県での生育地はほとんどが河川堤防の草地である。名古屋市でも河川堤防に生育していた。

現在の生育状況／減少の要因

矢田川では、よく草刈りが行われる堤防の草地に 10 数株が生育していたという。天白川でも、やはり堤防の草地に少数株が生育していたという。しかしどちらの場所でも、現在生育を確認できない。しかし適切な堤防管理が継続されれば、どこかで再発見される可能性がある。

保全上の留意点

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。堤防の改修に際しては、身近な自然の確保という観点も含めて、適切な配慮が必要である。

特記事項

和名は旗竿で、直立する全体の様子に由来する。

関連文献

保草本 II p.181, 平新版 4 p.71.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) モウセンゴケ科>

イシモチソウ *Drosera peltata* Smith var. *nipponica* (Masam.) Ohwi**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県西部分布階級 1、総点 16。全国的に減少傾向の著しい食虫植物で、名古屋市では僅かに残存しているにすぎない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全 国 2025	準絶滅危惧

形態

食虫性の多年生草本。地下に球形の塊茎がある。地上茎は高さ 10~30cm、はじめは根出葉があるが、花期にはなくなる。茎葉はまばらに互生し、長さ 10~15mm の細い葉柄があり、葉身は三日月形で幅 4~6mm、基部は湾入し、表面と辺縁に昆虫類を捕らえるための長腺毛が多い。花期は 5~6 月、茎の先端のまばらな総状花序に、2~10 個の白色の花をつける。花弁は 5 枚で広倒卵形、長さ 6~8mm である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷、鳥居ちゑ子 1313, 1998-5-9, A; 大森八竜、鳥居ちゑ子 342, 1993-5-14, A）、3 千種区（田代、井波一雄 s.n., 1933-7-1, CBM127129）、4 天白区（天白、井波一雄 s.n., 1941-5-22, CBM127121）、5 緑区（桶狭間、瀧崎吉雄 s.n., 1953-6-14）などで採集された標本があるが、これらの場所ではいずれも現存を確認できない。現在残存しているのは、守山区の 1 ケ所にすぎない。

県内：県 RDB2020 p.321 参照。西三河と尾張の丘陵地に点在する。東三河では極めて稀で、1 ケ所に少数の個体が生育しているだけである。新城、豊橋北部、豊橋南部、幸田などでは、過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

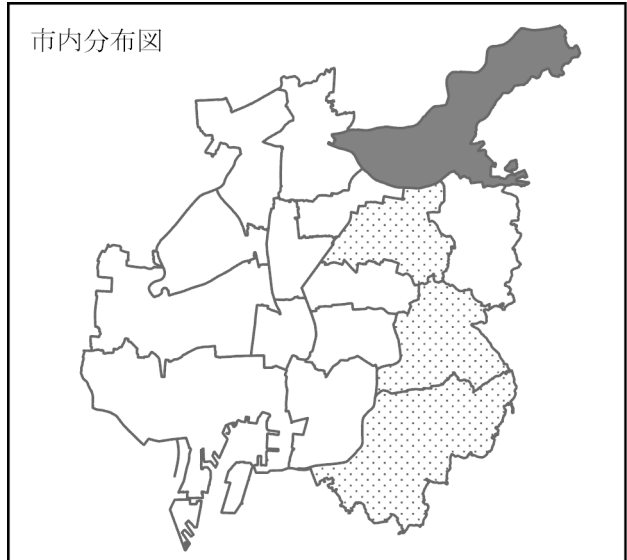
国内：本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球（西表島）。

世界：日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

丘陵地の湿地やその周辺のやせ地に生育する。

市内分布図

**現在の生育状況／減少の要因**

名古屋市東部の丘陵地には点在していたはずであるが、開発により生育できる環境が失われ、現在の状態に至ったものと思われる。守山区愛知用水沿いでは、用水の改修により絶滅した。緑区滝の水湿地では、宅地造成により生育地が破壊され、絶滅した。近年残存が確認された生育地は 1 カ所だけで、ここもごく最近の状況は確認されていない。園芸目的の採取も深刻で、他地域では市町村誌ではつきり生育地が示されたことが、絶滅の引き金になったのではないと思われる例もある。

その一方で、一部の湿地では、市民グループ等の手でもととはなかった場所への移入が行われ、本来の自然状態に対する大きな脅威となっている。自然環境下への移植は、原則として行ってはならない。本来ないものは、「ない」のが自然の状態であることを認識する必要がある。

保全上の留意点

湧水湿地やその周辺のやせ山を、水源部の地形を含めて保全する必要がある。その一方で園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

特記事項

和名は、葉の腺毛に小石がつくからだとされる。

関連文献

保草本Ⅱp.167, 平新版 4 p.106, SOS 旧版 p.54, SOS 新版 p.111.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）アジサイ科>

コガクウツギ *Hydrangea luteo-venosa* Koidz.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県西部分布階級 4、総点 18。西日本系の植物で、愛知県は近畿地方以西と伊豆半島をつなぐ、地理的に重要な自生地である。名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全国 2025	—

形態

落葉性の小低木。高さ 1.5m 程度になる。葉は対生し、長さ 2～5mm の柄があり、葉身は長楕円形～広倒披針形、長さ 3～5cm、先端は鋭頭、基部はくさび形、葉縁には 3～4 の低い鋸歯がある。表面はしばしば脈に沿って黄斑がある（愛知県のものはない）。花期は 6～7 月で、2～3 対の葉のある短枝の先端に、10～20 花からなる直径 2～7cm の集散花序をつけ、うち 1～2 個は白色の装飾花、残りは淡黄緑色の通常花である。装飾花のがく片は 3～4 枚で、卵形～ほとんど円形、大きいものは長さ 2cm に達する。

分布の概要

市内：1 守山区（吉根太鼓ヶ根、芹沢 81345, 2007-5-20, A）に生育している。

県内：県 RDB2020 p.323 参照。名古屋市に隣接する 37b 尾張旭（新居、村松 20649, 2001-6-16, N）でも 1 株確認されているが、それ以外は豊橋北部に 1 カ所、少数の個体が生育しているだけである。

国内：本州（伊豆半島、愛知県、近畿地方以西）、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

暖帯域の丘陵地、低山地の斜面に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

数株が点在していた。生育地は市内では自然度の高い場所で、植栽されたものとは考えにくい。近くに森林公園があるため、二次的に逸出した可能性は完全には否定できない。周辺は開発が進んでおり、その点でも将来の存続が懸念される。

保全上の留意点

僅かに残った丘陵地の地形を保全することが必要である。

特記事項

愛知県は近畿地方以西と伊豆半島をつなぐ、地理的に重要な自生地である。

関連文献

保木本 II p.118, 平新版 4 p.167.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) アジサイ科>

イワガラミ *Schizophragma hydrangeoides* Siebold et Zucc.**評価理由**

生育環境階級 3、人為圧階級 4、県西部分布階級 1。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。現存は確認できないが、調査が不十分であることを考慮し、定性的に絶滅危惧 IA 類と評価する。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性のつる性木本。幹は太いものでは直径 5cm 以上になる。葉は対生し、長さ 3~12cm の柄があり、葉身は広卵形、長さ 5~16cm、幅 5~10cm、先端は鋭頭、基部は切形または浅心形、葉縁にはやや大きな鋭鋸歯があり、脈腋に密毛がある。花期は 5~7 月。本年枝の先に直径 10~20cm の散房花序をつける。装飾花のがく片は 1 枚だけが発達し、白色で広卵形、長さ 16~35mm になる。

分布の概要

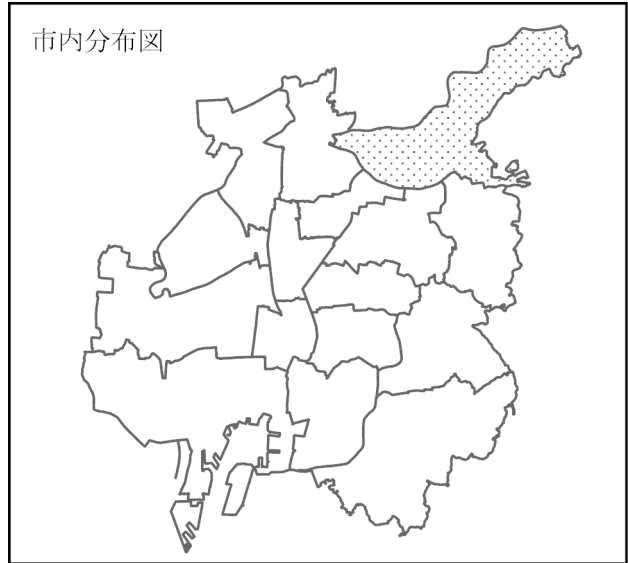
市内：1 守山区（吉根太鼓ヶ根、鳥居ちゑ子 1968, 2001-6-17, A）に生育していた。

県内：東三河と西三河の山地には普通に見られるが、尾張では稀である。2（茶臼山、加藤等次 3393, 1993-7-27）、3（下栗代、榊原利修 680, 1992-6-23）、4（白鳥山、石田雄吉 157, 1979-8-10）、7（宇連、小林 53587, 1994-9-10）、8 鳳来寺山、加藤等次 1495, 1992-6-23）、13（音羽町赤坂、小林 44353, 1993-6-17）、14（相楽町、鈴木美恵子 134, 1992-6-28）、15（多米町、瀧崎 11433, 1990-6-24）、5（面ノ木峠、鈴木 学 1398, 1983-6-2）、19（駒山、芹沢 62182, 1992-7-25）、20（月原、塚本威彦 1853, 1996-5-3）、21（東大沼、長谷川朋美 435, 1992-6-16）、22（大ヶ蔵連、小林 44912, 1993-7-3）、23（西市野々、塚本威彦 186, 1992-6-29）、24（坂上町、山崎玲子 823, 1994-6-21）、25（猿投山、土場トシ子 335, 1993-6-6）、28（細光、福岡義洋 644, 1990-6-12）、29（蓬生町、堀田善久 289, 1991-6-15）、30（山綱町、本多さおり 488, 1994-7-12）、37a（海上町、芹沢 75890, 1999-7-4）、48（外之原町、日比野修 2272, 1994-6-18）などで確認されている。6（段戸山、恒川敏雄 845, 1956-8-22, T）で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、鬱陵（ウルルン）島。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地の林内や林縁に生育し、しばしば他木にからみついて高く伸びる。

現在の生育状況／減少の要因

2001 年の時点では、未開花の幼木が地上に小さなかたまりで生育していたという。この場所は駐車場造成のため破壊されたが、周辺のどこかにまだ残存しているかもしれない。以前は開花するような株もあったらしい。

保全上の留意点

吉根では、都市化により丘陵地そのものが消滅しつつある。何はともあれ、丘陵地の地形を保全することが必要である。

特記事項

「こんな普通種が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。ツルアジサイに似るが、葉の鋸歯があらく、装飾花のがく片が 1 枚だけ発達することで区別される。植栽されて開花したものの標本は、村松（30634, 2019-7-16, N）が作成している。

関連文献

保木本 II p.110, 平新版 4 p.172.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ハイノキ科>

クロキ *Symplocos kuroki* Nagam.**評価理由**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 4、総点 17。従来鳥取県以西に分布とされてきた植物であるが、最近になって市内で大木が 1 本生育しているのが確認された。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全国 2025	—

形態

常緑性の小高木。若枝は稜があり、淡黄緑色、無毛である。葉は互生し、長さ 5～10mm の柄があり、葉身は楕円形～狭倒卵形、長さ 4～7cm、幅 2～3cm、先端は鈍頭または鋭頭。基部は鋭形、辺縁の上部にまばらな波状の低鋸歯があり、革質、表面は光沢があり、両面とも無毛である。花期は 3～4 月、花は白色で葉腋に集まってつき、花冠は直径 8mm 程度、果実は長楕円形で長さ 10～15mm、黒熟する。

分布の概要

市内：3 千種区 (植田山, 長谷川 587, 2023-03-20, N, 花; 芹沢 101724, 2023-6-17, A, 果実) に生育している。

県内：名古屋市以外では確認されていない。

国内：本州 (鳥取県以西)、四国、九州。分布域に千葉県を含めている図書もあるが、大場(編) (2003) によれば「県内には確かな記録がない」という。

世界：日本および朝鮮半島 (済州島)。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

低地～丘陵地の照葉樹林内や林縁に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

植田山の沢沿いの二次林内に、1 株だけだが本種としては大きな個体 (樹高約 15m、胸高直径約 40cm) が生育している。周辺には 10 株以上の幼木が散在している。

保全上の留意点

個別的な保全が必要である。周辺に散在している幼木も、親木と合わせて保全を要する。周辺のアベマキやコナラがナラ枯れで倒れているため、本個体に倒れかからないようモニタリングする必要がある。

特記事項

従来自然分布は鳥取県以西とされてきた植物で、自生ならば著しい東限産地となる。しかし、本来の自生地ならばさまざまな大きさの個体が生育しているはずで、老木 1 本というのは何とも不自然である。現地は何かが植栽されるような場所には見えないが、古い時代の植栽に由来する可能性は否定できない。しかし、何はともあれ貴重なものであるから、このことは承知の上で評価対象とした。周辺の幼木は樹高 1m 程度のものが多く、比較的近年になって温暖化等の影響で発芽・生長が可能となったのかもしれない。

引用文献

大場達之(編). 2003. 千葉県の自然誌 別編 4 千葉県植物誌 p.445. 千葉県.

関連文献

保木本 1 p.99, 平新版 4 p.211.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) リンドウ科>

リンドウ *Gentiana scabra* Bunge var. *buergeri* (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.**評価理由**

生育環境階級 4、人為圧階級 4、県西部分布階級 1。湿地性の植物で、名古屋市では現存が確認できないが、再発見される可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 IA 類と評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は直立または斜上し、高さ 30~100cm になる。葉は対生し、無柄、葉身は線状披針形~広披針形、長さ 4~10cm、先端は長く尖り、基部は円形、3 脈が目立ち、辺縁には微小な突起がある。花期は 10~11 月、花は茎の先端と葉腋につき、花冠は紫色で、内面に褐色の斑点があり、長さ 4~5cm、先端は 5 裂し、裂片の間に小形の副裂片がある。

分布の概要

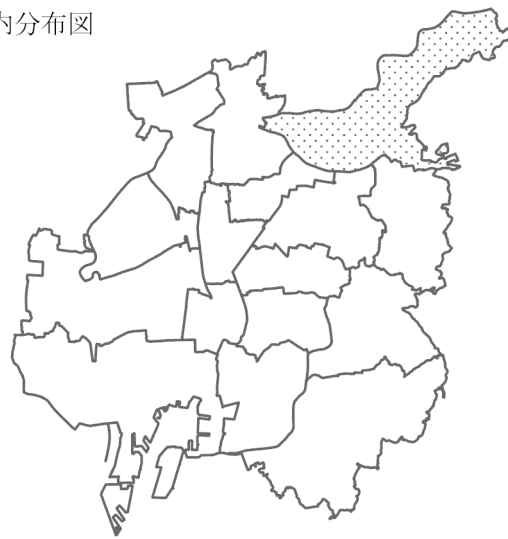
市内: 1 守山区(上志段味東谷、鳥居ちる子 216, 1992-10-25, A, 2003 年まで確認)に生育していた。同区(小幡緑地、芹沢 54030, 1989-10-26, A)で採集された標本もある。

県内: 県 GDB2017 p.292 参照。東三河と西三河には点在する。尾張ではやや少なく、特に林地に生育する狭義のリンドウの型は生育地が限られている。ホソバリンドウ型のものは、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、長久手日進、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、春日井などに生育している。

国内: 本州、四国、九州、琉球(奄美諸島)。

世界: 日本固有種。基準変種 var. *scabra* は朝鮮半島、中国大陆に分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

一般的には山地や丘陵地の明るい林内や林縁に生育するが、湿地に生育することもある。湿地に生育するものは葉が細く、ホソバリンドウ form. *stenophylla* (H.Hara) Ohwi として区別されることがある。名古屋市のものはホソバリンドウの型である。

現在の生育状況／減少の要因

個体数が少ないので、園芸目的で採取する人がいれば容易に絶滅してしまう。観察者やカメラマンによる攪乱も懸念される。現地では、1990 年頃には十数株が開花していたが、次第に減少し、2003 年には 1 株開花しただけであったという。

保全上の留意点

名古屋市東部を含む愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、絶滅危惧種も多く、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。また、湿地が小さい場合は周囲の森林を伐採し、光条件を確保する必要がある。その一方で、湿地自体にはなるべく立ち入らない配慮が必要である。

特記事項

湿地の花の中では、ウメバチソウやヤマラッキョウとともに、最も遅く咲くものの一つである。

関連文献

保草本 I p.221, 平新版 4 p.297.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) リンドウ科>

コケリンドウ *Gentiana squarrosa* Ledeb.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 4、総点 18。愛知県では減少傾向の著しい、小型の草性植物である。名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全 国 2025	—

形態

小型の越年生草本。茎は高さ 3~10cm、よく分枝し、基部に狭菱卵形~卵状菱形で長さ 2~4cm の根出葉がロゼット状につく。茎葉は小さく、卵形で長さ 4~10mm、対生し無柄、基部は合着して短い鞘になる。花期は 3~5 月、がく筒は長さ 4~6mm、裂片の上部は反曲し、先端は刺状となる。花冠は筒状、長さ 10~15mm、淡青色、先端は 5 裂し、裂片の間に小型の副片がある。さく果は残存する花冠の外に突き出る。

分布の概要

市内：3 千種区（月ヶ丘、芹沢 103846, 2024-5-14. A）。ただしこの場所は市街地の中の草地で、移入されたものである可能性は否定しきれない。

県内：県 RDB2020 p.523 参照。県中西部（尾張、西三河）では、名古屋市以外の産地は知られていない。東三河では、新城、豊川、豊橋北部で確認されている。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インド北部、シベリア。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

日当たりのよい草地に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

数十株生育しているが、小型の草本なので、個体数階級を 3 と評価した。小型の植物だけに、大型の草本が繁茂すればすぐに消滅してしまう。愛知県内でも、本種が生育していた場所は水田周辺の草地や河川の堤防、池の周辺など、定期的に草刈りが行われるような場所に限られていた。

保全上の留意点

生育地を、丈の低い草地状態のまま保全することが必要である。

特記事項

名古屋市のものは根出葉が小さく、東三河のものやや異なっている。

関連文献

保草本 I p.219, 平新版 4 p.296, SOS 旧版 p.70, SOS 新版 p.131,133.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) シソ科>

ヤマハッカ *Isodon inflexus* (Thunb.) Kudo**評価理由**

生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1。草地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少なかった。現存は確認されていないが、まだ残存している可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 IA 類と評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下茎は塊状で木質化する。地上茎は斜上し、長さ 60～100cm になる。葉は対生し、有翼の柄があり、葉身は広卵形～3 角状広卵形、長さ 3～6cm、先端は鋭頭～やや鈍頭、辺縁にはあらい鋸歯がある。花期は 9～10 月、上部の葉腋に短い集散花序がついて全体としてまばらで細い穂状になり、がくは 5 中裂し、花時に長さ 2.5～3mm、花冠は長さ 7～10mm、青紫色で、上唇に紫色の斑点がある。

分布の概要

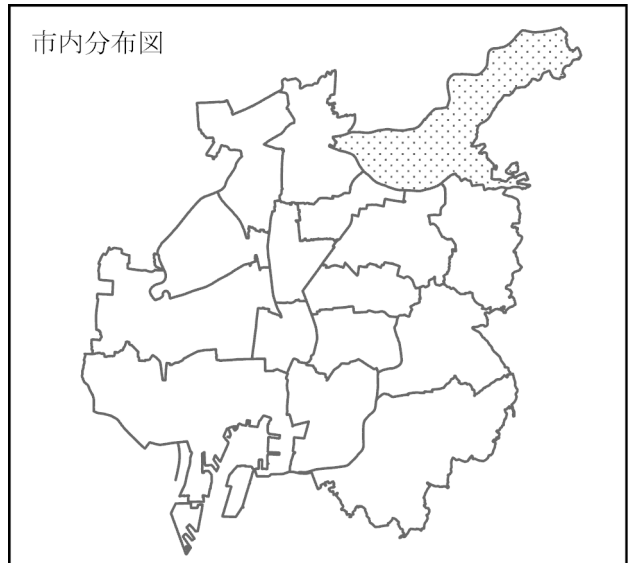
市内：1 守山区（下志段味庄内川堤防、鳥居ちゑ子 566, 1993-10-9, A）に生育していた。

県内：県 GDB2017 p.296 参照。山地には普通に見られる植物で、丘陵地にも点在しており、県西部では名古屋市のほか藤岡、豊田東部、豊田北西部、岡崎北部、岡崎南部、幸田、西尾南部、瀬戸尾張旭、豊明東郷、東海知多、美浜南知多、犬山、小牧、春日井、岩倉北名古屋で確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

代表的な草地性の植物の一つで、日当たりのよい草地や林縁に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

庄内川の堤防に 20 株ほど生育していたという。1993 年以降もしばらくは生育していたようだが、最近の状況は確認されていない。

保全上の留意点

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。堤防の改修に際しては、身近な自然の確保という観点も含めて、適切な配慮が必要である。

関連文献

保草本 I p.164, 平新版 5 p.142.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) シソ科>

ミズネコノオ *Pogostemon stellatus* (Lour.) Kuntze**評価理由**

生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級階級 2。低湿地性の水田雑草で、2015 年版では絶滅、その後 1 カ所で生育が確認されたが、ここでも消失した。しかし他の場所で再度確認される可能性もあるので、定性的に絶滅危惧 IA 類と評価する。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全国 2025	準絶滅危惧

形態

1 年生草本。茎は高さ 15~50cm で軟らかく、中央付近で多数の枝を出す。葉は 3~6 枚が輪生し、無柄、葉身は線形で長さ 2~6cm、幅 2~4mm、先端は鋭頭~鈍頭、辺縁は全縁である。花期は 8~10 月、茎および枝の先端に、長さ 2~5cm、幅 4~5mm の穂状の花序をつけ、花を密生する。花冠は白色または淡紅色、長さ約 2mm、雄ずいは長さ約 3mm で花外に突き出る。

分布の概要

市内：12 北区（北久手町、小菅崇之 s.n., 2019-10-9, N）に生育していた。

県内：県 RDB2020 p.534 参照。名古屋市のほか、12 新城、13 豊川、28 額田、37a 瀬戸、46a 扶桑、48 春日井の 6 区画で確認されている。15 豊橋北部で採集された標本もあるが、ここでは現在のところ現存を確認できない。

国内：本州、四国、九州、琉球（徳之島）。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陆、東南アジア。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

水湿地、湿田、休耕田などに生育する。

現在の生育状況／減少の要因

近年市内では見られなくなっていた植物であるが、2019 年に北区の水田で確認された。現地では、大きい株は 10 株以下だが、小さい株まで含めると 20 株程度は生育していたという。しかしこの場所でも、2024 年に再確認に行ったところ住宅地となって消失していた。北区の他の場所（如意 3 丁目）では 2003 年に生育が確認されたが、その後生育地にビルが建てられ、絶滅した。

保全上の留意点

本種が生育できるような湿田は、農地改良の結果、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在では逆に、過去の稲作形態を示す文化遺産として、保全の必要性が高くなっている。このような、従来行政的に「退治目標」とされてきた環境の保全は、今後の重要な課題である。

特記事項

名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 6 に掲載されている。

関連文献

保草本 I p.172, 平新版 5 p.121, SOS 旧版 p.76, SOS 新版 p.138.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) シソ科>

シマジタムラソウ *Salvia isensis* Nakai ex Hara

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、補正+2 (固有)、総点 16。本地域の湧水湿地を特徴づける植物の一つで、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全 国 2025	絶滅危惧 II 類

形態

多年生草本。茎は 4 角形で直立し、高さ 20~80cm、下部には開出する長毛がある。葉は対生し、1~2 回羽状複葉、茎の下部に集まることが多い。小葉は卵形で、葉の先端のものが大きく、側羽片はやや小形、辺縁には鈍鋸歯があり、質は一般に薄いが、蛇紋岩地のはやや厚く、脈は表面でくぼむ。花期は 7~8 月、茎や枝の先に長い穂状の花序を作る。花はややまばらに輪生し、がくは長さ 5~6mm、花冠は淡青紫色、長さ 1cm 内外、筒部内面の中央に輪状に毛があり、雄ずいは曲がらず、花外に突き出る。

分布の概要

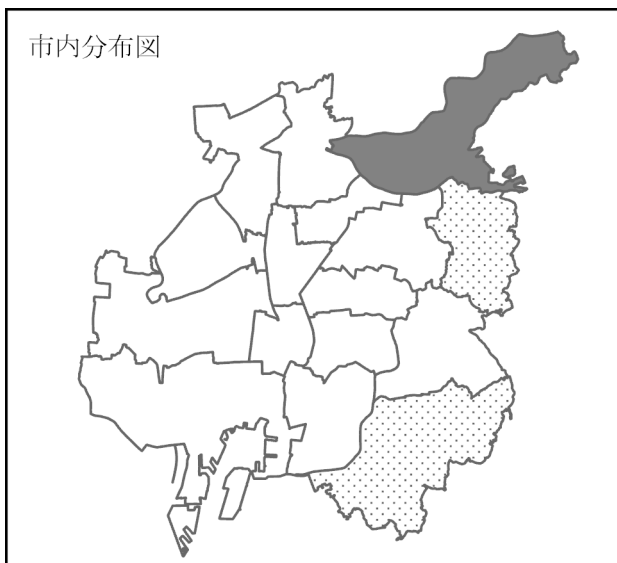
市内: 1 守山区 (上志段味東谷、鳥居ちえ子 673, 1994-7-16, A) に生育している。2 名東区 (猪高緑地、鳥居ちえ子 1014, 1995-10-21, A)、5 緑区 (鳴海、岡田善敏 s.n., 1944-10-10, A) で採集された標本もある。

県内: 県 RDB2020 p.653 参照。名古屋市のほか、鳳来南部、新城、足助、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、半田武豊、常滑、知多南部で確認されている。豊橋市から田原西部半島にかけてと犬山市から春日井市にかけてでは発見されていない。

国内: 本州 (岐阜県、愛知県、三重県)。

世界: 日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

東三河と三重県では、蛇紋岩地の疎林内や半裸地状の場所などに生育する。西三河、尾張と岐阜県では、湧水湿地周辺の林内に生育することが多いが、湿地内の日当たりのよい場所、水田わきの湿った草地などに見られることもある。比較的耐陰性のある植物で、湿地性植物の中では森林化が進行してもかなり遅くまで林内に残存しているが、それでもあまり暗いところでは生育できない。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では狭い範囲にかなりの個体が生育しており、周辺にも少数個体があったが、最近では存続しているものの被陰のために個体数が減少し、花つきも悪くなってしまった。

保全上の留意点

丘陵地の湧水湿地を、周辺の林を適宜伐採しながら維持することが必要である。

特記事項

集団間の遺伝的分化やナツノタムラソウ *S. lutescens* Koidz. との関係について、今後更に検討する必要がある。花の形態は、ナツノタムラソウ類とほとんど異ならない。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 7 に掲載されている。2024 年の仮リストでは絶滅危惧 IB 類として掲載したが、再検討の結果評価が変更された。

関連文献

保草本 I p.168, 平新版 5 p.139, SOS 旧版 p.77+図版 17, SOS 新版 p.110.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) タヌキモ科>

ムラサキミミカキグサ *Utricularia uliginosa* Vahl**評価理由**

生育環境階級 4、人為圧階級 4、県西部分布階級 1。湧水湿地性の食虫植物で、名古屋市では生育できる環境が激減している。最近の情報がないが、まだ残存している可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 IA 類と評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	準絶滅危惧

形態

小型の食虫性の多年生草本。地下茎は糸状で、まばらに捕虫囊をつける。地上葉はへら形～倒披針形、長さは柄を除いて 2～3mm のものから 3cm を越すものまでである。花期は 8～9 月、花茎は直立し、高さ 5～15cm、上部に 1～4 花をつけ、花には長さ 2～8mm の花柄がある。がくは広卵形で長さは花時に 2～3mm、膜質、花後 4～5mm に伸長して耳かき状の宿存がくとなり、蒴果をつつむ。花冠は淡藍紫色、長さ 3～6mm、距は長さ 2～3mm、下向きで、先端はやや前方に曲がる。

分布の概要

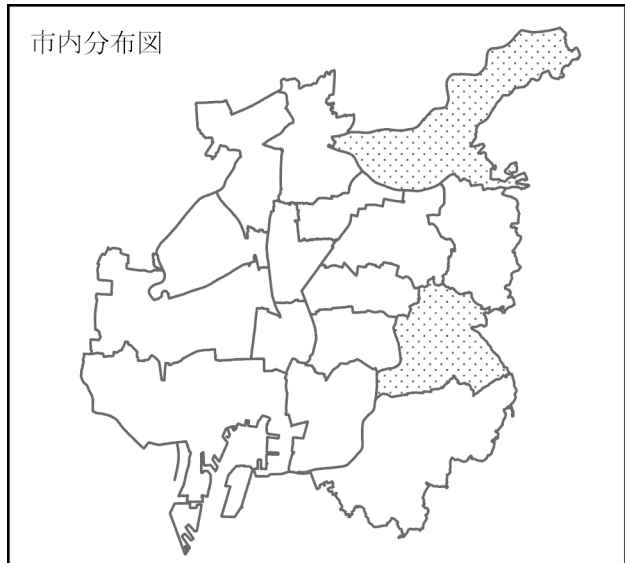
市内: 1 守山区(上志段味森林公園, 芹沢 56227, 1990-8-8, A; 小幡緑地, 芹沢 56209, 1990-8-8, A)、4 天白区(八事裏山, 渡邊幸子 1415, 1993-10-28, A) に生育していた。

県内: 県 RDB2020 p.656 参照。名古屋市のほか、設楽西部、作手、豊橋北部、田原東部、田原西部、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、瀬戸尾張旭、豊明東郷、半田武豊、常滑、犬山、春日井で確認されている。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 日本から東南アジア、インド、オーストラリアにかけて分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

湧水湿地の、裸地状の場所に生育する。ミミカキグサやホザキノミミカキグサよりも湿潤な場所に多く、しばしば浅い水中に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

開発等による湧水湿地の減少に伴い、現在の状態に至ったものと思われる。近年の夏の高温乾燥傾向によって、他種以上に大きな影響を受けている。天白区八事裏山では多数の個体が生育していたが、遷移の進行によって大型の草本に被陰され、最終的には東海豪雨によって湿地が埋没して見られなくなった。

保全上の留意点

生育地である湧水湿地を保全する必要がある。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形もあわせて保全する必要がある。また、本種の場合は特に湿潤な場所に生育しているので、周辺部の森林を伐採し、水収支の回復や湿地の縮小防止を図る必要がある。その一方で、踏み荒らし防止のため、湿地自体にはなるべく立ち入らないようにする配慮も必要である。

関連文献

保草本 I p.121, 平新版 5 p.165.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) キキョウ科>

キキョウ *Platycodon grandiflorum* (Jacq.) A.DC.**評価理由**

生育環境階級 4、人為圧階級 4、県西部分布階級 1。全国的に減少傾向の著しい代表的な草地性植物である。名古屋市では最近ほとんど確認されておらず、定性的に絶滅危惧 IA 類と評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全国 2025	準絶滅危惧

形態

多年生草本。根茎は太い。茎は直立し、高さ 50～100cm になる。葉は茎の下部では対生または 3 輪生、上部では少しずれて互生し、無柄または短い柄があり、葉身は狭卵形、長さ 4～7cm、幅 1.5～4cm、先端は鋭頭、辺縁に小さい鋭鋸歯があり、表面は無毛、裏面は短毛があつて粉白色をおびる。花期は 7～8 月、茎の先端部に 1～数個の花をつけ、花冠は青紫色で広鐘形、先は 4～5 裂し、直径 4～5cm である。雄ずいは 5 個で、雌ずいより先に熟す。

分布の概要

市内：1 守山区（下志段味吉田、鳥居ちゑ子 2336, 2003-7-2, A）、2 名東区（猪高緑地、鳥居ちゑ子 1986, 2001-7-13, A）、4 天白区（菅田三丁目、伊藤晶子 140, 2003-7-18, A など）、5 緑区（鳴海町水広下池付近、芹沢 77575, 2001-9-8, A）で採集された標本がある。しかし緑区ではすでに絶滅、他の場所でも最近ほとんど確認されていない。

県内：県 RDB2020 p.542 参照。全国的には減少傾向が著しいが、愛知県ではまだ比較的多く残存しており、県西部では名古屋市のほか藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、岡崎北部、岡崎南部、高浜碧南、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、半田武豊、常滑、犬山、春日井で確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州、琉球（請島）。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市ではもともと個体数が少なく、林縁部の草地、溜池の周辺などに僅かに残存しているだけであった。丘陵地の開発、草地の利用停止などが減少の最大要因であるが、個体数の減少につれて、園芸目的の採取も目につくようになった。

保全上の留意点

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地（いわゆるボタ）には、本種以外にもさまざまな草地性植物が生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。また、河川の堤防や幹線用水路わきの草地は、管理上の理由で定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で、多くの草地性植物の逃避地になっている。堤防や水路の改修にあたっては、このような植物の最後の生育場所を奪わないよう、特に配慮が必要である。

特記事項

秋の七草の「朝貌」は、本種のことだと言われている。

関連文献

保草 I p.91, 平新版 5 p.194, SOS 新版 p.83.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) キク科>

カセンソウ *Inula salicina* L. var. *asiatica* Kitam.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級階級 3、総点 17。草地性の植物で、2015 年版では絶滅と判断したが、2002 年に採集された標本があることが判明したので絶滅危惧 IA 類としておく。しかし実際には、すでに絶滅している可能性が高い。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は直立し、高さ 50～80cm になる。葉は互生し、長楕円形～長楕円状披針形、長さ 4～8cm、先端は鋭頭、基部は茎を抱き、質はやや硬く、脈が目立つ。花期は 7～9 月、頭花は分枝した枝端に 1 個ずつ上向きにつき、基部に苞葉があり、黄色、直径 3.5～4cm である。総苞は半球形、総苞片は外側のものほど短く、白緑色、先端は緑色で多少なりとも葉状に開出し、辺縁以外は無毛である。そう果は長さ約 1.5mm、無毛、冠毛がある。

分布の概要

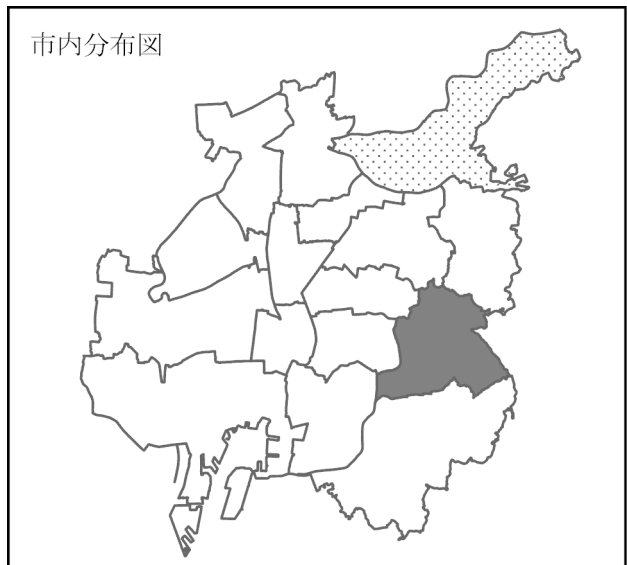
市内: 4 天白区(荒池緑地, 渡辺幸子 5142, 2002-8-1, N) で採集された標本がある。1 守山区の愛知用水沿いにも生育していたようで、写真が安原(1990)に掲載されている。

県内: 県 RDB2020 p.358 参照。新城、豊川、豊橋北部、日進、東海、阿久比、常滑の 7 区画で確認されているが、阿久比と常滑では絶滅し、東海でもすでに絶滅している可能性が高い。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア。基準変種は茎に毛が少ないもので、ヨーロッパからシベリア西部にかけて分布している。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

日あたりのよい乾いた草地に生育する。「湿地に生育する」と書かれている文献もあるが、通常湿地には生育しない。

現在の生育状況／減少の要因

天白区の状況はよくわからない。個体数階級は見込み値である。守山区では小群落があったらしいが、愛知用水の改修工事により絶滅した。

保全上の留意点

愛知用水などの幹線用水路わきの草地は、管理上の理由で定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で、多くの草地性植物の逃避地になっている。水路の改修にあたっては、このような植物の最後の生育場所を奪わないよう、特に配慮が必要である。

特記事項

オグルマ *I. britanica* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam. はやや湿った草地に生育し、葉が薄く、そう果の表面に毛がある。

引用文献

安原修次. 1990. なごや野の花 p.87. エフエー出版, 名古屋.

関連文献

保草本 I p.70, 平新版 5 p.354, SOS 旧版 p.87.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) スイカズラ科>

オミナエシ *Patrinia scabiosifolia* Link**評価理由**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 16。代表的な草地性の植物で、名古屋市では僅かに残存しているだけである。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は高さ 70~120cm で、下部にまばらにあら毛がある。葉は対生し、下部のものには柄があり、葉身は羽状に深~全裂し、頂羽片が最も大きく、長楕円状ひし形~線状楕円形、長さ 2~6cm、鋭頭~鋭尖頭、側羽片は 1~3 対である。花期は 8~10 月、枝先に上部がほぼ平らの集散花序を散房状につける。花は多数つき、黄色、花冠は 5 裂し、直径 3~4mm、雄ずいは 4 本である。

分布の概要

市内：5 緑区（渡邊幸子 6443, 2012-10-19, A）に生育している。1 守山区（大森、犬飼 清 s.n., 1953-9-10, A）、3 千種区（覚王山、沢井輝男 s.n., 1953-9-10, A）で採集された標本もある。守山区の森林公園に続く県有林で撮影したという写真は、安原（1990）に掲載されている。

県内：県 GDB2017 p.309 参照。山地、丘陵地に広く生育しているが、濃尾平野中央部には見られない。県西部では名古屋市のほか、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、岡崎北部、岡崎南部、刈谷知立、西尾南部、瀬戸尾張旭、豊明東郷、東海知多、半田武豊、常滑、知多南部、犬山、小牧などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、シベリア東部。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

緑区では 2014 年には 2 株見られたというが、その後の状況は確認されていない。守山区では、遷移の進行による草地の消失か、土地造成に伴う生育地の破壊によって絶滅したものと思われる。

保全上の留意点

愛知用水などの幹線用水路わきの草地は、管理上の理由で定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で、多くの草地性植物の逃避地になっている。水路の改修にあたっては、このような植物の最後の生育場所を奪わないよう、特に配慮が必要である。

特記事項

秋の七草の一つで、漢字で女郎花と書く。

引用文献

安原修次. 1990. なごや野の花 p.120. エフエー出版, 名古屋.

関連文献

保草本 I p.102, 平新版 5 p.423.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 I 群 (原始被子植物) ウマノスズクサ科>

オオバウマノスズクサ *Aristolochia kaempferi* Willd.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 3、総点 15。林地に生育する植物で、名古屋市では減少傾向が著しい。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全国 2025	—

形態

高さ数 m になる木質のつる植物。若い茎は軟毛を密生する。葉は互生し、長さ 3~5cm の柄がある。葉身は卵状心形~三角状心形、長さ 6~14cm、幅 5~13cm、先端は鋭頭~縁頭、辺縁は全縁、裏面には密に斜上する短毛がある。幼株の葉身はしばしば細長くなり、基部両側に丸い耳状の裂片がつく。花期は 4 月下旬~6 月上旬、花は葉腋に 1 個つき、長さ 2~3.5cm の柄があり、がく筒は基部で下を向き、途中で強く曲がって上を向き、舷部は円形に広がって直径 2cm 程度になり、筒部内壁と舷部の脈は暗紫褐色になる。果実は長さ 5cm 程度の長楕円形で、6 本の稜がある。

分布の概要

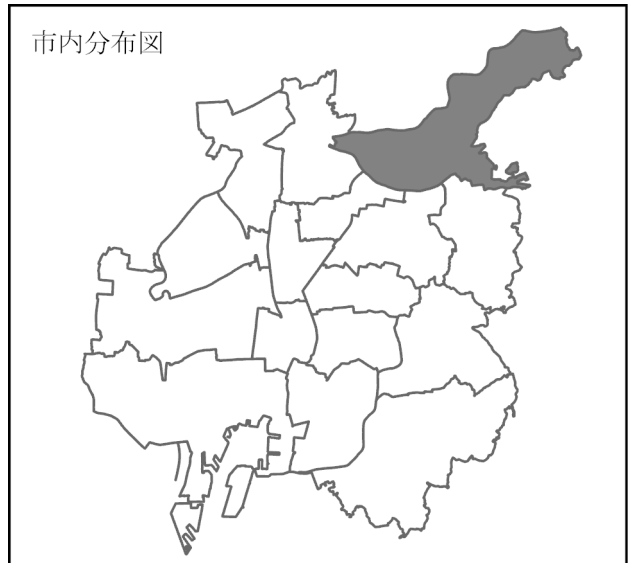
市内：1 守山区（上志段味東谷、村松 28230, 2016-5-7, N; 吉根、渡邊幸子 4649, 2001-4-28, N）に生育している。

県内：県 RDB2020 p.395 参照。尾張部の丘陵地に分布しており、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧の 3 区画で確認されている。

国内：本州（関東地方以西）、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

丘陵地の林縁、明るい林内などに生育する。

現在の生育状況／減少の要因

守山区ではまだところどころにあるが、開花するような株はあまり残存していない。吉根には大きな群落があったが、土地造成により生育地の丘陵が破壊され、消滅した。

保全上の留意点

名古屋市内では、本種が生育できる丘陵地そのものが激減している。丘陵地の地形を保全する必要がある。

特記事項

若い株の葉は側裂片が耳状になり、ホソバウマノスズクサと誤認されることがある。従来愛知県でオオバウマノスズクサとされてきた植物は、大部分がタンザワウマノスズクサ var. *tanzawana* Kigawa にあたる。タンザワウマノスズクサは、葉裏の毛が開出し、がく筒内壁に多くの紫点があることでオオバウマノスズクサから区別される。

関連文献

保草本Ⅱp.318, 平新版 1 p.59.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 I 群 (原始被子植物) モクレン科>

シデコブシ *Magnolia stellata* (Siebold et Zucc.) Maxim.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県西部分布階級 1、補正+2 (固有)、総点 15。本地域を代表する固有種であるが、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全国 2025	準絶滅危惧

形態

夏緑性の小高木または低木。高さは 5m くらいのもが多いが、時には 10m に達する。葉は互生し、長さ 2~5mm の柄があり、葉身は長楕円形または倒披針形、長さ 5~10cm、幅 1~3cm、先端は鈍頭または円頭、基部はくさび形、やや薄い紙質で表面は無毛、裏面は淡緑色で脈上に毛がある。花は 3~4 月に葉が展開する前に咲き、直径 7~10cm、花被片は 12~18 枚あってがくと花卉の区別はなく、淡紅色またはわずかに紅色を帯びた白色、縁は多少波をうつ。集合果は長さ 3~7cm になり、種子は赤色である。

分布の概要

市内：1 守山区 (上志段味東谷山、芹沢 74429, 1998-3-29, A; 吉根太鼓ヶ根、芹沢 77330, 2001-5-20, A; 同長廻間、鳥居ちゑ子 2259, 2003-3-27, A; 大森御膳洞、芹沢 51063, 1989-4-4, A)、3 千種区 (田代町、長谷川 62, 2021-3-26, N) に生育している。植栽されたものは、市内の他の場所でも見られる。

県内：県 RDB2020 p.396 参照。名古屋市以外では、豊橋南部、田原東部、田原西部、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、岡崎南部、幸田、瀬戸尾張旭、長久手日進 (38b 藤枝町、濱嶋育子 1442, 2021-5-3, N)、犬山、小牧、春日井で確認されている。ただし岡崎南部では絶滅し、幸田も幼木が 1 株あっただけでその後確認できない。半田武豊 (武豊町二ツ峯湿地) にもあったというが、この湿地は知多半島道路拡幅に伴う土砂採取によって破壊された。

国内：本州中部 (愛知県、岐阜県美濃地方中・東部、三重県北部)。

世界：日本固有種。

生育地の環境／生態的特性

丘陵地の湧水湿地やその周辺に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市では東谷山南麓に比較的大きな集団があるほか、他に 4 カ所、少数個体が生育している場所があった。生育地は全体的に森林化が進行しており、後継樹が生育できる状況は失われている。現存個体も、このままではやがて被陰によって枯死するものと思われる。一方で土地造成も深刻な圧迫要因になっており、小集団のうち 1 カ所はこれにより絶滅した可能性が高い。千種区では数株が生育していて、最も市街地寄りの自生地として重要である。

保全上の留意点

丘陵地の崩壊地がなかなか放置できない現状では、地形の改変を伴わない二次林の伐採は本種の個体群維持にとって不可欠である。萌芽力の強い樹種であるため、ある程度の株数がある場所ならば、伐採に際して本種に特に配慮する必要はない。

特記事項

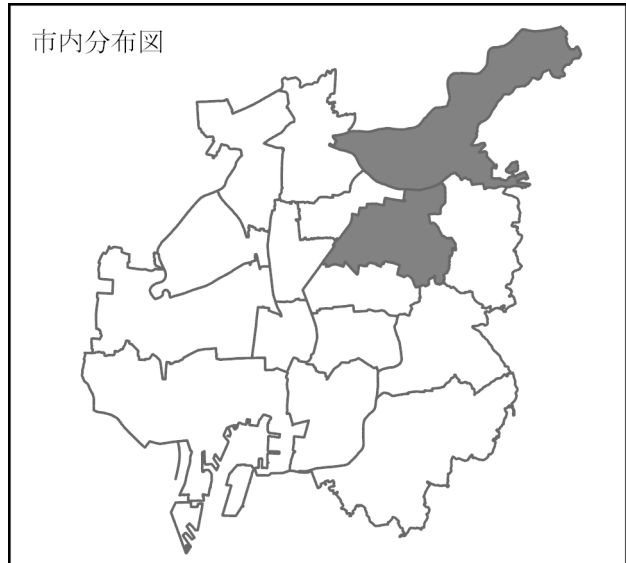
やや矮性で花の色が濃い系統は、「ヒメコブシ」の名で広く栽培される。

関連文献

保木本 II p.219, 平新版 1 p.72, SOS 旧版 p.49+図版 16, SOS 新版 p.94-97.

(芹沢俊介)

市内分布図



維管束植物 <種子植物 被子植物 I 群 (原始被子植物) クスノキ科>

クロモジ *Lindera umbellata* Thunb.**評価理由**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級階級 2、総点 15。愛知県東三河の山地では普通に見られる植物であるが、尾張では稀である。名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の低木。高さ数 m になる。若枝は黄緑色で無毛。葉は互生し、長さ 0.5~2cm の柄があり、葉身は倒卵状長楕円形、長さ 6~10cm、幅 2~3m、先端は鈍端のことも鋭尖頭のこともある。葉裏にははじめ絹毛があるが成葉では無毛になり、やや白色を帯びる。花は 4 月に咲き、黄緑色で直径 6~7mm、十数個が散形につく。花柄は長さ 4~6mm で、白色の絹毛がある。果実は球形、直径 5~6mm、秋に黒色に熟す。

分布の概要

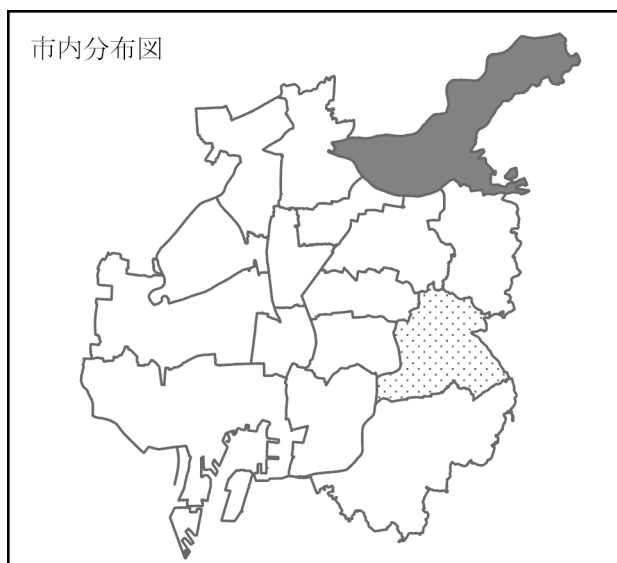
市内：1 守山区（大森北、村松 29175, 2018-4-3, N）。4 天白区（土原、渡辺幸子 2647, 1996-5-27, A）で採集された標本もある。

県内：県 GDB2017 p.224 参照。東三河の山地には広く分布しており、豊橋北部などの低山地にも見られる。西三河では、東北部の山地には比較的多いが、それ以外では少ない。県西部では名古屋市のほか、藤岡、豊田東部、豊田北西部、岡崎北部、瀬戸尾張旭で確認されているだけである。

国内：本州（関東地方以西）。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

自然林、二次林、人工林の下層木として生育し、沢沿いから尾根まで見られる。山地には多いが丘陵地では稀である。ヒメクロモジと同じような場所に生育し、しばしば混生する。ただし尾張では、ヒメクロモジよりずっと稀である。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では 2 株確認されているだけだが、この 2 株は高さ 3m 程度に育っており、花も実もよくつける。天白区では竹林内に幼株があったというが、2009 年の調査では消失していた。

保全上の留意点

生育地の林を保全する必要がある。種子は鳥によって散布されるので、そのうちに他の場所でも出現する可能性がある。

特記事項

材に芳香があり、楊枝として使用される。ヒメクロモジからは、花序が大きく(従って秋期の花芽も丸くふくらむ)、小花柄の毛は白色、葉柄は概して長く、葉身先端部はしばしばあまり尖らず、葉裏は淡緑色で絹毛が少ないことで区別できる。

関連文献

保木本 II p.191-192, 平新版 1 p.83
 小山博滋, 1987. クロモジ群の分類と分布. 植物分類地理 38:161-175.
 芹沢俊介, 2009. クロモジとヒメクロモジ. くさなぎおこけ(3):8-10.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) トチカガミ科>

ヤナギスブタ *Blyxa japonica* (Miq.) Maxim.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級階級 1、総点 14。水田や小水路に生育する水草で、名古屋市ではしばらく現存を確認できなかったが、2015 年に再発見された。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	—

形態

沈水生の 1 年生草本。茎は多少分岐し、長さ 5~30cm になり、多くの葉をつける。葉は無柄で線形、長さ 3~5cm、先はしだいに細くなり、辺縁には微細な鋸歯がある。花期は 8~10 月、花は葉の間に付き、両性、円筒形で長さ 18~20mm の苞鞘があり、花弁は 3 個で白色、線形、長さ 7~8mm である。種子は長楕円形、長さ約 1.5mm、表面は平滑である。

分布の概要

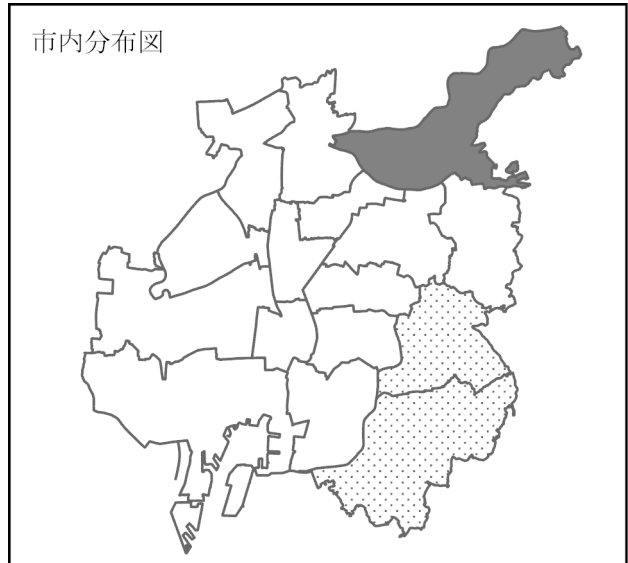
市内：1 守山区 (吉根, 村松 28148, 2015-10-5, A) に生育している。4 天白区 (八事, 井波一雄 s.n., 1949-9-11, CBM149649)、5 緑区 (徳重, 浜島繁隆 s.n., 1968-8-30, A) で採集された標本もある。

県内：県 RDB2020 p.571 参照。スブタ類の中では最も多い種類で、山間部から丘陵地にかけて点在している。県西部では名古屋市のほか、23 藤岡、25 豊田北西部、29 岡崎北部、31 幸田、32a 刈谷、36 西尾南部、37a 瀬戸、37b 尾張旭、38b 日進、42a 阿久比、42b 半田、44b 南知多、45 犬山、47 小牧、48 春日井で生育が確認されている。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島、台湾、中国大陆。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

湧水のある谷戸田やその周辺の小水路などに生育する。名古屋市の生育地もそのような場所である。

現在の生育状況／減少の要因

1 枚の水田に十数株 (1 年生草本なので個体数階級は 3) が生育していたが、隣接する水田には見当たらなかったとのことである。過去からの増減はよくわからないが、以前この場所を調査したときには、スブタ類には気付かなかった。いずれにしても、耕作が放棄されればすぐに消滅する可能性が高い。

保全上の留意点

丘陵地の谷戸田は、周辺の里草地や二次林と共に、多様な生物の生育場所となっている。文化遺産としても重要である。注意して地形を保全すると共に、土地所有者が耕作を継続できるよう、あるいはそれが不可能なら、代表的な場所だけでも市民参加等の方策を講じて耕作状態を維持する努力が必要である。

関連文献

保草本Ⅲp.395, 平新版 1 p.119.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.24. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.84. 文一総合出版, 東京.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) トチカガミ科>

トチカガミ *Hydrocharis dubia* (Blume) Backer**評価理由**

個体数階級 1、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級階級 2、総点 12。低地性の水草で、名古屋市ではしばらく現存が確認できなかったが、2017 年に再確認された。現状をそのまま見れば総点 12 で絶滅危惧 II 類になるが、生育状況が不安定である可能性を考慮し、絶滅危惧 IB 類と評価する。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全国 2025	準絶滅危惧

形態

水面に浮遊する多年生草本。茎は長く、水中を横にはい、節から根と数枚の葉を出す。葉は長さ 4～20cm の柄があり、柄の基部に 2 個の托葉がある。葉身は円心形、直径 4～7cm、全縁で、裏面の中央に気胞があり、水面に浮かぶ。花期は 8～10 月、花は柄が伸びて水面で開花し、雌雄異花、雄性の苞鞘内には約 5 個のつぼみができ、雌性の苞鞘内には雌花が 1 個だけ発達する。雄花、雌花ともに花弁は 3 個で白色、長さ 10～13mm である。冬には水中茎の先端が長さ 2～4cm の殖芽となり、水中に沈んで越冬する。

分布の概要

市内：7 中区（名古屋城堀、西部 s.n., 2019-10-3, N）に生育している。15 中川区（富田町戸田、高木順夫 446, 1992-9-6, A; 同長須賀、高木順夫 236, 1992-7-11, A）、16 港区（戸田川、榊原 靖 43, 1981-7-20, N）で採集された標本もある。

県内：県 RDB2020 p.231 参照。名古屋市のほか、豊橋南部、西尾南部、東海知多、一宮西部、稲沢、津島愛西、海部南部の 7 区画で確認されているが、かなりの区画ですでに絶滅していると思われる。豊橋北部と常滑で採集された標本もある。濃尾平野では、以前はあちこちにあった水草らしい。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：日本から南アジア、オーストラリアにかけて分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

平野部の湖沼、ため池、水路などに生育する。一般に富栄養の、しかし過栄養でない水域に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

中区では、1967 年採集の標本はあるが、その後消失していた。しかし 2017 年になって、名古屋城外堀で再確認された（寺本・小菅 2018）。その時は個体数も僅かだったが、2019 年には個体数が急速に増加しており、双眼鏡で確認したところ浜島（1996）の記録にある堀内の他の場所でも生育していて（そのため埋土種子由来と判断される）、愛知県内で現存する最大の群落と思われるまでになった。現在は外堀全体に分布が広がっており、もっとも個体数の多かった位置は 2017 年に確認された場所から移動し、北側の鵜の首（塩蔵門の東側）となっている。水質の汚濁と改善が、減少および増加の原因と思われる。中川区では富田町の水田や水路にかなり生育していたというが、おそらくは除草剤の使用や生活排水が流入して水が汚染されたことにより、絶滅した。

保全上の留意点

愛知県の水草は全般的に危急状態であるが、本種のような平野部に生育する水草は、特に危機的である。平野部に「めだかの学校」が見られるような澄んだ水辺を取り戻すことは、絶滅危惧種のあるなしにかかわらず、重要な課題である。

引用文献

浜島繁隆. 1996. 名古屋城外堀の水生植物の変遷. ため池の自然 24:4-5.

寺本匡寛・小菅崇之. 2018. 37 年振りに名古屋城外堀で再確認されたトチカガミの生育状況. なごやの生物多様性 5:47-51.

関連文献

保草本Ⅲ p.396, 平新版 1 p.121, SOS 旧版 p.90+図版 22.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.28. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.92. 文一総合出版, 東京.

（西部めぐみ 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) トチカガミ科>

オオトリゲモ *Najas oguraensis* Miki

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 2、総点 14。池沼に生育する水草で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	—

形態

沈水性の 1 年生水草。茎は細く円筒形、長さ 50cm 以上になり、よく分枝するが折れやすい。葉は対性または 3 輪生、葉身は外側に曲がることもあまり曲がらないこともあり、線形、長さ 2~4cm、幅 0.3~0.7mm、質はやや硬く、辺縁にはっきりした鋸歯がある。葉の基部は長さ 2~4mm の葉鞘となり、葉鞘の先端は切形で小刺がある。花期は 7~9 月、雌雄同株で花は葉腋につき、雄花は苞鞘に包まれ、葯には 4 室がある。雌花は葯に包まれず柱頭は 2 深裂する。果実は各節に 1 個ずつつき、種子は長楕円形、長さ 3~3.5mm、表面には横に長い網目模様がある。

分布の概要

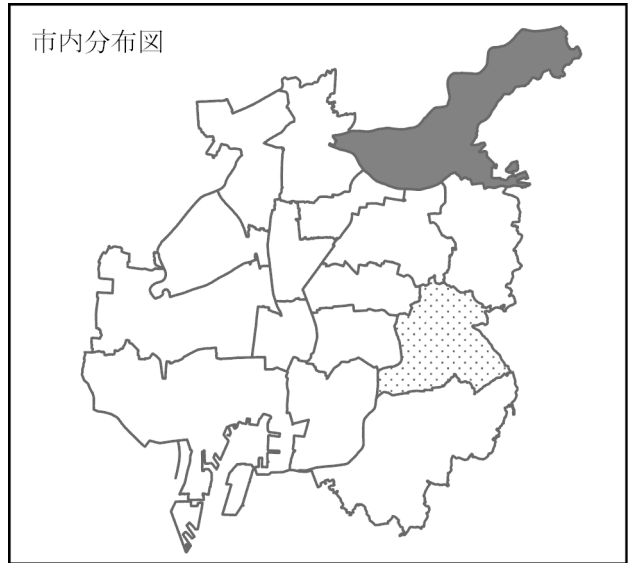
市内: 1 守山区 (中志段味滝ノ水池、村松 21800, 2003-8-7, N, 2019 年にも確認) に生育している。守山区の他の場所 (上志段味簀池、飯尾俊介 s.n., 1963-9-13, A) や 4 天白区 (平針黒石、中島ひろみ 918, 2009-7-5, A) で採集された標本もある。

県内: 県 RDB2020 p.573 参照。名古屋市のほか、豊橋南部、旭、豊田北西部、瀬戸尾張旭、大府東浦、美浜南知多で確認されている。

国内: 本州、四国、九州、沖縄。

世界: 日本、中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

湖沼やため池に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

滝ノ水池 (海老蔓池) は透明度が低く、水面から繁茂している様子は確認できない。詳細な生育状況は不明であるが、衰退傾向にあることは確実と思われる。天白区平針黒石では消失したという。

保全上の留意点

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物の重要な生育・生息場所となっている。しかし、幹線用水路の整備につれてため池に対する依存度が低下した結果、埋め立てられたり、調整池として改修されたり、あるいは原形を保っていても生活排水が流入して汚濁しているものが多く、良好な状態を保っているため池はあまり残っていない。本種の場合も、生育地のため池を保全すると共に、水質が現在以上に悪化しないよう、配慮が必要である。

関連文献

- 保草本Ⅲp.408, 平新版 1 p.123.
 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.52. 文一総合出版, 東京.
 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.96. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) シバナ科>

シバナ *Triglochin asiatica* (Kitag.) A. et D.Löwe

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 15。特に西日本で減少傾向の著しい塩湿地性の植物で、名古屋市では生育できる場所が限られている。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	準絶滅危惧

形態

多年生草本。地下茎は太く、横にはい、よく分枝して株になる。葉は束生し、細い線形、長さ 10～40cm、幅 1.5～5mm、断面は半月形、先端は鈍頭、下部は葉鞘となる。葉鞘は白色で、先端に長さ 3～5mm の葉舌がある。花期は 9～10 月、花茎は高さ 15～50cm で直立し、その上部の長さ 5～15cm の総状花序に、多数の花をつける。花には花時に長さ 1.5～2mm、果時に長さ 2.5～5mm の柄があり、花被片は 6 枚、黄緑色、楕円形で長さ約 2.5mm、雄ずいと心皮も 6 個である。果実は 6 心皮が集まって長楕円形となり、長さ 3.5～4.4mm、先端に柱頭が残存する。

分布の概要

市内：16 港区（当知町庄内川河川敷、芹沢 77749, 2001-10-23, A）で採集された標本がある。

県内：県 RDB2020 p.574 参照。名古屋市のほか、豊橋南部、田原東部、田原西部、西尾北部、西尾南部、大府東浦、東海知多の 7 区画で確認されている。常滑で採集された標本もある。三河湾では比較的多く、中にはかなり大きい群落もある。伊勢湾愛知県側では、名古屋市のほかは最近では知多市の「よくもこんなところに・・・」と思うほどの埋め立て地の水路に小群落があった（ここも現在では消失したらしい）だけである。

国内：北海道、本州、四国、九州。北日本のものは、マルミノシバナとして区別されることがある。

世界：北半球に広く分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

河口や干潟などの塩湿地に生育する。自然度の高い塩湿地だけでなく、護岸堤防のすき間、埋め立て地の水路など、攪乱された場所に大きい群落を作っている場合もある。

現在の生育状況／減少の要因

生育している場所は、かなり狭い範囲に限られている。ごく最近の状況は確認していないが、当面は存続すると思われる。しかし、存続の基盤は脆弱である。

保全上の留意点

本種は塩湿地性植物の中ではやや攪乱された場所にも生育するが、本来の生育地が失われているという状況は、より自然度の高い場所だけに生育する種と同様である。

特記事項

和名は、「塩場菜」という意味で、「芝菜」ではないと言われている。

関連文献

保草本Ⅲp.405, 平新版 1 p.127, SOS 旧版 p.90, SOS 新版 p.155.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ヒルムシロ科>

ヒルムシロ *Potamogeton distinctus* A. Bennett**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。水田や浅い丘陵地の溜池に多い水草で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	—

形態

浮葉性の多年生水草。地下茎は泥中をはい、1節おきに根と水中茎を出す。水中茎は水田に生育するものでは短い、ため池に生育するものでは長さ 1m 以上になる。沈水葉には明瞭な葉柄があり、葉身は被針形、先端は鋭尖頭。水上葉は長さ 5~20cm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 5~10cm、幅 2~4cm である。花期は 6~10 月、浮水葉の腋から柄をのぼし、その先に長さ 2.5~5cm の穂状花序をつける。水の引いた池や落水後の水田では陸生形となることがある。秋期地下茎の先端または節の部分にバナナの房状の殖芽を形成する。

分布の概要

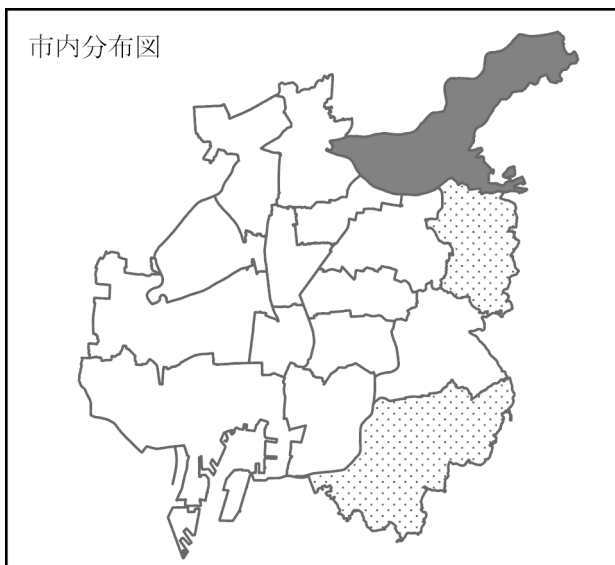
市内：1 守山区（上志段味大久手池、鳥居ちよ子 2654, 2008-8-26, N; 大森八龍、中村 肇 731, 2014-10-25, N）に生育していた。2 名東区（猪高緑地すり鉢池、芹沢 77438, 2001-6-9, A など）、5 緑区（鳴海町螺貝戸笠公園、太田美根子 1, 1994-6-20, A）にも生育していた。

県内：県 RDB2020 p.576 参照。山間部から平野部にかけて点在しているが、近年減少傾向が著しい。県西部では名古屋市のほか、藤岡、豊田東部、刈谷知立、安城、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、大府東浦、東海知多、犬山、春日井、一宮西部などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

湖沼やため池、河川、水路、水田などに生育する。他のヒルムシロ類と異なり水田雑草にもなる。

現在の生育状況／減少の要因

緑区では戸笠公園の小池に群生していたが、その場所が体験農場らしい水田にされ、消滅した。戸笠公園の事例は、緑地公園の中で未整備のまま一般市民が利用しにくい状態になっている場所が、実は野生生物にとって残された最後の砦になっていることを示している。管理担当者も一般市民も、そのような場所が決して「未利用の、無駄な場所」でないことを、はっきり意識する必要がある。また、他の場所においても、公園整備等により激減している。

保全上の留意点

現存する自生地については、生育地の水質を保全することが必要である。

特記事項

山間部のため池に多いフトヒルムシロ *P. fryeri* A. Bennett と異なり、近年の減少傾向は著しい。

関連文献

- 保草本Ⅲ p.412, 平新版 1 p.132.
 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.33. 文一総合出版, 東京.
 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.113. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ユリ科>

アマナ *Amana edulis* (Miq.) Honda**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 3、総点 14。草地や疎林内に生育する早春植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地中に卵形、長さ 3~4cm の鱗茎がある。葉は花茎の下部に 2 個つき、葉鞘が地中にあるため根出葉のように見える。葉身は線形、長さ 15~25cm、幅 5~10mm、先は次第に狭くなり、両面無毛である。花期は 4 月、花茎は高さ 15~30cm で、先端に通常 1 個（ときに 3 個）の花をつける。花は日中に開花し、花被片は 6 枚で披針形、長さ 2~2.4cm、鈍頭、白色で暗紫色の脈がある。蒴果は円形で、3 稜があり、長さ約 1cm、先端に花柱が残存する。

分布の概要

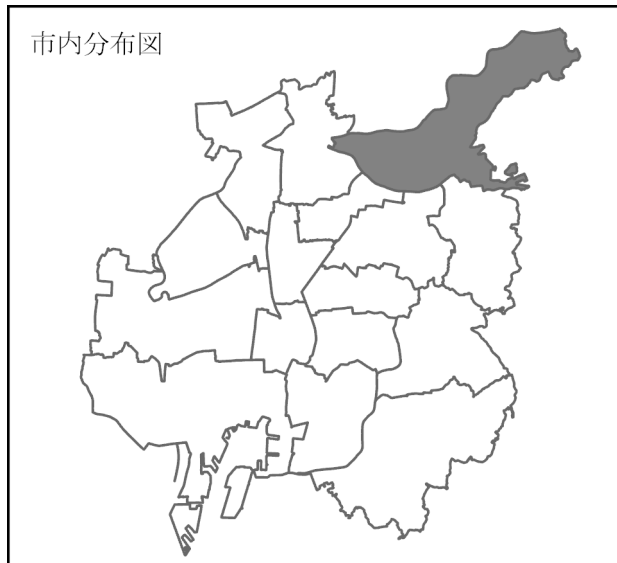
市内: 1 守山区 (天子田、鳥居ちよ子 1035, 1996-4-9, A) で採集された標本がある。

県内: 東三河には点在するが、西三河では生育地が少なく、尾張では稀である。ただし、生育している場所では群生することが多い。2 (下黒川, 小林 50707, 1994-4-24)、3 (本郷, 芹沢 86727, 2011-4-17)、4 (溜漕, 小林 50719, 1994-4-24)、7 (神田, 榑原利修 79, 1992-3-28)、8 (池場, 芹沢 86719, 2011-4-17)、9 (細川, 小林 50400, 1994-4-10)、10 (布里, 小林 50275, 1994-4-3)、12 (一鉄田, 芹沢 68993, 1994-3-20)、13 (萩, 瀧崎 19338, 2002-3-21, T)、15 (石巻本町豊川, 小林 63349, 1998-3-15)、5 (押山, 小林 50677, 1994-4-23)、21 (神殿, 小林 56251, 1995-4-16)、24 (中切町, 畑佐武司 2880, 2002-3-31)、37a (鹿乗町, 日比野修 1885, 1995-4-23)、57b (三和町木曾川, 村松 27970, 2015-3-29) など確認されている。

国内: 本州 (福島県以南)、四国、九州、琉球 (奄美大島)。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地の日当たりのよい草地に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

矢田川に接した公園内に小群落があったというが、最近の状況は確認されていない。この場所は以前は堤防から続いた農地であったが、区画整理で宅地化され、一部が公園として残された。アマナはこの場所に、少なくとも造成直後から生育していたらしい。

保全上の留意点

公園造成時に持ち込まれてものである可能性は完全には否定しきれないが、状況的には保全すべきものと判断される。公園整備によって失われないよう、注意する必要がある。

特記事項

早春植物で、初夏には地上部が消失する。

関連文献

保草本Ⅲp.119, 平新版 1 p.177.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ユリ科>

ササユリ *Lilium japonicum* Houtt.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県西部分布階級 1、総点 14。淡紅色の大きい花をつけるユリで、園芸目的の採取により激減している。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下に卵形～広卵形で直径 2～4cm の鱗茎がある。茎はやや斜めに伸び、分枝せず、高さ 50～100cm になる。葉は互生し、比較的少数、長さ 4～10mm の柄があり、葉身は披針形、ときに多少鎌形になり、長さ 8～23cm、先端は鋭尖頭である。花期は 6～7 月、花は茎の先端に 1～数個が横向きにつき、漏斗形、淡紅色またはほとんど白色、花被片は 6 枚、外片は披針形、内片は長楕円形で長さ 10～15cm、先端はやや反りかえる。蒴果は倒卵形、長さ 3～4cm である。

分布の概要

市内：5 緑区（大高緑地、梅本洋子 s.n., 2024-5-27, N）に生育している。4 天白区（八事裏山、渡邊幸子 2594, 1996-4-25, A）にも生育していたが、最近ではほとんど見かけない。2 名東区（平和公園、鳥居ちゑ子 397, 1993-6-13, A）で採集された標本もある。

県内：山地から丘陵地まで広い範囲に生育しているが、個体数はそれほど多くない。2（坂宇場、村松 33199*, 2022-6-8）、3（御園、芹沢 98132, 2021-6-30）、4（白鳥山、石田雄吉 494, 1979-7-5）、6（段戸高原、芹沢 66557, 1993-7-15）、7（神田、榊原利修 741, 1992-6-29）、8（四谷、芹沢 97864, 2021-6-5）、9（黄柳野、芹沢 55651, 1990-6-21; 上吉田、小林 52131*, 1994-6-14）、11（中河内、芹沢 55851, 1990-7-8）、12（庭野、芹沢 95278, 2019-6-1）、13（荻、瀧崎吉伸 19570, 2002-5-6, T）、14（西浦町、鈴木美恵子 488, 1993-6-6）、15（石巻萩平町、芹沢 61513, 1992-6-1）、16（伊古部町、瀧崎吉伸 15861, 1996-6-18, T）、5（小田木町、芹沢 80600, 2006-7-1）、19（駒山、芹沢 62026*, 62075, 1992-6-27）、20（御内町、芹沢 95477, 2019-7-6）、21（平瀬、芹沢 61962*, 1992-6-26; 宇連野、芹沢 61996, 1992-6-26）、22（田代、芹沢 52103, 1989-6-30）、23（木瀬、日比野修 411, 1992-6-14）、24（山中町、山田初代 589, 1991-6-18）、25（猿投山、磯貝彰宏 1226, 1984-6-12）、28（鳥川、福岡義洋 663, 1990-6-12）、29（古部町、堀田善久 310, 1991-6-15）、30（桑谷町、本多さおり 365, 1994-6-15）、36（佐久島、芹沢 84136, 2009-6-6）、37a（下半田川町、芹沢 76786*, 2000-6-12; 海上町、芹沢 87111, 2011-6-8）、38b（平子町、村松 21317, 2002-6-2）、38b（長湫、半田多美子 2936, 2000-6-8）、41b（佐布里、鳥居ちゑ子 3232, 2013-6-25）、42b（行人町、畑佐武司 173, 1999-6-12）、43（大谷、中井三従美 1, 1992-7-5）、44a（豊丘、大西 博 655, 1992-6-29）、44b（大井、大西 博 617, 1992-6-5）、45（池野、芹沢 69577, 1994-6-1）、47（大山、村瀬正成 11032, 1994-7-10; 日比野修 4492*, 1998-5-24）、48（外之原町、秋山葉子 126, 1994-6-11）などで確認されている。*はシロバナササユリである。

国内：本州（中部地方以西）、四国、九州。

世界：日本固有種。

生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地の林縁や明るい林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

何カ所かで確認しているが、どの場所でも個体数は少ない。花が目立つため、園芸目的で持ち去られることが多い。ササ類などの繁茂により、被陰されて衰退している場合もある。保全活動により回復している場所もあるようだが、活動が中断されればすぐに減少すると思われる。

保全上の留意点

園芸目的の採取については、基本的には公共の資産である自然物を個人の庭に取り込もうという山草愛好家のモラルが問題である。周囲の市民が山草栽培に厳しい目を向け、「自然の植物は自然の中で」というルールを徹底させていくことが必要である。

一方里山の保全については、林床状態の維持が重要である。経済的必然性がなくなった現在では市民参加の里山保全活動を行うことも考えられるが、その場合は林床の踏み荒らしを極力避けると共に、たとえ隣接した場所からであっても植物を持ち込まないよう、特に注意する必要がある。自然には自然の回復力がある。植物が生育できる条件を整えたら、あとはその植物が自分の力で存続するのを見守るべきである。

特記事項

和名は、葉の形がササに似ているからである。

関連文献

保草本Ⅲp.129, 平新版 1 p.173.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

ギンラン *Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 15。名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は直立し、高さ 10~30cm になる。葉は 3~6 個が互生し、長楕円形、長さ 3~8cm、先端は鋭尖頭、基部は茎を抱き、平滑で縦脈が目立つ。花期は 5~6 月、花は茎の上部に数個つき、白色、苞は下位の 1~2 個はしばしば葉状になるが、他は小さい。がく片は披針形、長さ 7~9mm、先端はややとがり、側花弁は広披針形で鈍頭、がく片よりやや短い。唇弁の基部は短い距となり、舷部は 3 裂し、側裂片は 3 角形、中裂片は楕円形で内面に数本の隆起条がある。

分布の概要

市内：2 名東区 (猪高緑地、鳥居ちゑ子 1063, 1996-5-12, A) に生育している。

県内：丘陵地から山地に生育するが、多いものではない。2 (新野峠, 加藤等次 3160, 1993-6-8)、4 (天狗棚, 鈴木 学 1003, 1983-5-15)、7 (清崎, 夏目一平 9, 2009-5-15)、8 (川合, 小林 63738, 1998-5-4)、12 (吉川, 小林 63585, 1998-4-22)、13 (財賀寺, 青山正宏 27, 1992-4-22)、14 (御堂山, 芹沢 78590, 2003-5-10)、15 (石巻小野田町, 小林 63699, 1998-4-29)、20 (大蔵, 山崎玲子 1663, 1998-4-25)、22 (鍛冶屋敷, 伊藤恭輔 179, 1993-5-15; 上仁木, 日比野修 2131*, 1994-5-17)、24 (滝脇町, 畑佐武司 1772, 2001-5-5)、26 (水源神社, 畑佐武司 3121, 2002-4-22)、41b (佐布里, 鳥居ちゑ子 2490, 2006-6-23)、45 (善師野, 山田果与乃 306, 1998-4-29)、48 (廻間町, 山田果与乃 2120, 2015-5-2) などで確認されている。*は距のないヤビツギンランの型である。25 (猿投山, 岡本英一 288, 1958-5-19) で採集された標本もある。

市内分布図



国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

通常は落葉広葉樹の林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

狭い範囲であるが、20 株程度がまとまって生育していた。毎年見られたが、周囲の樹木が伐採されて乾燥したためか一時出現しなくなった。しかし最近になって、再度確認された。

保全上の留意点

散発的に出現する種類なので、他の場所にも残存している可能性がある。更に注意して探索する必要がある。

特記事項

葉の小さいユウシュンラン var. *subaphylla* Ohwi (県 RDB2020 p.410 参照) は、名古屋市ではまだ確認されていない。

関連文献

保草本Ⅲp.30, 平新版 1 p.189.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

キンラン *Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。明るい林内に生育する植物で、全国的にも名古屋市でも園芸目的で採取されることが多く、減少傾向が著しい。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全 国 2025	準絶滅危惧

形態

多年生草本。茎は直立し、高さ 30~70cm になる。葉は 6~8 個が互生し、広披針形、長さ 8~15cm、幅 2~4cm、先端は鋭尖頭、基部は茎を抱き、平滑で縦脈が目立つ。花期は 4~6 月、花は茎の上部に 3~12 個つき、黄色、苞は 3 角形で長さ約 2mm、膜質である。がく片は卵状長楕円形、長さ 14~17mm、先端は鈍頭、側花弁は長卵形で、がく片よりやや短い。唇弁の基部はふくらんで短い距となり、舷部は 3 裂し、側裂片は 3 角状卵形でずい柱を抱き、中裂片は円心形で内面に数本の隆起条がある。

分布の概要

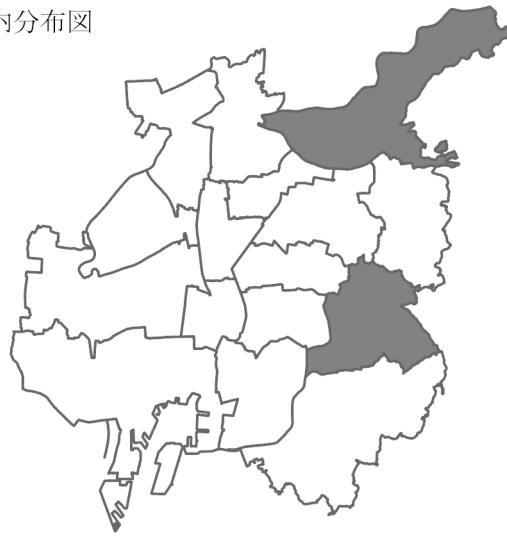
市内：1 守山区 (村松 30305, 2019-5-3, N)、4 天白区 (中島ひろみ 913, 2008-5-6, A など) に生育している。名東区、千種区にもあるという話を聞くが、標本は確認できなかった。

県内：県 RDB2020 p.583 参照。名古屋市のほか、津具、東栄、鳳来北東部、鳳来南部、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、田原、下山、小原、藤岡、豊田東部、岡崎北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、犬山、春日井で生育が確認されている。稲武、豊橋南部、足助、豊田北西部で採集された標本もある。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

丘陵地～山地の明るい落葉広葉樹林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

かつては市内の丘陵地二次林内に点在していたはずであるが、遷移の進行や開発に加えて花が黄色で目立つため採取され、激減したと思われる。愛知県全体ではまだかなりの区画に生育しているが、どの区画でも偶然行き当たるとい程度の頻度で残存しているにすぎない。

保全上の留意点

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。ただし本種の場合は、好事家の意図的な採取よりもむしろ一般人の行きずりの採取の影響が大きい。自然物は公共の資産であり、個人の庭に取り込んでではないという意識を、できるだけ多くの人に持ってもらうことが必要である。

関連文献

保草本Ⅲp.29, 平新版 1 p.189, SOS 新版 p.78.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

サイハイラン *Cremastra variabilis* (Blume) Nakai**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。偽球茎は卵形、長さ 2~3cm、通常 1 葉を頂生する。葉は 5~18cm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 25~40cm、先端は鋭尖頭、薄い革質で無毛である。花期は 5~6 月、花茎は直立し、高さ 30~50cm、基部は鞘状葉につつまれる。花は花茎の上部にやや密に 10~20 個つき、紅紫色を帯びた淡緑褐色、下向きに垂れる。苞は線状披針形、長さ約 7mm、鋭尖頭である。がく片や側花弁は線状披針形、長さ 3~3.5cm、幅 4~5mm、唇弁は長さ 3cm で、基部が少しふくらみ、上端付近で 3 裂し、側裂片は披針形、中裂片は長楕円形である。

分布の概要

市内：2 名東区（上社、半田多美子 1552, 1994-5-17, A, 2018 年にも確認）に生育している。1 守山区（吉根）にも生育していたらしい。

県内：低山地を中心に点在するが、それほど多いものではない。8（鳳来寺山、加藤等次 849*, 1992-2-3）、11（高松、小林 54615*, 1994-10-16）、14（御堂山、小林 56935、1995-5-27）、15 嵩山町、小林 51548*, 1994-5-20）、5（野入町、芹沢 85920, 2010-6-16）、20（東大見、岡田兼光 6, 1993-6-9）、22（柏洞、日比野修 2384, 1995-5-30）、23（西市野々、塚本威彦 1706*, 1995-9-22）、24（焙烙山、山崎玲子 2183, 2000-5-27）、25（猿投山、山崎玲子 1586, 1997-5-21）、37a（定光寺町、日比野修 1724, 1993-6-6）、37b（平子町東、村松 21285, 2002-5-25）、38b（赤池、中島ひろみ 410, 1994-5-20）、44b（内海内福寺、小林 68839*, 2000-5-3）、45（八曽、小林 53746*, 1994-9-15）、47（石金、日比野修 4786, 1999-5-31）、48 玉野町、村松 800*, 1990-3-28）などで確認されているが、*は花も実もない個体で、できれば再採集が望ましい。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：千島列島南部からヒマラヤまで分布している。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

沢沿いのやや湿った林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

レッドデータブックなごや初版を発行した 2004 年当時は 2 カ所の林内にそれぞれ 2~3 株が生育していたようだが、守山区は標本を採取できないでいるうちに消失してしまったという。1975 年頃まではところどころにあったらしい。

保全上の留意点

生育地の丘陵の地形を保全することが必要である。また林床性の植物なので、本種に関しては森林の伐採を避ける必要がある。

特記事項

和名は、花序の状態が采配に似ているからである。

関連文献

保草本Ⅲp.57, 平新版 1 p.191.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

カキラン *Epipactis thunbergii* A. Gray

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。湿地性の植物で、名古屋市ではかつては点在していたが激減し、現在ではわずかに残存しているにすぎない。

形態

多年生草本。地下茎は横にはう。地上茎は高さ 35～85cm になり、平滑で、基部はやや紫色を帯び、3～4 個の鞘状葉がある。葉は 5～10 枚が互生し、狭楕円形～広披針形、大きいものは長さ 8～14cm、先端は鋭尖頭、基部は茎を抱いて短い鞘になり、縦脈が目立つ。花期は 6～7 月、花は茎の上部に 5～15 個つき、黄褐色の花をつける。がく片は狭長卵形、長さ 12～15mm、鋭頭、側花弁は卵形、がく片とほぼ同長で、鈍頭である。唇弁は側花弁と同長で、内面には紅紫色の斑があり、関節によって上下 2 唇にわかれ、上唇は広卵形で基部に 3 隆条があり、下唇は倒心形である。

分布の概要

市内：1 守山区 (村松 31415, 2020-6-19, N) に生育している。5 緑区 (滝の水湿地、浜島繁隆 s.n., 1971-6-20, A) で採集された標本もある。

県内：丘陵地～山地の湿地に広く分布し、2 (茶臼山, 小林 38888, 1992-8-22)、6 (川向, 芹沢 55922, 1990-7-25)、7 (宇連, 小林 53605, 1994-9-10)、8 (鳳来寺山, 加藤等次 1493, 1992-6-23)、10 (愛郷, 小林 49093, 1993-10-24)、11 (中河内, 芹沢 55860, 1990-7-8)、12 (中宇利, 芹沢 55644, 1990-6-21)、13 (一宮町上長山, 芹沢 61756, 1992-6-18)、15 (岩崎町, 芹沢 55661, 1990-6-21)、17 (野田, 芹沢 55672, 1990-6-21)、18 (高木, 芹沢 56330, 1990-8-9)、5 (林道月ヶ平線, 鈴木 学 1544, 1983-7-29)、19 (八幡牧場, 芹沢 55894, 1990-7-8)、20 (追分, 新井文子 746, 1994-6-25)、21 (田代, 芹沢 70123, 1994-7-12)、22 (喜佐平, 伊藤泰輔 46, 1992-9-11)、23 (三箇, 日比野修 438, 1992-6-29)、24 (山中町, 山田初代 698, 1991-7-6)、25 (太平町, 芹沢 61917, 1992-6-25)、27 (福谷, 臼井里華 498, 1992-6-21)、28 (大代, 芹沢 59113, 1991-6-29)、29 (小呂町, 芹沢 52163, 1989-7-1)、30 (池金町, 芹沢 52178, 1989-7-1)、36 (鳥羽姫山, 壁谷重美子 557, 1994-6-22)、37a (広久手町, 芹沢 73870, 1997-6-30)、38a (前熊, 半田多美子 3664, 2004-6-27)、38b (岩藤新田, 芹沢 55601, 1990-6-20)、39b (杓掛町, 浅野守彦 1700, 2003-7-27, N)、42a (草木, 渡邊麻子 478, 1995-6-25)、42c (二ツ峰, 林彰一 134, 1990-6-17)、44a (布土, 芹沢 61649, 1992-6-12)、45 (八曾山, 芹沢 55632, 1990-6-20)、47 (大山, 日比野修 4133, 1997-8-18)、48 (廻間町, 芹沢 55628, 1990-6-20) など確認されている。3 (三輪, 恒川敏雄 113, 1946-7-26, T)、37b (平子町, 飯尾俊介 38, 1964-6-18) で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウスリー。

生育地の環境／生態的特性

泥質の湿地の林縁などに生育する。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では以前はそれほど少ない植物ではなかったが、湿地の消失や園芸目的の採取により、ほとんど消滅してしまった。最近では 1 カ所にややまとまった群落が残存しているのを確認できただけである。

保全上の留意点

生育地の湿地を、水源部まで含めて保全することが必要である。園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる踏み荒らしを防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 12 に掲載されている。

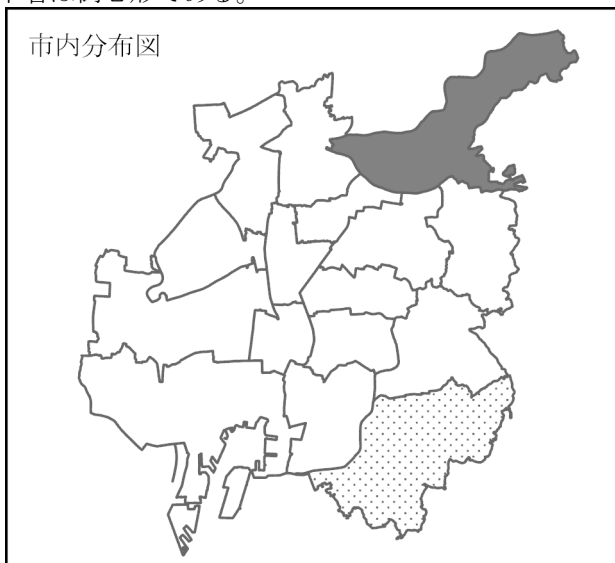
関連文献

保草本Ⅲp.30-31, 平新版 1 p.198.

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

市内分布図



(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

タシロラン *Epipogium roseum* (D.Don) Lindl.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級階級 3、総点 15。近年全国的に増加している腐生ランであるが、名古屋市では現在のところまだ生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	準絶滅危惧

形態

腐生の多年生草本。根茎は長さ 2~4cm、直径 1~2cm の楕円形の塊茎になる。地上茎は根茎の先端から 1 本出て、高さ 25~40cm、黄白色、5~7 個の膜質の鱗片葉をつける。花期は 7 月、茎の上部に茎と同色の花を 10~20 個つける。苞は広披針形~卵形、長さ 8~12mm である。がく片は狭披針形、長さ 8~9mm、側花弁はやや幅が広い。唇弁は卵形、がく片とほぼ同長、全縁、外面はふくれ、内面に 2 本のトサカ状の隆起条があり、距は楕円形、長さ 3~4mm である。果実は花後まもなく熟し、地上部はやがて消失する。

分布の概要

市内: 4 天白区 (八事裏山, 西部 s.n., 2019-6-26, N) に生育している。

県内: 県 RDB2020 p.587 参照。名古屋市のほかに、12 新城、13 豊川、14 蒲郡、15 豊橋北部、41b 知多、44a 美浜で確認されている。

国内: 本州、四国、九州、琉球。

世界: 日本、台湾、中国大陸南部、インドシナ、インド、マレーシア、オーストラリア。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

常緑広葉樹林の暗い林床に生育する。もともとは極めて稀少な植物であったが、近年増加傾向にあり、あちこちで新しい自生地が報告されている。

現在の生育状況／減少の要因

常緑広葉樹林へと遷移が進みつつある二次林の林床に、20 株程度の小群落があった。周辺を探索したが、この群落以外は発見できなかった。過去からの増減は不明であるが、おそらくは照葉樹林化の進行に伴って近年定着したものと思われる。

保全上の留意点

今後の増減によって配慮の必要度は変わってくるが、とりあえずは生育地の林を保全することが必要である。

特記事項

全国的に増加傾向にあることから考えれば「絶滅は危惧されない」という判断も成り立つが、現状では名古屋市内の自生地がまだ少ないので、他種と同様の基準で評価しておく。

関連文献

保草本Ⅲp.32, 平新版 1 p.199.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) ラン科>

アキザキヤツシロラン *Gastrodia verrucosa* Blume**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県西部分布階級階級 4、総点 15。里山に生育する腐生植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全 国 2025	—

形態

腐生の多年生草本。根茎は長さ 2.5～5cm、直径 4～10mm の紡錘状の塊茎になる。地上茎は根茎の先端から 1 本出て、高さ 5～12cm、数個の膜質の鱗片葉をつける。花期は 9 月下旬～10 月、茎の先端部に黒褐色の花を 2～6 個つける。苞は卵形、長さ 3～6mm である。花は 3 がく片が合着して長さ 10～12mm の鐘状になり、花柄は花時には長さ 1cm 以下であるが、花後著しく伸長して 30～45cm に達する。果実は晩秋に熟し、細長い楕円形、長さ 2～3.5cm、直径 7～8mm、暗黄褐色である。

分布の概要

市内：1 守山区（庄内川、長谷川 s.n., 2016-11-11, N; 竜泉寺、井上海人 5, 2023-10-23, N）に生育している。2 名東区（猪高緑地、長谷川 31, 2016-11-11, A）の中の一部個体も本種の可能性があるが、十分確認できていない。

県内：県 RDB2020 p.413 参照。名古屋市のほか、豊橋北部、田原東部、田原西部、岡崎北部の 4 区画で確認されている。

国内：本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球、小笠原。

世界：日本からマレーシアにかけて分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

丘陵地の常緑広葉樹林、竹林などの林床に生育する。名古屋市の自生地は河川敷等の竹林内である。

現在の生育状況／減少の要因

2 ヶ所で確認されているが、近接した場所のようなので、集団数階級は 4 とした。うち 1 ヶ所は、近いうちに開発により消失するらしい。愛知県内では、豊橋市から渥美半島にかけて点在しており、個体数も場所によってはかなり多い。里山の森林化の進行により増加傾向にあるのではないと思われる。

保全上の留意点

今後の増減によって配慮の必要度は変わってくるが、とりあえずは生育地の林を保全することが必要である。

特記事項

地表近くに黒褐色の花をつけるため、花時にはほとんど発見できない。クロヤツシロラン（市 VU）からは、花がややまばらにつき、唇弁の上面に毛がないことで異なる。

関連文献

保草本Ⅲp.27, 平新版 1 p.203.

（西部めぐみ 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

ミヤマウズラ *Goodyera schlechtendaliana* Reichb.f.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎の下部は匍匐し、上部は直立して高さ 12~25cm となる。葉は茎の下部に数個が互生し、長さ 1~2cm の柄があり、葉身は卵形、長さ 2~4cm、先端は鋭頭、質はやや厚く、通常白色の網斑がある。花期は 8~9 月、花は茎の上部に 7~12 個つき、一方を向いて並び、ほとんど白色、苞は披針形、長さ 5~12mm である。がく片は狭卵形、鈍頭、側花弁は広倒披針形、がく片よりやや長く、先端内側に黄褐色の小班がある。唇弁はがく片と同長で、基部はふくらむ。葉に白斑がないものをアオミヤマウズラ form. *similis* Makino という。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷山、日比野修 4595, 4596*, 1998-7-23, A）に生育している。

県内：東三河、西三河の山地にはやや普通に見られる植物で、1 (大尾, 小林 46748, 1993-8-21; 八嶽山, 芹沢 82091*, 2007-8-26)、2 (坂宇場, 加藤等次 3613, 1993-8-24)、3 (下田, 小林 47458*, 1993-9-5; 大入溪谷, 芹沢 77983, 2002-8-24)、4 白鳥山, 芹沢 70594, 1994-8-31)、6 (田内, 芹沢 62969, 1992-8-30)、7 (田口, 夏目一平 23, 2009-8-12)、8 (鳳来寺山, 芹沢 66978, 1993-8-20)、14 (清田町, 井上美保子 492, 1992-9-18)、5 (野入町, 芹沢 95689, 2019-9-7)、19 (坪崎, 芹沢 63192, 1992-9-8)、20 (追分, 新井文子 1142, 1994-9-23)、21 (蕪木町, 芹沢 83078, 2008-8-26)、22 (北篠平, 芹沢 56584, 1990-8-25)、23 (御作, 日比野修 3085, 1995-8-25)、24 (西広瀬町, 芹沢 67176、67177*, 1993-8-27)、25 (猿投山, 畑佐武司 4971, 2002-9-3)、28 (大代, 福岡義洋 1218, 1990-8-28)、29 (大柳町 (芹沢 84797, 2009-8-27; エヌエス環境 s.n.*, 2021-9-15)、30 (池金町, 芹沢 52799, 1989-8-24)、37a (曾野町, 塚本威彦 2912*, 2000-9-4; 芹沢 82216, 2007-9-10)、38a (前熊, 半田多美子 3470*, 2003-3-23)、45 (本宮山, 松田ちか子 668, 1986-8-18)、47 (大山, 日比野修 4128, 1997-8-18)、48 (廻間町, 山田果与乃 252*, 1997-8-19; 257, 1997-9-2) など確認されている。9 (巢山, 大原準之助 s.n., 1958-11-6)、15 (石巻山, 恒川敏雄 s.n., 1961-8-30, T) で採集された標本もある。*はアオミヤマウズラである。

国内：北海道、本州、四国、九州、琉球（奄美大島）。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

山地の林内に生育する。散在することが多く、大きな群落は作らない。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では 2 カ所で確認されているが、どちらも個体数は少ないらしい。

保全上の留意点

丘陵地の地形を保全することが必要である。

特記事項

名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が少なく、存続の基盤が脆弱である。特にラン科植物は個体数の少ないものが多く、ネジバナ以外はすべて絶滅危惧と言ってもよいほどである。

関連文献

保草本Ⅲp.41, 平新版 1 p.205.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

ホクリクムヨウラン *Lecanorchis hokurikuensis* Masam.**評価理由**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県西部分布階級 3、総点 15。名古屋市内では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全国 2025	—

形態

地上生の菌従属栄養植物。根茎は小型の鞘状の鱗片葉を多数つけ、根はひも状で長い。地上茎は直立し、高さ 30-40cm、針金状で硬く、葉は鞘状で短く、互生し、乾くと黒変する。花期は 5-6 月、花は茎の先端に数個つき、長さ 15~25mm、帯紫色であり開かず、背萼片は倒披針形、長さ 17-25mm、側萼片は背萼片と同長だがやや細い。

分布の概要

市内：4 天白区（相生山緑地、長谷川 17, 2021-05-21, N）に生育している。

県内：県 RDB p.417 参照。県内は豊橋北部、田原東部、足助、瀬戸尾張旭、春日井の 5 区画で確認されているだけである。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：おそらく日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

暖帯～亜熱帯の土壌が発達した二次林等に生育する。本種はブナ科の菌根と共生することが知られており、コナラ林やアラカシ林などで見られることが多い。名古屋市内の生育地は、コナラ林からアラカシ林へと遷移が進みつつある樹林地である。

現在の生育状況／減少の要因

2021 年には、花茎を 48 本つけた草丈 41.5cm ほどの大きな 1 株が確認された（長谷川 2022）。株の大きさから判断して、かなりの期間 1 株だけ生育していたと思われる。生育地は保全緑地内であるが、森林整備等のため伐採が行われれば消失する可能性が高い。

保全上の留意点

生育している場所の樹木や土壌環境の維持が必要である。

特記事項

1 株だけの草本は原則として定着状態に至っていないと判断されるが、本種の場合は極めて大株なので、特に評価対象とした。本種を含むムヨウラン類は里山の森林化に伴い全体的に増加傾向にあり、本種も将来的には増加する可能性がある。

引用文献

長谷川泰洋. 2022. 名古屋市におけるホクリクムヨウランの新産地、なごやの生物多様性 9: 45-48

関連文献

平新版 1 p.210 (ムヨウランの変種として掲載)。

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) ラン科>

クモキリソウ *Liparis kumokiri* F.Maek.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は高さ 10~20cm、基部はふくらんで偽球茎となり、1~2 年残存して横に並ぶ。葉は茎の下部につき、鞘状のものを除き 2 個、葉身は広卵形、長さ 5~12cm、先端は鈍頭、葉脈の網目模様は目立たない。花期は 6~7 月、花は茎の上部に 5~15 個つき、淡緑色、苞は 3 角状卵形で長さ 1~1.5mm である。がく片は長楕円形で鈍頭、長さ 6~7mm、側花弁は線形でがく片とほぼ同長、唇弁はくさび状倒卵形、長さ 5~6mm、中央上部で著しく反曲し、唇部は幅約 5mm で、先端は微凸頭である。

分布の概要

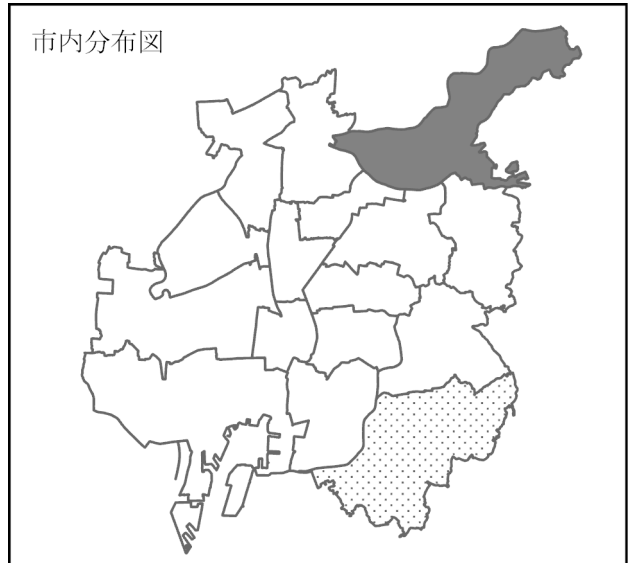
市内：1 守山区（鳥居ちゑ子 1953, 2001-6-8, A）に生育している。5 緑区（鳴海町水広下、芹沢 59028, 1991-6-28, A）にも生育していた。

県内：東三河、西三河の山地ではあちこちに生育しているが、丘陵地には少ない。1（大沼上、小林 45269, 1993-7-11）、3（御園、芹沢 98131, 2021-6-30）、4 つぐ高原（芹沢 93074, 2017-9-2）、6（川向、芹沢 56906, 1990-9-3）、12（富岡、加藤等次 3301, 1993-7-13）、14（遠望峰山、井上美保子 291, 1992-6-13）、5（小田木町、芹沢 94238, 2018-6-18）、19（駒山、芹沢 62049, 1992-6-27）、20（御内町、芹沢 95478b, 2019-7-6）、21（東大沼、長谷川朋美 433, 1992-6-16）、22（東郷町、芹沢 92629, 2017-7-1）、23（三箇、日比野修 489, 1992-7-9）、24（国附町、佐藤久美子 566, 1993-7-4）、25（猿投山、山崎玲子 858, 1994-7-9）、28（千万町、小林 52213, 1994-6-19）、29（小呂町、芹沢 52162, 1989-7-1）、30（羽栗町、芹沢 52198, 1989-7-1）、37a（海上町、芹沢 75792, 1999-6-17）、45（栗栖、平嶋 敏 660, 1989-6-14）、48（廻間町、山田果与乃 580, 2000-6-16）などで確認されている。2（茶臼山、芹沢 26290, 1977-7-18）、8（鳳来湖、加藤等次 s.n., 1969-7-29）で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、四国、九州、琉球。

世界：千島列島南部、日本、朝鮮半島。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

やや湿った明るい林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では現存するようだが、個体数は少ない。緑区では水広下池近くの林内に生育していたが、宅地造成のため絶滅した。

保全上の留意点

生育地の地形と森林を保全することが必要である。園芸目的の採取は、ジガバチソウに比べれば少ない。

特記事項

ジガバチソウに似るが、葉は鈍頭で、葉脈の網目模様が目立たない。山地ではジガバチソウより多いが、丘陵地ではそれより少ない。

関連文献

保草本Ⅲp.51, 平新版 1 p.211.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

コバノ トンボソウ *Platanthera nipponica* Makino

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 15。湿地性の植物で、名古屋市では生育地がきわめて少ない。

形態

多年生草本。根は一部が肥厚する。茎は直立し、高さ 30~90cm、細く繊細で、基部に 2~3 個の鱗片葉をつける。通常葉は茎の中部に数個つき、最下のものだけが大きく、線状楕円形、長さ 3.5~15cm、先端は鈍頭、基部は茎を抱く。小型の株では他の葉はほとんど目立たないが、大型の株では次の 1~2 個も多少発達する。花期は 6~8 月、花は茎の上部にまばらに 3~15 個つき、淡黄緑色、苞は披針形である。背がく片は卵形、長さ 2~2.5mm。側がく片は長楕円形、側花弁は斜長楕円形、ともに背がく片よりやや長い。唇弁は長さ 2.5~4mm、距は長さ 15~20mm で、上方に反りかえる。

分布の概要

市内: 1 守山区 (上志段味東谷、鳥居ちゑ子 403, 1993-7-4, A, その後も確認されていた) で採集された標本がある。守山区の他の場所 (小幡緑地、芹沢 56216, 1990-8-8, A)、3 千種区 (茶屋ヶ坂、井波一雄 s.n., 1934-7-7, CBM264605)、4 天白区 (八事、立川 s.n., 1952-8-19, A)、5 緑区 (桶狭間、稲垣貫一 s.n., 1947-6, CBM109998) にも生育していた。東山 (千種区?) 産という個体の写真は、奥山 (1960) に掲載されている。

県内: 丘陵地に広く分布しており、6 (川向、芹沢 55916, 1990-7-25)、11 (岩波、芹沢 55877, 1990-7-8)、15 (葦毛湿原、瀧崎 9421, 1987-6-20)、17 (野田、芹沢 55674, 1990-6-21)、19 (八幡牧場、芹沢 55896, 1990-7-8)、22 (太平、芹沢 52145, 1989-6-30)、23 (三箇、日比野修 440, 1992-6-29)、24 (矢並町、芹沢 55513, 1990-6-19)、25 太平町、芹沢 61904, 1992-6-25)、27 (黒笹、芹沢 69811, 1994-6-21)、28 (獅子ヶ森、小林 52762, 1994-7-17)、37a (海上町、芹沢 75879, 1999-7-4)、38a (前熊、半田多美子 1171, 1993-6-27)、38b (岩藤新田、伊藤恭子 401, 1992-7-3)、39b (沓掛町、芹沢 59017, 1991-6-25)、43 (久米、芹沢 59038, 1991-6-28)、44a (布土、林 彰一 163, 1990-6-19)、45 (八曾山、芹沢 55633, 1990-6-20)、48 (廻間町、芹沢 55629, 1990-6-20) など確認されている。12 (有海原、加藤等次 s.n., 1957-7-1)、16 高師原、恒川敏雄 s.n., 1951-8-15, T) で採集された標本もある。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 日本固有種。

生育地の環境／生態的特性

湧水湿地の日当たりのよい場所に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市では 1995 年以降は 1 カ所の湿地で数株が確認されただけである。花が目立たないため採取圧はそれほど著しくないが、遷移の進行により湿地が縮小しており、その点で将来の存続が懸念される。観察者やカメラマンによる踏み荒らしも懸念される。小幡緑地では公園整備のため湿地が破壊され、絶滅した。

保全上の留意点

生育地の湧水湿地を、水源部も含めて保全することが必要である。また緑地公園の整備に当たっては、有名な目立つ植物だけでなく目立たない生物についても生育・生育状況を把握し、影響を最小限に止める努力が必要である。

引用文献

奥山春季. 1960. 原色日本野外植物図譜 2:pl.161. 誠文堂新光社, 東京.

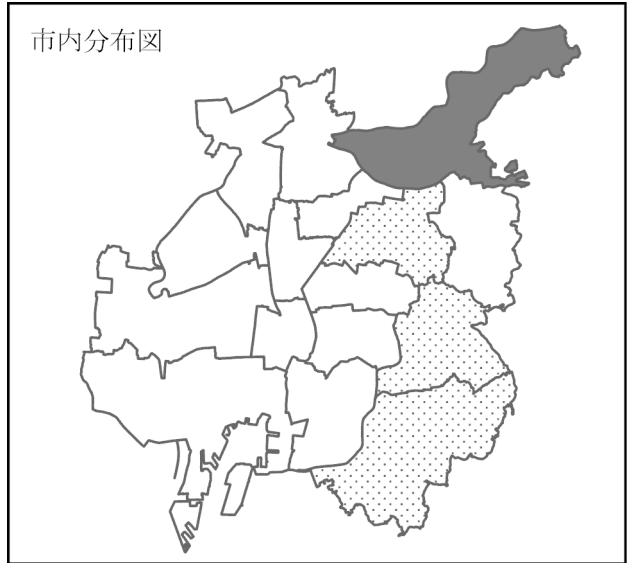
関連文献

保草本Ⅲp.21, 平新版 1 p.224.

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

市内分布図



(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群(単子葉類) アヤメ科>

ノハナショウブ *Iris ensata* Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai ex Makino et Nemoto**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県西部分布階級 1、総点 15。湿地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下茎は横にはって分枝し、褐色の繊維につつまれる。葉は剣状で 2 列につき、長さ 30~80cm、幅 5~20mm で、中脈がある。花期は 6~7 月、花茎は高さ 40~110cm、先端に数個の苞をつけ、そこから次々に花を開く。花は紫色で直径 9~13cm、外花被片は柄状の部分を除き楕円形、長さ 4~7.5cm、幅 3~4.5cm、開出して反曲し、中央から基部にかけて黄色の条がある。内花被片は倒被針形で直立し、長さ 3~4cm、花柱分枝の先は 2 裂し、裂片はほぼ全縁である。蒴果は楕円形、長さ 2~3cm である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味、村松 30400, 2019-6-6, N）、2 名東区（牧野ヶ池緑地、芹沢 77446, 2001-6-9, A）に生育している。5 緑区（滝の水、浜島繁隆 s.n., 1971-6-10, A）にも生育していた。

県内：山間部では比較的多いが、丘陵地では少ない。2（坂宇場、芹沢 100447, 2022-7-2）、4（白鳥山、石田雄吉 518, 1979-7-6）、6（駒ヶ原、瀧崎吉伸 21329, 2004-6-27, T）、7（田口、小林 66587, 1999-7-4）、10（山中、小林 66603, 1999-7-4）、11（岩波、芹沢 59104, 1991-6-29）、12（中宇利、加藤等次 1472, 1992-6-21）、13（東上、芹沢 61753, 1992-6-18）、15（岩崎町、芹沢 55654, 1990-6-21）、17（野田、芹沢 55671, 1990-6-21）、5（中当、伊藤昭康 270, 1990-7-5）、19 八幡牧場、芹沢 55893, 1990-7-8）、20（寧比曽岳、芹沢・水野 27, 1984-7-18）、21（東大沼、長谷川朋美 521, 1992-7-4）、22（大平、芹沢 52143, 1989-6-30）、23（白川、日比野修 1459, 1993-7-19）、24（坂上町、山崎玲子 1448, 1996-7-2）、25（伊保町、芹沢 61744, 1992-6-13）、28（切山、芹沢 55844, 1990-7-8）、30（桑谷町、本多さおり 366, 1994-6-15）、32a（井ヶ谷町、芹沢 55574, 1990-6-20）、37a（海上町、芹沢 75873, 1999-7-4）、37b（平子町、村松 20465, 2001-6-10, N）、42c（二ツ峰、芹沢 61653, 1992-6-12）、44a（布土、芹沢 61648, 1992-6-12）、45 八曽、松田ちか子 451, 1986-7-1）、48（木附町、山田果与乃 1140, 2004-6-27）などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア東部。

生育地の環境／生態的特性

山地では湿地のほか林道のわき、尾根の草地などにも見られるが、丘陵地では生育地は湧水湿地下部の泥質の場所や溜池の周辺などに限られる。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では森林化の進行により生育地の湿地が縮小し、被陰されてほとんど花がつかない状態になっている。名東区ではため池の富栄養化によりキショウブなどが侵入し、圧迫されていたが、最近では保護活動により回復傾向にある。花が目立つため、園芸目的で採取されることもある。採取されなくても訪れる人が多くなれば、踏み荒らし等の攪乱が懸念される。緑区滝の水では、生育地が宅地造成のため破壊され、絶滅した。

保全上の留意点

園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる踏み荒らしを防止する必要がある。

特記事項

園芸品のハナショウブはノハナショウブをもとに改良されたもので、多数の品種がある。

関連文献

保草Ⅲp.77, 平新版 1 p.235.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ススキノキ科>

キスゲ *Hemerocallis citrina* Baroni var. *vespertina* (Hara) M.Hotta**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。草地性の植物で、名古屋市では生育できる環境が激減している。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。根は多数束生するが、ふくらまない。葉は 2 列に束生し、線形、長さ 40～60cm になる。花期は 7～9 月、花茎は高さ 100～150cm になり、上部に披針形で 2～5cm の苞をつけ、花序の枝は長い。花は夜咲きでわずかに芳香があり、淡黄色、花柄は長さ 2～15mm、花筒は長さ 2.5～3cm、花被片は 6 枚で長さ 6.5～7.5cm である。蒴果は広楕円形、長さ約 2cm、中に黒色の種子がある。

分布の概要

市内: 4 天白区 (保呂町天白川堤、渡邊幸子 1120, 1993-7-31, N) に生育している。5 緑区 (鳴海町諸ノ木、芹沢 77629, 2001-9-17, A) にも生育していた。

県内: 県 GDB2017 p.238 参照。低山地から丘陵地にかけて点在しており、県西部では名古屋市のほか、豊田東部、豊田北西部、刈谷知立、瀬戸尾張旭、豊明東郷、半田武豊、岩倉西春日井で確認されている。

国内: 本州、四国、九州。

世界: 日本固有。基準変種は中国大陸に分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地のやや乾いた日当たりのよい草地に生育する。尾張では主として河川の堤防や幹線水路わきの草地に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

堤防や水路の改修により激減している。天白区では 2020 年の河川敷改修工事が自生地にかかったため、一部を移植して個体群の維持を試みたところ、定着に成功した (西部 2022)。現在は 15 株程度が存続している。

保全上の留意点

幹線用水路わきや河川堤防の草地は、管理上の理由で定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で、多くの草地性植物の生育地になっている。改修にあたってはこれらの植物の生育場所を奪わないよう、適切な配慮が必要である。

特記事項

花が夕方開花し翌朝閉じることから、ユウスゲとも呼ばれる。厳密に言えば野生絶滅であるが、すぐ近くに移植されたものなので自生継続と見なして評価した。

引用文献

西部めぐみ, 2022. 天白川に自生していたキスゲの移植について, なごやの生物多様性 9:81-85.

関連文献

保草本Ⅲp.140, 平新版 1 p.238.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ススキノキ科>

ノカンゾウ *Hemerocallis fulva* L. var. *disticha* (Don ex Ker Gawl.) M.Hotta**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 15。湿性の草地に生育する植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。根は多数束生し、一部が紡錘状にふくらむ。葉は 2 列に束生し、線形、長さ 30～65cm、幅は変異が著しく、3mm 程度のものから 15mm に達するものまでである。花期は 6～8 月、花茎は高さ 20～90cm、小型の個体は先端に 1 個の花をつけるだけであるが、大型の個体は花序が 2 分し、10 個以上の花を順次咲かせる。花は昼咲きで芳香はなく、橙色～暗赤色、花柄は長さ 3～5mm、花筒は長さ 2～3.5cm、花被片は 6 枚で長さ 6～8cm である。通常結実しない。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷、村松 30485, 2019-6-29）に生育している。緑区（鳴海町神の倉、渡邊幸子 2692, 1996-9-16, A）にも生育していた。3 千種区（東山、犬飼 清 s.n., 1959-6-10, A）、4 天白区（八事裏山、西川勇夫 190, 1992-7-20, A）で採集された標本もある。

県内：県 GDB2017 p.239 参照。山地に点在している。県西部では名古屋市のほか、藤岡、豊田東部、豊田北西部、豊田南西部、岡崎北部、刈谷知立、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、犬山、春日井などで確認されている。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：日本、台湾、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地のやや湿った草地に生育する。愛知県では、しばしば湧水湿地周辺部に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では湿地に 3～4 株生育している。緑区では神ノ倉の水田の畔に生育していたが、埋め立てられて絶滅したという。

保全上の留意点

湿地周辺の森林を伐採し、開けた状態を維持することが必要である。

特記事項

花が濃赤色のものは、ベニカンゾウと呼ばれることがある。愛知県の湿地にはこの型が多い。

関連文献

保草本Ⅲp.141, 平新版 1 p.238.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) キジカクシ科>

オオバギボウシ *Hosta montana* F. Maek.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級階級 2、総点 15。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下茎は短くはう。葉は束生し、長さ 20~50cm の柄があり、葉身は卵形~卵状楕円形、長さ 15~30cm、先端は鋭尖頭、基部は円形~心形、葉脈は裏面に隆起し、脈上に多少の小突起がある。花期は 6~8 月、花茎は高さ 50~100cm になり、上部に多数の花をつける。苞は扁平で長さ 2.5~4 cm、鋭頭、典型的なものではつぼみの時から開出し、星形になる。花は淡紫色またはほとんど白色、長さ 4~5cm、広筒部は急に、または次第に太くなる。果実はよく形成される。

分布の概要

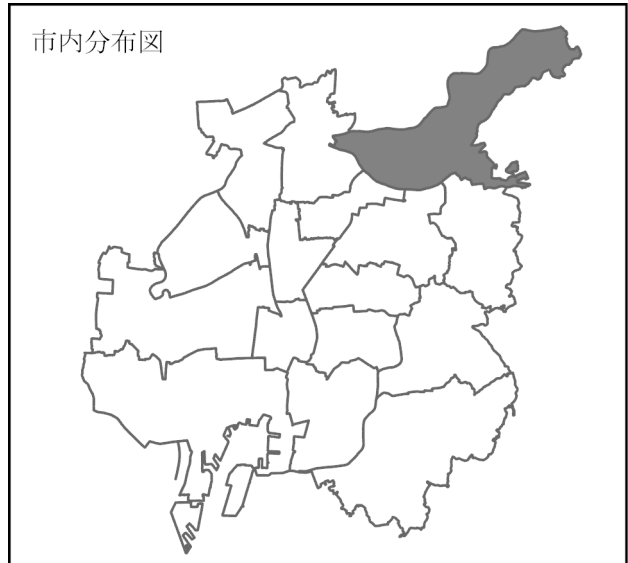
市内：1 守山区 (吉根, 村松 29721, 2018-6-24, N) に生育している。このほか同区の愛知用水沿いで撮影された写真が安原 (1990) に掲載されているが、この場所では絶滅したらしく、標本資料も残されていない。

県内：東三河と西三河の山地に点在しているが、尾張では稀である。4 (箱淵, 芹沢 72237, 1995-8-22)、15 (嵩山町, 芹沢・芳山 203, 1984-7-27)、5 (稲橋月ヶ平, 芹沢 67224, 1993-9-1)、19 (伊熊町, 芹沢 88546, 2013-7-6)、20 (四ツ松, 鈴木万里亜 774, 1995-8-7)、21 (平瀬, 芹沢 62851, 1992-8-27)、23 (北一色, 日比野修 1640, 1993-8-21)、24 (山中町, 芹沢 59302, 1991-7-26)、25 (猿投山, 磯貝彰宏 1479, 1984-8-6)、37a (西山路町, 日比野修 5472, 2002-9-22) など確認されている。

国内：北海道西南部、本州、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地の草地に生育する。名古屋市では二次林の林縁に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

現地は周辺の樹木が次第に生長しており、被陰されて衰退している。愛知用水沿いの集団は、用水の改修により絶滅したものと思われる。

保全上の留意点

個別的な保全が必要である。

特記事項

オオバギボウシとキヨスミギボウシは一般に別種とされており、前者は後者から苞がつぼみの時から開出し星形になることで区別されることになっている。しかし実際には、川岸の岩場などに生育するものは明らかにキヨスミギボウシだが、三河山間部の草地などに生育するものは中間型が多く、両者を明確に区別することは困難である。今回引用した名古屋市の標本も、正確に言えば典型的なオオバギボウシではなく、オオバに近い中間型である。同所で採集された芹沢 82959 (2008-7-26, A) は、よりキヨスミギボウシに似ている。県内産引用標本の中にも微妙なものがある。そのようなわけで本種の同定にはやや問題が残るが、今回はそれを承知の上で、オオバギボウシとして評価しておく。キヨスミギボウシ (市 VU) については、その項を参照されたい。

引用文献

安原修次, 1990. なごや野の花 p.90. エフエー出版, 名古屋.

関連文献

保草本Ⅲp.138, 平新版 1 p.251.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) キジカクシ科>

ミヤマナルコユリ *Polygonatum lasianthum* Mzxim.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 2、総点 14。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。根茎は横にはう。茎は稜角があり、上部は弓状に曲がり、高さ 30~70cm になる。葉は互生し、ごく短い柄があり、葉身は卵形~長楕円形、長さ 6~10cm、先端は鈍頭、両面無毛で、通常裏面は粉白を帯びる。花期は 5~6 月、花は葉腋に 2~3 個ずつつき、下垂する。花筒は白色で長さ 17~20mm、先端は浅く 6 裂する。液果は直径 8~12mm で、黒紫色に熟す。

分布の概要

市内: 1 守山区 (中志段味宮前, 鳥居ちる子 871, 1995-5-13, A) に生育している。

県内: 東三河と西三河の山地には比較的多いが、尾張では少ない。1 (八岳山, 小林 52011, 1994-6-11)、4 (天狗棚, 鈴木 学 1240, 1983-6-14)、7 (岩古谷山, 榊原利修 605, 1992-5-27)、8 (長篠, 小林 66045, 1999-5-7)、9 (黄柳野, 鳥居栄一 s.n., 2000-5-21)、12 (吉川峠, 芹沢 58518, 1991-5-18)、13 (御津町五井山, 鈴木美恵子 75, 1992-5-31)、14 (御堂山, 芹沢 78591, 2003-5-10)、15 (嵩山町, 芳山朋子 639, 1984-5-22)、18 (高木, 小林 71894, 2001-5-13)、19 (八幡, 芹沢 61732, 1992-6-13)、20 (追分, 新井文子 619, 1994-5-27)、21 (梶, 長谷川朋美 287, 1992-5-11)、22 (千洗, 伊藤泰輔 209, 1993-6-5)、23 (北曾木, 日比野修 377, 1992-6-4)、24 (山中町, 山崎玲子 801, 1994-5-31)、25 (猿投山, 山崎玲子 766, 1994-5-14)、37a (穴田町, 塚本威彦 3040, 2003-5-13)、45 (楽田, 芹沢 69265, 1994-5-17)、47 (大山, 日比野修 4490, 1998-5-24)、48 (外之原町, 芹沢 66351, 1993-6-25) など確認されている。6 (駒ヶ原, 加藤等次 s.n., 1967-6-8) で採集された標本もある。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 日本および朝鮮半島。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地の林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

1 カ所に少数の個体が生育しているにすぎない。生育地の乾燥化などにより衰退傾向にあるという。

保全上の留意点

生育地の地形と林を保全することが必要である。

特記事項

ナルコユリ (市 EX) からは、根茎の節間が短く、葉は幅広くて少数、花柄は横に張り出すことで区別される。

関連文献

保草本Ⅲp.110, 平新版 1 p.258.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ガマ科>

ヤマトミクリ *Sparganium fallax* Graebn.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 2。全国的に減少傾向の著しい水草で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全国 2025	準絶滅危惧

形態

抽水性の多年生水草。地中を横に這う根茎がある。地上茎は立ち、分枝せず、高さ 50~120cm になる。葉は 2 列に互生して立ち、線形、幅 8~15mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁、裏面に稜があって断面は三角状となり、下部は葉鞘となる。花期は 7~8 月、花序は分枝せず、柄の全部または一部は主軸と合着し、下部に 3~6 個の雌性頭花がお互いにやや離れてつき、上部に 4~8 個の雄性頭花がつく。果実は紡錘形で長さ 5~6mm、中央部がくびれる。

分布の概要

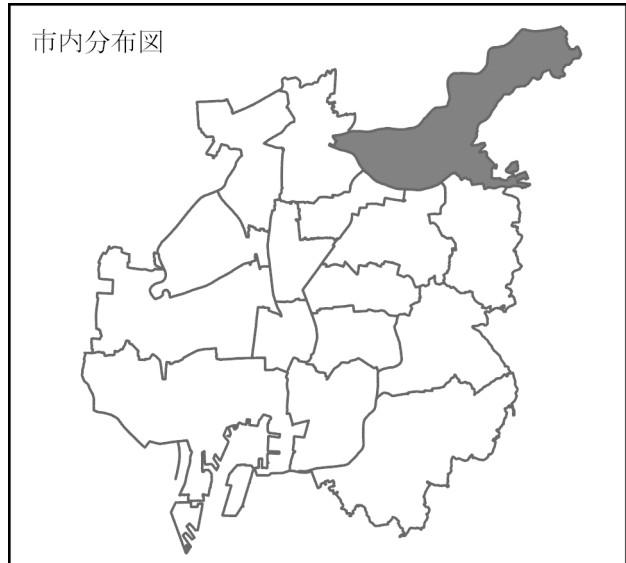
市内: 1 守山区 (中志段味才井戸流, 村松 24869, 2009-8-27, N) に生育している。

県内: 県 RDB2020 p.430 参照。名古屋市のほか、豊川、田原西部、瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧、春日井の 6 区画で確認されている。

国内: 本州、四国、九州。

世界: アジア東部。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

湖沼やため池、水路などに生育する。一般的には止水域に多いが、名古屋市では湧水の流れる水路に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

才井戸流では水路中にミクリ (市 CR)、ナガエミクリ (市 VU) と共に生育している。よく開花するが、個体数はナガエミクリに比べはるかに少ない。周囲の開発により、将来の存続が懸念される。水路自体が保全されても、公園化されれば水質が悪化し、帰化植物等が侵入することも予想される。

保全上の留意点

生育地全体を周辺の地形を含めて保全することが必要である。

特記事項

花序柄が主軸と合着するため、最下の雌性花序はしばしば次の苞と対生するほど腋上性になるように見える。

関連文献

保草本Ⅲp.420, 平新版 1 p.278, SOS 旧版 p.103+図版 22, SOS 新版 p.122-123.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.80, 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド.日本の水草 p.151. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ホシクサ科>

シラタマホシクサ *Eriocaulon nudicuspe* Maxim.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、補正+2 (固有)、総点 15。本地域の湧水湿地の代表的な固有種で、名古屋市内では生育できる環境が減少している。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全国 2025	絶滅危惧 II 類

形態

1 年生草本。茎は通常ごく短い、多少伸長することもある。葉は束生して斜上し、線形、長さ 5~30cm、幅 1~5mm、全縁、先端は細くとがる。花期は 8~10 月、花茎は 1 本のものから 50 本以上出るものまであり、直立して高さ 15~60cm、4 肋があつてねじれ、基部に 3~12cm の鞘があり、先端に 1 個の頭花をつける。頭花は球形、直径 5~10mm、総苞片は倒卵形で淡褐色、頭花より短く、小花には多くの白色の短毛がある。子房と蒴果は 3 室である。

分布の概要

市内: 1 守山区 (大森北, 村松 28783, 2017-9-24, N など)、4 天白区 (島田緑地, 中村 肇 697, 2014-9-13, N など) に生育している。3 千種区 (田代町、広部 栄 155, 1993-8-23, A) にも生育していた。5 緑区にも生育していたようだが、確実な資料は残されていない。

県内: 県 RDB2020 p.431 参照。名古屋市のほか、豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、下山、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、春日井の 18 区画で確認されている。刈谷知立、東海知多などにも生育していたが絶滅した。

国内: 本州 (静岡県西部、愛知県、岐阜県東濃地方、三重県北部) に分布する。九州 (宮崎県) にも似たものがある。

世界: 日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

丘陵地の湧水湿地の、日当たりのよい場所に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

現在のところはまだ良好な自然集団と思われるものも残っているが、各種開発により本種が生育できる丘陵地そのものが減少しており、過去の状態に比べれば減少傾向は明らかである。ホシクサ科の植物としては例外的に花が美しいため、これ以上減少が続くと、園芸目的の採取による影響が出る可能性もある。観察者の踏み荒らしによる影響も大きい。

保全上の留意点

何はともあれ、湧水湿地の保全が必要である。その一方で本種は、本地域の固有種として有名でしかも花が目立つため、もともとはなかった湿地に播種されることも多い。例えば、緑区大高緑地のものは播種起源らしい。播種された結果は、すぐに消滅してしまうこともあるが、著しく増加し、本来の自然状態に対する大きな脅威となることもある。湿地はどれも同じではない。本来ないものは、「ない」のが自然の姿であることを忘れてはならない。

特記事項

播種されたもの、あるいは生育状況から判断して播種されたいものは、分布状況等の記述から除外してある。名古屋市内ではまだ本来の生育地が残存しているので、明らかに播種された場所のものは、できれば除去することが望ましい。

関連文献

保草本Ⅲp.182, 平新版 1 p.283, SOS 旧版 p.98+図版 18, SOS 新版 p.90.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

ミノボロスゲ *Carex albata* Boott ex Franch. et Sav.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 4、総点 15。北日本系の植物で、名古屋市は分布域の南限に近い。やや攪乱された土地に生育するが、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全国 2025	—

形態

多年生草本。匍匐枝はなく、株をつくる。茎は高さ 20~60cm、3 稜があり、基部の葉鞘は赤褐色~黒褐色である。葉は細い線形、幅 2~3mm である。果期は 5~7 月、花序は卵状円柱形、長さ 3~5cm、小穂は密集してつき、卵円形、長さ 5~8mm、すべて雌性で上方に雄花、中下部に雌花をつけ、淡緑白色である。苞はあまり発達しないが、下方のものは時にやや葉状となる。果胞は 3 角状広披針形、長さ約 4mm、先端は次第に細まってやや長い嘴となる。雌花の柱頭は 2 個である。

分布の概要

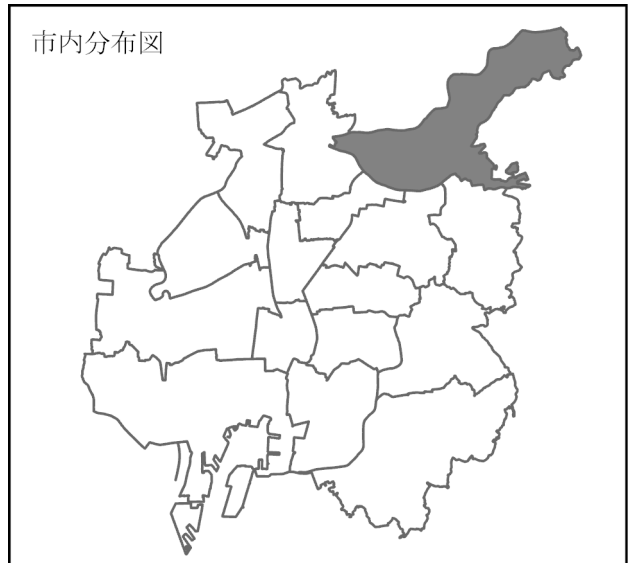
市内: 1 守山区 (小幡緑地, 渡邊幸子 6538, 2013-5-25, N) に生育している。

県内: 県 RDB2020 p.436 参照。名古屋市のほか、東三河の 3 区画 (豊根東部、鳳来北東部、豊川) に生育しているだけである。

国内: 北海道および本州中北部。

世界: 日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

やや攪乱された湿った草地に生育する。しばしば湿地の路傍などに群生する。

現在の生育状況／減少の要因

2 ヶ所に小群落があったというが、2018 年に調査した時には 1 ヶ所は消失、他の 1 ヶ所も減少していた。生育地はいずれも踏みつけなど軽度の攪乱を受ける場所であり、一方で車の乗り入れ、他方で帰化植物の繁茂などにより存続が脅かされている。

保全上の留意点

本種のような植物の場合、存続のためには適度の踏みつけなどの人為的干渉が必要である。過度の干渉があっても、干渉がなくなっても消滅してしまう。このような場所も希少な植物の生育地として重要であることを認識する必要がある。

関連文献

保草本Ⅲ p.260, 平新版 1 p.304, SOS 旧版 p.106.
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.54. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

ハマアオスゲ *Carex fibrillosa* Franch. et Sav.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。海浜性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。長い匍匐枝を出し、株をつくる。茎はやや硬く、高さ 5~20cm、基部の葉鞘は褐色で、後に繊維状に分解する。葉は細い線形、幅 1.5~4mm である。果期は 4~5 月、小穂は 3~6 個で、最下のもを除き接近してつき、頂小穂は雄性、線状楕円形で長さ約 1cm、白緑色、側小穂は雌性で、短円柱形~卵形、長さ 0.7~1.5cm、苞は葉状で、最下のもものの基部は短い鞘になる。果胞は密集してつき、倒卵形~楕円形、長さ 2.5~3mm、嘴は短く、短毛があり、熟すと多少黄色を帯びる。雌花の柱頭は 3 個である。

分布の概要

市内: 5 緑区(鳴海町笹塚, 渡邊幸子 6833, 2014-5-12, N) に生育している。

県内: 名古屋市のほか、14 (西浦町, 芹沢 91024, 2016-4-23)、16 (伊古部町, 芹沢 89103, 2014-4-26)、17 (久美原海岸, 瀧崎 13081, 1992-5-3)、18 (古田町, 芹沢 95104, 2019-5-6)、41b (新舞子, 鳥居ちゑ子 2679, 2009-4-13)、43 (新田町, 鳥居ちゑ子 1341, 1998-5-30)、44b (内海, 芹沢 82839, 2008-4-29)、46b (高屋町, 加藤敦子 4-9, 1993-5-8)、54 (尾西市木曽川, 渡邊幸子 1611, 1994-5-23)、55 (西島町, 家田晴俊 318, 1995-6-29)、57b (立田村木曽川, 芹沢 58240, 1991-5-1) などで確認されている。

国内: 本州、四国、九州、琉球。

世界: 日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸中南部。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

海岸近くの砂地や草地、明るい林内などに生育する。

現在の生育状況／減少の要因

鳴海町笹塚の愛知用水近くに、数 m 四方にわたって生育していた。名古屋市のものは小型で、高さ 5~10cm であった。生育地に耕耘機が入るなどして大きな影響を受けたが、2014 年の時点ではまだ 2m × 30cm ほどの範囲に残存していた。

保全上の留意点

緑地公園の中で未整備のまま一般市民が利用しにくい状態になっている場所は、野生生物にとっては残された最後の砦である。管理担当者も一般市民も、そのような場所が決して「未利用の、無駄な場所」でないことを、はっきり意識する必要がある。特に地形を改変するような工事を行う場合には、十分な事前調査が必要である。

特記事項

アオスゲ *C. breviculmis* R.Br. に比べ、丈が低く、匍匐枝がある。

関連文献

保草本 III p.275, 平新版 1 p.321.

吉川純幹. 1957. 日本スゲ属植物図譜 1:106-107. 北陸植物の会, 金沢.

勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド日本のスゲ p.245. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

センダイスゲ *Carex lenta* D.Don var. *sendaica* (Franch.) T.Koyama**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、県西部分布階級 4。愛知県では稀少な海岸性のスゲで、名古屋市でも生育地、個体数共に少ない。最近の状況が確認できないので、定性的に絶滅危惧 IB 類相当と判断した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全 国 2025	—

形態

常緑性の多年生草本。長い匍匐枝があり、まばらな株を作る。茎は高さ 10~35cm、3 稜があり、基部の葉鞘は暗赤褐色で、繊維に分解する。葉は細い線形、幅 1.5~2.5mm である。果期は 8~10 月、小穂は 3~4 個、最下のもの以外は接近してつき、いずれも雌雄性、有柄、広披針形で長さ 7~15mm、先端部の約 1/3 には雄花、その下には 10 個内外の雌花がつく。苞は刺状で、基部は鞘となる。果胞は卵形、長さ 3~3.5mm、短い刺状毛があり、短い嘴がある。雌花の柱頭は 2 個である。

分布の概要

市内: 7 中区(名古屋城、鳥居ちゑ子 2669, 2008-10-31, A) で採集された標本がある。1 カ所に少数個体が生育していたが、工事用資材置き場になってしまい、近況を確認できない。古い時代に持ち込まれた可能性もあるが、少なくとも確認当時は自生状であった。

県内: 県 RDB2020 p.434 参照。名古屋市のほか田原西部、美浜南知多で確認されている。ただしどちらも匍匐枝の短いセンダイスゲモドキと呼ばれる型が多く、典型的なセンダイスゲは個体数がごく少ない。田原赤羽根(姫島)と西尾南部(佐久島)にもあるという(小林・深谷, 2008)。

国内: 本州、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

通常は海岸のクロマツ林内などに生育する。名古屋市では植え込みの間に小群落があった。

現在の生育状況／減少の要因

2008 年は長さ 25cm ほどの茎が出ていたが、2009 年は生育が悪く、茎の長さも 10cm ほどであった。現在の管理を継続すれば存続すると思われるが、公園内なので土地改変により失われるおそれもある。

保全上の留意点

工事等の際には配慮が必要である。

特記事項

ナキリスゲ var. *lenta* に比べ、全体に小型で、長い匍匐枝がある。

引用文献

小林元男・深谷昭登司, 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.83, 281. 佐久島会, 刈谷.

関連文献

保草本Ⅲ p.279, 平新版 1 p.309.

勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.91. 文一総合出版, 東京..

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

アズマナルコ *Carex shimidzensis* Franch.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 14。山地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。匍匐枝はなく、株を作る。茎は高さ 50～80cm、基部の葉鞘は葉身がなく、肉桂色、糸網はない。葉身は軟らかく、線形で幅 4～10mm である。花期は 5～6 月、小穂は 3～6 個、最下のものはやや離れるが他は茎の先端部に集まり、頂小穂は雄性、長さ 4～7cm、側小穂は雌性、ときに雄花を頂生し、円柱形で長 4～10cm、多数の花を密につけ、最下のものには長く、他のものには短い柄がある。果胞は卵状楕円形で長さ 2.5～3mm、平滑、無毛で脈もなく、上端は短い嘴となる。雌花の柱頭は 2 個である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷山、村松 28354, 2016-9-12, N; 竜泉寺、長谷川 313, 2022-5-4, N など）に生育している。

県内：山地に点在するが、多いものではない。2（佐久間湖、芹沢 101509, 2023-5-20）、3（振草、小林 52153, 1994-6-18）、6 豊邦、小林 52271, 1994-6-25）、10（塩瀬、小林 51989, 1994-6-5）、11（木和田、小林 51958, 1994-6-5）、19（八幡、芹沢 65694, 1993-6-1）、21（阿蔵、小林 52976, 1994-7-31）、22（大ヶ蔵連、小林 44896, 1993-7-3）、23（白川、日比野修 2863, 1995-6-7）、24（中金町、芹沢 58647, 1991-5-28）、25（猿投山、畑佐武司 1972, 2001-6-3）、28（石原、小林 51878, 1994-6-4）、37a（北白坂町、塚本威彦 2782, 1999-5-19）、48（廻間町、山田果与乃 2142, 2015-5-30）などで確認されている。

国内：北海道、本州、九州北部。

世界：千島列島南部、日本、朝鮮半島南部。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

沢沿いの湿った林縁などに生育する。

現在の生育状況／減少の要因

東谷山ではその後確認に行っていないが、そのまま存続していると思われる。竜泉寺では 1～2 株が生育していただけである。

保全上の留意点

生育地の地形を保全することが必要である。

関連文献

保草本Ⅲp.301, 平新版 1 p.312.

吉川純幹. 1957. 日本スゲ属植物図譜 1:38-39. 北陸植物の会, 金沢.

勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.121. 文一総合出版, 東京.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

ヒメガヤツリ *Cyperus tenuispica* Steud.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 4、総点 15。湿地性の植物で、愛知県でも名古屋市でも生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全 国 2025	—

形態

1 年生草本。茎は束生し、高さ 10～25cm。葉は少数、基部の葉は葉身が退化し、上部の葉の葉身は茎とほぼ同長、線形、幅 1～3mm である。花期は 8～10 月、花序の枝は長さ 3～10cm、先端に長さ 0.5-3cm の小枝を出し、時には更に短い小枝を出して、その先に数個の小穂をつける。であるが、小型の個体では出ないこともあり、苞は 3～4 個で葉状、花序よりも長い。小穂は線形、長さ 3～7mm、鱗片は小さくてややまばらにつき、褐色、斜開して先端は切形になる。

分布の概要

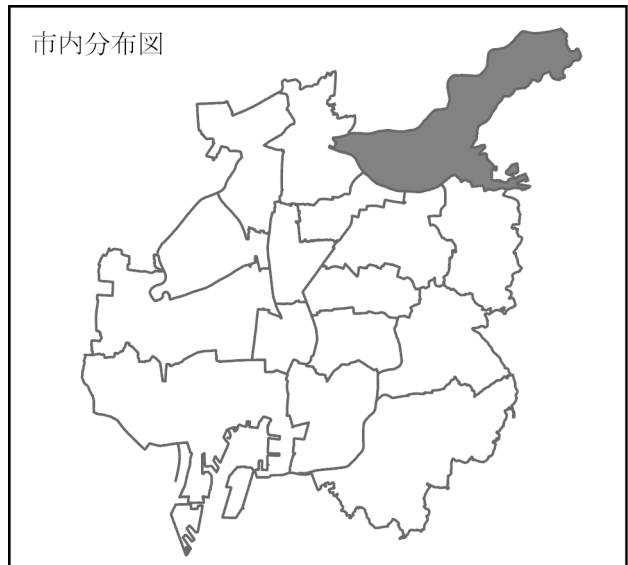
市内：1 守山区（小幡緑地、村松 29890, 2018-9-28, N）に生育している。守山区の他の場所（下志段味東禅寺池、鳥居ちゑ子 531, 1993-9-23, A など）にも生育していた。

県内：県 RDB2020 p.442 参照。名古屋市のほか、豊橋北部、旭、額田の 3 区画で確認されている。

国内：本州（福島県以西）、四国、九州。

世界：アジア、アフリカ、オーストラリアの熱帯～暖温帯に分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

谷戸田やため池の岸に生育する。名古屋市の生育地はいずれもため池の岸であった。

現在の生育状況／減少の要因

最近までツルナシコアゼガヤツリ *C. haspan* L. var. *microhaspan* Makino と混同されていたため、詳細は不明である。集団数階級は見込み値である。

保全上の留意点

本種については調査が不十分であり、正確な生育状況を確認することが先決である。

特記事項

ミズハナビとも呼ばれる。ツルナシコアゼガヤツリは小穂がやや大型、鱗片もやや大きくてやや密につき、先端は中肋が微突出する。

関連文献

保草本Ⅲp.239, 平新版 1 p.341.

(芹沢俊介)

維管束植物<種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

トネテンツキ *Fimbristylis stauntonii* Debeaux et Franch. var. *tonensis* (Makino) Ohwi**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県西部分布階級 2、総点 15。全国的に稀少な低湿地性植物で、名古屋市でも生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全 国 2025	絶滅危惧 II 類

形態

1 年生草本。茎は細く、束生し、やや扁平で、長さ 7~30cm になる。葉は叢生し、線形、幅約 2.5mm である。花期は 8~10 月、花序は複散形状で、枝は長さ 2~3.5cm、苞は葉状で 2~3 個つき、花序より短い。小穂は単生し、長楕円状卵形、長さ 3~5mm、直径約 2.5mm、黄褐色~赤褐色、鱗片は卵状披針形、長さ 1.5~2mm、先端は短くとがる。果実は短い円柱形で長さ約 1mm、花柱は宿存性で花後伸長して鱗片より長くなり、そのため小穂は毛に包まれたように見える。

分布の概要

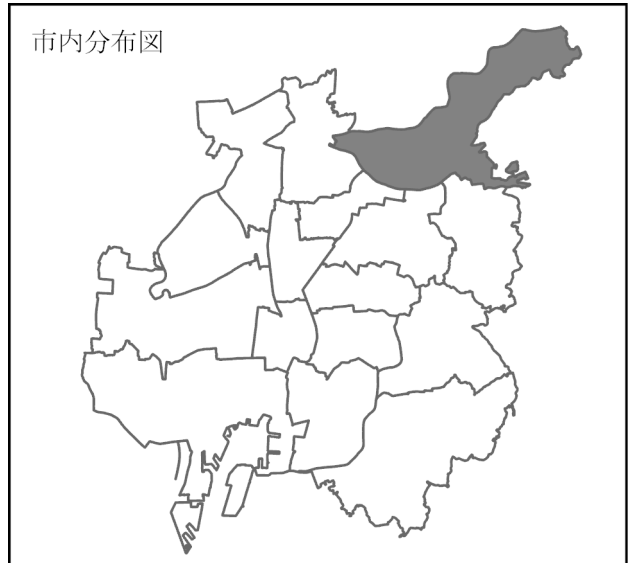
市内：1 守山区（中志段味安田池、高木順夫 22133, 2013-8-23, N）に生育している。

県内：県 RDB2020 p.447 参照。名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、半田武豊、犬山、春日井で確認されている。

国内：本州（関東地方~近畿地方）に稀に生育する。

世界：日本固有。基準変種のハタケテンツキは花後花柱が伸長しないもので、本州（栃木県）、九州、朝鮮半島、中国大陆に分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

干上がったため池の岸などに生育する。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市では 1 カ所のため池で確認されているだけである。個体数は年による変動が大きく、水が引かない年には全く出現しないこともある。

保全上の留意点

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物や低湿地性生物の重要な生活場所になっている。現在本種が確認されているため池は、他の植物も多く確認されており、水辺地形や水質を注意して保全する必要がある。

関連文献

保草本Ⅲp.232, 平新版 1 p.348, SOS 旧版 p.107, SOS 新版 p.119,120.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

コシンジュガヤ *Scleria parvula* Steud.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 15。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全国 2025	—

形態

1 年生草本。根は赤紫色である。茎は細く、束生してひろがり、3 稜形、長さ 30~120cm になる。葉は茎上に互生し、線形、長さ 5~35cm、幅 2~7mm、先端は通常やや急に細まり、葉鞘は長さ 2~7cm で広い翼があり、幅 2~8mm になる。花期は 8~10 月、花序は茎の先端と葉腋につき、3~8 個、長さ 1.5~4cm、腋生のものには長い柄がある。小穂は長さ 4~5mm、花は単性で、花被片はない。果実は球形、直径約 2mm、網目状の紋があり、熟しても白色~淡灰褐色である。

分布の概要

市内：1 守山区 (大森八龍、長谷川 804, 2023-9-18, N) に生育している。同区上志段味 (東谷山麓、芹沢 53843, 1989-10-10, A) にも生育していた。

県内：低山地~丘陵地に点在しており、4 (上津県, 小林 32264, 1987-9-19)、6 (東納庫, 芹沢 57093, 1990-9-13)、11 (清岳, 芹沢 57889, 1990-10-20)、13 (一宮町上長山, 芹沢 60101, 1991-8-29)、15 (岩崎町, 芹沢 53531, 1989-9-25)、17 (野田, 芹沢 53636, 1989-9-27)、5 (中当, 芹沢 50243, 1988-9-10)、19 旭高原 (山崎玲子 941, 1994-9-18)、21 (蘭町, 芹沢 99155, 2021-9-15)、22 (万作, 日比野修 3146, 1995-9-19)、23 (西市野々, 日比野修 595, 1992-8-1)、24 (上高町, 芹沢 60549, 1991-9-29)、36 (吉良町茶臼山, 芹沢 60794, 1991-10-9)、37a (曾野町, 日比野修 809, 1992-9-13)、44a (奥田, 芹沢 77609, 2001-9-13) などで確認されている。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、マレーシア、インド、アフリカ。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

日当たりのよい泥質の湿地に生育する。しばしば多少攪乱された場所に出現する。

現在の生育状況／減少の要因

ヌマガヤ、チゴザサ、ミゾソバなどの間に、やや徒長した状態で、10~20 株が散在していた。

保全上の留意点

湿地の保全が必要である。多少被圧されている状態なので、適度の草刈りが必要かもしれない。

特記事項

ミカワシンジュガヤ (市 CR) からは、茎が直立せず、葉が幅広く、葉鞘に広い翼があることで区別できる。愛知県全体で見ればミカワシンジュガヤよりずっと多いが、名古屋市に限れば過去の生育地はミカワシンジュガヤより少なかった。

関連文献

保草本Ⅲp.255, 平新版 1 p.361.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イネ科>

アズマガヤ *Asperella longearistata* (Hack.) Ohwi**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 3、総点 14。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。株を作らない。稈は高さ 70~120cm、花序のすぐ下に斜上する軟毛が密生し、節に下向きの短い軟毛がある。葉は互生し、線状披針形または幅広い線形、長さ 10~20cm、幅 1~2cm、基部の近くでねじれて表裏が逆になる。花期は 5~7 月、花序は穂状で細く、長さ 10~15cm、上部はやや垂れる。小穂は無柄でまばらに 2 列につき、苞穎は細く、針状片となり、長さ 4~6mm、護穎は長さ 9~13mm で、先端に長さ 10~22mm の芒がある。小花は 1~2 個である。

分布の概要

市内：10 熱田区（神宮一丁目、高木順夫 5668, 1998-4-28, A）に生育していた。

県内：東三河北部の山地に点在するが、渥美半島などにもある。1（漆島、小林 43531, 1993-5-30）、2（古真立、小林 37458, 1992-5-30）、3（振草、芹沢 81484, 2007-6-3）、4（水梨川、小林 44225, 1993-6-13）、8（池場、芹沢 69621, 1994-6-3）、13（一宮町豊川、小林 43024, 1993-5-20）、15（豊橋公園、瀧崎 31846, 2016-5-21）、18（石神、芹沢 73546, 1997-5-17）、5（押山、小林 38011, 1992-6-28）、20（大河原、芹沢 65412, 1993-5-21）、28 下衣文、小林 56645, 1995-5-6）、30（生平町、小林 56623, 1995-5-6）などで確認されている。名古屋市は尾張では唯一の生育地である。

市内分布図



国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本および朝鮮半島北部。

生育地の環境／生態的特性

通常は山地の林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

熱田神宮境内の林内に数 m 四方の群落があったというが、正確な位置はよくわからず、最近の状況も確認されていない。小型ではないが花などが目立たない植物なので、除草作業等により失われるおそれがある。林自体はもちろん保全されていて、そのため生育環境階級は 2 と評価されている。

保全上の留意点

意図的に植えられるような植物ではなく、また田原西部半島では海岸近くの林に自生しているという事例もあるので、昔から残存していたとも考えられるが、一方で他の樹木等について持ち込まれた可能性も否定しきれない。とにかく尾張では唯一の生育地なので、現状を把握する必要がある。

特記事項

属名として *Histrix* が用いられることもある。カモジグサ類からは、苞穎が鉢状になり小花が 1~2 個であることで容易に見分けられる。

関連文献

保草本Ⅲp.313, 平新版 2 p.55.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.432-433. 平凡社, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イネ科>

ウンヌケ *Eulalia speciosa* (Debeaux) Kuntze

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、補正 + 1 (準固有)、総点 13。本地域の丘陵地を代表する植物の一つで、本地域に隔離的に分布しており、また分布域の東限にあたる。総点は 13 であるが減少傾向が著しいことを考慮し、絶滅危惧 IB 類と評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	絶滅危惧 II 類

形態

多年生草本。稈は束生して株をつくり、直立し、高さ 80~120cm、茎の基部には枯れた葉が残存し、黄褐色の毛が密生する葉鞘に囲まれる。葉は叢生し、葉身は線形、20~45cm、幅 5~8mm、葉身の基部と鞘の上部に白い毛がある。花期は 9~10 月、花序は長さ 10~15cm の枝を 4~9 本つけ、その枝に小穂が並ぶ。花序の枝は開花時には開くが、花が終わるとほとんど直立する。小穂は有柄のものと無柄のものが対になって枝につき、披針形、長さ約 5mm、毛が多く、不稔の第 1 小花と結実する第 2 小花からなり、第 2 小花の護穎には長い芒がある。種子が熟すと、花序の枝が折れて散布される。

分布の概要

市内：1 守山区 (中志段味南原、鳥居ちゑ子 3283, 2013-9-23, A; 大森八龍、長谷川 809, 2023-9-28, N) に生育している。4 天白区 (相生山緑地、芹沢 77732, 2001-10-13, A)、5 緑区 (鳴海町滝ノ水緑地、芹沢 77736, 2001-10-13, A; 大高緑地、渡邊幸子 4546, 2000-10-5, A) で採集された標本もあるが、これらの場所ではすでに消失しているかもしれない。3 千種区 (田代町鹿子殿、芹沢 54038, 1989-10-26, A) にも生育していた。

県内：県 RDB2020 p.599 参照。名古屋市のほか、鳳来南部、作手、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、田原東部、足助、下山、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、幸田、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、小牧、春日井で確認されている。鳳来北東部、豊橋南部で採集された標本もある。平野部や三河山地にはなく、渥美半島の大部分、知多半島先端部、犬山などにも生育していない。

国内：本州 (静岡県西部、愛知県、岐阜県南部、兵庫県)、四国北部、九州北部。国内の詳細な分布は、野寄ほか(1997)にまとめられている。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、タイ、インド。

生育地の環境／生態的特性

日当たりのよい草地や半裸地に生育する。やせ山の尾根すじなどのほか、谷戸田周辺の里草地にも生育している。

現在の生育状況／減少の要因

2000 年頃まではまだあちこちに生育していたが、丘陵地の開発に加えて残された場所でも森林化が進行し、著しく減少した。すでに消失している集団もあると思われる、集団数階級は見込値である。

保全上の留意点

やせ山の保全と、里草地の保全が課題である。それぞれワタゲカマツカ (市 NT) の項とキキョウ (市 CR) の項を参照されたい。

特記事項

和名は牛の毛という意味で、尾張地方の方言に由来すると言われる。

引用文献

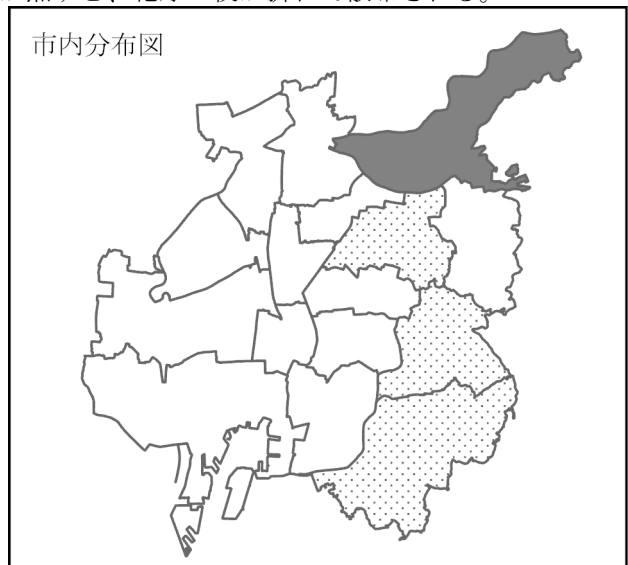
野寄玲児・小林禱樹・藤本義昭.1997.兵庫県新産のウンヌケ(イネ科)の分布とその生育環境.植物分類地理 48:197~204.

関連文献

保草本Ⅲp.381, 平新版 2 p.85, SOS 旧版 p.99+図版 12, SOS 新版 p.86.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.690-691. 平凡社, 東京.

(芹沢俊介)

市内分布図



維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イネ科>

スズタケ *Sasa borealis* (Hack.) Makino et Shibata**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 3、総点 15。名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

稈は直立して高さ 1~3m (名古屋市のものは約 1.5m) になり、1 年目は分枝しないが、2 年目に上部で数本の枝を出す。稈鞘は宿存性で、剛毛がある。葉は枝先に 1~4 枚つき、長楕円状披針形、長さ 20~35cm、幅 2~5cm、先端は細く長く尖り、両面無毛、肩毛はなく、葉鞘も無毛である。

分布の概要

市内：1 守山区 (吉根, 芹沢 101874, 2023-6-24, A) に生育している。

県内：三河山地北部に多いが、県南部には分布していない。1 (大沼上, 芹沢 102215, 2023-7-17)、2 (新野峠, 芹沢 102209, 2023-7-17)、3 (下田, 芹沢 101902, 2023-7-2)、4 (面ノ木峠, 芹沢 102181, 2023-7-17)、6 (段戸山, 芹沢 91237, 2016-7-2)、7 (岩古谷山, 芹沢 63057, 1992-9-4)、11 (菅沼, 芹沢 67988, 1993-9-24)、13 (本宮山~長山, 小林 39599, 1992-9-20)、5 (面ノ木峠, 芹沢 102564, 2023-9-12)、19 (伊熊, 芹沢 62521, 1992-8-22)、20 (下国谷, 芹沢 72515, 1995-10-20)、23 (北一色, 日比野修 1646, 1993-8-21)、37a (岩屋町, 芹沢 101869, 2023-6-24) など確認されている。県西部では藤岡と瀬戸に生育しているだけで、豊田市旧市域北部や犬山、春日井では見つからない。

国内：北海道、本州 (太平洋側)、四国、九州。

世界：日本および朝鮮半島。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

落葉広葉樹林の林床に生育し、しばしば林床の優占種になる。

現在の生育状況／減少の要因

二次林林内の 10m 四方ほどの範囲に、7~8 株が生育している。現在のところ特に減少してはいないようだが、宅地造成等による生育地の破壊が危惧される。

保全上の留意点

生育地の地形と林を保全する必要がある。

特記事項

近くにはネザサとの雑種と思われる個体も生育している。愛知県の山地では非常に多かったが、近年一斉開花のためほとんどが枯れてしまい、現在は実生個体が多くてあまり目立たない。

関連文献

保木本 II p.401, 平新版 2 p.35.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) メギ科>

ヘビノボラズ *Berberis sieboldii* Miq.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、補正+1(準固有)、総点 14。本地域の湧水湿地を特徴づける準固有種である。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	—

形態

小形の落葉性低木。茎は細く、直立して多少分枝し、高さ 80cm くらいになり、鋭い刺針がある。刺針は長さ 5~15mm で、多くは基部で 3 分枝する。葉は倒卵形または倒披針形、長さ 3~9cm、幅 1~2cm、先端は鋭頭またはやや鈍頭、辺縁には先が刺状になった細かい鋸歯がある。花期は 4~5 月、短枝の先から垂れ下がる総状花序を出し、数個の黄色の花をつける。花序はふつう葉よりも短い。果実は赤く熟し、球形~やや楕円形、長さ約 6mm である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味竈池、長谷川 759, 2023-8-1, N）に生育している。

県内：県 RDB2020 p.604 参照。名古屋市のほか、田原東部、田原西部、足助、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、岡崎北部、岡崎南部、幸田、西尾北部、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井で確認されている。シデコブシと同じような分布をしており、豊橋北部では発見されておらず、知多半島にもない。作手と豊橋南部で採集された標本もあるが、現地では確認できなかった。

国内：本州（東海地方西部、近畿地方）および九州（宮崎県）。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

湧水湿地周辺の林縁や疎林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

1988~91 年にこの地域の湿地性植物を集中的に調査した時には、守山区では何か所かに生育しており、個体数も比較的多かった（標本:東谷山, 芹沢 53839, 1989-10-10, A; 吉根長廻間, 芹沢 51066, 1989-4-4, A）。その後は踏み荒らし回避のため意識的に調査を避けているが、本種については新しい標本は上述の長谷川 759 だけである。採集されていないだけの可能性もあるので今回は個体数階級 2、集団数階級 3 と見なして評価したが、一方で開発、他方で湿地周辺の森林化に伴う被陰によって減少していることは確実で、実際にはもっと危機的かもしれない。

保全上の留意点

名古屋市東部を含む愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、絶滅危惧種も多く、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。一方周囲の樹木については、「木を切ると水が枯れる」と心配する人もいるが、実際には話が逆で、森林化が進むと蒸散量が増加し、湿地の水が枯れてしまう。可能な限り樹木を伐採し、やせ山状態を維持する必要がある。

特記事項

鋭い針があってヘビも登れないというので、ヘビノボラズという。しかし、時には刺針がほとんどない（ヘビノボレル？）ものもある。

関連文献

保木本 II p.174, 平新版 2 p.115, SOS 旧版 p.51+図版 18.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) アリノトウグサ科>

ホザキノフサモ *Myriophyllum spicatum* L.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 15。流水域に多い水草で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

沈水性の多年生水草。茎は長く伸びて分枝し、長さ 50~150cm になる。水中葉は無柄で通常 4 枚が輪生し、長さ 1~3cm、幅 1~1.8cm、羽状に深裂し、裂片は糸状である。花期は 5~10 月、花序は茎の先端につき、穂状、水面から出て直立し、花序の上部に雄花、下部に雌花がつく。気中葉はつけない。雄花の花弁は楕円形で、淡紅色、長さ 1.5~2.5mm である。殖芽は作らない。

分布の概要

市内: 14 中村区(横井町庄内川、鈴木秀樹 3348, 1996-9-15, A) で採集された標本がある。13 西区(枇杷島町庄内川、榊原 靖 s.n., 1989-8-17, N) にも生育していた。

県内: 愛知県の水草はほとんどの種が危機的で、本種も木曽川には比較的多いが、他では少ない。13 (御津町下佐脇、小林 57933, 1995-8-27)、15 (嵩山町、芹沢 42495, 1985-10-20)、29 (大門町矢作川、中西普佐子 2007, 1993-9-23)、31 (六栗、芹沢 72362, 1995-10-9)、33 (油ヶ渚、堀田善久 592, 1993-8-15)、35 (細池町、芹沢 81108, 2006-10-8)、42a (卯坂、渡邊麻子 1070, 1995-11-7)、53 北方町木曽川、鈴木秀樹 3342, 1996-9-15)、54 (尾西市木曽川、芹沢 73414, 1996-10-17)、55 (祖父江町木曽川、渡邊幸子 2836, 1996-10-10)、57b (立田村木曽川、小林 60018, 1996-9-7)、58b (小島新田、芹沢 70336, 1994-8-9) など確認されている。18 (福江町、恒川敏雄 s.n., 1949 年, T) で採集された標本もある。

国内: 北海道、本州、四国、九州、琉球。

世界: ユーラシア大陸に広く分布し、北アメリカで野生化している。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

湖沼やため池、河川などに生育する。

現在の生育状況／減少の要因

最近の状況は確認されておらず、個体数は見込み値である。庄内川は改修工事が進行しており、その点で存続が懸念される。

保全上の留意点

改修工事に際して、留意が必要である。

特記事項

葉の裂片は、オグラノフサモより狭い角度でつく。同属の他の種と異なり、水面上に伸びる花序に葉をつけない。

関連文献

保草本Ⅱp.35, 平新版 2 p.232.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.133. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.232. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) スグリ科>

ヤブサンザシ *Ribes fasciculatum* Siebold et Zucc.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 14。分布域は広いが全国的に個体数の少ない低木で、名古屋市でも生育地、個体数ともに少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全 国 2025	—

形態

落葉性の低木。下部からよく分枝し、高さ 1m くらいになる。葉は互生し、長さ 2~3.5cm の柄があり、葉身は広卵形、長さ 2~6cm、幅 2.5~6cm になり、薄い草質で掌状に 3 浅~中裂し、先端は円頭または鈍頭、基部は切形、辺縁には欠刻状の鈍鋸歯がある。花期は 4~5 月、雌雄異株で、雄花は 3~6 個、雌花は 2~4 個が短枝の葉腋に束状につく。がくは 5 裂し、直径 6~8mm、黄緑色で裂片は反り返る。果実は球形、直径 7~8mm となり、赤く熟す。

分布の概要

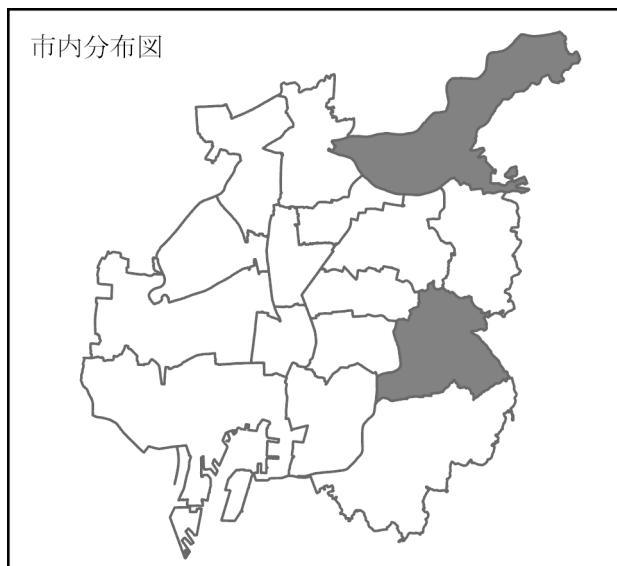
市内：4 天白区（天白公園、長谷川 82, 2021-5-31, N）に生育している。1 守山区（上志段味白鳥、鳥居ちゑ子 1734, 2000-5-2, A）で採集された標本もある。

県内：県 RDB2020 p.474 参照。名古屋市のほか、東栄、豊橋北部、田原東部、田原西部、豊田東部、瀬戸尾張旭、長久手日進、春日井で確認されている。刈谷知立で採集された標本もあるが、現存は確認できない。

国内：本州、四国、九州。山野に生育するが、多いものではない。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

二次林の林縁や岩礫地に生育する。散発的に出現することが多い植物である。

現在の生育状況／減少の要因

天白区では砂礫地に 1 株生育している。相生山の住宅地に接した林縁にも数株生育していたが、最近の確認できない。守山区では東谷山山麓に 2~3 株生育していたというが、最近の状況は確認されておらず、すでに消失している可能性がある。守山区を消失と判断すれば、個体数階級と集団数階級は共に 4 で、絶滅危惧 IA 類になる。一方で丘陵地の開発による生育地の破壊、他方で里山の利用停止による森林化の進行に伴う被陰により、危機的な状況にある。

保全上の留意点

おそらくはやせ山に依存する植物であり、そのような環境の保全が必要である。やせ山や砂丘、湿田のような、今まで行政的に「退治目標」とされてきた自然・半自然環境も、これほど少なくなると逆に保全が必要になる。今までの努力目標と逆の話なのでいろいろな困難はあるが、今後の重要な課題である。

特記事項

ヤブサンザシの名の通り、ありふれた藪地にも生育していることがある。調査の際には注意が必要である。

関連文献

保木本 II p.102, 平新版 2 p.192, SOS 旧版 p.57.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) マメ科>

タヌキマメ *Crotalaria sessiliflora* L.

評価理由

生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 1。名古屋市では生育地が少ない。現存は確認できないが、偶発的に出現することが多い植物であることを考慮し、定性的に絶滅危惧 IB 類と評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

1 年生草本。茎は高さ 30~70cm で、上向きの圧毛がある。葉は互生し、ほとんど無柄、葉身は単葉で線形~狭長卵形、長さ 4~11cm、幅 3~10mm、鋭頭である。花期は 7~9 月、茎や枝の先に長さ 1~10cm の総状花序をつけ、2~20 個の青紫色の花をつける。がくは開花時に長さ 1cm 程度、上下に 2 深裂し、さらに上側は 2 裂、下側は 3 裂し、全体に褐色の長毛が密生する。豆果は長楕円形、無毛、伸長したがくに包まれる。

分布の概要

市内：4 天白区（平針黒石、中島ひろみ 904, 2003-8-30, A）、5 緑区（鳴海町藤塚、渡邊幸子 1198, 1993-8-26, A）に生育していた。3 千種区（覚王山、沢井輝男 s.n., 1932-9-23, A）で採集された標本もある。

県内：丘陵地に多くはないが点在し、平野部でも稀に見られる。8（富栄、小林 65195, 1998-9-19）、12 豊栄、小林 39508, 1992-9-19）、13（財賀町、芹沢 74423, 1997-11-16）、16（小島町、小林 46478, 1993-8-14）、22（北篠平、伊藤泰輔 47, 1992-9-11）、24（川田町、畑佐武司 2441, 2001-9-9）、25（御船町、芹沢 67158, 1993-8-27）、29（岩津町、河江喜久代 145, 1993-10-7）、31（長嶺、金子律子 1302, 1995-9-27）、33（尾崎町、堀田善久 6578, 1998-11-7）、35（小島町、芹沢 67593, 1993-9-10）、36（西幡豆、壁谷重美子 1263, 1994-10-26）、37b（平子町西、村松 20908, 2001-9-15, N）、39a（諸輪、鬼頭 弘 311, 1993-9-26）、39b（沓掛町、浅野守彦 1848, 2003-10-13, N）、40b（森岡、渡邊麻子 791, 1995-9-21）、42b（行人町、芹沢 77066, 2000-10-11）、42c（市原、相羽福松 202, 1979-8-29）、43（大谷、芹沢 77614, 2001-9-13）、46b 大口町（山田果与乃 410, 1998-8-29）、47（大山、村瀬正成 930623, 1993-9-11）、48（廻間町、山田果与乃 7, 1992-9-21）、49b（青山、鈴木幸子 874, 1996-10-13）、55（祖父江町拾町野、渡邊幸子 3209, 1997-9-4）などで確認されている。15（石巻山、加藤等次 s.n., 1957-8-27）で採集された標本もある。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：日本から東南アジア、インドにかけて分布する。

生育地の環境／生態的特性

平地や丘陵地の日当たりのよい草地や土手に生育する。安定した生育地は少なく、生育を確認できた場所でもそのうちに消えてしまうことが多い。

現在の生育状況／減少の要因

天白区では造成斜面の湧水のある場所、緑区では水田の縁にそれぞれ十数株が生育していたというが、どちらも現在では見られなくなった。守山区矢田川河川敷にも数株生育していたようだが、標本を採取する前になくなってしまった。

保全上の留意点

そのうちにどこかに出現する可能性はあるが、その場所でもおそらく永続はしないと思われる。個別的な対策では効果が少なく、自然環境の全体的な保全が必要と思われる。効果的な保全対策を立てることができないまま、いつの間にか消失してしまいそうな植物の一つである。

特記事項

和名は狸豆で、ふくらんで毛の多いがくがタヌキに似ているからである。

関連文献

保草本Ⅱp.93, 平新版 2 p.262.

市内分布図



(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) マメ科>

ケヤブハギ *Desmodium podpcarpum* DC. subsp. *fallax* (Schindl.) H. Ohashi**評価理由**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級階級 1、総点 14。名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は高さ 60~120cm になる。葉は茎の下方に集まってつき、長い柄があり、葉身は 3 出葉、頂小葉は卵形~広卵形、長さ 6~13cm、幅 4~10cm、先端はやや鋭尖頭、基部は広くさび形、両面に毛が多い。花期は 7~9 月、花序は茎頂につき、通常少数の枝を分け、長さ 15~50cm、多数の小花をつける。花は帯紅紫色で長さ 3~5mm、花柄は花時には短い、花後伸長する。節果は 2 節からなり、若時紅色をおび、長さ 5~9mm の柄がある。

分布の概要

市内：5 緑区（大高緑地、芹沢 95680, 2019-9-2, A）に生育している。

県内：東三河、西三河では比較的多い植物だが、尾張では少ない。1（川上、芹沢 98933, 2021-9-5）、2（古真立、芹沢 100926, 2022-10-2）、3（西園目、芹沢 100685, 2022-9-12）、7（神田、芹沢 63177, 1992-9-4）、8（槇原、芹沢 100584, 2022-9-3）、9（七郷一色、芹沢 59964, 1991-8-25）、10（玖老勢椎平、芹沢 67798, 1993-9-17）、11（高松、芹沢 67913, 1993-9-17）、13（長沢、瀧崎吉伸 18104, 2000-9-19, T）、15（石巻平野町、小林 65098, 1998-9-6）、19（笹戸、村松 12071, 1992-9-26）、20（追分、芹沢 70259, 1994-8-3）、21（東大沼、長谷川朋美 789, 1992-9-9）、22（岩下、塚本威彦 1300, 1994-8-16）、23（西市野々、日比野修 684, 1992-8-18）、24（西広瀬町、芹沢 67192, 1993-8-27）、25（猿投山、土場トシ子 186, 1992-8-30）、28（鹿勝川、福岡義洋 1115, 1990-8-14）、29（小美町、伊奈知子 1152, 1993-10-10）、30（山綱町、本多さおり 1082, 1994-10-21）、37a（広久手町、芹沢 76346, 1999-9-10）、44b（内海内福寺、大西 博 921, 1992-8-25）、45（八曽、松田ちか子 763, 1986-9-4）などで確認されている。

国内：本州（山形・宮城県以南）、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

通常は低山地の林内や林縁に生育する。ヌスビトハギに比べやや安定した場所に生育していることが多い。

現在の生育状況／減少の要因

緑区では、常緑樹林化が進む二次林の林床に、2 株生育していた。ただし他になかったかどうかは十分確認していない。

保全上の留意点

生育地の林を保全することが必要である。

特記事項

ヤブハギ subsp. *oxyphyllum* (DC.) H. Ohashi var. *mandshuricum* Maxim. は山地性の植物で、名古屋市を含む尾張では確実な記録がない。ヤブハギとヌスビトハギの中間型であるオイハギは、名古屋市では守山区（翠松園、鳥居ちゑ子 2392, 2003-10-14, A）、天白区（荒池緑地、芹沢 95832, 2019-9-21, A）、昭和区（八事本町、渡辺幸子 4005, 1999-9-11, A）などに生育している。

関連文献

保草本 II p.102, 平新版 1 p.272.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) マメ科>

キハギ *Lespedeza buergeri* Miq.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

形態

落葉性の小低木。幹は木質化し、高さ 2~3m になる。葉は互生し、長さ 0.7~2cm の柄があり、葉身は 3 出葉、頂小葉は卵形または長橢円形、長さ 2~4cm、先端は通常尖り、表面は無毛、裏面は圧毛がある。花期は 6~9 月、葉腋に長さ 2~7cm の花序をつけ、花は長さ約 1cm、淡黄色、翼弁は紫紅色である。豆果は扁平な長だ円形、長さ 1~1.5 cm である。

分布の概要

市内：1 守山区（吉根、横井晴正 s.n., 2004-7-4, A）に生育している。同区他の場所（東谷山、日比野修 4419, 1998-4-29, A）にも生育していた。

県内：東三河と西三河の山地には広く分布し、尾張にも点在する。1（日本ヶ塚山、小林 46888*, 1993-8-22; 川上、芹沢 98934, 2021-9-5）、2（古真立、芹沢 87938, 2012-9-22）、3（下田、芹沢 101913, 2023-7-2）、4（面ノ木峠、芹沢 70695, 1994-9-2）、6（三都橋、石川静雄 88, 1993-10-2）、7（岩古谷山、芹沢 62292, 1992-7-28）、8（鳳来寺山、芹沢 86456, 2010-10-11）、9（七郷一色、芹沢 59969, 1991-8-25）、10（只持、芹沢 67867, 1993-9-17）、12（庭野、芹沢 98087, 2021-6-26）、13（長沢、瀧崎吉伸 18707, 2001-7-7, T）、14（相楽町、井上美保子 37, 1991-9-2）、15（石巻萩平町、芹沢 89640, 2014-9-18）、17（大久保町、瀧崎 25025, 2008-11-23, T）、18（長沢、小林 48365, 1993-10-3）、5（面ノ木峠、瀧崎 8215, 1985-8-6）、19（時瀬、芹沢 62148, 1992-7-25）、20（月原、日比野修 3568, 1996-7-2）、22（荳荳、塚本威彦 1168, 1994-6-30）、23（木瀬、塚本威彦 463, 1992-10-22）、24（西広瀬町、芹沢 66680, 1993-7-27）、25（猿投町、土場トシ子 585, 1994-8-27）、27（福谷、臼井里華 782, 1992-9-14）、28（滝尻、福岡義洋 898, 1990-7-10）、29（茅原沢町、芹沢 66659, 1993-7-24）、30（舞木町、小林 47295, 1993-9-4）、31（深溝、芹沢 82014, 2007-8-9）、36（東幡豆、芹沢 81045, 2006-9-21）、37a（穴田町、村松 33622*, 2022-9-7, N; 海上町、芹沢 101829, 2023-6-24）、37b（平子町、芹沢 83287, 2008-9-13）、38b（米野木町、半田多美子 2998, 2000-10-8）、41a（加木屋町、岡島錦也 520241, 1986-8-5）、44b（山海、芹沢 62656, 1992-8-25）、45（栗栖木曾川、芹沢 72948, 1996-7-11）、48（木附町、太田さち子 1189, 1993-10-21）、54（里小牧木曾川、渡邊幸子 6109, 2010-10-15）、55（祖父江砂丘、渡邊幸子 3605, 1998-9-14）などで確認されている。

*はシロバナキハギである。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

他のハギ類のように草地性ではなく、山地の崖地などに生育することが多い。

現在の生育状況／減少の要因

詳細は不明である。東谷山では北側の道路に近い沢沿いの崖地に十数株生育していたが、砂防堰堤の改修のため崖が削られ、見られなくなった。

保全上の留意点

東谷山には、本種以外にも名古屋市ではこの場所にしか見られない植物が多数生育している。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。

特記事項

和名は、茎が他のハギ類よりも木質化するからである。2004 年のレッドデータブックでは絶滅としたが、その後現存が確認された。しかし、ごく最近の状況は確認されていない。市境の尾張旭市側には現在も少数株が生育している。

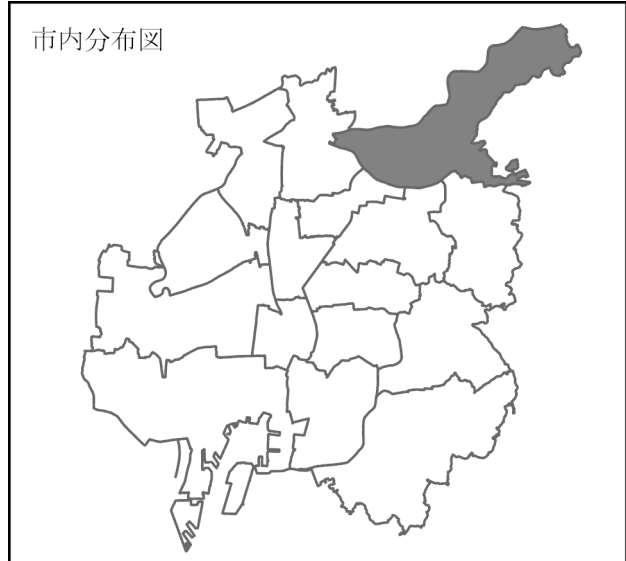
関連文献

保草本 II p.98-99, 平新版 2 p.277.

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

市内分布図



(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ヒメハギ科>

ヒナノカンザシ *Salomonina ciliata* (L.) DC.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

1 年生草本。茎は細く、高さ 6~25cm になる。葉は互生し、ほとんど無柄、葉身は長楕円形、長さ 3~8mm、全縁、上方のものは次第に細く、小さくなる。花期は 8~9 月、茎は枝の先端に穂状花序をつくり、花は淡紫色、長さ 1~2mm、花弁は 3 個で下方の 1 個は側方のものより長く、下部で雄ずいと合着する。

分布の概要

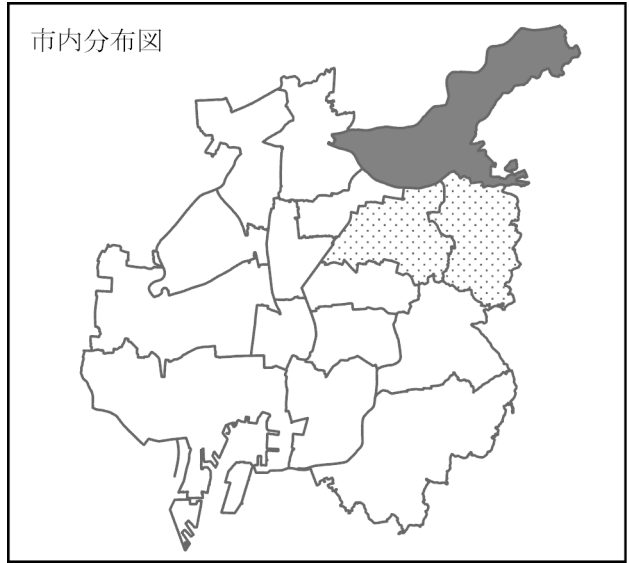
市内：1 守山区 (大森八龍, 長谷川 724, 2023-8-11, N) に生育している。2 名東区 (猪高緑地, 芹沢 57791, 1990-10-17, A)、3 千種区 (平和公園, 犬飼 清 s.n., 1960-9-10, A) で採集された標本もある。

県内：丘陵地の湿地に生育しており、12 (豊栄, 小林 39510, 1992-9-19)、15 (佐藤町, 芹沢 53544, 1989-9-25)、16 (細谷町, 芹沢 56672, 1990-8-28)、17 (野田, 芹沢 53621, 1989-9-27)、23 (三箇, 塚本威彦 358, 1992-9-14)、24 (山中町, 芹沢 57096, 1990-9-13)、25 (伊保町, 芹沢 55990, 1990-7-25)、27 (福谷, 芹沢 62582, 1992-8-23)、30 (竜泉寺町, 本多さおり 562, 1994-8-1)、37a (南山口町, 村松 33727, 2022-9-30, N)、38a (前熊, 半田多美子 3156, 2001-8-15)、38b (岩藤新田, 伊藤恭子 605, 1992-9-18)、39b (沓掛町, 浅野守彦 954, 2000-7-31)、43 (郷名池, 中井三従美 16, 1987-9-13)、44a (布土, 芹沢 56651, 1990-8-27)、45 (塔野地, 塚本威彦 1284, 1997-8-15)、48 (廻間町, 芹沢 56985, 1990-9-12) など確認されている。18 (伊良湖岬村, 恒川敏雄 736, 1957-8-20, T)、37b (城山町, 飯尾俊介 27, 1964-9-27) で採集された標本もある。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本からインド、オーストラリアにかけて広く分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

日当たりのよい湿地に生育する。愛知県では湧水湿地に多い植物であるが、名古屋市ではため池の岸に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

守山区ではかなりの株数が点在している。名東区では個体数は比較的多かったが、大きさはせいぜい 7cm 程度で、生育状態はよくなかった。池に釣人が多く入り込むため、踏まれて減少していた。最近の状況は確認されておらず、そのためこのものは集団数から除外してある。

保全上の留意点

ため池の水質を維持すること、踏みつけを防止することが必要である。

特記事項

小型の植物なので、注意して探索すれば他の場所でも確認できる可能性がある。

関連文献

保草本 II p.82, 平新版 2 p.307.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) バラ科>

カワラサイコ *Potentilla chinensis* Ser.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県西部分布階級 2、総点 14。不安定な礫の河原を代表する植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全 国 2025	—

形態

多年生草本。茎は根ざわで分枝して四方に広がり、先端は斜上し、長毛があり、長さ 30~70cm になる。葉は互生し、奇数羽状複葉、小葉は 15~29 個で倒披針形、長さ 2~5cm、中肋近くまで羽状に深裂し、裂片は狭くてとがり、裏面は綿毛があつて白色になる。花期は 6~8 月、茎の先に分枝した花序をつけ、直径 10~15mm の黄色の花を咲かせる。花弁は 5 枚で倒卵形、そう果は卵形で、長さ約 1.3mm である。

分布の概要

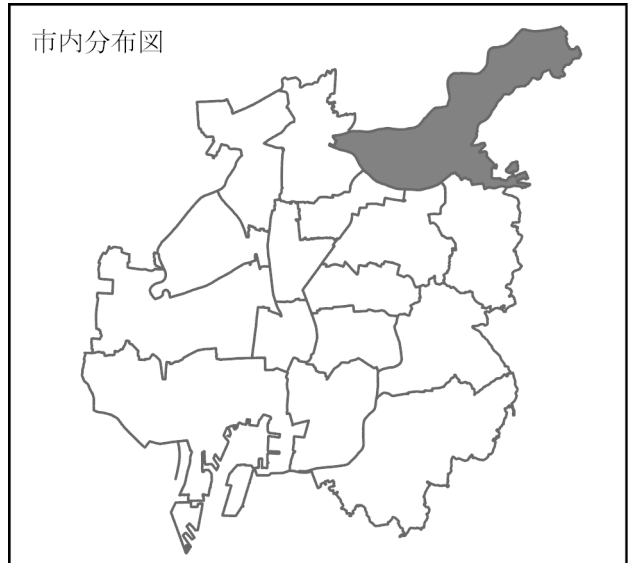
市内：1 守山区（中志段味庄内川堤防、芹沢 77891, 2002-7-1, A; 吉根~川庄内川、村松 18581, 1999-7-29, A）で採集された標本がある。

県内：県 RDB2020 p.487 参照。県内では庄内川と木曽川の河川敷に生育しており、名古屋市のほか、江南丹羽、一宮東部、稲沢、津島愛西で確認されている。木曽川の一部には大きな群落がある。東三河、西三河では現在のところ知られていない。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、モンゴル、アムール、ウスリー。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

河川敷の礫地に多いが、堤防の草地に生育することもある。また、海岸近くの砂地などに生育することもある。

現在の生育状況／減少の要因

出水の減少による河川敷の安定化と富栄養化によって、中流部の河川敷にも木本や高茎草本が侵入するようになり、本種が好む半裸地状の礫の河原自体が減少している。特に庄内川は河川の規模が小さいために礫地の減少傾向が著しく、本種も最近はほとんど見ることができない。

保全上の留意点

礫の河原を、適度に不安定な状態で保全することが必要である。

特記事項

「サイコ」の名は、本種のしっかりした地下部が薬用のミシマサイコの根に似ているからである。

関連文献

保草本Ⅱp.134, 平新版 3 p.36, SOS 旧版 p.58+図版 28, SOS 新版 p.131.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) バラ科>

マメナシ *Pyrus calleryana* Decne.

評価理由

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、補正+2 (固有)、総点 14。著しい隔離分布種で、日本では愛知県と三重県だけに生育する。全国に現存する個体の過半数が名古屋市内に生育していると思われ、名古屋市を代表する絶滅危惧植物である。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全国 2025	絶滅危惧 IB 類

形態

落葉性の小高木。よく分枝し、高さ 8~10m になる。樹皮は灰紫黒色で、縦に割れ目が入る。葉は長枝に互生するか短枝にほとんど束生し、広卵形、卵形または卵状長楕円形、先端は鋭頭~尖鋭頭、基部はふつう円形、長さ 4~9cm、幅 3~6cm、辺縁に細かい鈍鋸歯があり、はじめ白色の軟毛があるが、後に無毛となる。花期は 4 月、花は白色で直径約 2.5cm、花弁は 5 枚、花柱は 2~3 個である。果実はほぼ球形、直径約 1cm、黄褐色で円形の小さい皮目が多数ある。

分布の概要

市内：1 守山区 (下志段味穴ヶ洞 (鳥居ちゑ子 829, 1995-4-16, A; 牛牧, 高木順夫 20704, 2012-4-24, N; 大森北, 芹沢 92723, 2017-7-29, A)、5 緑区 (大高町蛭池街園, 長谷川 715, 2023-8-8, N, 幼木 3 本)、8 昭和区 (八事本町, 長谷川 191, 2021-10-23, N, 1 株のみ) に生育する。3 千種区の東山公園内にも自生の可能性がある個体がある。4 天白区 (八事, 岡田善敏 s.n., 1923-9-3, A) で採集された標本もある。

県内：県 RDB2020 p.146 参照。名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、犬山、江南丹羽 (46b 大口町河北, 油井孝夫 92, 2023-6-23, N)、小牧、春日井に生育している。西尾市からの報告もある。

国内：本州 (岐阜県、愛知県、三重県) に分布する。長野県からの報告はアオナシまたはヤマナシの誤認である (池谷 2003)。三重県四日市市の自生地は、国指定の天然記念物とされている。

世界：日本、朝鮮半島中部、中国大陸中南部、ベトナム北部。

生育地の環境／生態的特性

ため池周辺などの湧水のある場所に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

分布の中心が名古屋市内の丘陵地であるため、開発の圧力が極めて強い。最近でもいくつかの自生地は、宅地造成等により失われている。とげの多い木であるため、邪魔者扱いで伐採されることもある。昭和区隼人池周辺では、以前は群落があったが、現在は少数の個体が単木状で残るのみである。最大の自生地である守山区の蛭池では、公園化により過剰管理が行われ、現存する個体は保護されても、繁殖できる状況は失われている。一部の場所では原産地不明の幼木が植え込まれており、遺伝的攪乱も懸念される。幼木だけの集団は集団数から除外してある。

保全上の留意点

本種は、愛知県を特徴づける植物の中でもナガボナツハゼと共に最も危機的で、体系的な保護対策が必要である。植え込まれた幼木については、早急に除去する必要がある。

特記事項

本種は、今回のレッドリストの中で唯一、名古屋市での評価が愛知県の評価より低い階級になっている。これは、本種が特に名古屋市内に集中して生育しているためである。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 1 に掲載されている。本種とナシの雑種であるアイナシは、瀬戸尾張旭、小牧、名古屋北部などに稀に生育している。

引用文献

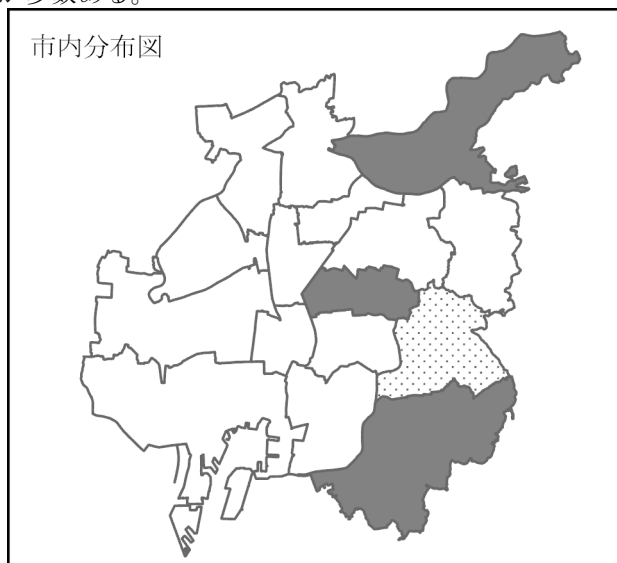
池谷祐幸. 2003. マメナシは長野県には分布しない. 植物研究雑誌 78:177~178.

関連文献

保木本 II p.46, 平新版 3 p.81, SOS 旧版 p.58+図版 15, SOS 新版 p.102.

(芹沢俊介)

市内分布図



維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) パラ科>

ミヤマワレモコウ *Sanguisorba longifolia* Bertol.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全 国 2025	—

形態

多年生草本。高さ 80～160cm になる。葉は互生し、根出葉や茎の下部の葉には長い柄があるが上部ではほとんど無柄になり、葉身は奇数羽状複葉、小葉は 3～6 対、線状楕円形～楕円状披針形、長さ 4～10cm、幅 0.7～2cm、先端は鋭頭～円頭、基部はくさび形～浅い心形、辺縁に鋭い鋸歯がある。花期は 9～10 月、花序は穂状で、長いものは 5cm に達するが短いものは 1cm 程度、直径 6～8mm、直立するか斜めに傾き、花は暗紅紫色（まれに白色）、雄ずいは花外に 1～2mm 伸びる。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味、村松 30768, 2019-8-21, N）に生育している。

県内：県 RDB p.301 参照。名古屋市のほか作手、豊川、田原東部、田原西部、豊田東部、豊田北西部、豊田南西部、みよし、岡崎北部、岡崎南部、刈谷知立、安城、豊明東郷、大府東浦、小牧で確認されている。

国内：北海道（日高地方）および本州（秋田県と岐阜県～福島県の日本海側山地）。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

ため池の周辺や河川敷などの湿った草地に生育する。山地の湿原にも見られる。

現在の生育状況／減少の要因

2015 年版レッドデータブックでは絶滅としたが、愛知用水わきの草地に 20 株程度残存しているのが確認された。

保全上の留意点

県内の平野部～丘陵地に点在する植物であるが、名古屋市では生育できそうな環境がほとんど残っていない。愛知用水の改修に際して生物多様性の保全における草地の重要性を十分意識していなかったことが減少の原因であり、この経験を今後の施策に生かす必要がある。愛知県全体でも近年減少傾向が著しい。

特記事項

2004 年版レッドデータブック、2010 年版レッドリストでは、ナガボノワレモコウとして掲載した。

関連文献

平新版 3 p.56.

芹沢俊介. 2013. 愛知県のミヤマワレモコウ. シデコブシ 2:112-113

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類)バラ科>

オオウラジロノキ *Malus tschonoskii* (Maxim.) C.K.Schneid.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 2、総点 14。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の小高木。高さ 10m くらいになる。若枝は綿毛を密生し、若木の幹にはとげが目立つ。葉は互生し、葉柄は長さ 2~4cm、綿毛が密生する。葉身は卵形または楕円形、長さ 8~14cm、先端は鋭頭、基部は円形またはやや心形、ふぞろいな鋸歯または重鋸歯がある。花期は 5 月。花は短枝の先に 4~6 個が散状につき、白色で直径約 3cm、花弁は 5 枚で楕円形である。果実は球形で、直径 2~3cm、頂端に直立したがく裂片が残存する。ただし名古屋市では、花も果実も確認されていない。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷，村松 34332*，2023-6-8, N）に生育している。

県内：東三河と西三河には点在するが、尾張では少ない。2（茶臼山，村松 15234, 1994-5-17）、4（つぐ高原，芹沢 93099*, 2017-9-2）、12（福津，小林 60130, 1996-9-21）、15（石巻西川町，芹沢 51638*, 1994-5-25）、20（野林，鈴木万里亜 454*, 1995-5-18）、22（大ケ蔵連，芹沢 66096, 1993-6-18）、24（山中町，山崎玲子 508*, 1993-6-12）、25（猿投山，山崎玲子 809*, 1994-6-1）、30（羽栗町，芹沢 69901*, 1994-6-23）、37a（猿投山，村松 34322, 2023-6-5, N）、48（木附町，山田果与乃 548*, 2000-4-30）などで確認されている。ただし*は花も果実もない標本で、できれば再採集が望ましい。6（段戸山，恒川敏雄 s.n., 1961-8-10, T）で採集された標本もある。

国内：本州および九州（九重山）。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地の林内に生育する。愛知県では散在するだけであまり群落を作らず、個体数もそれほど多くない樹木である。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市では、唯一の山地状の場所である守山区東谷山に生育している。個体数は少なく、樹勢も次第に衰退しているようで、開花は確認されていない。

保全上の留意点

東谷山には、本種以外にも名古屋市ではこの場所にしか見られない植物が多数生育している。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。

特記事項

オオズミとも呼ばれる。

関連文献

保木本Ⅱp.42, 平新版 3 p.73.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）グミ科>

アリマグミ *Elaeagnus murakamiana* Makino

評価理由

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県西部分布階級 2、総点 14。名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全国 2025	—

形態

落葉性の低木。高さ 3m くらいになる。若枝は帯赤褐色の星状毛を密生する。葉は互生し、3～6mm mの柄があり、葉身は長楕円形～倒卵状長楕円形、長さ 4～8cm、先端は鈍頭または短く尖る。表面は若時淡黄褐色の星状毛が多く、裏面は銀色の鱗片があり、その上に帯赤褐色の星状毛を散生する。花期は 4～5 月。葉腋に 1～2 個の花をつける。花柄は細く長さ 8～10mm、がく筒は長さ 6～7mm、幅 2.5～3mm、裂片は広卵形で鋭尖頭、長さ 3～5mm である。果実は長さ 2.5～3cm の柄の先について下垂し、上半部は扁円錐形または半球形、下部は狭まり、長さ 6～7mm で赤熟する。

分布の概要

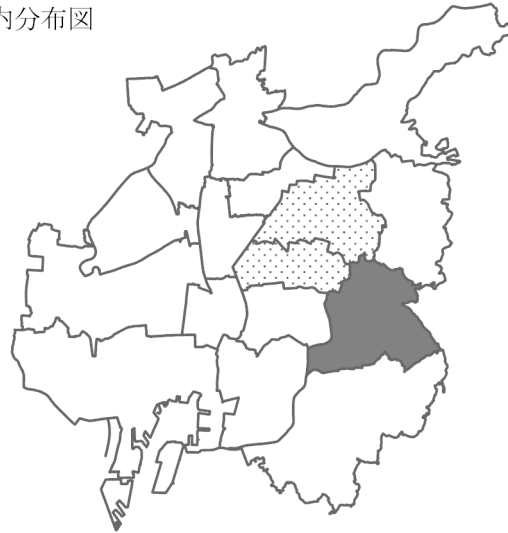
市内：4 天白区（平針黒石、長谷川 182, 2021-10-4, N）に生育している。3 千種区（東山、井波一雄 s.n., 1958-5-7, CBM130701）、8 昭和区（妙見町、犬飼 清 s.n., 1967-5-3, A）で採集された標本もある。

県内：県 RDB2020 p.490 参照。西三河北部から尾張東部にかけての丘陵地に散在しており、名古屋市のほか足助、藤岡、豊田北西部、瀬戸尾張旭、長久手日進で確認されているが、多いものではない。

国内：本州（静岡県西部～兵庫県東部）および四国（香川県）。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

丘陵地の疎林内に生育していることが多い。

現在の生育状況／減少の要因

保全緑地の二次林内に、2 株生育している。

保全上の留意点

保全緑地内であるため生育環境階級も人為圧階級も 2 と判断されたが、藪払いなどで消失する可能性もあり、特に注意して個別的に保全する必要がある。

特記事項

和名は兵庫県の有馬で発見されたことに由来する。

関連文献

保木本 I p.218, 平新版 2 p.312.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) カバノキ科>

アカシデ *Carpinus laxiflora* (Siebold et Zucc.) Blume**評価理由**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 14。里山二次林の構成種であるが、名古屋市では 1 か所で 1 株が確認されているだけである。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の高木。高さ 10~15m になる。葉は互生し、柄ははじめ有毛、のち無毛となり、長さ 3~15mm の柄があり、葉身は卵形~卵状楕円形、長さ 3-7cm、幅 2-3.5cm、先端は急に尾状鋭尖頭、基部は通常円形、辺縁には不整細重鋸歯があり、側脈は 7-12 対で裏面に突出する。葉質はやや薄い洋紙質、若い時は赤みを帯びる。花は 4-5 月に新葉の展開と同時に開き、雄花序は前年枝の葉腋から下垂し、雄花を密生する。果穂は 8-9 月頃に成熟し、果苞は長さ 10-18mm、不整な長卵状三角形で基部で 3 裂し、外縁には少数の粗鋸歯がある。

分布の概要

市内：5 緑区(鳴海町池上、長谷川 682, 2023-7-10, N) に生育している。

県内：2 (望月峠, 芹沢 101598, 2023-5-28)、3 (東蘭目, 山崎玲子 136, 1992-7-12)、6 (段戸高原, 芹沢 66543, 1993-7-15)、7 (岩古谷山, 芹沢 61467, 1992-5-27)、8 (池場, 芹沢 84502, 2009-7-15)、9 (黄柳野, 芹沢 65623, 1993-5-28)、11 (黒瀬, 芹沢 55479, 1990-6-14)、13 (千両町, 瀧崎 15549, 1995-4-30, T)、15 (嵩山町, 芹沢・芳山 165, 1984-7-27)、5 (面ノ木峠, 横井邦子 365, 1993-8-29)、19 (駒山, 芹沢 88520, 2013-7-6)、20 (四ツ松, 芹沢 71490, 1995-5-18)、21 (下山田代町, 芹沢 84464, 2009-7-14)、22 (大ヶ蔵連, 芹沢 66080, 1993-6-18)、23 (西市野々, 日比野修 1027, 1993-4-7)、24 (国附町, 芹沢 65387, 1993-5-21)、25 (猿投山, 芹沢・磯貝 53, 1984-7-24)、29 (才栗町, 芹沢 65317, 1993-5-20)、37a (定光寺町, 日比野修 1234, 1993-5-26)、48 (廻間町, 秋山葉子 135, 1995-4-4) などで確認されている。

国内：北海道(西南部と太平洋沿岸)、本州、四国、九州。

世界：日本および朝鮮半島。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

やや温帯性の樹木で、山地~丘陵地の二次林の構成種である。

現在の生育状況／減少の要因

緑区の緑地内の芝地に面した林縁部に、樹高 10m 程度の個体が生育している。1 個体であるが、実をたくさんつけている。林が常緑広葉樹林化すれば、被陰により衰退する恐れがある。

保全上の留意点

生育地の林を落葉広葉樹林の状態で維持する必要がある。

関連文献

保木本Ⅱp.303, 平新版 3 p.117.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ヤナギ科>

ヤマネコヤナギ *Salix caprea* L.

評価理由

生育環境階級 3、人為圧階級 4、県西部分布階級 1。温帯性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。現存は確認できないが再出現の可能性があるため、定性的に絶滅危惧 IB 類と評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の小高木または高木。高さ 10m に達する。樹皮は暗灰色。葉は楕円形～長楕円形、長さ 8～13cm、幅 3.5～4cm、先端は鋭尖頭～鋭頭、基部は円形または広いくさび形、辺縁は微少な鋸歯があるがほとんど全縁、表面は無毛でやや光沢があり、葉脈はくぼみ、裏面は白色の縮毛が密生する。雌雄異株で、花期は 3 月下旬～5 月上旬、雄花穂は楕円形～長楕円形、長さ 3～5cm、雌花穂は長楕円形、開花時には長さ 2～4cm であるが、果時には長さ 10cm に達する。

分布の概要

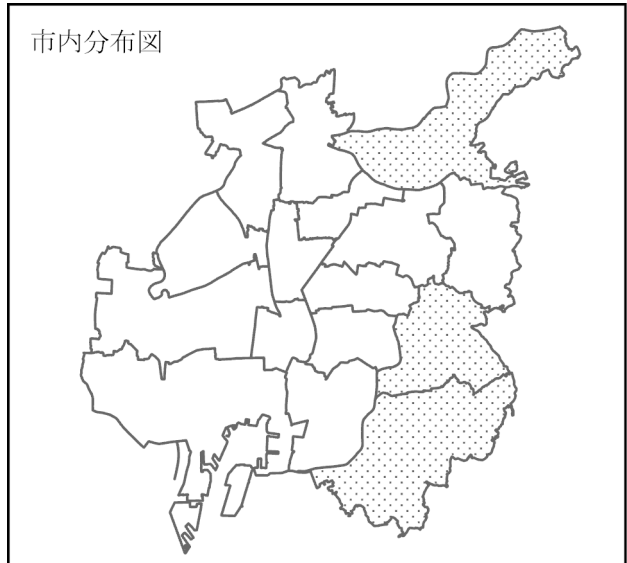
市内：1 守山区（下志段味風越池、村松 23581, 2007-4-8, N）、4 天白区（天白町平針黒石、渡邊幸子 1992, 1995-4-12, A）、5 緑区（大高緑地、渡邊幸子 3715, 1999-3-25, A）に生育していた。

県内：東三河、西三河の山地では普通に見られるが、尾張では少ない。1（瀬戸、村松 23892, 2007-8-25, N）、2（上黒川、村松 15009, 1994-4-17）、3（御園、村松 25877, 2011-6-19, N）、4（三七、小林 42917, 1993-5-16）、6（駒ヶ原、瀧崎吉伸 21280, 2004-5-15, T）、5（黒田、村松 17811, 1998-5-23）、19（閑羅瀬、芹沢 64976, 1993-5-11）、20（上国谷、鈴木万里亜 226, 1995-4-21）、22（大ヶ蔵連町、芹沢 81615, 2007-7-7）、23（下川口、塚本威彦 107, 1992-5-22）、24（幸海町、山崎玲子 1352, 1996-4-24）、25（猿投山、磯貝彰宏 792, 1984-4-9）、37a（片草町、塚本威彦 3146, 2007-5-19）、37b（旭ヶ丘町、村松 22241, 2004-8-14, N）、47（大山、芹沢 87119, 2011-6-26）、48（西尾町、村松 18918, 1999-10-16, N）、49c（西春町鍛冶ヶ一色、鈴木幸子 425, 1993-4-20）などで確認されているが、標本の蓄積はやや不十分である。7（岩古谷山、恒川敏雄 162, 1945-5-6, T）で採集された標本もある。

国内：北海道（西南部）、本州（近畿地方以東）、四国。

世界：日本からヨーロッパにかけて、北半球に広く分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地などの日当たりのよい場所に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では 1 株生育していたが、2014 年に枯死が確認された。天白区では丘陵の斜面に小群落があったが、宅地開発で消失したという。

保全上の留意点

丘陵地の地形を保全することが必要である。陽性の樹木で、名古屋市のものは多少偶産的なところがあり、現状を維持すればやがては再度侵入してくると思われる。

特記事項

別名バッコヤナギ。バッコは東北地方の言葉で老婆のことで、灰色の尾状花序が老婆の白髪のようなからである。

関連文献

保木本 II p.317, 平新版 3 p.197.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ムクロジ科>

カラコギカエデ *Acer ginnala* Maxim. var. *aidzuense* (Franch.) K.Ogata**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 3、総点 14。愛知県内では分布が限定される植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全国 2025	—

形態

落葉性の小高木。高さ 2~8m になる。葉は対生し、長さ 2~4.5cm の柄があり、有花枝に 2-3 対、無花枝に 2-5 対生じる。葉身は楕円形、長さ 5-11cm、幅 2-6cm、掌状の 3 脈および羽状脈があり、3 浅裂またはほとんど切れ込まず、基部は浅心形~広いくさび形、辺縁には大きな重鋸歯があり、裏面の脈状にはまばらに軟毛がある。花期は 5-6 月。花序は複散房状、有花枝に頂生し、数十以上の多数の花をつける。果期は 8-9 月。果翼は鋭角に開くかほとんど平行し、隆起する脈が目立つ。

分布の概要

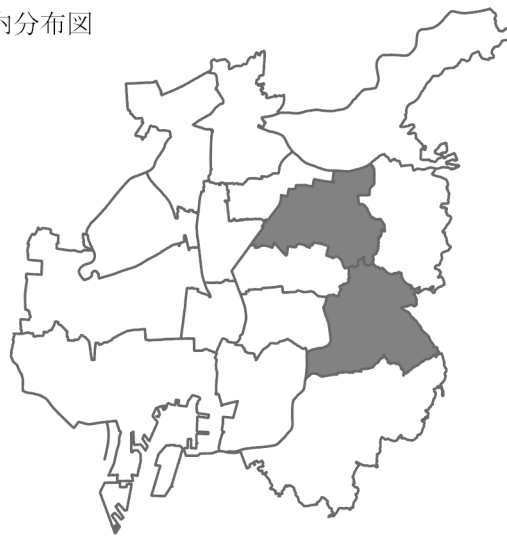
市内: 3 千種区 (平和公園, 長谷川 127, 2021-8-1, N)、4 天白区 (平針荒池, 長谷川 176, 2021-9-20, N) に生育している。

県内: 県 RDB p.505 参照。長野県まで行けば山間部の湿地に生育しているが、愛知県での生育地は濃尾平野に近い山すその水湿地 (区画としては瀬戸尾張旭、犬山、小牧) に限られており、三河では確認されていない。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ロシア極東部。種としてはヨーロッパ東南部まで分布している。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

県内では河川沿いの湿潤な場所に生育していることが多い。名古屋市内では、ため池の岸やその周辺の湿潤な樹林地で確認されている。

現在の生育状況／減少の要因

天白区の緑地内の水辺に胸高直径約 30cm の大きな個体が生育している。果実もたくさんつけており、周辺には幼木が散在している。千種区では樹高 3m 程度の個体が数株生育しており、わずかながら果実もつけている。周辺の樹木が生長すると、被陰されて衰退するおそれがある。

保全上の留意点

本種の生育には日当たりの良い湿潤な環境が必要である。水辺の森林化を抑制する必要がある。

特記事項

愛知県内では、尾張地方の丘陵地の限られた場所に分布する種である。天白区の個体は以前から知られていたが、これまでは逸出の可能性が高いと判断し、リストに掲載してこなかった。しかし今回改めて現地を確認し、また千種区でも発見されたので、判断を変更した。

関連文献

保木本 I p.294, 平新版 3 p.287-288.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) ミカン科>

キハダ *Phellodendron amurense* Rupr.**評価理由**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県西部分布階級 3、総点 15。名古屋市では最近になって初めて 1 ケ所での生育が確認された。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の高木。高さ 10~20m になる。樹皮にはコルク層がよく発達する。葉は対生し、5-11 枚の小葉からなる奇数羽状複葉、葉身は長さ 15~35cm、小葉柄は長さ 1~5mm、小葉の基部はややゆがんだ円形または鈍形、裏面は無毛か主脈の下部に開出する長毛がある。開花期は通常 6 月、枝先の散房花序に多くの花をつけるが、市内の個体はまだ開花していない。

分布の概要

市内：4 天白区（天白溪，長谷川 474, 2022-9-3, N）に生育している。

県内：山地に点在するが、多いものではない。2（上黒川，芹沢 101609, 2023-5-28）、3（中設楽，芹沢 81479, 2007-6-3）、4（水梨川，小林 44243, 1993-6-13）、6（段戸山裏谷，芹沢 104325, 2024-9-7）、7（小松，芹沢 81490, 2007-6-3）、8（四谷，小林 53383, 1994-8-27）、9 巢山，小林 61946, 1997-8-17）、11（木和田，小林 51957, 1994-6-5）、13（千両町，小林 79388, 2003-6-20）、5（稲橋，塚本威彦 2306, 1997-6-24）、21 宇連野，小林 52261, 1994-6-19）、28（本宮山，小林 49225, 1993-10-30）、37a（下半田川町，日比野修 5282, 2001-6-3）などで確認されているが、花や実のついた枝が採りにくいこともあって、標本の集積はやや不十分である。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸北部、アムール。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地の谷沿いなどの湿った場所に多い。

現在の生育状況／減少の要因

天白溪の樹林の林縁に樹高約 7m と約 5m の若木が 2 株生育している。保全緑地内であるが通路沿いの林縁なので、整備作業などで伐採される可能性がある。

保全上の留意点

整備作業等の際には注意が必要である。森林化による被陰は衰退の要因となるが、生育地は通路沿いであるため、現在のところそのおそれは少ない。

特記事項

開花していない個体であるがかなり大きく育っており、しかも 2 本あるので、一応定着していると見なし評価の対象とした。愛知県内の丘陵地では、大きな個体はほとんど見られない。瀬戸市下半田川町には大木があって、保全対象とされている。

関連文献

保木本 I p.313-314, 平新版 3 p.304.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) ミカン科>

ミヤマシキミ *Skimmia japonica* Thunb.

評価理由

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 14。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の低木。高さ 60 リスト外 120cm になる。若枝は無毛、いぼ状の腺点が目立つ。葉は互生し、長さ 5~10mm の柄があり、葉身は倒披針状長楕円形、長さ 6~12cm、幅 2~3.5cm、先は短く尖って先端は浅くへこみ、基部はくさび形、ほぼ全縁、質は厚く、両面無毛である。花期は通常 4~5 月、枝先に長さ 2~5cm の散房状の円錐花序をつけ、果実は球形、直径 8~10mm で赤熟するが、市内では花や果実は確認できていない。

分布の概要

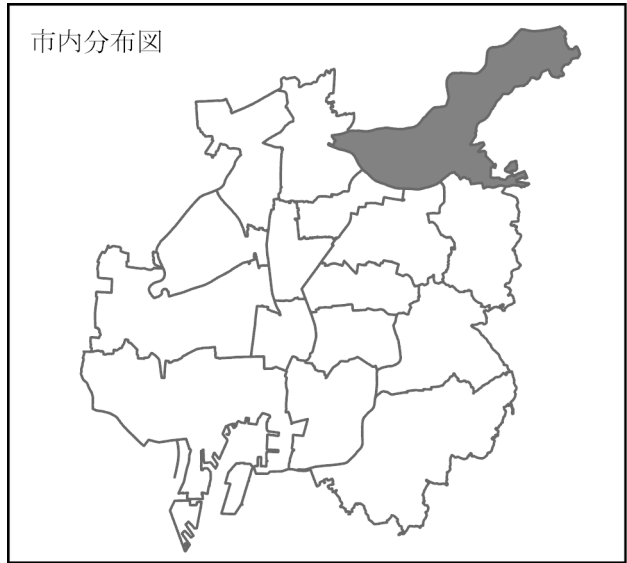
市内: 1 守山区(東谷山, 日比野修 4537, 1998-6-20, A) に生育していた。

県内: 2 (丸山沢~湯島, 村松 14409*, 1994-10-10)、4 (白鳥山, 石田雄吉 196, 1979-4-22)、6 (三都橋, 小林 41661, 1993-4-24: 段戸山裏谷, 石川静雄 85*, 1993-5-30)、7 (岩古谷山, 芹沢 61670, 1992-4-25)、8 (鳳来寺山, 加藤等次 2342, 1992-11-4)、11 (木和田, 小林 49103, 1993-10-24)、15 (嵩山町, 芳山朋子 410, 1984-4-30)、5 (稲橋面ノ木, 塚本威彦 2287*, 1997-6-12)、19 (駒山, 塚本威彦 520, 1993-5-8)、20 (寧比曾岳, 水野岸子 819, 1985-10-9)、22 (東市野々, 日比野修 1967, 1994-4-21)、23 (西市野々, 日比野修 2772, 1995-4-29)、24 (六所山, 山崎玲子 52, 1992-4-15)、25 (猿投山, 畑佐武司 11, 1994-4-20)、28 (鹿勝川, 福岡義洋 97, 1990-3-27)、30 (本宿町, 本田さおり 82, 1994-4-13)、36 (西幡豆, 壁谷重美子 933, 1994-9-9)、37a (東白坂町, 塚本威彦 3009, 2002-4-8; 定光寺町, 芹沢 86778*, 2011-4-29)、45 (栗栖, 芹沢 72769, 72770*, 1996-4-26)、47 (大山, 村瀬正成 10036, 1994-3-12)、48 (外之原町, 秋山葉*は子 61, 1993-4-15) など確認されている。*はツルシキミにあたる型である。

国内: 狭義ミヤマシキミは本州(関東地方以西)、四国、九州、ツルシキミは北海道、本州、四国、九州に分布する。

世界: 狭義ミヤマシキミは日本および台湾、ツルシキミはサハリンおよび日本に分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

沢沿いの林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

上記標本は標本は東谷山北面で採集されたものであるが、最近の調査では、瀬戸市側の湧水のあるごく狭い範囲の斜面地には小さな数個体が生育していたが、名古屋市側では見当たらなかった。見落としの可能性もあるので、今回はとりあえず個体数階級 4 として評価した。

保全上の留意点

まずは名古屋市側の確実な自生地を探索する必要がある。

特記事項

茎が直立しやや大きくなるものをミヤマシキミ、小さく下部が地をはうものをツルシキミ var. *intermedia* Komatsu form. *repens* (Nakai) H.Hara (引用標本中*印) という。両者は野外で全形を見れば識別できるが、茎の上部だけの標本ではどちらかよくわからないことも多い。ツルシキミの方が標高の高い場所に多いが、愛知県の低山地には両者ともあるので、ツルシキミの標本もあわせて引用しておいた。

関連文献

保木本 I p.3114-315, 平新版 3 p.304.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ニガキ科>

ニガキ *Picrasma quassoides* (D. Don) Benn.**評価理由**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 15。やや山地性の樹木で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の高木。高さ 12m くらいになる。葉は互生し、長さ 1.5~3cm の柄があり、葉身は奇数羽状複葉、小葉は対生またはやや対生し、7~13 枚、卵状長楕円形、長さ 5~7cm、先端は鋭尖頭、辺縁には鋭鋸歯がある。花期は 4~5 月。葉腋に集散花序をつけ、雌雄異株、雄花序は 30~50 個、雌花序は 7~15 個の、黄緑色の小さい花をつける。果実は 2~3 個の分果からなり、分果は広楕円形、長さ約 6mm である。

分布の概要

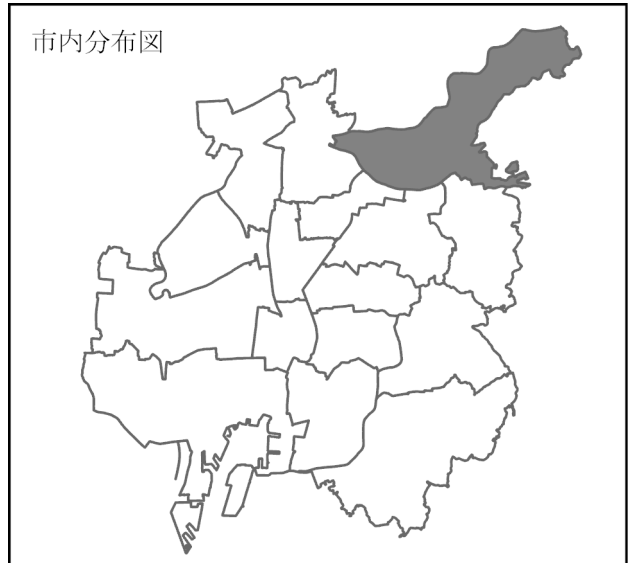
市内: 1 守山区 (中志段味才井戸流, 村松 30297, 2019-4-27, N) に生育している。

県内: 低山地に点在するが、それほど多いものではない。9 (黄柳野, 小林 44383, 1993-6-18)、15 (平野~馬越, 小林 36578, 1992-4-18)、5 河上瀬谷, 小林 37630, 1992-6-7)、8 (玖老勢, 恒川敏雄 s.n., 1977-9-15, T)、22 (坊洞, 日比野修 2069, 1994-5-5)、23 (大岩, 日比野修 3131, 1995-9-9)、24 (豊松町, 山崎玲子 827, 1994-6-21)、25 (猿投山, 山崎玲子 852, 1994-7-5)、37a (下半田川, 村松 34345, 2023-6-9, N)、37b (平子町, 村松 32831, 2022-4-19, N)、44b (内海, 芹沢 101414, 2023-5-13)、45 (栗栖, 芹沢 85572, 2010-5-8)、46a (木曾川, 芹沢 70432, 1994-8-24)、48 (玉野町, 竹原芳子 456, 1994-5-28) など確認されているが、標本の蓄積はやや不十分である。6 (段戸山, 恒川敏雄 852, 1956-8-22, T)、12 八名井, 恒川敏雄 59, 1954-6-13, T) で採集された標本もある。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

林縁部に生育することが多い。

現在の生育状況／減少の要因

中志段味才井戸流れの林縁に大きな株があり、よく花をつける。才井戸流れは開発が進行しているが、この株は当面は残存するものと思われる。しかし長期的には、土地整備等により失われる可能性もある。

保全上の留意点

他の場所にもあるという話を聞くが、はっきりしない。更に注意して探索する必要がある。既知の個体に関しては、個別的な保全が必要である。

特記事項

全体に苦味物質を含み、薬用とされる。和名もこの苦味に由来する。

関連文献

保木本 I p.310, 平新版 3 p.309.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) ミズキ科>

クマノミズキ *Cornus macrophylla* Wall.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 2、総点 14。名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の高木。高さ 8~12m になる。葉は対生し、長さ 1~3cm の柄があり、葉身は楕円形、長さ 6~15cm、幅 3~7cm、先端は鋭尖頭、裏面はやや粉白色を帯びる。花期は 6~7 月、枝端に径 8~14cm の集散花序をつけ、花は直径 8~10mm、花弁は 4 枚で黄白色、狭長楕円形である。核果は球形、直径約 5mm、秋に紫黒色に熟す。

分布の概要

市内：5 緑区（鳴海町笹塚、長谷川 1098, 2024-7-29, N）に生育している。1 守山区（天子田、鳥居ちゑ子 924, 1995-6-17, A）にも生育していた。

県内：三河山地ではしばしば見かける種類だが、丘陵地では少ない。1（大尾、小林 44715, 1993-6-26）、2（新野峠、芹沢 102205, 2023-7-17）、3（下川角、小林 44688, 1993-6-26）、6（田峯、小林 44977, 1993-7-4）、8（三河川合、堀田善久 2841, 1991-8-25）、10（玖老勢椎平、芹沢 65655, 1993-5-28）、13（三上町、加藤等次 1460, 1992-6-20）、15（吉祥山、小林 37932, 1992-6-26）、5（押山、横井邦子 339, 1993-7-25）、19（松根、日比野修 1498, 1993-7-24）、20（追分、塚本威彦 1950, 1996-6-30）、22（大ヶ蔵連、芹沢 66105, 1993-6-18）、23（折平、日比野修 622, 1992-8-6）、25（猿投山、芹沢・磯貝 20, 1984-7-24）、28（本宮山、小林 49219, 1993-10-30）、37a（下半田川町、山田果与乃 1998, 2013-6-17）、38a（熊張、半田多美子 3656, 2004-6-17）、38b（藤枝町、半田多美子 3653, 2004-6-13）、39a（諸輪、濱嶋育子 998, 2016-6-12, N）、48（木附町、日比野修 2282, 1994-6-18）などで確認されている。

国内：本州、四国、九州（屋久島まで）。

世界：日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸からアフガニスタンまで分布している。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

二次林内や林縁部に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

緑区では緑地の水辺に近い林縁に生育している。開花しそうな大きい個体は数株だが、周辺には幼木も多い。守山区の標本はよく花をつけた枝であるが、1 本だけ生育していたそうで、その後消失してしまったという。

保全上の留意点

周辺木の伸長や竹林化による被陰を防止する必要がある。また通路沿いに生育しているため、管理作業の際うっかり伐採しないよう注意する必要がある。

特記事項

2020 年のレッドリストでは稀少偶産種としたが、1 株であるが開花していたこと、その後緑区で生育が確認されたことから、評価対象とした。

関連文献

保木本 I p.197, 平新版 4 p.155.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）ツリフネソウ科>

キツリフネ *Impatiens noli-tangere* L.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級階級 3、総点 15。山地性の植物で、東三河、西三河には点在するが、名古屋市では極めて稀である。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

全草無毛の一年生草本。茎は枝を分け、高さ 50～80cm になる。葉は互生し、下方のものは長さ 3～5.5cm の柄があり、葉身は長楕円形～卵形、長さ 4～10cm、幅 2～6 cm、先端は通常鈍頭～円頭、基部は鋭形、辺縁には粗い鈍鋸歯がある。花期は名古屋市では 6 月中旬～7 月上旬だが山地では 9 月まで咲いており、葉腋から下垂した総状花序に 3～5 花をつける。花は長さ 25～45mm、唇弁は太い筒状で黄色、内面に赤褐色の斑点があり、後部は次第に細くなり、距は湾曲して下に伸びる。果実は広線形、長さ 1.5～2.5cm、裂開して種子をはじき飛ばす。

分布の概要

市内：2 名東区（藤巻町、長谷川 1023, 2024-5-8, N）に生育している。

県内：東三河、西三河の山地には点在するが、尾張では極めて少ない。1（大沼上、芹沢 67296, 1993-9-2）、2（三沢、芹沢 102461, 2023-9-3）、4（行人原、芹沢 93155, 2017-9-3）、7（平山、榊原利修 716, 1992-6-26）、8（池場、芹沢 81635, 2007-6-27）、9（上吉田、小林 49331, 1993-11-3）、12（土合豊川、小林 37928, 1992-6-21）、13（一宮町豊川、小林 37828, 1992-6-16）、15（賀茂町豊川、小林 38115, 1992-7-7）、5（夏焼町、芹沢 85923, 2010-6-26）、20（大河原、新井文子 785, 1994-6-27）、21（立岩、芹沢 62387, 1992-7-30）、24（国附町、佐藤久美子 682, 1993-8-4）、37a（白坂町、日比野修 4895, 1999-7-14）、41a（加木屋町、吉鶴靖則 675, 2015-6-15, 移入の可能性もある）などで確認されているが、標本の蓄積はやや不十分である。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：東アジアのほか、シベリア、ヨーロッパ、北アメリカに広く分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

通常は山地の沢沿いや林内のやや開けた場所に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

小川の岸に小群落がある。現地は名古屋市内では奇跡的に開発を免れた、やや深山的な感じのする場所である。

保全上の留意点

生育地の地形を保全すること、川に生活排水が流入しないよう注意し、水質を維持することが必要である。

関連文献

保草本 II p.72, 平新版 4 p.173.

（西部めぐみ 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）ツツジ科>

ギンリョウソウモドキ *Monotropa uniflora* L.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 2、総点 14。林内に生育する腐生植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全 国 2025	—

形態

腐生の多年生草本。全体に白色だが、乾くと黒くなる。茎は 1～数本が束生し、高さ 10～30cm になる。葉は鱗片状で互生し、卵状長楕円形、上部に不規則な歯牙がある。花期は 8～9 月。茎の先端に 1 個の花をつけ、がく片は 3～5 枚、卵状楕円形または披針状長楕円形、花弁も 3～5 枚で長楕円形、長さ 1.5～2cm、内面に軟毛あり、外面は短毛が密生し、上部に不規則な歯牙がある。花柱は太く短く、上端は広がって黄褐色の柱頭となる。果実はさく果で、上向きにつき、球形または球状楕円形、長さ 1～1.5cm である。

分布の概要

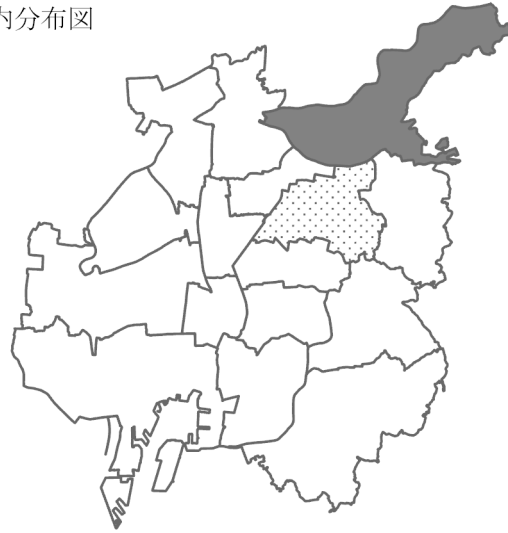
市内：1 守山区（吉根長廻間、鳥居ちゑ子 2037, 2001-10-4, A）に生育していた。3 千種区（東山、井波一雄 s.n., 1941-10-1, CBM192702）で採集された標本もある。

県内：県 GDB2017 p.286 参照。東三河と西三河の山地には点在するが、ギンリョウソウよりは少ない。県西部では名古屋市のほか、藤岡、豊田東部、豊田北西部、岡崎南部、瀬戸尾張旭、春日井で生育が確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本からヒマラヤにかけてと、北アメリカに分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地のやや湿った林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

二次林の林内に小群落があったが、最近の状態は確認されていない。近くまで開発が進んでおり、現在も存続しているかどうか懸念される。林内にはネザサが増加しており、それに圧迫されて衰退する可能性もある。

保全上の留意点

丘陵地の地形を保全することが必要である。

特記事項

ギンリョウソウが初夏に咲くのに対して本種は晩夏から秋に咲くため、アキノギンリョウソウとも呼ばれる。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 5 に掲載されている。

関連文献

保草本 I p.235, 平新版 4 p.226.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）アカネ科>

アリドオシ *Damnacanthus indicus* C.F.Gaertn.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級階級 3、総点 15。東三河、西三河には点在するが、名古屋では極めて稀である。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

高さ 20～60cm の常緑低木。根は数珠状に肥厚しない。葉は対生し、短い柄があり、葉身は卵形～広卵形、長さ 15～27mm、幅 10～20mm、革質で全縁、先端は鋭頭～鋭尖頭、基部はくさび形～円形、とげは葉に十字対生するように出て長さ 8～20mm、通常葉の 2/3 より長い。花期は 4～5 月、花は枝先または葉腋から出る短枝の先に 2 個ずつつき、短い柄があり、花冠は白色、花筒は長さ 8～12mm、裂片は斜開～開出し、卵形で鋭頭、長さ 2.5～4mm である。

分布の概要

市内：1 守山区（東谷山、村松 29708, 2018-6-23, N）に生育している。

県内：東三河、西三河の低山地には点在するが、尾張では極めて少ない。この類は分類が難しくまだ十分検討できていないが、典型的なものは 2（佐久間ダム、村松 14346, 1993-10-10）、8（鳳来寺山、加藤等次 804, 1992-1-13）、9（乗本、小林 49311, 1993-11-3）、12（出沢、村松 26952, 2013-7-25）、15（嵩山町、芹沢 41398, 1984-11-11）、17（蔵王山、小林 50184, 1994-3-27）、24（石楠町、山崎玲子 2134, 2000-4-12）、36（東幡豆、芹沢 69227, 1994-5-13）、47（大山、村瀬正成 930619, 1993-9-11）などで確認されている。13（宮路山、岡田前敏 s.n., 1947-6-1）で採集された標本もある。

国内：本州（関東以西）、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島南部、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

通常常緑樹林の林床に生育する。名古屋市では、沢に沿った急傾斜地の林内に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

個体数は、大きい株が 3 株、小株を合わせても 10 株に満たない程度であったという。過去からの増減はよくわからない。

保全上の留意点

東谷山は、名古屋市内では唯一の山地的な地形の場所で、本種を含めて、名古屋市内ではここにしか見られない植物が多数生育している。開発を避け、森林を保全することが必要である。

特記事項

やや離れた場所には、ホソバニセジュズネノキ（市 VU）も生育している。

関連文献

保木本 I p.61, 平新版 4 p.271.

（西部めぐみ 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）アカネ科>

カギカズラ *Uncaria rhynchophylla* (Miq.) Miq.

評価理由

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。暖地性のつる性木本で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全 国 2025	—

形態

常緑性の藤本。よく育ったものは長さ 10m 以上になる。上部の葉腋の枝は湾曲して先の鋭くとがったとげとなり、他物にからまって広がる。若枝は無毛で、断面は四角形である。葉は対生し、長さ 3～10mm の柄があり、葉身は楕円形、長さ 5～12cm、幅 3～6cm、全縁である。花期は通常 6～7 月だが、市内の個体は幼木でまだ開花していない。

分布の概要

市内：4 天白区（相生山緑地、長谷川 90, 2021-6-26, N）に生育している。

県内：低山地に点在するが、多いものではない。2（佐久間湖岸、芹沢 87912, 2012-9-22）、8（鳳来寺山、加藤等次 243, 1991-9-3）、10（布里、小林 49784, 1993-12-12）、12（横川、小林 50055, 1994-3-12）、13（長沢、瀧崎 19348, 2002-2-2, T）、14（御堂山、小林 40241, 1992-10-31）、15（嵩山町、小林 49939, 1994-1-29）、25（乙部ヶ丘、畑佐武司 9001, 2017-3-9）、28 鳥川町、千賀敏之 s.n., 2009-10-24）、29（村積山、芹沢 86323, 2010-9-29）、31（遠望峰山、小林 59355, 1996-5-11）、36（西幡豆、小林 58957, 1996-2-3）、37a（広久手町、芹沢 74641, 1998-5-30）などで確認されている。

国内：本州（関東地方以西）、四国、九州。

世界：日本、中国大陸中南部

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

河川沿いなどの湿潤な常緑樹林林縁部に多い。名古屋市内でも緑地の北向き斜面下部に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

数年前には、開花・結実には至らないものの数 m 以上に育った個体が確認できた。しかし道路沿いに生育しているため草刈りが行われ、現在では幼株が 4 株残っているだけである。

保全上の留意点

保全緑地内であるが、本種については特に個別的な保全が必要である。幼株が 4 株あるので、一部は近隣の適当な場所への移植を検討してもよい。もちろん移植の際には、元の生育地や移植の経緯について記録を残しておく必要がある。

特記事項

愛知県は本種の分布域の北限となる。

関連文献

保木本 I p.63-64, 平新版 4 p.292-293.

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) リンドウ科>

フデリンドウ *Gentiana zollingeri* Fawe.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級階級 1、総点 14。名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

越年性草本。地上部は高さ 3~13cm になる。根出葉はない。茎葉は 2~5 対が対生し、長卵形~広卵形、長さ 5~20mm になる。花期は 4~5 月、花は小さい株では茎の先端の少数つくだけだが、大きい株では多くの側枝を出し、多数の花をつける。花冠は長さ 12~20mm、青紫色、火を受けて開花し、先端は 5 裂して平開、裂片の間に小さい副片がある。

分布の概要

市内: 13 西区(庄内緑地公園, 鳥居ちゑ子 3782, 2018-4-27, A) に生育している。

県内: 東三河、西三河、尾張ともに点在しているが少ない。1 (漆島, 小林 42241, 1993-5-3)、2 (栗世, 加藤等次 1291, 1968-4-29)、3 (大入溪谷, 芹沢 48105, 1988-4-17)、7 (和市, 芹沢 61092, 1992-4-25)、8 (鳳来寺山, 加藤等次 1263, 1992-4-18)、11 (高里, 権田昭一郎 s.n., 1999-5-2)、12 (吉川, 小林 63584, 1998-4-22)、15 (嵩山町, 芳山朋子 407, 1984-4-30)、17 (蔵王山, 芹沢 54380, 1990-4-3)、18 (伊良湖岬, 久納鉦一 119, 1999-4-15)、5 (川手, 塚本威彦 2195, 1997-4-27)、19 (沢尻, 塚本威彦 555, 1993-5-16)、20 (月原町, 芹沢 93932, 2018-4-21)、22 (荷掛, 日比野修 2005, 1994-4-26)、24 (国附町, 畑佐武司 2921, 2002-4-4)、25 (猿投山, 山崎玲子 1052, 1995-5-7)、28 (闇荊溪谷, 千賀敏之 s.n., 2011-5-13)、35 (貝吹町, 芹沢 100156, 2022-4-23)、36 (佐久島, 小林 56045, 1995-3-28)、37b (柏井町, 村松 21151, 2002-4-3)、43 (広目, 中井三従美 2, 1993-4-26)、44b (内海内福寺, 大西 博 1339, 1994-4-21)、45 (八曽, 村瀬正成 A118, 1992-5-5) などで確認されている。

国内: 北海道~九州。

世界: 南千島、日本、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

林縁や明るい林床に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

詳細は不明。個体数は推定である。

保全上の留意点

まずは正確な場所を確認することが必要だが、おそらく除草作業等の際に配慮が必要である。

特記事項

愛知県では、小型のリンドウ類として本種の他にコケリンドウとハルリンドウが生育している。コケリンドウ(市 CR)についてはその項参照。ハルリンドウは、市内でもあちこちの湿地に生育している。2024 年の仮リストには掲載されていないが、収録もれであった。

関連文献

保草本 I p.220, 平新版 4 p.295-296.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) リンドウ科>

センブリ *Swertia japonica* (Schult.) Makino

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 14。薬草として有名な植物で愛知県全体ではやや普通に見られるが、名古屋市では減少傾向が著しく、現存する生育地はほとんどない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

一年生または越年性の草本。茎は高さ 5-40cm で、淡紫色をおびる。根出葉はふつう花時にも少数存在する。茎葉は対生し、倒披針形、長さ 1-2cm、幅 5mm、縁は多少裏側に反る。花期は 8-11 月、花は茎の先端に 6~15 個つき、5 数性、萼裂片は長さ 7-9mm、花冠は白色で 5 深裂し、裂片は広披針形で長さ 7-10mm、紫脈があり、基部付近に 2 個の蜜腺溝がある。

分布の概要

市内：1995 年以降では、緑区（鳴海町笹塚、渡辺幸子 4981, 2001-10-24, N）で確認されている。1 守山区（小幡北山、太田由美子 209, 1994-10-20, A）、4 天白区（土原 1 丁目、稲川徹子 4, 1993-9-8, A）にも生育していた。

県内：4（東山、芹沢 75005, 1998-9-18）、6（駒ヶ原、瀧崎 21574, 2004-9-5, T）、7（小松、芹沢 64493, 1992-10-30）、8 榎原川、芹沢 68815, 1993-10-17）、9（黄柳野、芹沢 54064, 1989-10-29）、12（中宇利、芹沢 54052*, 1989-10-29; 78385, 2002-10-25）、13（宮路山、瀧崎 21076, 2003-11-5, T）、14（神ノ郷町、鈴木美恵子 334, 1992-10-21）、15（石巻萩平町、芹沢 64461, 1992-10-27）、17（赤羽根町高松北、小林 49416, 1993-11-7）、18（高木、芹沢 54088, 1989-11-2）、5（中当、芹沢 57868, 1990-10-19）、19（駒山、芹沢 64318, 1992-10-17）、20（神越、山崎玲子 713*, 1993-10-20; 御内町、芹沢 95983, 2019-11-9）、21（下山田代町、芹沢 90812, 2015-10-13）、22（大洞、伊藤泰輔 143, 1992-10-21）、23（三箇、日比野修 1837, 1993-10-24）、24（押沢町、芹沢 68877, 1993-10-22）、25 太平町、芹沢 60917, 1991-10-28）、27（福谷、芹沢 78419, 2002-10-29）、28（夏山、福岡義洋 2071, 1992-10-18; 千万町、原田 勉 421*, 1994-10-23）、29（小美町、伊奈知子 1236, 1993-10-26）、30（桑谷町、本多さおり 1112, 1994-10-28）、31（須美、金子律子 1611, 1995-11-6）、36（三ヶ根山、壁谷重美子 1254, 1994-10-25）、37a（広久手町、芹沢 75246, 1998-10-18）、38a（岩作、半田多美子 1398, 1993-10-22）、38b（藤島、伊藤恭子 805, 1992-11-11）、39b（沓掛町、浅野守彦 769, 1999-11-3）、44b（大井、芹沢 64379, 1992-10-23）、45（善師野、芹沢 54109, 1989-11-11）、48（廻間町、太田さち子 1164, 1993-10-17）などで確認されている。2（茶臼山、村松 5, 1972-10-10）、3（振草、恒川敏雄 40, 1945-10-16, T）、16 高師原, 1946-11-10, T で採集された標本もある。*は白花品（シロバナセンブリ）である。

国内：北海島西南部、本州、四国、九州。

世界：日本および朝鮮半島。

生育地の環境／生態的特性

日当たりの良い林縁や草地に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

緑区の生育地は、愛知用水沿いの草地であったと思われる。最近の様子は確認されていないが、用水の整備によって草地が著しく減少しているため、現存していても個体数は少ないであろう。個体数階級は推定である。他の場所でも、草地の減少、二次林の常緑樹林化などで衰退したと思われる。

保全上の留意点

本種のような小型の植物が生育できる日当たりの良い林縁や草地は、市内ではほとんどなくなっている。このような環境を意識的に創出・維持していくことが必要である。

特記事項

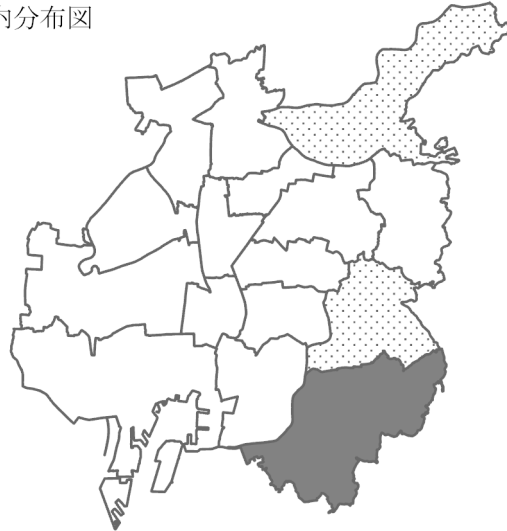
本種と次種イヌセンブリが同じ評価区分と言ったら、名古屋市の実情を知らない人からは笑われそうである。名古屋市内の草地環境はそれくらい危機的である。

関連文献

保草本 I p.217, 平新版 4 p.304.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

市内分布図



維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) リンドウ科>

イヌセンブリ *Swertia tosaensis* Makino

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 14。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	準絶滅危惧

形態

1年生または越年生の草本。茎は直立してしばしば基部から分枝し、高さ 10~30cm になる。葉は対生し、無柄、葉身は倒披針形、長さ 2~5cm、幅 4~10mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁である。花期は 10~11 月、花は茎の上部の枝先にまばらな円錐状につき、花冠は白色で淡紫色の条があり、直径約 15mm、5 裂し、裂片は披針形で長さ 8~10mm、基部に 2 個の蜜腺があり、そのまわりに長い毛がある。

分布の概要

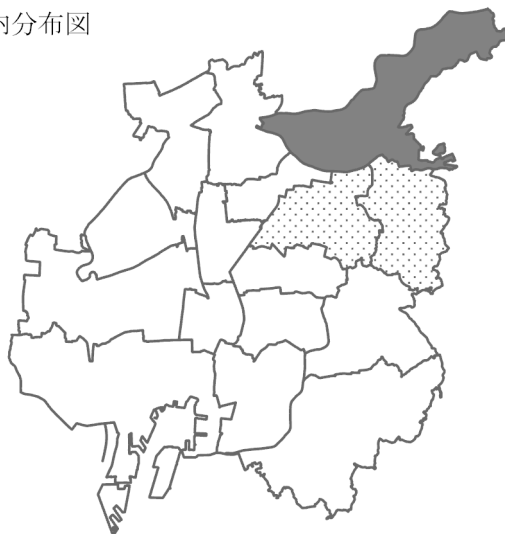
市内：1 守山区（中志段味、芹沢 88192, 2012-10-27, A）に生育している。2 名東区（猪高緑地、鳥居ちる子 219, 1992-11-23, A）と 3 千種区（田代町鹿子殿、芹沢 54035, 1989-10-26, A）にも生育していた。

県内：県 RDB2020 p.645 参照。名古屋市のほか、鳳来南部、作手、新城、豊川、豊橋北部、田原東部、田原西部、豊田北西部、岡崎北部、岡崎南部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、常滑、小牧、春日井で確認されている。ただしこのうちの一部では、すでに絶滅しているかもしれない。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

ため池の周辺、谷戸田の周辺などの湿った草地に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では溜池の岸に小群落がある。千種区では湿地の林縁部に小群落があったが、遷移の進行により森林化が進行し、被陰されて消失した。名東区ではやせ山に点々と 100 株程度が生育していたというが、公園整備により生育地が破壊され、絶滅した。

保全上の留意点

ほとんどが都市化されている名古屋市では、緑地公園の中で未整備のまま一般市民が利用しにくい状態になっている場所は、野生生物にとって貴重な生活の場となっている可能性がある。そのような未整備地が生物多様性保全に果たしている重要な役割をよく認識する必要がある。特に地形を改変するような工事を行う場合には、十分な事前調査が必要である。

特記事項

センブリに似ているが苦味がなく薬用にならないので、イヌセンブリという。センブリと異なり、湿地性の植物である。

関連文献

保草本 I p.216, 平新版 4 p.303, SOS 旧版 p.71+図版 23, SOS 新版 p.114.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) キョウチクトウ科>

スズサイコ *Vincetoxicum pycnosterma* Kitag.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。全国的に減少傾向の著しい草地性植物で、愛知県ではまだかなり残存しているが、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	国リスト
全 国 2025	準絶滅危惧

形態

多年生草本。多数のやや太いひげ根がある。茎は細く、直立して上部はやや傾き、高さ 40~100cm になる。葉は対生して斜上し、ほとんど無柄、葉身は狭披針形~線状長楕円形、長さ 8~16cm、幅 0.7~2cm、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁である。花期は 7~8 月、茎の先や上部の葉腋から長い柄のある花序を出し、集散状にまばらに花をつける。花冠は黄褐色で 5 裂し、裂片は開出して長さ 5~8mm、副花冠は直立し、卵形、鈍頭で、ずい柱より短い。果実は袋果で細長い披針形、長さ 5~8cm、種子は卵形で狭い翼があり、長さ 4~5mm、先端に長い白毛がある。

分布の概要

市内: 11 南区(赤坪町天白川、村松 30634, 2019-7-16, N) に生育している。1 守山区(上志段味稲堀田新田、鳥居ちる子 1980, 2001-6-28, A)、4 天白区(島田天白川堤、渡邊幸子 3202, 1997-8-25, A) にも生育していた。

県内: 県 RDB2020 p.689 参照。主として丘陵部に点在し、県西部では名古屋市のほか、藤岡、豊田東部、豊田北西部、豊田南西部、みよし、おかざきほくぶ、岡崎南部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、常滑、知多南部、犬山、江南丹羽、岩倉西春日井で確認されている。濃尾平野中央部には見られない。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

日あたりのよい草地に生育する。点在するが、大きな群落は作らない植物である。愛知県では、丘陵部~低山地の谷戸田周辺の里草地に点在している。平野に近い部分では、河川の堤防や水路わきの草地などに生育している。

現在の生育状況／減少の要因

日あたりのよい草地に生育する。点在するが、大きな群落は作らない植物である。愛知県では、丘陵部~低山地の谷戸田周辺の里草地に点在している。平野に近い部分では、河川の堤防や水路わきの草地などに生育している。

保全上の留意点

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。堤防の改修に際しては、身近な自然の確保という観点も含めて、適切な配慮が必要である。

特記事項

和名は、つばみが鈴に似て、全形が薬用のミシマサイコに似ているからである。

関連文献

保草本 I p.206, 平新版 4 p.317, SOS 新版 p.82.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ナス科>

マルバノホロシ *Solanum maximowiczii* Koidz.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 15。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

つる性の多年生草本。茎は無毛で、長さ 2~3m になる。葉は互生し、葉身は長楕円形または狭卵形、長さ 5~10cm、先は尾状にのび鈍端、基部はくさび形に狭まって翼のある柄に続き、全縁、辺縁にわずかに短毛があるほかは両面とも無毛である。花期は 8~9 月、葉に対生して、または茎の途中にまばらに分枝する集散花序をつける。花冠は淡紫色、深く 5 裂し、直径約 1cm、開花すると背面に反り返る。液果は球形、直径 7~10mm、赤色に熟す。

分布の概要

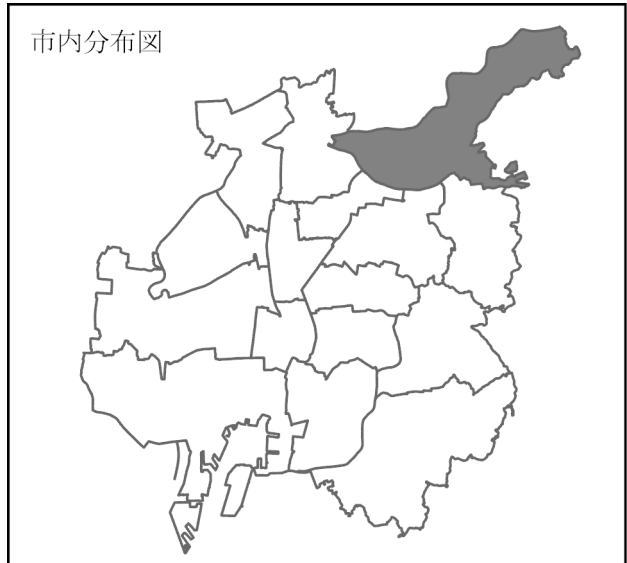
市内：1 守山区（上志段味東谷山、芹沢 102634, 2023-9-19, A）に生育している。

県内：東三河と西三河の山地には比較的多いが、尾張では少ない。2（古真立、芹沢 96279, 2020-9-6；佐久間湖岸、芹沢 100638*, 2022-9-4）、3（月、芹沢 100719, 2022-9-14）、7（川合、芹沢 87429, 2011-9-24）、8（鳳来寺山、加藤等次 537, 1991-11-12）、9（阿寺、小林 53230, 1994-8-19）、10（布里、芹沢 98908, 2021-9-4）、13 東上、芹沢 64520, 1992-11-8）、14（五井町、井上美保子 461, 1992-9-8）、15（嵩山町、芳山朋子 1176, 1984-9-21）、19（八幡、芹沢 62493, 1992-8-22）、23（西中山、塚本威彦 1616, 1995-8-16）、24（坂上町、山崎玲子 969, 1994-10-5）、25（猿投町、磯貝彰宏 206, 1983-9-18）、28（鳥川町、芹沢 91572, 2016-10-1）、30（桑谷町、芹沢 98278, 2021-7-11）、31（深溝、芹沢 72389, 1995-10-9）、37a（川平町、塚本威彦 2988, 2001-9-13）などで確認されている。6（段戸山、恒川敏雄 313, 1951-8-12）で採集された標本もある。* は白花品である。

国内：本州（関東地方以西）、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地の林縁に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市では、唯一の山地状の場所である守山区東谷山に生育している。個体数は少ない。生育地が山麓の林縁部なので、工事等により失われるおそれがある。

保全上の留意点

多少攪乱された場所にも生育できる植物であるが、それでも過度の攪乱には耐えることができない。種子が鳥類により散布される植物なのでそれなりに分布を拡大する力はあると思われるが、とりあえずは工事等の際に配慮が必要である。

特記事項

他の場所にも生育していないか、更に探索する必要がある。

関連文献

保草本 I p.158, 平新版 5 p.43.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) オオバコ科>

オオアブノメ *Gratiola japonica* Miq.**評価理由**

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1。全国的に減少傾向の著しい水田雑草で、名古屋市でも生育地が少ない。現存は確認できないが、どこかで再出現する可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 IB 類と評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全国 2025	絶滅危惧 II 類

形態

1 年生草本。茎は肉質で柔らかく、直立して高さ 10~20cm になる。葉は対生し、無柄、葉身は披針状楕円形、長さ 1~3cm、幅 2.5~7mm、先端は鈍頭、辺縁には鋸歯がなく、無毛、基部は多少茎を抱く。花期は 5~6 月、花は上部の葉腋に 1 個ずつつき、多くは花冠が開かない閉鎖花、がくは 5 深裂し、長さ 3~4mm である。通常花の花冠は白色、短い筒型で長さ 4~5mm、5 裂してやや 2 唇形となる。蒴果は球形で長さ 3~4mm である。

分布の概要

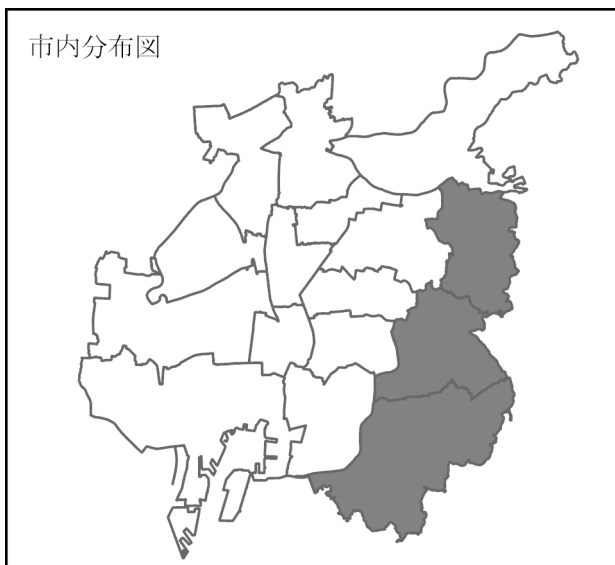
市内: 2 名東区 (猪高緑地、芹沢 84010, 2009-5-16, A)、4 天白区 (荒池緑地、芹沢 82922, 2008-6-21, A など)、5 緑区 (大高町蛇池、渡邊幸子 4755, 2001-6-17, A) で採集された標本がある。

県内: 県 RDB2020 p.529 参照。東三河と西三河では極めて稀であるが、尾張では比較的多く、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、常滑、犬山、岩倉西春日井、稲沢、津島愛西で確認されている。

国内: 本州 (宮城県以南)、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

耕起前の水田や休耕田に生育することが多いが、河川やため池の岸などの低湿地に生育することもある。名古屋市の場合、名東区は水田、緑区はため池の岸であった。

現在の生育状況／減少の要因

生育状況が不安定な植物で、継続して確認できる場所はほとんどなく、時折見かける割に確実に観察することは難しい。おそらくは耕地整理や除草剤の使用、それに農耕様式の変化により耕起時期と開花・結実期が重なるようになったことなどのため減少し、現在の状態に至ったものと思われる。名古屋市の自生地のうち天白区では緑地の中に作られた小水路のわきに小群落があったが、その後見られなくなった。緑区蛇池は多数の株が生育していたが、コンクリートで護岸され、2014 年には全く確認できなかった。緑区では鳴海町神ノ倉にもあったが、生育していた水田が埋め立てられ、見られなくなった。

保全上の留意点

水田雑草であり、生育状況も不安定であるため、効果的な保全対策は立てにくい。旧来の水田の状態を残す未整理の湿田は、文化財的な価値もあり、少なくとも一部分はできるだけそのままの形で保全する必要がある。

特記事項

水田雑草は秋に開花するものが多く、本種のように初夏に開花するものは少ない。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 8 に掲載されている。

関連文献

保草本 I p.147, 平新版 5 p.75, SOS 旧版 p.79+図版 25, SOS 新版 p.139.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) シソ科>

オドリコソウ *Lamium album* L. var. *barbatum* (Siebold et Zucc.) Franch. et Sav.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県西部分布階級 1、総点 14。名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

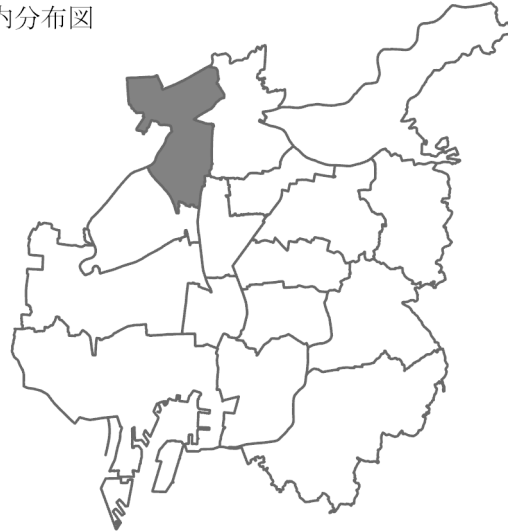
多年生草本。茎は 4 角形で直立し、高さ 40~60cm になる。葉は対生し、長さ 1~5cm の柄があり、葉身は卵状 3 角形~広卵形、長さ 5~10cm、幅 3~6cm、先端は鋭尖頭、基部は浅い心形、辺縁には欠刻状の鋸歯がある。花期は 4~5 月、花は上部の葉腋につき、白色~微紅色、長さ 3~3.5cm、がくは 5 裂し、裂片は針状で長さ 6~8mm、花筒は基部で湾曲して立ち上がり、先で上下に 2 裂する。

分布の概要

市内: 13 西区(枇杷島町庄内川、鈴木秀樹 1692, 1996-4-14, A) で採集された標本がある。

県内: 全国的には普通種であるが、愛知県では
 13 (小坂井, 小林 65758, 1999-4-4)、15 (嵩山町, 芹沢 43550, 1986-4-20)、17 (赤羽根町越戸, 小林 41470, 1993-4-17)、24 (力石町, 山崎玲子 369, 1993-4-13)、29 (新居町, 杉田一記 614, 2010-5-20)、30 久後崎町, 芹沢 93888, 2018-4-21)、32a (井ヶ谷町, 鈴木学 558, 1983-4-21)、44b (豊浜, 芹沢 61044, 1992-4-21)、45 (犬山木曽川, 佐分康之 327, 1996-5-12)、46a (木曽川, 芹沢 65812, 1993-6-6)、53 (浅井町木曽川, 佐分康之 544, 1996-6-16)、54 (奥町木曽川, 渡邊幸子 6437, 2012-5-18) など確認されている。18 (和地川尻, 恒川敏雄 s.n., 1945-11-4, T) で採集された標本もある。

市内分布図



国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 千島列島南部、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

路傍や河岸の草地、林縁などに生育し、群生することが多い。

現在の生育状況／減少の要因

最近の状況は確認されておらず、個体数は見込み値である。

保全上の留意点

河川敷の低湿地は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所である。河川改修や河川敷の利用に当たっては、このような自然特性を根底から破壊しないよう、適切な配慮が必要である。

特記事項

和名は立ち上がった花の姿が、笠を被った踊子に似ているからである。

関連文献

保草本 I p.180, 平新版 5 p.126.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) シソ科>

ミズトラノオ *Pogostemon yatabeanus* (Makino) Press**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 3、総点 15。低湿地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全 国 2025	絶滅危惧 II 類

形態

多年生草本。茎はやわらかく、横にはう地下茎から立ち上がり、高さ 30～50cm になる。葉は 3～4 個が輪生し、ほとんど無柄、葉身は線形～広線形、長さ 3～7cm、幅 2～5mm、先端は鋭頭、全縁でやわらかい。花期は 8～10 月、茎の先端に長さ 2～8cm の穂状の花序を 1 個つけ、花を密生する。花冠は淡紅色、雄ずいは 4 本で長さ 7～8mm、花外に突き出し、花糸の中部には密に長い毛がある。

分布の概要

市内：1 守山区（中志段味、村松 32735, 2021-10-14, N；竜泉寺、村松 29832, 2018-9-27, N）に生育している。

県内：県 RDB p.535 参照。名古屋市のほか、新城、豊橋北部、額田、安城、瀬戸尾張旭で確認されている。ただし安城は絶滅。このほか豊川で採集された標本もある。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本および朝鮮半島。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

水湿地や休耕田に生育し、しばしば群生する。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では休耕田の中に小群落があり、耕作が中止されて大形の草本が茂り絶滅したのではないかと心配していたが、近年やや復活してきた。しかし、将来も存続するかどうかは安心できない。愛知県全体ではかつては特に東三河南部では多かった植物で、秋には道の両側が赤くなるくらいあったというが、耕地整理により山すその水田わきの湿地がなくなり、急激に減少した。強力な除草剤が使用されなくなって一時やや増加傾向にあったが、近年再び減少している。

保全上の留意点

休耕田では、一時的に増加しても、休耕状態が継続して植生遷移が進行すればやがて消滅するものと思われる。存続のためには湿田状態を維持すると共に、適度の攪乱が必要である。除草剤の散布を避けることも必要である。

特記事項

多年生草本で地下茎が横にはうため、条件がよければ栄養的に繁殖して大きな群落を作る。2024 年のレッドリスト案では絶滅として掲載したが、情報確認の誤りであった。

関連文献

保草本 I p.172, 平新版 5 p.122, SOS 旧版 p.76+図版 24, SOS 新版 p.138.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) シソ科>

オカタツナミソウ *Scutellaria brachyspica* Nakai et H.Hara

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は束生して直立し、高さ 30~50cm になり、下向きの毛を密生する。葉は数対が対生し、1~2cm の柄があり、葉身は広卵形~三角状卵形、長さ 2~5cm、上部ほど大きくなり、先端は鈍頭、基部は切形~やや心形、辺縁にはあらい鈍鋸歯がある。花期は 5 月、茎の先端にやや密な短い花穂をつくり、花冠は淡紫色、基部で曲がって立ち上がり、長さ 20~25mm である。

分布の概要

市内：1 守山区 (芹沢 88395, 2013-5-25, A) に生育している。

県内：低山地に点在するが、東三河北部の山地には分布しておらず、平野部にもない。14 (御堂山, 芹沢 78589, 2003-5-10)、15 (雲谷町, 名倉智道 43, 1992-4-25)、17 (赤羽根町高松, 小林 74811, 2002-5-4)、23 (田茂平, 芹沢 58577, 1991-5-21)、25 (八草町, 畑佐武司 5889, 2003-6-5)、28 (桜井寺, 福岡義洋 638, 1990-5-23)、29 (奥殿町, 杉田一記 598, 2010-5-18)、30 (山綱町, 本多さおり 340, 1994-5-28)、31 (荻, 芹沢 71518, 1995-5-19)、36 (東幡豆, 壁谷重美子 433, 1994-5-21)、37a (下半田川町, 村松 34200, 2023-5-22, N)、44a (豊丘, 芹沢 61414, 1992-5-26)、44b (豊浜, 芹沢 61404, 1992-5-26)、45 (池野, 芹沢 69248, 1994-5-17)、48 (細野町, 山田果与乃 1562, 2010-5-22) など確認されている。

国内：本州および四国。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

丘陵地の林縁や明るい林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

以前は大きな群落があり、生育状態も良好であったが、開発のため生育地の大部分が破壊された。現在では隣接する別の谷に 20 株ほどが残存しているだけである。花が目立つため、園芸目的の採取も懸念される。

保全上の留意点

何よりもまず、丘陵地の地形を保全することが必要である。園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる攪乱を防止するため、詳細な分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

特記事項

名古屋市内には 4 種のタツナミソウ類が生育しているが、いずれも希少で、絶滅が危惧される。

関連文献

保草本 I p.186, 平新版 5 p.118.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) シソ科>

イガタツナミ *Scutellaria kurokawae* H.Hara

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は少数が束生し、直立で高さ 20～30cm になり、開出する長い白毛が多い。葉は数対が対生し、長さ 1～2.5cm の柄があり、葉身は広卵形～卵心形、長さ 1.2～2.5cm で通常下部のものが大きく、先端は鈍頭、基部は浅心形、辺縁に円鋸歯があり、裏面はしばしば紫色を帯びる。花期は 6 月。茎の先端に長さ 2～6cm の穂状の花序をつける。花はややまばらにつき、花冠は淡紫色、長さ 15～20mm である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味算池、長谷川 1081, 2024-6-24）に生育している。同区（大森八竜、鳥居ちゑ子 1767, 2000-6-7, A）で採集された標本もある。

県内：愛知県の丘陵部では最も多く見られるタツナミソウ類で、低山地や丘陵地に点在しており、11（清岳、芹沢 96126, 96127*, 2020-6-6）、13（一宮町西原、小林 37124, 1992-5-15）、15（岩崎町、芹沢 58564, 1991-5-18）、17（滝頭不動、芹沢 84061, 2009-5-24）、18（長沢、小林 43862, 1993-6-6）、22（田代、日比野修 2939, 1995-6-28）、23（木瀬、塚本威彦 138, 1992-6-4）、24（上高町、山崎玲子 114, 1992-6-16; 矢並町、山崎玲子 1940**, 1999-5-28）、25（八草町、畑佐武司 1346, 2000-6-7）、28（切山、芹沢 55443, 1990-6-14）、29（箱柳町、中西普佐子 860, 1993-6-4）、30（桑谷町、本多さおり 333, 1994-5-28）、35（平原町、堀田善久 4081, 1995-6-11）、37a（屋戸町、芹沢 75727, 1999-6-4）、37b（上の山町、村松 20614, 2001-6-2, N）、39b（米野木、伊藤恭子 526, 1992-8-22）、39b（沓掛町、浅野守彦 883, 2000-5-21）、40b（緒川、渡邊麻子 434, 1995-6-12）、42a（植大、渡邊麻子 448, 1995-6-16）、42c（二ツ峰、芹沢 55100, 1990-5-25）、43（小鈴谷、鳥居ちゑ子 1764, 2000-5-28）、44a（奥田、芹沢 61639, 1992-6-12）、47（野口、村瀬正成 930318, 1993-6-2）、48 木附町、山田果与乃 343, 1998-5-22）などで確認されている。*は淡紅色花品、**は白花品である。名古屋市以外の県西部確認区画数は 16 である。

国内：本州（福島県以西）および四国。

世界：日本固有種。

生育地の環境／生態的特性

林内や林縁に生育することが多いが、時には耕作地周辺の草地にも見られる。

現在の生育状況／減少の要因

算池では数株あるが、草刈りのためほとんど開花しない。上に引用した標本もかなり貧弱なものである。大森八竜では宅地化された場所に隣接した林縁に 20 株ほどの小群落があったが、踏みつけなどの影響で次第に減少し、ほとんど消失したという。

保全上の留意点

生育地の地形を保全することが必要である。同属の他種と比較すれば、園芸目的の採取による影響は少ないと思われる。

特記事項

名古屋市内には 4 種のタツナミソウ類が生育しているが、いずれも希少で、絶滅が危惧される。

関連文献

保草本 I p.185, 平新版 5 p.118.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

市内分布図



維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) シソ科>

ニガクサ *Teucrium japonicum* Houtt.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。やや低湿地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下に細い走出枝を出す。茎は四角形で直立し、高さ 40~70cm になる。葉は対生し、長さ 8~20mm の柄があり、葉身は卵状長楕円形~広披針形、長さ 5~10cm、先端は鋭頭、辺縁には鈍鋸歯がある。花期は 7~9 月、花序は茎の先端部に集まってつき、長さ 3~10cm、がくは長さ約 4mm、短毛のみで腺毛はなく、上歯は鋭頭、花冠は淡紅色、長さ 10~12mm である。

分布の概要

市内：1 守山区 (上志段味新東谷橋付近、日比野修 4550, 1998-6-28, A; 小幡緑地、鳥居ちゑ子 2922, 2011-7-3, A)、13 西区 (枇杷島町庄内川河川敷、鈴木秀樹 2966, 1997-8-7, A) で採集されている。4 天白区 (元八事三丁目、渡邊幸子 1726, 1994-7-20, A) でも採集されたことがある。小幡緑地のものは、がくに毛がやや多い。

県内：平野部~低山地に点在しており、3 (下田、小林 47427, 1993-9-5)、9 (上吉田、小林 64461, 1998-7-1)、11 (善夫、小林 62110, 1997-8-31)、12 (日吉、芹沢 59223, 1991-7-24)、13 (赤坂、瀧崎吉伸 20998, 2003-9-23, T)、15 (石巻本町、瀧崎 12221, 1991-7-22)、16 (横須賀町、小林 66712, 1999-7-17)、18 (高木、芹沢 59202, 1991-7-14)、5 (押山、塚本威彦 2513, 1997-9-20)、19 (坪崎、日比野修 704, 1992-8-22)、20 (小町、小林 39811, 1992-10-3)、21 (花沢、芹沢 63701, 1992-9-24)、22 (大平、鳥居ちゑ子 50, 1992-7-26)、28 (鹿勝川、福岡義洋 950, 1990-7-25)、31 (永野、金子律子 927, 1995-7-31)、33 (木戸町矢作川、中村さところ 674, 1993-8-11)、34b (矢作川、芹沢 66764, 1993-8-5)、35 米津町矢作川、中村さところ 643, 1993-8-5)、37a (鳥原町、塚本威彦 1211, 1994-7-19)、43 (金山、鳥居ちゑ子 1423, 1998-8-3)、44b (山海、芹沢 62124, 1992-7-23)、45 (栗栖、平嶋 敏 1050, 1989-9-13)、48 (細野町、竹原芳子 148, 1993-8-8)、49d (清洲町朝日、鈴木幸子 742, 1995-7-17)、54 (尾西市開明、渡邊幸子 1709, 1994-7-5)、55a (下萱津庄内川、芹沢 98108, 2021-6-29)、57b (八開村木曽川、芹沢 59823, 1991-8-23) などで確認されている。17 (蔵王山、恒川敏雄 613, 1952-9-2, T) で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、四国、九州、琉球。

世界：日本および朝鮮半島。

生育地の環境／生態的特性

湿った林縁に生育する。丘陵地にもあるが、平野部河川敷低湿地のヤナギ林などでもよく見かける。名古屋市の生育地のうち 2 ヶ所も、庄内川の河川敷である。

現在の生育状況／減少の要因

小幡緑地は詳細不明だが、おそらく小群落であったと思われる。他の 2 ヶ所も小群落だったようだが、最近の状況は確認されていない。

保全上の留意点

ため池の周辺や河川敷に残存する低湿地的環境を保全することが必要である。

特記事項

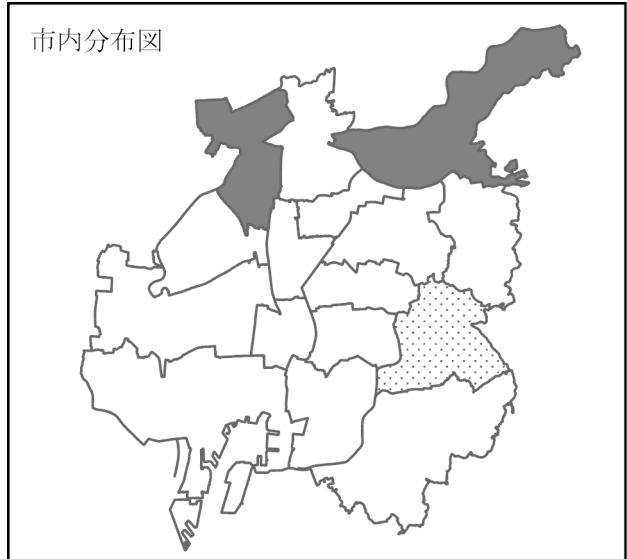
ツルニガクサ *T. viscidum* Blume var. *miquelianum* (Maxim.) H.Hara からは、全体に大型で、がくに腺毛がないことで区別される。細い走出枝を出すという特徴は、本種もツルニガクサも同じである。

関連文献

保草本 I p.191, 平新版 5 p.113.

(芹沢俊介)

市内分布図



維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) キキョウ科>

ツルニンジン *Codonopsis lanceolata* (Siebold et Zucc.) Trautv.

評価理由

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 15。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

つる性の多年生草本。根は塊状にふくらむ。茎は長さ 2~3m に伸び、切ると白い乳液が出る。葉は互生するが、側枝の先には通常 3~4 枚が集まり、短い柄があり、葉身は楕円形~長卵形、長さ 3~10cm、先端は鈍頭または鋭頭、基部はくさび形、辺縁はほぼ全縁、裏面は粉白色を帯び、通常無毛であるが、名古屋市のものには白毛が多い。花期は 8~10 月、花は側枝の先に下向きにつき、花冠はつりがね状、長さ 25~30mm、淡紫褐色で内面に濃色の斑点がある。がくは 5 裂し、裂片は広披針形、長さ 15~25mm である。

分布の概要

市内：1 守山区 (竜泉寺、長谷川 312*, 2022-5-4, N) に生育している。安原 (1990) にも守山区で撮影された写真が掲載されている。

県内：山地では点在しているが、丘陵地では少ない。1 (日本ヶ塚山, 小林 48066, 1993-9-19)、2 (三沢, 芹沢 102463, 2023-9-3)、3 (御園, 芹沢 87374, 2011-9-23)、4 (つぐ高原, 芹沢 93109, 2017-9-2)、6 (段戸山, 芹沢 83191, 2008-9-6)、7 (和市, 芹沢 63514, 1992-9-18)、9 七郷一色, 芹沢 60821, 1991-10-13)、11 上菅沼, 芹沢 50687*, 1988-10-8; 菅沼, 芹沢 67996, 1993-9-24)、13 (上長山~本宮山, 小林 40339*, 1992-11-3; 長沢, 瀧崎吉伸 20448, 2002-10-29, T)、14 (坂本町, 井上美保子 572*, 1992-10-6)、15 (嵩山町, 芹沢・芳山 249*, 1984-10-10)、17 (六連, 瀧崎 12734*, 1991-11-11)、18 (土田, 名倉智道 94, 1992-8-21)、5 (面ノ木峠, 芹沢 99212, 2021-9-19)、19 (坪崎, 芹沢 63217, 1992-9-8; 旭高原, 芹沢 102860*, 2023-9-30)、20 (則定, 新井文子 1009*, 1994-9-14; 大奥山, 塚本威彦 2138, 1996-9-18)、21 (大林, 芹沢 63762, 1992-9-24)、22 (大ヶ蔵連, 塚本 1412, 1994-10-2; 田代, 芹沢 78112*, 2002-9-15)、23 (三箇, 塚本 1781*, 1995-10-6; 上川口町, 畑佐武司 9738, 2020-10-25)、24 (国附町, 佐藤久美子 1349*, 1993-10-9)、25 (猿投山, 芹沢 71349*, 1994-10-16)、28 (鳥川, 福岡義洋 1514, 1990-10-2)、29 (才栗町, 伊奈知子 1042*, 1993-10-1)、30 (桑谷山, 小林 49372*, 1993-11-6)、31 (深溝, 芹沢 72390*, 1995-10-9)、36 (東幡豆, 壁谷重美子 1215*, 1994-10-14)、37a (片草町, 日比野修 4665*, 1998-10-14)、38a 長湫, 半田多美子 3076, 2001-5-12)、44b (山海, 芹沢 60670, 1991-10-3)、45 (本宮山, 芹沢・松田 155*, 1986-9-26; 栗栖, 平嶋 敏 1170, 1989-9-21)、48 (内津町, 太田さち子 1034*, 1993-10-9)、53 (浅井町, 渡邊幸子 5297, 2003-5-5) などで確認されている。*はケツルニンジンと仮称している。葉裏有毛の型で、シブカワニンジンはこの狭葉型である。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー、アムール。

生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地の林縁などに生育する。

現在の生育状況／減少の要因

ササ類の群落にからみついて、かろうじて残存している。この場所では開花は未確認である。

保全上の留意点

個別的な保全が必要である。

特記事項

和名はつる植物で、根がチョウセンニンジンに似て太いからである。全体に臭気がある。

引用文献

安原修次. 1990. なごや野の花 p.129. エフエー出版, 名古屋.

関連文献

保草本 1 p.150, 平新版 5 p.191.

市内分布図



(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) キク科>

オケラ *Atractylodes ovata* (Thunb.) DC.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。太い地下茎がある。地上茎は上部で分枝し、高さ 30~100cm になる。葉は互生し、長い柄があり、葉身は 3~5 深裂し、質は硬く、辺縁に鋭い細鋸歯がある。花期は 9~10 月、雌雄異株で、頭花は茎や枝に頂生し、直径 2~2.5cm、総苞は鐘形で長さ約 17mm、外側に 2 列に並んだ針状に羽裂した苞がある。小花は雄花では長さ 10~12mm、雌花では長さ 9~11mm、白色または淡紅色、冠毛は褐色を帯び、長さ 8~9mm である。

分布の概要

市内: 1 守山区(上志段味東谷, 鳥居ちゑ子 797, 1994-10-15, A) に僅かに生育していた。

県内: 低山地に点在しており、3 (下田, 小林 48441, 1993-10-9)、12. (中宇利, 加藤等次 2196, 1992-10-12)、13 (財賀町, 青山正宏 119, 1993-10-22)、14 (相楽町, 鈴木美恵子 226, 1992-9-12)、15 (石巻萩平町, 芹沢 64183, 1992-10-7)、17 (笠山, 芹沢 53601, 1989-9-27)、19 (万町, 日比野修 1865, 1993-9-24)、20 (則定, 新井文子 1291, 1994-10-28)、22 (田代, 芹沢 50615, 1988-10-7)、23 (深見, 芹沢 75202, 1998-10-11)、24 (松嶺町, 畑佐武司 2573, 2001-10-6)、28 (細光, 福岡義洋 1575, 1990-10-4)、29 (須淵町, 中西普佐子 1275, 1993-8-13)、36 (東幡豆, 壁谷重美子 1221, 1994-10-14)、37a (海上町, 村松 23536, 2006-12-28)、39a (諸輪, 芹沢 53070, 1989-9-7)、44b (篠島, 芹沢 82123, 2007-8-30)、48 (木附町, 日比野修 3283, 1995-9-5) などで確認されている。25 (猿投山, 岡本英一 861, 1958-10-19)、30 (新箱根, 加藤等次 s.n., 1950-11-3) で採集された標本もある。

国内: 本州、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地の草地、林縁、明るい林内などに生育する。散在し、あまり群生しない植物である。

現在の生育状況／減少の要因

愛知用水沿いの斜面に生育していたが、改修工事の際に山裾が削られてほとんど失われた。1995 年以降もその上側の低木の間にわずかに残存していたが、最近の状況は確認されておらず、個体数は見込み値である。

保全上の留意点

生育地の林を保全することが必要である。

特記事項

地下茎は漢方で健胃薬とされる。

関連文献

保草本 I p.18, 平新版 5 p.215.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）キク科>

スイラン *Hololeion kramerii* (Franch. et Sav.) Kitam.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 15。名古屋市ではわずかに残存しているだけである。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は湧水湿地中央部の礫質の部分に生育するものでは高さ 20～30cm にすぎないが、泥質の部分や休耕田、ため池の周辺などに生育するものでは高さ 150cm 近くになる。根出葉は線形、葉柄を含めて長さ 50cm に達し、全縁または辺縁に少数の突起がある。花期は 9 月中旬～10 月、頭花は黄色、稀に黄白色で直径 3～3.5cm、総苞は細い筒状で長さ 10～12mm、その下には披針形の小さい苞葉がならぶ。小花はすべて舌状花で、17～30 個つく。そう果は長さ 7～9mm、淡褐色の冠毛がある。

分布の概要

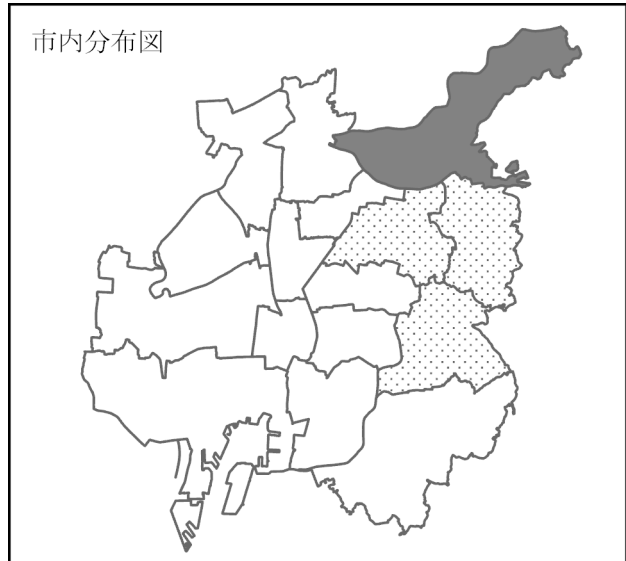
市内： 1 守山区（上志段味東谷、村松 30093, 2018-10-21, N）に生育している。同区他の場所（守山市大森、犬飼 清 s.n., 1953-9-20, A; 小幡緑地、芹沢 54031, 1989-10-26, A）、2 名東区（猪高緑地、芹沢 57794, 1990-10-17, A）、3 千種区（田代町、広部 栄 85, 1992-9-23, A）、4 天白区（八事裏山、芹沢 53727, 1989-10-5, A; 土原1丁目、中島ひろみ 254, 1992-10-17, A）で採集された標本もある。

県内： 県 GDB2017 p.302 参照。名古屋市のほか津具、設楽東部、作手、新城、豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、旭、足助、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、幸田、刈谷、瀬戸、尾張旭、長久手、日進豊明、阿久比、半田、武豊、常滑、南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

国内： 本州、四国、九州。

世界： 日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

日当たりのよい湿地に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

湿地内に点在していたが、個体数は多く見ても 10 株以下であったという。

保全上の留意点

湿地の保全が必要である。

特記事項

本種については 1990 年代前半に分布状態をかなり詳しく調査したが、その後は湿地の踏み荒らしを避けるため、意識的に調査を避けてきた。2024 年のリスト案には掲載されていないが、改めて検討してみると最近ほとんど確認されておらず、かなり危機的と思われる。県全体でも、できるだけ現況を把握する必要がある。

関連文献

保草本 I p.10, 平新版 5 p.277.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) キク科>

ミズギク *Inula ciliaris* (Miq.) Maxim.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。本地域の湧水湿地を特徴づける温帯性植物の一つで、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全 国 2025	—

形態

多年生草本。茎は直立し、上部で多少分枝し、高さ 25～50cm になる。根出葉は花時にも残存し、さじ形、長さ 4～10cm、幅 8～15mm、はじめ毛が多く、全縁である。茎葉は互生し、全縁、基部はやや茎を抱く。花期は 6～10 月、頭花は枝の先端に 1 個、上向きにつき、黄色、直径 3～4cm である。総苞は半球形、総苞片はほぼ同長、外片は狭長楕円形で、密に毛がある。そう果は長さ約 1.5mm、冠毛があり、表面にはまばらに毛がある。

分布の概要

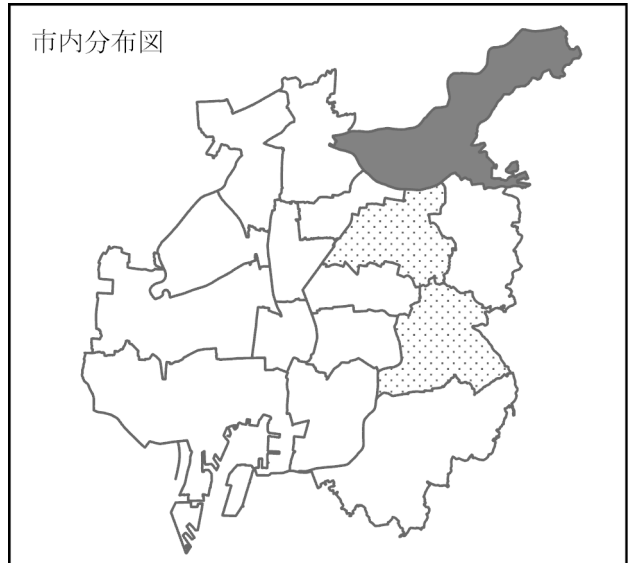
市内：1 守山区（大森北、村松 29753, 2018-7-22, N）に生育している。3 千種区（覚王山、沢井輝男 s.n., 1932-8-6, A）、4 天白区（平針、犬飼 清 s.n., 1967-9-16, A）で採集された標本もある。

県内：県 RDB2020 p.662 参照。名古屋市のほか、作手、豊川、豊橋北部、田原東部、田原西部、下山、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、幸田、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、半田武豊、常滑、知多南部、春日井の 21 区画で確認されている。新城で採集された標本もある。温帯性の植物であるが、県東北部の山地には分布していない。

国内：本州（近畿地方以東）および九州（宮崎県）に分布するが、かなり地理的な分化があるという報告もある。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

一般には山地の湿地に生育する。愛知県では丘陵地の湧水湿地に点在する。

現在の生育状況／減少の要因

1 カ所の湿地に、20 株程度が生育しているという。吉根長廻間にも生育していたが、ヌマガヤなどにおおわれ、消滅した。もともとはあちこちに生育していたが、開発により生育地が減少し、残った場所も遷移が進行して現在の状態に追い込まれたものと思われる。花が目立つため、目につきやすい場所では園芸目的で採取されることもある。観察者やカメラマンによる踏み荒らしも無視できない。

保全上の留意点

愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湿地を涵養する水源部もあわせて保全する必要がある。その一方で、本種は花が比較的目立つため、本来生育していなかった湿地に移植しようとする動きもある。このような移植は、植え込みの時に湿地を攪乱し、その場所にもともとあった植物に悪影響を与えるだけでなく、植物の本来の分布を混乱させてしまう。植物の分布には歴史性があり、ないものは「ない」のがその湿地の個性である。かつてあったがなくなってしまった湿地に移植することも、原則として行ってはならない。

関連文献

保草本 I p.69, 平新版 5 p.354, SOS 旧版 p.87, SOS 新版 p.99.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) キク科>

ウラギク *Tripolium pannonicum* (Jacq.) Dobrocz.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 15。塩湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全 国 2025	準絶滅危惧

形態

越年生草本。茎は直立して上方で分枝し、高さ 40～80cm になる。葉は互生し、無柄、葉身は披針形、長さ 6.5～15cm、幅 0.6～1.5cm、先端は鋭頭、基部はやや茎を抱き、無毛で肉質である。花期は 10～11 月、茎の上部に、多数の頭花を散房状につける。頭花は直径 2.5～3cm、総苞は筒状で長さ約 7mm、総苞片は 3 列にならび、外片は披針形で長さ 2.5～3mm、鈍頭、辺縁に短い毛があり、内片は円頭で紫色をおびる。舌状花の花冠は淡青紫色で、舌部は長さ 7～10mm である。そう果は狭長楕円形、長さ 2.5～3mm、扁平で有毛、冠毛は花時には長さ 5mm 程度であるが、果時には 14～16mm に伸びる。

分布の概要

市内：16 港区（宝神、鳥居ちゑ子 4648, 2019-10-26, N）に生育している。11 南区（加福町、高木順夫 5628, 1997-11-1, A）にも生育していたが、そこでは絶滅した。

県内：県 RDB2020 p.698 参照。名古屋市のほか、豊川、蒲郡、豊橋南部、田原東部、田原西部、刈谷知立、高浜碧南、西尾北部、西尾南部、大府東浦、東海知多、半田武豊、海部南部で確認されている。三河湾沿岸には多かった（しかし最近の調査では激減しているらしい）が、伊勢湾愛知県側ではもともと少なかった植物である。

国内：北海道東部、本州（関東地方以西の太平洋側）、四国、九州。

世界：アジア、ヨーロッパ、アフリカ北部に広く分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

内湾の塩湿地や河口部の河川敷などに生育するほか、埋立地の水路などに生育していることもある。ある場所では群生していることが多く、花時には美しい。

現在の生育状況／減少の要因

南区加福町では数十株が生育していたが、一般廃棄物最終処分場建設のため埋め立てられて絶滅した。庄内川河口部でも、右岸側はヨシが繁茂し、ほぼ消滅した。しかし軽度の攪乱があれば、個体数は回復する可能性がある。

保全上の留意点

本種の生育地である内湾部や河口部は開発圧力が極めて高く、注意して自然環境を保全する必要がある。塩湿地性の植物は全体的に目立たないものが多いが、その中で本種はハマボウと共に花が美しく、象徴としての意味も大きい。「本種がなくなったら塩湿地性植物は全滅」という意味で、特に注目してよい植物である。

特記事項

ハマシオンとも呼ばれる。

関連文献

保草本 I p.80, 平新版 5 p.326, SOS 新版 p.154.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ガマズミ科>

オオカメノキ *Viburnum furcatum* Blume ex Maxim**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 2、総点 14。温帯性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の小高木。高さ 5~6m になる。若枝は褐色で、細かい星状毛を密生する。葉は対生し、長さ 1.5~4cm の柄があり、葉身は円心形~卵状楕円形、長さ 10~18cm、先端は鋭頭~短く鋭尖頭、基部は心形、辺縁には細鋸歯があり、裏面には細かい星状毛があるが、のちに無毛となる。花期は 4 月~5 月、枝先に直径 6~13cm の散房花序をつけ、装飾花の花冠は白色で直径 2~3.5cm、5 深裂する。果実は広楕円形、長さ 7~12mm、はじめ赤色、のちに黒色に熟す。

分布の概要

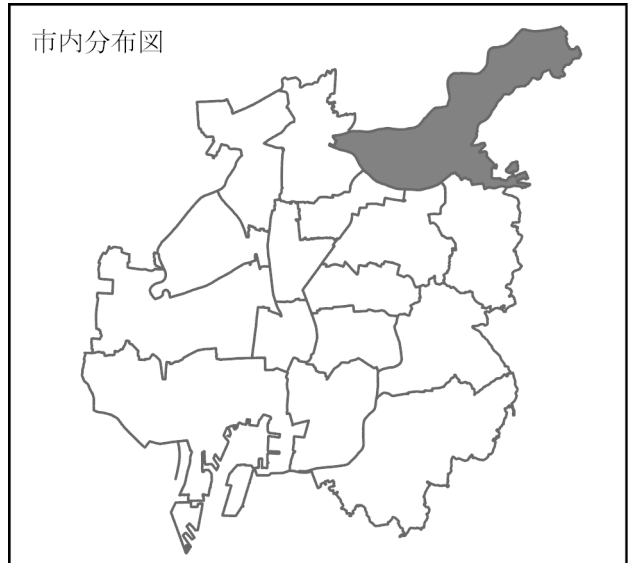
市内：1 守山区（上志段味東谷山、日比野修 4408, 1998-4-19, A）に生育している。

県内：県 GDB2017 p.308 参照。愛知県の山地では低標高の割に比較的多い植物で、低山地にも点在している。ただし尾張では少なく、名古屋市のほかは瀬戸尾張旭と春日井で確認されているにすぎない。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：サハリン、日本、済州島などに分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

本来は山地から亜高山にかけての林縁などに多い樹木で、愛知県の低山地を特徴づける温帯性植物の一例である。愛知県では二次林内に散在していることが多い。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市では、唯一の山地状の場所である東谷山に少数株が生育しているにすぎない。

保全上の留意点

東谷山では、鳥獣の保護と称してその餌となる植物を植栽する動きがあり、本来の自然状態に対する大きな脅威になっている。自然の中に、本来その場所に生育していない種を植栽してはならないことはここで改めて指摘するまでもないが、その場所に生育している種を植栽することも、遺伝的攪乱という点で、ある意味では自然に対してより一層深刻な悪影響を与えるおそれがある。遷移の進行によって食餌植物が減少していると判断されるなら、適宜伐採を行い、後は自然の回復力に任せるべきである。

特記事項

ムシカリとも呼ばれる。

関連文献

保木本 I p.31, 平新版 5 p.407.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）スイカズラ科>

タニウツギ *Weigela hortensis* (Siebold et Zucc.) K.Koch**評価理由**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。日本海側に分布の中心を持つ植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の低木。高さ 5m に達する。葉は対生し、長さ 3~10mm の柄があり、葉身は楕円形~卵状楕円形、長さ 4~10cm、先端は鋭尖頭、基部は広いくさび形または円形、辺縁には小さい鋸歯があり、裏面に白色の軟毛を密生する。花期は 5~6 月、花は枝の先端や葉腋から出る短枝に 2~3 個ずつつき、花冠は長さ 2.5~3.5cm、淡紅色だがつぼみの時は色が濃く、筒部は上部が鐘状にふくらみ、先端は 5 裂して直径 2cm 程度になる。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味庄内川堤防、鳥居ちゑ子 3345, 2014-5-6, A）に生育している。守山区の他の場所（下志段味小学校南、日比野修 4413A, 1998-4-29, A）にも生育していた。東谷山で撮影されたという写真は、安原（1990）に掲載されている。5 緑区（鳴海町水広下、高木順夫 17608, 2009-5-19, N）で採集された標本もあるが、これは植栽と思われる。

県内：県 GDB2017 p.311 参照。西三河北部に多く、その周辺にも点在する。県西部では名古屋市のほか、藤岡、豊田東部、豊田北東部、岡崎南部、瀬戸尾張旭、犬山、春日井などに生育している。

国内：北海道および本州の主として日本海側に分布する。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

陽性低木で、山地や丘陵地の林縁、攪乱跡地などに生育する。

現在の生育状況／減少の要因

上志段味では、高さ 1.5m ほどの株が 2 株生育していたという。下志段味では、近くの話では以前はかなりあったらしいが、区画整理により消滅したと見られる。

保全上の留意点

陽性低木であるため、安定した環境では存続できない。個別的な保全が必要である。

特記事項

同属のヤブウツギ *W. floribunda* (Siebold et Zucc.) K.Koch は、東三河と西三河では普通に見られるが、尾張産の確実な資料はない。

引用文献

安原修次. 1990. なごや野の花 p.45. エフエー出版, 名古屋.

関連文献

保木本 I p.18, 平新版 5 p.427.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 I 群 (原始被子植物) センリョウ科>

フタリシズカ *Chloranthus serratus* (Thunb.) Roem. et Schult.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。愛知県全体ではやや普通に見られる植物であるが、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生の草本。高さ 30～60cm になる。葉は対生し、下部の 3-4 対は鱗片状で小さく、上部の 2 対（時に 3 対）の葉は大きく、その節間は 0.5～2cm ある。大きな葉の葉柄は長さ 0.5～1.5cm、葉身は楕円形または卵状楕円形、長さ 5～17cm、幅 2～8cm、先端はとがり、基部は鋭形またはやや鈍形、辺縁に先がとがる多数の鋸歯があり、質は薄くて両面無毛である。花期は 5 月、頂生ときに腋生する長さ 2～6cm の穂状花序を伸ばす。果実は球形または倒立卵円形、長さ約 3mm、淡緑色である。

分布の概要

市内：4 天白区（相生山緑地、長谷川 1116, 2021-6-26, N）に生育している。

県内：山地に広く生育しており、丘陵地にも見られる。1（漆島川、芹沢 102444, 2023-9-3）、2（新野峠、加藤等次 3567, 1993-8-24）、4（面ノ木峠、瀧崎 30284, 2014-6-7, T）、7（和市、芹沢 93182, 2017-9-3）、8（鳳来寺山、加藤等次 33, 1991-5-24）、9（阿寺七滝、芹沢 100231, 2022-5-14）、11（安城市野外センター、瀧崎 8076, 1985-7-7）、13（赤坂、瀧崎 18521, 2001-5-12, T）、14（清田町、井上美保子 720, 1993-5-16）、15（石巻山、瀧崎 8627, 1986-5-18）、5（林道月ヶ平線、鈴木 学 1360, 1983-6-14）、19（伊熊、芹沢 61688, 1992-6-13）、20（御内町、瀧崎 34735, 2019-6-17, T）、21（梶、長谷川朋美 331, 1992-5-19）、22（家洞、伊藤泰輔 196, 1993-5-29）、23（西市野々、塚本威彦 105, 1992-5-22）、24（西広瀬町、芹沢 65907, 1993-6-8）、25（猿投山、土場トシ子 334, 1993-6-6）、28（鹿勝川、福岡義洋 622, 1990-5-22）、30（鉢地町、本多さおり 316, 1994-5-23）、36（西幡豆、壁谷重美子 523, 1994-6-15）、37a（上半田川町、日比野修 1269, 1993-6-6）、44b（内海内福寺、大西 博 453, 1992-5-19）、45（栗栖、平嶋 敏 561, 1989-5-19）、47（大山、日比野修 5064, 1999-10-31）、48（廻間町、山田果与乃 2004, 2013-6-30）などで確認されている。17（蔵王山、恒川敏雄 605, 1952-9-2, T）、29（岩津、瀧崎吉雄 33, 1950-7-9, T）で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、中国大陸中南部。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

通常は落葉広葉樹林の半日陰の林下に生育する。名古屋市内でも同様の環境に生育している。

現在の生育状況／減少の原因

天白区の緑地内の人家跡に近い平坦な場所に 10 株ほどが生育している。現地は元ため池の湿潤な環境が維持されている場所で、近くではクロミノニシゴリなども確認された。常緑樹林化が進行すれば、被陰により衰退する可能性がある。

保全上の留意点

生育地の林を、湿潤な状態のまま維持する必要がある。

特記事項

本種は庭などに植栽されることもあるため、逸出の可能性も完全には否定できない。一緒に現地を見た人の中には植栽起源と判断する人もいたが、自生の可能性も否定できないことから、評価対象とした。

関連文献

保草本Ⅱp.346, 平新版 1 p.52.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) オモダカ科>

ヘラオモダカ *Alisma canaliculatum* A.Br. et Bouche**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 13。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

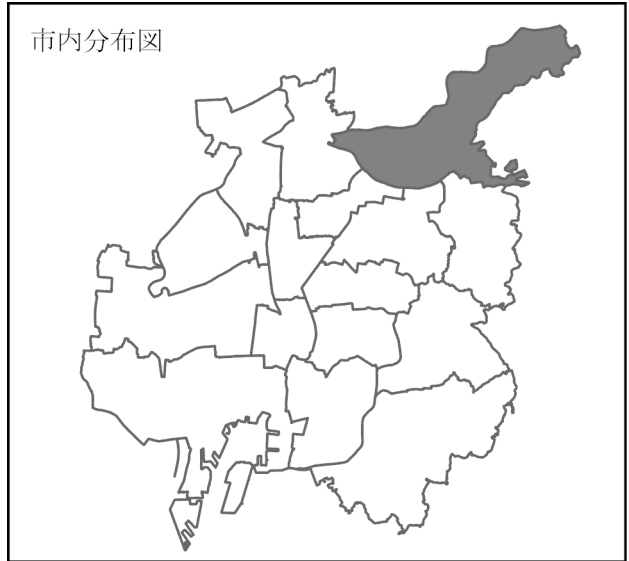
抽水性～湿性の多年生草本。茎は短く、走出枝はない。葉は束生し、長い葉柄があり、葉身は長楕円形～線状楕円形、長さ 10～25cm、先は鋭頭で鈍端、基部は次第に細まり、辺縁は全縁、両面無毛である。花期は 8～10 月、花茎は直立し、高さ 40～70cm、上部に 3 本ずつ枝を分けるまばらな円錐花序をつける。花は両性で、花弁は 3 個、卵円形で白色、長さ約 4mm である。

分布の概要

市内：守山区（下志段味穴ヶ洞、鳥居ちゑ子 2360, 2003-8-1, A）に生育していた。

県内：山地～丘陵地の水辺に点在しており、2（茶臼山、芹沢 94443, 2018-9-2）、3（本郷、小林 38945, 1992-8-23）、4（宮前、芹沢 63359, 1992-9-10）、6（川向、芹沢 52595, 1989-8-11）、7（荒尾、榑原利修 933, 1992-8-17）、13（千両町、小林 38836, 1992-8-21）、15（佐藤町、瀧崎 9568, 1982-8-2）、17（赤羽根町山田、瀧崎 25795, 2009-8-14）、18（長沢、小林 47032, 1993-8-28）、5（黒田町、芹沢 93188, 2017-9-3）、19（坪崎、日比野修 1543, 1993-8-1）、20（四ツ松、鈴木万里亜 1104, 1995-10-11）、21（下山田代町、芹沢 95612, 2019-8-22）、22（西丹波、塚本威彦 1327, 1994-8-27）、24（坂上町、山崎玲子 240, 1992-9-6）、28（夏山、福岡義洋 1030, 1990-8-7）、31（荻、金子律子 1487, 1995-10-14）、37a（曾野町、村松 33795, 2022-10-4, N）、40b（緒川、渡辺麻子 816, 1995-9-25）、42a（草木、渡辺麻子 574, 1995-7-9）、45（池野、小林 53781, 1994-9-15）などで確認されている。

市内分布図



国内：北海道、本州、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

湖沼やため池、河川、水路の浅水域、水田などに生育する。

現在の生育状況／減少の原因

守山区下志段味の、造成地の一部に水がたまり浅い沼状態になっている場所に少数株が生育しており、雨が多い年には大きく育ってよく花をつけていたという。最近の状況は確認されていない。

保全上の留意点

確認できた場所に限れば希少偶産種に近い状態であるが、もともとは名古屋市内でもあちこちに生育していたと思われる。ため池や水田などの湿地が生物多様性を保全する上で重要な場所であることを意識し、そのような場所が消滅しないよう、適切な保全策を立てる必要がある。

特記事項

「こんな植物が？」と思われそうだが、名古屋市では市街地化の進行によって本種のような植物が生育できる湿地が減少しており、湿地性植物としてはさほど希少でない種も絶滅が危惧される状態に追い込まれている。

関連文献

保草本Ⅲp.396, 平新版 1 p.115.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.16. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 1994. ネイチャーガイド日本の水草 p.71. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) オモダカ科>

アギナシ *Sagittaria aginashi* (Makino) Makino**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。湿地性の植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	国リスト
全 国 2025	準絶滅危惧

形態

抽水性～湿性の多年生草本。茎は短く、走出枝はない。葉は束生し、長い葉柄があり、葉身は矢尻形、頂裂片は広被針形～線形、長さ 7.5～17.5cm、鈍端。側裂片は頂裂片より少し長く、先端は次第に細まり鈍端となり、全縁、両面とも無毛である。花期は 7～10 月、花茎は長さ 30～80cm で、その上部に枝を 3 個ずつ輪生する総状花序をつけ、その上部に雄花、下部に雌花をつける。花弁は 3 枚で白色、卵円形で長さ 10～13mm である。果実は扁平で倒卵形、長さ 3～5mm で翼がある。葉腋に多くの小球茎をつけ、栄養的に繁殖する。

分布の概要

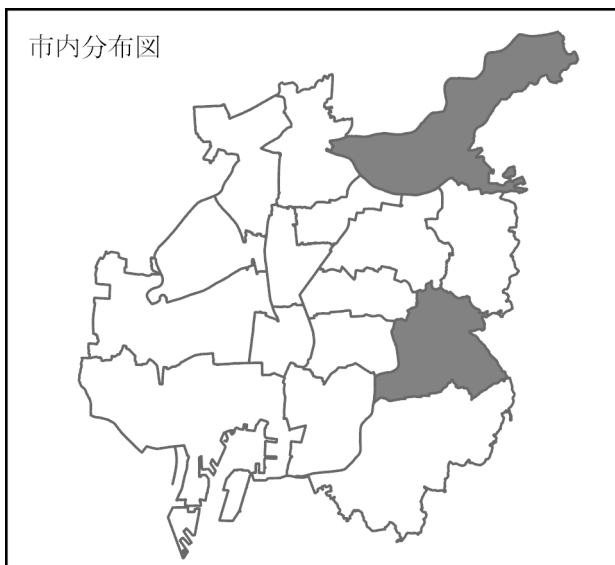
市内：1 守山区（上志段味、村松 30774, 2019-8-21, N）、4 天白区（島田緑地、中村 肇 698, 2014-9-13, N、葉のみ）に生育している。

県内：県 RDB2020 p.672 参照。名古屋市のほか、設楽東部、作手、新城、豊川、豊橋北部、足助、下山、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、幸田、西尾南部、瀬戸尾張旭、半田武豊、常滑、春日井で確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

湖沼やため池、水田、湿地などに生育する。山間部の休耕田などに群生することもある。オモダカよりやや安定した場所に多く、耕作中の水田の雑草とはならない。

現在の生育状況／減少の原因

守山区では東谷山麓に小群落があるが、個体数は次第に減少している。天白区では島田緑地の観察池に多数生育していて、「意図的に持ち込まれたものではない」とされているが、調査が必要である。

保全上の留意点

生育している湿地を保全する必要がある。

特記事項

オモダカに比べ、地下に走出枝がなく、かわりに小球茎をつけ、葉の側裂片より短く、その先端が鈍端であることで区別できる。和名は「顎無し」で、初期に出る葉が側裂片を持たないことによるという。

関連文献

- 保草本Ⅲp.400, 平新版 1 p.117.
 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.20. 文一総合出版, 東京.
 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.77. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) トチカガミ科>

イトトリゲモ *Najas gracillima* (A.Braun ex Engelm.) Magnus**評価理由**

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 12。水のきれいなため池や水田に生育する植物で、名古屋市では生育可能な場所が激減している。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	準絶滅危惧

形態

沈水性の1年生水草。茎は細く、よく分枝し、長さ10~30cmになるが、折れやすい。葉は各節に5個づつ輪生し、細く線形、長さ1.2~2cm、幅約0.2mm、辺縁には細鋸歯がある。葉の基部は葉鞘となり、葉鞘の先端は切形となる。花期は6~9月、雌雄同株で、各節に1個の雄花と2個の雌花がつく。果実は各節に2個並んでつき、それぞれ1個の種子がある。種子は長楕円形で長さ約2mm、幅約0.5mm、表面に縦に長い格子模様がある。

分布の概要

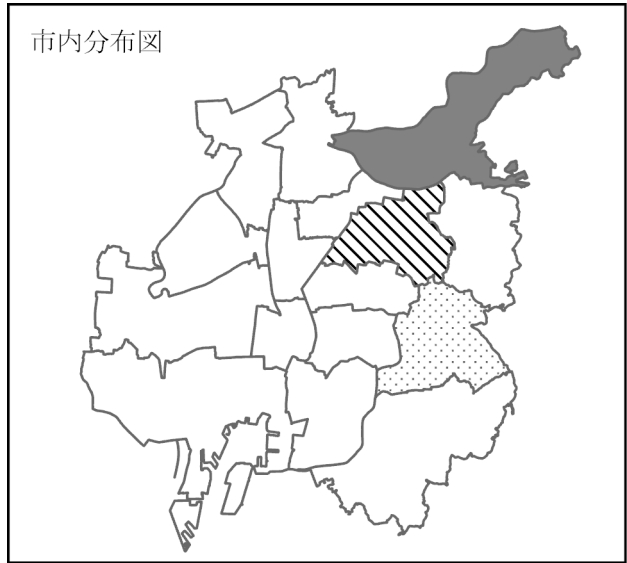
市内：1守山区（中志段味才井戸流付近、村松 26185, 2011-10-2, A; 下志段味西原、村松 21771, 2003-7-20, N）に生育している。4天白区（久方一丁目、渡邊幸子 3572, 1998-8-4, A）にも生育していた。注意して探索すれば他の区でも確認できるかもしれないが、一方ですでに消失してしまった場所もあると思われる。3千種区（田代町鹿子殿、村松 31427, 2020-7-22, N）で採集された標本もあるが、これは移入の可能性が高い。

県内：県 RDB2020 p.572 参照。県東部には点在しており、西部でも名古屋市のほか、豊田東部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧、春日井、津島愛西の7区画で確認されている。今後、他のいくつかの区画でも確認されるものと思われる。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：東アジアに分布し、イタリアで野生化している。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

貧栄養のため池や水田などに生育する。愛知県ではあちこちに点在しており、時には小さなため池にたくさん生育していることもある。過去の分布情報が不十分のため、増減の傾向はよくわからないが、ごく近年に限れば強力な除草剤が使用されなくなったためか、多少増加傾向にあるように思われる。

現在の生育状況／減少の原因

守山区中志段味では古い水田に多量に生育していたというが、その水田が消失してしまったので、現在は残存していても僅かと思われる。吉根志段味プール下の調整池と下志段味の湧水がたまった場所にも多量に生育していたというが、ごく最近の状況は確認されていない。天白区では、久方中学校敷地内の湧水が流れ込む側溝中にごく少量が生育していたが、最近の確認できない。

保全上の留意点

多量に生育している場所でも、突然消失することがある。水質の維持が必要である。

特記事項

日本産トリゲモ類の中では最も繊細で、そのためイトトリゲモと呼ばれる。環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類と評価されているが、愛知県全体としては当面絶滅が危惧される状態ではない。

関連文献

- 保草本Ⅲp.408-409, 平新版 1 p.123, SOS 新版 p.126.
 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.53. 文一総合出版, 東京.
 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.99. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ヒナノシャクジョウ科>

ヒナノシャクジョウ *Burmattia championii* Thwait.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 1、県西部分布階級階級 2、総点 12。森林性の腐生植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。生育地が保護されており森林化進行の影響も受けないことから、人為圧はなし(階級 1)として評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	—

形態

腐生の多年生草本。根茎は球状にふくらみ、多数のひげ根がある。茎は直立し、白色、高さ 3~8cm である。葉は互生し、鱗片状に退化し、披針形、長さ 2~4mm である。花期は 8~10 月、花は茎の先端に 2~10 個が頭状に集まってつき、白色で無柄、外花被片は筒状に合着して 3 稜形となり、長さ 6~10mm、裂片は 3 角形で長さ 1.5mm 程度、内花被片はへら形で小さい。果実は蒴果で倒卵円形、長さ 2.5mm 程度である。

分布の概要

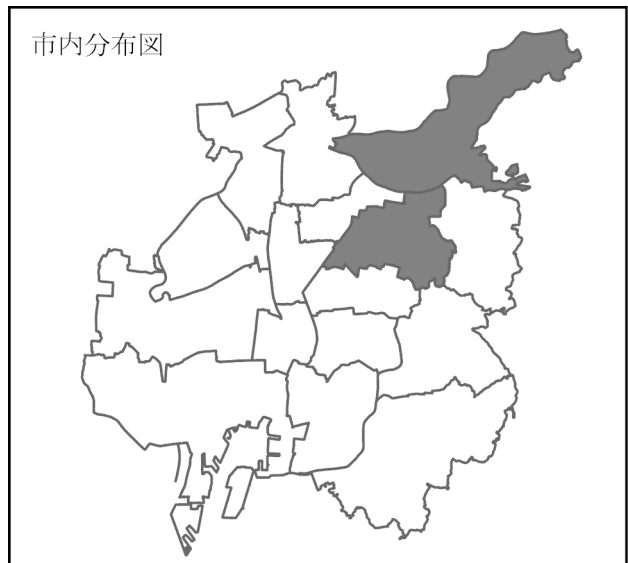
市内: 1 守山区 (東谷山, 山田果与乃 413, 1998-8-30, A)、3 千種区 (東山植物園, 西部 s.n., 2019-9-4, N) に生育している。

県内: 県 RDB2020 p.579 参照。名古屋市のほか、8 鳳来北東部、15 豊橋北部、20 足助、21 下山、24 豊田東部、30 岡崎南部、37a 瀬戸、45 犬山の 8 区画で確認されている。

国内: 本州 (関東地方以西)、四国、九州、琉球。

世界: 日本、中国大陸南部、マレーシア、インド、スリランカ。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

林内の湿った場所の、落葉の間に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

守山区では、2002 年には 5~6 株が確認できたが、里山保全活動のために林床が踏み荒らされ、一時見られなくなった。現在は 2~3 株が復活している。千種区では、2029 年には 2m 四方ほどの範囲に 16 株が確認された。ただし小型の植物なので、個体数階級は 3 と見なした。

保全上の留意点

千種区の生育地は植物園内で、管理者も本種の存在を意識しているので、当面消失の恐れはない。一般論としては、生育地の森林を保全することが必要である。里山保全活動を行う場合は、林床の踏み荒らしを極力回避する必要がある。

特記事項

小型で見つけにくい植物なので、調査時には特に注意が必要である。里山の森林化は、大部分の植物にとって脅威であるが、本種の場合はむしろ好都合で、そのため最近になって愛知県でも新産地がいくつか発見されている。ていねいに調査すれば、名古屋市内でも新産地が追加される可能性がある。

関連文献

保草本Ⅲp.70, 平新版 1 p.146, SOS 旧版 p.97+図版 3, SOS 新版 p.74.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ホンゴウソウ科>

ホンゴウソウ *Sciaphila nana* Blume

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 1、県西部分布階級階級 2、総点 12。腐生植物で、愛知県では最近多くの新産地が発見されているが、名古屋市では 2019 年に初めて生育が確認された。生育地は 1 ケ所だけであるが、この場所は保護されており、森林化進行の影響も受けないことから、人為圧はなし（階級 1）として評価した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	国リスト
全 国 2025	準絶滅危惧

形態

多年生の腐生植物。地下に白色の根茎がある。地上茎は極めて細く、直立してまばらに分枝し、高さ 3~13cm になる。葉は鱗片状で長さ約 1.5mm、茎と共に紫褐色である。花期は 7~10 月、茎や枝の先端に長さ 0.5~2cm の総状花序をつけ、4~15 個の花をつける。花は単性で、花序の下部は雌花、上部は雄花となる。雄花は直径約 2mm、花被は 6 裂し、うち 3 個は大きく、他の 3 個は小さく先端に球形の付属体をつける。果実は多数の心皮が集まり、球形で直径約 2mm の集合果となる。

分布の概要

市内：3 千種区（東山植物園、西部 s.n., 2019-9-4, N）に生育している。

県内：県 RDB2020 p.676 参照。名古屋市以外では、鳳来北東部、田原西部、足助、下山、豊田東部、豊田北西部、額田、岡崎北部、岡崎南部、瀬戸尾張旭で確認されている。名古屋市を除く県西部確認区画数は 5 である。新城、江南丹羽、一宮東部で採集された標本もあり、このうち一宮東部の自生地は国指定天然記念物であった。

国内：本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球にややまれに生育する。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

暗い林の下で落葉の間に生育する。名古屋市内では、湿地周辺のササ群落内や落葉広葉樹林の林床に生育している。

現在の生育状況／減少の原因

2019 年には、数 m² の範囲で、50 株程度が確認された（小型の植物なので個体数階級は 3）。過去からの増減は不明である。

保全上の留意点

今回生育が確認された場所は植物園内で、管理者も本種の存在を意識しているので、当面消失の恐れはない。他の産地を探索することも重要である。

特記事項

和名は、三重県楠町本郷で最初に発見されたからである。本種は、レッドデータブックあいち 2001 植物編では「絶滅」とされていたが、同 2009 年版では自生地が 4 カ所記録され、その後も新産地が次々と見つかって、2015 年の県第 3 次レッドリストでは準絶滅危惧になり、2020 年版ではリスト外と判定されるに至った。愛知県全体で見れば、里山の森林化により、近年急激に増加している植物と思われる。ただし、新産地の多くが開発事業に伴う環境影響評価のための調査で発見されていることから明らかのように、開発圧力も大きい。

関連文献

保草本Ⅲp.391, 平新版 1 p.152, SOS 旧版 p.91.

（西部めぐみ 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ヤマノイモ科>

ヒメドコロ *Dioscorea tenuipes* Franch. et Sav.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 13。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

つる性の多年生草本。根茎は横にはい、地上茎は無毛、長く伸びて他物に巻きつく。葉は互生し、長さ 2~10cm の柄があり、葉身は薄く三角状披針形、長さ 5~12cm、基部は心形で耳形に張り出す。花期は 7~8 月、花序は下垂し、長さ 5~20cm、花被片は 6 裂、楕円形で長さ約 1mm、淡緑色で平開する。雄花の柄はやや長く 3~4mm で、完全雄ずいは 6 個ある。果実は 3 翼があり、高さ 14mm、幅 18~20mm、種子は広楕円形で全周に翼がある。

分布の概要

市内：1 守山区（吉根太鼓ヶ根、鳥居ちゑ子 2636, 2008-7-16, A）に生育している。同（川松洞、鳥居ちゑ子 60, 1992-8-2, A）で採集された標本もある。

県内：オニドコロに比べればずっと少ないが、東三河、西三河の山地には点在している。3（振草、芹沢 94511, 2018-9-3）、7（神田、芹沢 63110, 1992-9-4）、8（榎原、芹沢 100582, 2022-9-3）、9（黄柳野、芹沢 53015, 1989-9-1）、10（一色、芹沢 70489, 1994-8-28）、11（中河内、芹沢 56008, 1990-7-26）、12（中宇利、加藤等次 3533, 1993-8-17）、15（石巻萩平町、芹沢 66838, 1993-8-6）、20 下国谷、鈴木万里亜 671, 1995-6-27）、21（梶、芹沢 62372, 1992-7-30）、23（御作、日比野修 1391, 1993-6-28）、24（西広瀬町、芹沢 67189, 1993-8-27）、28（夏山、瀧崎 11478, 1990-7-26）、29（小美町、芹沢 66634, 1993-7-24）、30（桑谷町、芹沢 70173, 1994-8-1）、31（深溝、金子律子 889, 1995-7-13）、36（東幡豆、芹沢 70201, 1994-8-2）、37a（吉野町、芹沢 80845, 2006-8-27）などで確認されている。

国内：本州（関東地方以西）四国、九州、琉球。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地の林縁に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

吉根では林縁に 1 株だけ生育していたという。川松洞では小幡緑地内の樹木に少数株がからみついていたらしい。

保全上の留意点

林縁に生えるつる植物なので、現実問題として保全対策はとりにくい。他に生育地がないか、更に探索する必要がある。

特記事項

名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。オニドコロに似るが、葉がより細長く、種子の全周に翼があることで区別できる。

関連文献

保草本Ⅲp.83, 平新版 1 p.150.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) シュロソウ科>

シライトソウ *Chionographis japonica* Maxim.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。愛知県全体としてはあちこちに見られる植物だが、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生の草本。根出葉はロゼット状に出て、長楕円形または倒披針形、長さ 3~14cm、先はやや鈍く、下部はしだいに狭くなって柄になり、片縁は細かい波状になる。花茎は高さ 15~50(~65)cm、線形または披針形の茎葉がつく。花期は 5-6 月。花序は長さ 5-20cm の穂状で、茎の先端につき、多数の花が下から順に咲く。上方の花被片は長さ 7~10mm で、先は明らかに太い。

分布の概要

市内：3 千種区（平和公園、長谷川 13, 2020-5-2, N）に生育している。

県内：低山地に点在しており、8（県民の森、芹沢 104254, 2024-8-21）、9（黄柳野、芹沢 54978, 1990-5-22）、12（庭野、芹沢 95288, 2019-6-1）、14（豊岡町、芹沢 100356, 2022-6-4）、15（石巻萩平町、芹沢 61518, 1992-6-1）、19（笹戸、芹沢 61736, 1992-6-13）、20（井ノ口町、芹沢 92301, 2017-6-2）、22（北篠平、芹沢 66077, 1993-6-18）、23（下川口、日比野修 320, 1992-5-22）、24（東広瀬町、芹沢 65414, 1993-5-21）、25（猿投町、土場トシ子 538, 1994-5-29）、28（中金、福岡義洋 553, 1990-5-15）、29（小美町、伊奈知子 276, 1993-5-17）、36（西幡豆、壁谷重美子 528, 1994-6-15）、37a（西山路町、芹沢 73759, 1997-6-4）、37b（平子町東、村松 20644, 2001-6-10, N）、45（栗栖、平嶋 敏 485, 1989-5-9）、47（大草、芹沢 65856, 1993-6-6）、48（西尾町、山田果与乃 309, 1998-5-3）などで確認されている。

国内：本州（秋田県以南）、四国、九州。

世界：日本および朝鮮半島南部。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

河川沿いなどの湿潤な林縁に生育する。名古屋市内の生育地も緑地内の湿潤な斜面下部である。

現在の生育状況／減少の原因

平和公園内では 1 カ所の斜面に 20 株ほどが小集団となって生育している。常緑樹林化が進行すれば、被陰によって衰退するおそれがある。

保全上の留意点

生育状態を継続的に観察し、周辺の樹木が著しく繁茂した場合は適宜除去する必要がある。

特記事項

岐阜県に生育するミノシライトソウは、上方の 4 花被片が本種より短く、葉が厚くて光沢があるという。

関連文献

保草本Ⅲp.153, 平新版 1 p.158-159.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

クロヤツシロラン *Gastrodia pubilabiata* Sawa

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 12。里山に生育する腐生植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

腐生の多年生草本。根茎は長さ 2.5~4cm、直径 4~10mm の紡錘状の塊茎になる。地上茎は根茎の先端から 1 本出て、高さ 2~5cm、3~4 個の膜質の鱗片葉をつける。花期は 9~10 月、茎の先端部に黒褐色の花を 3~8 個、密な総状花序につける。苞は卵形、長さ 3~6mm である。花は 3 がく片が合着して長さ約 1cm の鐘状になり、口部は 3 裂し、裂片の内側に小さい 2 個の側花卉がある。唇弁は上面に黄白色の毛が密生する。花柄は花時には長さ約 1cm であるが、花後著しく伸長して 20~40cm に達する。果実は細長い楕円形、長さ 1.8~3cm、直径 5~7mm、黒褐色である。

分布の概要

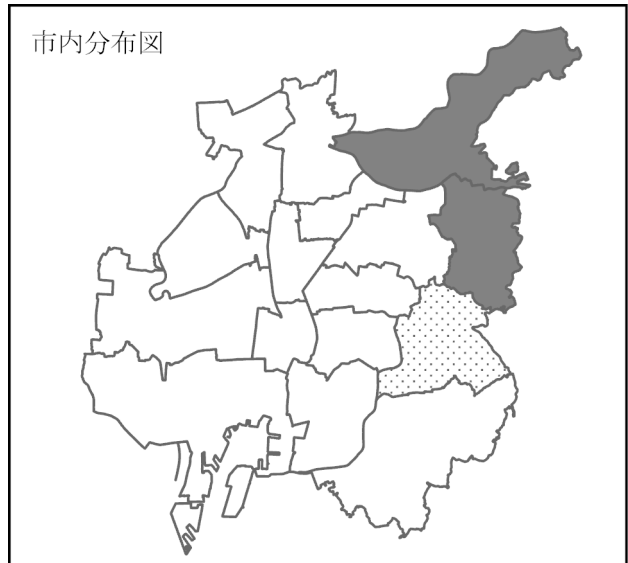
市内：1 守山区（竜泉寺、井上海人 2, 2023-10-4）、2 名東区（猪高緑地、芹沢 101023, 2022-10-23, A）に生育している。4 天白区（平針黒石、渡邊幸子 1435, 1993-12-6, N）にも生育していた。

県内：県 GDB2017 p.235 参照。名古屋市のほか、鳳来北東部、新城、豊川、蒲郡、豊橋南部、田原東部、豊田東部、岡崎北部、西尾南部、瀬戸尾張旭などで生育が確認されている。

国内：本州（関東地方以西）、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

丘陵地の竹林、二次林、スギ造林地内などに生育する。名古屋市の生育地は竹林である。

現在の生育状況／減少の原因

守山区では 1 ケ所に小群落があるが、この場所は近いうちに消失するらしい。名東区でも 1 ケ所に小群落がある。平針黒石にも小群落があったようだが、竹が切られて乾燥化が進み、見られなくなっていると聞いている。

保全上の留意点

生育地の竹林を保全することが必要である。写真撮影などに訪れる人による踏みつけも懸念される。地表近くに黒褐色の花をつけるため花時にはなかなか発見できない植物で、そのため本種を求めて探し回ると、つい踏みつけてしまうリスクが大きい。

特記事項

本種の生育地は多くが里山であり、開発圧力は高いが、開発されないところでは急速に森林化が進んでいる。竹林の増加は大部分の里山の植物にとっては脅威であるが、本種にとってはむしろ好都合であり、そのため本種は愛知県全体ではやや増加傾向にある。

関連文献

平新版 1 p.203、SOS 旧版 p.111.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

ジガバチソウ *Liparis krameri* Franch. et Sav.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は高さ 8~20cm、基部はふくらんで偽球茎となり、1~2 年残存して横に並ぶ。葉は茎の下部につき、鞘状のものを除き 2 個、葉身は卵形、長さ 3~8cm、先端は鋭頭、葉脈ははっきりした網目模様となる。花期は 5~7 月、花は茎の上部に 10~25 個つき、多少なりとも紫を帯びた淡緑色のことが多く、苞は 3 角形で長さ 1~1.5mm である。がく片は線形で長さ 10~12mm、側花弁は反曲し、糸状で長さ 8~10mm、唇弁は長さ 6~8mm、下部で急に曲がって下垂し、舷部は幅 3~3.5mm、先端は鋭尖頭である。

分布の概要

市内: 1 守山区 (鳥居ちゑ子 1798, 2000-7-2, A)、4 天白区 (中島ひろみ 419, 2019-5-18, N など) に生育している。3 千種区 (東山、井波一雄 s.n., 1953-5-29, CBM251383) で採集された標本もある。

県内: 東三河、西三河の山地ではあちこちに生育しており、丘陵地にも多くはないが点在する。1 (大沼, 小林 45510, 1993-7-24)、2 (分地, 小林 44699*, 1993-6-26)、3 (振草, 夏目一平 4, 2008-6-24)、6 (川向, 芹沢 55571*, 55573, 1990-6-19)、7 (小松, 芹沢 66214, 1993-6-22)、13 (宮路山, 小林 44341, 1993-6-17; 赤坂, 瀧崎 20805*, 2002-6-1, T)、14 (清田町, 井上美保子 884, 1993-7-4)、15 (石巻萩平町, 芹沢 61505, 1992-6-1)、5 (小田木町, 芹沢 94232*, 2018-6-18)、19 (駒山, 芹沢 62048, 1992-6-27)、20 (大多賀峠, 芹沢 55536, 1990-6-19)、21 (花沢町, 芹沢 92473, 2017-6-13)、22 (下百月, 塚本威彦 1086, 1994-5-28)、23 (木瀬, 日比野修 2898, 1995-6-16)、24 (琴平町, 芹沢 75864, 1999-6-21)、25 (猿投山, 土場トシ子 330, 1993-6-6)、26 (平和町, 畑佐武司 3709*, 2002-5-23)、28 (本宮山, 小林 51865, 1994-6-4)、31 (深溝, 小林 59570, 1996-6-1)、37a (海上町, 芹沢 75687, 1999-6-4)、38a (岩作, 半田多美子 2641, 1998-7-14)、38b (米野木町, 半田多美子 2778, 1999-6-6)、47 (大草, 村瀬正成 930355, 1993-6-6)、48 (西尾町, 山田果与乃 477, 1999-5-30) などで確認されている。*はアオジガバチソウである。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 日本および朝鮮半島。

生育地の環境／生態的特性

林縁や明るい林内に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

何カ所かで確認されているが、どの場所も個体数は少ない。目立つ花ではないが、それでも見つかりと掘りとられてしまうことが多い。

保全上の留意点

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。ただし本種は愛知県全体ではそれほど希少な植物ではないため、好事家の意図的な採取は想定しにくい。むしろ一般人の行きずりの採取の影響が大きく、自然物は公共の資産であり、個人の庭に取り込んでではないという意識を、できるだけ多くの人に持ってもらうことが必要である。

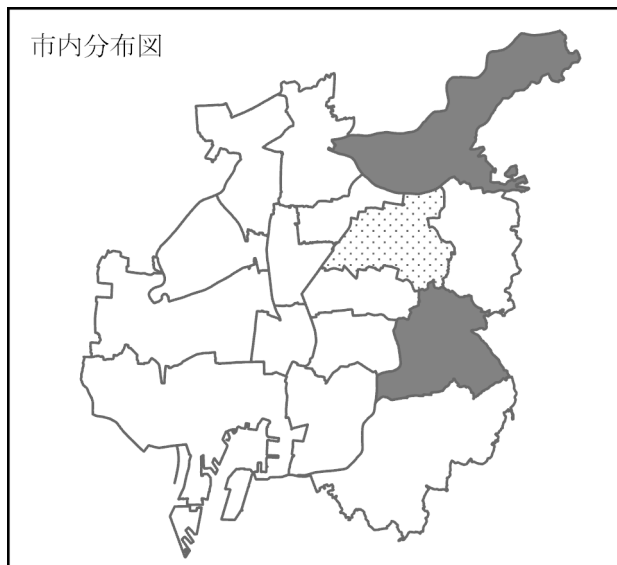
特記事項

和名は、花の形態がジガバチに似ているからである。花の色には黒褐色のものから淡緑色のものまで変異があり、淡緑色のものはアオジガバチソウと呼ばれる。

関連文献

保草本Ⅲp.51, 平新版 1 p.211.

市内分布図



(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

サギソウ *Pectilis radiata* (Thunb.) Raf.**評価理由**

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県西部分布階級 1、総点 13。貧栄養の湿地に生育する植物で、園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	絶滅危惧Ⅱ類
全国 2025	準絶滅危惧

形態

多年生草本。地下に走出枝があり、その先端に楕円形で長さ 7～15mm の球茎をつける。茎は直立し、高さ 15～40cm になる。葉は茎の下部につき、鞘状のものを除いて 3～5 個が互生し、葉身は広線形、長さ 5～10cm、幅 3～6mm、先端は鋭頭、基部は葉鞘となる。上部の葉は小さく、鱗片状となる。花期は 7～8 月、花は茎の先端に 1～3 個つき、直径約 3cm で白色、苞は卵状披針形、長さ約 5mm である。がく片は緑色、広卵形または斜卵形、長さ約 8mm、側花弁は白色で斜卵形、背がく片と並んで立ち、下部外縁に鋸歯がある。唇弁は大きく 3 深裂し、中裂片は披針形、側裂片は側方に開出して斜扇形、辺縁は深く細裂する。距は斜めに下垂し、長さ 3～4cm である。

分布の概要

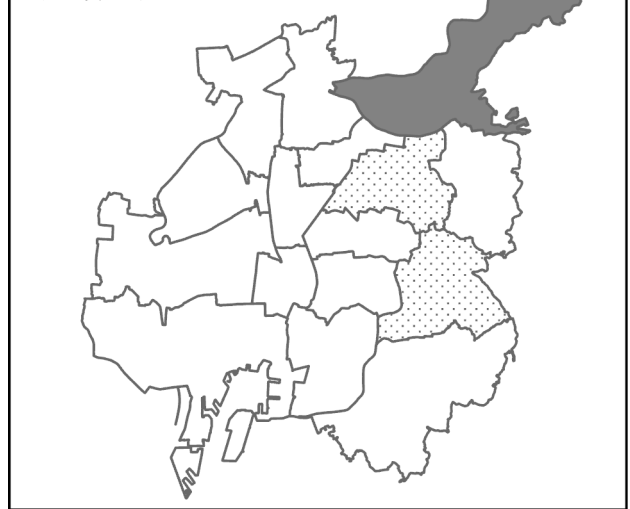
市内：1 守山区 (村松 29782, 2018-8-18, N など) に生育している。3 千種区 (覚王山, 沢井輝男 s.n., 1932-8-6, A)、4 天白区 (芹沢 56182, 1990-8-8, A など) で採集された標本もある。

県内：県 RDB2020 p.422 参照。丘陵地に広く分布し、県西部では名古屋市のほか、藤岡、豊田北西部、三好、岡崎北部、岡崎南部、幸田、刈谷知立、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。知多半島ではごく稀である。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、台湾、朝鮮半島。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

丘陵地の日当たりのよい貧栄養の湿地に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

白鷺に似た美しい花をつけるランで、園芸目的で多量に採取され、全国的には絶滅状態の場所も少なくない。名古屋市市内でもまだ多少生育しているが、園芸目的の採取や丘陵地の開発により過去に比べれば大きく減少している。地下に子球をつけるため、繁殖力は比較的旺盛であるが、増加したと思って見ていると、ほとんど全部堀取られてしまうことも多い。

保全上の留意点

本種の場合、人工的な供給方法が確立されており、市場価格もそれほど高いものではないが、それでも山採りは止むことがない。大量に安価に供給すれば園芸目的の採取はなくなると思うのは、幻想にすぎない。自然の花と庭の花は別のものであることが必要で、そうでない限り、現在はまだかなりある本種も、いつかは絶滅させられてしまう。

その一方で本種は、消えゆく湿地性植物の代表として、しばしば自然湿地への植え戻しが行われている。しかし、植え戻しはその場所にまだ残存している他の植物に大きな打撃を与えるだけでなく、しばしば遺伝的汚染や病虫害の導入を招き、そこに残存している自然個体群に対する「最後のとどめ」になる。人為的な付け加え行為は、たとえ善意から出たものであっても、自然に対する大きな脅威であることを忘れてはならない。本種なら、生育できる条件を壊さずに気長に待てば、そのうち自然に分布を拡大してくるはずである。

関連文献

保草本Ⅲ p.7, 平新版 1 p.218, SOS 旧版 p.111 + 図版 18, SOS 新版 p.111.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) ヒガンバナ科>

ヤマラッキョウ *Allium thunbergii* G.Don

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。湿性の草地に生育する植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。鱗茎は狭卵形、長さ 2～3cm、古い葉鞘が分解してできた繊維でおおわれる。花茎は高さ 45～80cm、葉はその下部に 3～5 個つき、細い三角柱状、葉鞘部を除いて長さ 30～60cm、幅 2～4mm である。花期は 10～11 月、花茎の先端に球形で直径 3.5～5cm の散形花序をつける。花被片は 6 枚で紅紫色、楕円形で長さ 4～5mm、雄ずいは花被片より長い。

分布の概要

市内：1 守山区（東谷，村松 31226, 2019-11-13, N）に生育している。5 緑区（鳴海町笹塚，中島ひろみ 364, 1993-10-20, A）にも生育していた。千種区、天白区にもあるという話だが、標本は得られていない。

県内：東三河と西三河の山地、丘陵地には比較的多いが、尾張では少ない。3（御園，小林 39914, 1992-10-10）、4（面ノ木峠下，芹沢 100949, 2022-10-15）、6（段戸山裏谷，芹沢 78252, 2002-10-11）、11（中河内，芹沢 57897, 1990-10-20）、12（中宇利，芹沢 54058, 1989-10-29）、13（萩，瀧崎 19260, 2001-11-18, T）、15（嵩山町，芹沢 72728, 1995-11-29）、16（野依町，芹沢 57914, 1990-10-23）、17（大久保町，芹沢 83806, 2008-11-2）、18（亀山，小林 49259, 1993-10-31）、5（中当，芹沢 57871, 1990-10-19）、19（上中切，塚本威彦 852, 1993-10-23）、20（則定，芹沢 60857, 1991-10-16）、21（平瀬，芹沢 64439, 1992-10-26）、22（松名，塚本 1427, 1994-10-22）、23（西市野々，日比野修 1006, 1992-11-1）、24（西広瀬町，芹沢 68888, 1993-10-22）、25（太平町，芹沢 60914, 1991-10-28）、28（切山，芹沢 57900, 1990-10-20）、32a（井ヶ谷町，芹沢 41261, 1984-11-1）、39b（栄町，浅野守彦 1473, 2002-11-4）、41b（佐布里，加藤雅憲 1043, 1996-10-29）、42a（草木，渡邊麻子 1023, 1995-10-22）、44a（上野間，芹沢 77743, 2001-10-23）などで確認されている。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地の湿った草地に生育する。愛知県では湧水湿地周辺に多いが、そうでない場所にも生育している。

現在の生育状況／減少の原因

名古屋市では個体数は少ない。草地の減少によって、現在の状態に追い込まれたものと思われる。

保全上の留意点

里草地の保全が必要である。

関連文献

保草本Ⅲp.125, 平新版 1 p.242.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) キジカクシ科>

キヨスミギボウシ *Hosta kiyosumiensis* F.Maek.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。山地の草地や岩場に多い植物で、名古屋市では生育地が少ない。

形態

多年生草本。地下茎は短くはう。葉は束生し、長さ 6~30cm の柄があり、葉身は長卵形~広卵形、長さ 7~25cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形~ごく浅い心形である。花期は 6~7 月、花茎は高さ 30~60cm になり、上部に 5~30 個の花をつける。苞はボート状、長さ 2.5~3cm、鋭頭、つぼみの時は互いに重なり合う。花は淡紫色、長さ 4~5cm、広筒部は急に、または次第に太くなる。果実はよく形成される。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味庄内川、日比野修 4549, 1998-6-28, A; 吉根太鼓ケ根、芹沢 82959, 2008-7-16, A）、4 天白区（平針南、中島ひろみ 469, 2019-6-21, N）、5 緑区（鳴海町笹塚、渡邊幸子 4775, 2001-6-29, A）に生育している。

県内：東三河と西三河の山地にはやや普通に見られ、尾張にも点在する。1（大沼、小林 45513, 1993-7-24）、2（三沢、加藤等次 3469, 1993-8-2）、3（振草、芹沢 92706, 2017-7-26）、4（天狗棚、鈴木 学 1736, 1983-8-19）、6（三都橋、小林 45840, 1993-8-1）、7（小松、芹沢 66991, 1993-8-20）、9（乗本、芹沢 81598, 2007-6-23）、10（塩瀬、小林 46370, 1993-8-9）、11（菅沼、芹沢 56042, 1990-7-26）、12（有海、芹沢 84423, 2009-7-8）、14（清田町、井上美保子 883, 1993-7-4）、5（大野瀬町、芹沢 90315, 2015-7-19）、19（伊熊、芹沢 62528, 1992-8-22）、20（月原町、芹沢 84959, 2009-9-19）、21（宇連野、芹沢 62406, 1992-7-30）、22（樽俣、塚本威彦 1219, 1994-7-18）、24（国附町、芹沢 66716, 1993-7-27）、25（田初町、芹沢 81892, 2007-7-28）、28（檜山、芹沢 59116, 1991-6-29）、29（蓬生町、芹沢 66667, 1993-7-24）、31（深溝、金子律子 895, 1995-7-13）、36（鳥羽、壁谷重美子 671, 1994-7-8）、37a（広久手町、芹沢 76096, 1999-8-7）、37b（新居町、村松 21433, 2002-9-22, N）、39b（栄町、浅野守彦 1370, 2002-6-30）、44b（山海、小林 57424, 1995-7-15）、45（継鹿尾木曾川、芹沢 87742, 2012-7-29）、46a（木曾川、竹原芳子 1193, 1996-8-4）、47 石金、日比野修 4889, 1999-7-11）、48（木附町、山田果与乃 732, 2001-8-27）などで確認されている。15（嵩山、恒川敏雄 s.n., 1963-5-20, T）で採集された標本もある。

国内：本州（関東地方南部~紀伊半島）。

世界：日本固有種。

生育地の環境／生態的特性

やや湿った草地や、川沿いの湿った岩場に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

以前はあちこちに生育していたものと思われるが、近年生育を確認できたのは 4 カ所だけで、しかもどの場所でも個体数が少なく、存続の基盤が脆弱である。緑区では愛知用水沿いに生育していたが、改修等により、2015 年の時点でほとんど消滅していた。集団数の判定に際しては、この集団は除外してある。

保全上の留意点

里草地の保全が必要である。

特記事項

オオバギボウシ（市 EN）に似ており、愛知県の山地の草地ではしばしばそれと混生しているが、つぼみの時に苞が重なり合い、開出しなないことで区別される。草地に生育するものと川岸の岩場に生育するものが全く同じであるかどうかについては、今後更に検討が必要である。

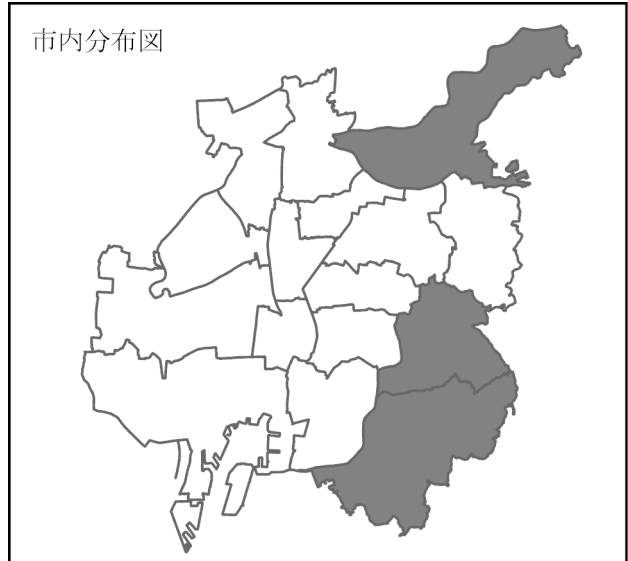
関連文献

保草本Ⅲp.138, 平新版 1 p.251.

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

市内分布図



(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) キジカクシ科>

コバギボウシ *Hosta sieboldii* (Paxton) J.W.Ingram form. *spathulata* (Miq.) W.G.Schmid**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。湿地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下茎は横にはい、そのためしばしば群生する。葉は束生し、葉身は楕円形～長楕円形、大きさは変異が著しく、小さい個体では長さ 4cm 程度であるが、大きい個体で花笠 20cm くらいになり、先端は通常鈍頭、基部は葉柄に流れる。花期は 7～8 月、花茎は高さ 35～100cm になり、上部に 3～20 個の花をつける。花は淡紫色で脈は著しく濃色になり、長さ 4.5～6cm、狭筒部は長さ 1.5～2.2cm で、広筒部は通常鐘状に急に太くなる。果実はよく形成される。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷、芹沢 83268, 2008-9-13, A など）に生育している。

県内：東三河山間部の湿地には比較的多いが、ミズギボウシが分布する西三河や尾張では点在するが少ない。3（下田, 小林 47446, 1993-9-5）、4（宮前, 芹沢 62933, 1992-8-29）、6（川向, 芹沢 55930, 1990-7-25）、7（田口, 小林 66768, 1999-7-31）、11 田原, 芹沢 67071, 1993-8-23）、12（有海, 芹沢 66856, 1993-8-6）、13（一宮町上長山, 芹沢 60102, 1991-8-29）、5（中当, 芹沢 55949, 1990-7-25）、25（篠原町, 芹沢 60080, 1991-8-28）、27（福谷, 臼井里華 613, 1992-7-26）、29（安戸町, 中西普佐子 1418, 1993-9-12）、37a（海上町, 芹沢 76124, 1999-8-20）、37b（新居町, 村松 468, 1986-8-10）、41b（佐布里, 芹沢 76041, 1999-8-3）、43（常滑, 清水政美 s.n., 1999-8-3）、49c（西春町九之坪, 鈴木幸子 519, 1993-8-2）などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州に分布する。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。湿地性の植物の中ではかなり耐陰性があり、林内にも残存している。

現在の生育状況／減少の原因

守山区では林内の湿地に生育しているが、遷移の進行によって林内が暗くなり、ほとんど花をつけない状態になっている。5 緑区鳴海町笹塚の愛知用水わきの草地にも生育していたというのが、水路の改修により、標本を作成する前に消滅してしまったそうである。

保全上の留意点

守山区の自生地については、湿地周辺の樹木を伐採し、開けた湿地を維持することが必要である。

特記事項

守山区ではミズギボウシとの雑種（大森北, 村松 28694, 2017-8-17, N など）も見られる。この雑種はコバギボウシに似ているが、全体に大型で、葉が細く、花がややまばらにつき、果実が熟さない。

関連文献

保草本Ⅲp.135, 平新版 1 p.252.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) ガマ科>

ナガエミクリ *Sparganium japonicum* Rothert**評価理由**

個体数階級 1、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 13。水生植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	国リスト
全 国 2025	準絶滅危惧

形態

抽水性の多年生水草。地中を横に這う根茎がある。茎は立ち、分枝せず、高さ 35～100cm になるが、倒れたものは全長 150cm を超えることもある。葉は 2 列に互生し、線形、抽水葉は裏面に稜があつて断面は三角形になり、幅 7～14mm、下部は葉鞘となる。花期は 6～9 月、花序は分枝せず、柄は主軸とは合着しない。雌性頭花は 3～7 個で、少なくとも下側の 1～3 個は長さ 7～50mm の柄があり、雄性頭花は 4～9 個で雌性頭花から離れてつく。果実は紡錘形で長さ 4～6mm、幅 2mm、他種の果実に比べて細長く、先端は嘴状に尖る。

分布の概要

市内: 1 守山区 (中志段味才井戸流, 村松 24870, 2009-8-27, N) に生育している。

県内: 県 RDB2020 p.679 参照。名古屋市のほか、東栄、鳳来北東部、豊橋北部、額田、岡崎北部、岡崎南部、幸田、安城、西尾北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、犬山、江南丹羽、小牧、春日井、一宮東部、一宮西部の 17 区画で確認されている。

国内: 北海道 (南西部)、本州、四国、九州。

世界: 日本を含むアジア極東地域に分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

湖沼やため池、河川、水路などに生育する。流水域に多いが、止水域にも生育する。流れが強い場所にあるものは、しばしば水中葉だけが出て、セキショウモのような形になる。

現在の生育状況／減少の原因

才井戸流では水路中にミクリ (市 CR)、ヤマトミクリ (市 EN) と共に生育している。個体数はヤマトミクリよりずっと多い。周辺にもいくつか小群落がある。一帯は開発が進行しており、そのため将来の存続が懸念される。水路自体が保全されても、公園化されれば水質が悪化し、帰化植物等が侵入することも予想される。

保全上の留意点

本種の主要な生育地であったはずの平野部の小河川は、ほとんどがコンクリートで三面を固められ、生活排水が流入し、一昔前とはまるで異なる状態になっている。その意味では、平野部の水草は、ごく一部の種類を除きすべて危機的であると言ってもよい。「さらさら流れる春の小川」を保全することは、絶滅危惧種のあるなしにかかわらず、重要な課題である。才井戸流に関して言えば、保全上重要なのは、個々の植物よりむしろ全体的な景観である。

特記事項

和名は、下部の雌性花序に柄があるからである。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 11 に掲載されている。

関連文献

保草本Ⅲp.420-421, 平新版 1 p.278.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.80. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.152. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ホシクサ科>

ツクシクロイヌノヒゲ *Eriocaulon kiusianum* Maxim.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 2、総点 12。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	—

形態

1 年生草本。茎はごく短い。葉は束生して斜上し、線形、長さ 10～18cm、基部で幅 3～6mm、全縁、先端は次第に細くなる。花期は 8～10 月、花茎は多数つき、中央の 1 本は高さ 8～23cm、他はそれより短く、先端に倒円錐形の頭花をつける。頭花は直径 4～5mm、多数の花からなり、総苞片は頭花よりやや短く、長楕円形、鈍頭、花床には毛がない。小花は黒藍色で、雌花のがくの内面に長毛があるほかは各部とも無毛、子房と蒴果は 3 室である。

分布の概要

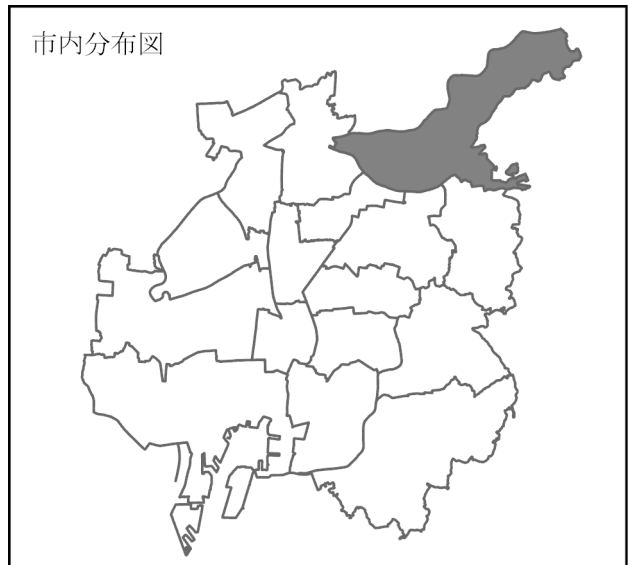
市内：1 守山区（下志段味滝ノ水池、村松 30867, 2019-10-10, N; 小幡緑地、村松 31155, 2019-11-5, N）に生育している。

県内：県 RDB2020 p.590 参照。名古屋市のほか、豊田東部、瀬戸尾張旭、長久手日進、美浜南知多、春日井で確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地の湿地に生育する。愛知県での生育地は、いずれも干上がった溜池の岸である。

現在の生育状況／減少の原因

名古屋市では守山区の 2 ヶ所で生育が確認されているが、個体数は年変動が著しく、水位の低下しない年には全く見られないこともある。

保全上の留意点

滝ノ水池（海老蔓池）は本種以外にもタチモ、オオトリゲモなど名古屋市では希少な植物が生育しており、周辺の丘陵地と共に現在の水質と環境を維持すべき場所である。

関連文献

保草本Ⅲp.184-185, 平新版 1 p.285, SOS 旧版 p.97-98(クロイヌノヒゲとして).

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

イセウキヤガラ *Bolboschoenus planiculmis* (F.Schmidt) T.V.Egorova**評価理由**

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県西部分布階級 2、総点 12。河口部の塩湿地に生育する植物で、名古屋市では生育地が限られている。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下茎は細く地中をはい、先端に塊茎をつける。茎は通常単生で直立し、高さ 40～60cm になる。葉は茎の下部に 2～4 枚つき、長い葉は茎と同じ高さまで伸び、断面は鋭三角形、幅 2～5mm である。花期は 6～8 月、小穂は茎の先端に通常 1 個、ときに 2～3 個つき、無柄で卵形～卵状楕円形、長さ 1～1.8cm、先端は尖り、褐色である。苞は通常 2 個で、下の 1 個は立ち、3 稜形、長さ 12～30cm、下部は茎に続き、上の 1 個は短く、小穂の半分以上の長さのことが多い。

分布の概要

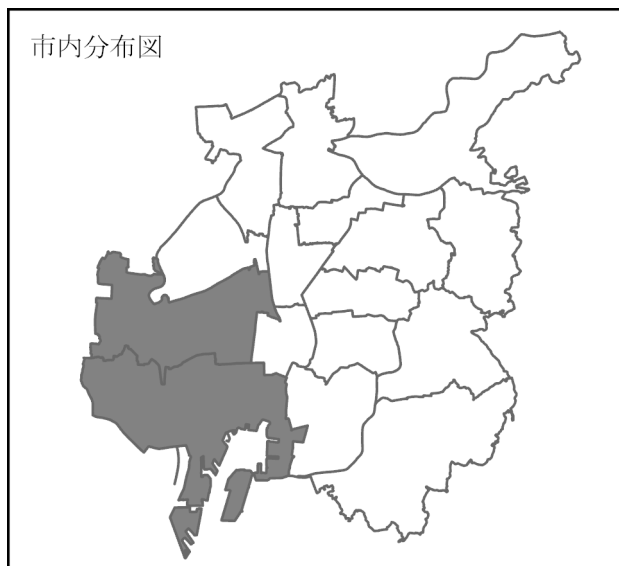
市内：15 中川区（下之一色町新川，中村 肇 662, 2014-7-2, N）、16 港区（宝神町庄内川，中村 肇 834, 2014-7-27, N；船見町天白川河口，中村 肇 721, 2014-7-14, N）に生育している。

県内：三河湾、衣浦湾、伊勢湾の奥部に流入する河川の河口部に生育しており、13（小坂井町佐奈川，小林 45299, 1993-7-16）、15（下地町豊川，小林 45306, 1993-7-16）、16（前芝町，小林 45490, 1993-8-15）、32a（小垣江町衣浦湾，芹沢 69995, 1994-6-30）、34a（石浜衣浦湾，中村裕治 814, 1994-7-25）、42b（日東町，浅野守彦 2085, 2007-8-15）、57b（立田村木曾川，伊藤静江 992, 1991-7-26）、58b（木曾川，芹沢 59002, 1991-6-25）などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：東アジアとヨーロッパに分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

河口部の、満潮時には水没するような場所に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

庄内川、新川、天白川の河口部に生育している。生育地は限られているが個体数は多く、生育状態は良好である。

保全上の留意点

当面は現状とおりに存続すると思われるが、長期的には河川の水質悪化や堤防の改修による影響に注意する必要がある。

特記事項

日本では木曾三川河口部の三重県側で最初に発見されたため、イセウキヤガラの名が与えられた。

関連文献

- 保草本Ⅲp.218, SOS 旧版 p.108+図版 26.
 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.88. 文一総合出版, 東京.
 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.171. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

ケタガネソウ *Carex ciliatomarginata* Nakai**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。名古屋市では一時現存が確認できなかったが、千種区で再発見された。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。匍匐枝を出し、やや密な群落を作る。茎は高さ 5~12cm、まばらに軟毛があり、基部の葉鞘は淡褐色である。葉は披針形、幅は 1~2cm、3 脈が目立ち、両面と辺縁に軟毛がある。果期は 4~5 月、小穂は 3~5 個、頂小穂は雄性で卵形、長さ 5~10mm、側小穂は雌性で、頂部に少数の雄花をつけ、卵球形で長さ 4~8mm である。苞はふくらんだ鞘となり、長さ約 5mm である。果胞は楕円状倒卵形、長さ 3.5mm、緑色で短毛があり、嘴はごく短い。雌花の柱頭は 3 個である。

分布の概要

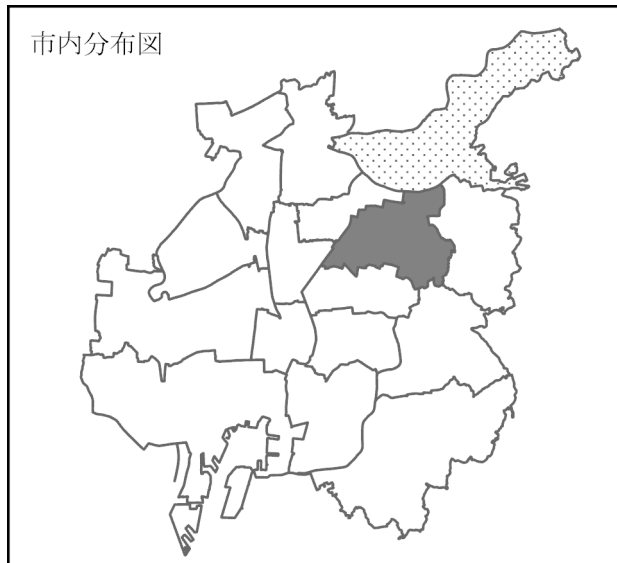
市内：3 千種区（平和公園、長谷川 316, 2022-5-21, N）に生育している。1 守山区（上志段味森林公園、芹沢 77220, 2001-4-28, A；中志段味吉田洞、鳥居ちゑ子 2331, 2003-6-13, A）にも生育していた。

県内：低山地～丘陵地に点在し、8（鳳来寺山、加藤等次 1240, 1992-4-18）、12（市川、芹沢 58153, 1991-4-20）、13（萩坂峠、瀧崎 17718, 2000-8-1, T）、15（石巻萩平町、芹沢 64693, 1993-4-27）、19（池島、日比野修 2233, 1994-5-31）、22（大ケ蔵連、日比野修 1975, 1994-4-21）、25（猿投町、畑佐武司 5928, 2003-6-12）、27（鹿勝川、福岡義洋 263, 1990-4-9）、36（東幡豆、芹沢 58177, 1991-4-27）、37a（東山路町、塚本威彦 1463, 1995-5-18）、37b（平子町北、村松 20507, 2001-5-3, N）、38b（岩崎町、半田多美子 1825, 1995-4-20）、47（大草、芹沢 65857, 1993-6-6）などで確認されている。

国内：本州（中部地方以西）、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地の明るい林内や林縁、やや乾いた草地などに生育する。

現在の生育状況／減少の原因

千種区では 1m×30cm ほどの範囲に、多くの個体が生育していた。守山区では上志段味の道路に接した二次林の林縁に小群落があったが、道路の拡幅によって失われた。中志段味の林内にも小群落があったようだが、ここも現存は確認できない。

保全上の留意点

本種のような目立たない植物は、工事などの際に無視されてしまうことが多い。特に注意が必要である。

特記事項

葉は幅広く、タガネソウとともに、他のスゲ類とは著しく異なっている。

関連文献

保草本Ⅲp.294-295, 平新版 1 p.322.

勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド日本のスゲ p.149. 文一総合出版, 東京.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物<種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

ツクバスケ *Carex hirtifructus* Kük.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県西部分布階級 3、総点 13。岩崖地性の植物で、名古屋市では生育地が限られている。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。時に短い匍匐枝を出し、ややゆるい株を作る。茎は高さ 15~50cm、基部の葉鞘は褐色で繊維に分解する。葉は細い線形、幅 2~3mm である。果期は 4~5 月、小穂は 3~4 個が互いにやや離れてつき、頂小穂は雄性、線状楕円形で長さ 2~3cm、側小穂は雌性で披針形~線状楕円形、長さ 1~2cm、最下の側小穂は時に根出状になる。苞は短く、基部は長さ 1~2cm の鞘となる。果胞は紡錘形~紡錘状長卵形、長さ 4~6mm、有毛、嘴は長く、先端は鋭い 2 歯となる。雌花の柱頭は 3 個である。

分布の概要

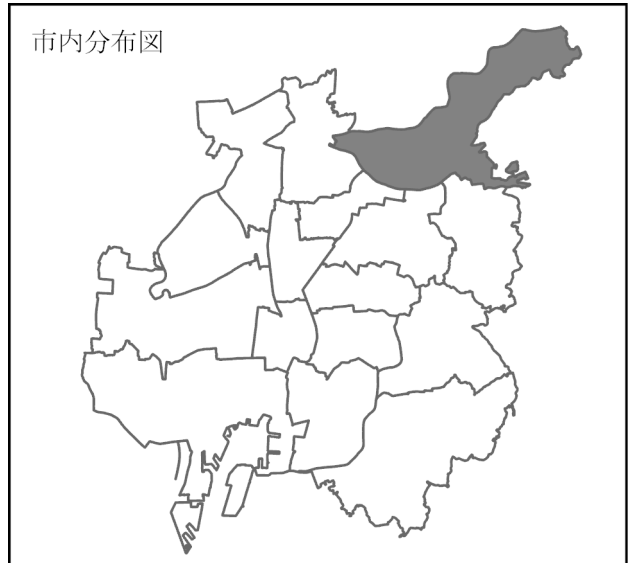
市内：1 守山区（上志段味庄内川、日比野修 4385, 1998-3-30, A）に生育している。

県内：木曽川、庄内川、矢作川、豊川、天竜川支流の河岸岩場に生育するほか、三河山地に点在しており、1（大尾、小林 43463, 1993-5-30）、2（分地、小林 42356, 1993-5-3）、3（明神山、小林 66004, 1999-5-1）、7（岩古谷山、芹沢 69001, 1994-4-26）、9（乗本、小林 50111, 1994-3-20）、10（只持、小林 50264, 1994-4-3）、11（守義、小林 56700, 1995-5-14）、12（川路豊川、芹沢 60958, 1992-4-9）、19 宇内戸、日比野修 2170, 1994-5-21）、20（月原、塚本威彦 1834, 1996-4-17）、37a（鹿乗町、日比野修 3342, 1996-5-5）、45（栗栖木曾川、芹沢 72788, 1996-4-26）などで確認されている。

国内：本州（近畿地方以北の主に太平洋側）、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

河岸の岩場や山地の岩場に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

カワラハンノキ（市 VU）やケイリュウタチツボスミレ（市 NT）と同様庄内川中流域の溪谷部には連続的に生育しており、その末端が僅かに名古屋市に達している。現在のところ特に減少してはいないが、護岸工事等があれば名古屋市からは容易に消滅してしまう。

保全上の留意点

名古屋市内では、他に本種が生育できそうな場所はない。生育地周辺で護岸工事や河川改修工事を行う場合には、配慮が必要である。

特記事項

ショウジョウスゲ *C. blepharicarpa* Franch. に似ているが、株はややまばらに叢生し、果胞の嘴は長く、口部は鋭い 2 歯となる。2004 年版では、ショウジョウスゲに含めて記述されている。

関連文献

保草本Ⅲp.263（ナガミショウジョウスゲとして）、平新版 1 p.325。
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.275. 文一総合出版, 東京..

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

ビロードスゲ *Carex miyabei* Franch.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 2、総点 13。湿草地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。長い匍匐枝を出し、小さい株をつくる。茎は高さ 30～60cm、無毛、基部の葉鞘は葉身がなく、一部が赤褐色を帯び、硬質で光沢があり、前面に赤紫褐色の糸網がある。葉は細い線形、幅 3～5mm である。果期は 5～6 月、小穂は上部の 2～4 個が雄性、線形で長さ 1.5～3cm、下部の 2～3 個は雌性、短い円柱形で有柄、長さ 2～4cm である。苞は葉状で、基部は鞘にならない。鱗片は紫色を帯びた赤褐色、果胞は楕円形、長さ 3～4mm、灰色の毛があり、嘴はやや長い。雌花の柱頭は 3 個である。

分布の概要

市内：1 守山区 (吉根庄内川, 村松 16128, 1995-5-7, A) に生育している。茎葉だけの標本だが、4 天白区 (相生山緑地, 芹沢 76769, 2000-6-10, A) にもそれらしいものがある。

県内：三河山地に点在するが、平野部の河川沿いにも稀に見られる。2 (下黒川, 小林 37459, 1992-5-30)、3 (古戸, 小林 37744, 1992-6-13)、4 (見出, 小林 37816, 1992-6-14)、6 (段戸山裏谷, 芹沢 82872, 2008-5-17)、5 (夏焼町, 村松 26882, 2013-6-15)、19 (有間, 小林 43127, 1993-5-22)、20 (香嵐溪, 芹沢 95119, 2019-5-11)、21 (平瀬, 芹沢 61364, 1992-5-23)、22 (川下町, 畑佐武司 9457, 2020-5-29)、24 (西広瀬町, 山崎玲子 1431, 1996-6-14)、32a (城町, 中村裕治 326, 1994-4-21)、46a (木曽川, 芹沢 65797, 1993-6-6)、53 (北方町, 芹沢 74534, 1998-5-10) など確認されている。25 (猿投山, 岡本英一 194, 1958-5-19) で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、九州。

世界：日本固有。種としては日本からインドまで分布している。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

湿地や河岸の砂地に生育する。名古屋市の生育地も、河川敷の砂地である。

現在の生育状況／減少の原因

吉根の庄内川河川敷に小群落があったという。最近の状況は確認されていないが、そのまま存続していると思われる。

保全上の留意点

生育地周辺で護岸工事や河川改修工事を行う場合には、配慮が必要である。

特記事項

守山区の庄内川河川敷は全域を精査したわけではない。ていねいに調査すれば、他の場所でも確認できる可能性がある。和名は果胞の毛に由来する。

関連文献

保草本Ⅲp.297, 平新版 1 p.336.

勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.350. 文一総合出版, 東京..

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

イソヤマテンツキ *Fimbristylis sieboldii* Miq.ex Franch. et Sav.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。沿海地に生育する植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は束生して直立し、高さ 15~40cm になり、基部の鞘は赤褐色である。葉は幅 1~1.5mm、無毛、下部のものは鞘のみに退化し、上部は次第に長くなるが、茎よりも短い。花期は 8~10 月、茎の先端に 1~5 個の小穂をつけ、小穂の柄は分枝しない。小穂は狭卵形~狭長楕円形、長さ 5~13mm、幅 2~3mm、濃褐色で光沢がない。果実はレンズ形で、濃褐色、やや平滑で、長さ 1~1.2mm である。

分布の概要

市内: 16 港区 (当知町庄内川河川敷、鈴木敏之 s.n., 2005-10-7, A; 金城ふ頭、芹沢 85131, 2009-10-3, A) に生育している。

県内: 沿海部に点在しており、14 (海陽町、芹沢 95643, 2019-8-28)、16 (杉山町、小林 64564, 1998-7-11)、17 (吉胡海岸、小林 53155, 1994-8-17)、29 (渡町矢作川、中西普佐子 1047, 1993-7-10)、34b (港南町、堀田善久 5397, 1996-8-13)、36 (吉良町白浜新田、芹沢 81053, 2006-9-21)、41b (新舞子地先、浅野守彦 2069, 2006-8-23)、42b (阿久比川、芹沢 95904, 2019-9-29)、42c (竜宮、岡田美之 1012, 1996-9-11)、43 (りんくう町、芹沢 87156, 2011-7-16)、44a (野間、福岡義洋 4642, 1999-7-19)、44b (日間賀島、芹沢 83434, 2008-10-3)、57b (立田村木曽川、鈴木秀樹 3075, 1996-8-18)、58b (上野、芹沢 72429, 1995-10-12) など確認されている。

国内: 本州 (千葉県・石川県以西)、四国、九州、琉球。

世界: 日本および朝鮮半島南部。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

海岸のやや湿った砂地や沿岸部の低湿地に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

やや攪乱された場所に生育することが多い植物で、名古屋市域ではおそらく出現と消失をくり返しているものと思われる。金城ふ頭の生育地は埋立地で、ここだけ見れば生育環境階級は 2 になる。庄内川では近況が確認されていない。

保全上の留意点

金城ふ頭の現自生地は、土地利用が進めば、そのうちに消失すると思われる。個別的な対策よりも、河口域の自然環境の全体的な保全が重要である。

関連文献

保草本Ⅲp.235, 平新版 1 p.349.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

イガクサ *Rhynchospora rubra* (Lour.) Makino**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。湧水湿地やその周辺に生育する植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は束生して直立し、高さ 25~70cm になる。葉は根生し、線形、幅 1~3mm である。花期は 8~9 月、花序は茎の先端に 1 個つき、球形~半球形で直径 1.2~1.8cm、基部には葉状で長さ 1~12cm の苞が数個ある。小穂は長さ 6~7mm、淡黄褐色、果実は倒卵形で、長さ 1.5~1.1mm、刺針状花被片は果実の半長ほどの長さで、上向きにざらつく。

分布の概要

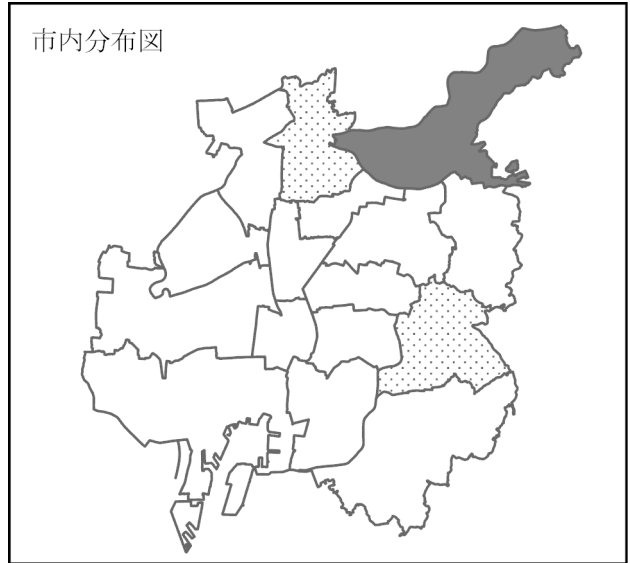
市内: 1 守山区 (下志段味滝の水池, 村松 30873, 2019-10-10, N; 大森八竜新池, 柴田美子 s.n., 2009-9-27, N) に生育している。4 天白区 (天白町平針, 犬飼 清 s.n., 1967-9-16, A) 12 北区 (旧北練兵場跡, 犬飼 清 s.n., 1954-8-10, A) で採集された標本もある。

県内: 丘陵地に点在しており、12 (中宇利, 芹沢 52996, 1989-9-1)、15 (佐藤町, 芹沢 53548, 1989-9-25)、16 (野依町, 芹沢 56311, 1990-8-9)、17 (野田, 芹沢 53633, 1989-9-27)、18 (初立ダム, 小林 48317, 1993-10-3)、23 (深見, 芹沢 53446, 1989-9-22)、25 (太平町, 畑佐武司 2267, 2001-8-8)、27 (福谷, 芹沢 62569, 1992-8-23)、28 (樫山, 芹沢 56342, 1990-8-9)、37a (掛下町, 日比野修 577, 1992-7-29)、37b (新居, 芹沢 53824, 1989-10-10)、38a (熊張, 半田多美子 592, 1992-9-4)、38b (岩藤新田, 伊藤恭子 499, 1992-8-15)、39a (諸輪, 半田多美子 1754, 1994-10-4)、42c (二ツ峰, 芹沢 56632, 1990-8-27)、43 (大谷, 芹沢 77615, 2001-9-13)、44a (布土, 芹沢 56659, 1990-8-27)、48 廻間町, 山田果与乃 222, 1997-6-24) などで確認されている。

国内: 本州西部、四国、九州、琉球。

世界: 日本からインド、オーストラリアにかけて分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

平地や丘陵地の日当たりのよい湿った草地に生育する。愛知県では湧水湿地の中の、やや乾いた場所に多く生育している。

現在の生育状況／減少の原因

やせ山の中の湿った場所に、ややまばらに生育している。他の場所にもありそうに思われるが、現在のところは 2 カ所で確認されているだけである。

保全上の留意点

生育地の地形を保全することが必要である。

特記事項

名古屋市には本属の他の植物としてミカヅキグサ、イヌノハナヒゲ、イトイヌノハナヒゲ、コイヌノハナヒゲの 4 種が生育しているが、いずれも湧水湿地の指標植物として重要である。

関連文献

保草本Ⅲp.252, 平新版 1 p.354.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

マツカサススキ *Scirpus mitsukurianus* Makino

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県西部分布階級 1、総点 12。低湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全 国 2025	—

形態

多年生草本。茎は束生して直立し、高さ 1～1.5m となり、鈍い 3 角形、5～7 個の節がある。葉は線形、幅 4～8mm、葉鞘は長さ 3～10cm である。花期は 8～10 月、散房花序は頂生および側生し、頂生の分花序は大きく、長さ 5～10cm、苞は葉状で、花序よりも長く 3～5 枚つく。小穂は無柄、楕円形で長さ 4～6mm、褐色～赤褐色、10～20 個がかたまって径 1～1.5cm の球状の花序となる。果実は長さ約 1mm、淡褐色、刺針状花被片は長さ約 5mm である。

分布の概要

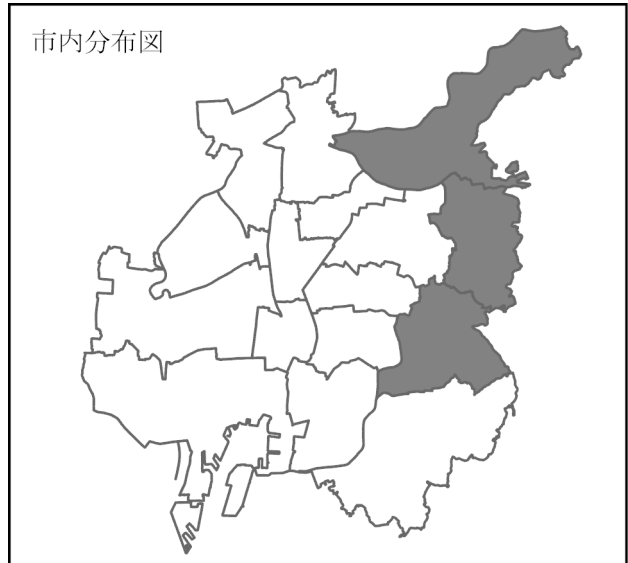
市内：1 守山区（上志段味新池、鳥居ちゑ子 2752, 2009-9-29, A; 下志段味愛知用水、渡邊幸子 5825, 2008-9-13, N）、2 名東区（猪高緑地、芹沢 78209, 2002-10-4, A）、4 天白区（御前場町、中島ひろみ 118, 2018-7-15, N）に生育している。

県内：県 GDB2017 p.243 参照。名古屋市のほか、豊田東部、みよし、岡崎北部、安城、長久手日進、半田武豊、美浜南知多、春日井、岩倉西春日井、一宮西部、津島愛西などで確認されている。東三河では現在のところ発見されていない。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

平地や丘陵地の湿地に生育する。愛知県では休耕田やため池の周辺などに生育していることが多い。

現在の生育状況／減少の原因

守山区では 3 カ所に生育していたが、そのうち下志段味吉田では耕地整理のため絶滅した。才井戸流にもかなりの個体数があったが、開発により激減した。名東区では猪高緑地に小群落がある。

保全上の留意点

ため池の周辺などに残存する低湿地的環境を保全することが必要である。

特記事項

やや貧栄養の湿地に生育するコマツカサススキに比べ、花序はやや小さく、多数つく。

関連文献

保草本Ⅲp.220, 平新版 1 p.359.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) イネ科>

ヌマカゼクサ *Eragrostis aquatica* Honda

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、補正+1 (分布の限界)、総点 13。干上がった溜池の岸に生育する植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。名古屋市では生育できる環境が減少している。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。根茎はない。稈は束生し、基部は地表を放射状に広がり、上部は斜上または直立し、長さ 20~50cm になる。葉身は線形、長さ 5~20cm、幅 2~5mm、質はやや硬く、葉舌は退化して微毛の列となり、葉鞘の口部には長毛がある。花期は 9 月、円錐花序は長さ 8~15cm、枝は斜上し、小穂は灰色がかった暗紫色で扁平、長さ 5~15mm、幅 1.3~1.7mm、7~22 個の小花が密に 2 列に並ぶ。側小穂の柄は短く、枝からあまり開出しない。

分布の概要

市内: 1 守山区 (上志段味大久手池、芹沢 75213, 1998-10-11, A) に生育している。1994 年以前では、森林公園 (芹沢 53829, 1989-11-10) でも採集されている。5 緑区 (鳴海町笹塚、渡邊幸子 1916, 1994-10-9, A) にも生育していたが、コンクリート歩道ができて、名古屋市側では消滅した。

県内: 尾張とそれに接した西三河西部の丘陵地には比較的多いが、他の場所にはなく、平野部にも生育していない。27 (愛知池、岡本沙矢香 539, 2001-9-21)、32a (井ヶ谷町、芹沢 70767, 1994-9-10)、37b (新居、村松 30878, 2019-10-11, N)、38b (愛知池、岡本沙矢香 712, 2001-10-11)、39a (愛知池、芹沢 77634, 2001-9-17)、39b (西川町、浅野守彦 970, 2000-8-19)、41b (佐布里池、鳥居ちゑ子 2504, 2006-9-15)、42b (岩滑、中井三従美 s.n., 1988-11-25)、45 (塔野地、芹沢 70928, 1994-9-20)、48 (大泉寺町、芹沢 75091, 1998-9-30) など確認されている。

国内: 本州 (東海地方以西)、四国。

世界: 日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

愛知県では、秋期水を落とされて干上がったため池の岸に特徴的に出現する。

現在の生育状況／減少の原因

守山区では志段味地区の溜池に見られ、1990 年代に調査した時には個体数も比較的多かったが、その後の状況は十分確認されていない。集団数階級と個体数階級は推定である。溜池の水質の悪化や、管理が行われなくなり、水の引かない年が増加していることなどによる影響が懸念される。

保全上の留意点

ため池を維持し、水質を保全するとともに、秋期の水抜きなど適切な管理を継続することが必要である。

特記事項

名古屋市内で採集された標本などをもとに記載された植物である。

関連文献

保草本Ⅲp.333, 平新版 2 p.70, SOS 旧版 p.99+図版 23.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.484-485. 平凡社, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イネ科>

ハイチゴザサ *Isachne nipponensis* Ohwi

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。愛知県全体ではやや普通に見られる植物だが、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

小型の多年生草本。稈は繊細で緑色、基部は長くはい、分枝する。葉は互生し、葉身は薄く、長さ 1.5~3cm、幅 4~10mm で先端は短く鋭くとがり、両面にまばらに長毛がある。花期は 9~10 月、稈の先端に広卵形で長さ 3~6cm の円錐花序をつける。花序の枝は細く、まばらに同形、同大の両性の 2 小花からなる小穂をつける。小穂は長さ約 1.5mm、円頭で、上半部にまばらにふぞろいな直毛がある。

分布の概要

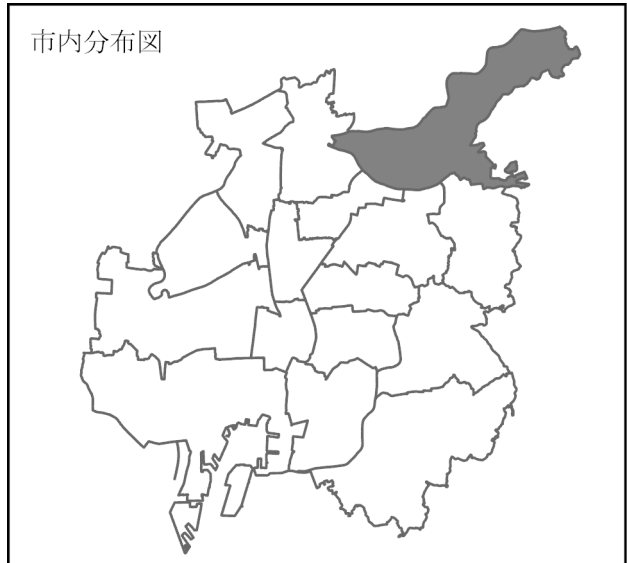
市内：1 守山区（上志段味東谷，村松 30761, 2019-8-21, N）に生育している。

県内：低山地の湿った場所に広く生育しており、3（大入川，芹沢 104408, 2024-9-21）、9（睦平～阿寺，瀧崎 14642, 1993-9-12, T）、10（愛郷，小林 49075, 1993-10-24）、13（長沢，瀧崎 18093, 2000-9-18, T）、15（多米東町，瀧崎 11903, 1990-9-18）、16（高塚町，小林 40598, 1992-11-23）、17（大久保町，瀧崎 25017, 2008-11-23, T）、19（浅野，日比野 修 1715, 1993-8-28）、20（追分，芹沢 71050, 1994-9-23）、23（北一色，山崎玲子 691, 1993-10-3）、24（西広瀬町，芹沢 68225, 1993-10-1）、25（猿投山，土場トシ子 667, 1994-10-22）、28（鹿勝川，芹沢 57184, 1990-9-21）、29（小美町，伊奈知子 1095, 1993-10-5）、30（羽栗町，芹沢 70985, 1994-9-22）、31（深溝，芹沢 72392, 1995-10-9）、36（東幡豆，壁谷重美子 1160, 1994-10-5）、37a（定光寺町，芹沢 104369, 2024-9-18）、45（栗栖木曾川，佐分康之 1135, 1996-9-12）、47（大山，村瀬正成 A361, 1992-9-5）、48（外之原町，芹沢 68556, 1993-10-5）などで確認されているが、標本の蓄積はやや不十分である。

国内：本州（関東以西）、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島南部、中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

湿潤で平坦な場所に、地表を覆うように生育する。名古屋市では日当たりの良い通路沿いに生育している。

現在の生育状況／減少の原因

東谷山山麓の一部に市内で唯一の集団が確認されている。この場所では 10m²以上に広がっており個体数も多いが、匍匐する傾向が強い植物であることから、個体数階級は 2 として評価した。通路沿いに生育しているので、無意識に踏まれたり、刈り取られたりする恐れがある。

保全上の留意点

管理作業等の際には注意が必要である。

特記事項

本種に近縁なチゴザサは湿地などで増加し他の湿地性植物を被圧するため、管理対象とされている。しかし本種は地をはうように生育しており、他種への影響は大きくない。

関連文献

保草本Ⅲp.360, 平新版 2 p.176.

長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.652. 平凡社, 東京.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イネ科>

ワセオバナ *Saccharum spontaneum* L. var. *arenicola* (Ohwi) Ohwi**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 13。名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。やや太い根茎がある。稈は束生し直立、高さ 1m 以上となり、上部には白色の軟毛が密生する。葉は互生し、葉身は長さ 30～70cm、幅 4～6mm、質は硬く、中脈は白色で幅広い。葉鞘の辺縁と口部には長毛があり、葉舌は高さ 2～3mm である。花期は 8～9 月、円錐花序は長さ 20～40cm、多数の直立する総をつける。総は多数の関節からなり、熟すと折れやすい。小穂は有柄と無柄のものが対になってつき、長さ 4～5mm で、基部に多数の長い白毛がある。

分布の概要

市内：15 中川区（水里、芹沢 83567, 2008-10-12, A）に生育している。14 中村区（横井町庄内川、鈴木秀樹 3343, 1996-9-15, A）にも生育していた。

県内：豊川から渥美半島にかけてと濃尾平野に分布する。13（甘子町、小林 58156, 1995-9-26）、16（細谷町、小林 54358, 1994-10-3）、17（豊島、小林 54086, 1994-9-24）、18（伊良湖、芹沢 80805, 2006-8-24）、49d（新川町庄内川、芹沢 64350, 1992-10-21）、53（北方町木曽川、鈴木秀樹 3306, 1996-9-15）、57b（内佐屋町、芹沢 102748, 2023-9-24）、58b（小島新田木曽川、芹沢 63437, 1992-9-15）などで採集された標本がある。

国内：本州南部の太平洋岸に分布する。

世界：日本固有。基準変種のナンゴクワセオバナ var. *spontaneum* は旧大陸の熱帯、亜熱帯に広く分布し、九州南部まで見られる。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

愛知県では河川堤防の草地に生育していることが多い。中村区の生育地も堤防であった。

現在の生育状況／減少の原因

中川区では土手状の場所に小群落がある。中村区では庄内川の堤防に小群落があったが、堤防の改修により失われた。

保全上の留意点

庄内川は堤防上の道路の交通量が多く、全域をていねいに調査することができない。どこかに残存している可能性もあるので、更に注意して探索する必要がある。

特記事項

サトウキビと同属で、稈には僅かに甘味がある。

関連文献

保草本Ⅲp.338, 平新版 2 p.94.

長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.670-671. 平凡社, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イネ科>

シダミコザサ *Sasa samaniana* Nakai var. *yoshinoi* (Koidz.) S.Suzuki f. *hidejiroana* (Koidz.) S.Suzuki**評価理由**

個体数階級 1、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、県西部分布階級 3、総点 12。本地域から記載された植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	絶滅危惧Ⅱ類
全 国 2025	—

形態

一部常緑性。地下茎は横走する。稈は直立し、高さ 40～60cm、通常分枝せず、節はややふくらみ、密に長毛がある。新稈は初夏に出て、稈鞘にも密に毛がある。葉は稈の先端に 3～5 枚つき、長さ 2～5mm の柄があり、葉身は長楕円状披針形、長さ 13～20cm、幅 2.2～4cm、先端は鋭先端、基部は広いくさび形、やや厚い紙質、下面に軟毛が密生し、葉鞘は無毛である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷山、芹沢 84160, 2009-6-9, A）に生育しており、ここが基準標本産地である。

県内：県 RDB2020 p.460 参照。名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、春日井に生育している。

国内：詳細はよくわからない。基準品種のビッチュウミヤコザサは、本州（東日本では太平洋側）、四国、九州に生育する。

世界：日本固有。変種としても、また種としても、日本固有である。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

丘陵地の二次林内に群落を作って生育する。

現在の生育状況／減少の原因

ササ類のものとしては小規模だが、尾根近くにある程度の大きさの群落がある。沢沿いにも小群落がある。当面は現状のまま存続するものと思われるが、道路の拡幅により群落が削られる可能性があり、森林化の進行により、被陰されて衰退することもあると考えられる。

保全上の留意点

生育地の個別的な保全が必要である。保全のためには、道路の拡幅等を行うときに十分注意すること、常緑低木が繁茂する場合にはそれを除去することなどが必要である。

特記事項

一般にはビッチュウミヤコザサの節に毛がある型とされている。基準変種のアポイザサは、葉鞘にも毛がある。ミヤコザサとは、稈鞘と節に毛があることで異なる。これだけの差ならば、実際にはミヤコザサの品種にすぎないであろう。しかし、温帯性のミヤコザサ系の植物が名古屋市の丘陵地に生育しているという点では注目に値する。愛知県のものに限れば、シダミコザサに当たるものはミヤコザサに比べ、多少葉質が厚い傾向がある。

関連文献

保木 II p.389, SOS 旧版 p.101.
鈴木貞雄. 1978. 日本タケ科植物総目録 p.230. 学習研究社, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) ケシ科>

クサノオウ *Chelidonium majus* L. subsp. *asiaticum* H.Hara**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 13。愛知県全体ではやや普通に見られる植物だが、名古屋市では減少傾向が著しく、近年生育が確認された場所は極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

越年生草本。高さ 30~80cm になる。葉は互生し、下方の葉には柄があり、葉身は卵形、長さ 7~17cm、幅 5~10cm、先端は鈍頭、鈍頭または円頭の小葉に分裂し、小葉は更に羽状に切れ込む。花期は 5-7 月、葉腋につく有柄の散形花序に数花をつけ、花は黄色、萼片は長さ 6~8mm、花弁は 4 個で長さ 10-12mm である。蒴果は直立し、長さ 30-40mm、線形で不規則な凹凸がある。

分布の概要

市内: 4 天白区(平針黒石、中島ひろみ 19, 2018-4-19, N) に生育している。1 守山区(小幡北山、太田由美子 75, 1993-4-25, A)、14 中村区(城屋敷町、鶴岡佐知子 365, 1993-6-1, A) で採集された標本もある。

県内: 山地、丘陵地の人里周辺などに広く生育しており、多くはないが平野部にも見られる。1 (大谷、小林 42352, 1993-4-11)、古真立、芹沢 101256, 2023-4-23)、6 (田峯、石川静雄 71, 1993-4-4)、7 (平山、榊原利修 712, 1992-6-26)、8 (門谷、芹沢 100999, 2022-10-19)、10 玖老勢椎平、芹沢 65637, 1993-5-28)、13 (江島町、瀧崎 25142, 2009-4-12, T)、15 (嵩山町、芳山朋子 436, 1984-5-2)、20 (上佐切、鈴木万里亜 780, 1995-8-7)、21 (東大沼、長谷川朋美 173, 1992-4-18)、22 (西萩平、伊藤泰輔 61, 1992-9-15)、23 (上川口、日比野修 1061, 1993-5-1)、24 (富田町、佐藤久美子 209, 1993-4-20)、25 (猿投町、芹沢 95069, 2019-4-20)、26 (畝部東町、石川 敏 234, 1993-5-15)、28 下衣文、福岡義洋 278, 1990-4-12)、29 (奥殿町、杉田一記 1971, 2011-6-20)、30 (桑谷町、本多さおり 68, 1994-4-9)、31 (坂崎、金子律子 380, 1995-5-7)、35 (室町、堀田善久 4101, 1995-6-18)、36 (東幡豆、壁谷重美子 109, 1994-4-5)、37a (屋戸町、日比野修 417, 1992-6-23)、37b (平子町東、村松 21108, 2002-3-26)、43 (久米、梅田零奈 445, 2000-6-24)、44b (内海楠、大西 博 423, 1992-5-11)、45 (栗栖、平嶋 敏 212, 1989-4-5)、46a (木曽川、上山秀郎 178, 1993-7-9)、47 (久保一色、村瀬正成 930039, 1993-4-3)、48 (内津町、山田果与乃 1969, 2013-4-29)、49c (師勝町熊之庄、鈴木幸子 202, 1992-9-4)、54 (奥町木曽川、渡邊幸子 5332, 2003-5-20)、55 (矢合町、水野峰子 401, 1994-6-26)、57b (町方町、村松 33170, 2022-6-10, N) など確認されている。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 東アジア。基準亜種は西アジアからヨーロッパにかけて分布する。

生育地の環境／生態的特性

日当たりの良い林縁、草地に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

生育状況は未確認。個体数階級は推定である。上記のほか 2022 年に守山区八竜緑地に隣接する宅地造成地で樹林の伐採が行われ、その場所で 1~2 個体の生育が確認できたが、翌年には藪化した草地に埋もれて消えてしまい、標本を採取できなかった。名古屋市市内では、本種が生育できるような環境そのものが減少している。

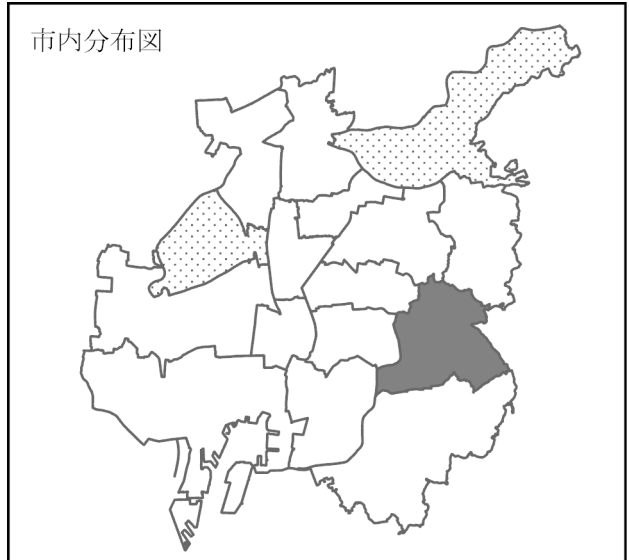
保全上の留意点

現実問題としては困難かもしれないが、生育地の日当たりを維持しつつ藪化を防止する必要がある。

関連文献

保草本Ⅱp.195, 平新版 2 p.103.

市内分布図



(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) キンボウゲ科>

ボタンヅル *Clematis apiifolia* DC.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

草本性のつる植物。茎は長く伸びて他物にからみつく。葉は夏緑性、対生して長さ 2~13cm の柄があり、葉身は 1 回 3 出複葉、小葉は狭卵形~広卵形、長さ 2~8cm、幅 1~7cm、辺縁には欠刻状の大きい鋸歯がある。花期は 8~9 月、葉腋から集散花序を出して数個~10 個の花をつける。花は直径 1.5~2cm、がく片は 4 個で平開し、白色、倒長卵形、幅 1.5~4mm である。そう果は長さ 2~4mm、残存花柱は長さ 1cm 程度で、長い白毛がある。

分布の概要

市内：天白区（天白溪，長谷川 26, 2019-11-15, N；菅田三丁目，中島ひろみ 290, 2018-10-20, N）に生育している。

県内：三河山地には広く分布しており、丘陵地にも多くはないが生育している。1（川上，芹沢 98930, 2021-9-5）、2（間黒，加藤等次 3442, 1993-8-2）、3（本郷，芹沢 62448, 1992-8-15）、4（白鳥山，石田雄吉 114, 1979-8-10）、6（川向，芹沢 83004, 2008-8-23）、7（神田，芹沢 63104, 1992-9-4）、9（七郷一色，芹沢 59951, 1991-8-25）、13（萩，瀧崎 19068, 2001-8-29, T）、14（五井町，井上美保子 911, 1993-8-1）、15（石巻，加藤等次 215163, 1996-8-7）、17（姫島，瀧崎 23841, 2008-4-27, T）、18（長沢，小林 47038, 1993-8-28）、5（林道月ヶ平線，鈴木 学 1555, 1983-7-29）、19（坪崎，塚本威彦 686, 1993-8-1）、20（下国谷，鈴木万里亜 921, 1995-9-9）、21（梶，芹沢 62362, 1992-7-30）、22（家洞，日比野修 2527, 1994-8-27）、23（三箇，日比野修 3087, 1995-8-25）、24（国附町，山崎玲子 610, 1993-8-17）、25（加納町，山崎玲子 928, 1994-8-31）、28（鳥川，福岡義洋 1096, 1990-8-9）、30（鉢地町，本多さおり 682, 1994-9-1）、37a（上品野町，日比野修 746, 1992-8-31）、44b（西村，畑佐武司 1128, 2000-4-29）、45（八曽，松田ちか子 708, 1986-8-21）、46a（木曽川，芹沢 67470, 1993-9-5）などで確認されている。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

林縁に生育していることが多い。

現在の生育状況／減少の原因

現在のところ開花状態の標本は得られていないが、天白溪でも菅田を含む相生山緑地でもある程度の大きさになった群落がある。早急に開花した標本を作成する必要がある。

保全上の留意点

生育地の林を保全する必要がある。多少の藪払いならば、茎が切断されても、それで枯死することはないと思う。

特記事項

2020 年版レッドリストでは希少偶産種として掲載した。葉が 2 回 3 出複葉になるものはコボタンヅル var. *bitermata* Makino と呼ばれ、名古屋市ではそれらしいものが 2 名東区（徳川町，長谷川 114, 2021-7-19, N）に生育しているが、まだ開花は確認されていない。

関連文献

保草本Ⅱp.227, 平新版 2 p.145.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) マンサク科>

マンサク *Hamamelis japonica* Siebold et Zucc.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。もともとは山地～丘陵地に多い樹木であったが、病害により激減した。名古屋市でもわずかに残存しているだけである。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の垂高木または高木。高さ 5～10m になる。葉は互生し、長さ 5～15mm の柄があり、葉身はひし形状円形、倒卵円形または倒卵状楕円形、長さ 5～10cm、幅 3.5～7cm、先端は鈍頭のものから短く尾状に尖るものまで変異があり、基部はゆがんだ浅い心形、両面に星状毛が散生し、側脈は 6～7 本で平行に斜上し、波状の鋸歯がある。花期は 3～4 月、早春葉が展開する前に咲き、花弁は黄色、線形で長さ 10～13mm である。果実は楕円形、長さ 10～13mm、種子は黒色で光沢がある。

分布の概要

市内：4 天白区（高島，渡邊幸子 5122, 2002-6-20, N）に生育している。1 守山区（吉根太鼓ケ根，芹沢 88396, 2013-5-15, A など）にも生育していた。

県内：少し前までは県内の山地～丘陵地に普通に見られ、早春の山が黄色になるくらい群生している場所も少なくなかった。2（川宇連，加藤等次 3112, 1993-6-8）、4（白鳥山，石田雄吉 158, 1979-7-6）、6 段戸山裏谷，芹沢 89579, 2014-9-6）、7（長江，芹沢 63577, 1992-9-18）、13（千両町，小林 40793, 1993-3-6）、14（坂本町，井上美保子 963, 1994-2-20）、15（雲谷町，名倉智道 1, 1992-2-29）、17（赤羽根町高松，小林 49992, 1994-2-13）、58 月ヶ平，芹沢 62858, 1992-8-29）、19（坪崎，芹沢 63149, 1992-9-8）、20（中立，新井文子 226, 1994-3-11）、22（大洞，伊藤泰輔 162, 1993-4-4）、24（西広瀬町，芹沢 65349, 1993-5-21）、25（猿投山，磯貝彰宏 745, 1984-3-27）、28（千万町，原田 勉 61, 1993-3-20）、29（小美町，芹沢 71400, 1995-3-18）、30（羽栗町，本多さおり 6, 1994-3-16）、31（大草，金子律子 1, 1995-2-27）、37a（定光寺町，日比野修 497, 1992-7-13）、45（八曽，松田ちか子 100, 1986-3-26）、47（大山，村瀬正成 10024, 1994-3-12）、48（木附町～玉野町，福岡義洋 2403, 1993-5-8）などで確認されているが、平野部にはなく、知多半島でも見えない。3（振草，恒川敏雄 13, 1945-10-16, T）で採集された標本もある。

国内：本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。北海道南西部から本州日本海側にかけては、変種のマルバマンサク *var. obtusata* Matsum. が分布している。

世界：日本固有種。

生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地の二次林の構成種である。

現在の生育状況／減少の原因

天白区の島田緑地には数株が生育しているが、最近市内で現存が確認できた場所はここだけである。守山区では 2 カ所に小群落があったが、最近では確認されていない。芹沢 88396 はあたりに成木が見当たらず、やむを得ず幼木の枝を採取したもので、最近この辺りを調査した人の話では幼木も見当たらなかったという。もともとはあちこちに生育していたが、丘陵地の開発により、現在の状態に至ったものと思われる。近年は病害に加えて、竹林などの繁茂による被陰も減少の要因になっている。

保全上の留意点

病害対策を含めて、個別的な保全が必要である。

特記事項

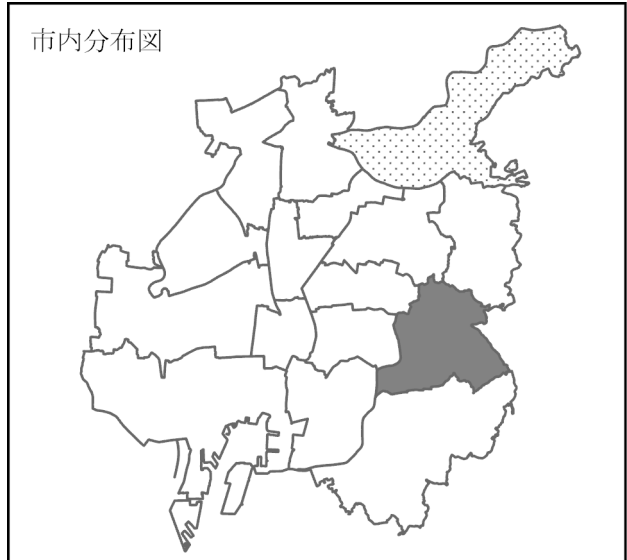
和名は、春早く「まず咲く」からだとも言われるし、枝いっぱいにつけるからだとも言われる。

関連文献

保木本Ⅱp.133, 平新版 2 p.186.

(芹沢俊介)

市内分布図



維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ユキノシタ科>

ヤマネコノメソウ *Chrysosplenium japonicum* (Maxim.) Makino**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。愛知県全体では比較的多い植物であるが、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

小型の多年生草本。走出枝はなく、茎の基部に楕円形の殖芽をつける。根出葉は長さ 3～6cm の柄があり、葉身は円腎形、長さ 7～20mm、幅 10～25mm、基部は心形、辺縁には低平な鋸歯があり、両面ほぼ無毛である。茎は 1～数本束生し、高さ 10～15cm、1～2 枚の茎葉を互生する。花期は 3～4 月、花序は茎の先端につき、苞葉を含めて直径 2.5～5.5cm、黄緑色の花を 5～10 個つけ、苞葉は小さい葉と同形だが基部は広くさび形となる。

分布の概要

市内: 1 守山区 (竜泉寺, 長谷川 273, 2022-2-26, N)、14 中村区 (日比津町, 村松 31933, 2021-4-9, N) に生育している。

県内: 山地～丘陵地の沢沿いに多く、平野部の河川岸等にも見られる。2 (大入溪谷, 加藤等次 2883, 1993-5-11)、7 (平山, 榊原利修 206, 1992-4-6)、8 (鳳来寺山, 加藤等次 1065, 1992-3-24)、12 一鉄田, 加藤等次 1161, 1992-4-12)、13 (豊川市豊川, 加藤等次 2636, 1993-3-21)、15 (豊橋公園, 小林 63287, 1998-3-7)、5 (小田木町, 芹沢 101083, 2023-3-27)、19 (駒山, 塚本威彦 518, 1993-5-8)、20 (上佐切, 鈴木万里重 146, 1995-4-13)、21 (平瀬, 芹沢 60997, 1992-4-18)、22 (東市野々, 日比野修 1900, 1994-4-6)、23 (上川口, 日比野修 3291, 1996-4-17)、24 (東広瀬町, 佐藤久美子 17, 1993-3-29)、28 (片寄, 福岡義洋 198, 1990-4-6)、29 (切越町, 芹沢 64575, 1993-4-15)、30 (桑谷町, 本多さおり 179, 1994-4-30)、35 (家武町, 小林 59310, 1996-5-5)、37a (上半田川町, 村松 32951, 2022-5-5, N)、44b (岩屋, 鳥居ちゑ子 2062, 2002-3-31)、45 (栗栖, 村松 25129, 2010-5-8)、46a (木曽川, 佐分康之 97, 1996-4-6)、47 (野口, 村瀬正成 10283, 1994-4-15)、48 (内津町, 山田果与乃 1080, 2004-4-10)、53 (光明寺, 伊藤静江 136, 1991-4-1)、54 (尾西市木曽川, 渡邊幸子 3749, 1999-4-17)、57a (津島神社, 芹沢 96520, 2021-3-31) などで確認されているが、東三河は標本の集積がやや不十分である。

国内: 北海道西南部、本州、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

沢沿いなどの湿潤な林下や林縁に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

竜泉寺では庄内川沿いの林下や崖地からの小沢沿いに 5～10 株が生育している。中村区では庄内川の川岸に 1～2 株が生育していただけらしい。

保全上の留意点

竜泉寺の生育地は市内では稀な崖地やそこからの小沢が残る場所であり、このような環境を全体として残していく必要がある。

関連文献

保草本Ⅱp.139, 平新版 2 p.204.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）ベンケイソウ科>

ツメレンゲ *Orostachys japonicus* (Maxim.) A.Berger

評価理由

個体数階級 1、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県西部分布階級 4、総点 13。愛知県では希少な、岩崖地性の植物である。名古屋市のものは移入の可能性が否定しきれないが、それを考慮しても保全の必要性が高い。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	準絶滅危惧

形態

1 回開花性の多年生草本。根茎はない。葉は密生し、夏には直径 12cm に達するロゼットをつくり、ロゼット葉は多肉質で披針形、長さ 2.5～6cm、幅 5～15mm、緑色または白色を帯びた緑色、先端は鋭頭で短針がある。冬のロゼットの葉は夏のものより小さく、先は硬くなり針状にとがる。花期は 10～11 月、ロゼット中央の軸の上方に円錐状の高さ 8～30cm の花序をのぼし、密に白色の花をつける。花弁は 5 枚で披針形、長さ 5～6mm である。

分布の概要

市内：7 中区（名古屋城、田崎 晶 1, 1997-11-6, A）に生育している。

県内：県 RDB2020 p.612 参照。名古屋市のほか、東三河の 4 区画、尾張の 1 区画に生育しているが、西三河では現在のところ確認されていない。名古屋城のものを移入と見なし除外すれば、愛知県での評価は絶滅危惧Ⅱ類になる。

国内：本州（関東地方以西）、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

日当たりのよい岩上に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

名古屋城では石垣に大きな群落がある。生育状態も良好である。真の自生ではないかもしれないが、県内では最大の群落である。昔から園芸的に珍重され、集中的に採取されることが多い植物であるが、名古屋城の場合はあまりにも人目につくので、かえって保全されている。

保全上の留意点

文化財として保護されている場所であるため、強力な除草剤の使用などがなければ、当面は現状通り存続するものと思われる。ただし県内の他の場所では、園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

特記事項

和名は、細く尖った葉が動物の爪に似ているからである。

関連文献

保草本Ⅱp159, 平新版 2 p.220, SOS 旧版 p.55, SOS 新版 p.43.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) マメ科>

ホドイモ *Apios fortunei* Maxim.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。特に自然度の高い場所に生育する植物というわけではないが、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

つる性の多年生草本。地下に球形～紡錘形の塊根をつける。葉は互生し、長さ 3～6cm の柄があり、葉身は奇数羽状複葉、小葉は通常 5 枚、頂小葉は卵形～広卵形、長さ 5～10cm、先はやや尾状に伸びて鈍端となる。花期は 7～9 月、花序は長く伸び、花は黄緑色、旗弁は長さ 7～8mm、竜骨弁は内側に曲がる。豆果は長さ 6～8cm、無毛で、5～6 個の種子を入れる。

分布の概要

市内：1 守山区(吉根仲田, 村松 32594, 2021-9-7, N など)に生育している。

県内：東三河と西三河の山地では、どこにでもあるというわけではないが点在する。しかし尾張では少ない。2 (大立, 加藤等次 4631, 1994-7-30)、6 (東納庫, 芹沢 76222, 1999-8-30)、7 (和市, 芹沢 62316, 1992-7-28)、8 (富栄, 芹沢 62435, 1992-8-15)、10 (塩瀬, 小林 46377, 1993-8-9)、11 (高松, 芹沢 67060, 1993-8-23)、13 (江島町, 瀧崎 25886, 2009-9-13)、15 (嵩山町, 芹沢 44699, 1986-9-8)、18 (長沢, 小林 42027, 1993-8-28)、5 (押山, 小林 45947, 1993-8-3)、21 立岩, 芹沢 62389, 1992-7-30)、22 (大平, 日比野修 3120, 1995-9-9)、23 (北曾木, 日比野修 657, 1992-8-11)、24 (西広瀬町, 芹沢 67185, 1993-8-27)、25 (猿投山, 土場トシ子 197, 1992-8-30)、28 (大代, 福岡義洋 1196, 1990-8-23)、30 (舞木町, 芹沢 98281, 2021-7-11)、37a (海上町, 芹沢 76195, 1999-8-23)、41a (大田町, 岡島錦也 520227, 1988-8-20)、47 (大山, 村瀬正成 930442, 1993-8-31)、48 (細野町, 芹沢 66916, 1993-8-13)、55 (矢合町, 水野峰子 452, 1995-7-25) など確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本および中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地の日当たりのよい林縁に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

2ヶ所で確認されているが、個体数はわずかである。

保全上の留意点

林縁に生育するつる植物なので、現実問題として保全は難しい。他に自生地がないか、更に探索する必要がある。

特記事項

地下の塊根は食べられる。

関連文献

保草本Ⅱp.177, 平新版 2 p.256.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) マメ科>

カワラケツメイ *Chamaecrista nomame* (Makino) H. Ohashi**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、補正 +1 (帰化競合)、総点 12。攪乱地に生育する植物で、名古屋市ではかつては普通に見られたと思われるが、近縁の帰化植物との競合が著しい。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

一年生草本。茎は高さ 25~60cm になる。葉は互生し、短い柄があり、その上部に楕円形の蜜腺がある。葉身は線状披針形、長さ 3~8cm、小葉は 15~35 対つき、披針形~線状楕円形で鋭頭、長さ 5~10mm、幅 1~1.5mm である。花期は 8~10 月、花序は葉腋のやや上から出て 1~2 個の花をつける。花弁は黄色で倒卵形、4 枚は同形で長さ 5~6mm、下方の 1 枚は他よりやや大きい。豆果は扁平で細い平行四辺形、長さ 3~4.5cm、熟すと黒褐色になる。

分布の概要

市内：1 守山区 (上志段味、渡邊幸子 5832, 2008-9-27, N; 吉根、芹沢 93401, 2017-9-20, A) で確認されている。4 天白区 (植田山、西川勇夫 244, 1992-8-16, A; 道明町天白川堤、渡邊幸子 649, 1992-9-23, A) で採集された標本もある。

県内：山間部の集落周辺から平野部にかけて広く分布していた。しかし平野部では近年、帰化植物のアレチケツメイとの競合により、減少傾向が著しい。4 (能知、芹沢 87301, 2011-8-27)、6 (西納庫、芹沢 95863, 2019-9-23)、8 (川合、村松 26578, 2012-9-16)、11 (白鳥、芹沢 71311, 1994-10-14)、13 (長沢、瀧崎 18236, 2000-11-25, T)、14 (相楽町、井上美保子 29, 1991-9-2)、15 (賀茂町豊川、小林 39167, 1993-9-9)、17 (芦村、小林 47130, 1993-8-28)、18 (初立ダム、小林 47013, 1993-8-28)、19 (下時瀬、塚本威彦 798, 1993-9-5)、20 則定、新井文子 1021, 1994-9-14)、21 (東大沼、芹沢 62836, 1992-8-27)、22 (家洞、日比野修 2531, 1994-8-27)、23 (西中山、日比野修 887, 1992-9-30)、24 (石野町、山崎玲子 682, 1993-9-24)、25 (御船町、芹沢 67157, 1993-8-27)、26 (明和町、落合鈴枝 113, 1992-9-12)、27 (福谷、臼井里華 699, 1992-8-23)、28 (鹿勝川、福岡義洋 1140, 1990-8-14)、29 (奥山田町、芹沢 86298, 2010-9-29)、30 (羽栗町、本多さおり 773, 1994-9-15)、31 (深溝、金子律子 1490, 1995-10-14)、32a (野田町、臼井直子 143, 1995-9-15)、33 (小川町矢作川、中村さとこ 829, 1993-9-20)、34b (矢作川、芹沢 68490, 1993-10-4)、35 (小島町、芹沢 67592, 1993-9-10)、38a (岩作、岡本沙矢香 452, 2001-9-12)、38b (米野木、芹沢 70808, 1994-9-14)、39a (諸輪、中村裕治 1173, 1994-9-28)、40b (森岡、渡邊麻子 866, 1995-9-30)、42a (草木、渡邊麻子 683, 1995-8-24)、43 (大谷、相羽福松 4033, 1994-8-31)、44a (浦戸、岡本沙矢香 411, 2001-8-16)、53 (光明寺木曾川、芹沢 60237, 1991-9-6)、54 (尾西市木曾川、栗田郁男 306, 1993-9-5)、55 (祖父江町木曾川、芹沢 76363, 1999-9-18)、57b (立田村長良川、西尾芳徳 638, 1994-9-17)、58b (上野、芹沢 70833, 1994-9-15) など確認されている。16 (高師原、恒川敏雄 s.n., 1949-9-25, T) で採集された標本もある。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

河川敷、造成地、路傍、やせた丘陵地の土手など、攪乱地または遷移の進行が遅く裸地状態が比較的長く維持されている場所に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

守山区では、造成地にアレチケツメイと混生して生育していた。天白区の 2 カ所のうち道明町では現在は見あたらず、植田山は最近の状況が未確認である。最近までアレチケツメイと混同されていたため現況の確認は不十分で、注意して探索すれば他にも生育地が確認できると思われる。しかしアレチケツメイとの競合により減少していることは確実で、名古屋市でも将来消滅するおそれがある。

保全上の留意点

もともと攪乱地に生育する植物であり、しかも減少の原因が帰化植物との競合であるので、現実的な保全策は講じにくい。当面は現状を正確に記録することが重要である。将来愛知県全体でも危機的な状況になった場合には、圃場での系統保存を考慮する必要がある。

特記事項

アレチケツメイは、本種とは葉柄上の蜜腺が有柄でキノコ状になること、葉身が幅広いこと、小葉の先端が丸味を帯びること、花弁のうち下側の 1 個が目立って大きいことなどで異なる。

関連文献

保草本Ⅱp.93, 平新版 2 p.250

渡邊幸子, 2009. カワラケツメイを求めて, くさなぎおごけ(3):16-17.

芹沢俊介, 2009. カワラケツメイとアレチケツメイ, くさなぎおごけ(3):17-18.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) マメ科>

ノササゲ *Dumasia truncata* Siebold et Zucc.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 13。愛知県全体で見ればそれほど希少な植物ではないが、名古屋市では生育地が少ない。

形態

つる性の多年生草本。長さ 3m に達する。葉は互生し、長い柄のある 3 出葉、頂小葉は長卵形で長さ 3~9cm、幅 2~6cm、側小葉と共に緑白色で質は薄く、表面は無毛、裏面はまばらに伏した短毛がある。花期は 8-9 月、花は腋性の総状花序に数個つき、淡黄色で長さ 15~20mm、豆果は倒狭卵形、長さ 4~5cm、幅 7~8mm、無毛、熟すと濃紫色になり、3~5 個の種子が入っている。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

分布の概要

市内: 1 守山区 (吉根階子田, 村松 32607, 2021-9-19, N) に生育している。

県内: 低山地~丘陵地の、どちらかと言えば人里近くに多い。1 (大谷, 小林 46872, 1993-8-21)、2 (古真立, 芹沢 102690, 2023-9-23)、3 (御園 (水野岸子 585, 1985-9-1)、4 (宮前, 芹沢 62932, 1992-8-29)、6 (川向, 芹沢 63021, 1992-8-30)、7 (神田, 芹沢 63118, 1992-9-4)、8 (鳳来寺山, 加藤等次 267, 1991-9-9)、10 (玖老勢椎平, 芹沢 67815, 1993-9-17)、11 (中河内, 中西普佐子 1541, 1993-9-15)、13 (長沢, 瀧崎 18047, 2000-9-18, T)、15 (嵩山町, 芹沢 44702, 1986-9-8)、17 (赤羽根町高松北, 小林 47096, 1993-8-28)、18 (長沢, 小林 49246, 1993-10-31)、5 (川手, 塚本威彦 2496, 1997-9-13)、19 (坪崎, 芹沢 63170, 1992-9-8)、20 (寧比曾岳, 芹沢・水野 305, 1985-8-28)、21 (梶, 長谷川朋美 756, 1992-9-5)、23 (飯野, 塚本威彦 1805, 1995-10-13)、24 (西広瀬町, 芹沢 67181, 1993-8-27)、25 (猿投山, 土場トシ子 222, 1992-8-30) 28 (片寄, 福岡義洋 981, 1990-7-28)、29 (蓬生町, 伊奈知子 858, 1993-9-16)、30 (羽栗町, 本多さおり 863, 1994-9-22)、36 (西幡豆, 芹沢 71142, 1994-9-24)、37a (広久手町, 芹沢 76408, 1999-9-21)、37b (新居, 村松 21029, 2001-11-3, N)、45 (継鹿尾, 平嶋 敏 1014, 1989-9-13)、47 (大山, 村瀬正成 930584, 1993-9-11)、48 (内津町, 山田果与乃 992, 2003-9-13) など確認されている。

国内: 本州、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

林縁等に生育する。名古屋市内の生育地もため池上流部の沢沿いの林縁である。

現在の生育状況／減少の原因

標本が採取されていない場所を含めて、守山区内の緑地の数カ所で確認されている。つる性で個体数は数えにくい、いずれの場所でも少数株が林縁に生育している。生育地の乾燥化により衰退するおそれがある。

保全上の留意点

林縁に生育するつる植物であるため、効果的な対策は立てにくい。

特記事項

ヤブマメにやや似るが、ヤブマメは葉の両面に短毛が密生するのに対し、本種は無毛である。

関連文献

保草本Ⅱp.117, 平新版 2 p.265-266.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) マメ科>

ハマエンドウ *Lathyrus japonicus* Willd.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 13。代表的な海浜植物だが、名古屋市では僅かに残存しているにすぎない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。全体に粉白色を帯びる。茎は地表をはって長さ 1m に達し、先端部は斜上する。葉の小葉は 8~12 枚、葉軸の先端は 1~3 本の巻きひげとなり、小葉は卵形~長楕円形、長さ 1.5~4cm、托葉は大きく、三角状卵形、先端は鋭頭となる。花期は 4~7 月。花は総状花序に 3~6 個つき、長さ 2.5~3cm、旗弁ははじめ赤紫色、のちに青紫色になる。豆果は無毛、長さ約 5cm、幅約 1cm、熟すと黒褐色になる。

分布の概要

市内：16 港区(南陽町藤前, 飯尾俊介 31, 1998-5-5, A) に生育していた。

県内：海岸部に広く分布しており、14 (西浦町, 鈴木美恵子 45, 1992-5-23)、16 (細谷町, 名倉智道 49, 1992-5-4)、17 (姫島, 瀧崎 23856, 2008-4-7, T)、18 (日出町, 瀧崎 23892, 2008-5-4, T)、34b (矢作川, 中村さとこ 11, 1993-4-6)、35 (西奥田町矢作川, 中村さとこ 271, 1993-5-17)、36 (吉良町白浜, 堀田善久 7, 1991-5-12)、40b (生路, 渡邊麻子 310, 1995-5-13)、42c (東大高, 畑佐武司 1273, 2000-5-21)、43 (新田町, 梅田零奈 251, 2000-5-7)、44b (師崎, 大西 博 247, 1992-3-30) などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州、琉球。

世界：北半球の暖帯~亜寒帯に広く分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

海岸の砂地に生育する。砂浜の代表的な植物である。

現在の生育状況／減少の原因

藤前干潟西側の護岸前側に形成された砂地に数株生育していたというが、最近の状況は確認されていない。実際にはすでに消滅しているかもしれない。

保全上の留意点

名古屋市内には本種が本来生育する砂浜的環境が残されていない。このような名古屋市では希少でも県全体としてはさほど希少でない植物が、それも本来の生育環境とはやや異なる二次的な場所に生育している場合、保全すべきかどうかは議論が分かれるものと思われる。

特記事項

砂浜性の植物としてはハマニガナ *Ixeris repens* (L.) A.Gray も「西一区にわずかに生育」と報告されている(中部植生研究グループ 1992) が、標本等は残されておらず、現存も確認できなかった。

引用文献

中部植生研究グループ.1992.名古屋市の植生自然度及び自然保護に関する調査報告 p.103.名古屋市環境保全局。

関連文献

保草本Ⅱp.104, 平新版 2 p.275.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) バラ科>

ザイフリボク *Amelanchier asiatica* (Siebold et Zucc.) Endl. ex Walp.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、補正+1（遷移進行）、総点 12。2015 年版ではリスト外と判断したが、近年見かける機会が著しく減少している。

形態

落葉性の亜高木。よく育ったものは高さ 10m 以上になる。枝は若時に暗紫色、のちに黒褐色となる。葉は互生し、長枝ではまばらに、短枝では接近してつき、長さ 1~2cm の柄があり、葉身は楕円形~卵状楕円形、長さ 4~8cm、幅 2.5~4cm、先端は鋭頭、基部は円形~浅い心形、辺縁には細鋸歯があり、裏面は幼時白軟毛を密生するが、成葉ではほとんど無毛となる。花期は 4 月、花は 5~12 個が総状につき、花序軸は長さ 2~4cm、花柄は長さ 1~2.5cm、花弁は 5 個で白色、倒披針形~線状楕円形、長さ 12~15mm、幅 2~4mm、円頭である。果実はほぼ球形、直径 6~8mm である。

分布の概要

市内: 1 守山区(東谷山, 鳥居ちよ子 1570, 1999-4-17, A; 大森八龍, 村松 29180, 2018-4-8, N), 2 名東区(猪高町, 長谷川 588, 2023-4-9, N, 1 株のみ)、3 千種区(不老町, 渡邊幸子 3742, 1999-4-15, A), 4 天白区(八事裏山, 渡邊幸子 2036, 1995-4-24, N) に生育している。9 瑞穂区(茨木町, 渡邊幸子 2018, 1995-4-23, A) にも生育していた。

県内: 山地~丘陵地に点在しているが、多いものではない。1 (猿ヶ鼻, 小林 44729*, 1993-6-26)、4 (白鳥山, 芹沢 74840*, 1998-8-22)、6 (川向, 伊藤昭康 140, 1990-5-10)、8 (鳳来寺山, 加藤等次 1285, 1992-4-25)、9 (黄柳野, 小林 44411*, 1993-6-18)、11 (岩波, 芹沢 97885*, 2021-6-5)、13 (一宮町炭焼, 芹沢 48113, 1988-4-17)、15 (嵩山町, 芹沢 39674, 1984-5-8)、18 (亀山, 小林 41505, 1993-4-18)、5 (中宛, 塚本威彦 2225*, 1997-5-12)、19 (一色, 小林 42182, 1993-5-2)、20 (大多賀峠, 芹沢 55539, 1990-6-19)、21 (下山田代町, 芹沢 100477*, 2022-7-12)、23 (西市野々, 日比野修 1064, 1993-5-1)、24 (寺下町, 山崎玲子 387, 1993-4-21)、25 (八草町, 芹沢 77800, 2002-4-9)、29 (大柳町, 芹沢 84090*, 2009-5-27)、30 (桑谷町, 本多さおり 132, 1994-4-20)、37a (西山路町, 芹沢 73540, 1997-5-9)、37b (平子町東, 村松 20452, 2001-4-14, N)、38a (前熊, 半田多美子 1893, 1995-5-8)、39a (諸輪, 濱嶋郁子 1283, 2019-4-15)、39b (間米町, 浅野守彦 1998, 2005-4-23)、45 (善師野, 平嶋 敏 244, 1989-4-9)、48 (廻間町, 山田果与乃 210, 1997-4-11) など確認されている。ただし*は花も実のない標本で、できれば再採集が望ましい。

国内: 本州(岩手県以南)、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境/生態的特性

雑木林の林縁などに生育する。

現在の生育状況/減少の原因

以前は名古屋市内でも点在していたと思われるが、2019 年になごや生物多様性保全協議会里山社寺林部会が調査した未発表資料によれば、開花個体は名古屋市内では守山区小幡緑地で 5 株、名東区明徳公園で 1 株、千種区平和公園で 1 株、天白区相生山で 1 株の計 8 株確認できただけだったそうである。今回はこの結果をもとに、個体数階級を 3 として評価した。里山二次林の遷移進行に伴う被陰が、衰退の主原因と思われる。見落としがあれば個体数階級 2、総点 11 で準絶滅危惧になるかもしれないが、その場合でも次の見直しの時には絶滅危惧 II 類になってしまう可能性が高い。

保全上の留意点

個別的な保全が必要である。本来ならば適宜伐採を行い、さまざまな遷移段階が混在した里山二次林を維持することが重要だが、これは現実問題としては難しい。

特記事項

開花期には白い花がよく目立つ樹木で、和名(采振木)はこの花序を采配に見立てたものである。シデザクラとも呼ばれる。

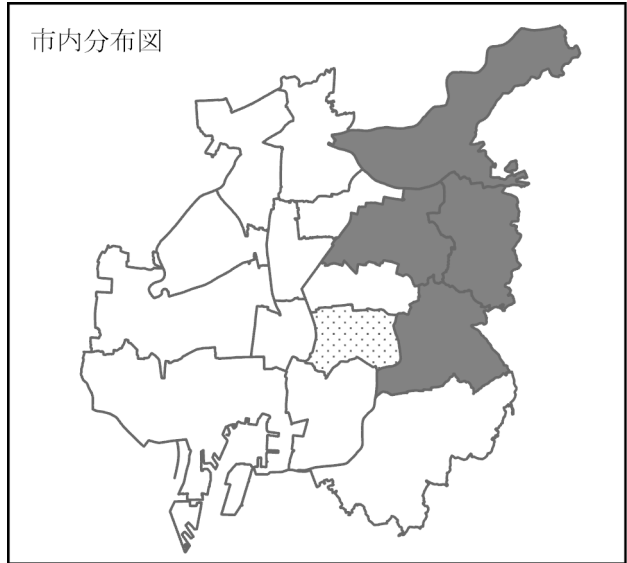
関連文献

保木本 II p.27, 平新版 3 p.59.

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 II 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

市内分布図



(西部めぐみ 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) バラ科>

ダイコンソウ *Geum japonicum* Thunb.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。根茎は斜上し、多少なりとも肥厚する。根出葉は3~4枚出て、長い柄があり、葉身は単葉~羽状複葉、羽状複葉の場合は対生する側小葉の間に小形の小葉がつき、頂小葉は大きく広卵形、長さ5~8cm、幅5.5~9cm、円頭~鈍頭、3浅~深裂し、辺縁には不規則な鋸歯がある。茎は1~2本出て、高さ40~80cm、数枚の茎葉を互生する。托葉は葉状で大きい鋸歯がある。花期は7~8月、花は茎上部の枝先に1個ずつつき、直径1.5~2cm、花弁は5枚、倒卵多~楕円形で黄色、集合果は球形、その果は多数ついて先端が鉤状になった長い残存花柱がある。

分布の概要

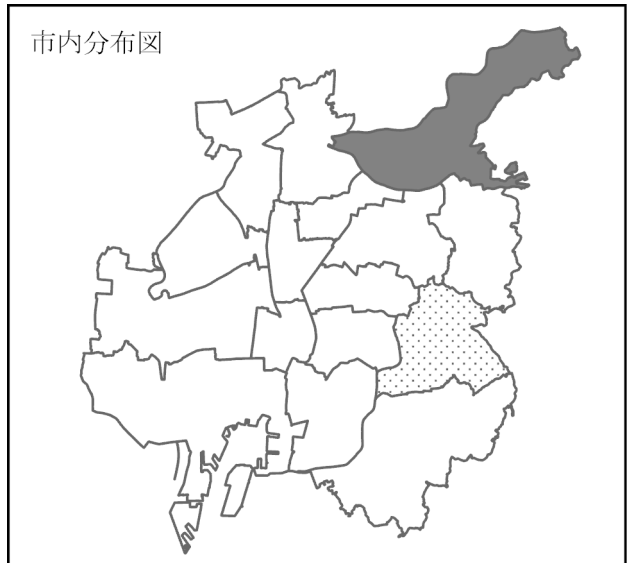
市内：1守山区(竜泉寺、日比野修 4582, 1998-7-23, A、2025年にも越冬葉が確認されたという)に生育している。4天白区(島田黒石、中島ひろみ 432, 1994-8-22)にも生育していた。

県内：山地~丘陵地には点在しているが、平野部では極めて稀である。2(茶臼山、加藤等次 3395, 1993-7-27)、4(白鳥山、石田雄吉 162, 1979-8-10)、7(荒尾、芹沢 62324, 1992-7-28)、8(鳳来寺山、加藤等次 1771, 1992-8-22)、9(乗本、芹沢 59241, 1991-7-24)、10(玖老勢、芹沢 67843, 1993-9-17)、14(清田町、井上美保子 339, 1992-7-8)、15(石巻、瀧崎 9499, 1987-7-26)、5(面ノ木峠、瀧崎 11056, 1989-8-19)、19(伊熊町、芹沢 90270, 2015-6-28)、20(井ノ口町、芹沢 92795, 2017-8-9)、21(蘭町、芹沢 84752, 2009-8-23)、22(宇頭洞、塚本威彦 1177, 1994-7-11)、23(折平、日比野修 620, 1992-8-6)、24(西広瀬町、佐藤久美子 629, 1993-7-23)、25(猿投山、土場トシ子 207, 1992-8-30)、28(鹿勝川、福岡義洋 963, 1990-7-25)、29(奥山田町、杉田一記 1103, 2010-7-19)、30(蜂地町、本多さおり 525, 1994-7-22)、31(荻、金子律子 932, 1995-7-31)、37a(定光寺町、日比野修 541, 1992-7-23)、44b(山海岩屋、大西 博 757, 1992-7-23)、45(栗栖、平嶋敏 1368, 1989-10-3)、46a(柏森、竹原芳子 1191, 1996-8-4)、48(廻間町、太田さち子 573, 1993-8-29)、53(妙興寺、栗田郁男 288, 1993-8-1)などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

林縁や明るい林内に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

守山区竜泉寺では、2025年冬には比較的大きいものが1株、小さいものが2~3株確認できたという。天白区では、その後の状況が確認されていない。

保全上の留意点

生育地の林を保全することが必要である。

特記事項

2024年のリスト案には掲載されていないが、改めて検討したところ市内では稀少で、レッドデータブックに掲載すべき種であると判断された。

関連文献

保草本Ⅱp.128-129, 平新版3p.32.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) クロウメモドキ科>

クマヤナギ *Berchemia racemosa* Siebold et Zucc.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。愛知県全体で見ればそれほど少ない植物ではないが、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

つる性の落葉低木。枝は黄緑色、無毛、平滑である。葉は互生し、長さ7~15mmの柄があり、葉身は卵形~長楕円形、長さ4~6.5cm、幅2~4.5cm、先端は鈍頭~円頭、辺縁は全縁、側脈は7~8対である。花期は7~8月、花は黄緑色で小さく、枝先に複総状に多数つき、上部の葉腋からも花序を出す。名古屋市では開花時の資料は得られていない。果実は翌年熟し、倒卵状楕円形、長さ5~6mm、はじめ紅色、後に黒色になる。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷、村松 34331, 2023-6-8, N; 桜坂東禅寺池、長谷川 69, 2023-5-8, N）、15 中川区（戸田川、渡邊幸子 5886, 2009-5-26, A）に生育している。

県内：山地に点在するが、丘陵地では少ない。3（振草、小林 47379, 1993-9-5）、4（白鳥山、石田雄吉 230, 1979-7-6）、8（池場、芹沢 81647, 2007-6-27）、11（彦坊山、小林 52480, 1994-7-3）、12（日吉、芹沢 59221, 1991-7-24）、13（宮路山、瀧崎 21072, 2000-11-5, T）、15（石巻萩平町、芹沢 66824, 1993-8-6）、5（稲橋月ヶ平、芹沢 67227, 1993-9-1）、19 穴中、塚本威彦 627, 1993-6-22）、20（寧比曽岳、芹沢・水野 288, 1985-8-28）、22（北、日比野修 2352, 1994-7-11）、23（西中山、塚本威彦 1516, 1995-6-9）、24（西広瀬町、佐藤久美子 637, 1993-7-27）、25（猿投山、土場トシ子 578, 1994-8-27）、26（水源町、落合鈴枝 872, 1996-7-30）、28（片寄、福岡義洋 983, 1990-7-28）、29（才栗町、伊奈知子 628, 1993-8-2）、30（山綱町、本多さおり 1007, 1994-10-13）、36（西幡豆、壁谷重美子 614, 1994-6-29）、37a（片草町、日比野修 1421, 1993-7-13）、38a（長湫、半田多美子 602, 1992-9-6）、45（善師野、平嶋 敏 530, 1989-5-14）、48（高座町、山田果与乃 82, 1993-7-6）などで確認されている。2（茶白山、山田英吉 320, 1956-7-15）、6（段戸山、恒川敏雄 968, 1961-5-21, T）で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

林縁に生育し、他木に巻きついて伸びる。

現在の生育状況／減少の原因

守山区上志段味のものは、1株だけだが幹の太さが腕ほどもある大きい個体だったという。隣接した別の場所にも小さい1株があったらしい。桜坂では、ため池周辺の林縁に小集団がある。中川区の生育状況は不明である。

保全上の留意点

中川区は、本種の生育地としてはやや例外的な場所である。現状を把握した上で、適切な対策を講じる必要がある。

関連文献

保木本 1 p.247, 平新版 2 p.318.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) イラクサ科>

オオサンショウソウ *Pellionia radicans* (Siebold et Zucc.) Wedd.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。山地の沢沿いに生育する植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は長さ 10～30cm、基部は多少分枝して地をはう。葉は互生し、ゆがんだ倒卵形で長さ 1～3cm、辺縁には 4-5 対の鈍鋸歯がある。茎と葉の裏面脈上には短毛がある。花期は 3-6 月、雌雄同株、雄花序には短い柄があるが、雌花序にはない。雄花被片は 4 または 5 個、紫褐色で、背面の頂に長さ 1-2mm の角状の突起がある。

分布の概要

市内: 1 守山区 (東谷山, 村松 30285, 2019-4-27, N) に生育している。

県内: 西三河中部と尾張北東部の低山地に生育しており、28 (夏山町, 村松 26750, 2013-3-29)、29 (茅原沢町, 小林 55407, 1994-12-3)、30 (生平町, 小林 56080, 1995-4-1)、37a (下半田川町, 塚本威彦 495, 1993-4-27)、45 (栗栖, 芹沢 83878, 2009-4-19)、48 (外之原町, 日比野修 1934, 1994-4-11) など確認されている。

国内: 本州 (伊豆半島以西)、四国、九州、琉球。

世界: 日本、台湾、中国大陸、ベトナム。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

低山地の沢沿いの湿潤な林内に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

東谷山では、北向き斜面の沢沿いに複数の小集団がある。過去からの増減は不明である。

保全上の留意点

保全林内であり、さしあたりは湿潤な環境を維持すればよさそうである。

特記事項

サンショウソウに比べ葉が大きく、幅は通常中部より下で最も幅広くなり、先端は尖る。

関連文献

保草本Ⅱp.337, 平新版 2 p.349.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ブナ科>

フモトミズナラ *Quercus crispula* Blume var. *mongolicoides* (H.Ohba) Seriz.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、補正+1 (準固有)、総点 13。愛知県の丘陵地を特徴づける植物の一つで、名古屋市内では生育地が限られている。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	—

形態

落葉性の高木。高さ 15m くらいになる。若枝は太くても直径 3mm 程度、帯紫褐色、ほぼ無毛である。葉は互生し、ほとんど無柄か長さ 5mm 以下の短柄があり、葉身は通常倒洋梨形、長さ 12~22cm、幅 5~15cm、先端は丸味を帯びて鈍頭、基部は円形~浅い心形、辺縁の鋸歯は 10~15 対で、円~鈍頭である。花期は 4 月、雄花序は新枝の下に多数ついて下垂し、雌花は新枝の上部の葉腋からでる短枝に数個つく。果実はその年の初秋に熟し、広楕円形、長さ約 2cm、殻斗は杯状で、多数の鱗状の総苞片におおわれる。

分布の概要

市内: 1 守山区 (上志段味、村松 16251, 1995-7-24, A) に生育している。

県内: 県 RDB2020 p.618 参照。名古屋市のほか、設楽西部、新城、豊橋北部、旭、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧、春日井で確認されている。

国内: 本州 (関東地方北部、愛知県、岐阜県東濃地方。三重県レッドリスト 2014 によれば、最近三重県北部でも確認されたらしい)。北海道北部の海岸にも似たものがあるが、別系統と思われる。

世界: 日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

やせた丘陵地の、主として中腹から尾根にかけて生育する。沢沿いには通常生育しない。

現在の生育状況／減少の原因

瀬戸市を中心に、豊田市西部から日進市、春日井市にかけてが分布の中心域で、その末端が名古屋市にかかっている。この範囲では現在のところまだ個体数は多く、場所によっては優占種になっている。しかし、本種の生育する浅い丘陵地は全域にわたって宅地造成、工場用地造成、珪砂の採掘など強い開発圧にさらされており、本種も減少の一途をたどっていて、その点で将来の存続が懸念される。

保全上の留意点

愛知県のやせた丘陵地は、点在する湧水湿地以外の場所でも本種やオキアガリネズ、ミカワツツジ、本書でワタゲカマツカとした植物など特徴的な樹木が生育しており、また森林の発達が悪いためウンスケをはじめとする多くの草地性植物が残存している。湿地以外の場所も保全上重要であることを認識する必要がある。

特記事項

本来温帯性のミズナラ系の植物が暖帯域の丘陵地に生育しているという点で重要である。新葉は黄緑色で、この時期には遠くからでも容易に確認できる。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 3 にモンゴリナラの名で掲載されている。

関連文献

SOS 旧版図版 p.4, SOS 新版 p.70.

芹沢俊介. 2008. 東海地方丘陵地の「モンゴリナラ」. シデコブシ 1:54-55.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ブナ科>

ウラジログシ *Quercus salicina* Blume

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の高木。高さ 20m に達する。2 年枝は灰白色である。葉は互生し、長さ 1~2cm の柄があり、葉身は長楕円形状披針形または披針形、長さ 7~11cm、先端は鋭尖形、基部は広いくさび形、辺縁の上部に少数の鋸歯がある。葉の裏面ははじめ黄褐色の絹毛を密生するが、のちに蠟質を分泌し雪白色となる。花期は 5 月。堅果は広卵形または広卵状楕円形で、長さ 1.2~2cm。殻斗は半球形、径約 1.2cm、総苞片は短毛を密生し、通常 7 個の環をつくる。

分布の概要

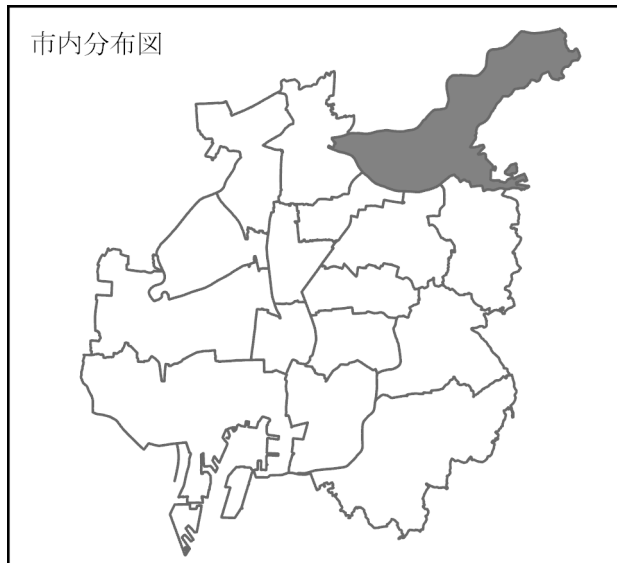
市内：1 守山区（上志段味東谷山、村松 29717, 2018-6-23, N）に生育している。

県内：東三河、西三河の低山地には広く分布し、尾張丘陵地にも点在する。1（村境~猿ヶ鼻、小林 41324, 1993-4-11）、2（佐久間ダム西、加藤等次 4133, 1993-10-23）、3（西藺目、芹沢 101905, 2023-7-2）、6（東納庫、芹沢 57086, 1990-9-13）、7（神田、榊原利修 155, 1992-4-3）、8（県民の森、小林 36050, 1992-2-27）、9（黄柳野、加藤等次 742, 1992-1-8）、13（長沢、瀧崎 18185, 2000-11-18, T）、19（玖老勢椎平、芹沢 65648, 1993-5-28）、13（御津山、井上美保子 976, 1994-2-20）、15（嵩山町、小林 49955, 1994-2-5）、18（土田、名倉智道 109, 1992-8-21）、19（池島、日比野修 2235, 1994-5-31）、20（月原、日比野修 3298, 1996-4-17）、23（西市野々、日比野修 1432, 1993-7-13）、24（坂上町、山崎玲子 50, 1992-4-15）、25（猿投山、芹沢・磯貝 143, 1984-9-30）、29（村積山、芹沢 85426, 2010-4-14）、30（羽栗町、芹沢 71383, 1994-10-28）、36（東幡豆、壁谷重美子 1213, 1994-10-14）、37a（吉野町、芹沢 73862, 1997-6-27）、38a（長湫、半田多美子 2683, 1999-1-2）、39a（諸輪、半田多美子 3449, 2002-10-14）、48（廻間町、山田果与乃 2156, 2015-6-28）などで確認されている。

国内：本州（宮城県以南）、四国、九州、琉球に分布する。

世界：日本、済州島、台湾。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地カシ林の主要構成種で、比較的土壌の浅い場所に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

名古屋市では、唯一の山地状の場所である守山区東谷山の中腹に生育している。

保全上の留意点

森林の高木層構成種として、伐採を回避する必要がある。その一方で東谷山では、鳥獣の保護と称してその餌となる植物を植栽する動きがあり、本来の自然状態に対する大きな脅威になっている。自然の中に、本来その場所に生育していない種を植栽してはならないことは改めて指摘するまでもないが、その場所に生育している種を植栽することは、遺伝的攪乱という点で、ある意味では自然に対してより一層深刻な悪影響を与えるおそれがある。本種の場合も、「ドングリのなる木」だからと言って植栽を行わないよう、特に注意する必要がある。

特記事項

シラカシ *Q. myrsinaefolia* Blume からは、枝が灰白色で葉裏が粉白になること、堅果が 2 年目に熟することなどで区別できる。

関連文献

保木本Ⅱp.274, 平新版 3 p.98-99.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) カバノキ科>

カワラハンノキ *Alnus serrulatoides* Callier

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。中流域の川岸に生育する植物で、名古屋市では生育可能な場所が局限されている。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の低木または小高木。枝は無毛で、暗褐色または暗紫褐色を帯びる。葉は長さ 5~10mm の柄があり、葉身は広倒卵形、長さ 5~10cm、幅 3~7cm、先端は円頭または微凹頭、ときに微凸頭、基部は広いくさび形、辺縁には浅い細鋸歯があり、側脈は 7~9 対、下面の脈上や脈腋に多少毛がある。花期は 2~3 月、雄花序は枝先に 2~5 個、雌花序はその下の葉腋に 1~5 個つく。果穂は卵状楕円形、長さ 15~20mm である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味、村松 30288, 2019-4-27, N）に生育している。

県内：県 GDB2017 p.267 参照。三河山間部の川沿いには多い。県西部では名古屋市のほか、藤岡、豊田東部、豊田北西部、岡崎北部、西尾北部、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、江南丹羽、春日井、一宮東部、稲沢、津島愛西（57b 愛西市早尾町木曾川、村松 33311, 2022-6-21, N）で確認されている。

国内：本州（東海地方以西）、四国、九州（宮崎県）。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

河川中流域の川岸の岩場に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

庄内川中流の渓谷部には連続的に生育しており、その末端がわずかに名古屋市に達している。現在のところ特に減少してはいないが、護岸工事等があれば名古屋市からは容易に消滅してしまう。東海豪雨以前は、下志段味（鳥居ちゑ子 670, 1994-7-16）の礫の河川敷にも少数個体が生育していた。

保全上の留意点

名古屋市内では、他に本種が安定して生育できそうな場所はない。生育地周辺で護岸工事や河川改修工事を行う場合には、配慮が必要である。

特記事項

葉裏に毛が多いものをケカワラハンノキというが、この型は名古屋市を含む尾張では確認されていない。

関連文献

保木本Ⅱp.287, 平新版 3 p.110.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) カバノキ科>

イヌシデ *Carpinus tschonoskii* Maxim.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。里山二次林の構成種であるが、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の高木。高さ 10～15m になる。樹皮は灰褐色で、老木には浅い割れ目がある。葉は互生し、葉柄は長さ 8～12mm で褐色毛を密生し、葉身は卵形～狭卵形、または卵状長楕円形、長さ 4～8.5cm、幅 2～5cm。先端は鋭頭～短鋭尖頭、基部は円形～広いくさび形、辺縁には鋭い細重鋸歯があり、側脈は 12～15 対、葉表は光沢がなく、多少伏毛があり、裏面は淡緑色、脈状および脈腋に毛がある。花期は 4～5 月、雄花序は前年枝の葉腋から下垂して長さ 4～5cm、雌花序は新しい枝に頂生して斜下する。果穂は 10 月頃熟し、下垂して長さ 4～12cm、果苞は長さ 1.5～3cm、外縁に不整鋸歯がある。

分布の概要

市内：3 千種区（城山町二丁目、鳥居ちゑ子 3801, 2018-4-23, N）に生育している。

県内：山地～丘陵地には比較的多く、2（望月峠、芹沢 101599, 2023-5-28）、3（御園、芹沢 81767, 2007-7-16）、6（松戸、芹沢 80176, 2005-8-28）、8（明神山、芹沢 84314, 2009-6-27）、10（布里、小林 49158, 1993-10-24）、13（長沢、瀧崎 18204, 2000-11-18, T）、15（嵩山町、芳山朋子 504, 1984-5-8）、5（面ノ木峠、横井邦子 358, 1993-8-29）、19（時瀬、芹沢 64958, 1993-5-11）、20（四ツ松、芹沢 71491, 1995-5-18）、22（田代、日比野修 2141, 1994-5-17）、23（西市野々、日比野修 2913, 1995-6-24）、24（王滝町、山崎玲子 412, 1993-5-11）、25（猿投山、芹沢・磯貝 52, 1984-7-24）、27（黒笹、芹沢 71455, 1995-4-27）、30（鉢地町、本多さおり 597, 1994-8-1）、37a（広久手町、村松 33531, 2022-8-24, N）、38a（岩作、半田多美子 1539, 1994-5-15）、47（石金、日比野修 4718, 1999-4-22）、48（外之原町、日比野修 2023, 1994-4-29）などで確認されている。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

アカシデ（市 EN）と同様やや温帯性の樹木で、山地～丘陵地の二次林の構成種である。

現在の生育状況／減少の原因

千種区内の 1 ケ所に、10 近い個体が生育している。駐車場脇や通路脇で、たまたま伐採を免れて残存していると思われる。果実は確認していないが、幼木があることから、種子を散布していると思われる。

保全上の留意点

生育地は神社近くであるが、特に社寺林として保全されている場所ではない。名古屋市では希少な樹木であり、個別的な保全が必要である。

関連文献

保木本Ⅱp.302, 平新版 3 p.117.

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ヤナギ科>

サイコクキツネヤナギ *Salix vulpina* Andersson subsp. *alopochloa* (Kimura) H. Ohashi et Yonek.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。減少傾向が著しい植物で、名古屋市で現存が確認できる生育地は 1 カ所のみである。

形態

落葉性の低木。高さ 0.5-2m になる。葉は互生し、0.3-1.0cm の柄があり、葉身は楕円形、長さ 5~11cm、幅 2.5~5cm、辺縁にはやや鋭い鋸歯があり、表面は濃緑色、しばしばややしわがあり、裏面は粉白色あるいは淡緑色、両面とも無毛、あるいは裏面脈上に白色または鉄さび色の細軟毛があり、側脈は 8-9 本、開出する。花期は 3 月末~4 月、雌花穂は長さ 3~7cm、直径 5~7mm、果期には基部に小型の葉 3-5 個をつける。雄果穂をつけた標本は、名古屋市では得られていない。

分布の概要

市内：5 緑区 (神ノ倉, 長谷川 329, 2022-6-4, N) に生育している。1 守山区 (東谷山南, 村松 24178*, 2008-5-11, A)、3 千種区 (平和公園, 広部 栄 270, 1994-5-8, A)、4 天白区 (平針黒石, 渡邊幸子 1993, 1995-4-12, A) にも生育していた。

県内：2 (茶臼山, 村松 23388, 2006-10-10, N)、3 (西菌目, 芹沢 87395, 2011-9-24)、4 (箱淵, 芹沢 67396, 1993-9-3)、6 (駒ヶ原, 村松 23553, 2006-7-1, N)、(鳳来寺山, 加藤等次 1223, 1992-4-18)、13 (一宮町上長山, 芹沢 64732, 1993-4-27)、14 (相楽山, 井上美保子 182, 1992-5-5)、5 (林道月ヶ平線, 鈴木 学 1201, 1983-5-27)、19 (田津原, 村松 23316, 2006-9-2, N)、20 (四ツ松, 芹沢 71493, 1995-5-18)、21 (田代, 芹沢 70107, 1994-7-12)、22 (大ヶ蔵連町, 芹沢 81678, 2007-7-7)、23 (西中山, 塚本威彦 1588, 1995-7-12)、24 (西広瀬町, 芹沢 64608, 1993-4-23)、25 (猿投町, 磯貝彰宏 1081, 1984-5-15)、28 (細光, 福岡義洋 497, 1990-5-8)、29 (才栗町, 芹沢 65324, 1993-5-20)、30 (羽栗町, 芹沢 69904, 1994-6-23)、31 (久保田, 金子律子 467, 1995-5-18)、36 (三ヶ根山, 芹沢 69448, 1994-5-28)、37a (片草町, 芹沢 92039, 2017-5-16)、37b (平子町東, 村松 21358, 2002-7-29, N)、38a (長湫, 半田多美子 1191, 1993-8-1)、38b (折戸, 半田多美子 942, 1993-5-11)、39b (沓掛町, 浅野守彦 1341, 2002-6-9)、42a (植大, 渡邊麻子 343, 1995-5-19)、45 (池野, 芹沢 69237, 1994-5-17)、47 (野口, 村松 16893, 1997-3-30, N)、48 (内津町, 芹沢 69609, 1994-6-1; 木附町, 村松 12540*, 1993-5-16, N) など確認されている。*は子房に毛がある型 (オニキツネヤナギ) である。

国内：本州 (愛知県以西)、四国、九州 (北部)。

世界：日本固有。種としては千島列島、日本 (北海道~九州) に分布する。

生育地の環境／生態的特性

日当たりがよい林縁などに生育する。

現在の生育状況／減少の原因

緑区では神社裏の尾根にある湿地に接した日当たりが良い草地の脇に 2 株生育している。神社関係者によると毎年門松づくりでアカマツ等を伐採しているとのことで、そのような定期的な管理により残存しているとみられる。守山区東谷山南では水路沿いに 2 株生育していたが、周囲の木が茂って消失したという。近くに残存している可能性があるため今回は個体数階級 3、集団数階級 3 として評価したが、ここを除けば両階級とも 4 で、絶滅危惧 IB 類になる。千種区、天白区は近況が確認されていないが、すでに消失している可能性が高い。

保全上の留意点

周囲の樹木が成長すると急激に衰退するため、伐採を行って遷移初期の状態を維持する必要があるが、現実問題としては難しい。

特記事項

北日本に分布する基準亜種キツネヤナギとは、花穂基部の下出葉がないかごく小さいこと、雄花穂が短くて太いことなどで異なる。

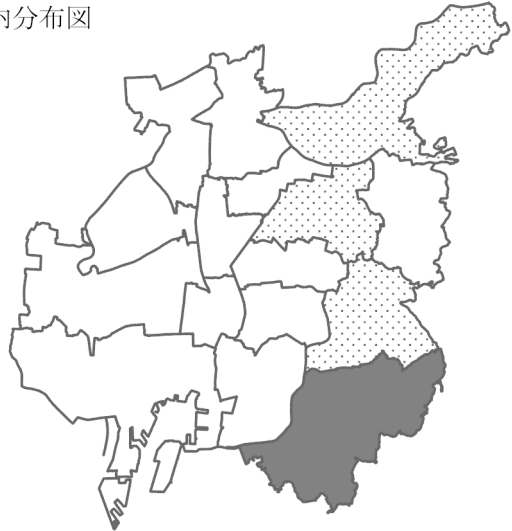
関連文献

保木本 II p.323, 平新版 3 p.199.

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 II 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

市内分布図



(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ヤナギ科>

キヌヤナギ *Salix kinuyanagi* Kimura

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、補正+2 (固有)、総点 12。本地域の固有種で、平野部の低湿地を特徴づける種でもある。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	—

形態

落葉性の低木または小高木。高さ 2~6m になる。小枝は長くてやや太く、灰色の軟毛が密生する。葉は狭披針形、長さ 10~20cm、幅 1~2cm、先端は長く鋭尖形、基部は鋭形または鈍形、辺縁はわずかに裏側に巻き、不明瞭な低い鋸歯があり、表面は緑色でやや光沢があり、裏面は銀白色の毛を密生する。雌雄異株で、花期は 3 月中旬~4 月上旬、雄花穂は楕円形~長楕円形で無柄、小枝にやや密につき、長さ 2.5~3.5cm、雌花穂は円柱形で長さ 3.5cm 程度である。

分布の概要

市内：1 守山区 (吉根日ノ後池、村松 17640, 1998-4-19, N)、5 緑区 (鳴海町戸笠公園、渡邊幸子 6872, 2014-7-2, N; 大高緑地、芹沢 77448, 2001-6-23, A など)、12 北区 (楠町庄内川、鈴木秀樹 2660, 1996-6-20, A)、13 西区 (堀越町庄内川、村松 17486, 1998-3-29, N)、16 港区 (藤前五丁目、高木順夫 11873, 2003-12-13, A) に生育している。15 中川区 (富田町庄内川、芹沢 77268, 2001-5-6, A) にもあったが、河川改修工事により消滅した。11 南区 (鶴里町天白川、渡邊幸子 1705, 1994-7-3, N) にも生育していた。

県内：県 RDB2020 p.622 参照。自生と思われるものは、名古屋市のほか、小原、豊田北西部、岡崎北部、安城、瀬戸尾張旭、小牧、春日井、一宮西部、あま大治、津島愛西で確認されている。河川敷のヤナギ林の構成種であるが、木曽川以外では少ない。このほかにも県内のところどころに生育しているが、その多くは植栽品か、植栽起源の逸出と思われる。

国内：愛知県および岐阜県 (木曽三川下流部、庄内川、矢作川水系) と滋賀県 (琵琶湖岸) に分布する。ただし、北海道および東北地方北部に分布するエゾノキヌヤナギ *S. pet-susu* Kimura との差違は軽微である。

世界：日本固有種。種の範囲を大きく取り、エゾノキヌヤナギも含めて、日本、朝鮮半島、中国大陸北東部、シベリア東部に分布する (この場合学名は *S. schwerinii* E.Wolf となる) とする見解もある。

生育地の環境／生態的特性

河川敷などの低湿地に生育する。中流の溪谷部では見られず、また最下流部にもない。

現在の生育状況／減少の原因

名古屋市では庄内川の河川敷に点在するほか、緑区の大高緑地などに生育しているが、個体数は少ない。庄内川のものは河川改修工事により減少している。緑区では他の場所にも点在するが、栽培品が逸出した可能性がある。

保全上の留意点

河川敷などの低湿地的環境を、全体として保全する必要がある。増水などによる適度の攪乱は、本種の個体群維持のためにはむしろ望ましいことである。

特記事項

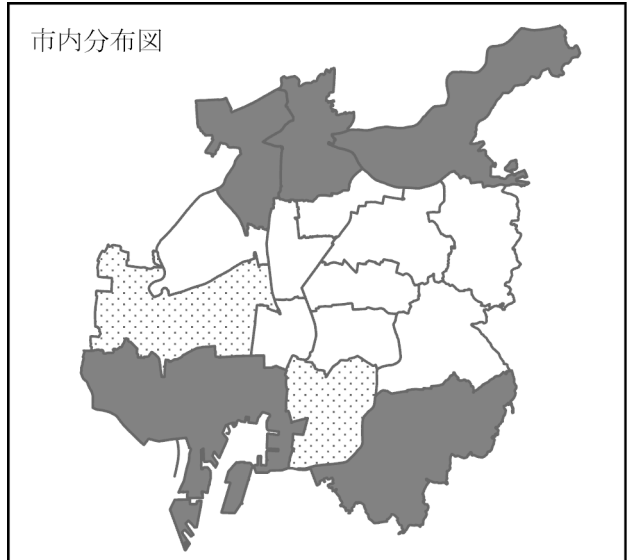
葉裏に白色の絹毛が多く美しいのでキヌヤナギという。本種は本州 (主として関東地方以西)、四国、九州で広く栽培されており、従来は雄株しか知られていなかったため、江戸時代に朝鮮半島などから渡来したものと考えられてきた。しかし実際には、これもかつては中国原産と考えられていたシデコブシと同様、名古屋周辺で選抜育種され、全国に広まった植物であろう。

関連文献

保木本Ⅱp.320, 平新版 3 p.200, SOS 旧版 p.45+図版 27, SOS 新版 p.134.

(芹沢俊介)

市内分布図



維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) スミレ科>

アギスミレ *Viola verecunda* A.Gray var. *semilunaris* Maxim.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 13。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は直立または斜上し、高さ 45cm に達する。葉は根出するか茎に互生し、下部のものには長さ 5~15cm の柄があり、中上部の葉の葉身は三日月形、主脈は長さ 1.2~3cm で両側はそれと同じかそれ以上後方に張り出し、幅 2.5~5.5cm である。花期は 5~6 月、花は長さ 5~10cm の柄の先に 1 個ずつつき、白色または淡い紫色、花弁は長さ 8~10mm、唇弁に紫条がある。

分布の概要

市内：1 守山区（下志段味風越，村松 30855, 2019-10-10, N; 大森北湿地，村松 28784, 2017-9-24, N）に生育している。

県内：山地~丘陵地に点在しており、2（新野峠，村松 15478, 1994-7-3）、6（川向，伊藤昭康 240, 1990-6-19）、11（黒瀬，芹沢 55480, 1990-6-14）、13（長沢，瀧崎 18543, 2001-5-12, T）、15（岩崎町，芹沢 54997, 1990-5-22）、16（野依町，芹沢 58591, 1991-5-26）、17（野田，芹沢 55013, 1990-5-22）、20（四ツ松，新井文子 629, 1994-5-27）、24（御船町，芹沢 51453, 1989-5-13）、27（福谷，芹沢 61315, 1992-5-22）、30（龍泉寺町，芹沢 69085, 1994-5-6）、37a（海上町，芹沢 72968, 1996-7-12）、37b（旭ヶ丘町，村松 387, 1985-11-3, N）、38b（岩崎，半田多美子 205, 1992-5-21）、39b（沓掛町，浅野守彦 1538, 2003-5-4, N）、41a（加木屋町，芹沢 72892, 1996-5-20）、45（楽田，芹沢 69254, 1994-5-17）などで確認されている。

国内：北海道および本州。

世界：日本固有。種としては千島列島南部から中国大陸にかけて分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地の湿地に生育する。愛知県では湧水湿地下部の泥質の場所やミズゴケ類の間に生育していることが多い。日当たりのよい場所から半日陰の場所まで生育しており、時には谷戸の休耕田にも見られる。

在の生育状況／減少の原因

守山区大森北では 20~30 株が生育していたが、下志段味では数株しか見当たらなかったという。丘陵地の開発によって減少し、現在の状態に追い込まれたものと思われる。5 緑区（大高緑地）にもあるという話を聞いたが、標本は確認できていない。

保全上の留意点

典型的な湧水湿地性の植物ではないが、それに関連した場所に生育している。湿地を水源とともに保全することが必要である。

特記事項

ヒメアギスミレ var. *subaequiloba* (Franch. et Sav.) F.Mack. と混同されることもあるが、ヒメアギスミレが沢沿いの林下に多いのに対し、本変種の生育地は湿地に限られている。基準変種のツボスミレとの間には、時にどちらともつかない中間型がある。

関連文献

保草本Ⅱp.54, 平新版 3 p.223.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) オトギリソウ科>

サワオトギリ *Hypericum pseudopetiolatum* R.Keller**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は束生し、基部は地表をはい、先は立ち上がり、長さ 20～50cm になる。葉は対生し、ほとんど無柄かごく短い柄があり、葉身は倒卵形～長楕円形、長さ 2.5～4cm、先端は円頭または鈍頭、基部はくさび形、質は薄く、多数の明点があり、辺縁に黒点がある。花期は 7～9 月、枝先に 2 出集散花序をつけ、花は黄色で直径 8～10mm、花弁は 5 枚である。蒴果は広卵形、長さ 5～8mm になる。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷山、村松 29713, 2018-6-23, N）に生育している。14 中村区（日比津町川東、鶴岡佐知子 579, 1993-9-21, A）で採集された標本もある。

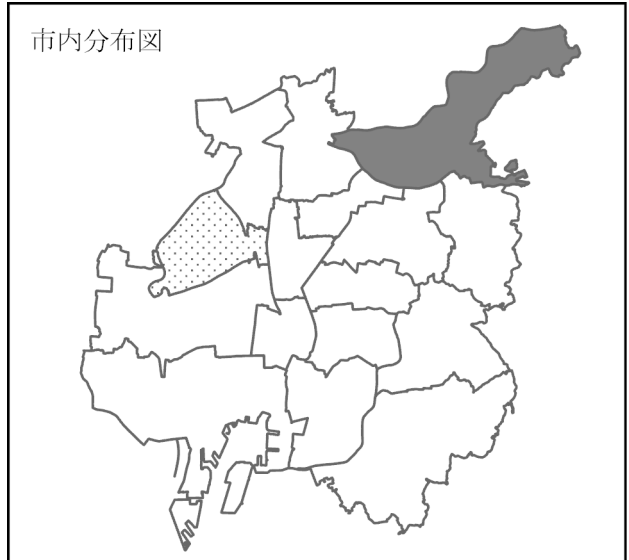
県内：低山地の沢沿いに多い。ナガサキオトギリとの関係が十分検討できていないが、典型的なものは 4（東山、芹沢 93138*, 2917-9-2）、6（段戸山、芹沢 70450, 1994-8-27; 同裏谷、芹沢 104310*, 2024-9-7）、8（長篠西、小林 57848, 1995-8-19）、19（坪崎、塚本威彦 696, 1993-8-1）、20（大倉、芹沢 70276, 1994-8-3）、22（大洞、伊藤泰輔 243, 1993-8-30）、23（西市野々、日比野修 604, 1992-8-1）、24（西広瀬町、芹沢 67179, 1993-8-27）、25（猿投町、磯貝彰宏 1354, 1984-7-28）、26（畝部東町、畑佐武司 2375, 2001-8-18）、28（中伊西町、芹沢 87340, 2011-9-11）、37a（岩屋町、芹沢 102348, 2023-8-13）、45（栗栖、平嶋 敏 755, 1989-7-17）、47（大山北、小林 58389, 1995-10-10）、48（廻間町、山田果与乃 1775, 2011-7-30）などで確認されている。

*は花序がタコアシ型のものである。

国内：北海道（西南部）、本州、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地の沢沿いの開けた場所や、山すその湿った草地に生育する。山地には比較的多いが、平野部ではほとんど見られない。

現在の生育状況／減少の原因

守山区では、狭い範囲に数株が生育していたという。中村区のもは通常ならアゼオトギリの生育しそうな場所であるが確かにサワオトギリで、庄内川の上流から運ばれて一時的に生育していたものと思われる。

保全上の留意点

名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、たまたまその場所で工事などがあると容易に絶滅してしまう。

特記事項

アゼオトギリ *H. oliganthum* Franch. et Sav.（県 RDB20020 p.313 参照）は低湿地性の植物で、全国的に減少傾向が著しく、愛知県でも極めて希少である。名古屋市内でも庄内川河川敷などに生育している可能性はあるが、まだ発見できない。

関連文献

保草本Ⅱp66, 平新版 3 p.246.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) オトギリソウ科>

ミズオトギリ *Triadenium japonicum* (Blume) Makino**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級階級 1、総点 12。湿地性の植物で、名古屋市では 2017 年に初めて確認された。既知の生育地は 1 カ所だけである。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は直立し、高さ 30~100cm、分枝しないか、中部から少数の枝を出す。葉は対生し、ほとんど無柄、葉身は長楕円形~長卵形、長さ 4~8cm、幅 1.3~2cm、明点が多く、先端は通常円頭、基部は下方の葉では鈍形だが上部の葉では浅い心形となる。花期は 8~9 月、花序は茎の先端と上部数対の葉腋につき、長さ 2~15mm の柄がある。花は一つの花序に 1~5 個つき、一日花で午後開花し、直径約 10mm、花弁は 5 個で淡紅色、狭倒卵形~楕円形、長さ 6~7mm、幅 2~3mm である。

分布の概要

市内：2 名東区（牧野池、村松 29788, 2018-9-9, N）に生育している。

県内：それほど多くはないが低山地~丘陵地のあちこちに点在しており、2（佐久間湖、芹沢 100890, 2022-10-2）、3（東郷、小林 53085, 1994-8-7）、6（川向、芹沢 56867, 1990-9-3）、11（長の山、小林 53306, 1994-8-21）、15（岩崎町、芹沢 56296, 1990-8-9）、20（中立、日比野修 3823, 1996-10-19）、21（下山田代町、芹沢 83059, 2008-8-26）、23（西中山、芹沢 52763, 1989-8-24）、24（西広瀬町、芹沢 67180, 1993-8-27）25（大池町、土場トシ子 350, 1993-8-22）、27（黒笹、芹沢 52534, 1989-8-1）、30（池金町、小林 58258, 1995-10-7）、32a（井ヶ谷町、芹沢 47319, 1987-10-8）、37a（北丘町、塚本威彦 2907, 2000-8-21）、37b（旭ヶ丘町、村松 281, 1981-10-3, N）、38a（前熊、半田多美子 840, 1992-10-11）、41a（加木屋町、加藤雅憲 920, 1996-10-10）、44b（大井、芹沢 63629, 1992-9-22）などで確認されている。

市内分布図



国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ロシア沿海部。

生育地の環境／生態的特性

低湿地に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

池岸の低湿地に、十数株が生育していたという。過去からの増減は不明である。

保全上の留意点

生育地の湿地の保全が必要である。池が富栄養化すると湿地に大形草本が茂るので、水質維持にも注意する必要がある。

関連文献

保草本Ⅱp.63, 平新版 3 p.247.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) アカバナ科>

ウスゲチョウジタデ *Ludwigia greatrexii* H.Hara

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。愛知県では生育地も個体数も多く、水田雑草としてしばしば出現し、県全体では当面絶滅が危惧される状態ではないが、名古屋市では水田そのものが減少していることもあって稀である。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	国リスト
全国 2025	準絶滅危惧

形態

1年生草本。茎は直立または斜上し、よく分枝して、高さ 30～70cm、細毛があり、あまり紅色を帯びない。葉は互生し、短い柄があり、葉身は披針形～長楕円状披針形、長さ 7～8mm、幅 1～2cm、先端は鋭～鈍頭、辺縁は全縁、細毛がある。花期は 8～10 月、花は葉腋に 1 個ずつつき、無柄、がく片はふつう 5 個で、長さ 3～4mm、花弁は 5 枚で倒卵形、長さ約 4mm、花床には白毛が密生する。蒴果は線形でやや曲がり、長さ約 2cm、先端にがく片が残存する。

分布の概要

市内: 13 西区(庄内緑地公園、芹沢 80104, 2005-8-14, A)、15 中川区(吉津一丁目、芹沢 78131, 2002-9-16, A) で確認されている。

県内: 県 RDB2020 p.685 参照。名古屋市のほか、東栄、鳳来北東部、鳳来南部、鳳来北西部、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、額田、岡崎北部、安城、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、江南丹羽、岩倉西春日井、一宮東部、一宮西部、あま大治、津島愛西、海部南部の 29 区画で確認されている。ていねいに調査すれば、このほかにもいくつかの区画で確認されると思われる。ただし、三河山間部には分布していないらしい。

国内: 本州(関東地方以西)、九州、琉球。

世界: 日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

夏～秋の水田雑草である。低湿地に生育することもある。

現在の生育状況／減少の原因

中川区では 1 カ所の水田に、少数株が生育していたにすぎない。隣接する大治町では、やや普通に生育している。ていねいに探索すれば、港区でも確認できると思われる。西区でも個体数は少なかった。

保全上の留意点

名古屋市内では水田そのものがなくなりかけており、本種もやがては市内から絶滅するものと思われる。耕地整理されていない水田が生物多様性保全に果たしている役割を、よく認識する必要がある。

特記事項

本種が環境庁のレッドデータブックに掲載されたのは、チョウジタデと混同されており、そのため全国的に情報が少なかったことによると思われる。チョウジタデからは、毛の状態を見なくても、全体にあまり紅色を帯びず、花弁もがく片も大きいことで区別できる。

関連文献

保草本Ⅱp.44, 平新版 3 p.268.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ジンチョウゲ科>

ガンピ *Diplomorpha sikokiana* (Franch. et Sav.) Honda**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。低山地に多い低木で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の低木。高さ 2m くらいになる。葉は互生し、長さ 2~3mm の短い柄があり、葉身は卵形、長さ 1.5cm~8cm、先端は鋭頭、基部はくさび形または円形、全縁、裏面は密に絹毛があり灰白色となる。花期は 5~6 月、枝先の頭状花序に 7~20 個の花をつけ、。花は淡黄色、がく筒は長さ約 8mm、がく裂片は楕円形で長さ 2~3mm である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷、芹沢 84164, 2009-6-9, A）に生育している。下志段味吉田、鳥居ちゑ子 634, 1994-5-28, A）で採集された標本もある。

県内：低山地~丘陵地に点在しており、1（大尾、小林 46959, 1993-8-22）、3（尾篭、小林 39940, 1992-10-10）、6（岩古谷山、芹沢 61769, 1992-6-18）、8（砥沢、芹沢 71749, 1995-6-15）、12（吉川、芹沢 54949, 1990-5-22）、13（長沢、瀧崎 19679, 2002-6-1, T）、14（御堂山、鈴木美恵子 79, 1992-6-5）、15（石巻中山町、芹沢 61523, 1992-6-1）、17（赤羽根町若見、芹沢 58514, 1991-5-26）、18（高木、芹沢 58629, 1991-5-26）、23（北曾木、日比野修 1388, 1993-6-28）、25（猿投山、山崎玲子 770, 1994-5-14）、27（黒笹、芹沢 69809, 1994-6-21）、31（大草、金子律子 660, 1995-5-27）、36（三ヶ根山、芹沢 69444, 1994-5-28）、37a（山路町、村松 32442, 2021-5-26, N）、37b（平子町東、村松 33007, 2022-5-17, N）、38b（藤島町、半田多美子 3259, 2001-6-17）、40b（森岡、渡邊麻子 362, 1995-5-19）、42c（富貴、芹沢 55120, 1990-5-25）、45（八曾、芹沢 55282, 1990-5-30）、48（明知町、山田果与乃 1124, 2004-5-24）などで確認されている。

国内：本州（静岡県以西）、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

低山地の尾根すじに生育することが多い。

現在の生育状況／減少の原因

やせた丘陵地の林縁部に小群落がある。個体数は年々減少している。

保全上の留意点

丘陵地の地形を保全することが必要である。東海層群の丘陵地の、高木林が成立しない乾燥したやせ地には、大陸系の植物であるウンヌケが生育しているほか、ネズミサシとハイネズの浸透性交雑に起源するオキアガリネズ、ミカワツツジと呼ばれるヤマツツジの一型などが多く、本書でワタゲカマツカとした植物も生育している。やせ地内に点在する湧水湿地の重要性は近年広く認識されるようになったが、湿地以外の場所も、本地域の自然を特徴づける場所として重要である。

特記事項

樹皮は繊維が強靱で、雁皮紙の原料となる。

関連文献

保木本 I p.225, 平新版 4 p.40.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) アブラナ科>

ミズタガラシ *Cardamine lyrata* Bunge

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。本地域を特徴づける低湿地性植物である。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎ははじめ直立し、高さ 30～60cm になるが、花後には倒れる。茎の基部から長い匍匐枝を出し、その匍匐枝には卵円形で基部が浅い心形の葉がつく。直立茎につく葉は短い柄があり、葉身は羽状複葉で長さ 2～7cm、頂小葉は大きく広卵形、側小葉は小さく卵形で 2～7 対ある。花期は 4～6 月、茎の先端に総状花序を伸ばし、10～30 個の白色の花をつける。花弁は 4 枚で広倒卵形、長さ 5～8mm である。果実は線形で、長さ 2～3cm になる。

分布の概要

市内: 1 守山区 (中志段味宮前、鳥居ちる子 671, 1994-7-16, A; 吉根庄内川、芹沢 81340, 2007-5-20, A; 小幡緑ヶ池下、村松 30380, 2019-5-17, N など) に生育している。

県内: 県 RDB2020 p.627 参照。名古屋市のほか、豊川、岡崎北部、岡崎南部、幸田、犬山、小牧、春日井、岩倉西春日井、一宮東部、一宮西部、津島愛西で確認されている。

国内: 本州 (関東地方以西)、四国、九州に生育するとされているが、一般にあまりよく理解されていない植物で、東海地方以外での現状は今ひとつはっきりしない。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸、モンゴル、シベリア東部などに広く分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

河川敷などの低湿地に生育するほか、休耕田や水田わきの水路などに生育することもある。

現在の生育状況／減少の原因

中志段味 (才井戸流) では水路に沿って生育していたが、周囲が開発され、将来の存続が懸念される。最近の調査では見当たらなかったという話も聞く。水路自体は保全されても、公園化されれば、オランダガラシなどの帰化植物が侵入することも予想される。かつては周辺の水田にも多く生育していたが、水田そのものが消滅してしまった。吉根は小群落である。小幡緑地では水がしみだしている場所に 20～30 株の群落があるという。

保全上の留意点

平野部の湿田や未整理耕地は、従来の行政の中では重点的な「退治目標」であった。しかしここまです少なくなってしまうと、今後は旧来の農村景観という文化財的な意味を含めて、保全を図る必要がある。

特記事項

写真小図鑑類に掲載されている写真は、しばしば誤っている。「原色日本植物図鑑」草本編Ⅱ41 図版の図では、本種の特徴がよく示されている。

関連文献

保草本Ⅱp.175, 平新版 4 p.56, SOS 旧版 p.55.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) アブラナ科>

コイヌガラシ *Rorippa cantoniensis* (Lour.) Ohwi**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。通常耕起前の水田に生育する植物で、愛知県の特に尾張部では生育地も個体数も多く、愛知県全体では当面絶滅が危惧される状態ではないが、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	国リスト
全国 2025	準絶滅危惧

形態

1年生または越年生の草本。茎は下部からよく分枝し、高さ10～40cmになる。葉は互生し、下部のものは有柄、上部のものは無柄、葉身は長さ2～10cm、基部に耳部があり、羽状深裂、裂片は長楕円形で辺縁に鋸歯がある。花期は4～5月、葉腋から短い花柄を出し、黄色の花をつける。がく片は直立し、長楕円形で長さ約1.5mm、花弁は倒卵形で長さ2～2.5mmである。果実はさく果で直立し、円柱形、長さ約7～9mm、幅1.5～2mmである。

分布の概要

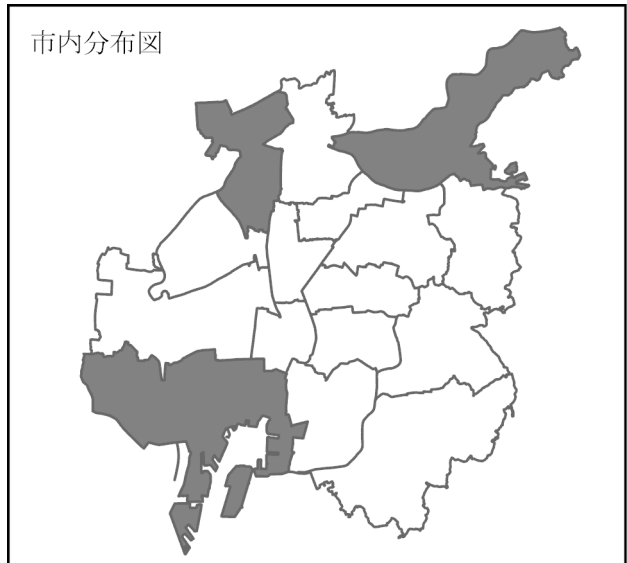
市内：1 守山区（瀬古庄内川、鈴木秀樹 1580, 1996-4-7, A）、13 西区（玉池町、鳥居ちゑ子 4367, 2017-11-16, N）、16 港区（南陽町七島、芹沢 79163, 2004-5-10, A）などに生育している。

県内：県 RDB2020 p.687 参照。愛知県の平野部では比較的多く、名古屋市のほか豊川、豊橋北部、安城、高浜碧南、瀬戸尾張旭、春日井、岩倉西春日井、一宮西部、稲沢、あま大治で確認されている。

国内：本州（関東地方以西）、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール、ウスリー。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

水田や低湿地に生育する。多少耕地整理の進んだ水田にも生育している。

現在の生育状況／減少の原因

港区では南陽町に現存する。西蟹田の水田にもかなりの個体が生育していたようだが、埋め立てられて見られなくなった。西区では砂原町の住宅地の間に残された1枚の水田にも小群落があったというが、この場所が今も水田であるかどうかはわからない。この他に守山区瀬古の庄内川河川敷と西区枇杷島町でも採集されているが、これらの場所では最近の状況が確認されていない。個体数、集団数は見込み値である。

保全上の留意点

名古屋市内では水田そのものがなくなりかけており、本種もやがては河川敷以外では見られなくなるものと思われる。耕地整理されていない水田が生物多様性保全に果たしている役割をよく認識する必要がある。一方、河川敷の低湿地は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所である。河川改修や河川敷の利用に当たっては、このような自然特性を根底から破壊しないよう、適切な配慮が必要である。

特記事項

花柄が短く、見かけはイヌガラシやスカシタゴボウとはずいぶん異なっている。

関連文献

保木本Ⅱp.183, 平新版 4 p.68, SOS 新版 p.139.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) タデ科>

ナガバノウナギツカミ *Persicaria hastatosagittata* (Makino) Nakai**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 13。低湿地性の植物で、名古屋市では生育できそうな場所が激減している。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	準絶滅危惧

形態

1年生草本。茎の下部は地面をはい、上部は分枝して直立し、高さ 50～80cm、まばらに短い下向きの刺毛がある。葉は互生し、中下部のものには長さ 1.5～3cm の柄があり、葉身は披針形～広披針形、長さ 6～11cm、先端は鋭尖形、基部はほこ形または矢じり形である。托葉鞘は膜質で暗赤色を帯びる。花期は 9～10 月、花は枝先に密に集まり頭状、花序の柄や小花柄には黒い腺毛が多い。花被は 5 深裂し、下部は白色で上部は紅色、長さ約 4mm、そう果は 3 稜形である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味大村池、鳥居ちゑ子 3292, 2013-10-5, N）、5 緑区（大高緑地公園、渡辺幸子 6682, 2013-10-16, N, 逆刺なし）で確認されている。15 中川区（富田、高木順夫 3990, 1993-10-9, A）で採集された標本もある。

県内：名古屋市のほか、15（岩崎町、芹沢 53517, 1989-9-25）、17（高松町、芹沢 88059, 2012-10-10）、24（御船町、芹沢 50809, 1988-10-14）、32a（井ヶ谷町、芹沢 40928, 1984-10-15）、36（西幡豆、壁谷重美子 892, 1994-8-31）、37b（新居、村松 20128, 2000-10-2）、38b（三本木、半田多美子 818, 1992-10-10）、49c（西春町九之坪、鈴木幸子 119, 1992-7-1）、53 光明寺木曽川、佐分康之 1379, 1996-10-12）、54（尾西市木曽川、芹沢 77719, 2001-10-7）、55（木全町、家田晴俊 127, 1992-11-12）、56a（甚目寺町下萱津、芹沢 60930, 1991-12-8）、57b（立田村雀ヶ森、山田茂貴 885, 1993-10-20）などで確認されているが、どの区画でも普通に見られるものではない。

国内：北海道（南部）、本州、四国、九州。

世界：日本、台湾、中国大陸南部。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

低地水辺の湿った草地に生育する。休耕田に生育することもある。

現在の生育状況／減少の原因

守山区ではため池の岸、緑区ではハナショウブが植えられた湿地に、それぞれ小群落となって生育していた。中川区では水田中の小水路に沿って数 m の範囲に少数株が生育していたというが、最近の状況は確認されていない。

保全上の留意点

名古屋市内では断片的にしか残されていない低湿地的環境の保全が必要である。

特記事項

アキノウナギツカミ *P. sieboldii* (Meisn.) Ohki に似ているが、花序は淡紅色で大きく、よく目立つ。緑区のは、茎に逆刺が全くない。

関連文献

保草本Ⅱp.306, 平新版 4 p.93.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) タデ科>

コミゾソバ *Persicaria mikawana* Hanai et Seriz.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級階級 2、総点 13。愛知県や岐阜県東濃地方では点在するが全国的には稀少な植物で、名古屋市では 2019 年に 110 年ぶりに生育が確認され、2023 年にも追加産地が発見された。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	—

形態

1 年生草本。主軸は長さ 15～80cm、基部はあまり倒伏せず、閉鎖花序枝を出さない。葉は 1～3.5cm の柄があり、葉身は長さ 3～7cm、幅 2～5cm、先端は突出して鈍端、基部は浅い心形、頂裂片は卵状五角形で基部ははっきりくびれ、側裂片は葉長の割に大きくてほとんど円頭になる。花期は 8～9 月、花序は小さく、少数の花をつける。花序群も少数（しばしば 1 個のみ）の花序からなる。がくは長さ 3～4mm、帯紅色または帯緑色、そう果は淡褐色でやや光沢があり、長さ約 3mm である。

分布の概要

市内：4 天白区（平針黒石、芹沢 103153, 2023-10-16, A）、5 緑区（鳴海町神ノ倉、芹沢 95855, 2019-9-21, N）に生育している。3 千種区（旧千種村、天野景従 s.n., 1910-10-23, MAK）で採集された標本もある。

県内：県 RDB2020 p.633 参照。名古屋市のほか、津具、作手、稲武、下山、額田、岡崎南部、瀬戸尾張旭、犬山で確認されている。

国内：本州（福島県～兵庫県）。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

丘陵地～山地の、やや貧栄養の、しかし極度に貧栄養ではない湿地の、林縁や林内に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

天白区では保全緑地の池畔、緑区では残存緑地の林縁の流れに沿った湿地に小群落があった。

保全上の留意点

いつ開発されてもおかしくない場所で、生育地の個別的保全が必要である。

特記事項

2008 年に新種として記載された植物で（花井・芹沢 2008）、基準標本産地は岡崎南部（池金町）の北山湿地である。愛知県では、下山の一部と北山湿地には比較的多いが、他はどこも小群落である。

引用文献

花井隆晃・芹沢俊介, 2008. 日本のミゾソバ類. シデコブシ 1: 3-26.

関連文献

平新版 4 p.93.

（西部めぐみ 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) タデ科>

ウナギツカミ *Persicaria sieboldii* (Meisn.) Ohki var. *aestiva* (Ohki) Okuyama**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 13。湧水湿地周辺に生育する植物で、名古屋市内では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

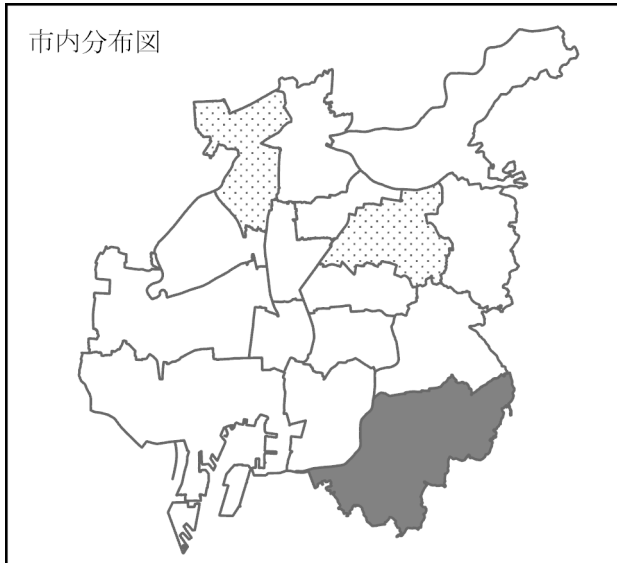
1 年生草本。茎は下部で分枝して直立し、高さ 20~40cm、稜上に逆向する刺がある。葉は互生し、下部のものには長さ 2cm に達する柄があるが上部のものはほとんど無柄、葉身は披針形、長さ 3~7cm、先端は鈍頭、基部は矢じり形、裏面の中脈下部に逆刺があるほかは無毛、托葉鞘は長さ 5~10mm、先は斜めに切れ無毛である。花期は 5~6 月、枝先に頭状花序をつけ、花序の柄には刺がない。花被は帯紅色または白色、長さ 3~4mm で 5 裂する。そう果は 3 稜形で宿存する花被に包まれる。

分布の概要

市内：5 緑区（鳴海町、高木順夫 17824, 2009-6-15, N）に生育している。3 千種区（東山動物園裏、芹沢 55339, 1990-5-31, A）、13 西区（二方町、太田さち子 6-8, 1990-6-30, A）にも生育していた。

県内：名古屋市のほか、13（一宮町足山田、小林 37846, 1992-6-19）、15（牛川町、小林 61185, 1997-5-12）、21（花沢、長谷川朋美 423, 1992-6-16）、22（田代、塚本威彦 1157, 1994-6-26）、23（西中山、芹沢 52080, 1989-6-30）、24（百々町、畑佐武司 4098, 2002-6-17）、25（大池町、土場トシ子 862, 1995-6-18）、29（大柳町、芹沢 84470, 2009-7-14）、31（永野、壁谷祥和 6, 1992-6-9）、36（東幡豆、壁谷重美子 624, 1994-6-29）、37a（吉野町、芹沢 74636, 1998-5-30）、39b（杓掛町、浅野守彦 1304, 2002-5-25）、45（楽田、芹沢 69553, 1994-6-1）、48（岩成台、山田果与乃 352, 1998-5-27）、49c（師勝町鹿田、鈴木幸子 105, 1992-6-21）、55（平町、水野峰子 25, 1992-6-29）などで確認されているが、どの区画でも普通に見られるものではない。12（八束穂、加藤等次 s.n., 1957-5-11）で採集された標本もある。

市内分布図



国内：本州、四国、九州。

世界：日本および朝鮮半島南部。

生育地の環境／生態的特性

ため池の岸、湧水湿地周辺の溝、湧水のある水田の周辺などに生育することが多い。

現在の生育状況／減少の原因

緑区では、水辺の数 m の範囲にある程度の個体数が生育していたという。千種区では東山公園内の湿地に小群落があったが、この湿地は高速道路の建設によって消失した。西区は詳細不明。

保全上の留意点

多少攪乱された場所に生育する植物であるが、それでも過度の攪乱には耐えることができない。生育地の自然環境を、全体として保全することが必要である。

特記事項

基準変種のアキノウナギツカミに比べ、草丈が低く直立し、葉が小さく先がまろくなり、花期が春から夏であることなどで異なる。しかし、どちらともつかないような型も存在する。詳しくは芹沢 (2008) 参照。

引用文献

芹沢俊介. 2008. アキノウナギツカメズ. シデコブシ 1:51-53.

関連文献

保草本Ⅱp.306, 平新版 4 p.93.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) タデ科>

アキノミチヤナギ *Polygonum polyneuron* Franch. et Sav.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。塩湿地性の植物で、名古屋市では生育できそうな場所がほとんど残されていない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

1年生草本。茎は通常斜上し、分枝して、高さ 80cm に達する。葉はほとんど無柄、葉身は披針形または長楕円形、長さ 2~3cm、先端は鋭形または鈍形である。枝の上部の葉は小さくなり、落ちやすい。花期は 9~10 月、花がつく部分はまばらな穂状花序のようになり、各節に 2~3 個の花をつける。花被は長さ 1.5~3mm、そう果は 3 稜形である。

分布の概要

市内：11 南区（滝春町大江川、渡邊幸子 6917, 2014-10-8, N）に生育している。16 港区側にもあるが、まだ標本を採取していない。南区加福町（渡邊幸子 4026, 1999-9-19, N）にも生育していたが、そこでは絶滅した。庄内川河口部にも生育しているそうだが、確実な資料はまだ得られていない。

県内：沿海地に点在しており、名古屋市のほか 13（小坂井、瀧崎 22061, 2005-8-20, T）、16（杉山町、芹沢 93806, 2017-10-21）、17（姫島、芹沢 93671, 2017-10-11）、18（中山、芹沢 78197, 2002-10-3）、32a（小垣江町、芹沢 71357, 1994-10-25）、34a（新田町、芹沢 71362, 1994-10-25）、34b（川口町、芹沢 68745, 1993-10-15）、35（中根町、芹沢 71148, 1994-9-24）、36（佐久島、芹沢 83509, 2008-10-8）、40b（藤江、中村裕治 1285, 1994-10-14）、41b（新舞子、畑佐武司 836, 1999-9-17）、42b（阿久比川河口、芹沢 95907, 2019-9-29）、42c（竜宮、岡田美之 1016, 1996-9-11）、43（新田町、畑佐武司 755, 1999-9-13）、44a（古布、芹沢 63587, 1992-9-22）、44b（片名、芹沢 90834, 2015-10-24）、58b（上野、畑佐武司 1531, 2000-10-11）などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

海岸の塩湿地周辺部に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

ヨシ群落の間に点々と生育している。南区加福町の貯木場跡地にあったものは、名古屋市の一般廃棄物最終処分場造成工事のため埋め立てられて絶滅した。

保全上の留意点

大江川はすっかり護岸されているが、それでもコギシギシが多く、本種などの塩湿地性植物の生育場所にもなっている。都市域の生物多様性を保全するためには、このような場所も重要であることを認識する必要がある。

特記事項

内湾の塩湿地やそれに隣接する砂浜は、開発圧力が高く、全国的にも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。

関連文献

保草本Ⅱp.302, 平新版 4 p.101.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ナデシコ科>

カワラナデシコ *Dianthus superbus* L. var. *longicalycinus* (Maxim.) F.N.Williams**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 13。草地性の植物で、名古屋市では減少傾向が著しい。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は基部で分岐して直立し、高さ 50～80cm、上部でも枝を分ける。葉は対生し、線形～披針形、長さ 3～9cm、粉白色を帯び、基部は茎を抱く。花期は 7～9 月、花は枝先に数個がまばらにつき、苞は 3～4 対、がくは円筒形で、長さ 3～4cm である。花弁は淡紅色、脛部は深裂し、下部に深紅褐色のひげ状の毛がある。種子は円形で扁平、黒色、直径約 2mm である。

分布の概要

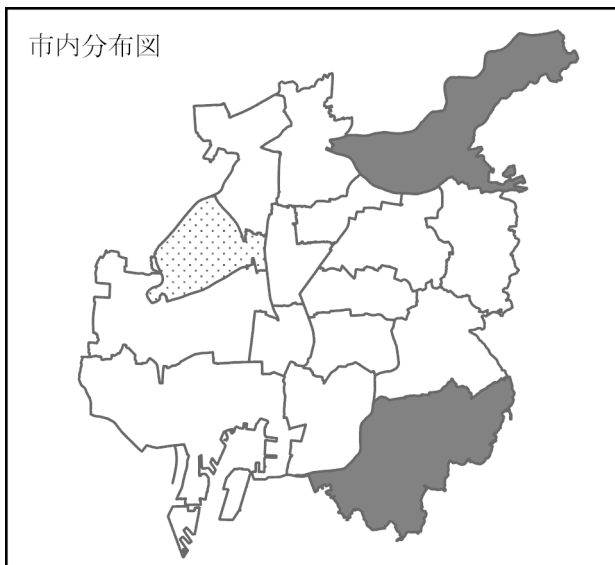
市内：1995 年以降では、5 緑区（鳴海町諸ノ木、岡本沙矢香 406, 2001-7-25, A）で確認されている。1 守山区（上志段味森林公園、芹沢 76848, 2000-7-8, A）にも生育していたが、ここでは消失した可能性が高い。14 中村区（宿跡町、鶴岡佐知子 38, 1992-6-1, A）にも生育していた。

県内：県 GDB2017 p.279 参照。県内に広く分布し、尾張でも名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、東海知多、繁多武豊、常滑、美浜南知多、春日井、岩倉西春日井、津島愛西で確認されている。ただし平野部での生育地は、河川堤防などに限られる。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

日当りのよい草地に生育する。里草地の代表的な植物である。

現在の生育状況／減少の原因

名古屋市では愛知用水沿いの草地に多かったが、改修により激減した。守山区の愛知用水沿いでは、生育できそうな場所自体ほとんど残っていないという。緑区では現在もまだ多少残存していると思うが、現状は十分調査されていない。今回は個体数階級 2 と見做して評価したが、実際には個体数階級 3、総点 14、絶滅危惧 IB 類が適切かもしれない。中村区（庄内川堤防）では最近の状況が確認されていない。

保全上の留意点

定期的な草刈りを継続し、草地状態を維持することが必要である。谷戸田の周辺などに存在していた里草地は、利用の停止とともに遷移が進行しススキなどの大型草本が密生したり陽性低木が侵入したりして、草地性植物が生育できる状況が失われている。遷移の進行自体は自然現象であるが、草地性植物の本来の生育地である風衝草地などがほとんど失われている現状では、適切な人為的管理を継続し、そのような植物の生育地を確保する必要がある。

特記事項

秋の七草の一つとして親しまれている野草である。ただし実際には、夏の花である。

関連文献

保草本Ⅱp.255, 平新版 4 p.112.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) サクラソウ科>

イズセンリョウ *Maesa japonica* (Thunb.) Moritzi et Zoll.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。暖地性の低木であるが、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の低木。高さはふつう 1m 程度で、枝はよく伸長して倒伏し、小枝は無毛、まばらに皮目がある。葉は互生し、長さ 1~1.5cm の柄があり、葉身は長楕円形から楕円形または長楕円状倒卵形、長さ 5~12cm、幅 2~6.5cm、先端は鋭尖頭、基部は鋭形、鈍形または円形、辺縁はまばらに低い粗鋸歯があるか全縁、側脈は 5~8 対、葉表は濃緑色で光沢があり、両面とも無毛である。花期は 4-6 月、雌雄異株で、花序は総状または円錐状、腋生し、長さ 1~2cm である。

分布の概要

市内: 1 守山区 (東谷山, 長谷川 576, 2023-3-16, N) に生育している。

県内: 1 (大尾, 小林 47972, 1993-9-18)、2 (佐久間ダム西側, 加藤等次 4144, 1993-10-23)、8 (鳳来寺山, 加藤等次 385, 1991-10-21)、9 (乗本, 小林 50114, 1994-3-20)、10 (布里, 小林 49156, 1993-10-24)、11 (大和田, 小林 50571, 1994-4-17)、13 (財賀町, 瀧崎 14014, 1992-11-23, T)、14 (相楽町, 井上美保子 364, 1992-8-15)、15 (多米町, 瀧崎 19932, 2002-7-20, T)、16 (高塚町, 小林 40591, 1992-11-23)、18 (和地, 小林 40304, 1992-11-1)、23 (折平, 塚本威彦 642, 1993-6-28)、24 (王滝町, 畑佐武司 203, 1999-7-4)、25 (猿投町, 山崎玲子 750, 1994-4-20)、29 須淵町, 中西普佐子 756, 1993-5-23)、30 (鉢地町, 本多さおり 95, 1994-4-13)、36 (西幡豆, 芹沢 70230, 1994-8-2)、37a (定光寺町, 村松 32686, 2021-10-14, N)、37b (新居町, 村松 24146, 2008-4-12)、42c (富貴, 小林 55960, 1995-3-18)、43 (広目, 小林 55482, 1994-12-10)、44a (野間, 小林 54549, 1994-10-15)、45 (本宮山~池野, 芹沢・松田 166, 1986-9-26)、47 (大山, 村瀬正成 930096, 1993-4-24)、48 (木附町, 日比野修 2821, 1995-5-28) などで確認されている。

国内: 本州 (関東南部以西)、四国、九州、琉球。

世界: 日本、朝鮮半島西南部、台湾、中国大陸、インドシナ。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

三重県以西では、常緑広葉樹林の下層木として普通に生育している。

現在の生育状況／減少の原因

東谷山北面の谷沿いに小集団がある。ニホンジカによる食害で衰退している。現在残存している場所は、シカも近づきにくい岩壁のある斜面である。

保全上の留意点

ニホンジカの駆除が必要である。

特記事項

愛知県は本種の北限に近い自生地である。今後温暖化の影響で増加する可能性もある。

関連文献

保木本 I p.107, 平新版 4 p.196.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) サクラソウ科>

クサレダマ *Lysimachia vulgaris* L. subsp. *davurica* (Ledeb.) Tatew.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 13。温帯性の湿地性植物で、名古屋市では減少傾向が著しい。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。横にはう地下茎がある。地上茎は直立し、高さ 100~140cm になる。葉対生または 3~4 枚が輪生し、無柄、葉身は披針形または長楕円形、長さ 7~12cm、先端は漸尖し、裏面に黒色の腺点がある。花期は 7~8 月、茎の先端に長さ 8~30cm の円錐花序をつけ、多数の黄色の花をつける。花冠は直径 12~15mm、5 裂し、裂片は三角状卵形である。蒴果は球形、直径約 4mm である。

分布の概要

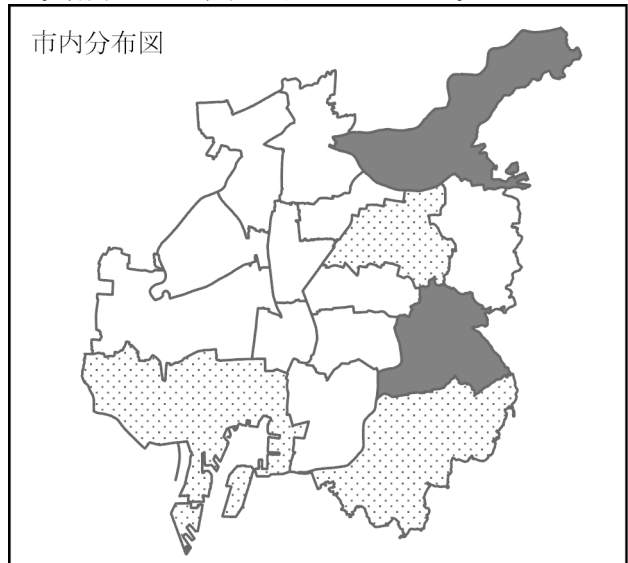
市内: 1 守山区 (上志段味森林公園, 芹沢 76850, 2000-7-8, A, 近接した場所では 2024 年にも生育が確認されている)、4 天白区 (天白町平針南, 中島ひろみ 95, 2018-6-25, N) に生育している。3 千種区 (光ヶ丘二丁目, 諏訪 斎 58, 1993-7-18, A)、5 緑区 (鳴海町笹塚, 渡邊幸子 1694, 1994-6-29, N)、16 港区 (大西戸田川堤防, 芹沢 81759, 2007-7-13, A) にも生育していた。

県内: 山地や丘陵地に点在しているが、多いものではない。4 (大桑, 小林 45768, 1993-7-31)、5 (川向, 芹沢 55937, 1990-7-25)、6 (駒ヶ原, 瀧崎吉伸 21380, 2004-8-3, T)、11 (中河内, 芹沢 55856, 1990-7-8)、12 (杉山, 小林 38185, 1992-7-9)、14 (相楽町, 鈴木美恵子 141, 1992-7-4)、15 (大村町豊川, 小林 64266, 1998-6-11)、5 (小田木, 塚本威彦 2352, 1997-7-16)、21 (蘭, 芹沢 55841, 1990-7-8)、23 (北, 塚本威彦 1184, 1994-7-11)、28 (切山, 芹沢 55843, 1990-7-8)、30 (龍泉寺町, 芹沢 69868, 1994-6-23)、33 (木戸町矢作川, 堀田善久 10178, 2000-6-15)、37a (五位塚町, 塚本威彦 2677, 1998-7-7)、37b (旭ヶ丘町, 村松 204, 1981-7-25)、38a (岩作, 芹沢 77888, 2002-7-1)、38b (五色園, 芹沢 62272, 1992-7-27)、39b (栄町, 堀田善久 2321, 1991-7-6)、42 (大谷, 中井三従美 64, 1996-7-7)、44a (上野間, 岡本沙矢香 352, 2001-6-30)、58b (鍋田, 畑佐武司 1397, 2000-6-16) など確認されている。2 (坂宇場, 芹沢 26346, 1977-7-20) でも採集されているが、これは移入かもしれない。

国内: 北海道、本州、九州。

世界: 千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア。基準変種はヨーロッパに分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。休耕田に群生することもある。

現在の生育状況／減少の原因

尾張では名古屋市内を含めて愛知用水わきの草地に比較的多く見られたが、改修により激減した。緑区には大きな群落があったが、消失した。守山区も将来の存続という点では安心できる状況にない。港区は堤防改修のため消滅したという話だが、正確な現状は確認していない。

保全上の留意点

幹線水路沿いの土手は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で草地性植物のよい逃避地になっている。改修に際してはこれらの植物の最後の「頼みの綱」を断ち切らないよう、適切な配慮が必要である。

特記事項

2024 年のリスト案では絶滅危惧 IB 類として掲載したが、その後の追加調査で守山区での現存が確認された。和名は草レダマで、黄色の花がマメ科小低木のレダマに似ているからと言われるが、「腐れ玉」と誤解する人もいて、あまりよい名ではない。

関連文献

保草本 p.17, 平新版 4 p.193.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) マタタビ科>

マタタビ *Actinidia polygama* (Siebold et Zucc.) Planch. ex Maxim.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。山地に行けば普通に見られる植物だが、丘陵地では稀少である。名古屋市では 1 カ所で確認されているだけである。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性のつる性木本。葉は互生し、長さ 1.5~3cm の柄があり、葉身は卵形~卵状楕円形、長さ 6~12cm、幅 4~7cm、先端は鋭尖頭、基部は円形~浅い心形、両面の脈上に粗い毛が散生する。花期は 6 月、花は若枝の葉腋に 1~3 個ずつつき、白色で直径 2~2.5cm、花弁は 5 個で広楕円形~広倒卵形である。果実は長楕円形、長さ 2~3cm、橙黄色に熟し、先端に花柱が残存する。

分布の概要

市内：1 守山区（下志段味穴ケ洞、渡邊幸子 5905, 2009-6-9, N）に生育している。

県内：山地には広く分布しているが、丘陵地には少ない。2（大入溪谷、加藤等次 3226, 1993-7-6）、6 田峰、芹沢 66190, 1993-6-22）、7（和市、芹沢 98179, 2021-7-3）、13（一宮町牛の滝、小林 39444, 1992-9-18）、5（川手町、芹沢 102236, 2023-7-17）、19（時瀬、日比野修 1443, 1993-7-16）、20（下国谷、鈴木万里垂 616, 1995-6-15）、21（平瀬、芹沢 61965, 1992-6-26）、22（東市野々、塚本威彦 1044, 1994-5-31）、23（折平、日比野修 1884, 1993-6-8）、24（坂上町、山崎玲子 640, 1993-8-25）、25（猿投山、畑佐武司 1977, 2001-6-3）、28（石原、原田 勉 46, 1992-6-28）、37a（西山路町、芹沢 76004, 1999-8-1）、48（内津町、山田果与乃 2150, 2015-6-13）などで確認されているが、標本の蓄積はやや不十分である。9（阿寺、恒川敏雄 s.n., 1961-9-8, T）で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：南千島、サハリンから中国大陸南西部にかけて分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地の林縁部に生育するつる性の木本で、他の樹木にからみついて伸長する。

現在の生育状況／減少の原因

1 カ所に少数株が生育している。個体数は少ないが、生育状態は良好である。開発や森林の伐採により失われる恐れがある。

保全上の留意点

生育地の個別的な保全が必要である。

特記事項

開花期には葉の表面が白色になり、よく目立つ。ネコが好むことで有名な植物である。

関連文献

保木本Ⅱp.164-165, 平新版 4 p.220

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ツツジ科>

スノキ *Vaccinium smallii* A.Gray var. *glabrum* Koidz.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。林縁や林内に生育する低木で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全 国 2025	—

形態

高さ 1m ほどになる落葉性の低木。若枝にはやや稜があり、短毛条がある。葉は互生し、葉柄はごく短く、短毛がやや密に生える。葉身はふつう楕円形で小さく、長さ 1.3~4.0cm、裏面の主脈と葉柄は無毛か、またはごく短い毛がまばらにある。花期は 6~7 月、長さ 1~2cm の総状花序に 1~4 個の花をつけ、花冠は黄緑色で赤みをおび鐘形、長さ約 5mm である。果実は球形で直径 6-7mm、黒熟する。

分布の概要

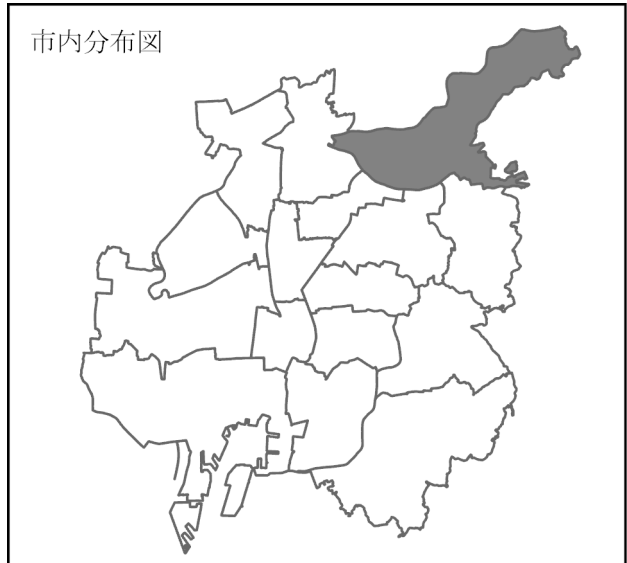
市内：1 守山区（上志段味竈池、長谷川 1052, 2024-4-22, N; 中志段味吉田洞、鳥居ちゑ子 2335, 2003-7-2, A）に生育している。

県内：3（御園、芹沢 98135, 2021-6-30）、6（段戸山、芹沢 91234, 2016-7-2）、7（岩古谷山、芹沢 61455, 1992-5-27）、8（明神山、芹沢 83972, 2009-5-5）、13 財賀町、芹沢 96197, 2020-6-20）、14（清田町、井上美保子 736, 1993-5-16）、15（岩崎町、芹沢 61531, 1992-6-1）、5（中当、塚本威彦 2219, 1997-5-12）、19（牛地駒山、芹沢 62046, 1992-6-27）、20（四ツ松、鈴木万里亜 668, 1995-6-22）、21（梶、芹沢 62365, 1992-7-30）、22（北篠平、芹沢 66074, 1993-6-18）、23（木瀬、塚本威彦 206, 1992-7-9）、24（西広瀬町、芹沢 65353, 1993-5-21）、25（御船町、畑佐武司 1710, 2001-5-1）、30 池金町、芹沢 51604, 1989-5-25）、31（荻、芹沢 71521, 1995-5-19）、37a（上半田川町、芹沢 92033, 2017-5-16）、38a（前熊、半田多美子 1880, 1995-5-8）、45（今井、芹沢 58354, 1991-5-6）、47（大草、芹沢 65865, 1993-6-6）、48（外之原町、芹沢 66358, 1993-6-25）で確認されている。

国内：本州（関東地方以西）、四国。

世界：日本固有。種としてはサハリンと日本に分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

一般的には山地や丘陵地の林縁などに生え、特に湿潤な環境を好む植物ではないが、名古屋市では谷地やため池周辺などの湿潤な林下に生育している。

現在の生育状況／減少の原因

竈池では、ため池集水域の沢沿いに 1 株生育していた。中志段味では最近の状況が確認されていないが、個体数は少なかったと思われる。

保全上の留意点

よく似たウスノキは果実が卵状球形で五稜があり、直径 7~8mm、鮮紅色に熟すが、本種は全体の様子や葉の形状がウスノキと酷似しているため、花・実が無い状態では識別が難しい。保全の際には、両者をしっかり区別して対応する必要がある。

特記事項

関東地方~静岡県のは葉柄や葉裏主脈に毛が少なく、近畿、中国、四国のものは毛が多い。一般に前者はスノキ、後者はカンサイスノキ var. *versicolor* (Koidz.) T.Yamaz. として変種の階級で区別されているが、愛知県は移行地帯で、両者を明確に区別することは困難である。ここでは便宜的に、全部をスノキとしておく。

関連文献

保木本 I p.121, 平新版 4 p.259.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) アカネ科>

ホソバニセジュズネノキ *Damnacanthus indicus* C.F.Gaertn. var. *lancifolius* Makino**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。暖地の林内に生育する常緑低木で、名古屋市では生育地が限られており、個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の小低木。よく分枝して高さ 30~60cm になり、若枝に曲がった短毛を密生し、節には長さ 4~12mm の刺がある。葉は対生し、短い柄があり、葉身は狭長楕円形、長さ 4~6 cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形、革質で全縁である。花期は 5 月、枝先と葉腋に通常 2 個ずつの花をつける。花柄は長さ 1~3mm、花冠は白色、漏斗形で筒部は長さ 10~13mm、先は 4 裂し、裂片は三角形である。液果は球形、直径 4~5mm、赤色に熟す。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷、村松 29700, 2018-6-23, N；小幡緑地、村松 31313, 2020-5-6, N）に生育している。

県内：低山地に点在しており、1（猿ヶ鼻、小林 52093, 1994-6-12）、3（東菌目、小林 41179, 1993-4-5）、8（池場、村松 27085, 2013-9-22）、

9（竹ノ輪、芹沢 59251, 1991-7-24）、10（愛郷、小林 49120, 1993-10-24）、11（大和田、小林 50921, 1994-5-1）、13（長沢、瀧崎 18288, 2000-11-25, T）、14（坂本町、井上美保子 958, 1994-2-20）、15（多米町、瀧崎 31644, 2016-4-29）、20（鏡、日比野修 3579, 1996-7-3）、24（王滝町、畑佐武司 197, 1999-7-4）、25（猿投町、畑佐武司 587, 1999-8-22）、29（茅原沢町、村松 27025, 2013-8-29）、30（桑谷町、小林 41017, 1993-4-3）、31（須美、小林 59192, 1996-4-21）、36（吉良町津平、芹沢 81997, 2007-8-9）、37a（曾野町、村松 33907, 2022-10-24, N）などで確認されている。

国内：本州西部。

世界：日本固有。基準変種のニセジュズネノキは、日本のほか朝鮮半島南部に分布している。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

低山地や丘陵地の常緑樹林内に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

名古屋市では、守山区の東谷山と小幡緑地に少数の個体が生育している。現在のところ特に減少しているわけではないが、存続の基盤は脆弱である。

保全上の留意点

生育地の森林を保全することが必要である。東谷山には、本種以外にも名古屋市ではこの場所にしか見られない植物が多数生育している。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。

特記事項

ホソバオオアリドオシともいう。和名は、ジュズネノキ（＝オオバジュズネノキ）に似て根が数珠状に肥厚しないからである。

関連文献

保木本 p.60, 平新版 4 p.270.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) アカネ科>

キクムグラ *Galium kikumugura* Ohwi**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 13。名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎はやわらかく、斜上して長さ 20~40cm になる。葉は 4 枚輪生し、楕円形~狭倒卵形、長さ 6~15mm、幅 3~8mm、先端は円頭または鈍頭で短く尖り、辺縁に上向きの剛毛がある。花期は 5~6 月、枝先や葉腋から花序を出し、1~3 個の花をつける。小花柄はほとんどないものから 5mm くらいのもので長さが不同で、その基部に 1 個の披針形の苞がある。花冠は白色で 4 深裂し、直径約 1mm である。果実は楕円形で、上向きに曲がった毛がある。

分布の概要

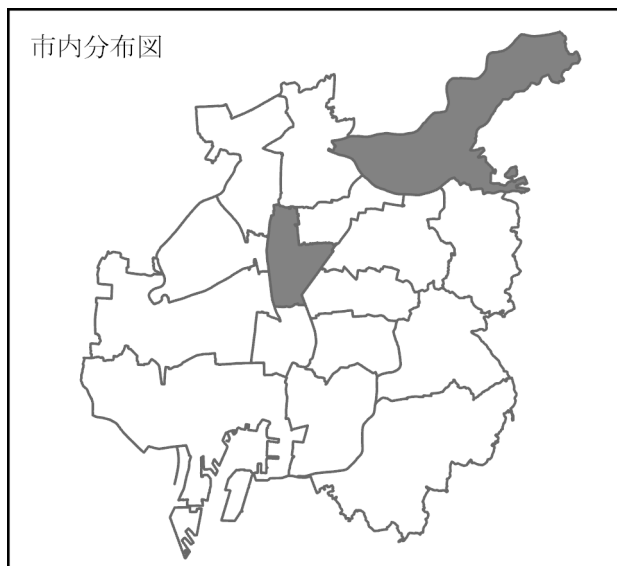
市内: 1 守山区 (吉根階子田, 村松 31645, 2020-9-8, N)、7 中区 (名古屋城, 鳥居ちゑ子 2303, 2003-5-9, A) に生育している。

県内: 愛知県ではやや希少な植物で、名古屋市のほか、2 (新野峠, 芹沢 95743, 2019-9-8)、3 (月, 芹沢 100707, 2022-9-14)、10 (一色, 芹沢 100255, 2022-5-14)、11 (杉平, 小林 51500, 1994-5-15)、28 富尾町, 芹沢 100288, 2022-5-26)、46a (木曽川, 小林 68963, 2000-5-13)、54 (尾西市木曽川, 渡邊幸子 2660, 1996-6-9)、55 (祖父江町木曽川, 渡邊幸子 4690, 2001-5-15) など確認されているにすぎない。45 (犬山城, 沢井輝男 s.n., 1934-8-14) で採集された標本もある。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

通常は山地の林縁などに生育する。ただし愛知県の場合、江南丹羽と尾西祖父江は木曽川の河川敷である。特別な環境の場所に生育しているわけではないが、それでいて生育地が少ない植物である。

現在の生育状況／減少の原因

守山区では 1m 四方ほどの小群落があったという。中区では堀の土手斜面に、十数株が小群落となって生育していた。ごく最近の状況は確認されていないが、そのまま存続していると思われる。しかし小型で目立たない植物なので、除草作業などで失われてしまうおそれもある。

保全上の留意点

中区のものについては、管理者に貴重な植物であることを認識してもらう必要がある。

特記事項

花序に小さい苞があることがよい特徴である。目立たない植物なので、他にも自生地がないか、今後更に注意して探索する必要がある。

関連文献

保草本 I p.112, 平新版 4 p.275, SOS 旧版 p.74.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) アカネ科>

ホソバノヨツバムグラ *Galium trifidum* L. var. *brevipedunculatum* Regel**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は細く、長さ 25～70cm、少数の逆刺がある。葉は 4～5 枚、ときに 6 枚が輪生し、線状楕円形～倒披針形、長さ 1～2cm、先端は円形、葉縁と裏面中脈上に少数の逆刺がある。花期は 6～8 月、枝先と葉腋に花序をつけ、数個の白色の花をつける。花柄、小花柄はともに長さ 3～5mm、花冠は通常 3 裂して平開し、直径約 1mm である。果実は無毛、分果はほぼ球形である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味蛭池、芹沢 84165, 2009-6-9, A など）、13 西区（枇杷島町庄内川、鈴木秀樹 3980, 1997-6-6, A）に生育している。

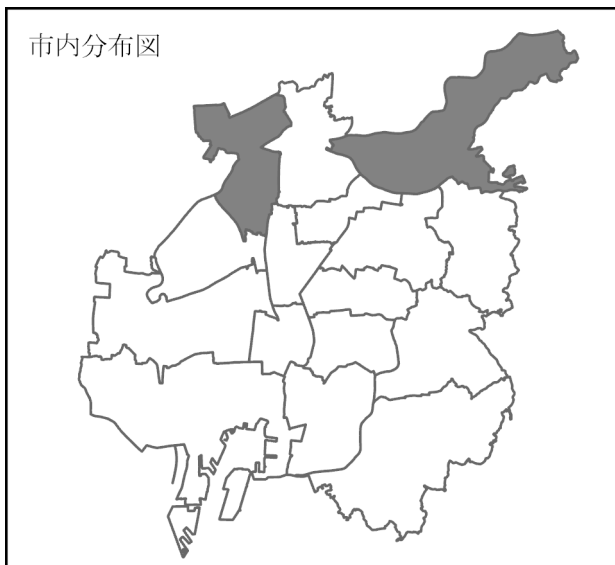
県内：東三河と西三河には点在するが、尾張では少ない。2（茶臼山、加藤等次 3787, 1993-9-19）、11（岩波、芹沢 55866, 1990-7-8）、13（御津町御堂山、小林 44333, 1993-6-16）、15（岩崎町、瀧崎 12116, 1991-6-1）、17（赤羽根町高松北、小林 43772, 1993-6-6）、5（黒田、塚本威彦 2361, 1997-7-16）、19（坪崎、塚本威彦 690, 1993-8-1）、20（大多賀、塚本威彦 2010, 1996-7-21）、21（花沢、長谷川朋美 426, 1992-6-16）、22（田代、塚本威彦 1248, 1994-7-23）、23（三箇、塚本威彦 362, 1992-9-14）、25（御船町、畑佐武司 1173, 2000-4-30）、27（三好池、畑佐武司 1200, 2000-5-3）、30（鉢地町、芹沢 69922, 1994-6-23）、31（大代、芹沢 59110, 1991-6-29）、36（鳥羽、壁谷重美子 713, 1994-7-22）、37a

（下半田川町、塚本威彦 159, 1992-6-24）、55 祖父江町拾町野、渡邊幸子 2210, 1995-6-9）、57b（立田村長良川、芹沢 74606, 1998-5-25）などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、北アメリカ。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

低地～山地の湿地に生育する。丘陵地では溜池の周辺、平野部では河川敷の湿地に生育することが多い。

現在の生育状況／減少の原因

守山区では溜池の岸などに小群落がある。西区では最近の状況が確認されていないが、すでに消失している可能性もある。

保全上の留意点

丘陵地や平野部河川敷に低湿地状の場所を残すことが重要である。

特記事項

湿地性で茎が細く長く伸び、花冠は通常 3 裂することが特徴である。

関連文献

保草本 I p.111, 平新版 4 p.275.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) アカネ科>

ツルアリドオシ *Mitchella undulata* Siebold et Zucc.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。小型の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑の多年生草本。茎は無毛で、長さ 10～50cm になる。葉は対生し、長さ 2～6mm の柄があり、葉身は卵形、長さ 0.4～2.0cm、幅 0.3～1.5cm、先端は鋭頭、基部は切形または円形、辺縁は全縁またはわずかに波状縁になり、質は厚く、表面は深緑色、両面無毛である。花期は 6～7 月。茎の先に長さ 3～10mm の花序柄を出して 2 個の花をつけ、花冠は長さ約 10mm である。核果は 2 個の花の子房が合着したもので、熟すと赤くなり、球形で約 8mm になる。

分布の概要

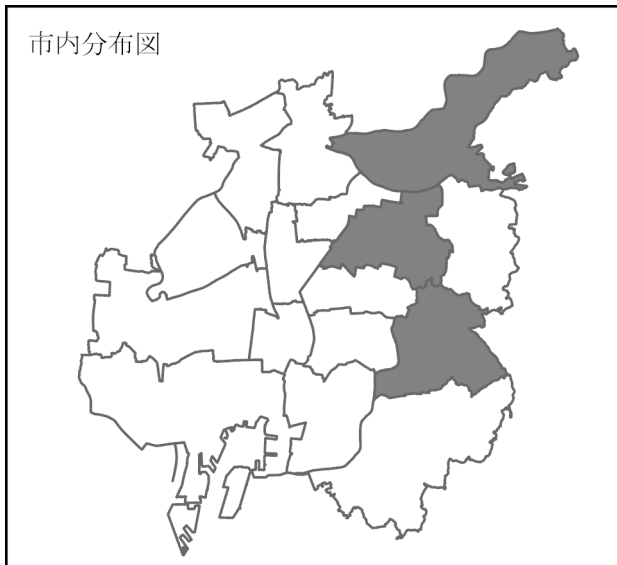
市内：1 守山区（小幡緑地、芹沢 88389, 2013-5-25, A）、3 千種区（平和公園、長谷川 317, 2022-5-21, N）、4 天白区（八事裏山、西川勇夫 359, 1994-6-30, A、数年前にも現存確認）に生育している。

県内：低山地に点在しているが、丘陵地では少ない。2（老平、加藤等次 4512, 1994-6-21）、7（宇連、小林 53624, 1994-9-10）、8 川合、芹沢 91197, 2016-6-5）、9（乗本、小林 49308, 1993-11-3）、14（御堂山、鈴木美恵子 82, 1992-6-5）、15（石巻萩平町、芹沢 61504, 1992-6-1）、20（四ツ松、鈴木万里亜 93, 1995-4-1）、22（北篠平、芹沢 66076, 1993-6-18）、23（御作、塚本威彦 1529, 1995-6-16）、24（東山町、山崎玲子 483, 1993-6-8）、25（猿投山、土場トシ子 98, 1992-6-21）、28（鳥川、福岡義洋 665, 1990-6-12）、29（小美町、伊奈知子 373, 1993-6-17）、30（桑谷町、本多さおり 398, 1994-6-22）、31（荻、金子律子 732, 1995-6-22）、36（西幡豆、壁谷重美子 1062, 1994-9-24）、37a（片草町、芹沢 76791, 2000-6-12）、37b（新居、村松 22193, 2004-5-29, N）、38b（岩崎町、半田多美子 2257, 1996-11-6）、45（楽田、芹沢 69570, 1994-6-1）、47（大山、村瀬正成 10028, 1994-3-12）、48（廻間町、山田果与乃 77, 1993-6-16）などで確認されている。13（宮路山、恒川敏雄 25, 1947, T）で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島南部、台湾北部、中国大陸（浙江省）。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

やや湿った林縁や林内に生育する。名古屋市内では湧水のある斜面周辺や以前湿地だったと思われる場所に生育している。

現在の生育状況／減少の原因

守山区、千種区、天白区の緑地では、いずれも開花・結実する小集団が生育している。森林の乾燥化によって減少するおそれがある。

保全上の留意点

生育地の林を、やや湿った状態で維持する必要がある。

関連文献

保草本 I p.114, 平新版 4 p.283.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) キョウチクトウ科>

コカモメヅル *Tylophora floribunda* Miq.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級階級 1、総点 12。名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎はつる性で、長く伸びる。葉は対生し、長さ 1~2.5cm の柄があり、葉身は三角状卵形~長卵形、長さ 4~8cm、幅 1.5~4cm、先端は鋭尖頭、基部は心形、辺縁は全縁である。花期は 7~8 月、花序は葉腋から出て大きくまばらに分枝し、小花柄は細く長さ 4~10mm、花冠は暗紫色で 5 裂し、直径 4~5mm である。果実は双生して水平に開出し、分果は披針形、長さ 3.5~4.5cm である。

分布の概要

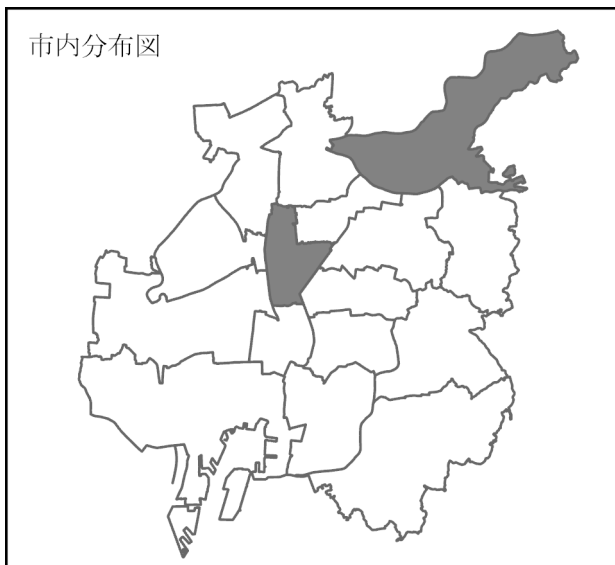
市内：1 守山区（上志段味、横井晴正 s.n., 2004-6-27）、7 中区（中村 肇 230054, 2023-10-1, N）に生育している。

県内：丘陵地~山地に点在するが、それほど多いものではない。3（下田、小林 47416, 1993-9-5）、10（只持、小林 49137, 1993-10-24）、12（庭野、芹沢 62412, 1992-8-15）、14 西浦町、鈴木美恵子 217, 1992-9-12）、15（石巻萩平町、芹沢 66814, 1993-8-6）、18（亀山、小林 44483, 1993-6-19）、5（中当、小林 45927, 1993-8-3）、19（伊熊、芹沢 62502, 1992-8-22）、20（上国谷、鈴木万里亜 855, 1995-8-26）、24（琴平町、畑佐武司 2111, 2001-7-8）、28（保久町、芹沢 93209, 2017-9-8）、29（才栗町、芹沢 67147, 1993-8-25）、37a（吉野町、芹沢 80622, 2006-7-19）、38a（熊張、半田多美子 2822, 1999-6-18）、45（栗栖、芹沢 40288, 1984-7-17）、47（大山、日比野修 4605, 1998-8-2）、48（外之原町、芹沢 66895, 1993-8-13）などで確認されている。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

林縁の草地に生育することが多い。

現在の生育状況／減少の原因

守山区の自生地は庄内川の堤防らしい。個体数はよくわからないが、堤防の外側にも内側にもあるらしい。中区では緑地外縁の狭い範囲に 10 株程度生育しているようで、「緑地管理の一環として行われる草刈りなどに起因して消失してしまうおそれがある」と記述されている（中村 2024）。

保全上の留意点

おそらくは個別的な保全が必要である。

引用文献

中村 肇, 2024. 名古屋市中区におけるコカモメヅルの記録. なごやの生物多様性 11:15-16.

関連文献

保草本 I p.210, 平新版 4 p.319.

（西部めぐみ 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) オオバコ科>

サウトウガラシ *Deinostema violaceum* (Maxim.) T.Yamaz.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

1年生草本。茎は基部で分枝して叢生し、高さ 10~20cm(時に 30cm)になる。葉は対生し、無柄、葉身は披針形、長さ 5~10mm、幅 1~2mm、先端は尖る。花期は 8~9 月、通常花は茎の上部につき、花柄は 5~15mm、花冠は紅紫色で長さ 5~6mm である。茎中部の葉腋には、ほとんど無柄の閉鎖花をつける。

分布の概要

市内：1 守山区(中志段味南原、長谷川 348, 2022-7-15, N; 下志段味東禅寺池、鳥居ちゑ子 993, 1995-9-3, A)に生育している。同区小幡緑地(芹沢 56975, 1990-9-12)で採集された標本もある。

県内：低山地~丘陵地に広く分布しており、2(葦平川, 加藤等次 4795, 1994-9-4)、3(下田, 芹沢 85009, 2009-9-22)、4(能知, 小林 39044, 1992-8-30)、7(神田, 小林 39499, 1992-9-19)、10(愛郷, 芹沢 70466, 1994-8-27)、15(西川町, 小林 39735, 1992-9-27)、17(赤羽根町高松北, 小林 47112, 1993-8-28)、5(武節町中村, 芹沢 63224, 1992-9-8)、20(大多賀, 塚本威彦 2121, 1996-9-12)、21(蕪木町, 芹沢 83079, 2008-8-26)、22(川下, 塚本威彦 1379, 1994-9-12)、23(訳地, 塚本威彦 1670, 1995-9-9)、24(山中町, 山田初代 1097, 1991-9-10)、25(四郷町, 芹沢 86505, 2010-10-16)、26(河合町, 畑佐武司 2525, 2001-9-23)、28(鹿勝川, 芹沢 57167, 1990-9-21)、30(羽栗町, 芹沢 70965, 1994-9-22)、31(荻, 芹沢 72493, 1995-10-14)、36(東幡豆, 芹沢 71087, 1994-9-24)、37a(東山路町, 塚本威彦 2972, 2001-8-6)、37b(新居町, 芹沢 88185, 2012-10-27)、38a(岩作, 半田多美子 1705, 1994-9-10)、38b(岩藤新田, 芹沢 64006, 1992-9-30)、41b(佐布里, 鳥居ちゑ子 2645, 2008-8-18)、42a(板山, 芹沢 56601, 1990-8-27)、43(樽木, 芹沢 56635, 1990-8-27)、44(布土, 芹沢 56652, 1990-8-27)、45(今井, 塚本威彦 1293, 1994-8-15)、48(大泉寺町, 芹沢 75087, 1998-9-30)などで確認されている。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

愛知県ではため池の周辺の湿地に生育していることが多い。

現在の生育状況／減少の原因

中志段味ではかなりの個体数が生育しており、以前に比べて特に減少しているようには見えなかった。

保全上の留意点

ため池の水質を維持すること、周辺に草地を残すことが必要である。

関連文献

保草本 I p.148, 平新版 5 p.74.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) シソ科>

メハジキ *Leonulus japonicus* Houtt.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、1、総点 12。林縁等の草地に生育する植物で、名古屋市では減少傾向が著しい。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

一年生または越年生の草本。茎は高さ 50～150cm になる。葉は対生し、下部のものは 2-5cm の葉柄があって 3 深～全裂し、長さ 4～9cm、幅 3～7cm、基部は広くさび形、裂片はさらに分裂し、終裂片は線状披針形、鋭頭または鋭尖頭、下面は白色の短毛が密生して灰白色をおびる。上部の葉は次第に小さくなってほとんど無柄、長さ 4-10cm、卵形～披針形で側裂片は短くなり、最上部の葉では分裂しない。花期は 7～9 月、花は茎上部の葉腋につき、花冠は紅紫色で長さ 10～13mm である。

分布の概要

市内：1 守山区（東谷山、長谷川 791, 2023-9-4, N）、11 南区（赤坪町、村松 30612, 2019-7-16, N）に生育している。1995 年以降ではこの他に 13 西区（庄内川、鈴木秀樹 2830, 1996-7-12, A）でも採集されている。2 名東区（猪子石、鳥居ちゑ子 21, 1992-7-2, A）、4 天白区（島田、西川勇夫 237, 1992-8-9, A；天白川緑地、渡辺幸子 425, 1992-7-15, N）、15 中川区（富田町、高木順夫 254, 1992-7-11, A）にも生育していた。

県内：1（大谷、芹沢 98946, 2021-9-5）、6（宇連、石川 静雄 283, 2000-10-26）、13（千両町、小林 38292, 1992-7-16）、14（清田町、鈴木美恵子 302, 1992-9-27）、15（岩田町、芹沢 56294, 1990-8-9）、17（姫島、芹沢 93673, 2017-10-11）、19（浅谷町、山崎玲子 3447, 2005-8-20）、20（大蔵、山崎玲子 2021, 1999-7-17）、23（田茂平、日比野修 1834, 1993-10-16）、24（松平町、山崎玲子 309, 1992-9-20）、25（十塚町、山崎玲子 126, 1992-7-12）、26 畝部東町、石川 敏 98, 1992-7-13）、29（蓬生町、伊奈知子 479, 1993-7-4）、30 山綱町、本多さおり 485, 1994-7-7）、31（永野、金子律子 934, 1995-7-31）、32a（井ヶ谷町、芹沢 46075, 1987-7-26）、33（西別所町、堀田善久 3435, 1994-6-16）、35（西小郡町矢作川、中村さとし 496, 1993-7-4）、36（鳥羽、壁谷重美子 706, 1994-7-22）、37a（片草町、村松 33410, 2022-8-10, N）、38a（岩作、芹沢 62256, 1992-7-27）、40b（藤江、中村裕治 661, 1994-6-23）、41a（富木島町、伊鶴靖典 987, 2018-7-18, N）、41b（大興寺、芹沢 76891, 2000-7-28）、42a（矢高、渡邊麻子 853, 1995-9-28）、42b（椎ノ木町、岡本久美子 669, 2000-8-23）、42c（壱町田、片桐浩子 8-1, 1993-7-28）、43（樽水、芹沢 68336, 1993-10-3）、44a（古布、大西 博 881, 1992-8-20）、44b（内海内福寺、芹沢 64417, 1992-10-23）、45（栗栖木曾川、佐分康之 973, 1996-8-9）、46a（柏森、上山秀郎 345, 1994-6-22）、46b（二ツ屋、油井孝夫 80, 2023-6-20, N）、47（多気町 村松 34454, 2023-7-6, N）、48（高森台、太田さち子 420, 1993-8-3）、49c（師勝町熊之庄、鈴木幸子 508, 1993-7-29）、54（尾西市木曾川、渡邊幸子 1063, 1993-7-20）、55（船橋町、水野峰子 195, 1993-7-10）、56a（甚目寺町下萱津、鈴木秀樹 2847, 1996-7-12）、57b（立田村長良川、芹沢 74713, 1998-7-4）などで確認されている。16（大崎町、恒川敏雄 1612, 1951-9-2, T）で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、四国、九州、琉球。

世界：日本からウスリー、南アジアにかけて広く分布する。

生育地の環境／生態的特性

日当たりがよい林縁や草地、半裸地に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

守山区では東谷山麓の道路沿いに数株が生育している。南区でも河川沿いに数株が生育している。以前はあちこちに生育していたが、草地の減少に伴い著しく減少していると思われる。

保全上の留意点

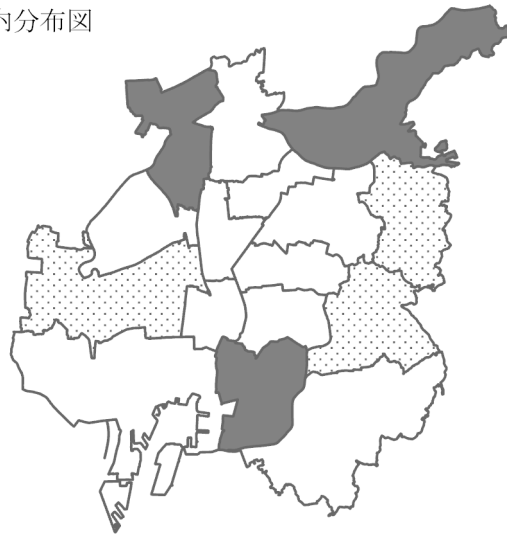
本種が生育できるような草地の保全や創出が必要である。

関連文献

保草本 I p.179, 平新版 5 p.125.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

市内分布図



維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) シソ科>

ハッカ *Mentha canadensis* L**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。植物全体に芳香がある。茎は4角形でしばしば倒伏し、長さ40～120cmになる。葉は対生し、長さ5～12mmの柄があり、葉身は狭卵形～長楕円形、長さ2～8cm、両端は尖り、辺縁に鋭い鋸歯がある。花期は8～10月、花は上部の葉腋に球状に集まってつき、淡紫色、がくは鐘形で白毛があり、花冠は長さ4～5mmで4裂する。

分布の概要

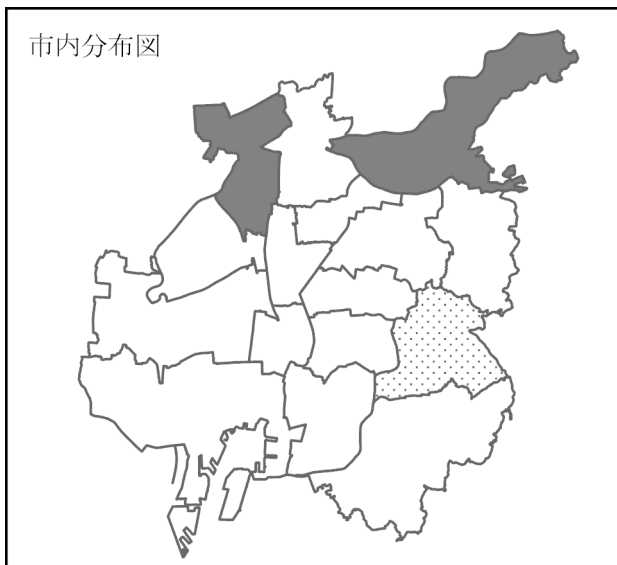
市内：1守山区（上志段味野添川、長谷川 537, 2022-11-7, N；下志段味長戸川、鳥居ちゑ子 2968, 2011-8-31, A）、13西区（名塚町庄内川河川敷、鳥居ちゑ子 2228, 2002-10-19, A）に生育している。4天白区（天白町平針大根ヶ越、渡邊幸子 1132, 1993-8-5, A）にも生育していた。

県内：平野部から山地にかけて点在しており、1（佐太、小林 54007, 1994-9-23）、3（下田、芹沢 100594, 2022-9-3）、7（和市、芹沢 63508, 1992-9-18）、8（名越～川合、芹沢 37618, 1983-10-7）、11（鴨ヶ谷、芹沢 94614, 2018-9-19）、12（庭野、芹沢 90564, 2015-9-5）、15（嵩山町、芹沢 44796, 1986-9-22）、19（榊野、日比野修 1862, 1993-9-24）、23（御作、塚本威彦 1630, 1995-8-25）、24（石楠町、山崎玲子 2051, 1999-9-20）、25（御船町、山崎玲子 2036, 1999-8-19）、31（長嶺、金子律子 1304, 1995-9-27）、37b（新居、村松 20914, 2001-9-22, N）、38b（米野木町、半田多美子 2230, 1996-10-21）、39a（諸輪、濱嶋育子 1248, 2018-10-9, N）、44b（山海、大西 博 848, 1992-8-15）などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

泥質の湿地や、水路わきなどの湿った草地に生育する。湿地性の植物であるが、湧水湿地にはほとんど生育していない。

現在の生育状況／減少の原因

守山区では河川敷に小群落がある。天白区では大堤池の堰堤に小群落があったというが、遊歩道になって消滅した。荒池にも小群落があるが、これは植栽されたものらしい。西区では庄内川河川敷を流れる小水路のわきに小群落があったようだが、最近の状況は確認されていない。

保全上の留意点

河川敷の低湿地は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所である。河川改修や河川敷の利用に当たっては、このような自然特性を根底から破壊しないよう、適切な配慮が必要である。

特記事項

名古屋市内では帰化種のハッカ属植物は多いが、在来種はごく稀である。

関連文献

保草本 I p.175, 平新版 5 p.136.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）シソ科>

ミゾコウジュ *Salvia plebeia* R.Br.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。低湿地の攪乱地に生育する植物で、愛知県では生育地も個体数も比較的多いが、名古屋市内では少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	国リスト
全 国 2025	準絶滅危惧

形態

越年生草本。冬にはロゼット状の根出葉がある。茎は直立し、断面は四角形、上部で分枝し、高さ 30～70cm、下向きの細毛がある。根出葉は長楕円形で長い柄があり、花時には枯れる。茎葉は対生し、短い柄があり、葉身は卵状長楕円形、長さ 3～6cm、幅 1～2cm、辺縁には細かい鈍鋸歯がある。花期は 5～6 月、花穂は茎や枝の先端につき、はじめ短い、後に 8～10cm に伸びる。がくは花時に長さ 2.5～3mm、果時には長さ約 4mm となる。花冠は淡紫色で、長さ約 5mm である。

分布の概要

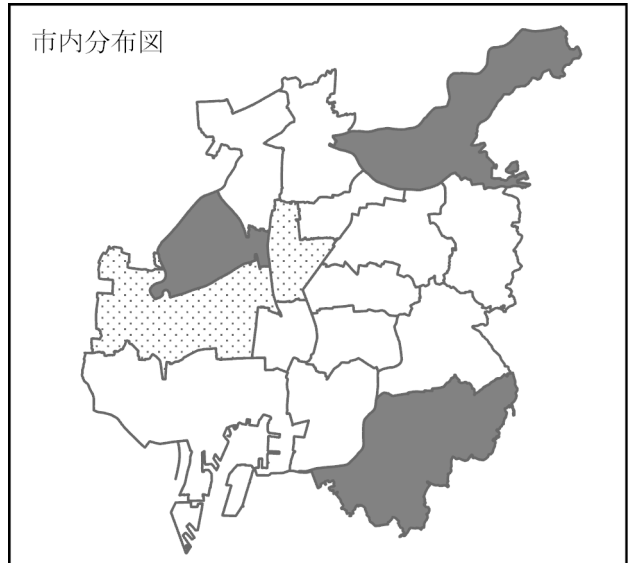
市内：1 守山区（瀬古庄内川、鈴木秀樹 2423, 1996-6-3, A）、5 緑区（鳴海町笹塚、中島ひろみ 447, 2019-5-27, N）、14 中村区（日比津町庄内川、芹沢 77884, 2002-5-23, A）に生育している。15 中川区（富田町千音寺、芹沢 80574, 2006-6-6, A）にも生育していた。7 中区（御器所、井波一雄 s.n., 1933-5-30, CBM 128608）で採集された標本もある。

県内：県 RDB2020 p.694 参照。名古屋市のほか、鳳来南部、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、豊橋南部、田原西部、豊田東部、安城、高浜碧南、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、江南丹羽、小牧、岩倉西春春日井、一宮東部、一宮西部、稲沢、あま大治、津島愛西、海部南部などで確認されている。山間部にはなく、また知多半島では現在のところ確認されていない。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：東アジア、マレーシア、インド、オーストラリアに広く分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

河川敷などの、多少攪乱された場所に生育する。平野部の休耕田やあき地などに生育することもある。

現在の生育状況／減少の原因

大きい群落は作らないが、ところどころに点在している。庄内川では近況が確認されていないが、まだ生育していると思われる。中川区では休耕田に生育していたが、その後消失した。

保全上の留意点

低湿地性の植物であるが、その中では攪乱地に多く生育している。他の低湿地性植物に比べれば絶滅が危惧される程度は低い。個体レベルの保全に限ればそれほど神経質になる必要はないと思われるが、「本種もなくなったら、低湿地性植物は全滅」という意味で、注目してよい植物である。

関連文献

保草本 I p.167, 平新版 5 p.139, SOS 旧版 p.78.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) シソ科>

タツナミソウ *Scutellaria indica* L.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 13。草地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下茎は短くはう。地上茎は直立し、高さ 20~40cm、密に開出する白毛がある。葉は数対が対生し、長さ 5~20mm の柄があり、葉身は広卵心形~三角状卵形、長さ、幅ともに 1~2.5cm、先端は円頭、基部は心形、辺縁には鈍い鋸歯があり、両面とも軟毛が多い。花期は 5 月、茎の先端の長さ 2~5cm の花序に多数の青紫色の花をつける。花冠は長さ 15~18mm、下唇に紫色の斑点がある。

分布の概要

市内：1 守山区（中志段味庄内川堤防、鳥居ちゑ子 2295, 2003-5-2, A；吉根、村松 32598, 2012-9-7, N など）、7 中区（名古屋城、鳥居ちゑ子 2302, 2003-5-9, A）に生育している。4 天白区（天白町植田、渡邊幸子 253, 1992-5-17, N）にも生育していた。

県内：低山地や丘陵地に点在しており、9（黄柳野、芹沢 54977, 1990-5-22）、12（庭野、芹沢 97270, 2021-4-24）、13（音羽町宮路山、芹沢 77290, 2001-5-12）、14（相楽町、芹沢 78600, 2003-5-10）、15（石巻萩平町、芹沢 65604, 1993-5-28）、19（鳥ノ巣、塚本威彦 1104, 1994-5-31）、20（大河原、塚本 1895, 1996-5-28）、21（田平沢、芹沢 61358, 1992-5-23）、22（平畑、日比野修 2087, 1994-5-12）、24（下室町、芹沢 65416, 1993-5-21）、25（花本町、山崎玲子 2820, 2003-5-12）、26（配津町、石川 敏 41, 1992-5-4）、28（鳥川、福岡義洋 520, 1990-5-11）、29（蓬生町、伊奈知子 294, 1993-5-20）、36（佐久島、芹沢 81351, 2007-5-21）、37a（下半田窯町、村松 34195, 2023-5-22, N）、38b（赤池、半田多美子 1012, 1993-5-17）、39b（沓掛町、浅野守彦 348, 1999-5-15）、41b（佐布里、芹沢 72881, 1996-5-20）、44b（片名、鳥居ちゑ子 2541, 2007-4-8, N）、48（細野町、山田果与乃 1975, 2013-5-3）、57b（立田村木曽川、伊藤静江 626, 1991-5-15）などで確認されている。16（高師原、恒川敏雄 944, 1949-6, T）、31（六栗~切山、大原準之助 s.n., 1960-5）、45（旧犬山町、岡田善敏 s.n., 1944-5-21）で採集された標本もある。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、インドシナに分布する。

生育地の環境／生態的特性

明るい草地に生育する。特に草刈り場として使われる耕作地周辺の里草地（いわゆるボタ）に多い。他のタツナミソウ類と異なり、林内には生育しない。

現在の生育状況／減少の原因

守山区中志段味では庄内川堤防の 2 カ所に小群落があったが、うち 1 カ所は堤防改修のため消失したという。天白区では天白川堤防の草地に群生していたが、道路工事のため絶滅したらしい。中区では名古屋城内に小群落があったという話だが、最近の状態は確認されていない。

保全上の留意点

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。堤防の改修に際しては、身近な自然の確保という観点も含めて、適切な配慮が必要である。

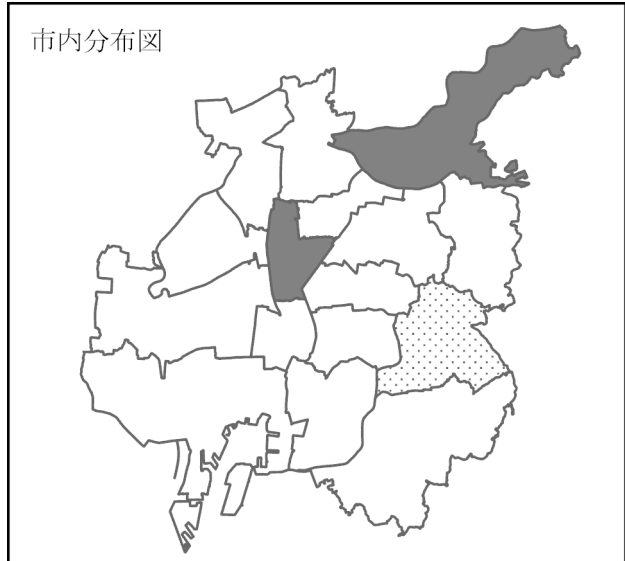
特記事項

和名は立浪草で、花の咲く様子を泡立つ波に例えたものである。名古屋市内には 4 種のタツナミソウ類が生育しているが、いずれも希少で、絶滅が危惧される。

関連文献

保草本 I p.186, 平新版 5 p.119.

市内分布図



(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) シソ科>

シソバタツナミ *Scutellaria laeteviolacea* Koidz.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は直立し高さ 5~15cm、やや密に上向きに曲がった毛がある。葉は 2~4 対が対生し、長さ 1~3cm の柄があり、葉身はやや三角状の卵形、長さ 1.5~4cm、先端は鈍頭、基部は切形、辺縁にはあらい鈍鋸歯があり、表面はやや光沢があり、裏面は通常紫色を帯びる。花期は 5~6 月、茎の先端に長さ 2~6cm の穂状の花序をつける。花冠はやや密につき、紫色、長さ 16~20mm である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷山、村松 30403, 2019-6-6, N; 吉根階子田、鳥居ちゑ子 1589, 1999-5-18, A など）に生育している。

県内：東三河と西三河の山地には比較的多く、尾張にも点在する。1（八岳山、小林 52040, 1994-6-11）、2（佐久間ダム西、加藤等次 4150, 1993-10-23）、3（御園、芹沢 98139, 2021-6-30）、4（天狗棚、鈴木 学 1418, 1983-6-26）、6（川向、芹沢 55567, 1990-6-19）、7（岩古谷山、芹沢 61770, 1992-6-18）、8（鳳来寺山、加藤等次 1435, 1992-6-16）、9（黄柳野、芹沢 54972, 1990-5-22）、11（中河内、芹沢 55451, 1990-6-14）、12（富岡、芹沢 93984, 2018-5-12）、13（一宮町金沢、小林 37674, 1992-6-9）、14（遠望峰山、井上美保子 292, 1992-6-13）、17（赤羽根町高松、小林 74914, 2002-5-19）、5（野入町、芹沢 85941, 2010-7-3）、19（八幡、芹沢 61730, 1992-6-13）、20（御内町、芹沢 95417, 2019-6-17）、21（梶、長谷川朋美 377, 1992-5-23）、22（垂木、塚本威彦 1077, 1994-5-25）、23（木瀬、日比野修 408, 1992-6-14）、24（中金町、芹沢 58644, 1991-5-28）、25（猿投山、土場トシ子 117, 1992-6-21）、28（保久町、芹沢 84086, 2009-5-27）、29（米河内町、中西普佐子 871, 1993-6-5）、30（羽栗町、芹沢 51586, 1989-5-25）、31（深溝、芹沢 69475, 1994-5-28）、37a（広久手町、芹沢 75721, 1999-6-4）、44b（岩屋、鳥居ちゑ子 2088, 2002-5-13）、45（八曽、芹沢 73747, 1997-5-31）、47（石金、日比野修 4778, 1999-5-23）、48（内津町、山田果与乃 687, 2001-5-26）などで確認されている。タツナミソウ類の中では、やや山地寄りに分布している。

国内：本州（福島県以西）、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地のやや湿った林内や林縁に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

吉根では丘陵地の林内にあわせて 20 株ほどが生育していたが、最近の状況は確認されていない。周辺の開発が進んでおり、すでに消滅した可能性もある。

保全上の留意点

何はともあれ、丘陵地の地形を保全することが必要である。

特記事項

名古屋市内には 4 種のタツナミソウ類が生育しているが、いずれも希少で、絶滅が危惧される。

関連文献

保草本 I p.185, 平新版 5 p.118.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) モチノキ科>

タマミズキ *Ilex micrococca* Maxim.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の高木。高さ 15m くらいになる。葉は互生し、長さ 1.5~2cm の柄があり、葉身は卵状楕円形~卵状長楕円形、長さ 7~13cm、幅 3~6cm、先端は鋭尖頭、基部は円形、辺縁には細い鋭鋸歯がある。花期は 5~6 月、雌雄異株で、葉腋の集散花序に多数の緑白色の小さい花をつける。果実は球形で直径約 3mm、多数が密につき、赤熟する。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷山、芹沢 84146, 2009-6-9, A）に生育している。

県内：低山地に点在するが、多いものではない。8（川合、小林 54706, 1994-10-23）、10 布里、小林 49793*, 1993-12-12）、12（横川、小林 55166*, 1994-11-19）、13（長沢、瀧崎 19106, 2001-9-18, T）、15（岩崎町、小林 65084*, 1998-9-6）、23（御作、日比野修 1276*, 1993-6-8）、25（猿投山、土場トシ子 993*, 1995-7-16）、28（下衣文、小林 55515, 1994-12-23）、30（桑谷町、芹沢 57987*, 1990-11-11）、36（三ヶ根山、壁谷重美子 620*, 1994-6-29）、37a（川平町、日比野修 1264, 1993-6-4）、45（栗栖、小林 42071*, 1993-5-1）、48（内津町、芹沢 69601*, 1994-6-1）などで確認されている。ただし*は花も実もない標本で、できれば再採集が望ましい。

国内：本州（静岡県、福井県以西）、四国、九州。

世界：日本、台湾、中国大陸中南部。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

低山地の常緑広葉樹林内に生育することが多い。

現在の生育状況／減少の原因

名古屋市では唯一の山地状の場所である守山区東谷山に、少数の個体が生育している。

保全上の留意点

東谷山では、鳥獣の保護と称してその餌となる植物を植栽する動きがあり、本来の自然状態に対する大きな脅威になっている。自然の中に、本来その場所に生育していない種を植栽してはならないことはここで改めて指摘するまでもないが、その場所に生育している種を植栽することも、遺伝的攪乱という点で、ある意味では自然に対してより一層深刻な悪影響を与えるおそれがある。本種の場合も、「実のなる木」だからと言って植栽を行わないよう、特に注意する必要がある。

特記事項

晩秋には赤い果実が枝に多数つき、遠くからでもよく目立つ。

関連文献

保木本 I p.272, 平新版 5 p.184.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) キキョウ科>

サワギキョウ *Lobelia sessilifolia* Lamb.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 13。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は中空で分枝せず、高さ 70～120cm、無毛である。葉は多数が互生し、無柄、葉身は披針形で長さ 4～7cm、先端は漸尖し、基部は円形、辺縁には低い鋭鋸歯がある。花期は 8～9 月、上部の葉がしだいに小型となって長い総状花序に移行する。花には 5～12mm の柄があり、花冠は唇形で濃紫色、長さ 2.5～3cm、上唇は 2 深裂、下唇は 3 浅裂し、裂片の縁に長毛がある。さく果は球形で、長さ 8～10mm になる。

分布の概要

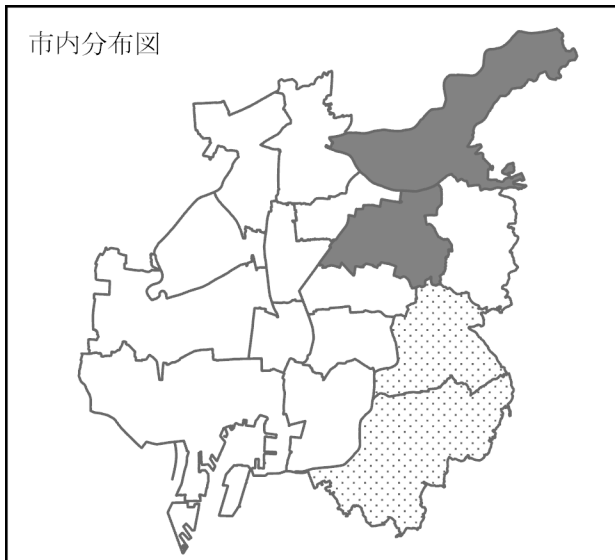
市内：1 守山区（吉根長廻間、芹沢 77660, 2001-9-23, A; 大森北湿地、村松 28782, 2017-9-24, N）、3 千種区（田代町平和公園、鳥居ちゑ子 2030, 2001-9-21, A）に生育している。4 天白区（八事裏山、芹沢 56190, 1990-8-8, A; 島田緑地、芹沢 53329, 1989-9-20, A）、5 緑区（鳴海町水広下池、芹沢 59842, 1991-8-23, A）にも生育していた。

県内：県 GDB2017 p.300 参照。低山地に多いが、東三河北部の山地には少ない。平野部にはなく、知多半島でも確認されていない。県西部では名古屋市のほか、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、岡崎北部、岡崎南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、春日井で記録されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：カムチャッカから中国大陸、シベリア東部にかけて分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

湿地に生育する。愛知県では、溜池の周辺や湧水湿地下部の泥質の場所に多く生育している。

現在の生育状況／減少の原因

どの場所も個体数は少なかった。大森北以外の最近の状況は十分確認されていないが、一方で開発、他方で森林化の進行により、消失した場所もあると思われる。千種区平和公園ではやや目につきやすい場所に生育していて、昔植栽されたものという話も聞いたが、はっきりしなかった。2018 年には確認できなかった。天白区八事裏山の自生地は、東海豪雨により消失した。緑区でも、2004 年の時点ですでに現存を確認できなかった。

保全上の留意点

多少は耐陰性があり、林内の湿地にも生育していることがあるが、それでも過度の被陰には耐えることができない。湿地周辺の樹木を伐採し、開けた湿地を維持することが必要である。

特記事項

秋の湿地では、最も目につく花の一つである。

関連文献

保草本 I p.91, 平新版 5 p.192.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) キキョウ科>

タニギキョウ *Peracarpa carnosa* (Wall.) Hook.f. et Thomson var. *circaeoides* (F. Schmidt ex Miq.) Makino**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

小型の多年生草本。地下茎は細くて長くは、分枝して立ち上がり、高さ 5~15cm の地上茎となる。葉は互生し、長さ 5~15mm の柄があり、葉身は卵円形、長さ 10~20mm、先は鈍形、基部は円形、辺縁には低い鈍鋸歯があり、表面は緑色で短毛を散生する。花期は 6~8 月、茎の上部から長さ 2~5cm の細い柄を出し、その先端に 1 個の花を上向きにつける。花冠は漏斗形、白色またはわずかに淡紫色を帯び、長さ 5~8mm、5 深裂し、裂片は広披針形である。

分布の概要

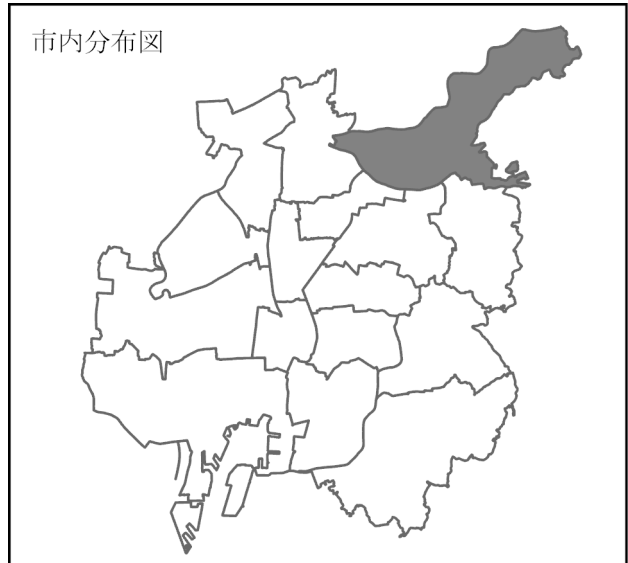
市内：1 守山区（上志段味東谷山、村松 30339, 2019-5-13, N）に生育している。

県内：山地にはやや普通に見られるが、丘陵地では少ない。2（茶臼山林道、芹沢 103548, 2024-4-28）、17（高松町、芹沢 89970, 2015-5-9）、5（面ノ木峠、鈴木 学 1189, 1983-5-27）、19（駒山、芹沢 65728, 1993-6-1）、20（大河原、芹沢 69058, 1994-5-2）、21（田平沢、長谷川朋美 220, 1992-4-27）、22（手洗、伊藤泰輔 200, 1993-6-5）、23（西市野々、日比野修 330, 1992-5-22）、24（国附町、芹沢 65406, 1993-5-21）、25（猿投山、磯貝彰宏 1183, 1984-5-22）、37a（定光寺町、塚本威彦 74, 1992-5-2）、44b（豊浜、芹沢 61035, 1992-4-21）、45（栗栖木曾川、佐分康之 373, 1996-5-16）、48 外之原町、芹沢 86974, 2011-5-20）などで確認されているが、特に東三河は標本の集積が不十分である。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：カムチャッカから日本、済州島にかけて分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地の沢沿いの湿った林内に生育し、通常狭い範囲に多数の茎が出て、やや密な小群落を作る。

現在の生育状況／減少の原因

名古屋市では、唯一の山地状の場所である守山区東谷山に小群落があるという。現地は崖崩れしやすい地形で、存続の基盤は脆弱である。

保全上の留意点

崩壊地の復旧工事などが行われると、踏みつけなどにより消滅する可能性がある。工事を行う際には、適切な配慮が必要である。

特記事項

基準変種 var. *carnosa* はヒマラヤに分布する。

関連文献

保草本 I p.96, 平新版 5 p.193.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ミツガシワ科>

ガガブタ *Nymphoides indica* (L.) Kuntze**評価理由**

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 12。全国的に減少傾向が著しい水草で、名古屋市でも生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	準絶滅危惧

形態

浮葉性の多年生水草。茎は長く伸び、1~3個の葉をつける。葉柄は長さ1~2cmで、基部はやや耳状になり、花序の基部を抱く。葉身は卵状円形で直径7~20cm、基部は深く湾入し、辺縁は全縁である。花期は7~9月、花は葉柄の基部に多数束生し、葉身の湾入部から水上に出て開く。花冠は白色で、直径約15mm、5裂し、内側全体に白毛がある。花柱は2型性、長花柱花をつける株と短花柱花をつける株があり、両者が混生する集団でのみ結実する。夏の終わりから秋にかけて、葉柄の基部にバナナの房状の殖芽を形成する。

分布の概要

市内：2名東区（猪高町、村松 29810, 2018-9-9, N; 藤森町（鳥居ちゑ子 4837, 2020-9-16, N; 牧野ヶ池緑地、渡邊幸子 4796, 2001-7-30, N）、4天白区（天白町島田大根池、芹沢 88053, 2012-10-8, A; 元八事植田川、中村 肇 82, 2012-5-13, N）、5緑区（長根町四郎曾池、渡邊幸子 5444, 2003-9-17, A）に生育している。1守山区（大森雨池、芹沢 76868, 2000-7-14, A）にも生育していた。7中区（名古屋城外堀）の記録もあるが、標本資料を確認できない。

県内：県 RDB2020 p.659 参照。名古屋市のほか、豊田北西部、刈谷知立、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、常滑の6区画で確認されている。豊橋北部と田原東部で採集された標本もあるが、東三河ではまだ現存を確認できない。

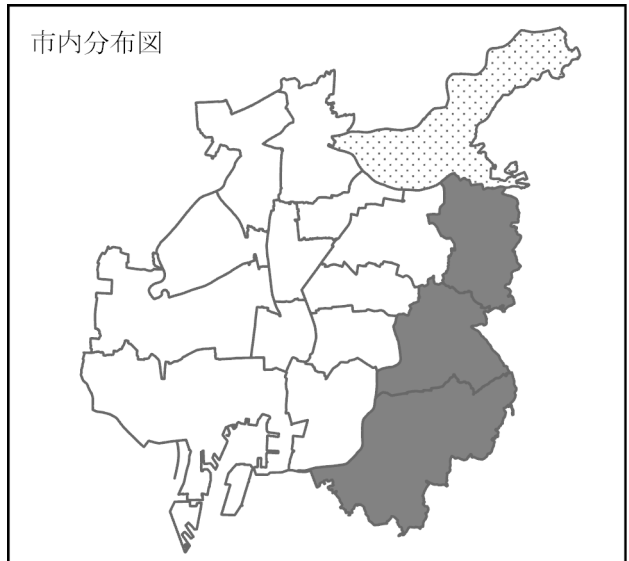
国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陆、東南アジア、アフリカ、オーストラリア。

生育地の環境／生態的特性

池沼やため池などに生育する。極稀に河川で確認されることもある。

市内分布図

**現在の生育状況／減少の原因**

40年ほど前までは尾張・西三河の平野部のため池で最も普通に見られる水草の一つであったが、ため池の改修や水質汚濁によって急激に激減し、現在は特定の場所でしか見られなくなった。ただし残存している場所では、個体数が近年増加傾向にある。強力な除草剤が使用されなくなったことが回復の原因ではないかと思われる。名古屋市では、名東区（牧野池）および緑区（四郎曾池）では池の半分程度に生育している。一方、外来水草との競合により消失することもある。守山区（大森雨池）では池一面に生育していたが、投入されたボタンウキクサが増殖して水面を覆い、その後ボタンウキクサは消失したが本種も見られなくなった。

保全上の留意点

水質が過度に富栄養化すると生育できない。生育地のため池の水質を維持することが必要である。

特記事項

天白区（島田緑地）に生育するものは移植された個体で、評価の対象にならない。

関連文献

- 保草本 I p.213, 平新版 5 p.196, SOS 旧版 p.72+図版 21.
 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.140-141. 文一総合出版, 東京.
 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.297. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) キク科>

ヌマダイコン *Adenostemma lavenia* (L.) Kuntze

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。低湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は直立し、下部では分枝せず、高さ 40~90 cmになる。葉は対生し、5~9 対が茎の中上部に分散してつき、長さ 1~5cm の絵があり、葉身は卵形~長卵形、長さ 4~18cm、3 脈がやや目立ち、先は鋭頭で鈍端、基部はくさび形で葉柄に流れ、辺縁には低い鈍鋸歯がある。花期は 8~10 月、花序は茎の先端にまばらな散房状につき、花時に直径 5~6mm、総苞は長さ約 4mm、総苞片は 2 列につく。小花の花弁は白色で長さ 2.5~3mm、先は 5 裂する。そう果は棍棒状、長さ約 4mm、表面に小こぶ状の隆起があり、4 個の短くて粘液を分泌する冠毛がある。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味竈池、長谷川 761, 2023-8-21, N; 中志段味南原、村松 30881, 2019-10-11, N）に生育している。

県内：丘陵地や平野部に点在しており、12（庭野、芹沢 91524, 2016-9-11）、13（長沢、瀧崎吉伸 19167, 2001-9-24, T）、15（多米町、瀧崎吉伸 21039, 2003-10-5, T）、17（大久保町、瀧崎吉伸 25022, 2008-11-23, T）、18（山田、小林 47759, 1993-9-12）、20（下平、日比野修 3784, 1996-9-5）、23（三箇、塚本威彦 1777, 1995-10-6）、24（西広瀬町、芹沢 87454, 2011-10-1）、25（猿投町、山崎玲子 947, 1994-9-20）、29（奥山田町、芹沢 86305, 2010-9-29）、30（桑谷町、本多さおり 982, 1994-10-1）、37a（曾野町、日比野修 811, 1992-9-13）、57b（八開村木曾川、芹沢 76385, 1999-9-18）などで確認されている。

国内：本州（関東地方以南）、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、台湾、マレーシア、インド、オーストラリア。

生育地の環境／生態的特性

河川敷やため池の周辺などの湿った草地に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

上志段味ではところどころに生育しており、場所によっては個体数も比較的多いが、一方で土地造成や溜池の改修により消失してしまった場所もある。

保全上の留意点

多少攪乱された場所に生育する植物であるが、それでも過度の攪乱には耐えることができない。生育地の溜池周辺の自然環境を、全体として保全することが必要である。

特記事項

オカダイコン *A. madurense* DC. は丘陵地~低山地の林内などに生育し、葉は茎の中部に集まる傾向が強く、葉縁の鋸歯が鋭く、そう果の表面が平滑なもので、県内では東栄（大入川、芹沢 104396, 2024-9-21, A）、鳳来北東部、鳳来北西部、作手、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、豊橋南部、額田、岡崎北部、幸田に分布しているが、尾張では半田武豊（42c 富貴深谷、芹沢 103060, 2023-10-14, A）で確認されているだけである。

関連文献

保草本 I p.69, 平新版 5 p.365.

Koyama, H. .2001. *Adenostemma lavenia* and its allies (Compositae) in Japan. China and Thailand. Mem. Natn. Sci. Mus. Tokyo (37):159-168.

(芹沢俊介)

市内分布図



維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) キク科>

オクモミジハグマ *Ainsliaea acerifolia* Sch.Bip. var. *subapoda* Nakai**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 13。山地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は高さ 40～80cm になり、中部に 4～7 枚の葉をやや輪状につける。葉には長い柄があり、葉身は腎心形または円心形、長さ 6～12cm、掌状に浅裂し、両面にまばらに軟毛がある。花期は 8～10 月、茎の先端部に多数の頭花を穂状につける。頭花は開花時は横を向き、短い柄と小さい苞がある。小花は 3 個、花冠は白色、4～5 裂し、裂片は長さ 7～10mm である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷山、長谷川 698, 2023-7-24, N）に生育している。守山区の他の場所（吉根）にもあるようだが、標本は採取されていない。

県内：山地ではしばしば見かける植物であるが、丘陵地では少ない。3（振草、芹沢 63565, 1992-9-18）、4（天狗棚、鈴木 学 1764, 1983-8-19）、6（川向、芹沢 57069, 1990-9-13）、7（長江、芹沢 63558, 1992-9-18）、12（川路、小林 39993, 1992-10-13）、14（豊岡町、小林 80307, 2003-8-5）、5（大野瀬、塚本威彦 2487, 1997-9-13）、19（坪崎、芹沢 63205, 1992-9-8）、22（田代、伊藤泰輔 76, 1992-9-15）、25（猿投山、山崎玲子 1146, 1995-6-18）、36（西幡豆、芹沢 71143, 1994-9-24）、37a（上品野町、日比野修 19, 1991-10-29）、45（尾張富士、村瀬正成 A24, 1991-10-22）、47（大山、塚本威彦 2597, 1997-10-25）などで確認されている。

国内：本州中西部、九州北部。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地や丘陵地の林内に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

東谷山の小群落は当面残りそうだが、それ以外の場所は相当危機的である。吉根のあると聞いた場所では、すぐ近くまで開発が進んでいる。また、ササ類が繁茂しており、その点でも存続しているかどうか懸念される。東谷山に限定すれば、集団数階級は 4、人為圧階級は 2 になる。

保全上の留意点

丘陵地の地形を保全することが必要である。また東谷山は、本種を含めて名古屋市では希少な植物が多数生育している場所である。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。

特記事項

基準変種のモミジハグマは葉の切れ込みが深いもので、愛知県では山地に点在しており、2（茶臼山、芹沢 70613, 1994-9-1）、4（白鳥山、石田雄吉 374, 1979-9-25）、6（段戸高原、芹沢 63415, 1992-9-13）、6（岩古谷山、榊原利修 1353, 1992-10-2）、8（四谷、小林 58186, 1995-9-30）、9（七郷一色、小林 62659, 1997-10-18）、11（中河内、小林 54599, 1994-10-16）、14（清田町、小林 80161, 2003-9-15）、5（面ノ木峠、鈴木 学 94, 1982-9-25）、20（寧比曾岳、芹沢・水野 140, 1984-9-26）、21（阿蔵、小林 54166, 1994-9-25）、28（闇菰溪谷、小林 54213, 1994-10-1）などで確認されているが、変異はかなり連続的である。

関連文献

保草本 I p.20, 平新版 5 p.211.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) キク科>

キッコウハグマ *Ainsliaea apiculata* Sch.Bip.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下茎は細長くはう。茎は高さ 10~30cm、下部に 5~11 枚の葉をやや輪状につける。葉には長い柄があり、葉身は五角形、長さ 1~3cm、先端は鈍頭で微凸端基部は心形、しばしばごく浅く 5 裂し、両面に長い毛がある。花期は 9~10 月、茎の先端部に多数の頭花を総状または複総状につける。頭花は開花時は横を向き、1~5mm の柄があり、総苞は筒状で長さ 10~15mm、小花は 3 個、しばしば閉鎖花となるが、開花した花冠は白色で長さ約 9mm である。そう果は長さ 4~5mm、密に毛があり、冠毛は長さ約 7mm である。

分布の概要

市内：2 名東区（猪高緑地、長谷川 1074, 2024-6-4, N）に生育している。1 守山区（吉根太鼓ヶ根、鳥居ちゑ子 2285, 2003-5-1, A）にも生育していた。4 天白区（八事、立川 s.n., 1952-8-19, A）で採集された標本もある。

県内：東三河、西三河の山地にはやや普通に見られ、尾張の丘陵地にも点在する。2（新野峠、加藤等次 3596, 1993-8-24）、3（明神山、山崎玲子 331, 1992-11-29）、4（天狗棚、鈴木 学 1762, 1983-8-19）、6（竜頭山、小林 47520, 1993-9-11）、7（鹿島山、芹沢 64078, 1992-10-5）、8（鳳来寺山、加藤等次 352, 1991-9-24）、10（愛郷、小林 49077, 1993-10-24）、13（萩、瀧崎 17881, 2000-8-10, T）、14（柏原町、井上美保子 463, 1992-9-7）、15（西川町、小林 40064, 1992-10-19）、18（高木~泉福寺山、小林 40534, 1992-11-22）、5（大野瀬、塚本威彦 2485, 1997-9-15）、19（駒山、日比野修 1732, 1993-9-6）、20（追分、新井文子 1334, 1994-10-31）、21（蕪木、長谷川朋美 961, 1992-10-7）、22（大ヶ蔵連、塚本威彦 1400, 1994-9-18）、23（西市野々、塚本威彦 426, 1992-9-30）、24（豊松町、山崎玲子 288, 1992-9-20）、25（猿投山、土場トシ子 598, 1994-9-10）、28（本宮山、水野岸子 912, 1985-10-20）、30（山綱町、本多さおり 1044, 1994-10-14）、31（深溝、金子律子 1354, 1995-10-9）、36（三ヶ根山、壁谷重美子 1255, 1994-10-25）、37a（定光寺、日比野修 884, 1992-9-28）、38a（岩作、半田多美子 1781, 1994-10-18）、42a（矢高、渡邊麻子 848, 1995-9-28）、45（栗栖、平嶋 敏 987, 1989-9-9）、47（大山、日比野修 4690, 1998-10-31）、48（木附町、太田さち子 1169, 1993-10-17）などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本および朝鮮半島南部。

生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地のやや乾いた林内に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

猪高緑地では春期にみただけだが 100 株を超える群落があった（開花しない株もあると思われるので個体数階級は 2）。守山区では斜面中腹の林内に小群落があったが、宅地造成により消滅したらしい。2024 年の仮リストでは絶滅としたが、その後の調査で自生地が確認された。

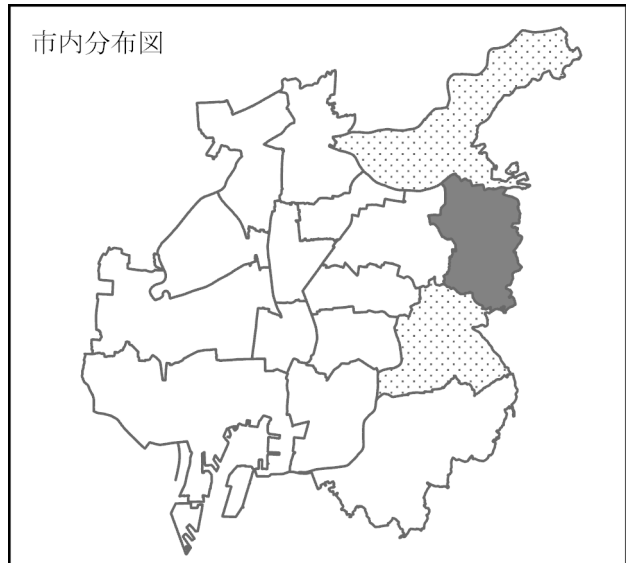
保全上の留意点

生育地の地形と森林を保全することが必要である。

関連文献

保草本 I p.20, 平新版 5 p.211.

市内分布図



(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) キク科>

カワラハハコ *Anaphalis margaritacea* (L.) Benth. et Hook.f. var. *yedoensis* (Franch. et Sav.) Ohwi**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 13。礫の河川敷に生育する植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は束生し、高さ 30~50cm になり、中上部でよく分枝し、白色の綿毛を密生する。葉は互生し、葉身は線形、長さ 6~9cm、幅 1~3mm、辺縁は裏側に巻き、裏面は灰白色または淡褐色の長綿毛が密生する。花期は 8~9 月、枝先に多数の頭花を散房状につける。総苞は球形で長さ 5mm、総苞片は乾膜質で上半分は白色、小花は淡黄色である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味、鳥居ちゑ子 2754, 2009-9-29, A; 中志段味庄内川河川敷（鳥居ちゑ子 1003, 1995-10-10, A）で採集された標本がある。2 名東区（高針台、村松 29187, 2018-9-9）、4 天白区（天白町八事、芹沢 77576, 2001-9-8, A）、5 緑区（鳴海町水広下、渡邊幸子 3265, 1997-10-31, A）、15 中川区（富永一丁目、高木順夫 5969, 1998-11-14, A）でも採集されているが、これらは移入の可能性が高い。

県内：名古屋市のほか、2（佐久間ダム下、小林 60077, 1996-9-14）、10（連合、小林元男 65134, 1998-9-12）、13（御津町佐脇浜、小林 80317, 2003-10-5）、17（亀山町、村松 27917, 2014-9-27）、19（島崎、塚本威彦 843, 1993-10-3）、22（田代、芹沢 78113, 2002-9-15）、23（北一色、日比野修 1642, 1993-8-21）、24（幸海町、山崎玲子 656, 1993-8-31）、25（猿投山、芹沢 71338, 1994-10-16）、26（今町、畑佐武司 2450, 2001-9-14）、27（福谷、芹沢 64036, 1992-10-2）、29（高隆寺町、中西普佐子 1569, 1993-9-18）、37a（定光寺町、日比野修 845, 1992-9-18）、38b（藤島、半田多美子 1383, 1993-10-18）、39b（栄町、浅野彦彦 783, 1999-11-13）、45（犬山木曽川、芹沢 87505, 2011-10-6）、46a（木曽川、上山秀郎 201, 1993-9-16）、46c（木曽川、佐分康之 1488, 1996-11-10）、47（大草、日比野修 5019, 1999-9-29）、48（内津町、太田さち子 919, 1993-9-29）、53（北方町木曽川、佐分康之 1366, 1996-10-12）、54（木曽川町木曽川、芹沢 76449, 1999-9-26）、55（祖父江砂丘、渡邊幸子 4500, 2000-9-20）、57b（三和町木曽川、鳥居ちゑ子 2661, 2008-9-22）などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本固有。種としては北アメリカから東アジア、ヒマラヤにかけて分布している。

生育地の環境／生態的特性

本来は砂礫質の河川敷に生育するが、やせた丘陵地の半裸地状の場所に生育していることもある。時には道路工事等に伴って移入され、大きな道路の中央分離帯などにも生育している。

現在の生育状況／減少の原因

上志段味では大株が 1 株生育していたという。中志段味では庄内川河川敷に数株生育していたが、東海豪雨時に流され、見られなくなった。しかし礫の河川敷の状態は変わらないので、そのうちに再度出現すると思われる。守山区以外では名東区高針台、天白区の道路わき、大根池堰堤、緑区水広下池、中川区戸田川堤防などで記録されているが、いずれも移入と思われる。不安定な立地に生育する植物なので、今後もあちこちで散発的に出現する可能性がある。

保全上の留意点

出水の減少による河川敷の安定化と富栄養化によって、中流部の河川敷にも木本や高茎草本が侵入するようになり、本種が好む半裸地状の礫の河原自体が減少している。道路工事等に伴って人為的に移入されたものは保全の対象外である。

特記事項

葉の幅がやや広いホソバノヤマハハコ subsp. *japonica* (Sch.Bip.) Kitam.は、庄内川新大正橋橋上（大治町側）で採集されたことがあるが、もちろん本来の自生地ではない。

関連文献

保草本 I p.75, 平新版 5 p.343.

（芹沢俊介）

市内分布図



維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）キク科>

ムラサキトキンソウ *Centipeda* sp.

評価理由

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 12。秋期干上がった溜池の岸に生育する植物で、名古屋市では生育地が限られている。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	—

形態

トキンソウに似ているが、頭花はやや大きく、紫色を帯びる。赤井賢成氏が研究中なので、詳細な記述は控える。

分布の概要

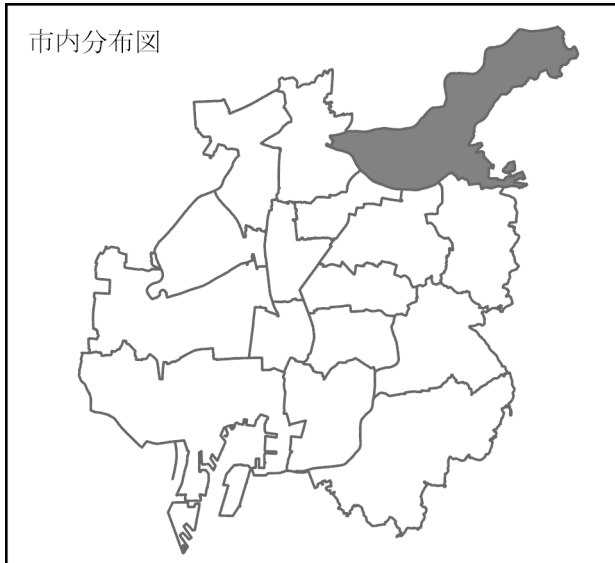
市内：1 守山区（上志段味大村池，渡邊幸子 6671, 2013-10-5, N; 中志段味安田池，高木順夫 22065, 2013-7-8, N）に生育している。

県内：県 RDB2020 p.660 参照。尾張中北部とそれに隣接する西三河に分布しており、現在のところ名古屋市のほか刈谷知立、瀬戸尾張旭、犬山、春日井で確認されている。

国内：赤井氏が研究中。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

秋期干上がったため池の岸に生育する。個体数は年変動が激しく、水が引かない年には全く出現しないこともある。

現在の生育状況／減少の原因

2012 年はよく水が引いた年で、大村池では多量に生育していた。過去には多くのため池に生育していたが、埋め立てや水質汚濁によって生育地が減少し、現在の状態に至ったと思われる。

保全上の留意点

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、秋期干上がったため池の岸には多くの希少植物が生育するが、最近ため池利用が低下して水管理が放棄され、満水状態のままのところも多くなっている。ため池の水質保全のためにも、適切な水管理を継続することが重要である。

特記事項

赤井氏が研究中の未記載の植物である。尾張旭市で井波一雄氏が 1984 年 10 月 15 日に採集された標本が千葉県立中央博物館に収蔵されていたが、2012 年になって県内での現存が確認できた。今後詳細に調査すれば更に産地が追加されると思われる。本種のような未記載の植物をレッドデータブックに収録することには異論もあると思われるが、研究者に情報を提供するという意味でも（秘密裏に研究を進めて出し抜く時代ではない）掲載の方がよいと思う。

関連文献

現在のところ公表されている一般的な文献はない。

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) キク科>

オグルマ *Inula britannica* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。人里周辺に多く生育する植物であるが、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

越年生の草本。茎は高さ 30～80cm になる。根出葉と下部の葉は花時には枯れることが多い。茎葉は互生し、広披針形～長楕円形、長さ 6～10cm、先端は鋭頭～鋭尖頭、基部は多少なりとも茎を抱き、長さ 5～10cm、幅 1～3cm。花期は 7～10 月、茎の先に数個の黄色で直径 3～4cm の頭花をつける。総苞は半球形、長さ 7～8mm、片はやや同長、外片は披針形で鋭頭、緑色で毛がある。そう果は長さ約 1mm、有毛、冠毛がある。

分布の概要

市内：1 守山区（瀬古東三丁目、鳥居ちゑ子 3391, 2014-9-4, A）、4 天白区（天白町平針荒池緑地、中島みゆき 151, 2018-8-14, N）12 北区（楠田町、鳥居ちゑ子 4087, 2018-8-13, N）に生育している。

県内：多くはないが平野部から山地まで点在しており、3（下田、小林 47418, 1993-9-5）、4（サイノ子、小林 62081, 1997-8-31）、12（矢部、小林 39213, 1992-9-12）、13（為当町、青山正宏 137, 1994-8-4）。15（石巻中山町、中西普佐子 4918, 2020-8-28）、18（福江、上村真吾 8-9, 1994-8-6）、20（中立、山崎玲子 1687, 1998-7-8）、23（上渡合、日比野修 3154, 1995-9-19）、24（中切町、畑佐武司 2564, 2001-10-6）、29（奥殿町、中西普佐子 1666, 1993-9-26）、32b（八幡町、芹沢 98338, 2021-7-15）、36（佐久島、芹沢 82262, 2007-9-13）、37a（中水野町、村松 32741, 2021-10-27, N）、37b（平子町北、村松 20952, 2001-9-24, N）、38a（久保山、半田多美子 3369, 2002-7-19）、39b（沓掛町、浅野守彦 2167, 2012-9-2）、42c（上村、鳥居ちゑ子 2437, 2004-8-1）、44b（山海、大西 博 1015, 1992-9-7）、45（犬山、竹下希望 1499, 2010-10-5）、47（大草町、村松 18798, 1999-9-12）、48（玉野町、太田さち子 495, 1993-8-12）、49c（師勝町鹿田、鈴木幸子 219, 1992-9-10）、55（奥田町、水野峰子 208, 1993-7-2）、57b（立田村木曽川、鈴木秀樹 3081, 1996-8-18）などで確認されている。16（大崎町、恒川敏雄 1620, 195T）で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

湿地や水田の周辺、河川敷などの湿った草地に生育する。人里周辺に多いので、自生か植栽か、判断に迷うことも少なくない。

現在の生育状況／減少の原因

守山区では水田わきに 0.5×2m ほどの群落があったというが、その水田がなくなってしまった。北区では水田のわきに数十株の群落があったが、耕地拡大のためほとんどが抜かれ、現在は近くの畑のすみに少群落があるだけという。天白区では山を削って作った道路沿いの草地に、数十株が生育していたらしい。

保全上の留意点

人里近くに生育することが多いため、生育地の保全はなかなか難しい。はっきり意識できないまま消滅してしまいそうな植物の一つである。

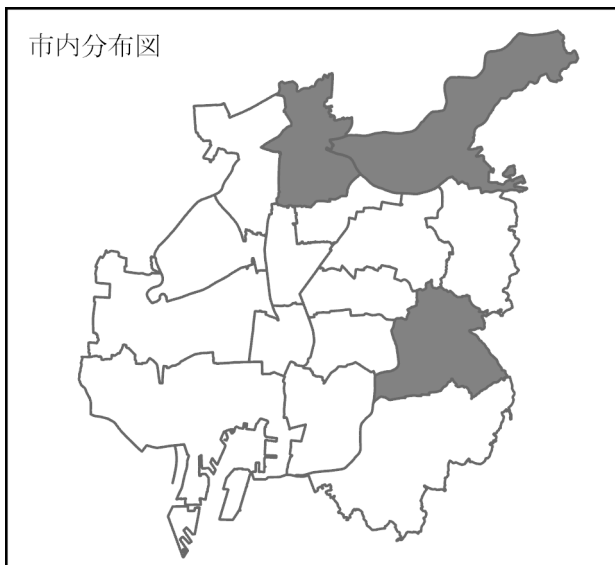
特記事項

和名は小車で、黄色の舌状花が車輪状に並んでいることに由来する。

関連文献

保草本 I p.70, 平新版 5 p.354.

市内分布図



(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) キク科>

ムラサキニガナ *Lactuca sororia* Miq.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 12。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

形態

多年生草本。茎は中空で、高さ 60~120cm になり、切ると白い乳液が出る。葉は互生し、下部のものには長い柄があり、葉身は下部のものは通常羽裂するが、上部のものは次第に小さくなり披針形、辺縁には突起状の鋸歯がある。花期は 6~8 月、頭花は茎の先端に円錐花序状につき、下向きに咲き、紫色で直径 1cm、総苞は長さ 1~1.2cm である。そう果は長さ 3~3.5mm、黒くて細肋があり、冠毛は白色である。花序の柄に腺毛がないものはケナシムラサキニガナ *form. glabra* (Yonek.) と呼ばれる。

分布の概要

市内：1 守山区（竜泉寺北面、日比野修 4583*、1998-7-23, A）、2 名東区（猪高町上社、半田多美子 01090, 2001-6-9, A）、4 天白区（平針大根ヶ越、長谷川 343, 2022-6-27, N）で確認されている。

県内：東三河、西三河の山地にはやや普通に見られ、尾張でも点在する。2（古真立分地、芹沢 56155*, 1990-7-31）、3（下田、芹沢 101915, 2023-7-2）、7（岩古谷山、芹沢 62289, 1992-7-28）、9（竹ノ輪、芹沢 59253, 1991-7-24）、10（玖老勢椎平、芹沢 67802*, 1993-9-17）、13（三上町、加藤等次 1574*, 1992-7-15；財賀町、芹沢 96196, 2020-6-20）、14（相楽町、堀田善久 215*, 1991-6-8；井上美保子 289, 1992-6-10）、16（小島町、小林 66636, 1999-7-7）、5（押山、横井邦子 316*, 1993-7-25；小井沢、日比野修 4079, 1997-7-30）、19（時瀬、日比野修 1444, 1993-7-16）、20（追分、鈴木万里亜 698*, 1995-7-9）、21（大林、芹沢 62392*, 1992-7-30）、22（緑公園、山崎玲子 2855*, 2003-7-5；永太郎町、芹沢 92580, 2017-7-1）、23（北曾木、日比野修 518, 1992-7-19）、24（松平町、山崎玲子 516, 1993-6-20；国附町、佐藤久美子 798*, 1993-8-27；九久平町、山崎玲子 2860**, 2003-7-15）、25（猿投町、磯貝彰宏 223, 1983-9-18；土場トシ子 199*, 1992-8-30）、28（鹿勝川、福岡義洋 938, 1990-7-25）、29（小美町、芹沢 66632, 1993-7-24；蓬生町、芹沢 66660*, 1993-7-24）、30（羽栗町、芹沢 69899, 1994-6-23）、31（久保田、芹沢 98267, 2021-7-21）、36（西幡豆、壁谷重美子 603, 1994-6-29）、37a（定光寺町、日比野修 463*, 1992-7-6；川平町、日比野修 5102, 2000-8-17）、38b（岩崎町、半田多美子 3345, 2002-6-13）、41b（日長神社、畑佐武司 161, 1999-6-12）、44b（内海内福寺、芹沢 151756, 2023-6-18）、45（八曾、芹沢・松田 140, 1986-7-4）、47（大山、村瀬正成 11036, 1994-7-10）、48（外之原町、秋山葉子 103, 1993-7-8；芹沢 66911*, 1993-8-13）などで確認されている。8（川合、恒川敏雄 80, 1946-7-26, T）、15（石巻山、恒川敏雄 1831, 1954-7-11, T）で採集された標本もある。無印はケナシムラサキニガナ、*はケムラサキニガナ、**はその白花品である。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本および中国大陸中部。

生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地の林内や林縁に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

守山区では、竜泉寺の林内に点在していたというが、最近の状況は確認されていない。名東区では、猪高緑地の林縁に数株生育していた。天白区では 10~20 株が生育しているという。

保全上の留意点

多少攪乱された場所にも生育できる植物であるが、過度の攪乱には耐えることができない。生育地の地形を保全することが必要である。

特記事項

「こんな植物が？」と思われそうだが、名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

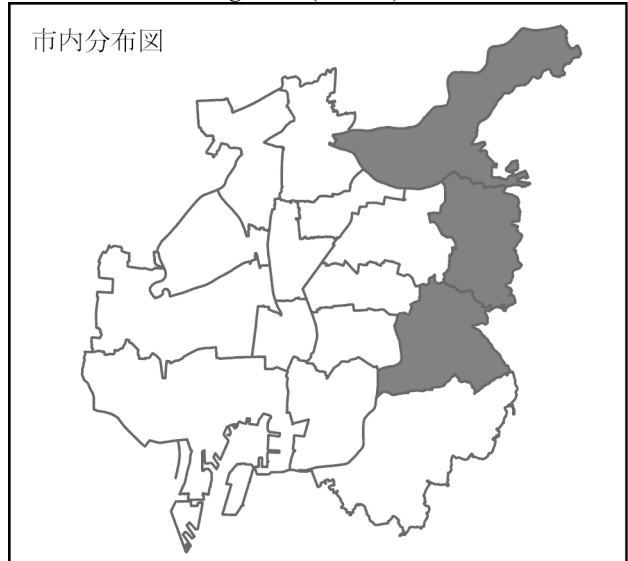
関連文献

保草本 I p.8, 平新版 5 p.284.

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

市内分布図



(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）キク科>

カシワバハグマ *Pertya robusta* (Maxim.) Beauv.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下茎は横にはう。茎は直立し、分枝せず、高さ 30～70cm になる。葉は茎の中央部にやや集まってつき、下部のものには長く、上部のものには短い柄があり、葉身は卵状長楕円形、長さ 10～20cm、先端は鋭頭、辺縁にあらい歯牙がある。花期は 9～11 月、頭花は茎の上部に穂状に数個つき、総苞は長さ 17～27mm、外片は扁円形、内に 10 個前後の小花がある。そう果は長さ 10～11mm。冠毛は褐色を帯び、不ぞろいで、長さ 13～15mm である。

分布の概要

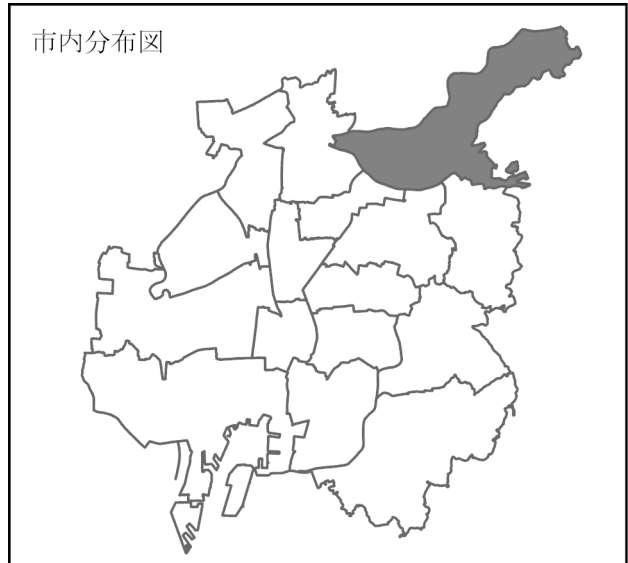
市内: 1 守山区(上志段味東谷山, 飯尾俊介 102, 2002-10-3, A; 中志段味宮前, 鳥居ちゑ子 2208, 2002-9-30, A) に生育している。

県内: 東三河と西三河の山地に点在する。2 (神野山, 小林 39925, 1992-10-10)、3 (御園, 小林 39916, 1992-10-10)、4 三七, 小林 48690, 1993-10-11)、7 (岩古谷山, 芹沢 63062, 1992-9-4)、13 (牛の滝, 小林 40199, 1992-10-25)、14 (清田町, 井上美保子 929, 1993-8-23)、15 (石巻, 瀧崎 3098, 1979-10-6)、5 (桑原, 塚本威彦 2534, 1997-9-28)、19 (駒山, 小林 39100, 1992-9-6)、22 (荷掛, 日比野修 2556, 1994-9-6)、23 (田茂平, 日比野修 1832, 1993-10-16)、24 (野見山町, 畑佐武司 5392, 2002-10-10)、29 (奥殿町, 杉田一記 2407, 2011-10-13)、36 (東幡豆, 壁谷重美子 1261, 1994-10-26)、37a (穴田町, 日比野修 855, 1992-9-20)、45 (池野, 芹沢 71322, 1994-10-15)、47 (大山, 日比野修 4689, 1998-10-31)、48 (外之原町, 山田果与乃 1179, 2004-9-23) などで確認されているが、東三河は標本の集積がやや不十分である。

国内: 本州、四国、九州。

世界: 日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地のやや明るい林内に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

守山区では 2 カ所で記録されているが、どちらも個体数はごく少ないらしい。中志段味では造林地の中に生育しているが、草刈りの時期によっては生育を確認できない年もあるという。

保全上の留意点

丘陵地の地形を保全することが必要である。また東谷山は、本種を含めて名古屋市では希少な植物が多数生育している場所である。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。

特記事項

クルマバハグマ *P. rigidula* (Miq.) Makino はより山地性で、尾張では瀬戸尾張旭と犬山に生育している。

関連文献

保草本 I p.19, 平新版 5 p.213.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) ウコギ科>

オオバチドメ *Hydrocotyle javanica* Thunb.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。やや山地性の植物で、名古屋市では最近になって初めて 1 ケ所での生育が確認された。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。主茎は地をはい、斜上する枝に花序をつける。主茎につく葉の葉柄は長さ 6~20cm、枝につく葉の葉柄は長さ 0.7-4cm ある。葉身は長さ 2.5~4cm、幅 2~5cm、基部は深い心形~広心形、掌状に浅く 5~6 裂片に切れ込み、裂片の先端は鈍頭~やや鋭頭、辺縁には鋸歯がある。花期は 7-10 月、枝先の葉腋から 1~数個の花序を出す、茎から葉対生で花序を出すこともある。花序柄は長さ 3~5mm、花はその先端に 10 個以上が球状に集まってつく。

分布の概要

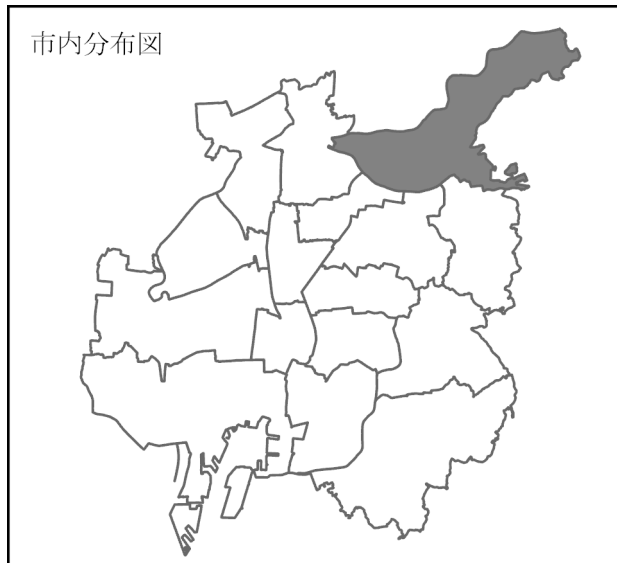
市内：1 守山区（東谷山、芹沢 102636, 2023-9-19, A）に生育している。

県内：1（押出、芹沢 98972, 2021-9-5）、2（古真立、芹沢 102684, 2023-9-23）、3（西菌目、芹沢 100699, 2022-9-12）、7（神田、芹沢 63140, 1992-9-4）、8（鳳来寺山、加藤等次 236, 1991-9-3）、10（一色、芹沢 98922, 2021-9-4）、12（一鉄田、中西普佐子 4900, 2020-8-7）、13（一宮町牛の滝、芹沢 67758, 1993-9-17）、15（嵩山町、芳山朋子 1213, 1984-9-28）、20（月原、日比野修 3813, 1996-10-12）、23（折平、日比野修 1398, 1993-6-28）、25（猿投町、塚本威彦 336, 1993-8-18）、28（滝尻、芹沢 57954, 1990-10-27）、29（蓬生町、伊奈知子 851, 1993-9-16）、37a（東白坂町、村松 23413, 2006-10-15, N）、45（八曾、松田ちか子 49, 1985-11-3）、48（廻間町、山田果与乃 511, 1999-9-28）などで確認されている。

国内：本州（関東地方以西）、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、台湾からインド、東アフリカ、オーストラリアにかけて広く分布しているが、その中に 2 つの種を認める見解もある。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

沢沿いの林内や林縁に生育している。

現在の生育状況／減少の原因

東谷山では、麓に近い林道沿いの狭い範囲に小群落がある。林道沿いのため、道路の整備等で失われるおそれがある。

保全上の留意点

工事等の際には注意が必要である。

関連文献

保草本Ⅱp.5, 平新版 5 p.380.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) セリ科>

ノダケ *Angelica decursiva* (Miq.) Franch. et Sav.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は直立して暗紫色を帯び、高さ 80~150 cm になる。葉は根出または茎上に互生し、下部のものには長い柄があり、葉身は頂羽片と 3~4 対の側羽片からなり、最下羽片はしばしば更に深〜全裂する。小葉と裂片は長楕円形または長卵形、裏面は白色を帯び、辺縁には硬い鋭鋸歯があり、基部は翼となって葉軸に流れる。中上部の葉の葉柄は鞘となって袋状にふくらむ。花期は 9~11 月、茎の先端に直径 4~10cm の複散形花序をつけ、花は通常暗紫色である。

分布の概要

市内: 1 守山区 (中志段味宮前、鳥居ちゑ子 999, 1995-9-17, A) に生育している。

県内: 山地〜丘陵地に点在する。4 (古町高山, 小林 39026, 1992-8-30)、6 (川向, 芹沢 56840, 1990-9-3)、11 (中河内, 芹沢 56499, 1990-8-24)、12 (市川, 芹沢 60146, 1991-8-29)、14 (相楽町, 井上美保子 386, 1992-8-18)、15 (牛川町, 龍川良克・郁子 180, 1993-9-26)、5 (中当, 芹沢 57094, 1990-9-13)、19 (駒山, 芹沢 63841, 1992-9-26)、20 (四ツ松, 鈴木万里亜 1099*, 1100, 1995-10-11)、22 (田代, 芹沢 50610, 1988-10-7)、23 (三箇, 日比野修 3132, 1995-9-9)、24 (西広瀬町, 芹沢 68173, 1993-10-1)、25 (猿投町, 山崎玲子 946, 1994-9-30)、28 (鹿勝川, 福岡義洋 1310*, 1990-9-15: 大代, 芹沢 57974, 1990-10-27)、29 (安戸町, 中西普佐子 1414, 1993-9-12)、30 (桑谷町, 本多さおり 739, 1994-9-7)、31 (深溝, 金子律子 1364, 1995-10-9)、35 (家武町, 堀田善久 4847, 1995-10-22)、36 (東幡豆, 壁谷重美子 1141*, 1994-9-30; 佐久島, 芹沢 82676, 2007-10-13)、37a (上半田川町, 日比野修 2608-2*, 1994-9-17; 広久手町, 芹沢 76407, 1999-9-21)、37b (柏井町, 村松 20879, 2001-9-8, N)、45 (善師野, 平嶋 敏 1233, 1989-9-24) などで確認されている。*はシロバナノダケである。

市内分布図



国内: 本州、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、ウスリー、中国大陸、インドシナ。

生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地の林内、林縁に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

1995 年以降も時折観察しているが、林縁部に数株生育しているだけで、存続の基盤は脆弱である。草刈りなどのため、年によっては開花しないこともある。

保全上の留意点

生育地の地形を保全することが必要である。

特記事項

名古屋市内に生育する大型のセリ科植物としては唯一のものである。本属の代表的な種であるシシウド *A. pubescens* Maxim. も、東三河や西三河の山地には普通に見られるが、尾張では確認されていない。

関連文献

保草本Ⅱp.26, 平新版 5 p.388.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) セリ科>

ムカゴニンジン *Sium ninsi* L.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。根は数本が太く肥厚する。茎は長さ 100～180cm で、はじめ直立するが後にしばしば倒伏し、上部で分枝し、葉腋にむかごをつける。葉は互生し、下部のものは長さ 4～10cm の柄があり、葉身は奇数羽状複葉、2～3 対の側小葉を持ち、小葉はほとんど無柄、長さ 4～9cm、幅 6～12mm、辺縁に鋭い細鋸歯がある。茎の上部の葉は急激に小さくなる。花期は 8～10 月、花序は直径 2～4cm、花は小さく白色である。果実は球形、長さ約 2mm である。

分布の概要

市内: 1 守山区(滝水池, 長谷川 743, 2023-8-19, N など)に生育している。4 天白区? (平針～白土～天白, 稲垣貫一 s.n., 1947-8, CBM101184) で採集された標本もある。

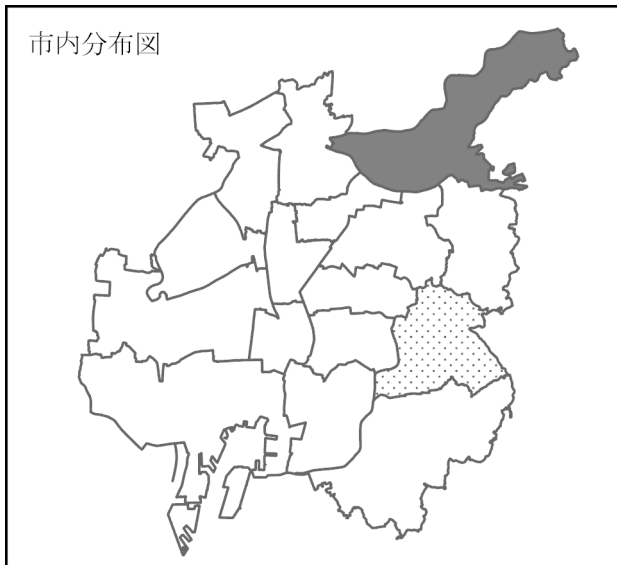
県内: 東三河と西三河の山地に点在し、尾張東北部にも生育しているが、知多半島では未確認である。4 (行人原, 芹沢 93159, 2017-9-3)、6 (駒ヶ原, 瀧崎 21602, 2004-9-5, T)、11 (鴨ヶ谷, 芹沢 94615, 2018-9-19)、13 (音羽町長沢, 瀧崎 18100, 2000-9-8)、15 (岩崎町, 芹沢 57627, 1990-10-9)、17 (赤羽根町高松北, 小林 47100, 1993-8-28)、5 (中当, 芹沢 50236, 1988-9-10)、19 (坪崎, 芹沢 63158, 1992-9-8)、20 則定, 新井文子 991, 1994-9-14)、21 (黒坂町, 芹沢 89632, 2014-9-18)、22 (荷掛, 日比野修 2564, 1994-9-6)、23 (飯野, 塚本威彦 1799, 1995-10-13)、24 (坂上町, 畑佐武司 2431, 2001-9-9)、28 (切山, 芹沢 56491, 1990-8-24)、29

(小呂町, 中西普佐子 2040, 1997-9-28)、30 (桑谷町, 芹沢 71008, 1994-9-22)、31 (深溝, 金子律子 1494, 1995-10-14)、32a (井ヶ谷町, 芹沢 38105, 1983-9-17)、37a 海上町, 芹沢 74900, 1998-8-29)、45 (池野, 芹沢 56997, 1990-9-12)、48 (東山町, 芹沢 75112, 1998-9-30) などで確認されている。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

湧水湿地下部の、やや泥質の場所に生育することが多い。ため池の周辺などにも生育している。

現在の生育状況／減少の原因

滝水池では池畔の湿地に 20～30 株が生育していた。

保全上の留意点

生育地の湿地を、水源部の地形を含めて保全することが必要である。林縁部にも生育する植物だが、あまり被陰されても生育できないため、森林化の防止も必要である。

特記事項

同属のヌマゼリ *S. suave* Walter subsp. *nipponicum* (Maxim.) Sugim. は、愛知県では豊橋市で 1950 年代に採集された標本があるだけで、現在を確認できない。

関連文献

保草本Ⅱp.16, 平新版 5 p.399.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 I 群 (原始被子植物) ウマノスズクサ科>

スズカカンアオイ *Heterotropa nipponica* (F.Maek.) F.Maek. var. *brachypodion* (F.Maek.) F.Maek.**評価理由**

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。林地に生育する植物で、名古屋市では近年減少傾向が著しい。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は短く、暗紫色で節が多い。葉は長さ 7~20cm の柄があり、葉身は卵形~卵状楕円形、ときに卵形ほこ形、長さ 6~10cm、幅 4~7cm、先端は鋭頭または鈍頭、基部は深い心形、表面は濃緑色で通常不明瞭な白斑がある。花期は 10~2 月、花は地表に接して咲き、がく筒は筒状鐘形で長さ約 1cm、内面は格子状の隆起腺がある。がく裂片は開出し、筒部よりもやや長い。

分布の概要

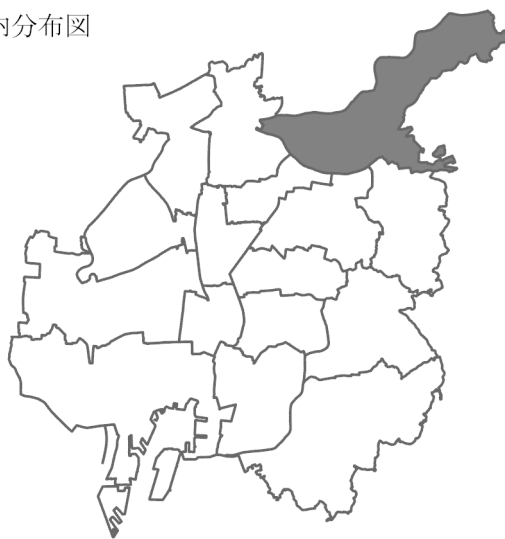
市内：1 守山区（中志段味宮前、芹沢 86680, 2011-2-10, A; 吉根階子田、鳥居ちゑ子 2422, 2004-2-12, A）に生育している。他の区にもわずかに生育しているようだが、裏付けとなる標本は得られていない。

県内：県 GDB2017 p.219 参照。西三河北部と尾張北部に分布する。県西部では名古屋市のほか、藤岡、豊田東部、豊田北西部、瀬戸尾張旭、長久手日進、大府東浦、犬山、小牧、春日井の 9 区画に生育している。渥美半島と知多半島には、がく裂片が短い基準変種のカントウカンアオイが分布している。

国内：本州（静岡県中西部、愛知県、岐阜県、三重県）。

世界：日本固有。種としても日本固有である。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

低山地や丘陵地の林内に生育する。二次林内に生育していることが多いが、造林地にも見られる。

現在の生育状況／減少の要因

丘陵地の開発により、生育できる場所そのものが減少している。園芸目的の採取もある。さらに、丘陵地の代表的な絶滅危惧昆虫であるギフチョウの食草になるため、飼育している幼虫の餌にすることを目的とした採取も目につく。耐陰性のある植物なので、森林化の影響は他の里山の植物ほど深刻ではないはずだが、それでもササ類などに著しく被陰されると生育できなくなる。

保全上の留意点

丘陵地の地形と里山の雑木林を保全する必要がある。

関連文献

保草本Ⅱp.323, 平新版 1 p.69.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 I 群 (原始被子植物) クスノキ科>

カゴノキ *Litsea coreana* H.Lev.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 1、県西部分布階級 1、総点 11。暖地の照葉樹林の構成種で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の高木。高さ 15m に達する。樹皮は淡灰黒色であるが、円くはげ落ち鹿の子模様となる。葉は互生し、長さ 8~15mm の柄があり、葉身は倒披針形または倒卵状長楕円形、長さ 5~9cm、幅 1.5~4cm、薄い革質で裏面は灰白色になる。花期は 9 月。雌雄異株で、枝の下部から上部にかけて無柄の散形花序を 3~4 個つける。花は黄色、果実は倒卵状球形で長さ 7~8mm、開花した翌年の秋に赤色に熟す。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味大村池西側、日比野修 4530, 1998-6-11, A）、10 熱田区（高蔵町、高木順夫 3700, 1993-9-18, A）に生育している。

県内：県 GDB2017 p.222 参照。低山地には点在するが、丘陵地には少なく、平野部にはほとんど見られない。標高の高い場所にも生育していない。県西部では名古屋市のほか、藤岡、豊田東部、豊田南西部、岡崎北部、幸田、安城、西尾北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、美浜南知多、小牧、春日井の 12 区画で記録されている。

国内：本州（関東地方および福井県以西）、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島南部、台湾。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

暖地の照葉樹林の構成種で、しばしば社寺林などに生育している。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では 1 株あっただけのようで、その後確認していない。熱田区では高蔵町高座神社境内に数株生育しており、大きいものは直径 50cm くらいになっている。

保全上の留意点

守山区では伐採されないよう注意する必要がある。熱田区では当面そのまま存続すると思われる。

特記事項

和名は鹿子の木で、樹皮が鹿の子文様となることに由来する。

関連文献

保木本 II p.186-187, 平新版 1 p.85.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 I 群 (原始被子植物) クスノキ科>

シロダモ *Neolitsea sericea* (Blume) Koidz.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。暖地性の樹木で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の高木。高さは 15m に達する。小枝は緑色、無毛である。葉は互生し、長さ 2~3cm の柄があり、葉身は長楕円形または卵状長楕円形、長さ 8~18cm、幅 4~8cm、3 脈が目立ち、裏面は灰白色で多少絹糸がある。花期は 10~11 月。雌雄異株で、葉腋に 1~数個の無柄の散形花序をつける。花被片は長さ約 3.5mm、淡黄色、果実は楕円状球形で、長さ 12~15mm、開花した翌年の秋に赤色に熟す。葉裏に黄褐色の絹毛を密生するものを、キンショクダモ form. *aurata* (Hayata) Kitam. という。

分布の概要

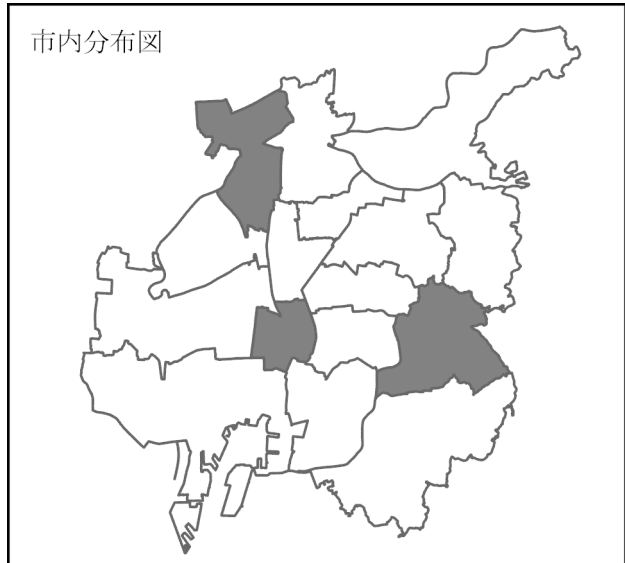
市内: 4 天白区(天白町平針, 渡邊幸子 3849*, 1999-5-25, N)、10 熱田区(熱田神宮, 芹沢 95508, 2019-7-20, A)、13 西区(名塚町庄内川, 鳥居ちゑ子 2226, 2002-10-19, A) に生育している。

県内: 低山地~丘陵地に点在しており、8 (鳳来寺山, 加藤等次 466, 1991-11-5)、13 (東上町, 芹沢 96014, 2019-11-23)、14 (五井山, 小林 38597, 1992-8-8; 御津町西金野, 小林 38708*, 1992-8-11)、15 (嵩山町, 芳山朋子 1407*, 1984-11-26; 多米町, 瀧崎 19825, 2002-6-30, T)、16 (東細谷町, 名倉智道 63, 1992-5-17)、17 (赤羽根町石神, 小林 50000*, 1994-2-13)、19 (山中, 塚本威彦 630, 1993-6-22)、20 (千野~桑田和, 堀田善久 2406, 1991-8-4)、22 (篠平, 日比野修 1910, 1994-4-9)、23 (折平, 日比野修 621, 1992-8-6)、25 (猿投山, 山崎玲子 980, 1994-11-12)、32a (井ヶ谷町, 芹沢 45519, 1987-5-2)、36 (鳥羽, 壁谷重美子 752, 1994-7-27)、37a (北白坂町, 塚本威彦 3108, 2005-10-26)、41a (大田町, 吉鶴靖則 734, 2015-12-6)、42b (鶴ノ池町, 芹沢 101265, 2023-7-15)、44b (山海, 相羽福松 293, 1979-9-20; 内海名切, 小林 55439*, 1994-12-10)、48 (外之原町, 日比野修 1887, 1994-4-3)、49c (西春町鍛冶ヶ色, 鈴木幸子 426, 1993-4-20)、54 (尾西市木曽川, 渡邊幸子 1225, 1993-9-5)、55 (祖父江町拾町野, 渡邊幸子 2215, 1995-6-5)、57a (津島神社, 芹沢 98431, 2021-7-22)、57b (八開村木曽川, 石樽弓恵 881, 1998-10-6) などで確認されている。18 (伊良湖岬, 恒川敏雄 310, 1951-11-4, T) で採集された標本もある。*はキンショクダモである。

国内: 本州 (東北地方中部以南)、四国、九州、琉球。

世界: 日本、朝鮮半島南部、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

暖地照葉樹林の構成種で、沿海部の低山地に多い。種子が鳥によって散布されるため、断片的な社寺林などにも生育していることがある。

現在の生育状況／減少の要因

西区では庄内川河川敷の林内に、タブノキなどに混じって若木数株が生育していた。熱田区では熱田神宮や白鳥塚古墳などに生育しており、大きいものは直径 20cm くらいある。天白区は直径 50cm くらいのものが 2 本生育しており、周辺に幼株が多数見られるという。

保全上の留意点

熱田区のは保全緑地内に生育しており、緑地の保全が継続されれば当面は現状のまま存続するものと思われる。天白区のキンショクダモについては、個体レベルでの保全が必要である。

関連文献

保木本 II p.183, 平新版 1 p.87.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) サトイモ科>

ウラシマソウ *Arisaema urashima* H.Hara

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。愛知県では南部の丘陵地に点在しているが、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下茎はほぼ球状で、上部から多くの根を出し、多数の子球をつける。葉身のある葉は通常 1 個、葉鞘は短く、長さ 3~10cm である。葉身は鳥足状に分かれ、小葉は 11~17、互いに接近してつき、葉軸はあまり発達しない。小葉は長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁、表面は深緑色で光沢がある。花期は 4~5 月、仏焰苞は葉と同時に開き、葉より低い位置につき、筒部は長さ 4~6cm、白色で紫条があり、口辺は狭く開出、、舷部は濃紫色で長さ 6~12cm、先端は尾状に伸びる。花序は肉穂状、偽雌雄異株、付属体は下部でふくらみ、平滑、一度曲がって仏焰苞の外に出、再び曲がって直立し、先端は長く伸びて糸状にたれる。

分布の概要

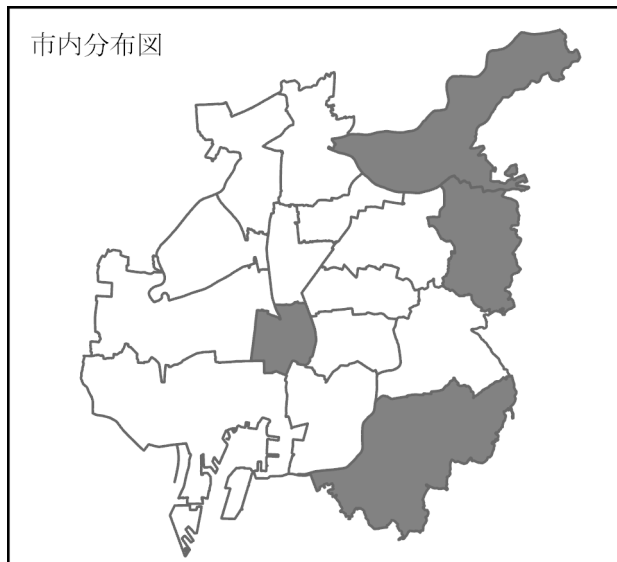
市内: 1 守山区 (中志段味才井戸流, 村松 30298, 2019-4-27, N)、2 名東区 (猪高緑地, 長谷川 s.n., 2017-4-10, N)、5 緑区 (大高町大高城址, 芹沢 77176, 2001-4-9, A)、10 熱田区 (熱田神宮, 村松 30714, 2019-7-20, N) に生育している。

県内: 県 GDB2017 p.228 参照。低山地や丘陵地に点在する。県西部では名古屋市のほか、豊田東部、豊田北西部、岡崎北部、岡崎南部、安城、高浜碧南、西尾南部、瀬戸尾張旭、東海知多、半田武豊、美浜南知多の 11 区画で確認されているが、平野部にはない。

国内: 北海道南部、本州、四国。

世界: 日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

平地や丘陵地の常緑樹林の林内や林縁に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

いずれの場所でも、僅かに残存した保全緑地に小群落があるという状況である。緑地自体は今後も維持されると思われるが、公園整備によって失われるおそれがある。変わった形の植物であるため、園芸目的で採取されるおそれもある。

保全上の留意点

生育地が限られているので、公園整備の際に群落を破壊しないよう注意する必要がある。園芸目的の採取に関しては、愛知県全体としては特に希少な植物ではなく、わざわざ盗掘に来る人がいるとは想定しにくい。行きずりの採取が問題で、「自然はみんなのもの、個人の庭に取り込んではいけない」という意識を多くの市民が持つことが重要である。

特記事項

和名は、糸状に伸びた付属体先端部を浦島太郎の釣糸と見たからである。

関連文献

保草本Ⅲp.200, 平新版 1 p.97.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) トチカガミ科>

ミズオオバコ *Ottelia alismoides* (L.) Pers.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。名古屋市近郊では過栄養化した水路にも生育しており、当面絶滅が危惧される状態ではないが、市内に限ればそのような場所さえも減少している。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	国リスト
全国 2025	準絶滅危惧

形態

沈水性の 1 年生水草。茎は短く葉を束生する。葉形の変異が著しく、水深や水流によって大きく変化し、小さいものは葉柄の長さ 1.5~2cm、葉身の長さ 3~5cm で花をつけるが、大きいものは葉柄の長さ 40cm、葉身の長さ 30cm に達する。葉身は被針形~広卵形~円心形、質は薄く、葉縁に鋸歯がある。花期は 8~10 月、長さ 2~70cm の花茎の先端に 1 個の花をつける。花卉は 3 枚で、白~淡紅色。果実は 2~5cm、顕著なひだがある。

分布の概要

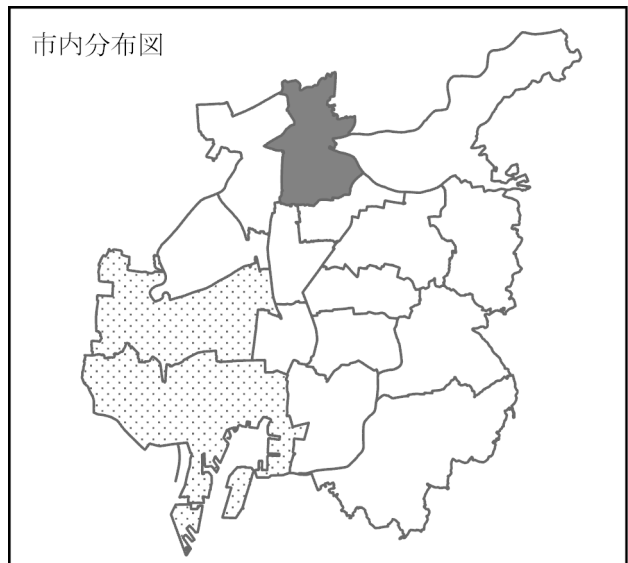
市内: 12 北区 (丸新町~大我麻町境川, 福岡義洋 4690, 1999-10-11, A) で確認されている。15 中川区 (富田町長須賀, 高木順夫 248, 1992-7-11, A)、16 港区 (南陽町福田川, 榊原 靖 s.n., 1981-7-29, N) で採集された標本もある。他の区にも生育しているかもしれない。

県内: 県 RDB2020 p.673 参照。平野部から低山地にかけて広く生育しており、県西部では名古屋市のほか、藤岡、豊田東部、豊田北西部、豊田南西部、幸田、刈谷知立、安城、西尾北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、江南丹羽、小牧、春日井、岩倉北名古屋、一宮東部、一宮西部、稲沢、あま大治、海部南部で記録されている。

国内: 北海道、本州、四国、九州、琉球。

世界: アジアの熱帯~温帯域、オーストラリア。

市内分布図

**生育地の環境/生態的特性**

湖沼やため池、水路、水田などに生育する。水質汚濁のない場所にも生育しているが、都市近郊の生活排水が流入する過栄養化した水路でも見られる。

現在の生育状況/減少の要因

どこにでもあるというわけではないが、ある場所では多量に生育していることが多い。しかし名古屋市内では、最近の状況がほとんど確認されていない。今回はとりあえず個体数階級 2、集団数階級 3、準絶滅危惧と評価しておくが、実際にはやはり国リストかもしれないし、もっと危機的かもしれない。

保全上の留意点

何はともあれ、近況の正確な把握が必要である。過栄養化している場所に生育している場合は、保全上の配慮は困難である。水田や農業用水路に生育している場合は農薬や除草剤の使用を控え、改修の際には配慮することが望ましいが、これも現実問題としては困難かもしれない。

特記事項

2024 年のリスト案では国リストとして掲載したが、その後再確認したところ、最近の情報がほとんどないことが判明した。

関連文献

保草本Ⅲp.395, 平新版 1 p.123.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.28-29. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.103. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) シュロソウ科>

ショウジョウバカマ *Helonias orientalis* (Thunb.) N.Tanaka

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。湿った林内に生育する植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。根出葉は多数束生し、長さ 7~20cm、幅 1.5~3cm、光沢があり、枯れないで冬を越し、葉先に小苗をつけることがある。花茎は花時に高さ 10~30cm、数個の鱗片葉がつく。花期は 4-5 月、花被片は倒披針形で長さ 10-15mm、色は濃紫色から淡紅色まで変化が多い。果実は蒴果で、熟すころには花茎が 50-60cm に伸びる。

分布の概要

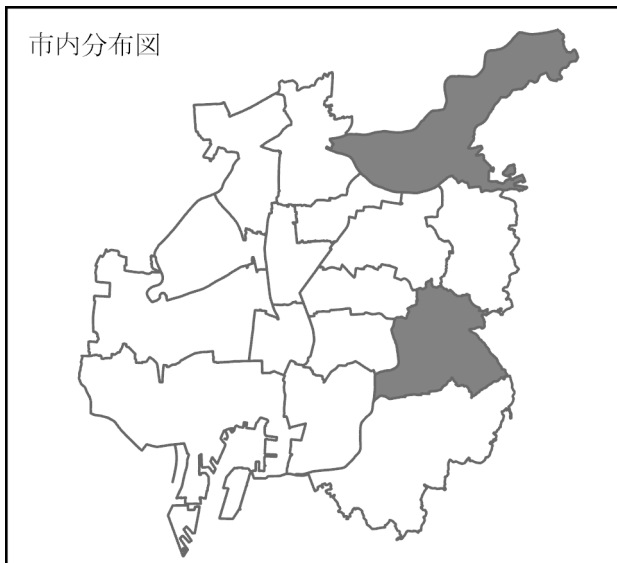
市内：1 守山区（東谷山，芹沢 74430*，1998-3-29，A；上志段味東谷，村松 31297，2020-04-16，N）、4 天白区（島田緑地，芹沢 54355，1990-4-2，A，数年前にも生育確認）に生育している。

県内：2（茶臼山，加藤等次 4543，1994-6-28）、4（白鳥山，石田雄吉 490，1979-4-8）、6（駒ヶ原，瀧崎 21223，2004-5-1，T）、7（荒尾，榊原利修 63，1992-3-26）、8（鳳来寺山，加藤等次 1242，1992-4-18）、13（長沢，瀧崎 18346，2001-3-18，T）、14（坂本町，井上美保子 647，1993-4-11）、15（多米町，細川良克・郁子 131，1993-3-23）、5（中当，芹沢 54670，1990-4-29）、20（上国谷，鈴木万里垂 137，1995-4-7）、21（花沢，長谷川朋美 1，1992-3-23）、22（田代，伊藤泰輔 160，1993-4-4；家洞，塚本威彦 878*，1994-4-9）、23（北一色，日比野修 1927，1994-4-9）、24（押沢町，佐藤久美子 10，1993-3-24）、25（猿投山，磯貝彰宏 768，1984-4-3）、26（水源町，石川敏 315，1994-4-10）、27（黒笹，臼井里華 123，1992-4-15）、28（夏山，福岡義洋 12，1990-3-16）、29（小丸町，中西普佐子 252，1993-3-21；切越町，伊奈知子 26*，1993-3-30）、30（桑谷町，本多さおり 9，1994-3-31）、31（深溝，金子律子 7，1995-4-2）、36（西幡豆，壁谷重美子 78，1994-3-22）、37a（定光寺町，日比野修 1029，1993-4-10；曾野町，塚本威彦 2760*，1999-4-4）、37b（新居町，村松 32885，2022-4-19，N）38a（岩作，半田多美子 3028*，2001-4-11）、38b（岩藤新田，伊藤恭子 12，1992-3-30）、43（大谷，林 彰一 13，1990-4-18）、44a（奥田，林 彰一 14，1990-4-18）、44b（内海，大西 博 288，1992-4-9）、45（栗栖，芹沢 71405，1995-4-6）、47（大山，村瀬正成 10038，1994-3-12）、48（廻間町，山田果与乃 2177，2016-3-27）などで確認されている。*は白花品（シロバナショウジョウバカマではない）である。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：サハリン、日本、朝鮮半島。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

湿潤な林床や湿地周辺の土手などに生育している。名古屋市内でもため池や湿地周辺の土手、以前湿地だったと思われる湿潤な林床などに生育している。

現在の生育状況／減少の要因

2ヶ所で小群落が確認されているが、湿地の乾燥化などにより衰退する可能性がある。

保全上の留意点

湿地や湿潤な林床環境を維持・回復する必要がある。

関連文献

保草本Ⅲp.151，平新版 1 p.159.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イヌサフラン科>

チゴユリ *Disporum smilacinum* A.Gray**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下茎は長く横にはう。地上茎は高さ 15~30cm、基部は膜質の葉鞘に包まれ、分枝しないか、1~2 回分枝する。葉は互生し、ほとんど無柄、葉身は楕円形または長楕円形、長さ 4~7cm、先端は鋭頭または鋭尖頭、基部はやや円形、両面無毛であるが、辺縁に半円形の突起がある。花期は 4~5 月、花は茎の先端に 1~2 個、横または下向きにつき、花被片は 6 枚で白色、披針形で長さ 10~15mm、液果は球形、直径 7~10mm、黒熟する。

分布の概要

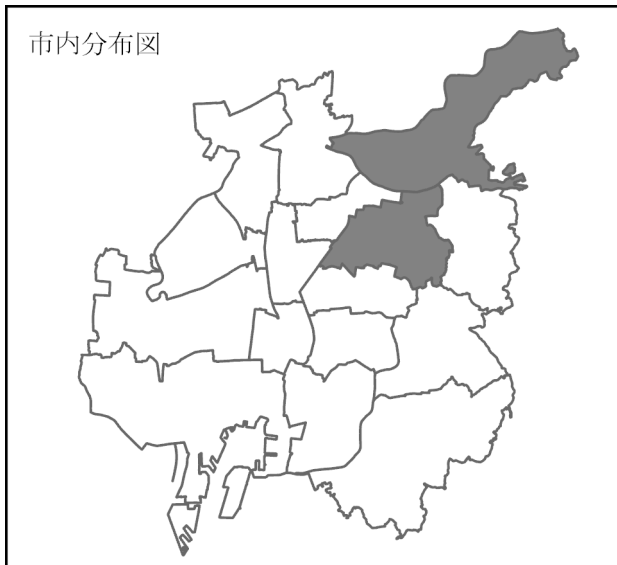
市内：1 守山区（上志段味東谷山、日比野修 4418, 1998-4-29, A）、3 千種区（平和公園、長谷川 14, 2020-5-2, N）に生育している。

県内：東三河と西三河の山地には普通に見られる植物で、2（茶臼山、加藤等次 3038, 1993-5-24）、4（天狗棚、鈴木 学 1002, 1983-5-15）、6（駒が原、瀧崎 21301, 2004-6-27, T）、7（平山、榊原利修 434, 1992-4-28）、8（鳳来寺山、加藤等次 1376, 1992-5-23）、13（長沢、瀧崎 20805, 2003-6-21, T）、14（坂本町、鈴木美恵子 9, 1992-4-12）、15（多米町、龍川良克・郁子 144, 1993-4-17）、17 赤羽根町高松北、小林 42495, 1993-5-5）、19（伊熊、芹沢 64935, 1993-5-11）、20（上国谷、鈴木万里亜 331, 1995-5-4）、21（梶、長谷川朋美 210, 1992-4-27）、22（鍛冶屋敷、伊藤泰輔 180, 1993-5-15）、24（西広瀬町、佐藤久美子 229, 1993-4-23）、25（猿投山、土場トシ子 439, 1994-5-2）、26（水源町、落合鈴江 759, 1996-4-29）、28（鳥川、福岡義洋 361, 1990-4-22）、29（奥殿町、杉田一記 286, 2010-4-21）、30 鉢地町、本多さおり 137, 1994-4-22）、31（深溝、金子律子 268, 1995-4-27）、36（東幡豆、壁谷重美子 246, 1994-4-22）、37a（曾野町、日比野修 185, 1992-4-25）、37b（平子町北、村松 22974, 2006-4-23, N）、39b（沓掛町、浅野守彦 2127, 2008-5-4）、45（栗栖、平嶋 敏 386, 1989-4-27）、47（大山、村瀬正成 10479, 1994-4-25）、48（細野町、竹原芳子 745, 1995-5-23）などで確認されている。3（三輪村、恒川敏雄 323, 1951-5-5, T）、11（恒川敏雄 s.n., 1954-5-2, T）で採集された標本もある。茎が分枝するエダウチチゴユリの型も混在している。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：千島列島南部、日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

明るい落葉樹林の林内や林縁に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

平和公園では 2 ヶ所に群落があり、個体数は合わせて 100 株以上（栄養的に繁殖するので個体数階級は 2）である。東谷山の自生地は近況を確認していない。

保全上の留意点

生育地の地形を保全することが必要である。

特記事項

「こんな普通種が？」と思われそうだが、名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

関連文献

保草本Ⅲp.109, 平新版 1 p.164.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群(単子葉類) イグサ科>

ヒメコウガイゼキショウ *Juncus bufonius* L.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。愛知県では出現頻度の少ない植物で、名古屋市でも生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

1年生草本。茎は束生し、細い円筒状、高さ10~30cmになる。葉は細く扁平で上面に溝があり、鞘部には葉耳がない。花期は6~9月、茎の先端にまばらな集散花序をつけ、最下の苞は葉状で花序よりはるかに短い。花は長さ5~6mm、花被片は6枚、披針形、外片は長さ4~5mm、内片はやや短く、先端は鋭尖頭、中肋部分は淡緑色で、辺縁部は広く白い膜質となる。蒴果は長楕円形で、褐色で光沢があり、3室がある。

分布の概要

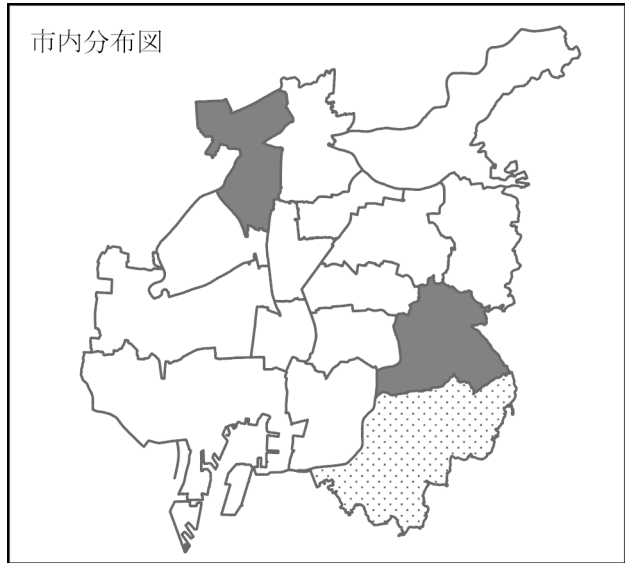
市内：4天白区(道明町天白川緑地、渡邊幸子 6815, 2014-5-6, N)、13西区(庄内緑地公園、芹沢 91140, 2016-5-14, A)に生育している。5緑区(大高町、渡邊幸子 4830, 2001-8-19, N)にも生育していた。守山区上志段味の庄内川対岸(春日井市)には大きな群落がある。

県内：名古屋市のほか、13(江島、芹沢 93979, 2018-5-12)、14(海陽町、芹沢 88418, 2013-6-1)、16(西山町、小林 43615, 1993-6-1)、25(越戸町、畑佐武司 2048, 2001-6-17)、26(本田町、芹沢 94239, 2018-6-26)、34b(小屋下町、中根幸司 1309, 2007-7-3)、35(笹曽根町、芹沢 81500, 2007-6-12)、36(吉良町八幡新田、芹沢 85630, 2010-5-14)、37b(上の山町、村松 20668, 2001-6-17, N)、41a(大日町、吉鶴靖則 812, 2016-5-7)、43(小鈴谷、芹沢 103959, 2024-5-25)、44b(山海、芹沢 89155, 2014-5-10)、48(高蔵寺町、芹沢 87594, 2012-6-2)、55(奥田町、水野峰子 298, 1994-5-9)、57a(大縄町、村松 33222, 2022-6-21, N)、57b(町方町、村松 33171, 2022-6-10, N)、58b(木曽川、芹沢 64811, 1993-5-3)などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：全世界の暖~温帯に分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

湿った砂地、畑地、路傍、休耕田などに生育する。どうと云うことのない場所に生育するが、それでいて出現頻度の少ない植物である。ただし西尾市南部では、春の麦畑の雑草になっている。

現在の生育状況／減少の要因

天白区では2m×1mほどの範囲に群生していたという。西区では緑地内に小群落があった。緑区では湧水のある攪乱跡地に小群落があったが、その後確認できない。

保全上の留意点

不安定な立地に生育することが多い植物なので、現実問題として保全は難しい。しかし注意して探索すれば、他の場所でも確認される可能性は高い。

特記事項

比較的小型で目立たず、しかもどこにあるか予想が付きにくい植物なので、調査の際には特に注意が必要である。

関連文献

保草本Ⅲp.162, 平新版 1 p.288.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) イグサ科>

ヤマズメノヒエ *Luzula multiflora* (Ehrh.) Lejeune

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

株になる多年生草本。根出葉は多数束生し、細い線形、長さ 5~30cm、幅 2~5mm、先端は鈍端になる。花期は 4~6 月、花茎は高さ 15~55cm、途中に 1~2 個の茎葉があり、先端に 3~7 個の小頭花からなる花序をつける。小頭花は頂端のものは柄がごく短い、他は長い柄を持ち、直径 4~7mm、小苞は白色で先端が細裂し、花被片は卵状披針形、長さ 2.5~3mm、黒褐色で辺縁は白色、果実は卵形で花被片よりやや長く、黄褐色~褐色である。

分布の概要

市内：1 守山区（小幡緑地、鳥居ちゑ子 1951, 2001-6-8, A）、4 天白区（御幸山、渡邊幸子 7205, 2018-5-10, N）、5 緑区（鳴海町諸ノ木、渡邊幸子 4199, 2000-5-4, N）に生育している。

県内：1（大沼上、小林 43562, 1993-5-30）、4（面ノ木峠、芹沢 89268, 2014-6-7）、6（段戸山、小林 37796, 1992-6-14）、7（小松大沼、芹沢 81496, 2007-6-3）、11（鴨ヶ谷、芹沢 54499, 1990-4-12）、14（西浦町、鈴木美恵子 388, 1993-4-17）、15（岩崎町、瀧崎 8475, 1986-4-19）、16（小島町、小林 69064, 2000-5-14）、17（赤羽根町若美、小林 42477, 1993-5-5）、18（初立ダム、小林 41530, 1993-4-18）、5（稲橋夏焼温泉、福岡義洋 3236, 1995-5-21）、19（池島町矢作川、芹沢 81263, 2007-5-5）、20（寧比曾岳、塚本威彦 1916, 1996-6-12）、30（池金町、中西普佐子 74, 1992-5-16）、31（荻、金子律子 207, 1995-4-21）、37b

（新居、村松 21206, 2002-4-21）、38b（折戸、半田多美子 956, 1993-5-11）、39b（沓掛町、浅野守彦 258, 1999-4-30）、42b（鶴根町、芹沢 76672, 2000-5-6）、44b（篠島、相羽福松 592, 1990-5-13）、45（栗栖木曾川、芹沢 72777, 1996-4-26）、47（石金、日比野修 4722, 1999-4-22）、48（木附町、山田果与乃 2121, 2015-5-3）、54（尾西市木曾川、芹沢 61376, 1992-5-24）などで確認されている。現在のところ豊田市旧市域やその周辺の資料が少なく、補充が必要である。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：北半球の暖帯~温帯、アフリカ、オーストラリアに広く分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地~丘陵地の林縁の草地などに生育している。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市内の生育状況については、状況が把握できていない。個体数階級と集団数階級は見込み値である。

保全上の留意点

まずは確実に現存する自生地を探索する必要がある。

関連文献

保草本Ⅲp.169, 平新版 1 p.293.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

ショウジョウスゲ *Carex blepharicarpa* Franch.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。一般的には山地性の植物であるが、愛知県では丘陵地に比較的多い。しかし名古屋市では、生育地が限られている。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。匍匐枝はない。茎は高さ 10～50cm、3 稜があり、基部の葉鞘は褐色で、後に繊維に分解する。葉は細い線形、幅 2～4mm である。果期は 4～5 月、小穂は 2～5 個、互いにやや離れてつき、頂小穂は雄性で棍棒状、長さ 1～3cm、黄褐色、側小穂は雌性で長楕円形、長さ 1～3cm、最下のものには長い柄がある。苞は鞘状で、短い葉身がある。果胞は紡錘形、長さ 4～6mm、脈は目立たず有毛、先端は短い嘴になり、鱗片は広倒卵形、赤褐色である。雌花の柱頭は 3 個である。

分布の概要

市内：1 守山区（下志段味穴ヶ洞、鳥居ちゑ子 2290, 2003-5-1, A）、2 名東区（猪高町上社、半田多美子 3296, 2002-4-19, A）に生育している。

県内：低山地～丘陵地に点在しており、12（宇利峠北、瀧崎 12978, 1992-4-26）、13（一宮町上長山、芹沢 64733, 1993-4-27）、15（石巻萩平町、芹沢 64689, 1993-4-27）、16（野依町、小林 50197, 1994-3-27）、17（笠山、芹沢 51262, 1989-4-27）、18（亀山、小林 41510, 1993-4-18）、27（福谷、臼井里華 228, 1992-4-27）、28（雨山、小林 43258, 1993-5-25）、30（桑谷町、小林 42790, 1993-5-15）、37a（曾野町、塚本威彦 30, 1992-3-31）、37b（新居、村松 21209, 2002-4-21）、38a（岩作、芹沢 77181, 2001-4-27）、38b（岩崎、村瀬美智子 16, 1992-4-2）、39b（杓掛町、浅野守彦 1232, 2002-4-20）、49b（石浜、芹沢 71422, 1995-4-21）、42a（板山、芹沢 71428, 1995-4-21）、43（常滑運内、芹沢 76653, 2000-5-5）、44a（美浜緑苑、渡邊幸子 5860, 2009-4-11）、48（外之原町、日比野修 1988, 1994-4-24）などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

一般的には山地から高山にかけての草地に生育するが、愛知県では丘陵地の草地に多い。

現在の生育状況／減少の要因

2 カ所で確認されているだけだが、注意して探索すれば他の場所でも発見される可能性がある。

保全上の留意点

丘陵地のやせ山的環境を保全することが必要である。

特記事項

2004 年版ではツクバスゲ（市 VU）とあわせて評価・記述されている。ツクバスゲは果胞の嘴が長い。

関連文献

保草本Ⅲp.265, 平新版 1 p.324.

勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.274. 文一総合出版, 東京..

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

ホソバヒカゲスゲ *Carex humilis* Leyss. var. *nana* (H.Lév. et Vaniot) Ohwi**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。愛知県全体でもあまり多くない植物で、名古屋市でも生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。匍枝はなく、大きくて密な株をつくる。葉は細く幅 0.5~1.5mm、基部の葉鞘は赤褐色で、やや糸網状の繊維に分解する。有花茎は高さ 3~6cm で葉の間にかくれ、ヒカゲスゲのようにざらつくことはない。果期は 4-5 月、頂小穂は雄性で太い線形、側生の 2~5 個の小穂は雌性で短い円柱形、長さ 1~2cm、雌鱗片は卵形で先端は鋭尖頭、赤さび色で縁は透明膜質となり、やや小軸を抱く。

分布の概要

市内: 9 緑区 (鳴海町大清水, 芹沢 77316, 2001-5-20, A; 滝ノ水二丁目, 長谷川 1058, 2024-4-6, N; 大高町, 村松 30254, 2019-4-26, N) に生育している。

県内: 8 (川合, 小林 63740, 1998-5-4)、11 (高里, 小林 51062, 1994-5-3)、13 (音羽町宮路山, 芹沢 77287, 2001-5-12)、14 (五井山, 小林 36517, 1992-4-16)、15 (石巻萩平町, 芹沢 64691*, 1993-4-27)、18 (若見, 小林 41240, 1993-4-10)、23 (西中山町, 畑佐武司 9404, 2020-5-18)、24 (小呂町, 畑佐武司 9407*, 2020-5-19)、28 (雨山, 小林 43249, 1993-5-25)、30 (桑谷山, 小林 42791, 1993-5-15)、31 (須美, 芹沢 71528, 1995-5-19)、37a (北白坂町, 塚本威彦 s.n., 2006-5-5; 吉野町, 芹沢 81213*, 2007-4-30)、37b (柏井町, 村松 21153, 2002-4-3, N)、38a (岩作, 芹沢 76736, 2000-5-15)、39a (諸輪, 濱嶋育子 1037, 2019-5-8, N)、39b (栄町, 浅野守彦 1209, 2002-4-13)、44b (篠島, 芹沢 81302, 2007-5-12) など確認されているが、よく探せば他区画でも発見される可能性がある。*は花茎がやや長い型である。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ロシア極東部。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

一般に半日陰の林下に生育する。名古屋市内では明るいコナラ林の林下に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

現在のところ緑区内の緑地で確認されているだけである。個体数はどの場所でも少ない。花期でないと同定が困難なので、それらしい植物がある場合は適切な時期に確認する必要がある。

保全上の留意点

生育地の林を保全する必要がある。

特記事項

ヒカゲスゲは葉が幅 1.5-2mm あり、花茎は高さ 10-40cm になる。しかし、稀に中間的な形態のもの (引用標本中の*印) もある。

関連文献

保草本Ⅲp.264, 平新版 1 p.324.

勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド日本のスゲ p.267. 文一総合出版, 東京.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

ヤガミスゲ *Carex maackii* Maxim.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。河川敷の湿地に生育する植物で、名古屋市では生育できる場所が限られている。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。根茎は短く、茎を叢生する。花時の茎は高さ 30～90cm、葉は茎の中上部に互生し、幅 3～6mm である。果期は 5 月、花序は長さ 3～7cm で、10～15 個の無柄の小穂を密につける。苞は目立たない。小穂は長さ 5～8mm、基部の少数の雄花、その先に多数の雌花をつける。果胞は熟すとやや開出し、鱗片は果胞より短い。花後に出る茎は花茎より高くなり、上部にやや多数の葉を互生する。

分布の概要

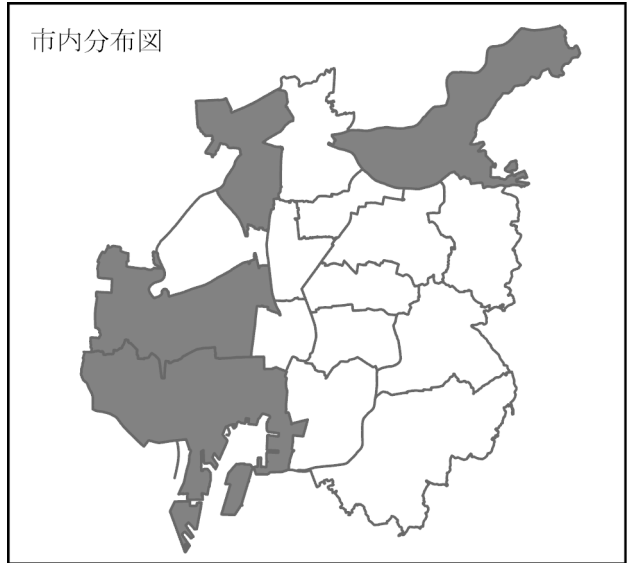
市内：1 守山区 (吉根庄内川, 村松 30383, 2019-5-29)、13 西区 (名塚町庄内川, 鳥居ちゑ子 4908, 2021-4-27, A)、15 中川区 (伏屋 1 丁目, 高木順夫 8885, 2000-9-9)、16 港区 (藤前, 渡邊幸子 5035, 2002-4-27, N) に生育している。守山区の他の場所 (上志段味東谷, 鳥居ちゑ子 368, 1993-5-26, A) にも生育していた。

県内：東三河の天竜川岸と西三河西部・尾張の低地に分布しており、その間の東三河の大部分と西三河東部には見られない。1 (大谷天竜川, 小林 51317, 1994-5-7)、2 (佐久間湖岸, 芹沢 101506, 2023-5-20)、27 (打越, 畑佐武司 3726, 2002-5-23)、33 (村高町矢作川, 堀田善久 22220, 2017-6-17)、36 (佐久島, 芹沢 81357, 2007-5-21)、37a (十軒町, 日比野修 5115, 2000-5-16)、39a (和合, 濱嶋育子 361, 1995-5-31)、39b (間米町, 浅野守彦 1923, 2004-5-3)、45 (犬山城木曾川, 小林 43695, 1993-6-5)、46a (木曾川, 芹沢 65800, 1993-6-6)、47 (藤島町五条川, 鈴木幸子 611, 1994-5-6)、49a (北島町, 山崎玲子 1386, 1996-5-14)、49d (春日町五条川, 鈴木育子 466, 1993-5-28; 一場, 芹沢 92013, 2017-5-14)、53 (北方町木曾川, 佐分康之 483, 1996-5-20)、54 (尾西市木曾川, 渡邊幸子 1572, 1994-5-17)、55 (下津町青木川, 佐藤徳次 4, 1992-5-17)、56a (西今宿五条川, 芹沢 97449, 2021-5-1; 七宝町秋竹, 堀田善久 5307, 1996-5-18)、56b (北間島, 芹沢 51457, 1989-5-13)、57b 立田村長良川, 芹沢 74596, 1998-5-22) などで確認されている。

国内：北海道、本州、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウスリー、アムール。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

河口部などの塩湿地に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では比較的大きな群落があった。西区は詳細不明。中川区と港区では最近の状態が確認されていないが、存続していると思われる。

保全上の留意点

河川敷の低湿地的環境を保全する必要がある。

特記事項

2024 年のリスト案には掲載されていないが、再検討の結果追加された。

関連文献

保草本Ⅲp.259, 平新版 1 p.306.

勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.68. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

コジュズスゲ *Carex parciflora* Boott var. *macroGLOSSA* (Franch. et Sav.) Ohwi**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。根茎は短く、ゆるい株をつくる。有花茎は高さ 10-30cm、全体にやわらかく粉緑色、葉は幅 3~5mm で、基部の鞘は淡色である。果期は 4-5 月、頂小穂は雄性で線形、淡緑色、長さ 1-1.5cm、側小穂は 3-4 個ついて雌性で長楕円形、長さ 1-2cm、雌鱗片は卵形、淡緑色で先端はとがる。果苞は斜開し、長卵形で長さ 4-5mm、無毛で細脈があり、粉緑色、上方は長い嘴となる。

分布の概要

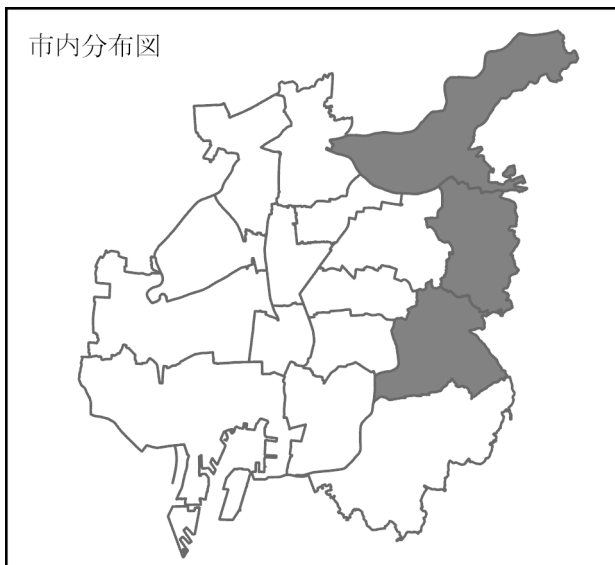
市内： 2 名東区（猪高町高針，長谷川 1044, 2024-4-25, N）に生育している。1995 年以降では、1 守山区（上志段味東谷，渡辺幸子 4645, 2001-4-28, N）、8 天白区（八事裏山，渡辺幸子 4251, 2000-5-27, N）でも採集されている。

県内： 低山地や丘陵地に点在しており、平野部の河川沿いにも見られる。2（分地天竜川，小林 52108, 1994-6-12）、4（水梨川，小林 44222, 1993-6-13）、6（川向，芹沢 51773, 1989-6-1）、11（善夫，芹沢 61438, 1992-5-27）、12（有海，芹沢 65012, 1993-5-14）、13（長沢，瀧崎 18569, 2001-5-12, T）、15（岩崎町，瀧崎 12107, 1991-6-1）、18（山田泉福寺，小林 41969, 1993-4-29）、5（大野瀬，小林 37618, 1992-6-7）、20（香嵐溪入口，芹沢 95116, 2019-5-11）、21（平瀬，芹沢 61344, 1992-5-23）、22（沢田，日比野修 2153, 1994-5-21）、23（深見町，芹沢 81441, 2007-6-2）、24（国附町，芹沢 65408, 1993-5-21）、28（本宮山，小林 51931, 1994-6-5）、29（蓬生町，芹沢 65298, 1993-5-20）、30（桑谷町，小林 42761, 1993-5-15）、37a（曾野町，芹沢 81235, 2007-5-2）、37b（新居，村松 21220, 2002-4-28）、45（八曾，塚本威彦 1069, 1994-5-24）、47（大山，日比野修 4436, 1998-5-4）、49d（西枇杷島町新川，鈴木幸子 717, 1995-5-20）、53（妙興寺，栗田郁男 225, 1993-5-9）、54（尾西市東五城，渡邊幸子 3830, 1999-5-18）などで確認されている。

国内： 北海道、本州、四国、九州。

世界： 日本および朝鮮半島。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

やや湿潤な林内や林縁に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

名東区では、緑地のため池周辺の通路沿いに数株が生育している。守山区、天白区では最近の状況が確認されていない。個体数階級と集団数階級は推定値である。

保全上の留意点

目立たない植物なので、意識して保全する必要がある。

特記事項

和名はジュズスゲに似て小さいという意味だが、全体の形状はあまり似ておらず、それほど近縁でもない。

関連文献

保草本Ⅲp.292, 平新版 1 p.327.

勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド日本のスゲ p.314-315. 文一総合出版, 東京.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) カヤツリグサ科>

シオクグ *Carex scabrifolia* Steud.**評価理由**

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。塩湿地に生育する植物で、名古屋市では生育できる場所が限られている。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。長い匍匐枝を出し、株にならない。茎は高さ 30～50cm、上部はざらつき、基部の鞘は葉身がなく、一部が暗赤紫色となり、糸網を生じる。果期は 6～7 月、小穂は 3～4 個で、そのうち上部の 2～4 個は雄性、線形、長さ 2～4cm、下部の 1～2 個は上部のものから離れてつき、雌性で長楕円形、長さ 1～2cm、鱗片はさび色で先はとがる。果胞は長楕円形、長さ 6～8mm、無毛、嘴は太く短い。雌花の柱頭は 3 個である。

分布の概要

市内：15 中川区(下之一色町, 渡邊幸子 4654, 2001-5-6, N)、16 港区(当知町庄内川河川敷, 芹沢 77256, 2001-5-6, A) に生育している。11 南区(加福町)にも生育していたようだが、標本は残されていない。

県内：三河湾沿岸には広く分布しているが、伊勢湾側では塩湿地性植物の生育できそうな場所自体が少なくなっており、本種もどこにでもあるというわけではない。13 (伊奈, 小林 51583, 1994-5-21)、15 (下地町豊川, 小林 43874, 1993-6-8)、16 (神野新田町, 芹沢 75534, 1999-5-16)、17 (汐川右岸, 藤岡エリ 116, 2001-6-17, T)、32a (司町, 芹沢 69283, 1994-5-18)、34b (川口町, 芹沢 64857, 1993-5-7)、35 (奥山田町, 中村さとし 177, 1993-5-5)、36 (吉良町白浜新田, 芹沢 81374, 2007-5-21)、40b (藤江, 芹沢 69301, 1994-5-18)、42b (日東町, 芹沢 76719, 2000-5-14)、44a (古布, 大西 博 482, 1992-5-25)、58b (栄南, 芹沢 74634, 1998-5-25) など確認されている。

市内分布図



国内：北海道、本州、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

河口部などの塩湿地に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

庄内川河口部では、個体数も多く、生育状態も良好であった。南区加福町では貯木場跡地に生育していたと聞いたが、この場所は一般廃棄物最終処分場建設のため埋め立てられた。

保全上の留意点

庄内川河口部のヨシ原は名古屋市に残された貴重な自然であり、特に注意して保全していく必要がある。しかし一方で、ヨシが茂りすぎると他の植物は消失してしまうおそれもある。

特記事項

生育の悪い群落では、雌小穂をほとんどつけないことがある。調査の際には注意を要する。

関連文献

保草本Ⅲp.298, 平新版 1 p.335.
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.345. 文一総合出版, 東京..

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イネ科>

ヒメコヌカグサ *Agrostis valvata* Steud.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。愛知県の丘陵地ではやや普通に見られる植物だが、名古屋市に限れば生育できる場所が激減している。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	国リスト
全国 2025	準絶滅危惧

形態

繊細な多年生草本。小さい株になることが多い。稈は高さ 40～70cm、鮮緑色で平滑、葉は互生し、線形で柔らかく、長さ 7～15cm、幅 3～5mm、葉舌は長さ 1～3mm である。花期は 5～6 月、円錐花序は長さ 10～15cm、枝は斜めに開出し、まばらに小穂をつける。小穂は長さ 2.5～3mm、淡緑色でときに少し紫色をおびる。苞穎は広披針形で内折し、鋭頭で 1 脈がある。小花は 1 個、淡色、苞穎と同長か、それより少し長い。

分布の概要

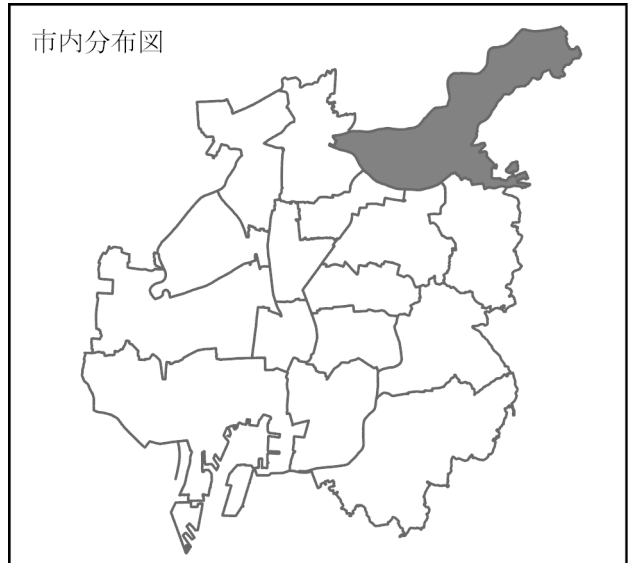
市内：1 守山区（上志段味竈池、長谷川 1050, 2024-4-22, N; 吉根太鼓ヶ根、芹沢 77325, 2001-5-20, A; 大森八竜、鳥居ちぬ子 1754, 2000-5-21, A）に生育している。

県内：県 RDB2020 p.681 参照。名古屋市のほか、設楽西部、鳳来北西部、作手、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、稲武、足助、下山、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、幸田、西尾北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

国内：本州（関東地方以西）、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

丘陵地や低山地の湧水湿地周辺の、林内や林縁に生育している。沢沿いの林道わきや、谷戸田周辺の湿った里草地に生育していることもある。全国的には減少傾向の著しい植物であるが、愛知県の丘陵地ではむしろ普通種である。

現在の生育状況／減少の要因

上志段味、吉根、大森などの丘陵地にあるが、開発圧が高いため、減少傾向にある。

保全上の留意点

全国で準危惧という評価は、愛知県とその周辺に多いことに影響されていると思われる。全国的な状況を知らない人からは、サクラバハノキと同様「こんなものまで保全していたらきりが無い」という意見が出てきそうだが、裏を返せば、名古屋市やその周辺の丘陵地の自然はかくも貴重だということである。

特記事項

ヤマヌカボに似ているが、小穂が花序の枝全体につき、小花が苞穎と同長か、それより少し長いことで区別できる。小穂が紫色を帯びるものは、緑色のものに比べ、全体にややしっかりした形をしている。

関連文献

保草本Ⅲp.352, 平新版 2 p.40, SOS 旧版 p.99.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.308-309. 平凡社, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) イネ科>

アシカキ *Leersia japonica* (Honda) Makino ex Honda**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。一昔前まではやっかいな水田雑草であったが、名古屋市でも愛知県全体でも減少傾向が著しい。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。稈は長く匍匐し、節から根を出し、先端は立ち上がって高さ 30~45cm になる。節には下向きの剛毛が密生する。葉身は長さ 7~15cm、幅 5~10mm になる。花期は 8~10 月、花序は直立して長さ 6~12cm、花序の枝は 7~10 本で斜上し、長さ 2.5~6cm になり、6~12 個の小穂をつける。小穂は扁平で枝に密着し、長さ 5~6mm である。

分布の概要

市内: 1 守山区 (上志段味大久手池, 村松 17984, 1998-7-31, N など)、3 千種区 (田代町東山新池, 飯尾俊介 s.n., 2009-8-23, N)、4 天白区 (天白町島田大根池, 高木順夫 20491, 2011-10-27, N など) に生育している。5 緑区 (大高町下瀬木, 渡邊幸子 475, 1992-8-9, A)、15 中川区 (水里, 高木順夫 324, 1992-8-20, A) にも生育していた。

県内: 平野部や丘陵地に分布しているが、多いものではなく、特に最近は見かける機会が減少している。3 (本郷, 小林 53808, 1994-9-17)、6 (田峰, 小林 54121, 1994-9-25)、8 (湯谷, 小林 65441, 1998-11-3)、12 (日吉, 小林 68028, 1999-11-9)、13 (千両町, 加藤等次 4103, 1993-10-19)、17 (赤羽根町若見, 小林 47677, 1993-9-12)、18 (伊川津, 小林 46458, 1993-8-13)、24 林添町, 山崎玲子 2031, 1999-8-3)、25 (保見町, 山崎玲子 2004, 1999-7-23)、32a (井ヶ谷町, 加藤潤子 117, 1978-6-26)、38b (野方, 村瀬・半田 1376, 1993-10-11)、39b (杓掛町, 浅野守彦 1793, 2003-9-20)、46c (宮田, 中西文治 357, 1980-8-23)、48 (林島町, 太田さち子 1063, 1993-10-10)、54 (尾西市開明, 渡邊幸子 1166, 1993-8-24)、55 (祖父江町四貫, 渡邊幸子 5498, 2003-10-9) などで確認されている。15 (大村町, 恒川敏雄 s.n., 1978-9-14, T) で採集された標本もある。

国内: 本州、四国、九州、琉球。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

ため池の岸や水田の畔などの水湿地に生育する。よく繁茂するが、開花しない集団が多い。

現在の生育状況／減少の要因

耕地整理とそれに伴う乾田化により減少した。似た環境に生育する帰化植物のキシウスズメノヒエにも圧迫されている。ため池の岸では、護岸工事の進行に加えて灌漑用水としての利用がなくなり、水管理が行われず秋期水が引かなくなったため、生育可能な環境が失われた所が多い。守山区 (大久手池、平池) では最近確認できておらず、あるいは集団数階級 3、総点 12、絶滅危惧 II 類と評価するのが適切かもしれない。

保全上の留意点

平野部の湿田や未整理耕地は、従来の行政の中では重点的な「退治目標」であった。しかしここまです少なくなってしまうと、今後は旧来の農村景観という文化財的な意味を含めて、保全を図る必要がある。

特記事項

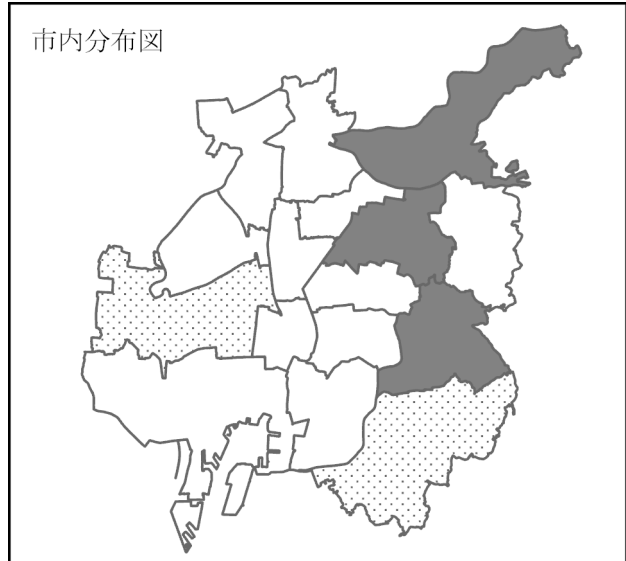
和名は足掻きで、ざらついた茎葉が農作業中の人の足を傷つけるからである。

関連文献

保草本Ⅲp.342, 平新版 2 p.38.

長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.82-83. 平凡社, 東京.

市内分布図



(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イネ科>

サヤヌカグサ *Leersia sayanuka* Ohwi**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。水湿地に生育する植物で、名古屋市では生育地があまり多くない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下茎は短く匍匐する。稈は数本が束生し、基部から立ち上がることも下部が横に這って発根することもあり、高さ 30~70cm になる。節には下向きの剛毛がある。葉身は長さ 6~17cm、幅 6~11mm になる。花期は 8~10 月、花序は長さ 7~20cm、枝は 5~10 本で、下方のものは更に枝を分け、中上部にややまばらに小穂をつける。小穂は長楕円形で扁平、長さ 6~7mm、短い剛毛がある。

分布の概要

市内：1 守山区 (吉根階子田, 村松 18219, 1998-10-3, N; 小幡緑地, 鳥居ちゑ子 3296, 2013-10-6, A)、4 天白区 (天白町島田大根池, 高木順夫 20494, 2011-10-27, N)、8 昭和区 (鶴舞公園, 鳥居ちゑ子 3971, 2018-6-28, A) に生育している。

県内：山地から平野部まで広く生育しており、3 (振草, 小林 47389, 1993-9-5)、5 (川向, 芹沢 56891, 1990-9-3)、7 (長江, 芹沢 63561, 1992-9-18)、8 (豊岡, 芹沢 68809, 1993-10-17)、11 (菅沼, 芹沢 68038, 1993-9-24)、13 (萩町, 芹沢 89724, 2014-10-4)、15 (嵩山町, 芹沢 44789, 1986-9-22)、17 (大久保町, 瀧崎 25018, 2008-11-23, T)、5 (押山, 小林 39008, 1992-8-29)、19 (八幡, 芹沢 60419, 1991-9-10)、20 (則定, 芹沢 60498, 1991-9-29)、22 (田代, 塚本威彦 1352, 1994-9-6)、23 (北一色, 日比野修 2680, 1994-10-14)、24 (西広瀬町, 芹沢 68191, 1993-10-1)、25 (猿投山, 芹沢・磯貝 126, 1984-9-30)、28 (鹿勝川, 芹沢 57162, 1990-9-21)、29 (蓬生町, 伊奈知子 1049, 1993-10-3)、30 (桑谷町, 芹沢 71001, 1994-9-22)、33 (村高町, 堀田善久 1003, 1993-10-17)、34a (八幡町, 芹沢 99960, 2021-10-18)、34b (矢作川, 芹沢 68498, 1993-10-4)、35 (家武町, 芹沢 99562, 2021-10-2)、37a (吉野町, 芹沢 82555, 2007-10-5)、37b (大久伝町, 村松 33834, 2022-10-11, N)、38a (岩作, 村松 34768, 2023-10-10, N)、41b (佐布里, 村松 28424, 2016-10-22)、42a (宮津, 芹沢 72476, 1995-10-13)、44b (内海内福寺, 芹沢 62686, 1992-8-25)、45 (八曽, 芹沢・松田 295, 1986-10-15)、48 (西尾町, 山田果与乃 1630, 2010-10-31)、53 (光明寺木曾川, 佐分康之 1387, 1996-10-12)、54 (東加賀野井, 渡邊幸子 4917, 2001-10-7, N)、55 (祖父江町木曾川緑地, 渡邊幸子 6339, 2011-10-21)、57b (町方町, 村松 33957, 2022-10-25, N) などで確認されている。

国内：北海道 (西南部)、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

水田や小河川、ため池の周辺などに生育する。

現在の生育状況／減少の要因

点在しているが、個体数は多くない。水辺環境の減少に伴い本種も減少していると思われるが、やや調査不足で、そのつもりで探索すれば他の場所でも発見される可能性がある。

保全上の留意点

水辺環境の全体的な保全が必要である。

特記事項

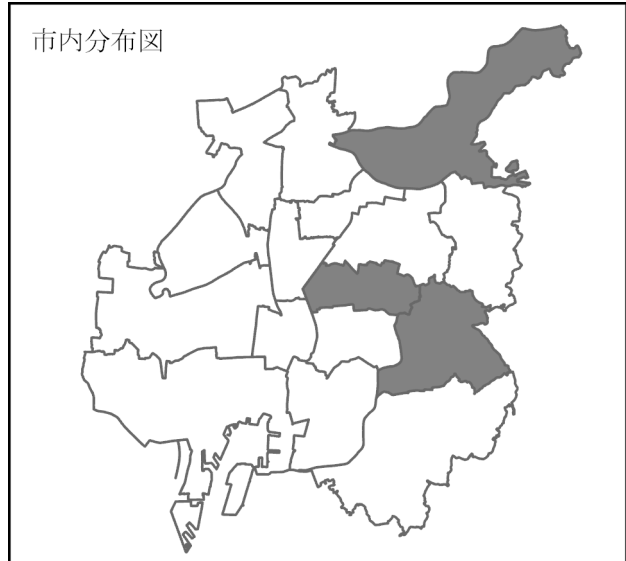
エゾノサヤヌカグサからは、葉がやや短く軟質であること、小穂がやや細長く緑色で、剛毛が短いことなどで区別される。今回のレッドリストではエゾノサヤヌカグサはリスト外になったが、愛知県の平野部全体で見ると、本種の方がエゾノサヤヌカグサより多い。

関連文献

保草本Ⅲp. 343, 平新版 2 p.39.

長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.80-81. 平凡社, 東京.

市内分布図



(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イネ科>

スズメノコビエ *Paspalum scrobiculatum* L. var. *orbiculatum* (G.Forst.) Hack.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。ため池の周辺などに生育する植物で、名古屋市では減少傾向が著しい。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

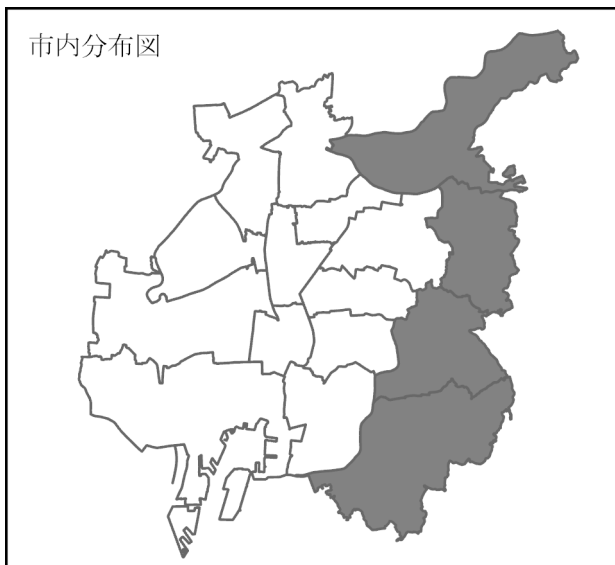
多年生草本。稈は束生してほぼ直立し、高さ 60～130cm になる。葉は稈の基部に 2 列に並んでつき、少数の茎葉もつき、葉鞘は口部に毛があるほかは無毛、通常赤褐色を帯びる。葉身は線形、長さ 15～50cm、幅 4～8mm である。花期は 9～10 月、花序の枝は 3～6 本で長さ 2.5～6cm、2～3 列に小穂をつける。小穂は楕円形～倒卵形、長さ 2～2.5mm、無毛である。

分布の概要

市内：守山区（中志段味安田池、村松 30807, 2019-9-26, N）、2 名東区（猪高町上社、村松 28877, 2017-10-1, N）、4 天白区（海老山町、芹沢 77726, 2001-10-13, A）、5 緑区（鳴海町神ノ倉、渡邊幸子 4937, 2001-10-13, N）に生育している。

県内：尾張には点在しているが、東三河、西三河では少ない。15（石巻萩平町、芹沢 64159, 1992-10-7）、18（堀切町、芹沢 88017, 2012-10-6）、25（貞宝町、山崎玲子 1759, 1998-10-6）、27（福谷、芹沢 64038, 1992-10-2）、32a（井ヶ谷町、芹沢 40920, 1984-10-15）、38b（岩藤新田、芹沢 64034, 1992-9-30）、39b（沓掛町、渡邊幸子 2541, 1995-11-2）、41b（佐布里、村松 28419, 2016-10-22）、42a（板山、芹沢 53698, 1989-9-29）、45（池野、芹沢・松田 259, 1986-9-26）、48（大泉寺町、芹沢 75104, 1998-9-30）、53（北方町木曽川、芹沢 70913, 1994-9-20）、54（奥町木曽川、芹沢 60212, 1991-9-6）などで確認されている。

市内分布図



国内：本州（中部地方以西）、四国、九州、琉球。

世界：旧世界の熱帯、亜熱帯に広く分布する。

生育地の環境／生態的特性

愛知県ではため池の岸のやや裸地状の場所に多いが、河川敷や湧水湿地の周辺部にも見られる。

現在の生育状況／減少の要因

何カ所かで見ているが、それほど多いものではない。ため池の富栄養化に伴う大形草本の繁茂、あるいは開発等によるため池そのものの消失により減少している。

保全上の留意点

ため池を維持し、水質を保全することが必要である。

特記事項

スズメノヒエからは、全体的に直立し、葉がほとんど無毛、小穂がやや小さいことで区別できる。

関連文献

保草本Ⅲp.374, 平新版 2 p.92.

長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.594-595. 平凡社, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) イネ科>

ウキシバ *Pseudoraphis sordida* (Thwaites) S.M.Phillips et S.L.Chen**評価理由**

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。ため池などの水中や水辺に生育する植物で、名古屋市では生育できる環境が急激に減少している。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	—

形態

多年生で浮葉性の水草。稈は束生し、水中を伸びて長さ 1m に達し、枝は斜上して水面に葉を浮かべる。葉は互生し、葉身は線形、長さ 3~5cm、幅 2~4mm、粉緑色をおび、無毛、葉鞘は葉身とほぼ同長で、小さい葉舌がある。花期は 8~9 月、花序は長さ 3~6cm、総状、基部は葉鞘の中にあつて多数の枝を出し、その枝が中軸に沿って立つため、見かけ上長楕円形となり、開花時には水上に出るが、花後水中に沈む。小穂は各枝に 1 個つき、披針形で長さ 4~5mm、枝に圧着し、雄性第 1 小花と雌性の第 2 小花からなり、小穂の先の枝は芒状となるが、小花自体は無芒である。陸生型は茎が短く、小さいマット状になる。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味大村池、芹沢 88984, 2013-10-5, A; 中志段味安田池、村松 30804, 2019-9-26, N）、4 天白区（天白町平針荒池、渡邊幸子 4854, 2001-9-8, N）に生育している。ただし天白区では、草が茂り、最近の状況が確認されていない。5 緑区（鳴海町笹塚、渡邊幸子 1925, 1994-10-9, N）にも生育していたが、遊歩道が作られて、名古屋市側では絶滅した。

県内：県 RDB2020 p.601 参照。尾張とそれに接した西三河の、平野部に接した浅い丘陵地のため池には比較的多く見られるが、それ以外では極めて稀である。県内では名古屋市のほか、豊川、田原東部、田原西部、豊田北西部、豊田南西部、岡崎南部、刈谷知立、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、半田武豊、常滑、犬山、春日井で確認されている。豊橋北部で採集された標本もある。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

池沼の水中に生育するが、干上がった岸などに生育することもある。生育地は、極めてというほどではなくてもそれなりに水のきれいなため池に限られている。

現在の生育状況／減少の要因

まだいくつかの溜池に生育しているが、開発圧力の高い地域であるだけに、ため池の埋立や改修、水の汚れなどにより、生育できる場所は急激に減少している。特に浮葉型は、見る機会が減少している。

保全上の留意点

ため池を維持し、水質を保全することが必要である。

特記事項

イネ科には湿地性のものは多いが、水草になるものは少ない。

関連文献

- 保草本Ⅲp.370, 平新版 2 p.94, SOS 旧版 p.100, SOS 新版 p.118.
 長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.634-635. 平凡社, 東京.
 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.218. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) ケシ科>

キケマン *Corydalis heterocarpa* Siebold et Zucc. var. *japonica* (Franch. et Sav.) Ohwi**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。海岸近くの平地に多い植物であるが、名古屋市では減少傾向が著しい。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

越年生草本。しばしば全体粉白色を帯びる。茎は高さ 40～80cm になる。葉は広卵状の三角形で長さ 10～25cm、幅 10～15cm、2～3 回 3 出複葉、小葉は深裂し、さらに欠刻がある。花期は 3-6 月、総状花序は長さ 5-10cm で、多数の黄色で長さ 15～20mm の花をやや密につける。蒴果は披針形から狭披針形で長さ 2.5～3.5cm、幅 3～4mm、ほとんど数珠状にならない。

分布の概要

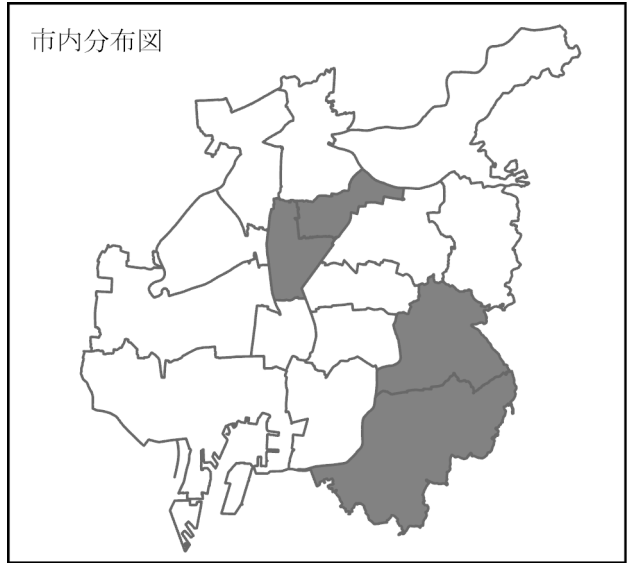
市内：6 東区（矢田三丁目、長谷川 64, 2021-5-1, N）、7 中区（名古屋城、西部 s.n., 2024-9-22, N）に生育している。1995 年以降では、4 天白区（野並相生、中島ひろみ 607, 1998-4-18, A）、5 緑区（大高町、芹沢 77173, 2001-4-9, A）でも採集されている。

県内：県 GDB p.248 参照。三河よりも尾張に多く、尾張では瀬戸尾張旭、長久手日進、大府東浦、東海知多、阿久比半田、常滑、美浜南知多、江南丹羽、岩倉西春、一宮東部、稲沢で確認されている。

国内：本州（宮城県以南）、四国、九州、琉球。

世界：日本固有。種としては朝鮮半島南部や台湾にも分布している。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

海岸や低地の草地、荒地に生育する。平坦地だけでなく、崖下や斜面下部に生えることもある。生育地は一般に日当たりがよく、土壌が発達した場所である。

現在の生育状況／減少の要因

東区では神社の落葉が掃き貯められた場所に数株が生育している。中区では名古屋城外堀の石垣に 2～3 株が生育している。天白区、緑区の生育地は近況が確認できていないが、今回は一部残存と考えて個体数階級、集団数階級を推定した。

保全上の留意点

必ずしも自然度の高い場所に生育しているわけではないので、現実問題として保全は困難である。いつの間にか消失してしまいそうな植物の一つである。

関連文献

保草本Ⅱp.192-193, 平新版Ⅱp.106-107.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) バラ科>

ワタゲカマツカ *Pourthiaea villosa* (Thunb.) Decne.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、補正+1 (準固有)。愛知県の丘陵地を特徴づける植物の一つと思われる。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の低木。高さは4m程になる。若枝はカマツカより太い。葉は互生し、長さ2~6mmの柄があり、葉身は倒卵形~長倒卵形、長さ5~10cm、幅2~5cm、先端は鋭頭または円頭で短く尖り、基部はくさび形、厚い洋紙質、辺縁に細かくやや鋭い鋸歯がある。葉柄、葉の両面、花序、がくの外面などに白色の綿毛が密生またはやや密生する。花期は5月、枝先に一部複生する散房花序をつけ、花は直径1cmくらい、花弁は5枚で白色である。果実は楕円形で長さ6~8mm、赤熟する。

分布の概要

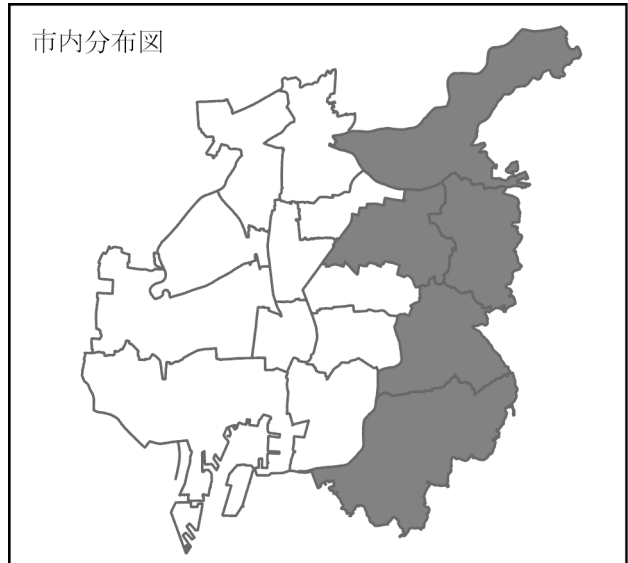
市内: 1 守山区 (小幡北山, 太田由美子 91, 1993-5-13, A)、2 名東区 (明德公園, 芹沢 97466, 2021-5-2, A, 花なし)、3 千種区 (平和公園, 広部 栄 266, 1994-5-8, A)、4 天白区 (相生山緑地, 芹沢 97461, 2021-5-2, A)、5 緑区 (鳴海町笹塚, 渡邊幸子 6842, 2014-5-12, A) などに生育している。

県内: 丘陵地に点在しているが、よく似たものは茶臼山にもある。2 (茶臼山, 芹沢 95338, 2019-6-8)、17 (藤七原湿地, 芹沢 55026, 1990-5-22)、23 (西中山, 塚本威彦 1763, 1995-10-6)、25 (大池町, 土場トシ子 339, 1993-6-9)、27 (黒笹, 中村裕治 478, 1994-5-13)、29 (岩中町, 中西普佐子 1323, 1993-8-28)、30 (池金町, 芹沢 51601, 1989-5-25)、31 (久保田, 金子律子 480, 1995-5-18)、37a (余床町, 日比野修 5191, 2000-8-28)、37b (城山町, 芹沢 97475, 2021-5-2)、38a (岩作, 芹沢 76734, 2000-5-15)、38b (米野木, 半田多美子 1023, 1993-5-25)、39a (愛知池, 芹沢 77639, 2001-9-17)、39b (間米町, 浅野守彦 1261, 2002-5-3)、40b (石浜, 芹沢 72453, 1995-10-13)、41a (加木屋町, 芹沢 72898, 1996-5-20)、45 (八曾, 松田ちか子 951, 1986-9-25)、48 (木附町, 日比野修 2265, 1994-6-14) などで確認されている。

国内: 愛知みどりの会には茨城県 (水海道市)、長野県 (軽井沢町、真田町)、岐阜県 (蛭川村、可児市)、三重県 (志摩市)、長崎県 (玉之浦町) などの標本があるが、詳細は不明である。カマツカの毛の多い型は北海道、本州、四国、九州。

世界: カマツカの毛の多い型は、日本および朝鮮半島に分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

やせた丘陵地の林縁などに生育する。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市内でもまだところどころに生育しているが、丘陵地の開発に伴い、次第に減少している。

保全上の留意点

愛知県のやせた丘陵地は、点在する湧水湿地以外の場所でも本種やフモトミズナラ、オキアガリネズ、ミカワツツジなど特徴的な樹木が生育している。湿地以外の場所も保全上重要であることを認識する必要がある。

特記事項

ここでワタゲカマツカとした植物は、単にカマツカの毛の多い型ではなく、カマツカに比べ枝が太く、葉は厚くて大きく、倒卵形になる傾向が著しく、花期がやや遅く、果実も大きいものである。東海地方で観察する限りではやせた丘陵地を特徴づける植物で、カマツカとは種の階級で異なると思われる。現在検討中である。ただし、新種になるか、それともワタゲカマツカの基準標本がこの型でカマツカの方の学名が変更になるかはまだ確認していない。

関連文献

カマツカの毛の多い型については保木本 II p.26, 平新版 3 p.77.

(長谷川泰洋、芹沢俊介)

維管束植物＜種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）イラクサ科＞

コアカソ *Boehmeria spicata* (Thunb.) Thunb.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の半低木。茎の下部は木質化し、高さ 1～2m になる。葉は対生し、長さ 1～5cm の柄があり、葉身は菱状卵形、長さ 3.5～9cm、幅 2.5～5.5cm、基部はくさび形、辺縁には基部近くを除き粗い鋭鋸歯があり、先端は尾状に細く長く伸び、尾状部分は長さ 1～3cm、幅 2～5mm でその基部は多少なりともくびれる。花期は 8～9 月、雌花序は細く、葉腋から出て長さ 6～15cm になる。雄花序はつけない。ただし名古屋市産の標本のうち守山区と天白区のもの普通のコアカソだが緑区のものややヤマオモに似た形態をしており、葉は卵形、やや質が厚く、基部は広いくさび形～切形、先端尾状部は長さ 1～3cm、幅 4～7mm、基部はくびれない。

分布の概要

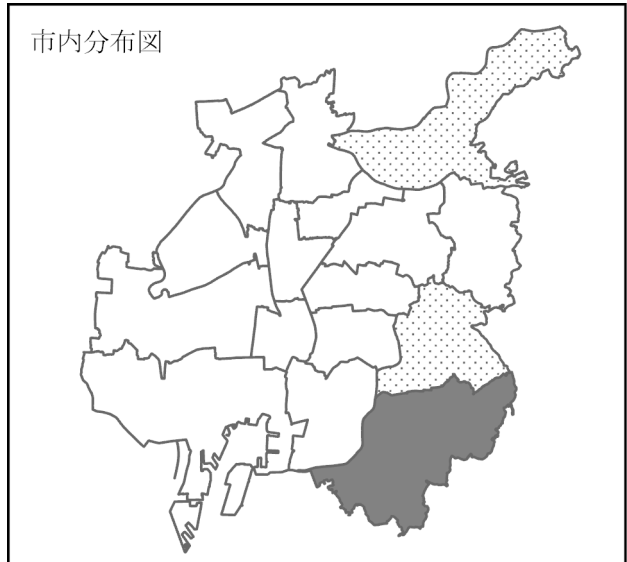
市内：5 緑区（鳴海町滝ノ水緑地、芹沢 89065, 2013-10-16, A）に生育している。1 守山区（小幡北山、太田由美子 44, 1992-8-30, A）、4 天白区（土原一丁目、中島ひろみ 560, 1996-9-5, A）で採集された標本もある。

県内：県 GDB2017 p.262 参照。山地ではごく普通に見られる植物であるが、丘陵地では少ない。県西部では名古屋市のほか、藤岡、豊田東部、豊田北西部、岡崎北部、岡崎南部 m 幸田、西尾南部、瀬戸尾張旭、犬山、春日井で確認されている。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

通常は沢沿いの林内や林縁に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

緑区では、緑地周辺部のやや人為的な影響がある場所に数株が生育していた。わざわざ植栽されるような植物とは思えないが、非意図的に移入されたものである可能性は否定しきれない。天白区では丘陵地の道路脇に 2～3 株生育していたが、消失してしまった。守山区では最近の状況が確認されていない。

保全上の留意点

本種のような、名古屋市では希少でも県全体としてはさほど希少でない植物が、それも人為的な影響のある場所に生育している場合、どの程度保全すべきかは議論が分かれるものと思われる。

特記事項

基準変種は 3 倍体で無融合生殖を行うが、変種のコバノコアカソ var. *microphylla* Nakai ex Satake は 2 倍体で有性生殖を行う。コバノコアカソは愛知県の山地には比較的多く生育しているが、名古屋市では知られていない。

関連文献

保草本Ⅱp.339, 平新版 2 p.344.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) カバノキ科>

サクラバハノキ *Alnus trabeculosa* Hand.-Mazz.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、補正+1(準固有)、総点 11。湧水湿地周辺に生育する植物で、愛知県全体では比較的多いが、名古屋市内ではやや少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	国リスト
全国 2025	準絶滅危惧

形態

落葉性の小高木～高木。大きいものは高さ 20m に達する。樹皮には目玉状の枝の脱落痕がある。葉は互生し、長さ 1～2.5cm の柄があり、葉身は卵状楕円形～長楕円形、長さ 5～9cm、幅 2～5cm、先端は短く鋭尖頭、基部は広いくさび形～浅い心形、辺縁には細鋸歯があり、側脈は 9～12 対あって下面に隆起する。葉は乾くと赤褐色になる。花期は葉が展開する前の 2～3 月、雄花序は尾状で、枝の先端に 4～5 個下垂し、雌花序はその下方に 3～5 個つく。果穂は楕円形、長さ 1.5～2cm、果実は扁平で、長さ 2.5～3.5mm である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷山西麓、芹沢 90821, 2015-10-19, A; 筧池、長谷川 752, 2023-8-21, N）に生育している。

県内：県 RDB2020 p.683 参照。名古屋市のほか、鳳来南部、作手、新城、豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、下山、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎南部、幸田、西尾北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、春日井で確認されている。県内では生育地も個体数も多いが、作手を除けば三河山地にはなく、平野部にも見られない。知多半島でも現在のところ確認されていない。

国内：本州（茨城県・新潟県以西）および九州（宮城県）。

世界：日本および中国大陸南東部。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

湧水湿地の周辺や、その下流の沢沿いに生育する。沢沿いのものは幹が直立し高木になるが、湿地周辺のものはあまり大きくならないことが多い。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では点在しており、場所によってはかなり大きい群落があるが、丘陵地の開発により減少している。その一方で開発されていない場所では、森林化の進行により、後継樹が生育できる機会が減少している。

保全上の留意点

丘陵地の地形を保全することが必要である。現実問題としてはなかなか困難であるが、本来ならば崩壊地などができた時には後継樹の生育地を確保するため、そのまま放置しておくことが望ましい。

特記事項

全国的に見ればやや希少な樹木で、国レベルで準絶滅危惧という評価は愛知県やその周辺に多いことに影響されていると思われる。

関連文献

保木本Ⅱp.287, 平新版 1 p.87, SOS 旧版 p.45, SOS 新版 p.110.

(芹沢俊介)

維管束植物＜種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）ウリ科＞

ゴキヅル *Actinostemma tenerum* Griff.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。低湿地性の植物で、名古屋市では生育地が限られている。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

つる性の 1 年生草本。茎は長く伸びて巻きひげで他物にからみつく。葉は互生し、長さ 1.5～6cm の柄があり、葉身は三角状卵形～三角状広披針形、長さ 5～12cm、幅 2.5～7cm、時に下部が横に張り出して浅～中裂し、先端は鋭尖頭、基部は心形、辺縁には低い鋸歯がある。花期は 8～10 月、花序は長いものでは 8cm くらいになり、上部に雄花を総状につけ、基部に少数の雌花をつける。雄花は帯黄白色、直径 8～10mm、がくも花冠も 5 裂して先は細く長く尖る。果実は卵形～楕円形、長さ 1.5～2cm、熟すと上半部が外れ、中に 2 個の大きい種子がある。

分布の概要

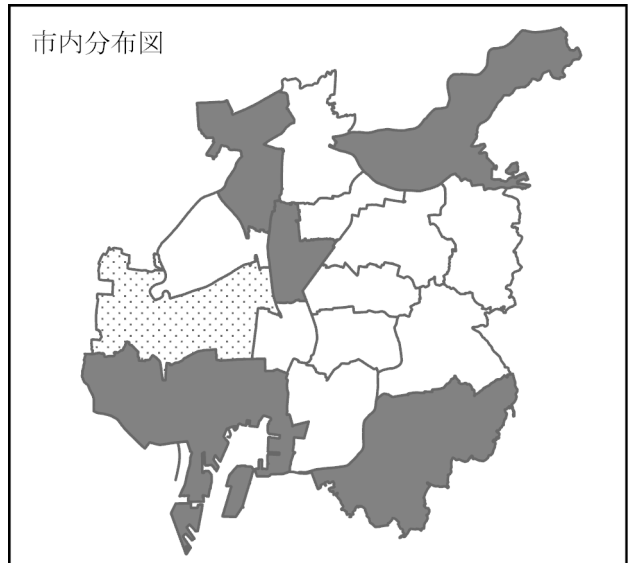
市内：1 守山区（瀬古堀川、芹沢 88962, 2013-9-29, A）、5 緑区（大高町、長谷川 599, 2023-5-4, N, 若い株）、7 中区（名古屋城堀、中村 肇 485, 2013-9-8, N）、13 西区（庄内緑地公園、芹沢 80103, 2005-8-14, A）、16 港区（藤前日光川、長谷川 1032, 2024-5-11, N）に生育している。15 中川区（福島、高木 順夫 136, 1992-7-5, A）にも生育していた。

県内：県 GDB2017 p.268 参照。平野部の水辺に生育しており、県西部では名古屋市のほか豊田芳部、豊田南西部、岡崎北部、刈谷知立、安城、高浜碧南、西尾北部、豊明東郷、大府東浦、半田武豊、美浜南知多、小牧、岩倉西春日井、一宮西部、稲沢、あま大治、津島愛西、海部南部で確認されている。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、ベトナム。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

河川敷や池畔などの湿った草地に生育する。どこにでもあるというわけではないが、ある場所では群生していることが多い。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市内でもまだところどころに生育しているが、水辺環境の劣化に伴い、次第に減少している。

保全上の留意点

個体レベルの保全に関してはそれほど神経質になる必要はないが、河川敷などに残存する低湿地的環境の保全は重要な課題である。

特記事項

2024 年のリスト案では絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、その後の情報整理で新しい産地が確認され、評価が変更された。和名は合器蔓で、果実が熟すと上半部がふたのように外れるからである。

関連文献

保草本 I p.99, 平新版 3 p.121.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) スミレ科>

ケイリュウタチツボスミレ *Viola grypoceras* A.Gray var. *ripensis* N.Yamada et M.Okamoto**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。中流域の川岸に生育する植物で、名古屋市では生育可能な場所が局限されている。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は束生し、花時に高さ 5~10cm である。葉は根出または茎上に互生し、根出のものには長く、茎の上部のものには短い柄があり、葉身は三角状広卵形、長さ 1~2cm、基部はほぼ切形、表面にやや光沢がある。花後の茎葉は長三角状卵形で鋭尖頭になる。花期は 4 月、花柄は長さ 3~8cm、花弁は 5 枚で、青紫色、長さ 10~13mm である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味庄内川、日比野修 4392, 1998-4-7）に生育している。

県内：豊川、矢作川、庄内川、木曽川などに生育している。2（坂宇場、村松 481, 1986-8-17）、8（長篠、小林 36171, 1992-3-24）、9（乗本、小林 51080, 1994-5-4）、10（只持、小林 50265, 1994-4-3）、11（大和田、小林 50957, 1994-5-1）、12（目吉、芹沢 58123, 1991-4-20）、13（三上町、小林 63710, 1998-4-29）、5（大野瀬、小林 41859, 1993-4-25）、19（小渡、芹沢 64952, 1993-5-11）、20（大河原、芹沢 69078, 1994-5-2）、22（樽俣、塚本威彦 1832, 1996-4-17）、24（国附町、芹沢 64634, 1993-4-23）、25（平戸橋町、山崎玲子 1344, 1996-4-1）、37a（定光寺町、芹沢 86775, 2011-4-29）、45（栗栖木曾川、芹沢 72776, 1996-4-26）などで確認されている。春日井にも生育しているはずである。

市内分布図



国内：本州。

世界：日本固有。種としては日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陆に分布する。

生育地の環境／生態的特性

河川中流域の、増水時には冠水するような川岸の岩場に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

庄内川中流の溪谷部には連続的に生育しており、その末端がわずかに名古屋市に達している。現在のところ特に減少してはいないが、護岸工事等があれば名古屋市からは容易に消滅してしまう。

保全上の留意点

名古屋市内では、他に本種が生育できそうな場所はない。生育地周辺で護岸工事や河川改修工事を行う場合には、配慮が必要である。

特記事項

タチツボスミレの溪岸型の変種で、比較的近年になって認識された植物である。葉形はコタチツボスミレに似ているが、花弁が細い。

関連文献

いがりまさし. 1996. 山溪ハンディ図鑑 6 日本のスミレ p.85. 山と溪谷社, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ミソハギ科>

ミズマツバ *Rotala pusilla* Tulasne**除外理由**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。水田雑草で、愛知県ではまだ比較的多く残存していて直ちに絶滅が危惧される状態ではないが、名古屋市では減少傾向にある。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	国リスト
全 国 2025	絶滅危惧 II 類

形態

1 年生の草本。茎の基部は地面を這い、分枝して立ち上がり、高さ 3~10cm になる。葉は 3~4 個輪生し、無柄、線形~狭披針形、長さ 6~10mm、幅約 1~2mm、先端は鋭~鈍頭で微凹端となる。花期は 8~10 月、花は葉腋に単生し、柄がなく、淡紅色。がく筒ははじめ鐘形、のちに球形となり、先端に小さい 5 裂片があり、花弁はない。さく果は球形、長さはがくの 2 倍ほどある。種子は細かく、黒褐色である。

分布の概要

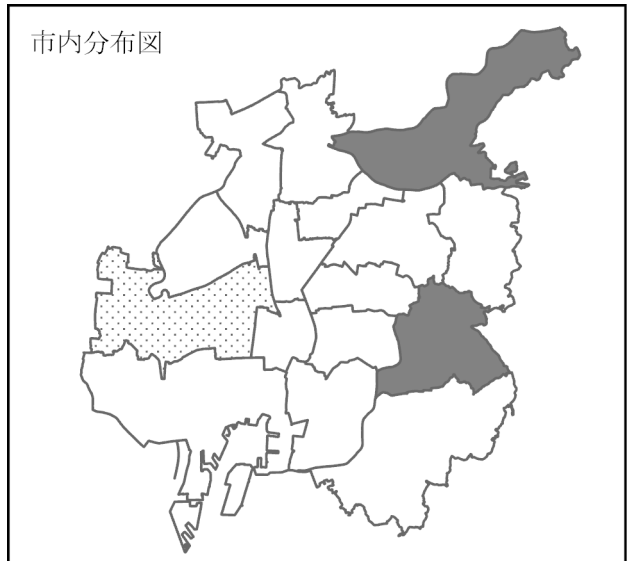
市内：1 守山区（下志段味吉田、鳥居ちゑ子 3493, 2015-9-21, N; 小幡緑地、村松 29893, 2018-9-28, N など）、4 天白区（御幸山、渡邊幸子 4056, 1999-10-8, A）に生育している。15 中川区（戸田、高木順夫 5013, 1994-8-19, A）で採集された標本もある。

県内：県 RDB2020 p.684 参照。全県的に分布しており、県西部でも名古屋市のほか、豊田東部、豊田北西部、豊田南西部、岡崎北部、岡崎南部、安城、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、春日井、一宮西部で確認されている。ていねいに調査すれば、このほかの区画でも確認できると思われる。ただし、平野部の広い水田には少ない。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、フィリピン、インド、中央アジア、アフリカなどに広く分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

水田や湿地に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

小型で目立たない植物であるが、愛知県ではよく探せばそれほど少ないものではない。ただし名古屋市に限れば、宅地化などにより水田そのものが減少しているため、本種も減少傾向にある。

保全上の留意点

水田を残さなければ保全できないが、現実問題としては困難かもしれない。

特記事項

本種が環境庁のレッドデータブックに掲載されたのは、小型の植物でよく観察されておらず、そのため全国的に情報が少なかったことによると思われる。もっとも本種のような植物がレッドデータブックに掲載されていると、環境影響評価などの調査精度をチェックする上では好都合である。

関連文献

保草本 II p.47, 平新版 3 p.259.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) タデ科>

サクラタデ *Persicaria conspicua* (Nakai) Nakai ex Ohki**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。低湿地性の植物で、名古屋市では生育できそうな場所が激減している。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下に匍匐枝を出す。茎は直立し、多少枝を分け、高さ 50~100cm になる。葉は短い柄があり、葉身は披針形、長さ 7~13cm、両端は鋭形、托葉鞘は短い筒形で、縁には長さが筒部の 1/2~2/3 の剛毛がある。花期は 8~10 月。雌雄異株で、花は総状花序にやや密につき、花被は長さ約 3.5~5mm、淡紅色、5 裂して腺点があり、そう果は 3 稜形である。

分布の概要

市内：花のやや小さいヒメサクラタデと呼ばれる型が、4 天白区（元八事五丁目、渡邊幸子 5842, 2008-10-2, N; 天白町平針黒石、中島ひろみ 127, 2018-7-23, N）、12 北区（喜惣治大山川沿い、福岡義洋 4303, 1998-10-18, A）、13 西区（中小田井庄内緑地、鳥居ちる子 2758, 2009-10-17, A）に生育している。3 千種区（田代町、広部 栄 93, 1992-9-23, A）、5 緑区（大高町、渡邊幸子 556, 1992-9-10, A）にも生育していた。

県内：愛知県の平野部~丘陵地には比較的多く見られる。3（本郷、小林 54697, 1994-10-22）、8（名越~川合、芹沢 37616, 1983-10-7）、11（上菅沼、芹沢 50685, 1988-10-8）、12（中宇利、芹沢 79531, 2004-10-13）、13（萩町、芹沢 89720, 2014-10-4）、14（西浦町、壁谷重美子 1193, 1994-10-11）、15（嵩山町、芹沢 76623, 1999-10-17）、20（下国谷、鈴木万里亜 976, 1995-9-19）、24（押沢町、芹沢 68876, 1993-10-22）、25（八草町、畑佐武司 2650, 2001-10-28）、28（切山、福岡義洋 s.n., 1993-10-17）、29（宇頭町、芹沢 71245, 1994-10-6）、80（鉢地町、本多さおり 941, 1994-9-30）、33（油ヶ渚、芹沢 101054, 2022-10-29）、34a（高取町、杉浦正美 10-15, 1989-10-22）、37a（三沢町、日比野修 924, 1992-10-7）、39b（栄町、浅野守彦 696, 1999-9-23）、41a（加木屋町、伊鶴靖則 724, 2015-10-12）、44b（豊浜、芹沢 87530, 2011-10-25）、45 塔野地、大宮克美 265, 2003-10-24）、46a（南山名、竹原芳子 1423, 1996-10-25）、49a（北島町、芹沢 72504, 1994-10-17）、49c（西春町五条川、芹沢 88002, 2012-10-3）、49d（新川町桃栄、芹沢 78975, 2003-10-25）、54（西五城、渡辺幸子 3227, 1997-9-23）、55（石橋町、家田晴俊 115, 1992-10-13）、56b（長牧、芹沢 71293, 1994-10-11）、57b（立田村長良川、芹沢 74398, 1997-10-27）、58a（柚木、芹沢 78973, 2003-10-20）、58b（鯛浦、大坪昇太 10-6, 1991-10-10）などで確認されている。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：日本および朝鮮半島。

生育地の環境／生態的特性

低地水辺の湿った草地に生育する。休耕田に生育することもある。

現在の生育状況／減少の要因

天白区平針黒石には比較的多いが、他は小群落である。緑区では大高町の水田のあぜに数株が生育していたという。千種区、北区も最近の状況は不明である。

保全上の留意点

平野部の湿田や未整理耕地は、従来の行政の中では重点的な「退治目標」であった。しかしここまです少なくなってしまうと、今後は旧来の農村景観という文化財的な意味を含めて、保全を図る必要がある。

特記事項

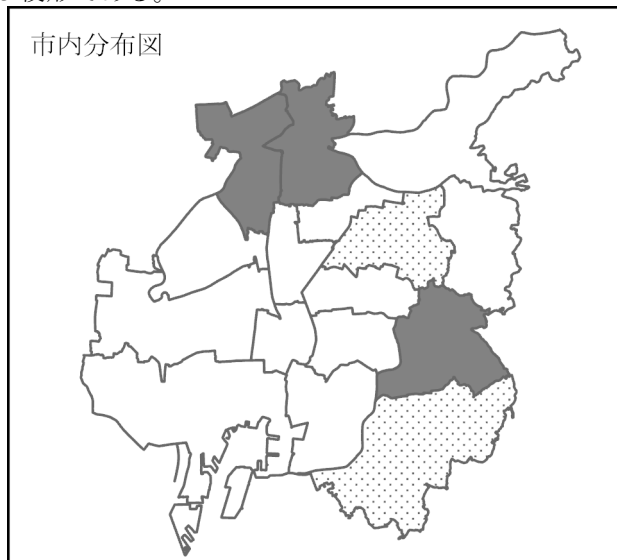
和名は桜タデで、同属の他の種に比べ花被が大きく淡紅色であることによる。狭義のサクラタデとヒメサクラタデの関係については、今後更に検討を要する。

関連文献

保草本Ⅱp.308, 平新版 4 p.96.

(芹沢俊介)

市内分布図



維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) タデ科>

コギシギシ *Rumex dentatus* L. subsp. *klotzschianus* (Meisn.) Rech.f.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級階級 1、総点 11。新産地が 2 カ所で確認されたため全体としては準絶滅危惧になるが、在来系統らしいものと帰化系統の疑いがあるものが混在しており、在来系統らしいもの(狭義コギシギシ)に限れば集団数階級 3、県西部分布階級階級 2、総点 13 で、絶滅危惧Ⅱ類と評価される。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	国リスト
全国 2025	準絶滅危惧

形態

多年生草本。高さは通常 30~50cm である。茎の下部の葉には長い柄があり、葉身は長楕円状披針形~披針形、長さ 5~10cm、幅 1.5~3.5cm、先端は鈍頭、基部は広くさび形~浅い心形、辺縁はやや波状になり、両面とも無毛である。上部の葉は互生し、次第に小さくなる。花期は 4~5 月、果実をかこむ花被片は卵形で長さ 4mm 程度、辺縁に顕著な刺毛があり、中肋のこぶ状突起は長卵形で、長さは花被片の約 2/3 である。在来系統と思われる茎が紅色を帯びて直立し分枝の少ない型(狭義コギシギシ)と、帰化系統の疑いがある茎が緑色で基部からよく分枝する型(ミドリコギシギシ)があるが、時に中間的な形態のものも出現する。

分布の概要

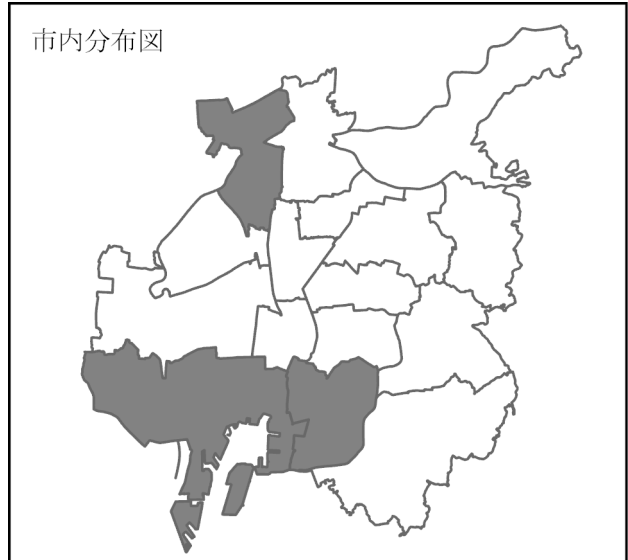
市内: 狭義コギシギシの型は 11 南区(大江川、渡辺幸子 4658, 2001-5-6, A), 16 港区(野跡庄内川、芹沢 93859, 2018-4-14, A; 西茶屋、芹沢 101569, 2023-5-26, A)などで採集されている。ミドリコギシギシの型は、13 西区(水場川、芹沢 95158, 2019-5-12, A)、16 港区(大江川、芹沢 77166, 2001-4-9, A; 野跡庄内川、芹沢 93859B, 2018-4-14, A; 西茶屋、芹沢 101571, 2023-5-26, A)などで採集されている。

県内: 県 RDB2020 p.688 参照。狭義コギシギシの型は、名古屋市のほか、豊川、豊橋南部、田原東部、東浦、東海、犬山、北名古屋、清須、あま、大治(区画数としては 8)で確認されている。ミドリコギシギシの型は、名古屋市のほか、田原東部、田原西部、刈谷、東浦、東海、常滑、岩倉、豊山、北名古屋、清須、あま、飛島(区画数としては 9)で確認されている。

国内: 本州(関東地方以西)、四国、九州。

世界: 日本、台湾、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図

**生育地の環境/生態的特性**

狭義コギシギシの型は、耕起前の水田雑草として出現することが多い。河川敷などに生育することもある。ミドリコギシギシの型は、低湿地のほか、路傍の荒地などに出現することもある。

現在の生育状況/減少の要因

狭義コギシギシの型は個体数が少なく、なかなか継続的に観察できない。一方で未整理耕地の減少、他方で都市化の進行に伴う水田の消失が、減少の主要因である。ミドリコギシギシの型も、出現はやや偶発的である。

保全上の留意点

狭義コギシギシの型については、個別的な保全が必要である。ミドリコギシギシの型については、さしあたり配慮する必要はない。

特記事項

エゾノギシギシに似ているが、葉は小さく、裏面は無毛である。また、エゾノギシギシが他のギシギシ類よりやや遅く開花するのに対し、本種は他のギシギシ類よりやや早く開花する。表記学名は、多分ミドリコギシギシに当たる。

関連文献

保草本Ⅱp.296, 平新版 4 p.104, SOS 旧版 p.48, SOS 新版 p.139,140.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) モウセンゴケ科>

モウセンゴケ *Drosera rotundifolia* L.**評価理由**

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。代表的な食虫植物で、名古屋市では生育できる環境が急激に減少している。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全 国 2025	—

形態

食虫性の多年生草本。葉は根生し、長さ 3~8cm の柄があり、葉身は倒卵状円形、長さ 7~10mm、基部は柄に流れ、表面と辺縁に昆虫類を捕らえるための腺毛がある。花期は 6~8 月、高さ 10~30cm の花茎の上部に総状花序をつけ、花序の先端は渦巻き状に巻く。花は 5~20 個が花序の片側につき、花弁は長さ 4~6mm、通常白色であるが、稀に淡紅色のものもある。

分布の概要

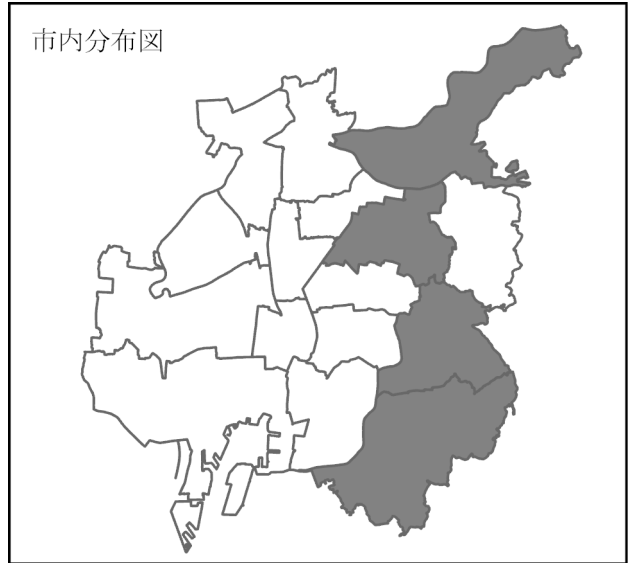
市内: 1 守山区(上志段味東谷、鳥居ちゑ子 407, 1993-7-4, A など)、3 千種区(田代町平和公園、鳥居ちゑ子 2132, 2002-6-12, A など)、5 緑区(大高緑地、渡邊幸子 5104, 2002-6-8, A など)に生育している。4 天白区(土原、中島ひろみ 134, 1992-6-16, A)にも生育していた。

県内: 県 GDB2017 p.276 参照。愛知県では比較的多い植物で、平野部を除くほぼ全域に分布している。尾張でも名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、春日井に生育している。

国内: 北海道、本州、四国、九州。

世界: 北半球の亜寒帯~温帯に広く分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

温帯性の植物で、日当りのよい湧水湿地や、水のきれいなため池の周辺などに生育する。トウカイコモウセンゴケに比べて、より水位の高い場所に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

まだ何カ所かに見られるが、丘陵地の開発に伴い、生育できる環境は激減している。湿地の乾燥化によっても影響を受けやすい。また、湿地に立ち入る観察者が増加するにつれ、踏み荒らしによる影響も大きくなっている。

保全上の留意点

名古屋市東部を含む愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、絶滅危惧種も多く、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。また、湿地が小さい場合は周囲の森林を伐採し、光条件を確保する必要がある。森林の伐採は、水収支の回復という点でも重要である。「森林を伐採すると水が枯れる」と心配する人もいるが、実際には話が逆で、森林化が進むと蒸散量が増加し、湿地の水が枯れてしまう。その一方で、攪乱防止のため、湿地自体にはなるべく立ち入らないようにする配慮も必要である。自然に親しむ行為は、それ自体が自然に対する負荷となる。

特記事項

最近湧水湿地の調査を控えているため 1994 年以前に採集された標本を 2 点引用したが、おそらくまだ存続していると思われる。トウカイコモウセンゴケ *D. tokaiensis* (Komiya et C. Shibata) T. Nakam. et K. Ueda は本種とコモウセンゴケの交雑に由来すると推定される 6 倍体種で、市内にまだ比較的多く残存しており、現状では準固有種であることを考慮しても、準絶滅危惧種には該当しない。しかし保全上は、それなりに重要な植物である。

関連文献

保草本 II p.168, 平新版 4 p.106.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ヒユ科>

ホソバハマアカザ *Atriplex gmelinii* C.A.Mey

評価理由

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。塩湿地性の植物で、名古屋市では生育地に対する開発圧が高い。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

1年生草本。茎は直立して硬く、枝を分け、高さ 40～70cm になる。葉は長さ 4～12mm の柄があり、葉身は披針形～線状披針形、長さ 5～10cm、質は厚く、辺縁は通常全縁である。花期は 10 月、花は茎や枝の先端部に多数集まってつき、長さ 1.5～6cm の穂状花序をつくる。果時には花序は伸長して長さ 10cm 以上になり、雌花の 2 個の苞は大きくなって胞果を包む。種子は円形、直径 1.2～1.5mm、黒色で光沢がある。

分布の概要

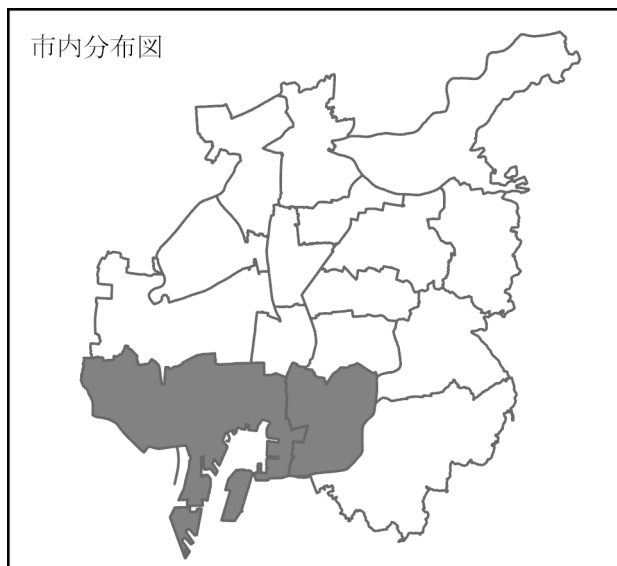
市内：11 南区（加福町一丁目、高木順夫 5624, 1997-11-1, N）、16 港区（当地町庄内川、村松 31128, 2019-10-30, N）で確認されている。

県内：16（杉山町、芹沢 81137, 2006-10-14）、17（姫島、芹沢 93682, 2017-10-11）、34a（新田町、中村裕治 1251, 1994-10-9）、34b（川口町、芹沢 68747, 1993-10-15）、35（中畑町、芹沢 68473, 1993-10-4）、36（佐久島、芹沢 82690, 2007-10-13）、41b（藤江、中村裕治 1287, 1994-10-14）、42b（日東町、岡本久美子 846, 2000-10-7）、43（新田町、梅田零奈 767, 2000-9-22）、44a（豊丘、芹沢 63590, 1992-9-22）、44b（日間賀島、芹沢 83433, 2008-10-3）などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：アジア東北部。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

塩湿地性の植物であるが、埋立地の浜状の場所、護岸のすき間など、やや自然度の低い場所にも生育している。

現在の生育状況／減少の要因

港区では庄内川と日光川の河口部に生育している。南区では加福町にある。高木 5624 が採集された貯木場跡地では埋め立てられてなくなったが、周辺部の川沿いに残存しているという。本種は他の塩湿地性植物に比べれば二次的に形成された場所にも生育するが、名古屋市ではそのような場所さえも減少傾向が著しい。

保全上の留意点

内湾部や河口部は開発圧が極めて高く、注意して自然環境を保全する必要がある。

関連文献

保草本Ⅱp.291, 平新版 4 p.135.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) ミズキ科>

ミズキ *Cornus controversa* Hemsl.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。愛知県全体ではやや普通に見られる植物だが、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の高木。高さ 10-15m になる。枝は水平に広がり、階段状の特異な樹形となる。葉は互生し、長さ 2~4cm の柄があり、葉身は広卵形~楕円形、長さ 6~12cm、幅 3~7.5cm、短い伏毛があり、裏面は粉白色である。花期は 5~6 月、枝端に直径 6~12cm の散房花序をつけ、多数の白い小さい花をつける。花弁は狭卵状長楕円形、長さ 5~6mm、幅約 2mm、平開する。果実は核果で球形、直径 6~7mm、紫黒色に熟す。

分布の概要

市内：1 守山区（小幡緑地、鳥居ちゑ子 1060, 1996-5-11, A; 弁天が丘、芹沢俊介 101448*, 2023-5-15, N）、2 名東区（猪高町上社、長谷川泰洋 903, 2023-11-4, N）に生育している。

県内：2（大入溪谷、加藤等次 2905, 1993-5-11）、3（振草、小林 47332*, 1993-9-5）、10 玖老勢椎平、芹沢 65654, 1993-5-28）、11（保永、芹沢 65061, 1993-5-14）、5（面ノ木峠、芹沢 89264, 2014-6-7）、19（駒山、芹沢 65720C, 1993-6-1）、21（大林、長谷川朋美 348, 1992-5-19）、22（涼堂、塚本威彦 1001, 1994-5-12）、23（西中山、塚本威彦 1514*, 1995-6-9）、24 手呂町、山崎玲子 419, 1993-5-11）、25（猿投山、土場トシ子 586*, 1994-9-10）、32a（今川町、中村裕治 608, 1994-5-28）、37a（上半田川町、塚本威彦 2958, 2001-5-17）、38a（前熊、半田多美子 1531, 1994-5-15）、39b（間米町、浅野守彦 1919, 2004-5-3）、47（石金、日比野修 4742, 1999-5-9）、48（廻間町、山田果与乃 147, 1996-5-27）などで確認されており、6（段戸山、恒川敏雄 1011, 1961-8-10, T）で採集された標本もあるが、標本の集積が不十分であり、更に*の標本は花や実がなかったり不完全だったりして再採集が望ましい。

市内分布図



国内：南千島（国後島）、北海道、本州、四国、九州。

世界：朝鮮半島、台湾、中国、ヒマラヤの山地。

生育地の環境／生態的特性

陽性の樹木であるが、どちらかと言えばやや湿潤な場所に多い。

現在の生育状況／減少の要因

守山区の生育地は湿地周辺の二次林、名東区の生育地は緑地の北向き斜面で、それぞれ数個体程度が生育しているが、開花するまで生長した大きな個体は少ない。植生遷移が進行して常緑樹林化すれば、被陰されて衰退する可能性が高い。

保全上の留意点

現実には困難かもしれないが、適度に間伐などを行いながらやや湿潤な二次林を維持する必要がある。

関連文献

保木本 I p.197, 平新版 4 p.155.

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）アジサイ科>

コアジサイ *Hydrangea hirta* (Thunb. ex Murray) Siebold et Zucc.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。山地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。総点は 12 であるが、ニホンジカによる食害を比較的受けにくい植物であることから、準絶滅危惧と評価した。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の小低木。幹はよく分枝し、高さ 1~1.5m になる。葉は対生し、長さ 1.5~4cm の柄があり、葉身は卵形または倒卵形、長さ 5~8.5cm、先端は鋭尖形または短い尾状、基部は円形または広いくさび形、辺縁には大きな鋸歯があり、両面に毛を散生する。花期は 6~7 月。枝先に直径約 5cm の複散房状の花序をつける。花は両性で、直径約 4mm、淡青色、装飾花はない。

分布の概要

市内：1 守山区（東谷山、村松 29683, 2018-6-9, N）に生育している。

県内：東三河と西三河の低山地には普通に見られるが、丘陵地では少ない。3（東薮目、山崎玲子 156, 1992-7-12）、6（川向、伊藤昭康 493, 1990-9-3）7（和市、芹沢 66218, 1993-6-22）、8（川合、芹沢 101545, 2023-5-24）、10（布里、加藤等次 1358, 1992-5-17）、11（菅沼、小林 52236, 1994-6-19）、12（大海、芹沢 84019, 2009-5-20）、13（萩、瀧崎 17687, 2000-8-1, T）、14（神ノ郷町、鈴木美恵子 32, 1992-5-21）、15（嵩山町、芳山朋子 637, 1984-5-22）、16（小島町、小林 43631, 1993-6-1）、17（滝頭不動、小林 51840, 1994-6-1）、5（林道月ヶ平線、鈴木 学 1299, 1983-6-14；黒田町、芹沢 87645*, 2012-6-22）、19（駒山、芹沢 62061, 1992-6-27）、20（御内町、芹沢 95437, 2019-6-17）、21（花沢、長谷川朋美 395, 1992-5-25）、22（百月、日比野修 2830, 1995-5-30）、23（北曾木、日比野修 381, 1992-6-4；白川、日比野修 2864*, 1995-6-7）、24（西広瀬町、佐藤久美子 536, 1993-6-27）、25（猿投山、土場トシ子 122, 1992-6-21）、27（福谷、芹沢 61329, 1992-5-22）、28（鹿勝川、福岡義洋 580, 1990-5-22；本宮山、小林 51876*, 1994-6-4）、29（才栗町、伊奈知子 420, 1993-6-24）、30（山綱町、本多さおり 339, 1994-5-28）、31（大草、金子律子 654, 1995-5-27）、36（三ヶ根山、壁谷重美子 442, 1994-5-21）、37a（海上町、芹沢 75713, 1999-6-4, 87108*, 2001-6-18）、45（栗栖木曾川、佐分康之 661, 1996-7-1）、47（野口、村瀬正成 10955, 1994-6-18；大山、日比野修 4491*, 1998-5-24）、48（外之原町、芹沢 66350, 1993-6-25；廻間町、山田果与乃 1252*, 2005-6-11）などで確認されている。2（茶白山、山田英吉 235, 1956-7-17）で採集された標本もある。*はシロバナコアジサイである。

市内分布図



国内：本州（関東地方以西）、四国、九州。

世界：日本固有種。

生育地の環境／生態的特性

山地の林縁や明るい林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市では、唯一の山地状の場所である東谷山に生育している。個体数はそれほど多くないが、よく開花し、生育状態も良好である。中志段味才井戸流にも少数株が生育していたが、この場所では刈り払われたためか見られなくなった。

保全上の留意点

東谷山には、本種以外にも名古屋市ではこの場所にしか見られない植物が多数生育している。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。

特記事項

同属の他種と異なり装飾花がない。2024 年の仮リストでは、手違いで脱落していた。

関連文献

保木本Ⅱp.117, 平新版 4 p.166.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) サクラソウ科>

カラタチバナ *Ardisia crispa* (Thunb.) A.DC.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。自然度の高い林内に生育する植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の小低木。茎は分枝せず直立し、高さ 20～100cm、幼時多少の粒状の褐色微毛がある。葉は互生し、長さ 8～20cm、幅 1.5～4cm、辺縁に波状鋸歯があつてその歯間に腺点があり、側脈は 8 対、両面とも無毛または裏面のみに多少細かい鱗片毛がある。花期は 7 月ごろ、花序柄は長さ 4～7cm で斜上し、粒状の褐色微毛がある。花はその先端に散形状に 10 個ほどつき、花冠は白色、直径 7～8mm、果実は球形、直径 6～7mm で、通常赤く熟す。

分布の概要

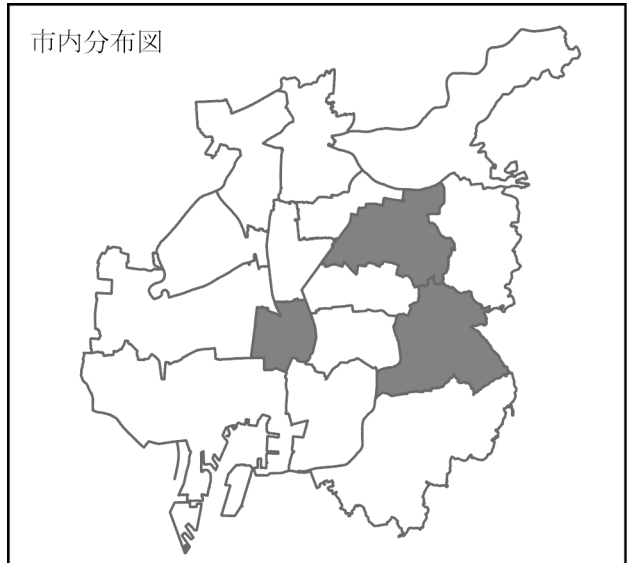
市内: 3 千種区(田代町, 鳥居ちよ子 2049, 2001-10-30, A)、4 天白区(野並, 渡邊幸子 2952, 1996-12-9, A)、10 熱田区(旗屋 1 丁目, 高木順夫 7601***, 1999-9-23, N) に生育している。

県内: (大谷, 小林 51302***, 1994-5-7)、3 (下田, 芹沢 50735, 1994-4-24)、6 (三都橋, 芹沢 47542***, 1993-9-11)、9 (乗本, 小林 50115***, 1994-3-20)、10 (玖老勢椎平, 芹沢 64540, 1992-11-8)、11 (善夫, 中西普佐子 1145, 1993-8-1)、12 (富沢, 小林 62925*, 1997-11-16)、13 (一宮町上長山, 小林 46372*, 1992-11-5)、15 (嵩山町, 芹沢 43971***, 1986-6-3)、16 (東赤沢町, 小林 40575*, 1992-11-23)、17 (東浜田, 小林 40426*, 1992-11-8)、18 (石神, 小林 47711***, 1993-9-12)、19 (伊熊町, 芹沢 86273, 2010-9-25)、20 (大河原, 芹沢 70272, 1994-8-3)、21 (蘭町, 芹沢 85048**, 2009-9-24)、22 (岩倉, 塚本威彦 1221, 1994-7-18)、23 (上川口, 日比野修 977, 1992-10-22)、24 (東広瀬町, 芹沢 69764*, 1994-6-7)、25 (御船町, 畑佐武司 5558, 2002-11-5)、28 (鳥川, 福岡義洋 830, 1990-6-29)、31 (深溝, 芹沢 72388, 1995-10-9)、37a (上本町, 日比野修 985*, 1992-10-25; 川平町, 日比野修 995, 1992-10-28)、44b (山海, 小林 55434, 1994-12-10)、47 (野口, 日比野修 5040*, 1999-10-22)、48 (西尾町, 山田果与乃 177***, 1996-10-2)、56a (蜂須賀, 芹沢 98814***, 2021-8-21) など確認されている。*は果実が黄色のもの(キミタチバナ)、**は果実が白色のもの(シロミタチバナ)、***は花も果実もなく、果実の色が不明のものである。

国内: 本州(福島県以西)、四国、九州、琉球。

世界: 日本、台湾、中国大陆。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

一般に自然度が高い発達した二次林や常緑樹林などの、土壌が発達した林内に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

保全された緑地内に生育しているが、いずれの場所でも 1～数個体が確認できる程度である。果実が目立つため、園芸目的で採取される可能性がある。

保全上の留意点

マンリョウとやや似ているので、保全管理の際はしっかり区別する必要がある。

特記事項

マンリョウに対し百両とされるが、実際には本種の方がマンリョウよりずっと重要である。

関連文献

保木本 I p.111, 平新版 4 p.190.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ハイノキ科>

クロミノニシゴリ *Symplocos paniculata* (Thunb.) Miq.

評価理由

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、補正+1 (準固有)、総点 11。本地域の湧水湿地を特徴づける植物の一つで、市内では次第に減少している。

形態

落葉性の低木。高さ 5m くらいになり、若枝は紫褐色を帯び、2 年枝は灰白色になる。葉は互生し、4~10mm の柄があり、葉身は楕円形~長楕円形、長さ 3~9cm、先端は鋭尖頭から鈍頭まで変異があり、両面ともにほとんど無毛、表面は鮮緑色でやや光沢がある。葉縁の鋸歯は低く、時にはほとんど全縁に見える。花期は 5~6 月。新枝の先の円錐花序に多数の花をつける。花は白色、直径 8~10mm、花冠は 5 裂して平開する。果実は卵球形、長さ 6~7mm、黒熟する。

分布の概要

市内: 1 守山区 (竜泉寺, 村松 30369, 2019-5-17, N; 牛牧竜巻池, 高木順夫 21418, 2012-10-10, N; 大森八竜新池, 広田由紀子 s.n., 2009-5-24, N)、2 名東区 (牧野ヶ池緑地, 鳥居ちる子 2105, 2002-5-18, A)、3 千種区 (茶屋ヶ坂公園, 高木順夫 21778, 2013-5-20, N)、4 天白区 (八事裏山, 芹沢 93256, 2017-9-9, A; 菅田, 中島ひろみ 34, 2018-4-27, N)、5 緑区 (勅使ヶ池緑地, 長谷川 15, 2020-5-23, N; 大高緑地, 芹沢 89063, 2013-10-16, A)、8 昭和区 (八事本町興正寺, 渡邊幸子 5347, 2003-5-23, N) などに生育している。

県内: 低山地~丘陵地の湿地に広く分布し、新城市作手地区にもある。11 (清岳, 芹沢 96133, 2020-6-6)、12 (川田, 小林 61422, 1997-6-7)、13 (一宮町上長山, 芹沢 58499, 1991-5-18)、15 (多米町, 細川良克・郁子 174, 1993-9-26)、16 (東細谷町, 名倉智道 58, 1992-5-17)、17 (野田, 芹沢 58602, 1991-5-26)、18 (伊川津, 芹沢 58622, 1991-5-26)、23 (西中山, 芹沢 48628, 1988-6-1)、24 (山中町, 芹沢 58644, 1991-5-28)、25 (大池町, 土場トシ子 344, 1993-6-9)、26 (堤本町, 土場トシ子 315, 1993-6-4)、27 (福谷, 芹沢 61325, 1992-5-22)、30 (池金町, 芹沢 51593, 1989-5-25)、32a (井ヶ谷町, 芹沢 58586, 1991-5-24)、33 (赤松町, 堀田善久 1584, 1992-6-3)、37a (広久手町, 芹沢 75726, 1999-6-4)、37b (旭ヶ丘町, 村松 33015, 2022-5-17, N)、38b (藤島, 伊藤恭子 329, 1992-5-29)、39a (春木, 芹沢 79175, 2004-5-21)、39b (沓掛町, 浅野守彦 1801, 2003-9-21, N)、41a (高横須賀町, 吉鶴靖則 1027, 2021-5-8)、42a (板山, 芹沢 55077, 1990-5-25)、42c (二ツ峰, 芹沢 55099, 1990-5-25)、43 (金山, 梅田零奈 354, 2000-5-22)、44a (奥田, 芹沢 59066, 1991-6-28)、45 (池野, 芹沢 55287, 1990-5-30)、47 (大草, 芹沢 65866, 1993-6-6)、48 (木附町~玉野町, 福岡義洋 2526, 1993-6-6) などで確認されている。

国内: 本州 (中部地方、近畿地方)。

世界: 日本固有種。

生育地の環境/生態的特性

湧水湿地の周辺部や湧水のあるため池の周辺に生育する。

現在の生育状況/減少の要因

名古屋市東部の丘陵にはまだ点在しており、個体数も比較的多い。しかし、開発により丘陵地そのものが減少しており、その一方で丘陵地が残存している場所では森林化が進行しているため、本種も減少傾向にある。

保全上の留意点

丘陵地の地形を保全すること、ため池を維持し、水質を保全することが必要である。

特記事項

サワフタギ *S. chinensis* (Lour.) Druce var. *leucocarpa* (Nakai) Ohwi に似るが、葉縁の鋸歯が低く表面にやや光沢があること、花つきがよいことなどで区別できる。枝いっぱいに白花をつけるため、花時にはよく目立つ植物である。

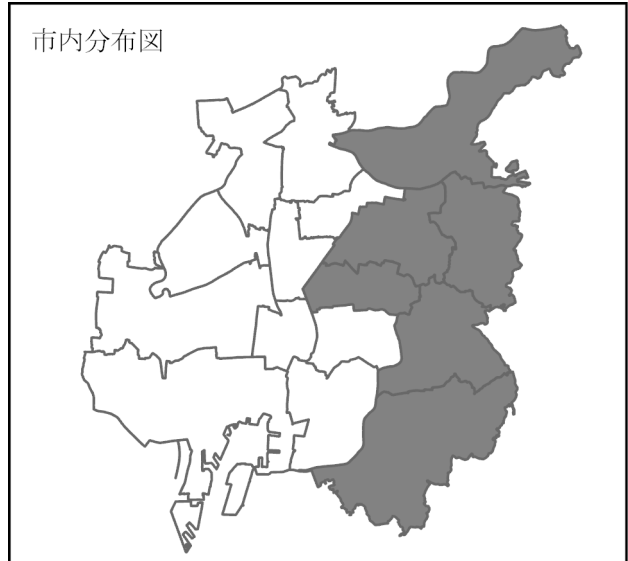
関連文献

保草本 I p.96, 平新版 4 p.209.

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

市内分布図



(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) ツツジ科>

イチャクソウ *Pyrola japonica* Klenze ex Alef.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。林内に生育する植物で、名古屋市では減少傾向が著しい。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。葉は数枚が根生し、長さ 3~7cm の柄があり、葉身は卵状楕円形または広楕円形、長さ 3~6cm、幅 2~4cm、先端は鈍頭、基部は多少葉柄に流れ、質はやや厚く、辺縁に細かい鋸歯がある。花期は 6~7 月、花茎は高さ 15~25cm になり、上部に 3~10 個の花をつける。花は白色で直径 12~15mm、がく裂片は披針形で長さ 3~5mm である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷、鳥居ちゑ子 1205, 1997-6-7, A; 平池東、長谷川 729, 2023-8-17, N など）、4 天白区（土原一丁目、渡邊幸子 2182, 1995-5-24, A）に生育している。

県内：東三河と西三河の山地に点在し、尾張の丘陵地にも生育している。1（猿ヶ鼻、小林 44723, 1993-6-26）、2（茶臼山、加藤等次 3411, 1993-7-27）、3 下栗代、榊原利修 796, 1992-7-10）、4（天狗棚、鈴木 学 1416, 1983-6-26）、6（駒ヶ原、瀧崎 21573, 2004-9-5, T）、8（鳳来寺山、加藤等次 1390, 1992-5-23）、13（赤坂、瀧崎 19686, 2002-6-3, T）、14（五井町、井上美保子 327, 1992-6-28）、15（石巻萩平町、芹沢 61503, 1992-6-1）、17（赤羽根町若見、芹沢 58610, 1991-5-26）、18（長沢、小林 43851, 1993-6-6）、19（伊熊、芹沢 76822, 2000-6-26）、20（大多賀町、芹沢 88539, 2013-7-6）、21（井口、芹沢 92478, 2017-6-13）、22（喜佐平、伊藤泰輔 216, 1993-6-21）、23（北曾木、塚本威彦 647, 1993-6-28）、24（西広瀬町、佐藤久美子 1186, 1993-9-27）、25（八草町、山崎玲子 1436, 1996-6-20）、26（水源町、落合鈴枝 796, 1996-6-2）、28（大代、芹沢 59106, 1991-6-29）、29（米河内町、中西普佐子 132, 1992-7-19）、37a（上半田川町、日比野修 416, 1992-6-22）、38b（岩藤新田、芹沢 62266, 1992-7-27）、39a（諸輪、濱嶋育子 80, 2012-6-8）、44a（豊丘、大西 博 615, 1992-6-15）、44b（内海、芹沢 61635, 1992-6-12）、45（八曾、大宮克美 210, 1999-8-13）、47（大山、日比野修 4519, 1998-6-6）、48（廻間町、山田果与乃 76, 1993-6-16）などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸東北部。

生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地の落葉樹林の林床に生育する。あちこちで見られるが、あまり群生しない植物である。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市内でもまだ生育しているが、開発により本種の生育地である丘陵地の二次林が減少しているだけでなく、残された二次林も利用の停止によって林内にネザサなどが茂り、本種が生育しにくい状況になりつつある。林内の乾燥により消滅したのではないと思われる例もある。天白区では現状が確認できておらず、すでに消滅している可能性がある。

保全上の留意点

里山の二次林を、林床の状態を含めて保全することが必要である。経済的必然性がなくなった現在では市民参加の里山保全活動を行うことも考えられるが、その場合は林床の踏み荒らしを極力避けると共に、たとえ隣接した場所からであっても植物を持ち込まないよう、特に注意する必要がある。自然には自然の回復力がある。植物が生育できる条件を整えたら、あとはその植物が自分の力で存続するのを見守るべきである。

関連文献

保草本 I p.238, 平新版 4 p.229.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) ヒルガオ科>

ネナシカズラ *Cuscuta japonica* Choisy

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 10。つる性の寄生植物で、名古屋市では個体数が少ない。比較的最近でも 4 カ所で確認されているのでそのまま評価すればリスト外になるが、どこも個体数が少ないようであることを考慮し、準絶滅危惧と判断する。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

つる性の 1 年生寄生植物。初めは地上に生えるが、寄主に巻きつくとも根がなくなる。茎は針金状で太さは約 1.5 mm、無毛で、通常紫褐色の斑点がある。葉は鱗片状で、長さ 2 mm 程度である。花期は 8～10 月、花はやや穂状に集まってつき、汚白色、花冠は鐘形で、長さ 3.5～4 mm、5 裂する。さく果は楕円状卵形で、長さ約 4 mm、はじめ花冠をかぶっているが、後に裸出し基部で横裂する。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味庄内川堤防、鳥居ちゑ子 3077, 2012-8-1, N; 吉根庄内川河川敷、鳥居ちゑ子 3498, 2015-9-21, N; 天子田矢田川河川敷、鳥居ちゑ子 3646, 2017-9-22, N）、3 千種区（東千種台矢田川、鳥居ちゑ子 3667, 2017-10-17, N）に生育している。

県内：東三河と西三河の山地に点在し、尾張の丘陵地にも生育している。2（上黒川、芹沢 63307, 1992-9-9）、4（白鳥山、石田雄吉 313, 1979-9-6）、7（神田、芹沢 63105, 1992-9-4）、9（七郷一色、芹沢 60815, 1991-10-13）、10（玖老勢椎平、芹沢 67845, 1993-9-17）、13（上長山～本宮山、小林 39534, 1992-9-20）、15（嵩山町、芳山朋子 1116, 1984-9-19）、5（押山、塚本威彦 2460, 1997-8-28）、19（時瀬、芹沢 63801, 1992-9-26）、20（追分、新井文子 1043, 1994-9-21）、21（東大沼、芹沢 63718, 1992-9-24）、22（田代、塚本威彦 1353, 1994-9-6）、24（豊松町、山崎玲子 304, 1992-9-20）、25（丸根町、土場トシ子 225, 1992-9-5）、28（明見、服岡義洋 1606, 1990-10-4）、30 鉢地町、本多さおり 920, 1994-9-24）、36（佐久島、中根幸司 1606, 2007-9-13）、37a（上半田川町、塚本威彦 2926, 2000-10-5, N）、37b（井田町、村松 33810, 2022-10-4, N）、38b（五色園、半田多美子 2215, 1996-10-3, N）、44b（大井、芹沢 63644, 1992-9-22）、45（善師野、平嶋 敏 1189, 1989-9-24）、48（木附町、山田果与乃 2021, 2013-9-22, N）、57b（塩田町、村松 33962, 2022-10-28, N）などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地の日当たりのよい場所に生育し、他の草や低木にからみついて寄生する。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市では、庄内川、矢田川の河川敷と堤防に生育している。ていねいに探せば他の場所でも確認できるかもしれない。

保全上の留意点

本種のような植物については、個別的な保全は困難である。河川敷の自然を全体として保全することが重要である。

関連文献

保草本 I p.202, 平新版 5 p.26.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) オオバコ科>

イヌノフグリ *Veronica didyma* Ten. var. *lilacina* (H.Hara) Yamaz.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 11。愛知県ではよく探せばあちこちに見られる植物だが、名古屋市では生育地も個体数もあまり多くない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	国リスト
全国 2025	準絶滅危惧

形態

越年生草本。茎は下部で分枝し、地をはって広がり、長さ 10~25cm になる。葉は茎の下部で対生、上部で互生、有柄、葉身は卵円形で長さ幅ともに 4~11mm、辺縁には数対の先の鈍い鋸歯がある。花期は 3~4 月、花は茎の上部の葉腋に 1 個ずつつき、長い柄がある。花冠は淡紅白色で紅紫色の条があり、直径 3~4mm で 4 裂する。果実は蒴果で、中央がくびれ、上部両端は丸く、長さ 2.5~3mm、幅 4~5mm である。

分布の概要

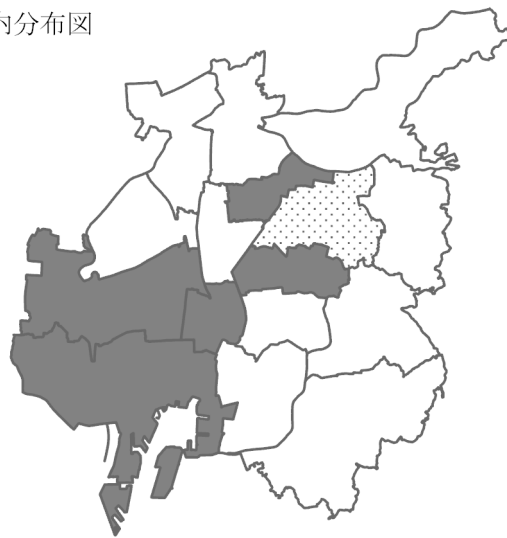
市内：6 東区（白壁、鳥居ちゑ子 2262, 2003-3-28, A）、8 昭和区（鶴舞町、奥村富江 38, 1996-3-20, A）、10 熱田区（熱田神宮、須賀瑛文 10010, 2013-3-25, N）、15 中川区（下之一色町庄内川、芹沢 77250, 2001-5-6, A）、16 港区（大江町、花井隆晃 4515, 2010-3-28, A）に生育している。3 千種区（覚王山、沢井輝男 s.n., 1934-5-13, A）で採集された標本もある。

県内：県 RDB2020 p.690 参照。名古屋市のほか、豊根東部、豊根西部、東栄、稲武、鳳来北東部、鳳来南部、作手、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、安城、高浜碧南、西尾南部、瀬戸尾張旭、常滑、美浜南知多で確認されている。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：東アジアの温帯~暖帯に分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

道端や土手などの草地に生育する。一般的に山間部の集落の石垣などに生育していることが多いと認識されているが、愛知県では主として沿海部に点在し、かなり多量に生育している場所もいくつかある。このような例は、調査が進めば全国各地で確認されるのか、それとも愛知県だけの特殊事情か、現時点ではよくわからない。もちろん、あちこちに見られるとは言っても、オオイヌノフグリやタチイヌノフグリに比べればはるかに少ない植物である。

現在の生育状況／減少の要因

人里に生育している植物なので、土地の造成、石垣の改修など、存続を脅かす要因も多い。東区白壁の自生地は古い住宅地で、2014 年には 10 株ほどが生育していたという。

保全上の留意点

個体レベルの保全に限ればそれほど神経質になる必要はないかもしれないが、本種が生育し続けることができるようなおちついた住宅環境の保全は是非とも必要なことである。

特記事項

植物体はオオイヌノフグリをやや小さくしたような形をしているが、花が小さく、淡紅色である。平野部のものは帰化由来の可能性もあるが、詳細は未検討である。小型の植物であるため、個体数は控え目に見積もっている。

関連文献

保草本 I p.143, 平新版 5 p.84.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) シソ科>

ヤブムラサキ *Callicarpa mollis* Siebold et Zucc.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の低木。高さ 2~3m になる。葉は対生し、長さ 5~7mm の柄があり、葉身は卵形~楕円形、長さ 5~12cm、幅 2~5cm、先端は鋭尖頭、基部は円形~広いくさび形、表面に短毛、裏面に星状軟毛がある。花期は 6~7 月、葉腋から出る小型の集散花序に、少数の花をつける。花冠は長さ 4~5mm、紅紫色、上部は 4 裂して平開し、外面に星状毛がある。果実は秋に熟し、紫色で球形、直径 3~4mm である。

分布の概要

市内: 1 守山区 (上志段味東谷山, 芹沢 84147, 2009-6-9, A; 吉根階子田, 村松 31477, 2020-9-8, N; 小幡緑地, 芹沢 94190, 2018-6-9, A など) に生育している。

県内: 東三河と西三河の山地には普通に見られ、尾張でも丘陵地に点在する。2 (佐久間ダム西, 加藤等次 4146, 1993-10-23)、3 (御園, 芹沢 98137, 2021-6-30)、4 (白鳥山, 石田雄吉 s.n., 1979-7-6)、7 (和市, 芹沢 66205, 1993-6-22)、8 (川合, 芹沢 92711, 2017-7-26)、12 (庭野, 芹沢 98091, 2021-6-26)、13 (萩, 瀧崎 17826, 2000-8-10, T)、15 (嵩山町, 小林 64180, 1998-5-31)、17 (赤羽根町若見, 瀧崎 12047, 1991-5-26)、5 (面ノ木峠, 横井邦子 370, 1993-8-29)、19 (牛地, 塚本威彦 795, 1993-9-5)、20 (井ノ口町, 芹沢 92805, 2017-8-9)、21 (立岩町, 芹沢 95408, 2019-6-17)、22 (大ヶ蔵連, 芹沢 66106, 1993-6-18)、23 (西市野々, 塚本威彦 153, 1992-6-14)、24 (重松町, 畑佐武司 5862, 2003-5-31)、25 (猿投山, 土場トシ子 106, 1992-6-21)、28 (鳥川, 福岡義洋 660, 1990-6-12)、29 (小美町, 伊奈知子 1218, 1993-10-26)、30 (桑谷町, 本多さおり 364, 1994-6-15)、31 (桐山, 金子律子 680, 1995-6-15)、36 (三ヶ根山, 壁谷重美子 504, 1994-6-13)、37a (海上町, 芹沢 101849, 2023-6-14)、44b (山海, 芹沢 61623, 1992-6-12)、45 (善師野, 平嶋 敏 671, 1989-6-14)、48 (外之原町, 太田さち子 1241, 1993-10-31)、57b (立田村木曾川, 芹沢 61198, 1992-5-10) などで確認されている。名古屋市以外の県西部確認区画数は 13 である。

国内: 本州 (宮城県以南)、四国、九州。

世界: 日本および朝鮮半島。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

二次林などの低木層の構成種として生育する。

現在の生育状況／減少の要因

4 カ所に生育しているが、個体数は少ない。ただし小幡緑地では、個体数は最近やや増加している。

保全上の留意点

路傍の林縁に生育している場合もある。このような愛知県全体としてはさほど稀少でない植物が断片的に生育している場合、どの程度保全すべきかは議論が分かれると思われる。

特記事項

「こんな普通種が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。ムラサキシキブに似るが、葉裏に星状毛が密生する。

関連文献

保木本 I p46, 平新版 5 p.104.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) シソ科>

コシロネ *Lycopus cavaleriei* H.Lev.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。湿地性の植物で、名古屋市では減少傾向が著しい。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下茎は横走する。地上茎は高さ 20~60cm、基部から葉を対生する匍枝を伸ばし、ふつう下部で分枝する。葉は菱状狭卵形で長さ 3~6cm、幅 1~2.5cm、先端は鈍頭、基部はくさび形で短い葉柄に流れ、辺縁には荒い鈍鋸歯があり、光沢はなく、無毛である。花期は 8~10 月、花は茎の中部以上の葉腋にかたまってつき、花冠は白色で長さ、径ともに約 3mm である。

分布の概要

市内：2 名東区 (牧野ヶ池緑地、長谷川 1117*, 2024-10-29, N) に生育している。1995 年以降では、3 千種区 (平和公園、鳥居ちゑ子 2034, 2001-9-23, A)、5 緑区 (鳴海町笹塚、渡邊幸子 6189*, 2002-9-29, N; 大高緑地、渡邊幸子 4536, 2000-10-5, N) でも採集されている。1 守山区 (上志段味東谷、鳥居ちゑ子 771, 1994-10-7, A)、4 天白区 (天白町平針黒石、渡邊幸子 1904, 1994-10-9, A) にも生育していた。

県内：2 (佐久間湖、芹沢 102685*, 2023-9-23)、6 (駒が原、瀧崎 21547, 2004-9-5, T)、8 (四谷、加藤等次 3915, 1993-10-5)、11 (岩波、芹沢 57406, 1990-9-28)、13 (三上町、加藤等次 2009, 1992-9-20)、15 (石巻萩平町、芹沢 68581, 1993-10-6)、18 (和地、小林 40306, 1992-11-1)、20 (下国谷、鈴木万里亜 927, 1995-9-9)、22 (築平、塚本威彦 1365, 1994-9-12)、24 (西広瀬町、芹沢 68883, 1993-10-22)、27 (黒笹、白里里華 987*, 1992-10-9)、28

(夏山、福岡義洋 1726, 1990-10-15)、29 (茅原沢町、芹沢 67093, 1993-8-25)、32b (西中町、白井直子 37, 1993-8-5)、33 (村高町矢作川、堀田善久 3496, 1994-8-21)、36 (佐久島、芹沢 82249, 2007-9-13)、37a (上平田川町、村松 31484, 2020-9-11, N)、38b (三本木、村瀬美智子 548*, 1992-10-10)、39b (阿野町、浅野守彦 780, 1999-11-6)、40a (森岡町、芹沢 100882*, 2022-10-1)、40b (石浜、芹沢 70889*, 1994-9-17)、41a (高横須賀町、芹沢 74324*, 1997-9-30)、41b (佐布里、加藤雅憲 1378, 1997-9-26)、42a (草木、渡邊麻子 693, 1995-8-24)、42c (下山ノ田、岡本久美子 870*, 2000-10-11)、43 (大谷、渡邊幸子 706*, 1992-10-8)、44b (豊浜、芹沢 63652*, 1992-9-22)、45 (栗栖木曾川、芹沢 73422*, 1996-10-19)、48 (西尾町、福岡義洋 2841, 1993-9-19)、53 (北方町木曾川、芹沢 70401, 1994-8-24)、54 (東加賀野井、渡邊幸子 5442, 2003-9-16, N)、57b (葛木町、村松 33182, 2022-6-16, N) などで確認されている。17 (蔵王山、恒川敏雄 681, 1952-9-2, T)、25 (猿投山、岡本英一 730, 1958-9-21) で採集された標本もある。*はヒメサルダヒコにあたる型である。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

あまり貧栄養でない湿地に生育する。日当たりのよい場所だけでなく、多少木陰になるような場所にも生育している。

現在の生育状況／減少の要因

名東区では 2024 年には 3 株生育していた。千種区と緑区では最近の状態が確認されていない。個体数階級と集団数階級は推定値である。

保全上の留意点

生育状況を継続的に見守る必要がある。ため池周辺部の個体は水位が上がると消滅する可能性があるため、注意が必要である。

特記事項

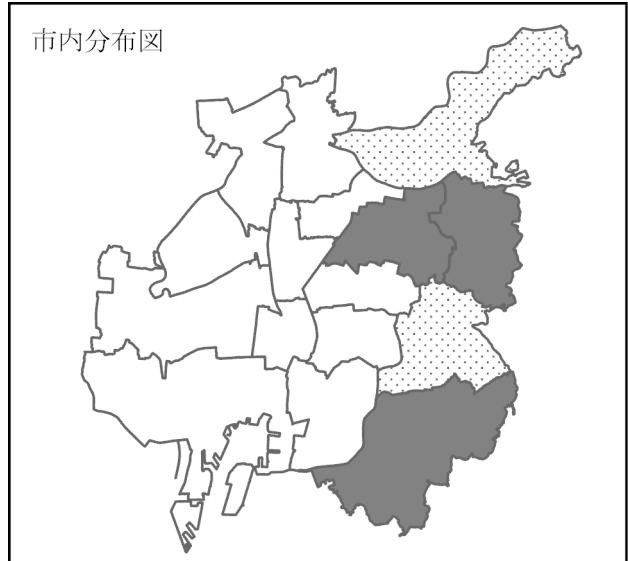
コシロネ (狭義) は茎が直立し、枝分かれが少なく、葉もやや大きい型、ヒメサルダヒコは茎の下部が横に這って多数分枝し、葉はやや小さく、その割に幅が広い型であるが、識別に迷うものも多い。ここでは便宜的に両者を区別せず、一つにまとめて掲載した。

関連文献

保草本 I p.171, 平新版 5 p.134.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

市内分布図



維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) シソ科>

ウツボグサ *Prunella vulgaris* L. subsp. *asiatica* (Nakai) H.Hara**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。草地性の植物で、名古屋市では減少傾向が著しい。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。茎は高さ 15~45cm、曲がった毛が多く、花が終わる頃基部から先に数対の葉を密につけた短い匍枝を出す。葉は数対つき、1~4cm の柄があり、葉身は卵状長楕円形、長さ 2~7.5cm、先端は鈍く、基部はくさび形または円形、辺縁に少数の低い鋸歯がある。花期は 6~8 月、茎頂に長さ 3~8cm の密な花穂をつけ、花冠は長さ 1.5~2cm、紫色である。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷、村松 30487, 2019-6-29, N）、5 緑区（鳴海町鏡田、渡辺幸子 7096, 2017-6-29, N; 鳴海町笹塚、中島ひろみ 468, 2019-6-11, N）に生育している。

県内：2（坂宇場川宇連、芹沢 100457, 2022-7-2）、3（西藺目、山崎玲子 158, 1992-7-12）、4（天狗棚、鈴木 学 1414, 1983-6-26）、6（駒ヶ原、瀧崎 21955, 2005-7-2, T）、7（和市、芹沢 61788, 1992-6-18）、8（鳳来寺山、加藤等次 1418, 1992-6-11）、11（中河内、芹沢 55857, 1990-7-8）、12（富岡、加藤等次 3294, 1993-7-13）、13（豊川市豊川、加藤等次 1461, 1992-6-20）、14（相楽町、芹沢 100330, 2022-6-4）、15（嵩山町、芳山朋子 702, 1984-6-24）、17（笠山、芹沢 52210, 1989-7-1）、5（中当、伊藤昭康 268, 1990-7-5; 小林 45918*, 1993-8-3）、19（市平、日比野修 1372, 1993-6-22）、20（下国谷、鈴木万里亜 613, 1995-6-12）、21（花沢、長谷川朋美 428, 1992-6-16）、22（北篠平、芹沢 66075, 1993-6-18）、23（西市野々、日比野修 404, 1992-6-14）、24（山中町、山田初代 588*, 1991-6-18; 西広瀬町、佐藤久美子 544, 1993-6-27）、25（猿投町、磯貝彰宏 30, 1983-7-13）、28（鳥川、福岡義洋 664, 1990-6-12）、29（駒立町、杉田一記 825, 2010-6-19）、30（桑谷町、本多さおり 360, 1994-6-15）、36（西幡豆、壁谷重美子 529, 1994-6-15）、37a（余床町、村松 417, 1986-6-15）、38a（長湫、伊藤恭子 379, 1992-6-27）、38b（米野木町、岡本沙矢香 341, 2001-6-25）、39b（沓掛町、浅野守彦 476, 1999-6-12）、41b（大興寺、岡本沙矢香 312, 2001-6-16）、42a（草木、渡邊麻子 480, 1995-6-25）、43（矢田、芹沢 76799, 2000-6-16）、44b（大井、大西 博 667, 1992-6-29）、45（善師野、平嶋 敏 616, 1989-6-12）、47（石金、日比野修 4787, 4788**, 1999-5-31）、48（西尾町、太田さち子 149, 1993-6-20）などで確認されている。16（大崎島、恒川敏雄 2270, 1950-6-7, T）で採集された標本もある。*は白花品（シロバナウツボグサ）、**は葉が 3 輪生のものである。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：サハリン、日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、ロシア極東部。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

日当たりのよい草地に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では愛知用水沿いの草地に 20 株程度が生育しているが、他の草が茂って衰退気味らしい。緑区でも愛知用水路沿いの草地に生育しているが、草地の減少に伴い、個体数は以前に比べかなり減少している。

保全上の留意点

定期的な草地の管理が必要である。

関連文献

保草本 I p.181-182, 平新版 5 p.137.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) シソ科>

イヌゴマ *Stachys riederi* Cham. var. *intermedia* (Kudo) Kitam.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。やや低湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。細い地下茎がある。茎は4角形で直立し、高さ40~70cm、下向きの短い刺がある。葉は対生し、長さ2~10mmの短い柄があり、葉身は三角状披針形~楕円状披針形、長さ4~8cm、先端は鈍頭または鋭頭、裏面の中肋にも短い下向きの刺がある。花期は7~8月、茎の先端に長さ3~10cmの穂状の花序をつけ、花冠は淡紅色、長さ12~15mm、下唇は3裂して紅色の細点がある。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷、鳥居ちゑ子 2341*, 2003-7-18, A）、2 名東区（牧野ヶ池緑地、鳥居ちゑ子 2154, 2012-7-23, A）に生育している。13 西区（清里町新川、鳥居ちゑ子 1418, 1998-7-20, A）にも生育していたが、その後確認できない。

県内：多くはないが平野部から山地まで点在しており、2（葦平川、加藤等次 4758, 1994-9-4）、3（下田、小林 47437*, 1993-9-5）、6（東納庫、芹沢 77561, 2001-8-26）、13（財賀寺、小林 75639*, 2002-9-4）、14（相楽町、鈴木美恵子 193*, 1992-8-16）、15（嵩山町、芹沢 69929, 1994-6-24）、16（東七根町、小林 70225*, 2000-8-7）、18（石神、小林 48374, 1993-10-3）、5（河上瀬、日比野修 4571, 1998-7-12）、19（伊熊町、芹沢 87221, 2011-8-7）、21（下山田代町、芹沢 84461, 2009-7-14）、23（深見町、芹沢 84746, 2009-8-23）、28（夏山、福岡義洋 1013, 1990-7-30；樫山、芹沢 70153*, 1994-7-12）、29（日名本町、中村さとし 740, 1993-9-5）、30（高橋町、伊奈紀幸 8-12, 1992-7-29）、31（永野、金子律子 928, 1995-7-31）、32b（西中町、白井直子 34, 1993-7-13）、33（西別所町、堀田善久 1769, 1992-7-12）、35（鶴ヶ池町、芹沢 104555, 2024-10-14）、36（西幡豆、壁谷重美子 842, 1994-8-12）、37a（曾野町、塚本威彦 2794, 1999-7-14；鳥原町、日比野修 5201*, 2000-9-4）、37b（旭ヶ丘町、村松 236*, 1981-9-23）、38a（長湫、半田多美子 471*, 1992-8-20）、38b（米野木、伊藤恭子 633, 1992-9-25）、45（池野、松田ちか子 429, 1986-7-1；塔野地、芹沢 70927*, 1994-9-20）、48（廻間町、山田果与乃 483*, 1999-6-26）、49a（北島町、芹沢 70736, 1994-9-6）、49c（西春町五条川、鈴木幸子 285, 1992-10-16）、49d（新川町五条川、芹沢 77907, 2002-7-21）、54（東五城、渡邊幸子 2265, 1995-7-11）、55（稲島町、家田晴俊 191, 1993-8-23）、56a（甚目寺町八尻、芹沢 99253, 2021-9-20）、56b（八ツ屋、芹沢 64098, 1992-10-7）、57b（八開村長良川、芹沢 74717, 1998-7-4）などで確認されている。*は茎に開出する剛毛があるエゾイヌゴマの型である。2（古真立、加藤等次 s.n.*, 1967-9-24）、17（仁崎、恒川敏雄 1630, 1952-9-3, T）、でも採集されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

湿った草地や林縁に生育する。平野部では河川敷などの低湿地に生育することが多い。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では、上志段味のゴルフ場に接する林縁にやや大きな群落があるという。草刈りには耐えて存続しているようだが、除草剤散布等によって失われるおそれがある。名東区では、ため池の岸に小群落があるが、この場所は池の水の富栄養化により大型の草本が繁茂し、圧迫されて消滅するおそれがある。西区では新地蔵川の河川敷にやや大きな群落があったらしいが、東海豪雨以後確認できない。

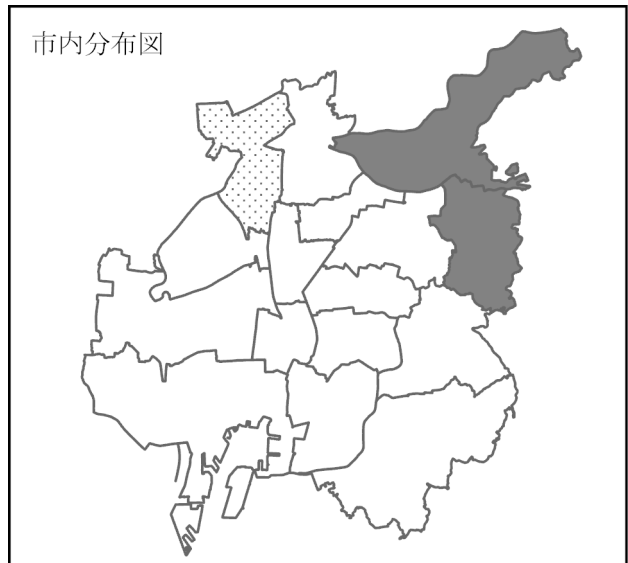
保全上の留意点

ため池の周辺や河川敷に残存する低湿地的環境を保全することが必要である。

関連文献

保草本 I p.174, 平新版 5 p.123.

市内分布図



(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) ハマウツボ科>

ナンバンギセル *Aeginetia indica* L.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。草地性の寄生植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

1年生の寄生植物。茎は黄褐色でごく短く、ほとんど地上に出ず、鱗片状の葉を数枚つける。花期は8~9月、長さ15~30cmの花柄を数本束生し、その先端に1個の花を横向きにつける。がくは舟形、長さ1.5~3cm、先端はやや嘴状に尖り、淡黄褐色で紅紫色の条がある。花冠は紅紫色、長さ3~5cm、先端は浅く5裂し、裂片は全縁である。

分布の概要

市内：1 守山区（城土町、渡邊幸子 5467, 2003-9-26, N）、2 名東区（猪高緑地、鳥居ちる子 2029, 2001-9-17, A）に生育している。4 天白区（土原一丁目、中島ひろみ 211, 1992-9-18, A）にも生育していた。

県内：丘陵地に点在するが、三河山地では少なく、平野部でも少ない。8（鳳来寺山、加藤等次 241, 1991-9-3）、12（八束穂、芹沢 90559, 2015-9-5）、13（御油町、天野保幸 s.n., 2011-9-6）、14 西浦町、鈴木美恵子 565, 1993-10-3）、15（石巻萩原町、芹沢 68842, 1993-10-20）、17（赤羽根町高松北、小林 47118, 1993-8-28）、18 伊良湖岬、芹沢 73279, 1996-9-28）、20（大河原、塚本威彦 2169, 1996-10-5）、21（羽布、芹沢 67965, 1993-9-24）、24（中金町、佐藤久美子 1380, 1993-10-12）、28（檜山、福岡義洋 1718, 1990-10-15）、30（藤川町、本多さおり 822, 1994-9-15）、32a（野田町、白井直子 46, 1993-9-27）、36（佐久島、中根幸司 1608, 2007-9-13）、37a（東山路町、日比野修 1821, 1993-10-4）、38a（長湫、半田多美子 601, 1992-9-6）、39a（白鳥、濱嶋育子 747, 1996-10-9）、41b（佐布里、村松 28820, 2017-9-27, N）、42a（草木、渡邊麻子 902, 1995-10-3）、42b（行人町、岡本久美子 853, 2000-10-11）、43（常滑運内、芹沢 95751, 2019-9-10）、44a（奥田、芹沢 77610, 2001-9-13）、44b（豊浜、芹沢 63657, 1992-9-22）、篠島、芹沢 83788*, 2008-11-1）、47（大草、村瀬正成 930560, 1993-9-3）、48（高森台、秋山葉子 108, 1993-8-25）、54（奥町木曾川、鈴木秀樹 3517, 1996-9-26）などで確認されている。*は花が淡色のものである。

国内：北海道、本州、四国、九州、琉球。

世界：日本から東南アジア、インドにかけて分布する。

生育地の環境／生態的特性

丘陵地の草地に生育し、ススキなどに寄生する。稀な植物というわけではないが、ススキ草地ならどこにでもあるというわけでもない。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市内でもまだ何カ所かに生育しているが、適度に草刈りが行われるススキ草地の減少に伴い、見る機会が少なくなっている。名東区猪高緑地ではコンゴウダケに寄生しており、多い年には30~50本開花するが、不注意な公園整備があれば容易に消滅してしまう。

保全上の留意点

里草地の保全が必要である。経済的な必然性がなくなった現在では困難な課題であるが、緑地公園などの中に、小規模でも定期的に草刈りを行う場所を確保していくべきである。

特記事項

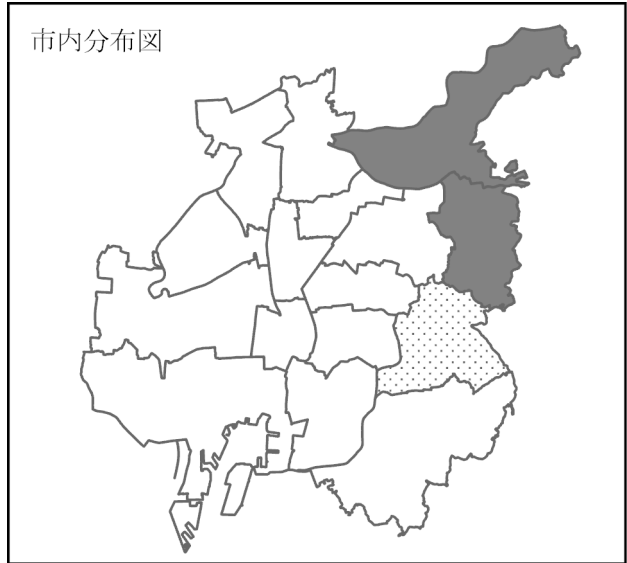
オモイグサ（思草）とも呼ばれる。万葉集にはこの名で出てくる。

関連文献

保草本 I p.125, 平新版 5 p.150.

（芹沢俊介）

市内分布図



維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）タヌキモ科>

イヌタヌキモ *Utricularia australis* R. Br.

評価理由

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。水生の食虫植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	国リスト
全 国 2025	準絶滅危惧

形態

浮遊性の多年生水草。茎は長さ 1m に達するが、細く、切れやすい。葉は互生し、長さ 1.5～4.5cm、基部で 2 本の枝に分かれ、更に何回か二叉状に分枝し、通常多数の捕虫囊をつけるが、ほとんどつけないこともある。花期は 7～9 月、花茎は長さ 10～30cm で、水面から出て直立し、しばしば茎より太く、中実、先端に数個の花をつける。花柄は長さ 0.5～3cm で、花後下向きに曲がる。花弁は黄色で、直径 1.2～1.5cm、距は下唇より短い。殖芽は夏～秋に茎や側枝の先端につき、長楕円形、長さ 4～10mm、暗褐色である。

分布の概要

市内：2 名東区（牧野池、中村 肇 1070, 2015-10-31, N; 猪高緑地、村松 28826, 2017-10-1, N など）、4 天白区（久方戸笠池、村松 28980, 2017-10-14, N）、5 緑区（鳴海町螺貝戸笠池、芹沢 88607, 2013-7-20, N, 実質的に上と同所）に生育している。緑区の他の場所（徳重、浜島繁隆 s.n., 1968-7-30, A; 鳴海町滝ノ水、浜島繁隆 1074, 1968-10-10, A）で採集された標本もある。

県内：県 RDB2020 p.696 参照。愛知県では比較的多い植物で、名古屋市のほか、津具、鳳来北東部、作手、新城、豊川、豊橋南部、足助、下山、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、春日井で確認されている。豊根、設楽西部、豊橋北部、あま大治で採集された標本もある。

国内：北海道、本州、四国、九州、沖縄。

世界：アジア、アフリカ、オーストラリア、ヨーロッパ。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

貧栄養～腐植栄養の湖沼やため池、水田やその側溝などに生育する。時に池一面に生育していることもある。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市でも以前は多くのため池で生育していたものが、改修や埋立て、水質汚濁などにより減少し、現在の状態に追い込まれたと思われる。現存する場所は保全緑地内にあり、当面開発されるおそれは少なく、個体数も比較的多いが、長期的には水質の汚濁により消滅する危険性もある。

保全上の留意点

生育地のため池の水質を維持するとともに、改修の際には慎重な配慮が必要である。観賞用に販売されたタヌキモ類が逸出して野外で繁茂していることもあるので、確実な標本資料を残していく必要がある。

特記事項

環境庁のレッドデータブックでは、タヌキモ *U. vulgaris* L. var. *japonica* (Makino) Tamura に含めて扱われている。タヌキモはイヌタヌキモに比べ花茎が中空、殖芽は大きくほぼ球形で暗緑色であることで区別される（角野、1994）が、殖芽のない材料では識別が困難であるという。愛知県産の標本は、角野氏に見てもらったところ、すべてイヌタヌキモとのことであった。

関連文献

保草 I p.123, 平新版 5 p.166.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.149. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.286. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) タヌキモ科>

ミミカキグサ *Utricularia bifida* L.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。湧水湿地に生育する食虫植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

形態

小型の食虫性の多年生草本。地下茎は細い糸状で、まばらに捕虫囊をつける。葉は線形、長さは柄を除いて 3~18mm である。花期は通常 8~10 月、花茎は直立し、高さ 5~15cm、上部に 2~7 個の花をつける。花には長さ 1~3mm の柄があり、花冠は黄色、長さは距を除いて 3.5~6mm、距は長さ 2~5mm で斜め後方に伸び、多少下方に曲がる。がくは花時に長さ 3mm、花後には 4~5mm に伸長して二枚貝状の宿存がくとなり、さく果を包む。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷，鳥居ちゑ子 498, 1993-9-6, A; 小幡緑地，芹沢 56207, 1990-8-8, A）、2 名東区（猪高町上社，芹沢 57792, 1990-10-17, A）、4 天白区（海老山町，中島ひろみ 813, 2002-8-5, A など）、5 緑区（鳴海町水底下，伊藤昭康 557, 1990-9-25, A）などで採集された標本がある。

県内：丘陵地に広く分布しており、低山地にも見られるが、平野部には生育していない。6（川向，芹沢 52601, 1989-8-11）、11（清岳，伊藤昭泰 439, 1990-8-24）、12（中宇利，芹沢 57385, 1990-9-28）、13（大木，芹沢 56108, 1990-7-31）、15（岩崎町，芹沢 55658, 1990-6-21）、16（野依町，伊藤昭泰 415, 1990-8-9）、17（赤羽根町若美，芹沢 56693, 1990-8-28）、18（伊川津，芹沢 59777, 1991-8-18）、19（八幡牧場，芹沢 57556, 1990-10-2）、21（羽布，芹沢 67963, 1993-9-24）、22（李，伊藤泰輔 258, 1993-9-15）、23（深見，日比野修 796, 1992-9-9）、24（山中町，芹沢 56056, 1990-7-26）、25（白山町，芹沢 60905, 1991-10-28）、27（蒔生，臼井里華 583, 1992-7-13）、29（小呂町，芹沢 57444, 1990-9-28）、30（竜泉寺町，本多さおり 561, 1994-8-1）、31（須美，芹沢 53256, 1989-9-10）、32a（井ヶ谷町，奥岡啓子 291, 1987-9-16）、37a（曾野町，芹沢 56815, 1990-9-1）、37b（平子町東，村松 21915, 2003-9-7, N）、38a（前熊，半田多美子 611, 1992-9-6）、38b（岩藤新田，伊藤恭子 399, 1992-7-3）、39b（沓掛町，芹沢 59856, 1991-8-23）、42a（板山，渡邊麻子 663, 1995-8-5）、42b（行人町，岡本久美子 612, 2000-8-3）、42c（北山，相羽福松 744, 1980-8-8）、43（久米，林 彰一 600, 1990-8-27）、44a（布土，林 彰一 622, 1990-8-27）、45（善師野，芹沢 57019, 1990-9-12）、48（大泉寺町，芹沢 75102, 1998-9-30）などで確認されている。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：日本からインド、オーストラリアにかけて広く分布する。

生育地の環境／生態的特性

湧水湿地や溜池の縁の裸地状の場所に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

湧水湿地の植物は近年調査を控えているが、本種はまだある程度残存していると思われ、そのため個体数階級と集団数階級は 1994 年以前に確認された場所を含めて判断したが、新しい情報はほとんどない。丘陵地の開発によって減少していることは確実である。ため池の岸などに生育しているものは、水質が汚濁すれば生育できなくなる。観察者やカメラマンによる踏み荒らしも無視できない。

保全上の留意点

名古屋市東部を含む愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、優先して保全すべき場所である。詳しくはモウセンゴケの項(344 頁)を参照されたい。

特記事項

極めて小型の植物であるため、個体数は控え目に見積もってある。新しい標本が得られていないので、情報蓄積も必要である。

関連文献

保草本 I p.121-122, 平新版 5 p.165.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) タヌキモ科>

ホザキノミミカキグサ *Utricularia caerulea* L.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。湧水湿地性の食虫植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

小型の食虫性の多年生草本。地下茎は細い糸状で、地中を横にはう。葉はへら形～長楕円形、長さは柄を除いて 3～6mm である。花期は通常 8～10 月、花茎は直立し、小型のものは高さ 3～5cm にすぎないが大型のものは高さ 35cm 以上になり、上部に 1～13 個の花をつける。花はほとんど無柄、花冠は淡紫色、長さは距を除いて 4～5mm、距は長さ 3～6mm で前方に伸びる。がくは花時に長さ 2mm 前後、花後もそれほど大きくならない。

分布の概要

市内: 1 守山区(下志段味滝の水池, 村松 30870, 2019-10-10, N)、4 天白区(天白町八事, 長谷川 430, 2022-8-16, N; 海老山町, 中島ひろみ 814, 2002-8-5, A など) 5 緑区(鳴海町水広下池, 渡邊幸子 5136, 1996-10-28, A) に生育している。2 名東区(猪高町上社, 芹沢 57793, 1990-10-17, A)、3 千種区(覚王山, 沢井輝男 s.n., 1932-8-6, A) で採集された標本もある。

県内: 丘陵地～低山地に広く分布しているが、平野部には生育していない。6 (川向, 伊藤昭康 511, 1990-9-13)、9 (黄柳野, 斉藤道也 s.n., 1989-9-1)、11 (岩波, 伊藤昭康 438, 1990-8-24)、12 (中宇利, 芹沢 57386, 1990-9-28)、13 (大木, 芹沢 53584, 1989-9-27)、15 (岩崎町, 伊藤昭康 412, 1990-8-9)、16 (野依町, 芹沢 57639, 1990-10-9)、17 (赤羽根町若見, 伊藤昭康 456, 1990-8-28)、18 (伊川津, 芹沢 59778, 1991-8-18)、19 (八幡牧場, 芹沢 57557, 1990-10-2)、21 (羽布, 芹沢 67964, 1993-9-24)、22 (万作, 日比野修 2688, 1994-10-23)、23 (深見, 日比野修 797, 1992-9-9; 昭和の森, 山崎玲子 1691*, 1998-7-11)、24 (西広瀬町, 芹沢 67173, 1993-8-27)、25 (白山町, 芹沢 60906, 1991-10-28; 太平町, 畑佐武司 92*, 1995-8-18)、27 (蒔生, 臼井里華 638, 1992-7-31)、29 (大柳町, 芹沢 86117, 2010-8-22)、30 (龍泉寺町, 芹沢 60833, 1991-10-13)、31 (須美, 芹沢 53257, 1989-9-10)、37a (東山路町, 日比野修 31, 1991-11-1)、37b (平子町東, 村松 21914, 2003-9-7, N)、38a (岩作, 芹沢 76304, 1999-9-10)、38b (岩藤町, 芹沢 90702, 2015-10-3)、39b (沓掛町, 浅野守彦 1765, 2003-9-14, N)、42a (板山, 渡邊麻子 664, 1995-8-5)、42b (行人町, 芹沢 76154, 1999-8-21)、42c (富貴, 林 彰一 544, 1990-8-16)、43 (矢田池南, 芹沢 76909, 2000-8-30)、44a (布土, 林 彰一 558, 1990-8-16)、45 (池野, 伊藤昭康 502, 1990-9-12)、48 (玉野町, 福岡義洋 2878, 1993-10-10) などで確認されている。*は白花品(シロバナホザキノミミカキグサ)である。

国内: 北海道、本州、四国、九州、琉球。

世界: 日本から中国大陸、インドにかけて分布する。

生育地の環境／生態的特性

湧水湿地やため池の縁の裸地状の場所に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

本種も近年の調査を控えているが、丘陵地の開発によって減少していることは確実である。現存する自生地のうちいくつかも、開発により失われるおそれがある。ため池の岸などに生育しているものは、水質が汚濁すれば生育できなくなる。観察者やカメラマンによる踏み荒らしも無視できない。

保全上の留意点

前種(ミミカキグサ)と同様である。

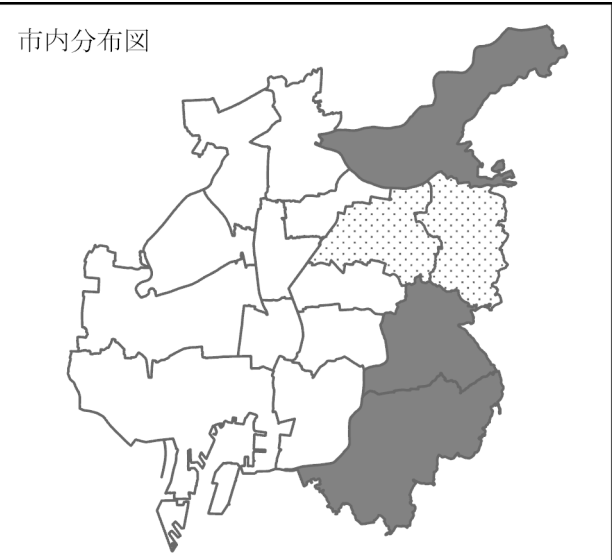
特記事項

小型の植物であるため、個体数は控え目に見積もってある。

関連文献

保草本 I p.121, 平新版 5 p.164.

(芹沢俊介)



維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) キク科>

カワラニンジン *Artemisia carvifolia* Buch.-Ham.**評価理由**

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 2、総点 11。河川敷の低湿地に生育する植物で、名古屋市では生育できる環境が限られている。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

1年生または越年生の草本。茎は直立し、通常下部では分枝せず、高さ 60～150cm になる。根出葉は花時には枯れる。茎葉は互生し、柄はほとんどなく、葉身は 2 回羽状～一部 3 回羽状に細く深く深裂し、長さ 5～10cm、裂片は幅 1～2mm、鋭頭、両面無毛である。花期は 8～9 月、茎の上半部に多数の頭花が総状につき、全体として円錐花序となる。頭花は緑黄色で下向きにつき、総苞は球形で幅 5～6mm、そう果は長さ約 1mm である。

分布の概要

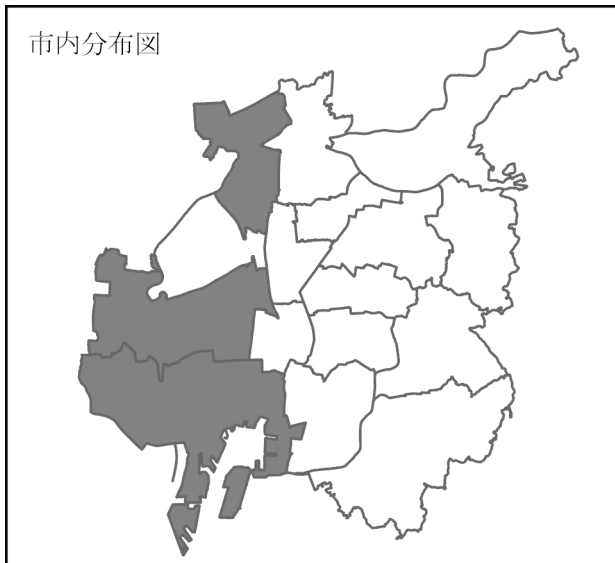
市内: 13 西区(日比津町庄内川, 鈴木秀樹 3553, 1996-9-28, A)、15 中川区(下之一色町, 渡邊幸子 4852, 2001-9-8, A)、16 港区(当知町庄内川, 芹沢 77566, 2001-9-8, A) に生育している。

県内: 庄内川と木曽川の河川敷に多いが、他の場所でも稀に生育している。13 (小坂井, 小林 57920, 1995-8-27)、49d (西枇杷島町庄内川, 鈴木秀樹 3113, 1996-8-22)、55 (祖父江町木曽川, 渡邊幸子 2809, 1996-9-24)、57b (塩田町, 村松 33650, 2022-9-14, N)、58b (木曽川, 芹沢 63451, 1992-9-15) など確認されている。16 (吉川町, 恒川敏雄 s.n., 日付不明, T) で採集された標本もある。

国内: 本州、四国、九州。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

河川敷低湿地のやや攪乱された場所に多く見られる。河川敷以外の荒地などに偶発的に生育することもある。

現在の生育状況／減少の要因

庄内川下流部の河川敷に点在している。場所によっては個体数が多く、生育状態も良好である。

保全上の留意点

多少の攪乱には絶えることができる植物なので、状況によってはかえって増加する可能性もある。個体レベルでの保全に限れば現状ではそれほど神経質になる必要はないが、河川改修に際して河川敷に低湿地状の場所を残すことが重要である。

特記事項

もともとは中国大陸から薬用植物として輸入され、逸出帰化したものという説もある。和名は、葉がニンジンのように細かく切れ込んでいるからである。

関連文献

保草本 I p.53, 平新版 5 p.330.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) キク科>

キセルアザミ *Cirsium sieboldii* Miq.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 11。湿地性の植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。根出葉は多数あって花時にも残存し、翼のある柄があり、長さ 17~50cm、細鋸歯があるだけのものから羽状に深裂するものまであり、両面無毛、辺縁に刺針がある。茎は高さ 60~110cm になり、少数の小型の葉を互生する。花期は 9~10 月、頭花は茎の先端に點頭してつき、直径 2.5~5cm、総苞は幅 2~3cm、総苞片は覆瓦状に並び、開出しない。花冠は紅紫色で、長さ 17~19mm である。

分布の概要

市内：1 守山区（中志段味寺林、鳥居ちゑ子 1140, 1996-9-7, A）、2 名東区（猪高緑地、芹沢 78211, 2002-10-4, A）、4 天白区（平針黒石、芹沢 103154, 2023-10-16, A）に生育している。5 緑区（黒石、浜島繁隆 s.n., 1969-10-10, A）で採集された標本もある。

県内：東三河と西三河の山地に点在するが、尾張では少ない。6（駒ヶ原、瀧崎 21554, 2004-9-5, T）、7（田口、小林 67164, 1999-9-19）、9（巢山、芹沢 49872, 1988-8-24）、10（海老須山、小林 54951, 1994-11-3）、11（岩波、芹沢 57412, 1990-9-28）、12（野田、芹沢 68604, 1993-10-6）、13（音羽町長沢、瀧崎 18039*, 2000-9-18）、15（岩崎町、芹沢 57908*, 1990-10-23）、17（クルミ池、小林 48408*, 1993-10-3）、18（土田、小林 49509*, 1993-11-3）、5（水別、日比野修 4101, 1997-8-16）、19（八幡牧場、芹沢 57560, 1990-10-2）、20（追分、新井文子 1149, 1994-10-14）、21（花沢、芹沢 64453, 1992-10-26）、22（田代、伊藤泰輔 75, 1992-9-15）、23（三箇、日比野修 1720, 1993-8-28）、24（山中町、芹沢 60501, 1991-9-29）、25（篠原町、芹沢 50808, 1988-10-14）、28（水別、小林 53435, 1994-9-3）、29（小呂町、杉田一記 1571, 2010-10-7）、30（竜泉寺町、本多さおり 833, 1994-9-22）、31（深溝、金子律子 1231, 1995-9-22）、36（西幡豆、壁谷重美子 891, 1994-8-31）、37a（海上町、芹沢 75176, 1998-10-8）、37b（旭ヶ丘町、村松 21006, 2001-10-27, N）、38b（岩崎、村瀬美智子 566, 1992-10-19）などで確認されている。*は頭花があまり點頭しない（つまりキセルにならない）型である。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本固有種。

生育地の環境／生態的特性

山地や丘陵地の湿地に生育する。愛知県の丘陵地では、湧水湿地下部の泥質の場所に生育していることが多い。

現在の生育状況／減少の要因

何カ所かに生育しているが、どの場所でも個体数は少ない。丘陵地の開発によって減少し、現在の状態になったものと思われる。緑区では生育地が宅地造成のため破壊された。

保全上の留意点

多少は耐陰性があり、林内の湿地にも生育していることがあるが、それでも過度の被陰には耐えることができない。湿地周辺の樹木を伐採し、開けた湿地を維持することが必要である。

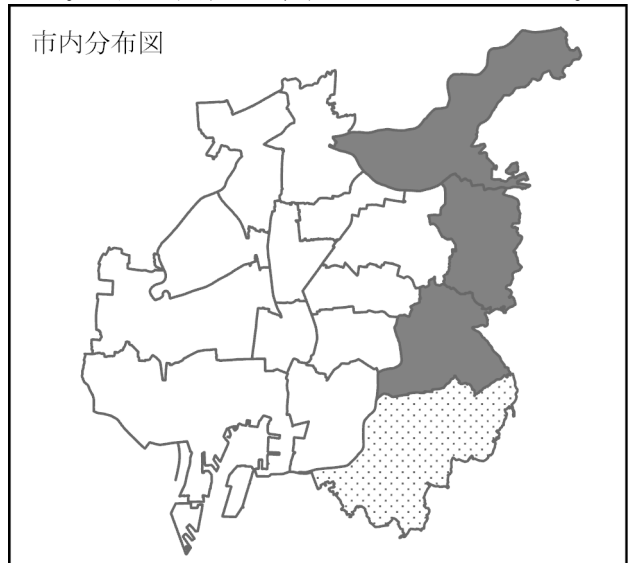
特記事項

サワアザミとも呼ばれるが、他に同名の植物がある。茎に綿毛が多いものをツクデマアザミというが、はっきり区別できるものではない。

関連文献

保草本 I p.33, 平新版 5 p.230.

市内分布図



(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II群 (単子葉類) サトイモ科>

ムサシアブミ *Arisaema ringens* (Thunb.) Schott**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 4、総点 17。現状をそのまま評価すれば絶滅危惧 IA 類になるが、逸出の可能性もあり、更に情報の蓄積が必要である。

評価区分

名古屋市 2025	情報不足
愛知県 2025	情報不足
全国 2025	—

形態

多年生草本。地下茎は扁球形、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 2 個、第 1 葉の葉柄は長さ 25~40cm で、下方の 10~15cm は偽茎となる。葉身は無柄の 3 小葉からなり、頂小葉は菱状楕円形、花時には長さ 10-20cm、幅 5~9cm だが花後より大きくなり、先端は細く長く伸び、辺縁は全縁、表面は深緑色で光沢があり、裏面は白色を帯びる。第 2 葉は第 1 葉と同大、またはやや小さい。花期は 3-4 月、仏炎苞は葉と同時に開き、葉より低い位置につき、筒部は長さ 4~6cm、口辺は広く開出、舷部は中央部が前方に著しく膨らみ、内面は暗紫色、外面は白条が目立つ。花序は肉穂状、偽雌雄異株、花序付属体は長さ 4~6cm、棒状で前屈する。

分布の概要

市内：2 名東区（藤巻町、長谷川 25, 2017-4-11, N）に生育している。

県内：名古屋市のほか、37a（定光寺町、芹沢 104372, 2024-9-18）で確認されている。

国内：本州西部、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

やや湿った林床に生育する。四国以南では海岸林の林内に多く見られる。

現在の生育状況／減少の原因

湧水のある斜面下部に 10~20 株が生育している。現地は人家の近くで、人の管理がある程度行われている場所である。

保全上の留意点

自生ならば、生育地の林を保全する必要がある。

特記事項

本種は、形態が特異でしばしば栽培されること、逸出しやすい植物で生育地の近くに東山植物園があることなどから、2024 年の仮リストでは評価対象外と判断した。しかし 2024 年秋になって瀬戸市でも発見され、もともと人里近くの藪山にも生育している種であることから、名古屋市のものも含めて自生の可能性が出てきた。しかしさらに確認が必要なので、今回は情報不足と判定する。邑田ほか(2018)は、本種の分布域を愛知県、福井県以西としている。

引用文献

邑田 仁・大野順一・小林禎樹・東馬哲雄. 2018. 日本産テンナンショウ属図鑑. 361pp. 北隆館, 東京.

関連文献

保草本Ⅲp.200, 平新版 1 p.97.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) サトイモ科>

オオハンゲ *Pinellia tripartita* (Blume) Schott**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級階級 3、総点 14。現状をそのまま評価すれば絶滅危惧 IB 類になるが、逸出の可能性もあり、更に情報の蓄積が必要である。

評価区分

名古屋市 2025	情報不足
愛知県 2025	情報不足
全国 2025	—

形態

多年生草本。球茎は直径 2～3.5cm になる。葉は 1～3 枚、葉柄は長さ 18～40cm で、むかごはつけない。葉身は 3 深裂し、中央裂片は楕円形、長さ 10～20cm、幅 6～10cm、全縁、先端は鋭尖頭になる。花期は長く 5～9 月、花序柄は長さ 20～35cm、仏焰苞は葉とほぼ同高で、愛知県のは緑色だが淡紫色のこともあり、筒部は長さ 3.5～5cm、舷部は長楕円形で長さ 3～4cm、花序付属体は苞の外に伸びて立ち、長さ 15～20cm である。

分布の概要

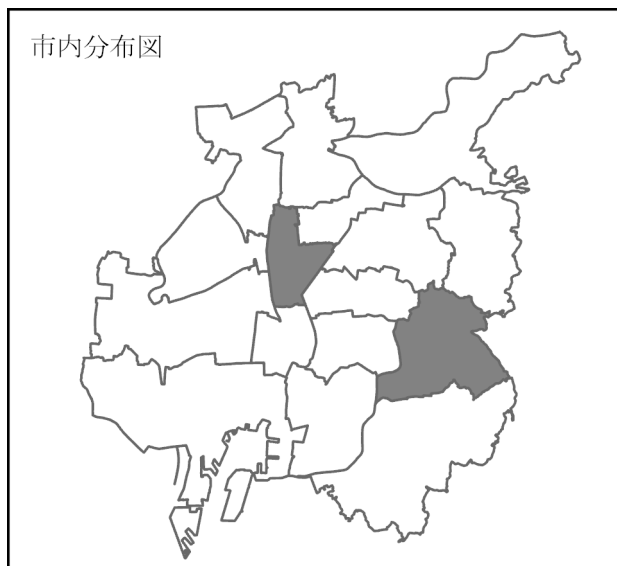
市内：4 天白区 (相生山緑地、芹沢 95193, 2019-5-18, A)、7 中区 (橘、高木順夫 21449, 2012-10-13, A) に生育している。

県内：名古屋市のほか、10 (黄柳野、中西普佐子 4548, 2018-6-19)、12 (吉川、芹沢 95264, 2019-6-1)、35 (平原町、芹沢 103722, 2024-5-11)、37a (定光寺、塚本威彦 196, 1992-7-6)、37b (桜ヶ丘町西、村松 31164, 2019-11-5, N) で確認されている。

国内：本州 (中部以西)、四国、九州、琉球。

世界：日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地の林内に生育する。ただし愛知県の生育地は、丘陵地二次林の林内や林縁、または低山地の沢沿いの造林地内 (新城) である。

現在の生育状況／減少の要因

天白区では保全緑地の林縁に生育しているが、個体数は少ない。しかし、特に減少しているようには見えない。中区の状況は不明である。

保全上の留意点

自生ならば、生育地の林を保全する必要がある。

特記事項

本種は愛知県内では最初瀬戸市定光寺境内で発見されたもので、その後名古屋市や新城市でも確認されたが、隣接する三重県ではそれなりに自然度の高い場所に生育しているのに対し愛知県では生育地が都市公園であったり、山地でも林道わきで伐採枝を捨てられそうな場所であったりするため、2024 年の仮リストでは移入と判断し評価の対象から除外した。しかし 2024 年春に西尾市でも確認され、ここも道路わきではあったが、自生の可能性もあるという判断に傾きつつある。しかしさらに確認が必要なので、今回は情報不足と判定する。

関連文献

保草本Ⅲp.196, 平新版 1 p.109.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 I 群 (原始被子植物) クスノキ科>

ニッケイ *Cinnamomum sieboldii* Meisn.

除外理由

名古屋市を含む愛知県のもの全ては逸出で、評価の対象にならない。

評価区分

名古屋市 2025	国リスト
愛知県 2025	国リスト
全 国 2025	準絶滅危惧

形態

常緑性の高木。高さ 15m、直径 60~100cm に達する。葉は対生または 2 枚がややずれてつき、長さ 8~15mm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 8~15cm、幅 2.5~5cm、先端は長くとがり、基部も狭いくさび形、全縁、葉質は革質で、裏面は粉白色、基部よりやや上で分岐した 3 脈が目立つ。花期は 5~6 月、花序は葉腋から出て葉より短く、散形でよく分枝する。花は淡黄緑色、花被は 6 裂し、裂片は細長く、長さ約 5mm である。果実は楕円形で長さ約 10mm、黒紫色に熟す。

分布の概要

市内: 4 天白区 (八事裏山, 渡邊幸子 2593, 1996-4-25; 天白町相生山, 芹沢 94976, 2018-10-20, A)、8 昭和区 (八事興正寺, 中島ひろみ 362, 2019-4-8, N) で採集された標本がある。

県内: 県 RDB2020 p.671 参照。名古屋市のほか、鳳来北東部、鳳来北西部、新城、豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、豊田南西部、岡崎南部、西尾北部、西尾南部、東海知多、美浜南知多、春日井、津島愛西などで確認されているが、多いものではない。

国内: 琉球 (沖縄島北部、久米島、徳之島) に生育する。栽培起源のものが本州の暖地、四国、九州に逸出している。

世界: 日本および中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

自生地では、山地の照葉樹林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

天白区では相生山緑地、天白町八事などに幼木が散在しているが、大きい木は見えていない。市内では増加傾向にあるので、注意して探索すれば、他の区でも確認できると思われる。

保全上の留意点

本種については、本来の自生ではなく、特に配慮する必要はない。

特記事項

根の皮から肉桂をとるため栽培される。

関連文献

保木本 II p.201-202, 平新版 1 p.80.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) トチカガミ科>

ムサシモ *Najas ancistocarpa* A.Br. ex Magnus**除外理由**

環境省および愛知県のレッドリストに掲載されている種類であるが、名古屋市では新しく造成された水田に生育していて造成時に使用された土に混入して移入された可能性が高いため、今回は評価の対象から除外しておく。

評価区分

名古屋市 2025	国・県リスト
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全国 2025	絶滅危惧 IB 類

形態

沈水性の 1 年生草本。茎は細く、よく分枝し、折れやすい。葉は多少なりとも反り返り、細く線形、長さ 1~2cm、辺縁には細かい鋸歯がある。葉の基部は長さ約 1.5mm の葉鞘となり、葉鞘の先端は円くて小刺がある。花期は 7~9 月、雌雄同株で、花は葉腋につく。果実は 1 個の種子があり、種子は長さ約 2.5mm、三日月形に湾曲し、表面にはやや縦に長い不明瞭な網目がある。

分布の概要

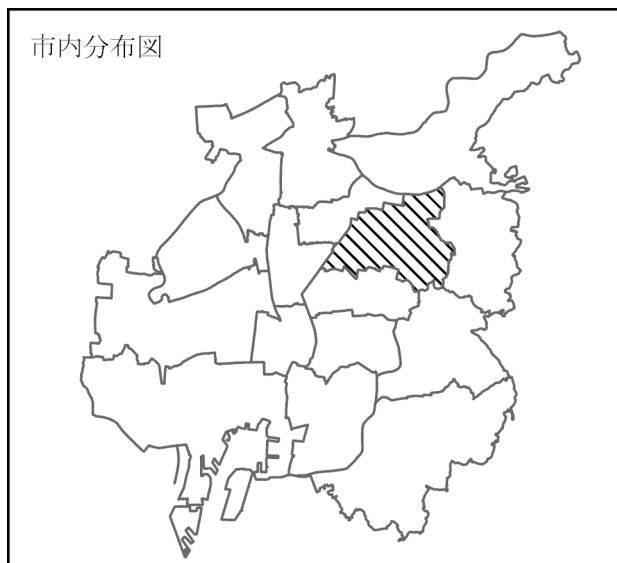
市内: 3 千種区 (田代町, 滝川正子 1, 2014-9-29, N) で採集された標本がある。

県内: 県 RDB2020 p.232 参照。自生と思われるものは、豊橋北部、田原西部、常滑の 3 区画で確認されている。移入と思われる集団は、名古屋市のほか東浦にもある。

国内: 本州 (関東地方以西) および四国。

世界: 日本および台湾。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

通常は平野部や浅い丘陵地のため池に生育する。名古屋市の生育地は新しく造成された水田である (小菅・寺本 2017)。

現在の生育状況／減少の要因

量的な記述はない。

保全上の留意点

本来の自生ではないと思われるが、意図的な移入でないことは明らかである。愛知県全体でも稀少な植物なので、この場所のものも保全しておく方がよい。

特記事項

茎葉はイトトリゲモに似ているが、やや小型である。種子があれば著しく湾曲しているため、識別は容易である。なお、小菅・寺本 (2017) では本種のほかにトリゲモが報告されているが、なごや多様性センターに収蔵されている標本は状態が悪く、同定を確認できなかった。

引用文献

小菅崇之・寺本匡寛. 2017. 東山の水田における雑草調査. 平成 28 年度活動報告書資料編 (水辺の生き物部会) 56-60. なごや生物多様性保全協議会, 名古屋.

関連文献

保草本Ⅲ p.409, 平新版 1 p.122.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.56. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.101. 文一総合出版, 東京.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ラン科>

シラン *Bletilla striata* (Thunb.) Reichb.

除外理由

名古屋市に生育しているものはすべて栽培品の逸出と思われ、評価の対象外である。

評価区分

名古屋市 2025	国・県リスト
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	準絶滅危惧

形態

多年生草本。茎は高さ 30~70cm になり、基部はふくらんで扁平で直径 2~4cm の偽球茎となり、数年分が残存して横に並ぶ。葉は茎の基部に数個つき、披針形、長さ 20~30cm、幅 2~5cm、先端は鋭尖頭、下部は次第に細まり、基部は葉鞘となり、辺縁は全縁、硬い草質、無毛である。花期は 4~5 月、花はやや大型で茎の先端に 3~7 個つき、紅紫色、苞は長楕円状披針形で開花時に脱落する。がく片と側花弁は長楕円形、長さ 2.5~3cm、幅 6~8mm、やや鋭頭である。唇弁はくさび状倒卵形、先端は浅く 3 裂し、中裂片は円形で辺縁は波状、内面に 5 個の隆起線がある。果実はさく果で長楕円形、長さ 3~3.5cm である。

分布の概要

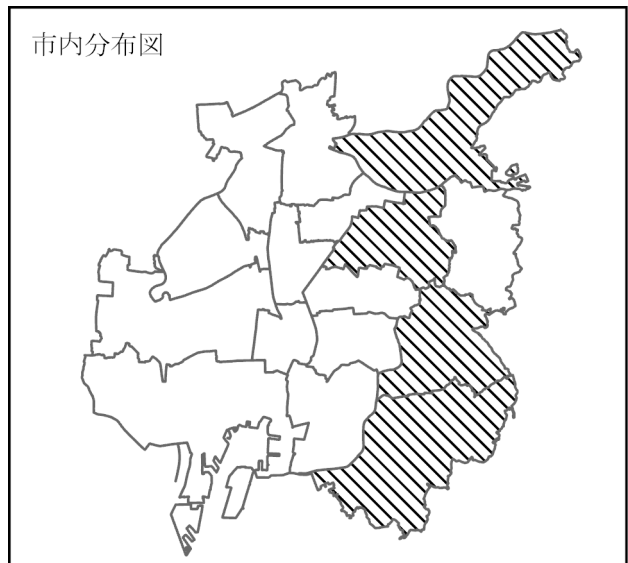
市内: 1 守山区 (大森北, 村松 34129, 2023-4-29, N)、3 千種区 (田代町, 広部 栄 106, 1993-7-29, A)、4 天白区 (土原一丁目, 中島ひろみ 401, 1994-5-2, A, 白花)、5 緑区 (大高町大根山, 岡本沙矢香 283, 2001-5-19, A) などに生育している。

県内: 県 RDB2020 p.580 参照。確実に自生と思われるものは、東三河の一部地域だけに生育している。逸出と思われるものは丘陵地を中心に各地に生育しており、尾張でも瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、常滑、春日井などで採集された標本がある。

国内: 本州 (関東地方以西)、四国、九州、琉球。

世界: 日本、台湾、中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

名古屋市では、やや湿った日当たりのよい土手、工事跡の造成法面などに生育している。本来の生育地は、川沿いなどの湿った岩上である。

現在の生育状況／減少の要因

どこにでもあるというわけではないが、ところどころに見られる。

保全上の留意点

名古屋市のものはすべて園芸品の逸出と思われ、特に保全する必要はない。

特記事項

白花品のシロバナシランも稀に混生している。

関連文献

保草本Ⅲp.48, 平新版 1 p.184.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) アリノトウグサ科>

オグラノフサモ *Myriophyllum oguraense* Miki

除外理由

名古屋市のものは雑種性である可能性が高い。雑種性でないとすれば集団数も個体数も多く、またやや増加傾向にあり、絶滅危惧種の要件に該当しない。

評価区分

名古屋市 2025	国・県リスト
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全 国 2025	絶滅危惧 II 類

形態

沈水性の多年生水草。茎は長く伸びて分枝し、長さ 1m くらいになる。水中葉は通常 4 枚が輪生し、長さ 2~5cm、幅 1~3.5cm、羽状に全裂し、裂片は糸状である。花期は 5~7 月、花序は茎の先端につき、穂状、水面から出て直立し、花は白くて小さく、花序の上部に雄花、下部に雌花がつく。花序の葉はやや小さく、淡緑白色である。殖芽は細長い棒状、長さ 2.5~8cm である。

分布の概要

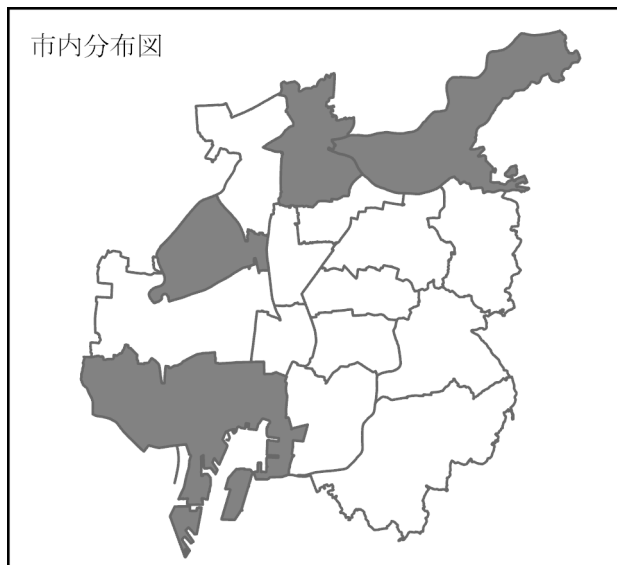
市内: 1 守山区(中志段味才井戸流, 芹沢 74421, 1997-11-6, A; 下志段味長門川, 村松 17243, 2003-7-20, N; 瀬古堀川, 鳥居ちる子 3275, 2013-9-7, A)、12 北区(辻町堀川, 芹沢 77512, 2001-7-14, A)、14 中村区(稲葉地町庄内川, 芹沢 85342, 2009-11-1, A)、16 港区(福屋二丁目, 高木順夫 11730, 2003-10-11, A) に生育している。

県内: 県 RDB2020 p.143 参照。名古屋市のほか、幸田、春日井、岩倉西春日井、一宮西部、あま大治で確認されている。

国内: 本州、四国、九州。

世界: 日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

湖沼やため池、河川などに生育する。やや富栄養化した水域に多い。

現在の生育状況／減少の要因

守山区中志段味など、北区堀川、中村区庄内川、港区福屋では流水中に生育しており、個体数は多い。堀川では庄内川からの導水が続く限り存続すると思われる。止水域では守山区寛池(芹沢 74422, 1997-11-6, A) に生育していたが、水質汚濁のためか見られなくなった。

保全上の留意点

才井戸流は地形的にも重要な場所であり、その価値を認識し、生育地全体を保全することが必要である。堀川は市街地を流れる人工河川であり、本種の有無にかかわらず、水質を維持・向上させる努力が必要である。

特記事項

和名は、最初の発見地である京都の巨椋池に因む。フサモ *M. verticillatum* L. に似ているが、花序の葉が緑白色であること、殖芽が長く手ざわりが硬いことなどで区別できる。ただし愛知県産の植物のうち、幸田のものは典型的なオグラノフサモであるが、それ以外は名古屋市のものを含めて殖芽がやや太くて短く、フサモとの雑種であるハリマフサモ *M. × harimense* Kadono et Sakiyama の可能性が高い。県の IA という評価は、幸田のものに限定して行われている。名古屋市の植物のうち才井戸流のものは、底土中にやや小型の殖芽をつけ、この点で他所のものと異なっている。

関連文献

保草本 II p.36, 平新版 2 p.232, SOS 新版 p.127.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.136. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.234 (オグラノフサモ), p.235 (ハリマフサモ). 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）ブナ科>

ナラガシワ *Quercus aliena* Blume

除外理由

名古屋市のものは全て植栽で、評価の対象にならない。

評価区分

名古屋市 2025	県リスト
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全国 2025	—

形態

落葉性の高木。幹は高さ 25m、直径 90cm に達する。樹皮は黒褐灰色で、深く不規則に割れる。葉は互生し、長さ 1~3cm の柄があり、葉身は倒卵状長楕円形、長さ 12~30cm、先端は短く鋭尖頭、基部は広いくさび状、辺縁には鋭頭の鋸歯がある。はじめは表裏とも有毛だが、やがて表面は無毛になり、裏面は通常星状毛が密生して白色を帯びるが、星状毛がほとんどなく緑色のもの（アオナラガシワ）もある。花期は 4 月、雄花序は新枝の下に多数ついて下垂し、雌花は新枝の上部の葉腋からでる短枝に数個つく。果実はその年の秋に熟し、楕円形、長さ約 2cm、殻斗は杯状で、多数の鱗状の総苞片におおわれる。

分布の概要

市内：2 名東区（猪高町高針、三浦康男 1998, 1997-8-11, A）、4 天白区（塩釜口、渡邊幸子 4010, 1999-9-12, A；土原一丁目、中島ひろみ 436, 1994-9-18, A）、5 緑区（大高緑地公園、芹沢 89064, 2013-10-16, A）、11 南区（呼続、芹沢 102311, 2023-7-30, A）に生育している。

県内：県 RDB2020 p.308 参照。自生の可能性があるものは豊橋北部に生育している。これ以外にも県内のところどころに生育しているが、それらの大部分は明らかに植栽されたものである。

国内：本州（岩手県・秋田県以南）、四国、九州に生育しているが、どこまでが真の自然分布かははっきりしない。

市内分布図



世界：日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、ヒマラヤ。

生育地の環境／生態的特性

コナラやアベマキと共に、いわゆる里山の雑木林の構成種となっている。

現在の生育状況／減少の要因

点在しているが、個体数は少ない。

保全上の留意点

名古屋市のものはすべて植栽または植栽個体から二次的に逸出したものである。しかしコナラやアベマキに比べればはるかに少ないから、大木についてはある程度配慮する方がよい。

特記事項

コナラに比べ、葉が大きく、側脈が多い。

関連文献

保木本 II p.267, 平新版 3 p.96.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ヤマモモ科>

ヤチヤナギ *Myrica gale* L. var. *tomentosa* C.DC.**除外理由**

名古屋市のものは全て移入で、評価の対象にならない。

評 価 区 分

名古屋市 2025	県リスト
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全 国 2025	—

形態

落葉性の低木。高さ 30~80cm になる。枝は黒褐色で、若枝には白色の軟毛がやや密に生える。葉はほとんど無柄、葉身は倒披針形~倒卵状長楕円形、長さ 2~5cm、幅 0.8~2cm、先端は円頭、基部はくさび形、先端部に少数の鋸歯があるほかは全縁、両面に軟毛があり、淡黄色の油点が散在する。雌雄異株で、花期は 3 月下旬~5 月、雄花序は長さ 7~10mm、雌花序は長さ 5~8mm となるが、愛知県では雄株しか知られていない。

分布の概要

市内：3 千種区（天白町東山動物園裏、芹沢 55338, 1990-5-31, A）に、井波一雄氏によって黒河湿地から移植されたものが生育していた。この湿地はその後消失し、守山区と天白区に再度移植されたい。このうち守山区のものは、2019 年 1 月に東山植物園内に再再移植されたという。

県内：県 RDB2020 p.149 参照。現存する自生地は、田原市黒河湿地だけである。豊川市と豊橋市南部にも生育していたが、前者は周囲の樹木の生長によって被陰され、後者は開発により生育していた湿地が破壊されて絶滅した。

国内：北海道、本州（東北地方北部、尾瀬、愛知県、三重県）。

市内分布図



世界：千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島北部、シベリア東部。種としては北半球の寒冷地に広く分布する。

生育地の環境／生態的特性

泥炭湿地の、多少陸化が進んだ部分に生育する。ただし愛知県と三重県の自生地は湧水湿地である。

現在の生育状況／減少の要因

田原（黒河湿地）では激減して数株しか残存していないが、現在は小康状態を保っている。湿地自体は県指定の天然記念物として保護されているが、富栄養化が進んでおり、将来の存続が懸念される。名古屋市内における再移植後の状況は未確認である。

保全上の留意点

名古屋市のものは明らかに移入であり、再移植後は雌株が出現したという話もあって他産地のものが混入している可能性も否定できない。保全の対象にはならない。

特記事項

本種は北海道の湿地では普通に見られるため、国レベルのレッドリストではリスト外になってしまふ。愛知県および三重県の本種は、地方版レッドデータブックの必要性を示す典型的な事例として、しばしば取り上げられている。本種ほどの希少種の場合域外保全は重要なことだが、その場合は最初から公的機関の手で、他産地のものが混入しないよう十分管理された状態で行わなければならない。

関連文献

保木本 II p.350, 平新版 3 p.100, SOS 旧版 p.44+図版 17, SOS 新版 p.98,100.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ホルトノキ科>

ホルトノキ *Elaeocarpus zollingeri* K.Koch**除外理由**

愛知県では渥美半島と知多半島先端部に自生する植物で、名古屋市内に生育しているものは植栽木またはそれからの種子に由来するものと思われ、評価の対象にならない。

評価区分

名古屋市 2025	県リスト
愛知県 2025	絶滅危惧Ⅱ類
全国 2025	—

形態

常緑性の高木。高さ 20m くらいになり、上部でよく分枝して円い樹冠を形成する。葉は互生し、枝先に集まる傾向があり、長さ 1cm 前後の柄があり、葉身は倒披針形～長楕円状披針形、長さ 5～12cm、幅 1.4～3cm、先端は鋭頭、基部も鋭形、辺縁には低い鈍鋸歯がまばらにある。葉の表面は深緑色であるが、しばしば紅色の老葉がまじる。花期は 6～7 月、前年枝の葉腋から長さ 4～8cm の総状花序を出し、多数の白色の花をつける。果実は長卵状楕円形、長さ 1.5～2cm である。

分布の概要

市内：10 熱田区（白鳥古墳，芹沢 95528, 2019-7-20, A）。この個体は開花するまでに生長していたので、特に標本を作成した。おそらくは植栽木由来と思われるが、本来の自生である可能性も皆無ではない。

県内：県 RDB2020 p.497 参照。自生と思われるものは、渥美半島と知多半島先端部（区画としては 16 豊橋南部、17 田原東部、18 田原西部、44a 美浜の 4 区画）に生育しているだけである。

国内：本州（千葉県南部以西）、四国、九州、琉球。

世界：日本、台湾、中国大陆、インドシナ。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

常緑広葉樹林に生育するが、街路樹や庭園木としても広く植栽される。

現在の生育状況／減少の要因

白鳥古墳では、林縁に 1 株が生育していた。幼木は市内のあちこちに生育しているが、開花するまでに成長したものはほとんどなく、標本も作成していない。将来名古屋市のグリーンデータブックを作る場合には必要な資料になるので、気が付いたら標本を作製しておいてほしい。

保全上の留意点

白鳥古墳は特別緑地保全地区に指定されており、この場所のものは将来とも存続すると思われる。明らかに植栽木由来と思われる幼木については、特に配慮する必要はない。

特記事項

モガシとも言う。

関連文献

保木本 I p.236, 平新版 3 p.143.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）ジンチョウゲ科>

サクラガンピ *Diplomorpha pauciflora* (Franch. et Sav.) Nakai

除外理由

環境省レッドリストに掲載されている種類であるが、名古屋市では1回採集されたただけだが、おそらく移入であり、評価の対象にならない。

評価区分

名古屋市 2025	国リスト
愛知県 2025	国リスト
全 国 2025	絶滅危惧II類

形態

落葉性の低木。よく分枝し、高さ2mくらいになる。葉は互生し、愛知県で採集されたものでは長さ1.5~3mmの柄があり、葉身は卵状楕円形、長さ2.5~4.5cm、幅1.3~2cm、先端は鋭頭~鈍頭、基部は広いくさび形、全縁で両面に毛がある。花期は7月上旬に咲き始めの状態で、枝端にまばらな円錐花序をつくり、淡黄色、がく筒は長さ5~6mmであった。

分布の概要

市内：1 守山区（小幡緑地、鳥居ちよ子 3564, 2016-7-6, A）で採集された標本がある。

県内：名古屋市以外では確認されていない。

国内：本州（関東地方南部、伊豆半島）。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

自生地では山中の溪側に生育するという。名古屋市では公園内の遊歩道わきに生育していた。

現在の生育状況／減少の要因

1株だけであったが、意図的に植えられたものには見えなかったとのことである。2018年に現地に行ったときには見当たらなかった。

保全上の留意点

本来の自生ではないと思われるので特に配慮する必要はないが、名古屋市を含む愛知県での記録は少ないので、見かけたら標本を作成しておいてほしい。

特記事項

キガンピに似ているが、葉は明らかに互生し、茎と共に毛が多い。

関連文献

保木本 I p.226, 平新版 4 p.40.

（西部めぐみ 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群(真正双子葉類) オオバコ科>

カワデシヤ *Veronica undulata* Wall.

除外理由

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1、総点 9。名古屋市では生育地も個体数も多く、当面絶滅が危惧される状態ではない。

評価区分

名古屋市 2025	国リスト
愛知県 2025	国リスト
全国 2025	準絶滅危惧

形態

越年生草本。茎は直立または斜上し、高さ 10～50cm になる。葉は対生し、無柄、葉身は披針形～長楕円状披針形、長さ 2.5～8cm、幅 0.5～2.5cm、先はややとがり、基部はやや茎を抱き、辺縁には鋸歯がある。花期は 5～6 月、葉腋から長さ 5～15cm の細い花序を出し、15～50 個の花をつける。花冠はほとんど白色で皿状に広く開き、直径 3～4mm、4 裂する。蒴果は球形で、先がわずかにへこみ、長さ幅ともに 2.5～3mm、先端に長さ 1mm ほどの花柱が残存し、果柄は曲がらずに斜上する。

分布の概要

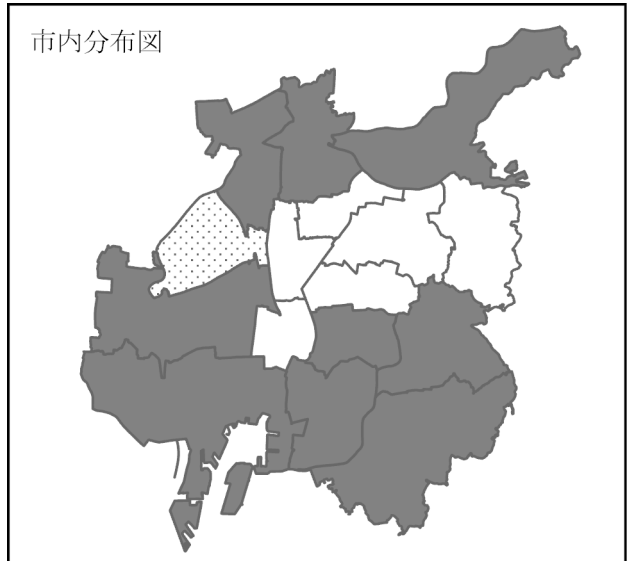
市内：1 守山区（上志段味庄内川、村松 30351, 2019-5-13, N; 吉根庄内川、芹沢 80534, 2006-5-21, A など）、4 天白区（池場天白川、渡邊幸子 7949, 2020-6-7, N）、5 緑区（竈池、高木順夫 17586, 2009-5-19, N）、9 瑞穂区（弥富町天白川、渡邊幸子 5057, 2002-5-5, A）、11 南区（大堀町天白川、渡邊幸子 5058, 2002-5-5, A）、12 北区（名城公園堀川、鳥居ちゑ子 4769, 2020-5-3, N）、13 西区（庄内緑地、村松 28271, 2016-5-21, N）、15 中川区（富田町庄内川（芹沢 77266, 2001-5-6, A）、16 港区（藤前日光川、長谷川 1034, 2024-5-11, N）などに生育している。14 中村区（中村町、鶴岡佐知子 43, 1992-6-2, A）で採集された標本もある。

県内：県 RDB2020 p.691 参照。名古屋市のほか、豊根東部、豊川、蒲郡御津、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、足助、豊田北西部、岡崎北部、刈谷知立、安城、高浜碧南、西尾北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、大府東浦、東海知多、半田武豊、美浜南知多（南知多町内海、芹沢 103387, 2024-4-20）、春日井、岩倉西春日井、一宮東部、一宮西部、あま大治、津島愛西で確認されている。平野部に多く、山間部ではほとんど見られない。

国内：本州、四国、九州、琉球。

世界：日本から中国大陆、東南アジア、インドにかけて分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

水田や河川敷などの低湿地に多い。コンクリート水路の土砂がたまった場所などにも生育している。湿田状態が多少なりとも残されている場所では、春の水田雑草になっている。

現在の生育状況／減少の要因

低湿地性の植物であるが、現在のところはやや普通種である。しかし、低湿地的環境の減少に伴い、全体として減少傾向にあることは確かである。特に庄内川では帰化植物のオオカワデシヤ *V. anagallis-aquatica* L. が増加し、それに圧迫されて減少傾向にある。守山区上志段味ではオオカワデシヤ 5 に対し 1 くらいの割合になっており、北区六が池町では一本も見られなくなったそうである。

保全上の留意点

個体レベルでの保全に限れば現状ではそれほど神経質になる必要はないが、河川敷の低湿地的環境を全体として保全することは重要な課題である。

関連文献

保草本 I p.143, 平新版 5 p.86.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）ミツガシワ科>

アサザ *Nymphoides peltata* (S.G.Gmel.) Kuntze

除外理由

名古屋市のものは全て逸出で、評価の対象にならない。

評価区分

名古屋市 2025	国・県リスト
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全 国 2025	準絶滅危惧

形態

浮葉性の多年生水草。根茎は泥の中を長く這い、長い水中茎を出す。葉は長い柄があり、葉身は水面に浮かび、卵形または円形、直径 5~10cm、辺縁には通常波状の歯牙があり、表面は緑色、裏面は紫褐色、基部は深く湾入し、葉柄はやや楕状につく。花期は 6~8 月、花は水上に出て開き、長さ 3~12cm の柄があり、花冠は黄色で直径 3~4cm である。

分布の概要

市内：4 天白区（天白町島田大根池、高木順夫 20485, 2011-10-27, N）に生育している。

県内：県 RDB2020 p.353 参照。自生のものは海部南部の 1 ケ所に生育しているだけである。移入されたものは名古屋市のほか、豊根、岡崎北部、岡崎南部、瀬戸尾張旭などに生育している。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：ユーラシア大陸に広く分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

湖沼やため池、河川のよどみ、水路などに生育する。愛知県の自生系統は流れのゆるい水路に生育しており、現在のところ開花が確認されていない。

現在の生育状況／減少の要因

大根池では池の西半分を覆って繁茂し、よく開花している。

保全上の留意点

名古屋市のものは人為的に持ち込まれたもので、保全の対象にならない。

関連文献

保草本 I p.213, 平新版 5 p.196, SOS 旧版 p.72.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.140. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.296. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ガマズミ科>

ハクサンボク *Viburnum japonicum* (Thunb.) Spreng.**除外理由**

名古屋市のものは全て逸出で、評価の対象にならない。

評価区分

名古屋市 2025	国・県リスト
愛知県 2025	絶滅危惧Ⅱ類
全 国 2025	—

形態

常緑性の低木または小高木。高さ 1.5～6m になる。葉は対生し、長さ 2～3cm の紫色を帯びた柄があり、葉身はひし状倒卵形～ひし状卵形、長さ 5～20cm、幅 4～15cm、先端は鋭尖頭か鋭頭、基部は広くさび形で、辺縁は上部にのみあらい鋸歯があり、革質、表面は暗緑色で光沢がある。花期は 4 月～5 月、枝の先端に直径 10～13cm の平らな散房花序をつくり、多数の花をつける。花は悪臭があり、花冠は白色、基部近くまで 5 裂し、直径約 6mm である。核果は広楕円形または卵形で、長さ約 8mm、晩秋に赤く熟す。

分布の概要

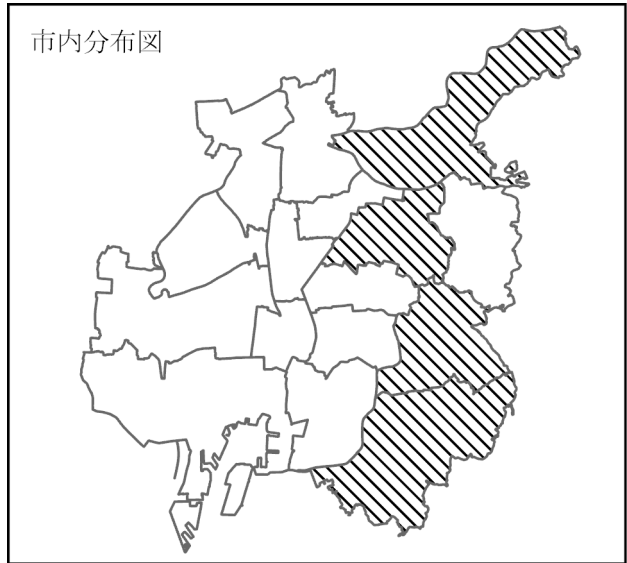
市内: 1 守山区 (小幡北山, 太田由美子 11, 1992-5-1, A)、3 千種区 (平和公園, 鳥居ちゑ子 4203, 2018-10-6, N)、4 天白区 (天白町島田, 中島ひろみ 293, 2018-10-23, N)、5 緑区 (滝の水緑地, 長谷川 27, 2017-5-4, N) で採集された標本がある。

県内: 県 RDB2020 p.551 参照。確実に自生と思われるものは田原西部に生育しているだけだが、東海知多にも自生の可能性が否定できないものがある。他区画のものは、現在のところすべて逸出と思われる。

国内: 本州 (関東地方南部、伊豆諸島から愛知県までと山口県)、九州、琉球。

世界: 日本固有種。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

本来は海岸近くの常緑広葉樹林の林内や林縁に生育する。

現在の生育状況／減少の原因

保全緑地や社寺林などに点在しているが、個体数は少ない。

保全上の留意点

名古屋市のものはすべて逸出と思われ、保全の対象にならない。

特記事項

本州中部のものは、コハクサンボクとして区別されることがある。和名は、石川県白山の産であるという誤認に基づく。ハクサンボクとミヤマガマズミの雑種らしいものが守山区 (小幡北山, 太田由美子 8, 1992-4-23, A)、天白区 (音聞山, 渡邊幸子 2031, 1995-4-23, A) で採集されている。

関連文献

保木本 I p.101, 平新版 5 p.409, SOS 旧版 p.84.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 I 群 (原始被子植物) クスノキ科>

カナクギノキ *Lindera erythrocarpa* Makino

市内の生育状況

5 緑区 (大高緑地, 長谷川 s.n., 2016-8-18, N) のコナラ林内に、若木が 1 株生育している (長谷川 2017)。当時は樹高 2.45m であったが、その後も年々生長しており、現在は樹高 4m 程度になっている。

形態

落葉性の高木。大きいものは高さ 10m 以上になる。樹皮には小さな皮目が目立ち、老木では不規則にはがれる。葉は互生し、長さ 6~18mm の柄があり、葉身は倒披針形、長さ 6~13cm、幅 1.5~2.5cm、鋭頭または少し突出して鈍端、基部は葉柄に向かって長くとがり、表面は無毛、裏面は初め帯褐色の長毛があるが、のちに毛は少なくなり、粉白色を帯びる。雌雄別株で花は 4 月に葉と同時に咲くが、名古屋市のものはまだ開花していない。

分布の概要

県内：1 (漆島, 瀧崎 23340, 2007-8-25, T)、2 (望月峠, 芹沢 101592, 2023-5-28)、7 (岩古谷山, 芹沢 68999, 1994-4-26)、8 (鳳来寺山, 加藤等次 179, 1991-8-26)、10 (玖老勢椎平, 芹沢 65632, 1993-5-28)、13 (長沢, 瀧崎 19682, 2002-6-1, T)、14 (五井山, 井上美保子 472, 1992-9-9)、15 (石巻中山町, 瀧崎 15391, 1994-10-23)、19 (駒山, 芹沢 62054, 1992-6-27)、20 (寧比曾岳, 芹沢・水野 261, 1985-8-28)、22 大ケ蔵連, 芹沢 66091, 1993-6-18)、23 (折平, 日比野修 1304, 1993-6-11)、24 (六所山, 山崎玲子 429, 1993-5-19)、25 (猿投山, 土場トシ子 441, 1994-5-2)、28 (鳥川, 福岡義洋 416, 1990-4-27)、30 (鉢地町, 本多さおり 141, 1994-4-22)、36 (西幡豆, 壁谷重美子 939, 1994-9-9)、37a (定光寺町, 日比野修 1001, 1992-10-28)、38b (米野木町, 半田多美子 3482, 2003-5-11)、45 (八曽, 芹沢・松田 236, 1986-9-26)、48 (廻間町, 山田果与乃 1526, 2010-4-17) など確認されている。3 (本郷, 守山義敬 s.n., 1955-9-7, T)、6 (段戸, 恒川敏雄 s.n., 1977-11-6, T) で採集された標本もある。

国内／世界：本州 (関東地方以西)、四国、九州／朝鮮半島、台湾、中国大陸。

引用文献

長谷川泰洋. 2017. 名古屋市におけるカナクギノキの初記録. なごやの生物多様性 4 : 83-87

関連文献

保木本 II p.193, 平新版 1 p.82-83.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ヤマノイモ科>

カエデドコロ *Dioscorea quinquelobata* Thunb.

市内の生育状況

名古屋市では 3 千種区 (田代町, 中島ひろみ 619, 1998-8-13, A)、4 天白区 (牧野ヶ池緑地, 渡辺幸子 5455, 2003-9-17, A: 道明町天白川堤, 渡辺幸子 3558, 1998-7-23, A) で採集されているが、いずれも開花しておらず、現状では定着していると言い難い。移入の可能性もある。7 中区 (三の丸, 芹沢 93220, 2017-9-8, A) の標本は開花しているが、これは県庁の生垣に生育していたもので、明らかに移入である。

形態

多年生草本。掌状に切れ込んだ葉を持つヤマノイモ属の 1 種で、切れ込みの深さはウチワドコロ (県 RDB2020 p.406) とキクバドコロ (同 p.407) の中間程度だが、それら 2 種と異なり暖地の海岸近くに生育している。

分布の概要

県内：確実に自生と判断されるものは、渥美半島 (17 赤羽根町若見, 芹沢 56685, 1990-8-28、18 (日出, 芹沢 62480, 1992-8-20) と知多半島先端部 (44b 篠島, 芹沢 82124, 2007-8-30) に生育している。分布範囲は限られているが、個体数はそれほど少ないものではない。23 (その先不明, 山崎玲子 1534, 1996-10-10)、39b (沓掛町, 浅野守彦 1730, 2003-8-24, N)、47 (大草, 日比野修 5080, 1999-10-25, 花の跡がある) でも採集されているが、これらは移入の可能性が高い。

国内／世界：本州、四国、九州、琉球／日本固有種。

関連文献

保草本 III p.83-84, 平新版 1 p.150.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 II 群 (単子葉類) ヒガンバナ科>

キツネノカミソリ *Lycoris sanguinea* Maxim.**市内の生育状況**

名古屋市では 1 守山区 (下志段味庄内川堤防, 鳥居ちゑ子 463, 1993-8-17, A) で 1 回採集されたことがあるが、上流から流されてきて一時的に生育していたものと思われ、定着していたとは言い難い。

評価区分

名古屋市 2025	希少偶産
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

多年生草本。人家周辺に多いヒガンバナに似ているが、全体に繊細で花は夏に咲き、黄赤色である。

分布の概要

県内: 3 (奈根, 芹沢 62443, 1992-8-15)、19 (布里, 小林 53246, 1994-8-19)、11 (高松, 芹沢 67067, 1993-8-23)、12 (庭野, 芹沢 62409, 1992-8-15)、15 (石巻山, 芹沢 67022, 1993-8-23)、18 (長沢, 小林 47033, 1993-8-28)、20 (浅谷町, 山崎玲子 3437, 2005-8-19)、28 (鳥川, 福岡義洋 1090, 1990-8-9)、37a (内田町, 日比野修 1637, 1993-8-20)、45 (八曾, 松田ちか子 s.n., 1986-8-21) など確認されているが、開花期が他の花が少ない真夏であることもあって、標本の集積はやや不十分である。

国内/世界: 本州、四国、九州/日本固有だが、種としては朝鮮半島にも分布している。

関連文献

保草本Ⅲp.87-88, 平新版 1 p.244.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III 群 (真正双子葉類) ブナ科>

ブナ *Fagus crenata* Blume**市内の生育状況**

名古屋市では 1 守山区 (小幡緑地, 村松 31314, 2020-5-6, N) の遊歩道からやや離れた林縁に、樹高 5m ほどの若木が 1 本生育している。植えられたようには見えないが、遠距離散布されるような植物ではなく、どうしてこの場所に生育しているのか理解に苦しむ。誰かが果実を投げ捨てたのかもしれないが、とりあえず希少偶産種としておく。

評価区分

名古屋市 2025	希少偶産
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉生の高木。大きいものは高さ 30m に達する。樹皮は灰色または暗灰色でなめらかで割れ目がなく、しばしば地衣類が着生して多様な斑紋を生じる。若枝は初め黄褐色の軟毛があるが、すぐに無毛となり、暗紫色をおびる。葉は互生し、長さ 5~10mm の柄があり、葉身は卵形~菱状卵形、長さ 4~9cm、先単は鋭形、基部は広いくさび形、洋紙質、側脈は 7~11 対である。花期は 5 月、果実は堅果だが、名古屋市のものはまだ開花結実していない。

分布の概要

県内: 山地温帯林の優占樹種で、1 (日本ヶ塚山, 小林 42411, 1993-5-4)、2 (茶臼山, 加藤等次 2980, 1993-5-24)、3 (御園, 村松 25884, 2011-6-19)、4 (箱淵, 芹沢 78756, 2003-8-24)、6 (駒ヶ原, 瀧崎 21214, 2004-5-1, T)、8 (明神山, 芹沢 69664, 1994-6-3)、11 (清岳, 小林 57366, 1995-7-9)、5 (面ノ木峠, 鈴木学 1249, 1983-6-14)、19 (駒山, 日比野修 1570, 1993-8-12)、20 (寧比曾岳, 芹沢・水野 279, 1985-8-28)、21 (阿蔵, 小林 52314, 1994-6-15)、24 (六所山, 山崎玲子 1408, 1996-5-28) など確認されている。尾張では名古屋市が唯一の産地で、瀬戸市の山地でもまだ見つからない。

国内/世界: 北海道南部。本州、四国、九州/日本固有種。

関連文献

保草本Ⅱp.282-283, 平新版 3 p.92.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) カバノキ科>

ヤマハンノキ *Alnus hirsuta* (Spach) Turcz. ex Rupr.

市内の生育状況

名古屋市では5緑区(鳴海町笹塚, 渡辺幸子 3701, 1999-3-18, A)で1回採集されているだけで、その後確認できず、一時的に生育していたにすぎないと思われる。

形態

夏緑性の高木。よく育ったものは高さ20mに達する。葉は互生し、長さ1.5~3cmの柄があり、葉身は広卵形~ほぼ円形、長さ5~10cm、辺縁には欠刻状の重鋸歯がある。花は2月下旬~3月に、葉に先立って咲く。

分布の概要

県内: 2 (新野峠, 加藤等次 3098, 1993-6-8)、3 (振草, 小林 47377, 1993-9-5)、4 (白鳥山, 石田雄吉 66, 1979-9-26)、6 (段戸高原, 芹沢 63412, 1992-9-13)、8 (鳳来湖, 小林 53581, 1994-9-10)、12 (庭野, 石川静雄 138, 1995-6-25)、13 (一宮町吉祥山, 小林 40446, 1992-11-14)、14 (御堂山, 小林 40221, 1992-10-31)、16 (東赤沢町, 小林 40584, 1992-11-23)、17 (芦村, 小林 47124, 1993-8-28)、5 (小田木, 芹沢 66514, 1993-7-15)、19 (牛地駒山, 芹沢 65700, 1993-6-1)、20 (野林, 芹沢 71487, 1995-5-18)、22 (大ケ蔵連, 芹沢 66087, 1993-6-18)、23 (御作, 塚本威彦 510, 1993-5-1)、23 (東広瀬町, 芹沢 65381, 1993-5-21)、25 (猿投山, 芹沢 71336, 1994-10-16)、26 (豊栄町, 石川 敏 305, 1993-7-18)、30 (桑谷町, 本多さおり 1120, 1994-10-29)、32a (今川町, 芹沢 65962, 1993-6-11)、37a (海上町, 芹沢 75871, 1999-7-4)、37b (新居, 芹沢 86674, 2011-2-20)、38b (岩崎, 村瀬美智子 765, 1993-8-2)、44a (鶴の山, 田中郁子 243, 1986-10-16)、45 (本宮山, 芹沢・松田 294, 1986-10-15)、47 (岩崎山, 長谷川 19, 2021-9-4, N)、48 (廻間町, 芹沢 55308, 1990-5-31) などで確認されている。15 (多米町, 恒川敏雄 2212, 1951-11-6, T) で採集された標本もある。葉に毛が多いものをケヤマハンノキ、毛が少なく葉裏が帯白色のものをヤマハンノキ (狭義) var. *sibirica* (Spach) C.K.Schneid. という。名古屋市の標本はおそらくケヤマハンノキだと思うが、葉が展開中でよくわからないので、県内分布は両者を一括して示した。

国内/世界: 北海道、本州、四国、九州/カムチャッカ半島~中国大陆、ロシア極東部。

関連文献

保木本 II p.288, 平新版 3 p.110.

(芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) ムクロジ科>

ウリハダカエデ *Acer rufinerve* Siebold et Zucc.

市内の生育状況

3千種区(田代町, 長谷川 421, 2022-8-12, N)の、湿性林内であるがやや開けた場所に、幹が2本に分かれた若木が1株生育している。

形態

落葉性の小高木~高木。葉は対生し、長さ2~6cmの柄があり、葉身はほぼ五角形で3~5浅裂し、長さ、幅ともに6~15cm、基部は浅心形から切形、裂片の先端は尾状、辺縁には不揃いの重鋸歯がある。花期は通常5月、花序は総状で下垂し、長さ5~10cm、10-20花をつけるが、市内ではまだ開花を確認できない。

分布の概要

県内: 三河山地ではあちこちに生育しているが、標本は2(萩太郎山, 芹沢 94456, 2018-9-2)、4(面の木峠, 芹沢 102417, 2023-9-2)、10(愛郷, 小林 49078, 1993-10-24)、13(本宮山, 小林 39569, 1992-9-20)、5(押山, 小林 43170, 1993-5-23)、19(駒山, 芹沢 88535, 2013-7-6)、20(寧比曾岳, 日比野修 3405, 1996-5-25)、22(大ケ蔵連町, 芹沢 81693, 2007-7-7)、23(西市野々, 日比野修 449, 1992-6-29)、28(本宮山, 小林 49211, 1993-10-30)、37a(上品野町, 塚本威彦 617, 1993-6-17)、37b(旭ヶ丘町, 村松 20500, 2001-5-1, N)、38a(岩作, 芹沢 76730, 2000-5-15)、48(西尾町, 山田果与乃 790, 2002-4-15)などで、集積がやや不十分である。

国内/世界: 本州、四国、九州(屋久島以北)/日本固有種。

関連文献

保木本 I p.296-297, 平新版 3 p.291.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）アオイ科>

ラセンソウ *Triumfetta japonica* Makino

市内の生育状況

偶発的に出現することが多い植物で、市内では 14 中村区（松原町、鶴岡佐知子 148, 1992-9-7, A）で採集されたことがあり、これが尾張では唯一の標本であるが、その後確認されておらず、定着していたとは言い難い。

評価区分

名古屋市 2025	希少偶産
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

1 年生草本。茎は高さ 40～100cm になる。葉は互生し、長さ 1～5cm の柄があり、葉身は卵形～卵状楕円形、長さ 5～10cm である。花期は 8～10 月、花は葉腋に数個集まって付き、黄色で直径 5mm 程度、果実は球形で長い毛が密生する。

分布の概要

県内：愛知県全体でもそれほど多いものではなく、3（下田、芹沢 84983, 2009-9-21）、8（引地、小林 67136, 1999-9-15）、10（只持、小林 49134, 1993-10-24）、5（押山、小林 47160, 1993-8-29）、20（大蔵、山崎玲子 2869, 2003-9-8）で確認されているにすぎない。15（石巻中山町、恒川敏雄 s.n., 1977-9-21）で採集された標本もある。

国内／世界：本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球／朝鮮半島～フィリピン。

関連文献

保草本Ⅱp.70, 平新版 4 p.34.

（芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群（真正双子葉類）ツバキ科>

ヒメシャラ *Stewartia monadelph* Siebold et Zucc.

市内の生育状況

名古屋市では 1 守山区（大森八龍、長谷川 613*, 2023-5-15, N）の林縁に、樹高 5m ほどの若木が 1 株生育している。隣接する瀬戸市や尾張旭市でも散発的に出現するだけだが、これらの場所では開花している。

評価区分

名古屋市 2025	希少偶産
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

落葉性の高木。大きいものは高さ 15m に達する。樹皮は細長い小片となって剥げ、その跡ははじめ赤味をおびるが、年を経ると灰色がかった乳白色となる。若枝は緑色、開出毛があるかまたは無毛、その後 4～5 年枝までは淡赤褐色となる。葉は互生し、2～5mm の柄があり、葉身は長楕円形～楕円形、長さ 4～9cm、幅 2～5cm、先端は鋭尖頭、基部は細いくさび形、辺縁には低い鋸歯がある。雌雄同株で花は 5 月に咲き、白色で直径 1.5-3cm だが、名古屋市のものはまだ開花していない。

分布の概要

県内：1（佐久間湖岸、芹沢 82072*, 2007-8-25）、2（古真立、芹沢 101525, 2023-5-20）、3（御園、小林 39903, 1992-10-10）、4（蓋野島、小林 48673, 1993-10-11）、6（松戸、小林 81586*, 2004-6-13）、7（岩古谷山、榊原利修 769, 1992-7-2, 落花）、8（県民の森、芹沢 83303, 2008-9-14）、9（上吉田、小林 49336, 1993-11-3）、12（富岡、加藤等次 3272, 1993-7-13）、20（出来山、日比野修 3468, 1996-7-25）、24（滝脇町、小林 64105, 1998-5-24）、28（南大須、小林 51890, 1994-6-4）、29（大柳町、芹沢 104150, 2024-7-30）、37a（上山路町、村松 34787*, 2023-10-11）、37b（平子町、村松 21431*, 2002-9-22）などで確認されている。15（高山、恒川敏雄 1525, 1946-3-21, T）で採集された標本もある。*は葉に毛が多いトチュウヒメシャラ form. *sericea* で、名古屋市を含む尾張のものはすべてこの型である。

国内／世界：本州（関東地方以西）、四国、九州／日本固有種。

関連文献

保木本Ⅱp.151, 平新版 4 p.207.

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) モチノキ科>

ナナミノキ *Ilex chinensis* Sims

市内の生育状況

愛知県全体でも稀少な樹木で、名古屋市では 8 昭和区（八事興正寺、長谷川 20, 2021-9-10, N）の参道わきに、樹高 1.5m ほどの幼木が 1 株生育しているだけである。社寺林内であるが、参道整備などの際に刈りはられるおそれがある。

評価区分

名古屋市 2025	希少偶産
愛知県 2025	絶滅危惧Ⅱ類
全国 2025	—

形態

常緑性の高木。大きいものは高さ 5~10m になる。若枝には稜があつて無毛である。葉は互生し、葉柄は長さ 0.8~1.5cm で無毛、葉身は長楕円形、長さ 6~12cm、幅 2.5~4cm、先端は細くとがり、基部は鋭形、辺縁に小さく鋭い鋸歯があり、やや革質で両面無毛である。花期は 6 月、果実は広楕円形で赤く熟すが、名古屋市のものはまだ開花も結実もしていない。

分布の概要

県内：県 RDB2020 p.539 参照。6（松戸、小林 80743, 2004-3-21）、11（大和田、小林 50561, 1994-4-17）、13（宮路山、芹沢 86339, 2010-10-2）、29（才栗町、芹沢 86352, 2010-10-2）などで確認されている。名古屋市は尾張で唯一の生育地である。

国内／世界：本州（静岡県以西）、四国、九州／中国大陸。

関連文献

保木本 1 p.273, 平新版 5 p.182.

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 III群 (真正双子葉類) キク科>

タカアザミ *Cirsium pendulum* Fisch.

市内の生育状況

名古屋市では 5 緑区（鳴海町諸ノ木、渡辺幸子 3253, 1997-10-19, A）と 14 中村区（城屋敷町、芹沢 68945, 1993-11-1, A）で採集されているが、どちらも土木工事跡地に 1 株だけ生育していたもので、次に行ったときには消失していた。

評価区分

名古屋市 2025	希少偶産
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

シロバナタカアザミ（県 RDB2020 p.356 参照、名古屋市内では確認されていない）に似ているが、花は秋に開花し、紅紫色である。

分布の概要

県内：名古屋市以外では、49d（新川町五条川、芹沢 77153, 2000-11-5、ここも 1 株だけ）で採集されているだけである。愛知県は分布域の南限に近い生育地である。

国内／世界：北海道、本州（中部地方以北）／朝鮮半島、中国大陸、ロシア極東部。

関連文献

保草本 1 p.33, 平新版 5 p.223.

（芹沢俊介）

シダ植物

(1) 名古屋市におけるシダ植物（小葉植物を含む）の概要

種子植物とシダ植物は、実際の調査は同時並行的に行われることが多いため、この項については維管束植物の欄（19～25 頁）を参照されたい。

(2) 名古屋市における絶滅危惧種の概要

レッドリスト掲載種の数を集計して、表 8 に示した。

表 8 名古屋市版レッドリスト 2025（小葉植物・シダ植物）掲載種数

評価区分 分類群	絶滅 (EX)	絶滅のおそれのある種				準絶滅 危惧 (NT)	情報 不足 (DD)	計	リスト外	
		絶滅 危惧 I A 類 (CR)	絶滅 危惧 I B 類 (EN)	絶滅 危惧 II 類 (VU)	小計				国／県 リスト (lc)	希少 偶産種 (評価 対象外)
小葉植物	1	0	0	0	0	2	0	3	1	0
シダ植物	2	3	10	17	30	8	0	40	2	9
計	3	3	10	17	30	10	0	43	3	9

かつて名古屋市に生育していた植物の中ですでに絶滅したと判定されるもの（絶滅／野生絶滅）は 3 種、現在生育している、あるいはまだ生育している可能性が高いが絶滅が危惧される状態にあると判定されたもの（絶滅危惧 IA 類、絶滅危惧 IB 類、絶滅危惧 II 類）は 30 種、現時点で直ちに絶滅が危惧されると言うほどではないが、今後の状況によっては絶滅危惧種に移行する可能性がある種（準絶滅危惧）は 10 種となった。また、環境省が 2025（令和 7）年に発行した第 5 次レッドリスト（維管束植物）、および愛知県が 2025（令和 7）年に公表した愛知県版レッドリスト（維管束植物）に掲載されている種のうち、名古屋市に生育するものは全て逸出で評価の対象にならないと判定されたものはイヌカタヒバ、マツバラン、ハガクレカナワラビの 3 種であった。名古屋市では個体数が極めて少なく、まだ定着状態に至っておらず、評価の対象にならないと判定されたもの（希少偶産）はイヌシダ、ナチシダなど 9 種であった。

掲載種数を環境省第 5 次レッドデータブック、および愛知県 2025 年版レッドリストと比較した結果を、表 9 に示した。

表 9 レッドリスト掲載種数の比較（シダ植物）

	自生種総数	絶滅	絶滅のおそれのある種				準絶滅 危 惧	情報不足	計	リスト外*
			I A	I B	II	小計				
名古屋市	131	3	3	10	17	30	10	—	43	9 (9)
愛知県	310	3	14	28	26	68	12	—	83	1 (1)
全国	約 700	6	93	50	66	209	45	3	263	

*在来自生種の中で、上位リストに掲載されているが絶滅危惧種に該当しないと判断されたもの+未定着と判断され評価対象から除外されたもの。後者（希少偶産種）の数は（ ）に入れて示した。

自生種総数に対する絶滅・絶滅危惧種の数、および準絶滅危惧種を含むリスト掲載種総数の割合は、名古屋市ではそれぞれ 25.2%および 32.8%になった。この数字は種子植物に比べるとやや低い
が、リスト掲載種の中で絶滅／野生絶滅が占める割合は 7.0%で、種子植物と異なり、割合が特に高いという傾向は認められなかった。その結果、絶滅種を除いた現存種の中で準絶滅危惧種を含むリスト掲載種総数が占める割合は 31.3%となり、種子植物に比べやや高い値になった。シダ植物は、希少偶産種が多かったため、絶滅を除くリスト掲載種と希少偶産種の和も 49（現存種の 38.3%）に達した。これは、シダ植物は山地の沢沿いに生育している種類が多いため、名古屋市のシダ植物相は全体的に貧弱であり、少し山地に行けば普通に見られる種類でも名古屋市では生育できそうな場所が限られていて、個体数も極めて少ないこと、シダ植物は胞子が風散布されるため再侵入確率は県西部分布が同程度の種子植物に比べて平均的に高くなることが予想されるが、どの程度高くなるか明確に予測できなかったため、今回は種子植物と同じ基準で評価したことによる。実際、今回のリストには、名古屋市の実情を知らない人からは「え、こんな普通種が？」と言われそうなものがかかり含まれている。愛知県全体と比較して評価結果の逆転現象が生じた種はなかった。生育環境別では特に水生植物が危機的で、ヒメミズワラビ以外はすべて絶滅と判定された。

減少の原因は各種ごとにそれぞれ記述したが、シダ植物の場合は種子植物全体と異なり森林環境に依存する種が大部分を占めるため、その減少が最も主要な減少要因となった。また、名古屋市では東谷山やその周辺に分布が限られる種も少なくないため、ニホンジカによる食害も種子植物以上に深刻な減少要因であった。

(3) 名古屋市で特に保全上の重要性が高い種類

すでに述べたように、名古屋市に生育するシダ植物は、名古屋市では希少で絶滅が危惧される状態でも、周辺域に行けば普通種であることが多い。その中で比較的地域固有性が高く、保全上重要と考えられるものとしては、ウスバシケシダが挙げられる。

ウスバシケシダ *Deparia longipes* (Ching) Shinohara (メシダ科)

濃尾平野やその周辺の丘陵地を中心に分布するシダ植物で、シケシダに比べて根茎が長くはい、葉は薄くて切れ込みが深い。名古屋市では相生山緑地に大きな群落があるが、この群落は既知の自生地の中でも最も大きなものの一つで、保全上特に重要である。天白区牧野ヶ池緑地、守山区才井戸流にも小群落がある。

モトマチハナワラビも、分類学的にさらに検討を要するものであるが、県内では名古屋市を含む尾張の2区画で知られているだけの植物である。この2種以外では、チャセンシダ、ニセコクモウクジャクが尾張地区では名古屋市以外に確実な記録がなく、ウラボシノコギリシダ、クリハランも尾張地区では名古屋市を除くと1区画で知られているだけである。愛知県版レッドデータブックに掲載されている種類も、県全体として絶滅が危惧される状態にあるという点で、県全体としてリスト外の種類よりも相対的に保全上の重要性が高い。

(芹沢俊介)

(4) 掲載種の解説

レッドリストに掲載された各植物について、種ごとに形態的な特徴や分布、市内の状況等を解説した。準絶滅危惧、国・県リストの種についても、これらが目にふれる機会が多いことを考慮し、絶滅種・絶滅危惧種とほぼ同じ様式で記述した。

① 掲載種の凡例

分類群名等

対象種の分類上の位置を示す門、綱、科名等を各頁左上枠外に記述した。科の範囲、名称、配列は一部を除き、「日本シダ植物標準図鑑Ⅰ～Ⅱ」(海老原淳著、学研、2016～2017年)に準拠した。

和名・学名

対象種の和名および学名を各頁上の枠内に記述した。和名および学名は大部分「日本シダ植物標準図鑑Ⅰ～Ⅱ」に準拠したが、一部執筆責任者の判断により、他の名称を用いたものもある。科内の配列は、学名のアルファベット順とした。

評価区分

対象種の名古屋市における評価区分を各頁右上枠内に記述した。参考として愛知県版レッドリスト(愛知県 2025)の愛知県での評価、および環境省第5次レッドリスト(維管束植物)(環境省 2025)の全国での評価区分も併記した。

評価理由

対象種が名古屋市において絶滅危惧の各階級と評価された理由について記述した。評価の基礎になった個体数、集団数、生育環境、人為的圧力、県西部分布の階級値、および補正を行った種についてはその理由と補正值も示した。

「国・県リスト」の種については【除外理由】として、対象種が名古屋市では絶滅危惧種と判断されなかった理由を記述した。

形態

対象種の形態の概要を記述した。この部分の記述は、特に断っていない限り全国的な資料に基づくものである。名古屋市のものが特に全国的な傾向と異なっている場合は、その点についても記述した。

分布の概要

対象種の分布状況について、市内・県内・国内・世界での概要を記述した。市内の分布は、原則として1995年以後に生育が記録された場所を区単位で示し、その裏付けとなる原則として最も新しい標本を、より詳細な採集地、採集者(長谷川、西部、村松、芹沢は名を省略)と標本番号、採集年月日と共に引用した。標本は、なごや生物多様性センターに収蔵されているものを優先し、次に愛知みどりの会収蔵標本を優先した。また、必要に応じて1994年以前に採集された標本はあるがその後確認されていない区、記録はあるが確認できない区を付記した。一部の、詳細な分布情報を公表すべきではないと判断された種については、区以下の地名表記を避けた。

標本の所在は、以下の略号で表記した。

- A : 愛知みどりの会 (AICH)
- CBM : 千葉県立中央博物館
- MAK : 首都大学東京牧野標本館
- N : なごや生物多様性センター
- TI : 東京大学総合研究博物館／理学部附属植物園
- TNS : 国立科学博物館
- CBMについては、標本登録番号を併記した。

1995年以前の記録があるが名古屋市産の標本が確認できない一部の種については、当時愛知県内で標本資料を集積できるシステムが構築されていなかったことを考慮し、現実と思われるものだけに限り文献をそのまま引用した。

市内分布図は、各区の境界を実線で表示し、自生個体群の現存が確認された、または現存の可能性が大きいと判断された区を濃色、絶滅、または絶滅の可能性が高いと判断された区を 、何らかの人為により移入されたと判断される外来個体群が存在する区を  で示した。

県内分布は、行政区分をもとに、200km²以上の市町村は分割して、県内（名古屋市を除く）を74に分け、区画ごとに原則として最も新しい標本を1点引用した。瀧崎吉伸氏からの情報提供による豊橋市立自然史博物館所蔵標本（芹沢は未確認）は、Tと表記した。紙面節約のため、区画名、採集者のうち上記4名に加えて小林元男氏と瀧崎吉伸氏の名、および愛知みどりの会所蔵標本については所蔵場所の表記を省略した。

生育地の環境／生態的特性

対象種の生育環境および生態的特性について記述した。

現在の生育状況／減少の要因

対象種の名古屋市における現在の生育状況、減少の要因等について記述した。

絶滅種については【過去の生育状況／絶滅の要因】として、対象種の名古屋市における過去の生育状況、絶滅の主な要因について文献、および標本調査結果に基づき記述した。

保全上の留意点

対象種を保全する上で留意すべき主な事項を記述した。

特記事項

異名、近似種との識別点、調査の際の留意事項、2024年5月公表のレッドリスト（案）と評価が異なる場合は前の評価区分と変更理由等、以上の項目で記述できなかった事項を記述した。

引用文献

記述中に引用した文献を、著者、発行年、表題、掲載頁または総頁数、発行機関とその所在地（または雑誌名と掲載巻・頁）の順に掲載した。

関連文献

対象種の理解の助けになる一般的文献を、著者、発行年、表題、掲載頁、発行機関とその所在地（または雑誌名と掲載巻・頁）の順に掲載した。

多くの種に関連する文献については、以下の略号を用いた。

平シダ：岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ. 平凡社, 東京.

学シダⅠ：海老原淳. 2016. 日本シダ植物標準図鑑Ⅰ. 学研, 東京.

学シダⅡ：海老原淳. 2017. 日本シダ植物標準図鑑Ⅱ. 学研, 東京.

保シダ：田川基二. 1959. 原色日本羊歯植物図鑑. 保育社, 大阪.

SOS 旧版：愛知県植物誌調査会, 1996. 植物からの SOS—愛知県の絶滅危惧植物. 同会,刈谷.

SOS 新版：愛知県自然史研究連絡会, 2002. 自然からの SOS—レッドデータブック愛知・植物編解説. 愛知みどりの会, 刈谷.

希少偶産種については、それらの種についても市内での生育状況について情報がほしいとの声が多かったことから、市内の生育状況、形態、県内・日本／世界の分布の概要、関連文献について半ページ程度で記述した。

② 執筆責任者

執筆責任者は、各種解説の末尾に、（ ）に入れて表示した。なお、ここで「執筆責任者」というのは「書かれている内容に責任を持つ者」という意味で、「文章を作成した者」という意味ではない。レッドデータブックは書く人によって内容が異なるものであってはならないから、執筆責任者が「内容に問題がない」と判断した場合は、できるだけ過去の文章をそのまま使用することにした。他人の観察など執筆責任者が十分責任を持ってない項目については、伝聞形で表記するなどして、明確化に努めた。

維管束植物 <小葉植物 ミズニラ科>

ミズニラ *Isoetes japonica* A.Br.

評価理由

水のきれいなため池や谷戸田などに生育する植物で、市内では現存を確認できない。本種が生育できそうな環境自体も著しく減少している。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	準絶滅危惧

形態

夏緑性の水草。沈水状態で生育することも、湿生のこともある。塊茎は直径2~3cmになるが名古屋市に現存するものは1cm程度、中心から放射状に出る3条の溝で浅く3分する。葉は束生し、円柱状、通常長さ15~30cmになるが名古屋市に現存するものは10~15cm、先端は次第に細くなる。葉の基部は広がり、胞子のうをつける。胞子には雌性の大胞子と雄性の小胞子がある。

分布の概要

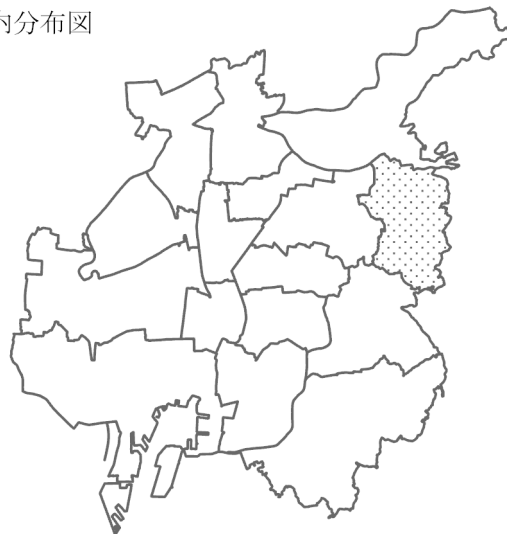
市内: 2名東区(猪高緑地, 芹沢 77437, 2001-6-9, A)に生育していた。かつては市内の丘陵地に点在していたと思われるが、標本資料は残されていない。

県内: 県 RDB2020 p.557 参照。東三河では比較的多いが、西三河では現在のところ確認されていない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山(絶滅)、春日井で確認されている。

国内: 本州全域と四国北部に分布する。

世界: 日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

貧栄養の湖沼やため池、水路、水田などに生育する。名古屋市では、ため池の岸の水湿地に抽水~陸生状態で生育していた。県内では、ため池や流れのゆるやかな水路の水中に沈水状態で生育していることもあるし、休耕田などに生育していることもある。

過去の生育状況／絶滅の要因

猪高緑地では、個体数は少なく、生育状態もよくなかった。生育地が特定できているのにここ15年以上確認できないことから、絶滅と判断した。

保全上の留意点

水質の維持、遷移の進行の防止が必要だが、現実問題としては困難である。

特記事項

目立ちにくい植物で花のないホシクサ類に似ているので、調査の際には特に注意を要する。

関連文献

保シダ p.21, 平シダ p.56, SOS 旧版 p.36+図版 23, SOS 新版 p.115.
倉田 悟・中池敏之(編). 1985. 日本のシダ植物図鑑 4:84-88. 東京大学出版会, 東京.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.8. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.20. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 デンジソウ科>

デンジソウ *Marsilea quadrifolia* L.

評価理由

全国的にも減少傾向の著しい水生植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IA 類
全国 2025	準絶滅危惧

形態

夏緑性の水生シダ植物。根茎は細く、泥土上を長く横走して不規則に分岐する。葉柄は緑色で長さ 10~15cm、葉身は 4 つ葉のクローバーに似て直径 2.5~4cm、4 枚の小葉が「田」の字に並ぶ。小葉は倒三角形、上端はゆるやかな円形で両側は直線に近く、基部は広いくさび形となる。葉柄の基部より少し上から出る短い枝に、長さ 4~5mm で豆のような形をした 1~3 個の胞子のう果をつけ、その中に数個の胞子のう群をつける。胞子には雌性の大胞子と雄性の小胞子がある。

分布の概要

市内: 12 北区(楠町, 大形 昌 s.n., 1979-10-10, A)、13 西区(五才美町, 高木順夫 s.n., 1981-10-11, A) に生育していた。8 昭和区川名公園の池にあるものは植栽由来である。

県内: 県 RDB2020 p.89 参照。豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、豊田東部(千石町, 芹沢 100015, 2021-10-28)、豊田北西部、岡崎北部、西尾南部、江南丹羽、春日井で確認されているが、かなりの区画で既に絶滅していると思われる。新城、田原西部、あま大治で採集された古い標本もある。かつては普通の水田雑草だったと思われるが、資料はほとんど残されていない。

国内: 北海道、本州、四国、九州と奄美大島に生育していたが、近年減少傾向が著しい。

世界: ヨーロッパ、インド北部~東アジア。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

水田やその周辺の水路などに生育し、水が浅いところでは挺水植物、やや深いところでは浮葉植物になる。

過去の生育状況／絶滅の要因

どちらの場所でも水田の宅地化により絶滅したものと思われる。

保全上の留意点

市内では生育できる環境がほとんど残されておらず、再発見は困難と思われる。近年のビオトープ・ブームにより原産地不明の系統があちこちに持ち込まれているので、仮に再発見されても、真の自生とは判断しにくい。生育環境の創出は望ましいが、創出した場所に生物を人為的に持ち込んだら、自然の再生にはならない。

特記事項

手作業の除草では容易に駆除できない植物であるが、除草剤の使用により激減した。カタバミモの名もある。

関連文献

- 保シダ p.170, 平シダ p.283, SOS 旧版 p.42, SOS 新版 p.114.
 倉田 悟・中池敏之(編). 1987. 日本のシダ植物図鑑 5:778-782. 東京大学出版会, 東京.
 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.12. 文一総合出版, 東京.
 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.26. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 サンショウモ科>

サンショウモ *Salvinia natans* (L.) All.

評価理由

全国的にも減少傾向の著しい水生植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全 国 2025	準絶滅危惧

形態

一年生の水生シダ植物。茎はところどころで分岐し、長さ 5~15cm になる。浮葉は単葉で楕円形~長楕円形、長さ 0.8~2cm、平坦または少し水中側へ曲がり、基部は円形で短い柄があり、2 枚が対生状につく。水中葉は細かく枝分かかれし、根のような形態と機能をもつ。胞子のう群は秋に水中葉の基部に集まってつく。

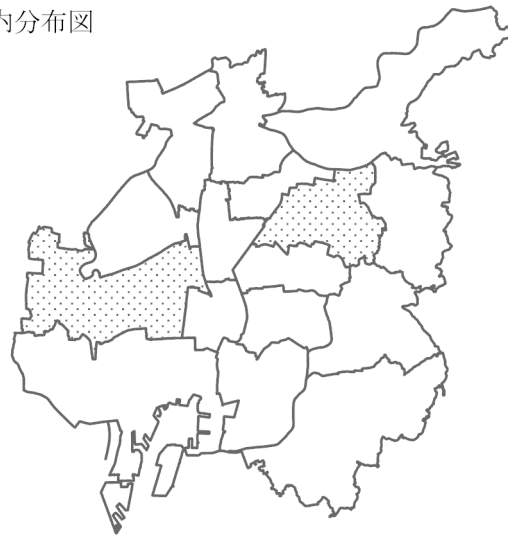
分布の概要

市内：3 千種区（東山、鈴木辰夫 s.n., 1947-8-4, N）、15 中川区（富田町戸田、高木順夫 558, 1992-9-23, A）に生育していた。

県内：県 RDB2020 p.92 参照。名古屋市のほか、豊根、豊川、豊橋北部、下山、豊田東部、豊田北西部、岡崎北部、瀬戸尾張旭、東海知多、小牧、岩倉西春、一宮西部、あま大治、海部西部の標本があるが、豊根と下山以外の現況は十分把握されていない。瀬戸尾張旭、あま大治では絶滅し、そのほかにもいくつかの区画ですでに絶滅したものと思われる。かつては普通の水田雑草で、更に多くの区画で生育していたものと思われるが、資料はほとんど残されていない。

国内：本州、四国、九州の低地に生育するが、近年減少傾向が著しい。

市内分布図



世界：ヨーロッパ、アジア、アフリカに分布し、北アメリカからも記録されている。

生育地の環境／生態的特性

平野部の水田、ハス田やその周辺の水路に生育する浮遊植物で、しばしば栄養的に繁殖して水面をおおう。

過去の生育状況／絶滅の要因

少し前までは、市内でも普通に見られる水田雑草であったと思われる。耕地整理に伴う乾田化や除草剤の使用によって減少し、最終的には生活排水の流入による水質悪化のため絶滅したものと思われる。

保全上の留意点

名古屋市内では生育できる環境がほとんど残されておらず、再発見は困難と思われる。

特記事項

県内では稀に、大形のナンゴクサンショウモ *S. cucullata* Roxb. ex Bory が逸出野生化している。

関連文献

保シダ p.171, 平シダ p.284, SOS 旧版 p.43, SOS 新版 p.143.
倉田 悟・中池敏之(編). 1987. 日本のシダ植物図鑑 5:796-801. 東京大学出版会, 東京.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.12. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.28. 文一総合出版, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 ハナヤスリ科>

アカハナワラビ *Sceptridium nipponicum* (Makino) Holub

評価理由

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 3、総点 16。名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

形態

冬緑性の多年生草本。根茎は短く直立する。葉は年に1枚、秋に出て翌春まで残存する。共通柄は長さ1.5~4cm、栄養葉は長さ4~8cmの柄があり、葉身は五角形、長さ5~15cm、幅7~20cm、やや3出葉的に3回羽状に切れ込み、表面はくすんだ緑色で、冬季赤変する。胞子葉は長さ15~30cmの柄があり、葉身は長さ4~12cm、2~3回羽状に切れ込む。胞子は9月末~11月はじめに熟す。フユノハナワラビに似ているが、葉の切れ込みが浅く、裂片はやや鋭頭、最下羽片以外の羽片や小羽片の柄は短い。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

分布の概要

市内：2名東区（牧野池、村松 34819, 2023-11-6, N）に生育している。

県内：低山地や丘陵地に点在しているが、多いものではない。1（瀬戸、芹沢 46736, 1987-8-29）、2（上黒川、芹沢 94489, 2018-9-2）、3（月、芹沢 79333, 2004-8-21）、8（海老、芹沢 64292, 1992-10-16）、11（善夫、芹沢 87949, 2012-9-23）、13（音羽町長沢、福原 稔 14180, 1989-11-19）、15（嵩山町、芹沢 40906, 1984-10-10）、17（赤羽根町高松、芹沢 71220, 1994-10-4）、5（大野瀬町、芹沢 87989, 2012-10-2）、20（怒田沢、芹沢 78950, 2003-10-4）、29（岩津町、小林 83613, 2004-11-21）、37a（下半田川町、日比野修 5255, 2000-11-12）、45（栗栖、芹沢 85584, 2010-5-8）などで確認されている。名古屋市以外の県西部確認区画数は3である。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

保全緑地の小さい流れにそった林内に、モトマチハナワラビ（392 頁参照）、オオハナワラビに混じって少数株が生育している。

現在の生育状況／減少の要因

2023 年には胞子葉をつけたものが2株あったそうだが、2024 年には栄養葉のみの個体しか見当たらなかった。生育地の林は現在のところ保全されているが、広場に接しているため、その拡張工事等で失われるおそれがある。

保全上の留意点

上述のような理由で、生育地の個別的な保全が必要である。

特記事項

2024 年のリスト案には掲載されていないが、その後になって名古屋市にも生育していることが判明した。

関連文献

平シダ p.67, 学シダ I p.292.

（芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 コバノイシカグマ科>

イシカグマ *Microlepia strigosa* (Thunb. ex Murray) Presl**評価理由**

生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 2。暖地性の植物で、名古屋市は分布域の北限に近い。定性的に絶滅危惧 IA 類と評価したが、市内ではすでに絶滅している可能性もある。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	準絶滅危惧
全国 2025	—

形態

常緑性のシダ植物。根茎は長く匍匐し、黄褐色で長さ 2mm 程度の硬毛が密生する。葉柄は長さ 30～60cm、葉身は卵状長楕円形～広披針形で 2 回羽状複生し、長さ 20～80cm、幅 20～35cm、先端は鋭尖頭になる。羽片は 20 対をこえることがあり、大きいものは長さ 20cm、幅 4cm に達し、先端は尾状にのびる。下部の羽片は多少短くなる。羽軸の表面は無毛で、裏面には短毛が密生する。胞子のう群は葉縁に接してつく。

分布の概要

市内：5 緑区（大高町西丸根、堀田喜久 5499, 1996-9-14, A）に生育していた。

県内：県 RDB2020 p.560 参照。愛知県では生育地も個体数も少ない植物で、名古屋市のほか豊川、蒲郡、田原東部、田原西部、高浜碧南（34b 矢作川、芹沢 104512, 2024-10-14, A）、西尾南部（吉良町饗庭、村松 35677, 2024-10-9, A）、東海知多、常滑、美浜南知多（44a 野間、芹沢 100038, 2021-10-30, A）で確認されている。豊橋北部（豊橋公園、恒川敏雄 306, 1950-5-19, T）で採集された標本もある。

国内：本州（千葉県南部、伊豆諸島、伊豆半島から西の海岸沿い）、四国、九州、琉球、小笠原に生育する。紀伊半島南部まで行けば、普通に見られる種類である。

市内分布図



世界：ヒマラヤ、スリランカからポリネシアにかけての熱帯・亜熱帯に広く分布する。

生育地の環境／生態的特性

海岸近くの林内や林縁に群生し、時には石垣の間などにも生育している。名古屋市の生育地も住宅地近くのやぶで、特に自然度が高い場所というわけではなかった。

現在の生育状況／減少の要因

小群落になって生育していたが、最近の状況は確認していない。すでに絶滅しているかもしれないが、別の場所に再度出現する可能性もある。

保全上の留意点

潜在的生育地である海岸近くの丘陵地の自然を全体として保全することが重要である。

特記事項

石垣や石ころだらけの所に生えるから、イシカグマという。「カグマ」はシダ類の古名である。

関連文献

保シダ p.50, 平シダ p.103.

倉田 悟・中池敏之(編). 1979. 日本のシダ植物図鑑 1:170-178. 東京大学出版会, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 ヒメシダ科>

ツクシヤワラシダ *Thelypteris hattorii* (H.Ito) Tagawa var. *nemoralis* (Ching) Sa.Kurata**評価理由**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 4、固有度補正+1、総点 18。日華区系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IA 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全 国 2025	—

形態

夏緑性の多年生草本。根茎は短くはい、先端に少数の葉をつける。葉柄は長さ 17~45cm、表側に単細胞の短毛があり、裏側は無毛である。葉身は三角状長卵形、3 回羽状浅~中裂、長さ 23~50cm、幅 18~30cm、最下羽片には短い柄があることが多いが、無柄のこともある。胞子のう群はやや辺縁よりにつき、包膜は円腎形である。

分布の概要

市内：1 守山区（下志段味穴ヶ洞、芹沢 83276, 2008-9-13, A）に生育している。

県内：県 RDB2020 p.381 参照。名古屋市のほか、鳳来北東部、鳳来北西部、作手、豊橋北部、犬山に生育している。隣接する岐阜県美濃地方には点在する。

国内：本州（愛知県、岐阜県、奈良県、広島県）、四国（愛媛県）、九州。

世界：日本および中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

腐植質の多い林床に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市ではアイグロマツ造林地の林内にごく少数が生育していたが、ごく最近の状況は確認されていない。開発や森林の伐採により失われるおそれがある。

保全上の留意点

生育地は名古屋市としてはシダ植物の多い場所で、本種のほかにもシノブ、ヒメワラビ、オシダ、イワヘゴなどが生育していた。生育地の個別的な保全が必要である。

特記事項

ヨコグラヒメワラビ var. *hattorii* とヤワラシダ *T. laxa* (Franch. et Sav.) Ching 低地型の中間のような形状をしており、時にヤワラシダ低地型の葉の切れ込みが深い個体とまぎらわしくなることがある。名古屋市のものもやや小さい個体で、できればより発育したものを採取して確認する必要がある。ヨコグラヒメワラビは深山性の植物で、低山地や丘陵地には生育していない。

関連文献

平シダ p.213.

倉田 悟・中池敏之(編), 1983. 日本のシダ植物図鑑 3:582-585. 東京大学出版会, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 ハナヤスリ科>

モトマチハナワラビ *Sceptridium* sp.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 4、総点 14。愛知県では希少な植物で、名古屋市でも生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 IB 類
全国 2025	—

形態

常緑性の多年生草本。根茎は短く直立する。葉は年に 1 枚、秋に出て翌年の葉が展開する頃まで残存する。共通柄は長さ 3.5～8cm、栄養葉は長さ 7～15cm の柄があり、葉身は五角形、長さ 8～18cm、幅 11～24cm、やや 3 出葉的に 3 回羽状に深裂し、葉裂片は長楕円形で辺縁に欠刻状の鋸歯があり、表面は深緑色でやや光沢がある。胞子葉は長さ 15～25cm の柄があり、葉身は長さ 6～12cm、3 回羽状に切れ込む。胞子は 10 月下旬～11 月中旬に熟す。シチトウハナワラビに比べ、共通柄がやや短い傾向があり、葉の切れ込みが深く、裂片が細い。葉の切れ込みが深いため葉縁の鋸歯が顕著のように見えるが、オオハナワラビの葉縁の鋭鋸歯とは形状がやや異なる。同所に生育しているオオハナワラビに比べ、胞子はやや遅く成熟する。

分布の概要

市内：2 名東区（牧野池、長谷川 262, 2022-2-24, N）に生育している。

県内：名古屋市以外の既知の産地は、37b（森林公園、芹沢 86517, 2010-10-17, A）の 1 ヶ所だけである。この場所でも 20 株程度の小集団があるだけなので、牧野池の集団は県内で最大と思われる。

国内：研究中の人がいるので、詳細な記述は控える。

世界：おそらく日本固有種と思われる。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

常緑樹の多い林内に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

保全緑地の小さい流れにそった林内に数十個体が群生している。同所にオオハナワラビ、アカハナワラビ、本種とオオハナワラビの雑種の可能性がある大形の個体も生育している。生育地の林は現在のところ保全されているが、広場に接しているため、その拡張工事等で失われるおそれがある。

保全上の留意点

上述のような理由で、生育地の個別的な保全が必要である。

特記事項

2024 年のリスト案には掲載されていないが、再検討の結果何らかの形で掲載すべきものであることが判明した。モトマチハナワラビと仮称されている植物とシチトウハナワラビの異同については現在詳細な検討が行われているが、ここではとりあえず「モトマチハナワラビ」として収録しておく。37b 尾張旭の植物は、県 RDB2020 ではシチトウハナワラビに含めて掲載されている。なおオオハナワラビ *S. japonicum* (Plantl) Lyon は、2015 年版では準絶滅危惧として掲載したが、その後新しい産地が発見され、今回のレッドデータブックではリスト外と判定された。

関連文献

現在のところ公表されている一般的な文献はない。

(芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 ゼンマイ科>

ヤマドリゼンマイ *Osmundastrum cinnamomeum* (L.) C.Presl var. *fokiense* (Copel.) Tagawa**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 14。通常は温帯域の湿地に生育する植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

夏緑性のシダ植物。根茎は短く、匍匐または斜上し、葉を束生する。葉は二形性、栄養葉は長さ 10～30cm の柄があり、葉身は卵状披針形、長さ 30～80cm、幅 15～25cm、黄緑色で 2 回羽状深裂し、若芽は赤褐色の綿毛に被われるが後に無毛となる。孢子葉は春早く、栄養葉より先に伸び、栄養葉より丈が低く、羽片は羽軸に接してつき、孢子が散った後に赤褐色となる。

分布の概要

市内：5 緑区（滝ノ水 2 丁目、長谷川 590, 2023-4-16, N）に生育している。千種区にもあるという話を聞いたが、裏付けとなる標本を確認できなかった。

県内：東三河、西三河には点在するが、尾張では少ない。2（坂宇場、芹沢 44556, 1986-8-30）、4（箱淵、芹沢 70674, 1994-9-2）、6（松戸、芹沢 80180, 2005-8-28）、7（田口、小林 66071, 1999-5-8）、10 連合須山、小林 58027, 1995-9-15）、11（岩波、芹沢 82869, 2008-5-17）、13（宮路山、小林 76643, 2002-10-20）、15（三ツ口池、芹沢 30552, 1979-8-31）、18（伊川津、芹沢 74788, 1998-7-25）、5（小田木、塚本威彦 2619, 1998-5-14）、19（駒山、村松 90-235, 1990-8-25）、20（筈ヶ岳、日比野修 3484, 1996-6-23）、21（下山田代町、芹沢 100480, 2022-7-12）、23（御作、芹沢 54917, 1990-5-17）、24（御船町、芹沢 51450, 1989-5-13）、25（八草町、芹沢 85593, 2010-5-9）、30（池金町、芹沢 51207, 1989-4-22）、37a（下半田川町、塚本威彦 2949, 2001-5-7）、37b（新居、村松 22008, 2003-10-13）、45（池野、芹沢 55286, 1990-5-30）、47（内津、瀧崎 10040, 1987-8-31）、48（廻間町、山田果与乃 1414, 2008-5-10）などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州（屋久島まで）。

世界：東アジアと北アメリカの温帯域に広く分布する。

生育地の環境／生態的特性

愛知県の丘陵地では、湧水湿地周辺の林縁部に生育することが多い。本州中部以北の山地では、湿原の日当たりのよい場所にしばしば大きな群落をつくる。

現在の生育状況／減少の要因

狭い範囲に、数株が生育している。緑地として保全されている場所であるため、現在のところ生育状況に大きな変化はない。

保全上の留意点

湿地性の植物なので、生育地だけ残されても水源部がなくなれば生育できなくなる。水源部を含めた丘陵地の保全が必要である。

特記事項

和名は山鳥ゼンマイの意味で、ヤマドリのすむようなところに生えるからだと言われる。森林公園の尾張旭市側には生育しているので、注意して探索すれば守山区でも発見される可能性がある。2024 年の仮リストでは準絶滅危惧として掲載したが、再検討の結果評価が変更された。千種区にあるという情報が事実なら、評価は絶滅危惧 II 類に変更される。

関連文献

平シダ p.73, 学シダ I p.306.

倉田 悟・中池敏之(編). 1985. 日本のシダ植物図鑑 6:340-354. 東京大学出版会, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 イノモトソウ科>

オオバノハチジョウシダ *Pteris terminalis* Wall.

評価理由

生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1。暖地性の植物で、市内では現存が確認できないが、再出現する可能性を考慮し、定性的に従来の評価を踏襲した。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

半常緑性の多年生草本。根茎は太く、短く横にはう。葉は束生し、葉柄は長さ 40~80cm、基部は赤褐色を帯びる。葉身は楕円状卵形、大きいものでは長さ 100cm、幅 60cm 以上になるが名古屋のものは長さ 55cm、幅 35cm 程度、2 回羽状全裂、5~9 対の側羽片と頂羽片からなり、各羽片は多数の小羽片をつけるが、先端部 2~3cm は切れ込まず尾状になる。小羽片は線状三角形~三角状披針形、長さ 3~6cm、幅 5~10mm、葉脈はすべて遊離する。胞子のう群は葉縁に沿って長くつき、偽包膜におおわれる。

分布の概要

市内：1 守山区（東谷山、村松 28185, 2015-10-23, A）に生育していた。

県内：東三河には点々と分布しているが西三河と尾張では少ない。3（大入溪谷、芹沢 39019, 1983-10-28）、6（川向、芹沢 83000, 2008-8-23）、8（池場、芹沢 81638, 2007-6-27）、9（竹ノ輪、芹沢 60620, 1991-9-30）、12（船着山、芹沢 38188, 1983-9-22）、17（仁崎、小林 72562, 2001-6-26）、5（押山、小林 82050, 2004-7-25、若い株）、21（田折町、芹沢 86106, 2010-8-22）、37a（東山路町、村松 24028, 2007-10-7）、45（善師野、村瀬正成 4937, 1992-5-31）、48（廻間町、芹沢 68910, 1993-10-26）などで確認されている。15（嵩山、恒川敏雄 1555, 1946-1-11, T）、24（勘八山、大原準之助 s.n., 1965-11-29）で採集された標本もある。

国内：本州（秋田県以南）、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、台湾、中国大陆、東南アジア、ハワイ。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

山地の沢沿いに生育する。

現在の生育状況／減少の要因

東谷山北側の沢に 2 株生育していたという。現地は 1985 年頃砂防堰堤が作られた場所で、その後に定着したと思われる。しかし、2018 年 6 月に再調査した時には確認できなかった。ニホンジカによる食害が原因と思われる。

保全上の留意点

市内では東谷山以外に生育できそうな環境がない植物である。生育地の地形や植生を保全することが必要である。

特記事項

オオバノアマクサシダ var. *fauriei* (H. Christ) Ebihara et Nakato は羽片先端の尾状部分が長く、小羽片が少なく、幼株では羽片前側が分裂しないもので、6（田内、小林 60416, 1996-10-26）、8（名越~川合、芹沢 38574, 1983-10-7）、9（炭焼田峠（芹沢 46064, 1987-7-23）、10（布里、芹沢 70503, 1994-8-28）、12（横川、芹沢 86134, 2010-8-29）、14（坂本町、小林 77563, 2003-1-4）、15（嵩山町、芹沢 42798, 1985-10-27）、21（田折町、高島貴聖 3, 2010-3-30）、29（蓬生町、芹沢 66663, 1993-7-24）などで確認されているが、尾張ではまだ発見されていない。

関連文献

平シダ p.135, 学シダ I p.380,

倉田 悟・中池敏之（編）. 1985. 日本のシダ植物図鑑 4:174-185. 東京大学出版会, 東京.

（芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 チャセンシダ科>

チャセンシダ *Asplenium trichomanes* L.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 3、総点 15。名古屋市では1ヶ所で生育が確認されているだけで、これが尾張地方で唯一の自生地である。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性のシダ植物。根茎は短く直立し、葉と枯れた葉柄を多数束生する。葉柄は短く、中軸と共に光沢のある紫褐色で、表側に褐色で薄紙質の狭い翼が2枚つく。葉身は線形、単羽状複生、長さ5~25cm、幅1.2~2cm。羽片は20~30対で長楕円形、長さ5~12mm、幅2~4mm、先端は円頭、基部は広いくさび形、辺縁にはごく浅い鋸歯がある。胞子のう群は各羽片に2~4対つき、長楕円形~線形、長さ約1.5mmである。

分布の概要

市内: 7 中区 (名古屋城, 芹沢 78091, 2002-9-14, A) に生育している。

県内: 2 (大入川, 芹沢 87939, 2012-9-22)、6 (川向, 芹沢 83007, 2008-8-23)、8 (鳳来寺山, 芹沢 86458, 2010-10-11)、9 (下吉田, 小林 66489, 1999-6-13)、14 (五井山, 小林 78010, 2003-4-6)、19 (小渡, 芹沢 64296, 1992-10-17)、20 (戸中, 山崎玲子 565, 1993-7-11)、21 (下山田代町, 芹沢 93202, 2017-9-8)、24 (王滝溪谷, 堀田善久 85-841, 1985-7-21)、28 (桜形, 村松 10879, 1991-10-20)、29 (切越町, 小林 55098, 1994-11-13) などに生育している。15(豊橋公園, 瀧崎 4834, 1980-9-22)、25(猿投山, 岡本英一 74, 1958-8-18) で採集された標本もある。尾張では名古屋市で確認されているだけである。

市内分布図



国内: 北海道、本州、四国、九州に広く分布するが、東北日本では少ない。

世界: 全世界の温帯~暖帯に広く分布している。

生育地の環境／生態的特性

岩場や村落の石垣などに生育する。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋城では複数の小群落があり、大きいものは葉長 25cm に達し、生育状況も良好であった。しかし、最近の状況は確認していない。

保全上の留意点

生育地は文化財として保全されている場所なので、過度の除草等が行われなければ、将来も存続すると思われる。

特記事項

和名は茶筌シダで、多数の枯れた葉柄が束生する状態から名付けられたといわれる。2024 年の仮リストでは絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、再検討の結果評価が変更された。

関連文献

保シダ p.149, 平シダ p.149.

倉田 悟・中池敏之(編). 1985. 日本のシダ植物図鑑 2:196-205. 東京大学出版会, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 シシガシラ科>

コモチシダ *Woodwardia orientalis* Sw.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 1、総点 14。暖地性のシダ植物で、特に深山性というわけではないが、名古屋市では生育地がきわめて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性のシダ植物。根茎は太くて短くはい、葉を束生する。根茎と葉柄の基部には、披針形、長さ 2～3cm、膜質で褐色の鱗片を密生する。葉柄は長さ 30～60cm、葉身は狭卵形～広卵形で 2 回羽状中裂～ほぼ全裂、長さ 30～200cm、厚い革質である。裂片は長三角形で鋭頭、辺縁に鋸歯がある。葉の表面に楕円形の無性芽をたくさんつけることが多い。胞子のう群は羽軸や小羽軸に沿ってならび、狭長楕円形で長さ 2～5mm、宿存性の厚い包膜に包まれる。

分布の概要

市内：1 守山区（竜泉寺、長谷川 303, 2022-4-25, N）に生育している。

県内：東三河南部には比較的多いが、他では少ない。2（大入溪谷、村松 21404, 2002-8-24）、3（大入川、芹沢 104399, 2024-9-21）、7（荒尾、芹沢 64477, 1992-10-30）、8（川合、芹沢 87435, 2011-9-24）、9（乗本、芹沢 81593, 2007-6-23）、12（日吉、芹沢 59215, 1991-7-24）、13（長沢、瀧崎吉伸 19415, 2002-3-23, T）、15（石巻萩平町、芹沢 64180, 1992-10-7）、16（伊古部町、瀧崎 17161, 1998-11-27）、17（赤羽根町若見、芹沢 56680, 1990-8-28）、18（伊良湖古山、松井紀枝 74, 1986-1-15）、23（大岩、日比野修 3128, 1995-9-9）、24（長沢町、芹沢 99185, 2021-9-15）、25（猿投山、畑佐武司 364, 1999-7-24）、28（鍛埜、小林 55517, 1994-12-23）、36（西幡豆、壁谷重美子 829, 1994-8-12）、37a（海上町、塚本威彦 1729, 1995-9-26）、43（大谷、鳥居ちゑ子 1701, 1999-10-11）、44b（山海岩屋、大西 博 70, 1991-10-3）などに生育している。

国内：本州（東北地方南部以南）、四国、九州に分布する。国内の南限は屋久島である。変種のハチジョウウカグマ var. *formosana* Ros. は、本州（関東地方南部）、四国、九州、琉球、小笠原に分布する。

世界：日本と中国大陆に分布する。種としては日本、フィリピンからヒマラヤまで分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

主に山麓や海岸近くの丘陵地などに生育し、崖地から大きな葉を下垂させることが多い。

現在の生育状況／減少の要因

竜泉寺には複数の群落があったが、道沿いのものは拡幅工事等により生育地が削られ、消滅してしまった。現存している群落は一つだけで、そこでは大きい株は数株だが、子株を含めると 20～30 株が生育している。

保全上の留意点

生育地の崖地を保全することが必要である。

特記事項

和名は子持ちシダで、葉の表面に多数の無性芽をつけることに由来する。

関連文献

保シダ p.144, 平シダ p.157.

倉田 悟・中池敏之(編). 1985. 日本のシダ植物図鑑 5:718-731. 東京大学出版会, 東京.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 メシダ科>

ウラボシノコギリシダ *Anisocampium sheareri* (Baker) Ching

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 2、総点 14。愛知県ではあまり多くない植物で、特に尾張部では生育地が少ない。名古屋市では最近になって初めて 1 ケ所での生育が確認された。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性のシダ植物。根茎は横に這う。葉はやや二形性、葉柄は長さ 10~15cm、わら色か多少紅紫色をおび、基部は暗色で、線状披針形、長さ 3-5mm、褐色~茶色、全縁で膜質の鱗片がある。葉身は卵状三角形~長楕円形、長さ 20~30cm、幅 10~20cm、単羽状複生、羽片は浅裂~中裂、まれに深裂する。胞子のう群は円形~楕円形、裂片のやや中肋近くに 1 列に並ぶ。

分布の概要

市内：3 千種区（田代町、長谷川 568, 2023-3-6, N）に生育している。

県内：8（砥沢、芹沢 59870, 1991-8-24）、9（乗本、小林 48716, 1993-10-13）、12（市川、小林 49717, 1993-12-11）、13（牛久保町、小林 70879, 2000-12-31）、15 石巻山、芹沢 67021, 1993-8-23）、17（田原稲荷神社、小林 74683, 2002-4-20）、24（王滝溪谷、畑佐武司 5617, 2002-11-13）、28（宮崎、芹沢 33912, 1981-10-20）、35（家武町、村松 35741, 2024-10-29）、37b（新居、長谷川 285, 2022-3-5, N）、44b（内海内福寺、芹沢 85148, 2009-12-3）などで確認されている。

国内：本州（北陸地方・関東地方以西）、四国、九州。

市内分布図



世界：日本、朝鮮半島（済州島）、台湾、中国大陆。

生育地の環境／生態的特性

暖地の低山地の林内や林縁に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

元庭園の石積みの水路沿いに数株が生育している。生育状況からは自生とみられるが、工事の際に何かについて移入された可能性は完全には否定できない。

保全上の留意点

生育地は石積で他の種が旺盛に生育する環境ではない。現状を維持すればよさそうである。

関連文献

平シダ p.232-233, 学シダ II p.324.

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 メシダ科>

ニセコクモウクジャク *Diplazium conterminum* H.Christ**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県西部分布階級 3、総点 14。愛知県では少ない暖地性のシダ植物で、名古屋市でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	絶滅危惧 II 類
全国 2025	—

形態

常緑性のシダ植物。根茎は横に這う。葉柄は長さ 30～50cm、わら色、基部は暗色で密に鱗片をつける。鱗片は線状披針形、長さ 15mm に達し、黒色で光沢があり、かたい膜質、辺縁に刺状の突起がある。葉身は三角形～卵状三角形、長さ、幅ともに 30～75cm、2 回羽状複生、下部の羽片には長い柄がある。小羽片は披針形～三角状披針形、長さ 5～8cm、幅 1.5～2cm、先端は鋭頭～鋭尖頭、基部は切形、短い柄があり、浅～中裂する。胞子のう群は裂片の辺縁寄りにつく。

分布の概要

市内：2 名東区（明德公園、長谷川 11, 2020-3-18, N）に生育している。

県内：県 RDB p.208 参照。県内では生育地が限られている暖地性のシダ植物で、新城、豊川、豊橋北部、幸田、西尾北部（貝吹町、村松 34909, 2024-3-21, A）で確認されているだけであり、名古屋市は尾張では唯一の自生地である。

国内：本州（神奈川県以西）、四国、九州、琉球。

世界：日本、台湾、中国大陸南部、ベトナム、タイ。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

沢沿いの照葉樹林内に群落を作って生育していることが多い。ただし市内では、発達した落葉広葉樹二次林の林下に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

明德公園内のコナラの大径木が生育するよく発達した 2 次林内の緩斜面に生育している。最大葉身長 52cm、被覆面積は 1m²程度で、長谷川（2021）では 1 株と記述したが、根茎が匍匐して先端がある程度わかれているので、今回は個体数階級 3 とした。保全緑地内であるが、何かの事情で生育地の林が伐採される可能性がある。

保全上の留意点

生育地の林を保全する必要がある。

特記事項

名古屋市は分布域の北限に近い自生地である。

引用文献

長谷川泰洋. 2021. 名古屋市におけるニセコクモウクジャクの新産地. なごやの生物多様性 8:57-63

関連文献

平シダ p.255, 学シダ II p.330.

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 オシダ科>

ヌカイタチシダモドキ *Dryopteris indusiata* (Makino) Makino et Yamam.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 2、総点 14。暖地性の植物で、市内では 1 ヶ所に生育しているだけである。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の多年生草本。根茎は比較的小さく、斜上しする。葉は少数が束生し。葉柄は長さ 20~35cm で、基部に披針形で黒褐色の鱗片をつける。葉身は三角形~三角状卵形、通常長さ 30~50cm、幅 25~30cm、2 回羽状複生である。羽片は 6~9 対、ほとんど無柄、下部のものはほぼ対生し、羽軸は中軸からほぼ直角に出て多少湾曲し、上部のものは次第に小さくなる。小羽片は 10~15 対、広披針形で大きいものは長さ 6cm、幅 2cm くらいになり、通常羽状に中~深裂、最下のものはやや小さくなって後側は中軸に重なる。胞子のう群は小羽軸または裂片の中肋と葉縁の中間につき、包膜は円腎形、若時紅色を帯びない。

分布の概要

市内: 1 守山区(東谷山, 長谷川 802, 2023-9-18, N) に生育している。

県内: 低山地に点在するが、犬山以外では少ない。2 (古真立, 小林 83538, 2004-10-7)、6 (川向, 芹沢 82778, 2008-8-23)、8 (川合, 芹沢 100569, 2022-9-2)、9 (下吉田, 小林 65711, 1999-3-22)、10 (布里, 小林 55240, 1994-11-23)、11 (岩波, 芹沢 91463, 2016-9-3)、13 (長沢, 瀧崎 20797, 2003-6-14, T)、15 (多米町, 瀧崎 21501, 2004-8-28, T)、28 (保久町, 芹沢 104582, 2024-10-29)、30 (藤川町, 芹沢 43355, 1985-11-17)、37a (海上町, 芹沢 81731, 2007-7-7)、37b (平子町, 村松 81-194, 1981-7-23)、45 (栗栖, 村松 26972, 2013-8-2)、47 (大山, 芹沢 87126, 2011-6-26) など確認されている。

市内分布図



国内: 本州 (伊豆半島以西)、四国、九州、屋久島。

世界: 日本および中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

林内の岩場に生育することが多いが、林床に生育していることもある。

現在の生育状況／減少の要因

東谷山北側の林道わきに、葉身長 35cm 程度の株が 5 株程度生育していたという。

保全上の留意点

林道わきの斜面に生育しているので、拡張工事などの時には特に注意が必要である。

特記事項

葉の大きさは変異が著しく、時には葉柄長 10cm、葉身長 15cm 程度でよく胞子のう群をつけるものもある。

関連文献

平シダ p.195, 学シダ II p.369

倉田 悟・中池敏之 (編). 1985. 日本のシダ植物図鑑 4:468-478. 東京大学出版会, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 オシダ科>

ヌカイタチシダマガイ *Dryopteris simasakii* (H. Ito) Sa. Kurata

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級階級 2、総点 14。暖地性の植物で、市内では 1 ヶ所に生育しているだけである。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の多年生草本。根茎は斜上する。葉柄は長さ 25～40cm、基部は密に、上部はややまばらに淡赤褐色でやや幅広い鱗片がつく。葉身は三角状卵形、長さ 35～50cm、幅 22～40cm、3 回羽状浅～深裂、先端は次第に、またはやや急に狭くなって鋭尖頭となる。羽片は 7～12 対、小羽片は 10～18 対。胞子のう群は円形で、直径約 1mm、辺縁と中肋の中間につき、包膜は円腎形である。

分布の概要

市内：1 守山区（東谷山、村松 19678, 2000-7-22, A）に生育している。ただし、2024 年の調査では見つからなかったらしい。

県内：犬山には多いが、他では稀である。6（川向、芹沢 82982, 2008-8-23）、8（鳳来寺、鈴木 学 3180, 1983-10-25）、25（広幡町、村松 20764, 2001-8-13）、37a（広久手町、芹沢 75903, 1999-7-4）、37b（新居、村松 19867, 2000-8-23）、45（栗栖、芹沢 87737, 2012-7-29）、47（大山、村松 17271, 1997-10-25）などで確認されている。

国内：本州（中部・近畿）、四国、九州。岐阜県岐阜市金華山周辺では犬山以上に多いが、他では少ない。

世界：日本、中国大陸南部。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

林内の岩場に生育することが多いが、林床に生育していることもある。

現在の生育状況／減少の要因

東谷山南西麓に、葉身長 30cm 程度の株が少数生育していたらしい。

保全上の留意点

生育地の林の保全が必要である。

特記事項

2020 年のレッドリストでは希少偶産種としたが、複数株が確認されていたようなので評価の対象とした。2024 年の仮リストでは絶滅危惧 II 類としたが、再検討の結果評価が変更された。

関連文献

平シダ p.196, 学シダ II p.370.

（西部めぐみ 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 ウラボシ科>

クリハラン *Neolepisorus ensatus* (Thunb.) Ching

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県西部分布階級 3、総点 14。暖地性の植物で、市内では 1 ヶ所に生育しているだけである。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の多年生草本。根茎は長く這い、直径 4~5mm、淡褐色の鱗片におおわれる。葉は 1~4cm 間隔で出て、葉柄は長さ 10~25cm、まばらに鱗片がつく。葉身は披針形~線状長楕円形、単葉、長さ 25~40cm、幅 4.5~8cm、中央部が最も広く上下に向かって狭くなることも、下部でやや急に狭くなり葉柄に翼状に流れることもある。主側脈は 8~13mm 間隔で出る。胞子のう群は円形~楕円形、成熟して長さ 2~5mm、中肋の両側に 1~4 列に不規則に並ぶ。

分布の概要

市内：3 千種区（平和公園、長谷川 s.n., 2019-10-23, N）に生育している。

県内：東三河には点々と分布しているが、西三河と尾張では稀である。2（佐久間ダム、村松 14372, 1993-10-10）、3（大入溪谷、芹沢 39033, 1983-10-28）、8（海老川売、芹沢 64275, 1992-10-16）、9（阿寺川、芹沢 45342, 1986-11-3）、12（船着山、芹沢 38202, 1983-9-22）、13（東上町、芹沢 82619, 2007-10-7）、15（石巻町、瀧崎 15231, 1994-9-10）、17（大久保、小林 49430, 1993-11-7）、23（北曾木町、村松 28169, 2015-10-9）、24（王滝溪谷、畑佐武司 2809, 2002-3-26）、44b（内海内福寺、芹沢 101747, 2023-6-18）などで確認されている。

国内：本州（東北地方南部以南）、四国、九州、琉球。

市内分布図



世界：日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、東南アジア。

生育地の環境／生態的特性

通常は山地の湿った地上に生じ、根茎を伸ばして群生する。

現在の生育状況／減少の要因

公園内のやや乾いた緩傾斜の林床に、それぞれ 10 葉ほどの小群落が 3 つある。

保全上の留意点

公園内なので、現在の管理を継続すれば保全されると思われる。

特記事項

和名は栗葉蘭で、葉の形がクリ（ブナ科）に似ているからである。

関連文献

平シダ p.268, 学シダ I p.466.

倉田 悟・中池敏之（編）. 1981. 日本のシダ植物図鑑 2:526-536. 東京大学出版会, 東京.

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 コケシノブ科>

コウヤコケシノブ *Hymenophyllum barbatum* (Bosch) Baker

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。暖地性の植物で、市内では 1 ヶ所に生育しているだけである。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の多年生草本。茎は細い針金状で、長く這う。葉はややまばらに出て、葉柄は長さ 1~3cm、葉身は長楕円形~卵形、長さ 3~8cm、幅 2~3cm、2 回羽状、一部 3 回羽状に切れ込み、羽片は 4~12 対、裂片は幅 0.7~1.5mm で円頭、辺縁に歯牙がある。中軸と羽軸には裂片とほぼ同幅の翼がある。胞子のう群は葉の上部につくが最先端につかない部分があることもあり、包膜は 2 弁状、円形~卵形、長さ 1~2mm、上部辺縁に歯牙がある。

分布の概要

市内: 1 守山区(東谷山, 村松 29701, 2018-6-23, N) に生育している。

県内: 三河山地では普通にみられる植物で、1 (漆島川, 芹沢 46810, 1987-8-30)、2 (坂宇場, 村松 26473, 2012-8-14)、3 (西菌目, 村松 24904, 2009-9-21)、4 (面ノ木峠, 村松 18095, 1998-8-23)、6 (段戸山裏谷, 芹沢 103207, 2023-11-21)、8 (湯谷~榎原, 芹沢 45365, 1986-11-3)、10 (布里, 芹沢 70509, 1994-8-28)、11 (荒原, 芹沢 70528, 1994-8-28)、12 (横川, 芹沢 64525, 1992-11-8)、13 (萩, 瀧崎 19347, 2002-1-26, T)、15 (石巻町, 瀧崎 13595, 1992-8-14)、17 滝頭(伊藤三也 s.n., 1992-11-10)、18 (高木, 小林 50091, 1994-3-19)、5 (川手, 塚本威彦 2547, 1997-10-5)、19 (駒山, 芹沢 42293, 1985-10-12)、20 (御蔵, 塚本 1939, 1996-6-19)、21 東大沼, 芹沢 62831, 1992-8-27)、22 (大沢, 芹沢 42653, 1985-10-26)、23 (大岩, 塚本威彦 1447, 1995-5-5)、24 (国附町, 芹沢 68860, 1993-10-22)、28 (くらがり溪谷, 芹沢 29877, 1979-7-2)、29 (茅原沢町, 芹沢 47416, 1987-10-18)、30 (t)、37a (広久手町, 芹沢 76354, 1999-9-10)、45 (八曾, 芹沢 48891, 1988-7-7)、47 (大山, 芹沢 87129, 2011-6-26)、48 (内津町, 山田果与乃 917, 2003-4-15) など確認されている。9 (阿寺, 恒川敏雄 s.n., 1961-9-8, T)、25 (猿投山, 岡本英一 16, 1958-8-27) で採集された標本もある。

国内: 本州、四国、九州、琉球。

世界: 日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、東南アジア。

生育地の環境／生態的特性

沢沿いの林内の岩場にマット状に生育していることが多いが、樹幹に着生することもある。

現在の生育状況／減少の要因

東谷山北側の沢の岩場に小群落があるという。

保全上の留意点

市内では東谷山以外に生育できそうな環境がない植物である。生育地の地形や植生を保全することが必要である。

特記事項

葉裂片の辺縁に歯牙があることで、他のコケシノブ類から容易に区別できる。コケシノブ科の植物は通常空中湿度の高い場所に生育するため山地では普通に見られる種類でも丘陵地や平野部では少なく、名古屋市では本種の他はウチワゴケ(準絶滅危惧)が生育しているだけである。

関連文献

平シダ p.83, 学シダ I p.310

倉田 悟・中池敏之(編). 1987. 日本のシダ植物図鑑 5:36-49. 東京大学出版会, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 チャセンシダ科>

ヌリトラノオ *Asplenium normale* D.Don

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。暖地性のシダ植物で、名古屋市では最近になって初めて 1 ケ所での生育が確認された。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性のシダ植物。根茎は斜上し、葉を束生する。葉柄は長さ 10～13cm、暗紫褐色～ほとんど黒色で光沢があり、基部に披針形、長さ約 4mm、中心は黒褐色で辺縁は褐色～暗褐色の鱗片がつく。葉身は披針形～線状披針形、長さ 10～20cm、先端は鋭尖頭、単羽状に切れ込む。羽片は 20～35 対、開出してつき、三角状長楕円形で長さ 0.8～2cm、先端は円頭、基部は前側が切形で低い耳があり、後側は狭いくさび形になる。胞子のう群は半月形、長さ 1～4mm である。

分布の概要

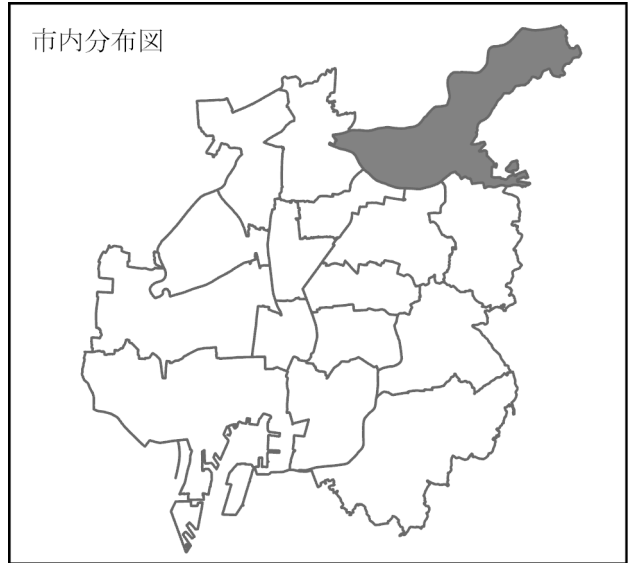
市内：守山区（吉根，長谷川 1167，2025-1-30，N）に生育している。

県内：1（松船，芹沢 104340，2024-9-8）、2（丸山沢～湯島，村松 14414，1993-10-10）、3（本郷三ツ瀬，芹沢 62472，1992-8-15）、4（大桑，村松 20808，2001-8-25）、6（川向，芹沢 82977，2008-8-23）、7（八橋，芹沢 83049，2008-8-24）、8（乳岩川，芹沢 100570，2022-9-2）、9（阿寺七滝，芹沢 45017，1986-10-17）、10（布里，芹沢 70511，1994-8-28）、12（横川，芹沢 64247，1992-10-16）、13（一宮町勝川，小林 50081，1994-3-17）、14（御堂山，小林 77662，2003-1-25）、15（石巻町，瀧崎 12168，1991-6-26）、17（滝頭不動，芹沢 39113，1983-11-14）、21（下山田代町，芹沢 95620，2019-8-22，幼株）、24（王滝町，堀田善久 84-186，1984-11-12）、28（くらがり溪谷，芹沢 104475，2024-10-5）、36（東幡豆町，村松 35806，2024-12-5）、37a（下半田川町，村松 22077，2004-1-24）、45（八曽，芹沢 85350，2009-11-7）、47（野口，日比野修 5072，1999-11-7）、48（外之原町，日比野修 2017，1994-4-29）などで確認されている。

国内：本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

世界：日本からヒマラヤ、ポリネシアにかけて広く分布する。

市内分布図



生育地の環境／生態的特

照葉樹林の林内の崖地や岩上に生育することが多い。

現在の生育状況／減少の要因

ツブラジイが混生するよく発達した二次林内の沢沿いの斜面下部に、30 株程度の小集団がある。

保全上の留意点

保全緑地内ではあるが、本種の生育地では特に注意して林を保全する必要がある。

特記事項

名古屋市の産地は尾張部としては南限で、知多半島にあるものは現在確認されている範囲ではすべて近縁のナンカイヌリトラノオである。

関連文献

平シダ p.150，学シダ I p.413.

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 ナヨシダ科>

ウスヒメワラビ *Acystopteris japonica* (Luer ss.) Nakai

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 2、総点 13。山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

夏緑性のシダ植物。根茎は短くはい、接近して少数の葉を出す。葉柄は長さ 20~30cm になり、紫褐色、全体に披針形ではじめ白色、後に淡褐色の鱗片がある。葉身は三角状卵形、長さ 20~50cm、幅 15~40cm、薄い草質、3 回羽状に切れ込み、まばらに軟毛がある。羽片は 7~8 対、ほぼ対生し、ほとんど無柄、中軸から 50~60° の角度で開出する。最下羽片の下側第 1 小羽片は次の小羽片より著しく短い。胞子のう群は円形、裂片の辺縁寄りにつき、包膜は小さい。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷山、村松 28246, 2016-5-13, N; 下志段味穴ヶ洞、村松 17961, 1998-7-27, A）に生育している。

県内：東三河、西三河の山地には点在しており、2（坂宇場、芹沢 102477, 2023-9-3）、3（振草、芹沢 94517, 2018-9-3）、4（水梨川、芹沢 89683, 2014-9-23）、6（段戸山裏谷、芹沢 87863, 2012-9-11）、7（小松、芹沢 98292, 2021-7-12）、8（長篠本郷、小林 66389, 1999-6-9）、9（阿寺川、芹沢 45012, 1986-10-17）、10（下島田〜塩瀬、芹沢 38954, 1983-10-27）、13（長沢町、村松 85-354, 1985-10-17）、15（石巻中山町、小林 66407, 1999-6-10）、5（武節町、村松 17226, 1997-10-11）、19（駒山、村松 12116, 1992-9-26）、20（平沢、芹沢 76877, 2000-7-16）、21（下山田代町、芹沢 84785, 2009-8-27）、22（永太郎町、畑佐武司 9500, 2020-6-17）、24（六所山、畑佐武司 1993, 2001-6-9）、28（保久町、芹沢 100484, 2022-7-12）、30（桑谷山、小林 59945, 1996-8-3）、37a（海上町、村松 23233, 2006-8-13）、45（八曾、芹沢 87853, 2012-9-10）、47（大山、村瀬正成 11024, 1994-7-10）、48（外之原町、村松 14255, 1993-9-18）などで確認されている。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本および中国大陸南西部。

生育地の環境／生態的特性

沢沿いの林内に生育する。

市内分布図



現在の生育状況／減少の要因

守山区の 2 カ所で小群落が確認されている。東谷山は市内では唯一の山地状の場所で、生育地としては安定しているが、このものは葉長が 25cm ほどで、生育状態はあまりよくない。下志段味は最近の状況がよくわからない。周辺は開発が進んでおり、生育地が失われる可能性もある。

保全上の留意点

東谷山には、本種以外にも名古屋市ではこの場所にしか見られない植物が多数生育している。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。下志段味については、丘陵地の地形を保全する必要がある。

特記事項

葉面の直立する軟毛が特徴である。2024 年の仮リストでは絶滅危惧 IB 類として掲載したが、再検討の結果評価が変更された。

関連文献

平シダ p.228, 学シダ I p.403.

倉田 悟・中池敏之(編). 1987.日本のシダ植物図鑑 5:400-407.東京大学出版会, 東京.

(芹沢俊介)

ヒメワラビ *Thelypteris torresiana* (Gaudich.) Alston

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。山地では普通にみられるが丘陵地では急激に減少する植物で、市内では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

夏緑性の多年生草本。根茎は斜上する。葉は束生し、葉柄は長さ 35~80cm、基部に披針形で褐色の鱗片がつき、葉身は卵状楕円形、長さ 50~100cm、幅 40~60cm、3 回羽状に深裂し、単細胞の毛がある。羽片は 10~13 対、上部のものは次第に小さくなる。小羽片は多数つき、披針形、大きいものは長さ 12cm、幅 2.5cm くらいになり、羽軸にやや斜めについて無柄、裂片も小羽軸にやや斜めについて、羽状に浅裂する。胞子のう群は裂片の中肋と辺縁の中間につき、包膜は円腎形である。

分布の概要

市内：1 守山区（東谷山，村松 28339, 2016-9-12, A; 下志段味，芹沢 83277, 2008-9-13, A; 竜泉寺，長谷川 371, 2022-7-24, N）に生育している。

県内：東三河、西三河では普通に見られるが、尾張では少ない。1（押出，芹沢 98965, 2021-9-5）、2（古真立，芹沢 100903, 2022-10-2）、3（月，瀧崎 8666, 1986-7-2）、4（白鳥山，芹沢 74835, 1998-8-22）、6（t）、7（八橋，芹沢 83035, 2008-8-24）、8 川壳〜棚山高原，芹沢 40768, 1984-9-23）、9（炭焼田峠，堀田善久 s.n., 1987-10-25）、10（布里，芹沢 63398, 1992-9-10）、11（鴨ヶ谷，芹沢 42124, 1985-9-21）、12（船着山，芹沢 38185, 1983-9-22）、13（萩，瀧崎 19073, 2001-8-29, T）、14（御堂山，芹沢 36083, 1982-10-23）、15（嵩山町，芳山朋子 795, 1984-7-24）、18（T）、5（押山，塚本威彦 2550, 1997-10-5）、19（池島，塚本威彦 2016, 1996-7-21）、20（下国谷，芹沢 72512, 1995-10-20）、21（田折，芹沢 38888, 1983-10-27）、22（築平，塚本威彦 1755, 1995-9-29）、23（戸越峠〜大洞，村松 14155, 1993-9-15）、24（国附町，佐藤久美子 1475, 1993-10-22）、25（猿投山，畑佐武司 42, 1994-9-8）、28（滝尻，芹沢 57963, 1990-10-27）、29（蓬生町，芹沢 47454, 1987-10-18）、37a（川平町，塚本威彦 3003, 2001-11-5）、38a（岩作，芹沢 62790, 1992-9-26）、54（木曽川，芹沢 77715, 2001-10-7）などで確認されている。

国内：本州（秋田県以南）、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

林縁や林道の脇などの明るい場所に群生することが多い。

現在の生育状況／減少の要因

東谷山では、北側の沢沿いの林縁に葉身長 50~60cm の株が数株生育していた。下志段味は葉身長 1m 近い大きい株だったが林縁に少数生育していただけであった。竜泉寺では北側の沢沿いに 5 株程度生育していた。

保全上の留意点

名古屋市では散発的に出現するだけの植物であるが、一般的に言えば生育地の林を保全することが必要である。

特記事項

ミドリヒメワラビ *T. viridifrons* Tagawa は本種とは逆に平野部や浅い丘陵地に多い種類で、山地に入ると少なくなる。都市近郊の環境調査報告書などでヒメワラビとして記録されている植物は、多くの場合ミドリヒメワラビである。

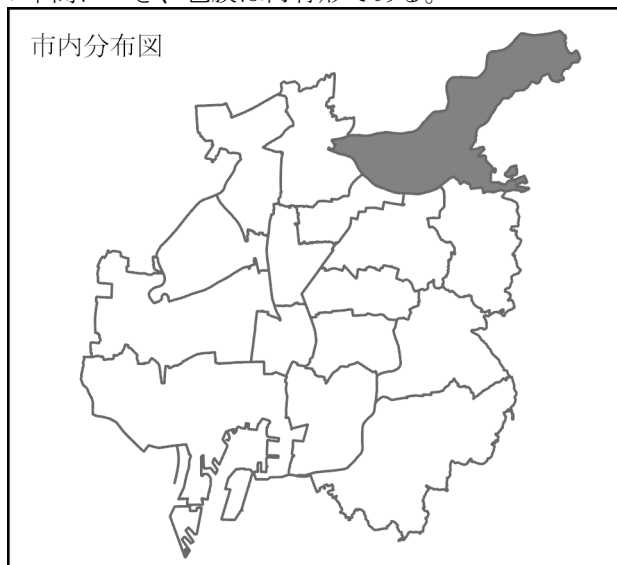
関連文献

平シダ p.213, 学シダ I p.431

倉田 悟・中池敏之（編）. 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 678-695. 東京大学出版会，東京。

（芹沢俊介）

市内分布図



維管束植物 <シダ植物 メシダ科>

サトメシダ *Athyrium deltoideifrons* Makino

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級階級 1、総点 13。温帯性のシダ植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

夏緑性の多年生草本。根茎は斜上する。葉柄は長さ 40～60cm、淡緑色、基部に淡褐色の鱗片がつく。葉身はよく発育した株では三角状卵形だが若い株ではやや細長いことが多く、長さ 35～65cm、幅 20～40cm、3 回羽状深～全裂、先端は次第に狭くなって鋭尖頭、草質で表面は無毛である。羽片は 8～10 対、0.3～1cm の短柄がある。胞子のう群は半月形～鍵形、長さ 0.5～1.3mm、裂片のやや中肋寄りにつき、包膜の辺縁は細裂する。

分布の概要

市内：1 守山区（吉根階子田、村松 18034, 1998-8-4, A）で採集された標本がある。

県内：東三河、西三河には比較的多く、尾張東北部にも点在する。2（坂宇場、芹沢 100374, 2022-6-18）、4（白鳥山、石田雄吉 23, 1979-9-10）、6（西納庫、芹沢 83161, 2008-9-6）、7（八橋、芹沢 83041, 2008-8-24）、9（巢山、芹沢 49870, 1988-8-24）、11（長ノ山湿原、芹沢 42132, 1985-9-21）、13（長沢、瀧崎 18079, 2000-9-18, T）、15（岩崎町、瀧崎 4539, 1980-8-10）、5（野入、塚本威彦 2684, 1998-7-18）、19（駒山、芹沢 42298, 1985-10-12）、20 御内蔵連、芹沢 78963, 2003-10-4）、21（田折町、芹沢 84636, 2009-8-8）、23（永太郎町、芹沢 92594, 2017-7-1）、23（大岩、塚本威彦 1563, 1995-7-9）、24（中金町、畑佐武司 6669, 2003-11-12）、27（黒笹、芹沢 69826, 1994-6-21）、28（くらがり溪谷、芹沢 29888, 1979-7-2）、29（小美町、芹沢 50738, 1988-10-12）、30（山綱町、本多さおり 1000, 1994-10-13）、31（遠峰山、芹沢 36113, 1982-10-25）、32a（井ヶ谷町、芹沢 41741, 1985-7-23）、36（吉良町津平、芹沢 39200, 1983-11-21）、37a（定光寺町、塚本威彦 2045, 1996-8-10）、37b（旭ヶ丘町、村松 23192, 2006-8-7）、38a（東山、芹沢 99849, 2021-10-12）、45（八曽、芹沢 44182, 1986-7-4）、47（大山、村瀬正成 1007, 1994-7-10）、48（廻間町、村松 18882, 1999-10-9）などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

平地に近い、あまり山深くない場所の湿地に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

標本は葉身長 45cm、葉身幅 25cm ほどの、胞子のう群がやや少ない葉である。沢沿いに小群落となって生育していたらしい。

保全上の留意点

自生地を再確認する必要がある。

特記事項

2004 年、2015 年のレッドデータブックには掲載されていないが、評価もれであった。葉の表面に毛があり、葉形等も異なるオゼサトメシダ var. *ohmurae* (Sa. Kurata) Seriz. は、2（茶臼山、芹沢 81936, 2007-8-4）、4（面ノ木峠、瀧崎 15055, 1994-7-10）、6（東納庫、芹沢 77540, 2001-8-26）、11（菅沼、芹沢 68014, 1993-9-24）、5（井山川、芹沢 49161, 1988-7-26）、20（川面、塚本威彦 2107, 1996-9-12）などで確認されている。

関連文献

平シダ p.236, 学シダ II p.300.

（西部めぐみ 芹沢俊介）

市内分布図



維管束植物 <シダ植物 メシダ科>

ヘラシダ *Deparia lancea* (Thunb.) Fraser-Jenk.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。暖地性のシダ植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性のシダ植物。根茎はやや長く這う。葉はやや 2 型性、胞子のう群をよくつける葉の葉柄は長さ 15~30cm、線状披針形で黒褐色の鱗片をつける。葉身は長さ 15~35cm、幅 1.8~3cm の単葉、先端は鋭尖頭、下部は次第に狭くなるが最基部はやや急に狭くなることが多く、辺縁は全縁~浅い波状縁、革質で表面は深緑色である。胞子のう群は線形、長さ 3~10mm である。

分布の概要

市内：4 天白区（天白町野並福田、長谷川 277, 2022-2-28, N）に生育している。5 緑区（神の倉、中島ひろみ 570, 1996-10-28, A）で採集された標本もある。

県内：低山地には広く分布しているが、丘陵地には少ない。9（阿寺、村瀬正成 6468, 1993-9-12）、10（玖老勢椎平、芹沢 64539, 1992-11-8）、11（高松、小林 54606, 1994-10-16）、12（船着山、芹沢 38171, 1983-9-22）、13（hagi）、瀧崎 18335, 2001-2-1, T、14（御堂山、芹沢 36085, 1982-10-23）、15（嵩山町、芹沢 73443, 1996-11-17、葉身中裂；瀧崎 18861, 2001-8-23, T）、17（芦村、伊藤三也 s.n., 1992-11-13）、21（大沼町、芹沢 100826, 2022-9-27）、23（飯野、塚本威彦 478, 1993-4-14）、24（鞍ヶ池、畑佐武司 9780, 2020-11-22）、28（鹿勝川、芹沢 57949, 1990-10-27）、29（蓬生町、芹沢 47439, 1987-10-18）、30（鉢地町、本多さおり 1068, 1994-10-21）、36（吉良町津平、芹沢 81998, 2007-8-9）、44a（野間、堀田善久 s.n., 1987-9-26）、44b（内海、大西 博 335, 1992-4-20）、47（大山、村瀬正成 6352, 1993-7-11）、48（細野町、山田果与乃 514, 1999-10-9）などで確認されてされている。

国内：本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

世界：日本からマレーシア、インドにかけて分布している。

生育地の環境／生態的特性

沢沿いの湿った傾斜地や崖地に生育する。

市内分布図

**現在の生育状況／減少の要因**

天白区では保全緑地の中の小さな流れに沿って小群落がある。緑区は最近の状態が確認されていない。

保全上の留意点

生育地自体は今後も保全されると思われるが、小群落なので、何かの事情で消失してしまう可能性がある。一方でいいねいに探索すれば、新たな自生地が発見される可能性もある。

特記事項

以前は *Diplazium* 属とされることが多く、そのため *Diplazium* 属は一般にヘラシダ属と呼ばれてきたが、最近の研究により *Deparia* 属の植物であることが判明した。

関連文献

平シダ p.251, 学シダ II p.344.

(芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 メシダ科>

ウスバシケシダ *Deparia longipes* (Ching) Shinohara

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 13。日本では濃尾平野が分布域の中心になっている植物で、名古屋市でも 3 カ所で確認されている。しかしもともと希少な植物であるから、絶滅危惧Ⅱ類と評価される。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	絶滅危惧Ⅱ類
全国 2025	絶滅危惧Ⅱ類

形態

夏緑性のシダ植物。根茎は細く、長くはい、1~2cm 間隔で葉を出す。葉柄は孢子をよくつけた葉で長さ 20~40cm になる。葉身は広披針形~三角形、長さ 25~40cm、幅 13~25cm、草質、2 回羽状に切れ込む。羽片は 8~10 対、下部のものはほぼ直角に、中部のものも広い角度で開出し、羽状に深裂し、裂片は円~鈍頭で辺縁に比較的目立つ鋸歯があり、裏面は脈上に多細胞毛があるほかは無毛である。孢子のう群は半月形、長さ 1~3mm、裂片の中肋よりにならないでつき、包膜は無毛、辺縁は若時内側に折れる。

分布の概要

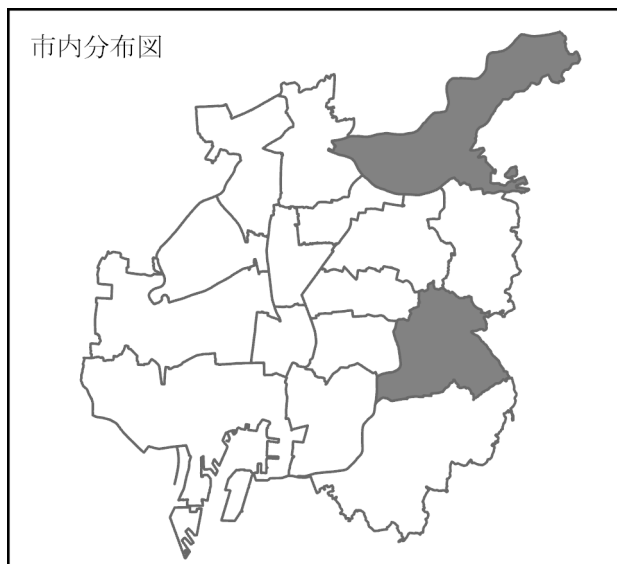
市内: 1 守山区 (中志段味才井戸流, 芹沢 76998, 2000-10-1, A)、4 天白区 (牧野ケ池緑地, 芹沢 78815, 2003-9-26, A; 相生山緑地, 芹沢 77734, 2001-10-13, A) で確認されている。

県内: 県 RDB2020 p.383 参照。名古屋市のほか、鳳来北東部、田原東部、下山、岡崎北部、幸田、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、一宮東部などで確認されている。国内最初の発見地である津島愛西 (57a 津島神社) では、発見後間もなく境内整備のため絶滅した。

国内: 本州および九州。濃尾平野とその周辺の丘陵地に点在するほか、和歌山県と鹿児島県で各 1 カ所自生地が確認されている。

世界: 日本および中国大陆。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

社寺境内、河川敷などのやぶ、丘陵地の林縁などに生育している。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では才井戸流に小群落があったが、最近の状況は確認されていない。天白区では相生山緑地にやや大きい群落があり、牧野ケ池緑地にも僅かに生育している。どちらの場所も緑地として保全されているが、公園整備等により失われる可能性もある。

保全上の留意点

人里周辺であるが、自然環境が良好な場所に生育している。本種が生育している場所は、そのような意味でも保全の必要性が高い。

関連文献

学シダⅡp.346, SOS 旧版 p.41, SOS 新版 p.202.

(芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 メシダ科>

シロヤマシダ *Diplazium hachijoense* Nakai var. *shiroyamense* (Tagawa)**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 2、総点 13。暖地性のシダ植物で、市内では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の多年生草本。根茎は太く横に這う。葉は互いに接近してつき、葉柄は長さ 50～100cm、下部に褐色で膜質の鱗片がまばらにつく。葉身は卵形～広卵状三角形、長さ 50～100cm、幅 35～80cm、2 回羽状複生である。羽片は 8～10 対、上部のものは次第に小さくなる。下部羽片の小羽片は 9～12 対、三角状広披針形、大きいものは長さ 12cm、幅 3.5cm になり、先端は鋭頭、基部は短い柄があり、羽状に中裂する。胞子のう群は裂片中肋と葉縁の中間またはやや中肋寄りにつき、線形、長さ 1～4mm である。

分布の概要

市内：1 守山区（東谷山，村松 28188, 2015-10-23, A; 吉根階子田，村松 31467, 2020-9-8, N）に生育している。

県内：東三河の低山地には点々と分布しているが、西三河では稀、尾張でも少ない。6（松戸～大名倉，小林 83370, 2004-10-19）、8（門谷，芹沢 34647, 1982-6-4）、9（乗本，小林 60480, 1996-11-4）、12（横川，小林 49757, 1993-12-12）、13（東上町，芹沢 96018, 2019-11-23）、14（相楽町，小林 77503, 2002-12-28）、15（石巻山，芹沢 90887, 2015-11-7）、17（六連町，芹沢 80454, 2005-10-20）、21（田折町，芹沢 100054, 2021-11-18）、26（今町，畑佐武司 6752, 2003-11-19）、28（保久町，芹沢 104163, 2024-7-30）、36（佐久島，芹沢 82245, 2007-9-13）、37a（広久手町，芹沢 82037, 2007-8-16）、41b（佐布里，村松 34003, 2022-12-8, N）、44a（大沢池，久納鉦一 s.n., 2001-3-8）、44b（大井，犬飼清 8041, 1986-10-10）、47（堀の内，長谷川 457, 2022-8-30, N）、48（金ケ口町，村松 18831, 1999-9-19）、54（玉野，渡辺幸子 3120, 1997-6-12）などで確認されている。

国内：本州(佐渡島以南)、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

暖地の沢沿いの林内に群生することが多い。

市内分布図

**現在の生育状況／減少の要因**

東谷山では、北側の沢に、葉身長 55cm 程度の株が 2 株生育していた。現地は 1985 年頃砂防堰堤が作られた場所で、その後に定着したと思われる。しかし、2018 年 6 月に再調査した時には確認できなかった。ニホンジカによる食害が原因で消失したと思われるが、再出現する可能性はある。吉根では、最近の調査では成株が 2 株、子株が 5 株確認された。

保全上の留意点

東谷山の現地はそのまま残されているので、そのうちに再度出現することも期待される。生育地の林や地形を保全することが必要である。

特記事項

和名は城山羊歯で、鹿児島県鹿児島市城山に由来する。ただし、*D. shiroyamaense* Tagawa の基準標本は、正確には一部の人の間で「セイタカシロヤマシダ」と呼ばれてきた型（愛知県には分布していない）である。ここで「シロヤマシダ」とした植物の学名は、厳密には未確定である。基準変種のテリハシロヤマシダ（県 RDB2020 p.387 参照）は愛知県では 16 豊橋南部に生育しており、絶滅危惧Ⅱ類と評価されている。

関連文献

平シダ p.255, 学シダ I p.329

倉田 悟・中池敏之（編）. 1983. 日本のシダ植物図鑑 3:126-132. 東京大学出版会，東京.

（芹沢俊介）

オニヒカゲワラビ *Diplazium nipponicum* Tagawa

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 3、総点 14。暖地山地性の植物で、名古屋市内では 2 ヶ所に生育しているだけである。総点は 14 だが、県全体では増加傾向にあることを考慮し、絶滅危惧Ⅱ類と評価する。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

夏緑性の多年生草本。根茎は太く横に這う。葉は互いに接近して付き、葉柄は長さ 40～60cm、下部に黒褐色で膜質の鱗片がつく。葉身は広卵状三角形、長さ 40～80cm、幅はそれよりやや広く、2 回羽状複生である。羽片は 4～8 対、上部羽片は次第に小さくなる。下部羽片の小羽片は 9～13 対、大きいものは長さ 12cm、幅 3.5cm になり、先端は鋭尖頭、基部は短柄があり、羽状に中～全裂し、裂片は更に浅裂することもある。胞子のう群は中肋寄りにつき、線形、長さ 1.5～5.5mm である。

分布の概要

市内：1 守山区（東谷山，村松 29709, 2018-6-23, N）、3 千種区（平和公園，芹沢 101702, 2023-6-17, A）に生育している。

県内：東三河、西三河には点在する。尾張では少ない。2（坂宇場，村松 35580, 2024-9-8）、3（西菌目，芹沢 100693, 2022-9-12）、4（水梨川，芹沢 89684, 2014-9-23）、6（田峯呼間川，芹沢 82057, 2007-8-18）、7（川向，芹沢 80154, 2005-8-28）、8（四谷，芹沢 97858, 2021-6-5）、9（乗本，犬飼 清 12452, 1996-9-17）、10（一色，芹沢 98917, 2021-9-4）、11（大和田，芹沢 100732, 2022-9-14）、12（雁峰林道，芹沢 84816, 2009-9-5）、13（千両町，芹沢 90889, 2015-11-7）、14（遠望峰山，小林 75280, 2002-8-17）、15（石巻中山町，小林 66698, 1999-7-17）、17（六連町，芹沢 79872, 2005-7-10）、20（御内町，芹沢 98516, 2021-7-31）、21（中ツ田，芹沢 95622, 2019-8-22）、22（涼堂，塚本威彦 1374, 1994-9-12）、24（勘八峡，芹沢 33890, 1981-10-18）、25（猿投山，村松 89-295, 1989-11-23）、28（くらがり溪谷，芹沢 104480, 2024-10-5）、29（村積山，芹沢 86309, 2010-9-29）、37a（上半田川町，塚本威彦 3103, 2005-9-27）、38a（前熊，村松 30832, 2019-10-3, N）、45（栗栖，村瀬正成 4079, 1991-10-2）などで確認されている。

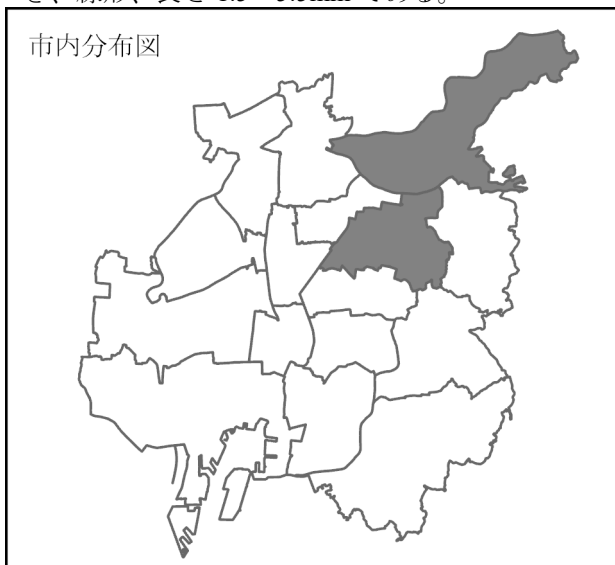
国内：本州、四国、九州（屋久島以北）。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

生育地の環境／生態的特性

山地の沢沿いの林内に生育する。

市内分布図



現在の生育状況／減少の要因

東谷山では北側の沢の 2 つの堰堤の下に、胞子のう群をつける状態になった株が 4 株、小さい株を含めると 11 株（個体数階級は繁殖可能な個体だけを数えるので 3 になる）生育しており、大きいものは葉長 1m に達するという。砂防堰堤が作られたのは 1985 年頃なので、その後に定着したと思われる。千種区では葉身長 50cm 程度のものが数株生育していた。

保全上の留意点

2020 年のレッドリスト追加種解説では「市内では東谷山以外に生育できそうな環境がない」と書いたが、千種区でも発見された。生育地の地形や植生を保全することが必要である。

特記事項

ニホンジカの不着好植物の一つで、愛知県全体で見れば食害の激化に伴い、増加傾向にある。

関連文献

平シダ p.255, 学シダⅡ p.326

倉田 悟・中池敏之（編）. 1983. 日本のシダ植物図鑑 3:146-151. 東京大学出版会，東京.

（芹沢俊介）

ホソバナライシダ *Arachniodes borealis* Seriz.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級階級 1、総点 13。山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

夏緑性の多年生草本。根茎はやや長く匍匐する。葉柄は長さ 20~50cm、ほとんど紫色を帯びず、淡褐色で長卵形~披針形の鱗片を密につける。葉身は五角形、長さ 22~60cm、幅 27~65cm、4 回羽状中~全裂、草質、先端は次第に狭くなって鋭尖頭となる。羽片は 8~9 対、羽軸の表面はほとんど無毛である。小羽片は長三角状で鋭尖頭である。胞子のう群は円形で直径 0.7~1mm、裂片の切れ込み近くにつき、包膜は円腎形、辺縁は通常無毛である。

分布の概要

市内：1 守山区（下志段味，芹沢 84177, 2009-6-9, A）に生育している。

県内：東三河、西三河、尾張東北部に点在しており、2（坂宇場，芹沢 46853, 1987-8-30）、7（田口，小林 66367, 1999-6-6）、11（西田原，芹沢 38927, 1983-10-27）、15（嵩山町，芹沢・芳山 238, 1984-10-10）、18（泉福寺山~高木，小林 40550, 1992-11-22）、20（追分，芹沢 68636, 1993-10-12）、21（下山田代町，芹沢 84609, 2009-8-8）、22（田代，村松 23756, 2007-7-7）、24（東広瀬町，芹沢 68242, 1993-10-1）、25（猿投山，畑佐武司 36, 1994-9-8）、28（滝尻，芹沢 57966, 1990-10-27）、37a（海上町，村松 23244, 2006-8-13）、37b（新居町，村松 20271, 2000-10-28）、45（栗栖，芹沢 53758, 1989-10-6）、47（大山，村瀬正成 6516, 1993-10-2）、48（木附町，村松 16300, 1995-8-9）などで確認されているが、標本の蓄積はやや不十分である。6（段戸山，恒川敏雄 s.n., 1978-11-3, T）で採集された標本もある。知多半島では現在のところ確認されていない。

国内：北海道、本州、四国、九州（北部）。

世界：日本、朝鮮半島、ロシア極東部。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

通常温帯林の林床に生育する。本州中部では、山地には多いが、丘陵地では稀である。

現在の生育状況／減少の要因

アイグロマツ造林地の林床に、葉身長 50cm 程度のよく育った株が小群落となって生育していたが、ごく最近の状況は未確認である。

保全上の留意点

生育地の林を保全する必要がある。

特記事項

2015 年のレッドデータブックには掲載されていないが、評価もれであった。本種とヒロハナライシダの交雑に由来する複 2 倍体種と推定されるナンゴクナライシダ *A. fargesii* (H.Christ) Seriz. は、名古屋市では守山区（吉根，芹沢 92739, 2017-7-29 など）、天白区（八事裏山，芹沢 77333, 2001-5-20）などで採集されている。

関連文献

平シダ p.178, 学シダ II p.395.

（西部めぐみ 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 オシダ科>

イワヘゴ *Dryopteris atrata* (Wall.ex Kunze) Ching**評価理由**

個体数階級 4、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。暖地山地性の植物で、市内では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の多年生草本。根茎は太く直立する。葉は束生し、葉柄は長さ 25~40cm、最基部は褐色、それ以外は黒色で披針形の鱗片を密生する。葉身は広披針形、長さ 40~75cm、幅 13~30cm、単羽状複生である。羽片は 20~32 対、線形で中部のものが最も長く、下部のものはやや短くなり、直角に近い角度で出てほとんど鎌曲せず、幅 10~20mm、先端は鋭尖頭、基部は切形で無柄、辺縁は鋸歯縁またはごく浅く切れ込む。胞子のう群は辺縁付近を残して羽片裏面に散在し、包膜は円腎形である。

分布の概要

市内：1 守山区（下志段味、芹沢 84182, 2009-6-9, A; 大森北、村松 28438, 2017-4-9, N）で確認されている。

県内：東三河、西三河では点々と分布しており、1（大谷、芹沢 46763, 1987-8-30）、2（坂宇場、芹沢 102486, 2023-9-3）、3（西菌目、村松 24908, 2009-9-21）、4（行人原、芹沢 93171, 2017-9-3）、6（川向延坂、芹沢 81568, 2007-6-17）、7（小松、芹沢 98295, 2021-7-12）、8（四谷、芹沢 97862, 2021-6-5）、10（愛郷、瀧崎 8928, 1986-8-21）、11（守義、芹沢 32756, 1981-6-4）、12（吉川、村松 26920, 2013-7-25）、13（赤坂町、芹沢 86141, 2010-8-29）、14（三ヶ根山、小林 58760, 1995-11-12）、5（面ノ木峠、芹沢 91509, 2016-9-11）、19（八幡、芹沢 61707, 1992-6-13）、20（井ノ口町、芹沢 92300, 2017-6-2）、21（田折町、芹沢 99157, 2021-9-15）、22（東郷町、芹沢 92626, 2017-7-1）、23（上川口町、畑佐武司 9676, 2020-9-24）、24（中金町、芹沢 70279, 1994-8-3）、25（広幡町、村松 20723, 2001-7-29）、28（宮崎、芹沢 33898, 1981-10-20）、30（羽栗町、本多さおり 987, 1994-10-6）、37a（岩屋町、芹沢 101865, 2023-6-24）、37b（新居町、村松 19855, 2000-8-23）、45（栗栖、芹沢 51892, 1989-6-14）、48（木附町、村松 16308, 1995-8-9）などで確認されている。

国内：本州、四国、九州（種子島以北）。

世界：日本、台湾、中国大陆、インドシナ半島、南アジア。

生育地の環境／生態的特性

山地の沢沿いの林床に生育する。

市内分布図

**現在の生育状況／減少の要因**

下志段味では、葉身長 50cm ほどの株が林内に 1 株生育していた。大森北でも、葉身長 40cm ほどの株が林内に 1 株生育していたという。

保全上の留意点

名古屋市では偶発的に出現するだけの種で、希少偶産種に近い。保全はなかなか難しいが、一般的に言えば生育地の林を保全することが必要である。

特記事項

表記学名は問題があるという説もあるが、とりあえずそのまま使用しておく。よく似たイヌイワヘゴは、希少偶産種として掲載した。

関連文献

平シダ p.186, 学シダⅡ p.362

倉田 悟・中池敏之（編）. 1985. 日本のシダ植物図鑑 4:304-314. 東京大学出版会, 東京.

（芹沢俊介）

クマワラビ *Dryopteris lacera* (Thunb.) Kuntze

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級階級 1、総点 12。丘陵地や平野部では希少な植物で、名古屋市でも生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

半常緑性の多年生草本。根茎は斜上する。葉は束生し、葉柄は長さ 15~25cm、赤褐色の幅広い鱗片を密生する。葉身は広披針形、長さ 40~70cm、幅 20~30cm、2 回羽状全裂、先端は次第に狭くなり鋭尖頭となる。羽片は 8~14 対。短い柄があり、先端は鋭尖頭、小羽片は最下のものを除き羽軸に沿着する。胞子のう群は葉身上部の羽片につき、つく羽片とつかない羽片がはっきり分かれ、つく羽片はつかない羽片より縮小する。胞子のう群は円形、直径 1mm 程度、包膜は円腎形である。

分布の概要

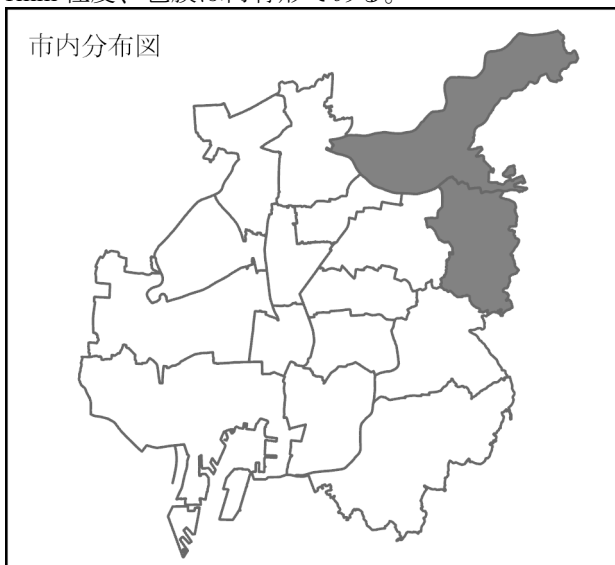
市内：1 守山区（東谷山南、村松 21821, 2003-8-14, N; 大森、村松 28281, 2016-6-12, A）、2 名東区（猪高緑地、長谷川 266, 2022-2-25, N）に生育している。

県内：山地では普通に見られるが、丘陵地ではほとんどが近縁種のオクマワラビで、本種は極めて稀である。1（大谷～足沢入口、芹沢 46791, 1987-8-30）、2（佐久間湖西側、芹沢 101500, 2023-5-20）、4（水梨川、芹沢 92699, 2017-7-26）、6（田内、芹沢 81549, 2007-6-17）、7（田口、芹沢 44592, 1986-8-1）、8（鳳来寺山、芹沢 84040, 2009-5-20）、10（一色、芹沢 100250, 2022-5-14）、11（鴨ヶ谷、芹沢 42114, 1985-9-21）、12（塩沢、芹沢 40020, 1984-6-10）、13（音羽町萩、瀧崎 17744, 2000-8-1）、15（嵩山町、芹沢 43996, 1986-6-3）、17（加治町、芹沢 84066, 2009-5-24）、5（井山川、芹沢 49169, 1988-7-26）、20（野林、新井文子 154, 1993-10-12）、21（平瀬、芹沢 61341, 1992-5-23）、22（川下、塚本威彦 1485, 1995-5-30）、23（西市野々、塚本威彦 1573, 1995-7-12）、24（西広瀬町、芹沢 65365, 1993-5-21）、25（猿投山、芹沢 40342, 1984-7-24）、28（夏山、原田 勉 316, 1994-7-3）、29（才栗町、犬飼 清 8946, 1988-6-13）、37a（海上町、芹沢 75705, 1999-6-4）、37b（旭ヶ丘町、村松 21376, 2002-8-10, N）、44b（内海内福寺、芹沢 101735, 2023-6-18）、45（栗栖、芹沢 51873, 1989-6-14）などで確認されている。3（御園、芹沢 21462, 1974-10-23）で採集された標本もある。

国内：北海道（奥尻島）、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

守山区の 2 点の標本は葉身長 50cm ほどで胞子のう群もよくつけているが、東谷山は 1 株、大森も数株だったようである。名東区のもの、胞子のう群をつけていない幼株である。

保全上の留意点

生育地の林を保全する必要がある。

特記事項

2020 年のレッドリストには掲載されていないが、評価もれであった。2024 年のリスト案にも掲載されていないが、再検討の結果追加された。

関連文献

平シダ p.190, 学シダ II p.395.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 オシダ科>

ヒメイタチシダ *Dryopteris sacrosancta* Koidz.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。愛知県全体ではそれほど少ない植物ではないが、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性のシダ植物。根茎は斜上する。葉柄は長さ 20~30cm、基部に鱗片を密生し、上部にも宿存性の鱗片をつける。基部の鱗片は下部がやや幅広くて上部は線形、長さ 1cm を超えることがあり、黒色で辺縁部は淡褐色となる。葉身は五角状広卵形、長さ 40cm に達するものもあり、下部は 3 回羽状複生、羽片は重なり合ってつき、有柄、羽軸の鱗片は扁平で袋状にならない。胞子のう群はこの類としては小形で、やや辺縁寄りにつく。

分布の概要

市内：1 守山区（吉根階子田、鳥居ちゑ子 2250, 2003-1-10, A）、2 名東区（猪高緑地、長谷川 260, 2022-2-20, N）に生育している。

県内：1（佐久間湖岸、芹沢 82076, 2007-8-25）、2（大入川、芹沢 96271, 2020-9-6）、3（大入溪谷、小林 58723, 1995-11-5）、6（樫尾谷、芹沢 80174, 2005-8-28）、7（神田、芹沢 63103, 1992-9-4）、8 鳳来寺山、芹沢 83357, 2008-9-20）、9 七郷一色、芹沢 59946, 1991-8-25）、10（只持、芹沢 101683, 2023-6-10）、12（中宇利、芹沢 57390, 1990-9-28）、13（萩、瀧崎 19368, 2002-3-3, T）、14（御堂山、芹沢 36062, 1982-10-23）、15（多米町、瀧崎 21184, 2004-3-28, T）、17（笠山、芹沢 52202, 1989-7-1）、18（堀切、犬飼 清 7503, 1985-11-10）、20（岩谷、芹沢 72415, 1995-10-11）、21（大沼町、芹沢 99162, 2021-9-15）、23（御作、日比野修 3081, 1995-8-25）、24（王滝溪谷、堀田善久 85-849, 1985-8-21）、25（猿投山、畑佐武司 33, 1994-9-8）、28（石原町、芹沢 84800, 2009-9-5）、29（大柳町、芹沢 86362, 2010-10-2）、30 鉢地町、芹沢 70186, 1994-8-1）、31（三ヶ根山、芹沢 39148, 1983-11-20）、33（別郷町、堀田善久 88-1, 1988-1-1）、36（西幡豆、芹沢 71138, 1994-9-24）、37a（海上町、芹沢 85962, 2010-7-7）、37b（新居、村松 19782, 2000-8-7）、38b（岩崎、芹沢 62759, 1992-8-26）、44a（豊丘、芹沢 60634, 1991-10-3）、44b（山海、芹沢 62661, 1992-8-25）、45（栗栖、村瀬正成 1902, 1987-10-27）、47（内津、瀧崎 10046, 1987-8-31）などで確認されている。

国内：本州（東北地方南部以西）、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

どちらかと言えば人里近くに多く、深山では見られない。林縁部の斜面やがけ地など比較的乾いた場所に生育することが多く、時には石垣のような場所にも生育している。

現在の生育状況／減少の要因

名東区では園路横の斜面に 5 株ほどが生育している。守山区吉根では最近の状況が確認されていない。

保全上の留意点

保全緑地内であるが、管理作業等の際除去しないよう、注意が必要である。

特記事項

ナンカイイタチシダ、モトイタチシダ、ミサキカグマのゲノムを併せ持った無融合生殖種である。

関連文献

平シダ p.197, 学シダ II p.366.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 オシダ科>

ナガバノイタチシダ *Dryopteris sparsa* (Buch.-Ham. ex D.Don) Kuntze**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 13。愛知県では近年やや増加傾向にある暖地性のシダ植物で、名古屋市でも最近になって 1 ケ所での生育が確認された。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性のシダ植物。根茎は斜上する。葉柄は長さ 35cm かそれ以上、基部は褐色を帯び、上部は白色になる。葉柄下部の鱗片は披針形～広披針形、長さ 1cm、幅 0.8mm 程度、膜質、淡褐色で中心部がやや濃くなることがある。上部の鱗片は次第に小さく、幅が狭くなる。葉身は卵状長楕円形、長さ 30～40cm、幅 15～25cm、上部はやや急に狭くなり、先端は鋭尖頭、2 回羽状複生～3 回羽状深裂、やや厚い草質で鮮緑色である。胞子のう群は裂片の中肋近くにつく。

分布の概要

市内：1 守山区（東谷山、長谷川 575, 2023-3-16, N）に生育している。

県内：低山地ではあちこちに生育しており、3（東薊目、芹沢 100318, 2022-6-2）、8（長篠、芹沢 81612, 2007-6-27）、12（出沢、村松 26932, 2013-7-25）、13（長沢、瀧崎 17901, 2000-8-24, T）、14（豊岡町、芹沢 100355, 2022-6-4）、15（嵩山町、瀧崎 18138, 2000-10-15, T）、16（東赤沢町、小林 40568, 1992-11-23）、17（神戸、伊藤三也 s.n., 1992-12-31）、18（高木、小林 40814, 1993-3-14）、19（伊熊町、芹沢 86271, 2010-9-25）、21（花沢町、芹沢 86123, 2010-8-22）、24（王滝町、畑佐武司 6432, 2003-10-13）、28（鹿勝川、芹沢 57951, 1990-10-27）、30（鉢地町、芹沢 69926, 1994-6-23）、31（三ヶ根山、芹沢 39209, 1983-11-23）、36（吉良町津平、芹沢 82006, 2007-8-9）、37a（鳥原町、村松 18648, 1999-8-10）、44a（野間、堀田善久 s.n., 1987-10-3）、44b（大井、芹沢 62105, 1992-7-23）、45（栗栖、村松 26970, 2013-8-2）などで確認されている。

市内分布図



国内：本州（千葉県南部以西）、四国、九州、琉球。

世界：日本、中国大陸からインド、マレーシアに分布している。

生育地の環境／生態的特性

沢沿いの林内に生育する。名古屋市の生育地も沢沿いである。

現在の生育状況／減少の要因

東谷山では谷部の人工林の林床 1 ケ所に数株が生育している。生育地は保全緑地であるが、ニホンジカによる食害を受ける可能性がある。

保全上の留意点

さしあたりは生育状況を継続的に観察する必要がある。

関連文献

平シダ p.190, 学シダⅡp.359.

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 オシダ科>

タニヘゴ *Dryopteris tokyoensis* (Makino) C.Chr.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

夏緑性のシダ植物。根茎は太く直立し、葉を束生する。葉はほとんど直立し、葉柄は長さ 20～30cm、暗褐色～淡褐色で膜質の鱗片を密につける。葉身は倒披針形、単羽状で長さ 1m に達し、下部の羽片は次第に短くなる。羽片は線形～線状披針形、浅裂～深裂、最下裂片は最も大きく耳形となる。胞子のう群は羽片の中肋寄りに 1～2 列に並び、円腎形の包膜がある。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味竈池，長谷川 1080，2024-6-24，N）、5 緑区（大高町高山，長谷川 556，2023-2-11，N）に生育している。

県内：県 GDB2017 p.216 参照。東三河と西三河には点在する。尾張では少なく、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、犬山、春日井で確認されているだけである。

国内：北海道、本州、四国、九州に広く分布するが、西南日本では少ない。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

通常は山地の谷すじの湿地に生育し、しばしば開けた場所や疎林内に群生する。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では 2 ケ所に生育しており、個体数も比較的多い。生育状態も良好である。緑区でも上に引用した標本はあまり大きいものではないが、現地では個体数もかなり多く、生育状態も良好だという。湿地性の植物なので、生育環境階級は 4 と判断した。

保全上の留意点

生育地の保全が必要である。

関連文献

平シダ p.188, 学シダⅡ p.361.

倉田 悟・中池敏之(編). 1985. 日本のシダ植物図鑑 1:504-510. 東京大学出版会, 東京.

(芹沢俊介)

アスカイノデ *Polystichum fibrillosopaleaceum* (Kodama) Tagawa

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。分布の中心が関東地方南部の海岸沿いにある植物で、名古屋市では最近になって 1 ケ所での生育が確認された。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性のシダ植物。根茎は短く斜上し、葉を束生する。葉柄は長さ 10~25cm、密に鱗片をつける。葉柄下部の鱗片は狭披針形で、全縁、ややねじれる。葉身は広披針形で長さ 50~70cm、幅 18~25cm、2 回羽状複生、中軸下部の鱗片は毛状である。小羽片は長さ 0.9~1.2cm で先端は鋭頭、表面は光沢のある深緑色、孢子嚢群は小羽片の中肋と辺縁の中間につく。

分布の概要

市内：1 守山区（弁天ヶ丘、村松 34149, 2023-5-15, N）に生育している。

県内：14（西浦町、鈴木 学 s.n., 1984-3-11）、15 雲ノ谷町（犬飼 清 3009, 1980-3-15）、16（杉山町、犬飼 清 10244, 1989-12-2）、17（谷熊町、芹沢 79671, 2005-5-9）、18（伊良湖、犬飼 清 7522, 1985-11-22）、21（田折町、芹沢 86486, 2010-10-12）、23（北一色、村松 87-258, 1987-10-26）、24 幸海町、芹沢 36812, 1983-5-18）、31（深溝、芹沢 69185, 1994-5-13）、36（佐久島、芹沢 81352, 2007-5-21）、37a（海上町、芹沢 74722, 1998-7-5）、44a（内扇、堀田善久 s.n., 1987-10-3）、44b（内海内福寺、芹沢 61426, 1992-5-26）、48（廻間町、芹沢 69619, 1994-6-1）などで確認されている。

国内：本州（宮城県～紀伊半島）、四国（高知県）。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

海岸近くの山林の林床に群生する。多少内陸に入った場所に生育していることもある。名古屋の生育地はスギ・ヒノキにコナラが混じる針広混交林の林床である。

現在の生育状況／減少の要因

市内の生育地は 1 ケ所のみだが、そこではややまとまった数の個体が生育している。

保全上の留意点

生育地の林を保全する必要がある。

特記事項

イノデ類は多くの種が知られているが、本種は分化のもとになる 2 倍体種である。現地にはイノデ、アイアスカイノデも生育していて、特にイノデとの雑種であるミウライノデは大きく成長しており、本種より目立つほどである。

関連文献

平シダ p.174, 学シダⅡ p.410.

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 ウラボシ科>

ミツデウラボシ *Selliguea hastata* (Thunb.) Fraser-Jenk.

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 12。愛知県全体で見ればそれほど少ない種類ではなく、特に深山性というわけでもないが、名古屋市では最近になって初めて 1 ケ所での生育が確認された。

評価区分

名古屋市 2025	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性のシダ植物。根茎は横走し、密に鱗片をつける。鱗片は線状披針形で基部は卵形、長さ 3～4mm、褐色で膜質、全縁かまばらに突起がある。葉柄は長さ 3～13cm、わら色で下部は紫褐色となり、光沢がある。葉身は単葉または 3 裂し、単葉の場合は披針形で鋭尖頭、長さ 3～11cm、3 裂する場合は長さ 10～15cm、側裂片は大きくても中央裂片の 2/3 以下である。胞子のう群はやや中肋寄りに並び、円形、直径 2-3mm である。

分布の概要

市内：2 名東区（猪高緑地、長谷川 12, 2020-4-11, N）に生育している

県内：1（瀬戸、芹沢 46755, 1987-8-29）、3 大入溪谷、芹沢 39003, 1983-10-28）、4（面ノ木峠、芹沢 38549, 1983-10-6）、6（田内、芹沢 62950, 1992-8-30）、7（川合、芹沢 59884, 1991-8-24）、8（池場、芹沢 35276, 35277*, 1982-9-7）、9（炭焼田峠、堀田善久 s.n., 1987-10-25）、10（布里、芹沢 63396, 1992-9-10）、11（鴨ヶ谷、芹沢 42129, 1985-9-21）、13（財賀町、瀧崎 35407, 2020-6-20, T）、14（西浦温泉、瀧崎 12002, 1991-3-12）、15（嵩山町、瀧崎 18884, 2001-8-23, T）、5（押山、塚本威彦 2461, 1997-8-28）、19（池島、芹沢 39068, 1983-11-1）、20（四ツ松、鈴木万里亜 692, 1995-7-8）、22（築平、日比野修 2291, 1994-6-22）、23（北曾木、日比野修 3171, 1995-9-22）、24（押沢町、芹沢 68873, 1993-10-22）、25（猿投山、畑佐武司 57, 1994-9-9）、26（水源町、畑佐武司 2272, 2001-8-11）、28（鹿勝川、芹沢 57160, 1990-9-21）、29（蓬生町、伊奈知子 461, 1993-7-1）、31（須美、金子律子 1043, 1995-8-24）、36（東幡豆、壁谷重美子 796, 1994-8-5）、37a（上半田川町、日比野修 4539, 1998-6-28）、44a（野間、芹沢 39958, 1984-6-9）、45（善師野、芹沢 54115, 1989-11-11）、48（廻間町、太田さち子 1202, 1993-10-26）などで確認されている。35（新村町、斉藤勝通 s.n., 1947-7-15）で採集された標本もある。*は葉の先端が著しく獅子葉になるもの。多少獅子葉になるものは他にもある。

市内分布図



国内：北海道（西南部）、本州、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸、フィリピン、インド南部。

生育地の環境／生態的特性

道路わきなどの急傾斜地や崖地など、比較的乾いた場所に生育していることが多い。

現在の生育状況／減少の要因

猪高緑地内の工事跡の垂直に削られた崖地に数株生育している。工事後に定着したことは明らかであるが、更に工事が行われれば消失する可能性が高い。

保全上の留意点

生育地の現状を維持する必要がある。

関連文献

平シダ p.276-277, 学シダⅡ p.455.

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

維管束植物 <小葉植物 ヒカゲノカズラ科>

オニトウゲシバ *Huperiza javanica* (SW.) Fraser-Jenk.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。暖地の低山地に生育する植物で、市内では 2 ヶ所に生育しているだけである。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の多年生草本。茎は数回分枝し、基部は若時斜上するが老株では横に倒れ、上部は直立し、高さ 10~20cm になる。葉はやや斜上気味に開出し、短い柄があり、葉身は狭長楕円形、長さ 20~30mm、幅 3~5mm、両端とも鋭形、辺縁には不規則な歯牙がある。胞子のうは茎上部の葉の基部に断続的につき、その部分の葉はしばしば著しく小さくなるが、あまり小さくならないこともある。

分布の概要

市内：1 守山区（東谷山，村松 28245, 2016-5-13, A）、5 緑区（鳴海町徳重，長谷川 993, 2024-3-9, N）に生育している。

県内：東三河、西三河の低山地には点在するが、尾張では少ない。3（西菌目，芹沢 87349, 2011-9-18）、8（鳳来寺山，芹沢 87559*, 87561, 2012-4-7）、9（下吉田，芹沢 88298, 2013-5-5）、11（作手木和田，芹沢 100258, 2022-5-14）、12（大海，芹沢 95460, 2019-7-6）、13（財賀町，芹沢 96194, 2020-6-20）、14（遠望峰山，井上美保子 966, 1994-2-20）、15（嵩山町，芹沢 90880, 2015-11-7）、17（蔵王山，小林 50183, 1994-3-27）、18（石神，芹沢 36387, 1982-11-28）、5（小田木町，芹沢 92672, 2017-7-25）、19（蕪木町，芹沢 96332, 2020-10-5）、23（西市野々，日比野修 3100, 1995-9-3）、25（猿投山，芹沢 86615, 2010-11-23）、28（桜井寺町，芹沢 86347, 2010-10-2）、29（村積山，芹沢 86624, 2010-11-24）、30（桑谷町，芹沢 89291, 2014-6-12）、31（荻，金子律子 1646, 1995-11-6）、37a（岩屋町，芹沢 88319, 45（八曾，芹沢 86586, 2010-10-31）、47（大山，村瀬正成 6226, 1993-3-3）、48（廻間町，芹沢 91591, 2016-10-14）などで確認されている。愛知県のものほとんど 4 倍体またはそう推定されるものだが、*は核 DNA 含量を測定して 2 倍体であることを確認したものである。

国内：本州南部、四国、九州、琉球。

世界：日本、台湾、中国大陸南部、東南アジア。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

低山地のやや湿った林床や粘土質の崖地に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

東谷山では北側の沢の林内に少数株が生育している。緑区では 10 株程度の小群落があったという。

保全上の留意点

生育地の地形や植生を保全することが必要である。

特記事項

東谷山では、本種とホソバトウゲシバの雑種と推定されるヒロハトウゲシバと思われる植物も採集されている（標本：鳥居ちゑ子 3278, 2013-9-23, A）。

関連文献

平シダ p.43.

（芹沢俊介）

クラマゴケ *Sellaginella rematifolia* Spring

評価理由

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。暖地山地性の植物で、市内では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の柔らかい多年生草本。主茎は地上を長く匍匐し、1~4cm 間隔で側枝を出す。側枝は枝を分け、長さは通常 10cm 以下である。葉は主茎にはまばらに、側枝には密に 4 列につき、腹葉は水平に開出して卵形、長さ 2~3.5mm、幅 0.8~2mm、先端は鋭頭、基部は円形で前側がやや広く、全縁、背葉は小さく、狭卵形で鋭尖頭である。胞子のう穂は枝端に 1 個頂生し、四角柱状、長さ 3~8mm のことが多いが、時には 2cm 以上になることもある。

分布の概要

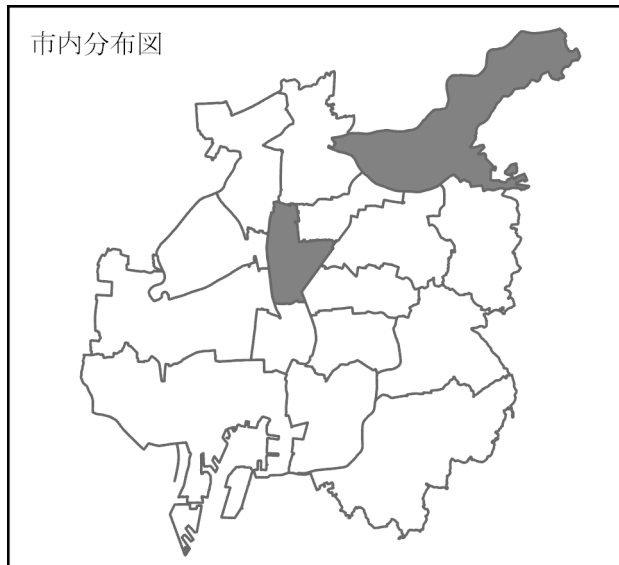
市内：1 守山区（吉根、鳥居ちゑ子 3055, 2012-5-20, A）、7 中区（名古屋城、芹沢 78089, 2002-9-14, A）に生育している。

県内：山地、丘陵地に点々と分布し、平野部の一部にも生育している。2（新野峠、村松 26977, 2013-8-15）、3（御園、瀧崎 30323, 2014-6-14, T）、10（一色、瀧崎 32382, 2017-3-30, T）、11（安城市野外センター、瀧崎 8085, 1985-7-7）、12（富岡、瀧崎 34408, 2019-3-31, T）、13（江島町、瀧崎 25509, 2009-6-14, T）、15（賀茂町、小林 65697, 1999-3-17）、5（野入町、瀧崎 24846, 2008-10-11, T）、19（伊熊、日比野修 2221, 1994-5-31）、20（御内町、芹沢 95921, 2019-10-5）、22（涼堂、塚本威彦 874, 1994-4-9）、24（岩倉町、山崎玲子 736, 1994-4-6）、25（猿投山、土場トシ子 460, 1994-5-2）、28（牧原、芹沢 45368, 1986-11-9）、30（池金町、瀧崎 17314, 1999-5-16）、37a（白坂町、日比野修 3063, 1995-8-12）、44b（岩屋、芹沢 41415, 1984-11-25）、45（栗栖、村瀬正成 4538, 1991-11-19）、48（内津町、山田果与乃 2126, 2015-5-16）、57a（津島神社、芹沢 47098, 1987-10-1）などで確認されているが、標本の蓄積はやや不十分である。

国内：北海道、本州、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、東南アジア、南アジア。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

通常は沢沿いのやや湿った林床に群生する。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋城ではやや離れた 2 地点にそれぞれ小群落があったが、ごく最近の状況は確認していない。守山区も小群落だったらしい。

保全上の留意点

名古屋城では、園内整備などの際に過度の除草を行わないよう、注意する必要がある。

特記事項

名古屋市では、イワヒバ科の植物としては本種の他に帰化植物のイヌカタヒバ（国リストとして掲載）とコンテリクラマゴケが採集されている。

関連文献

平シダ p.53, 学シダ I p.272

倉田 悟・中池敏之（編）. 1990. 日本のシダ植物図鑑 6:184-196. 東京大学出版会, 東京.

（芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 ハナヤスリ科>

ハマハナヤスリ *Ophioglossum thermale* Kom.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 11。丈の低い草地に生育する植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

小型の夏緑性のシダ植物。根茎は短く、1～数枚の葉を束生する。栄養葉の葉身は長楕円形～広披針形、長さ 2～8cm、幅 3～10mm、先端は鋭頭、基部は次第に細くなる。孢子葉は栄養葉の葉身基部から分岐して直立し、長さ 6～10cm の柄があり、その先に長さ 1.5～5cm の孢子のう穂がつく。

分布の概要

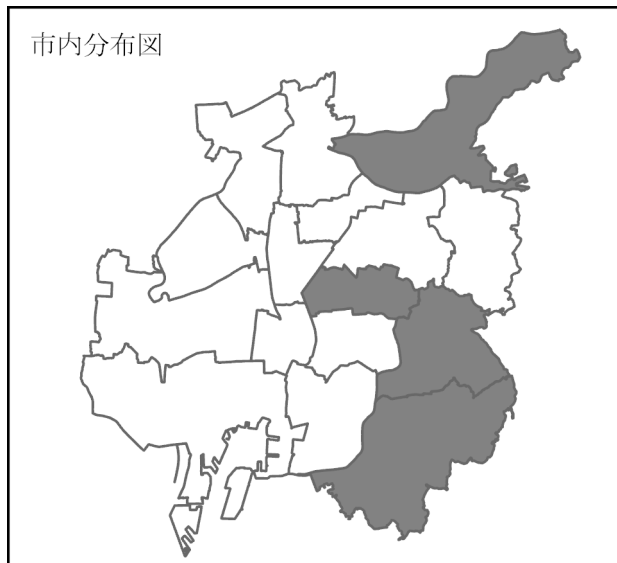
市内：1 守山区（吉根太鼓ケ根，村松 24586，2008-9-21，A）、4 天白区（八事山田，村松 30146，2018-11-4，N）、5 緑区（鳴海町笹塚，芹沢 93754，2017-10-14，A）、8 昭和区（八事興正寺，渡邊幸子 5249，2002-10-23，A）に生育している。

県内：平野部～丘陵地に点在するが、多いものではない。山地にも稀産する。7（和市，畑佐武司 2668，2001-11-21）、8（長篠西，小林 66140，1999-5-14）、11（善夫，小林 57688，1995-8-6）、14（海陽町，芹沢 89733，2014-10-4）、17（赤羽根町高松北，小林 43775，1993-6-6）、19（駒山，芹沢 62050，1992-6-27）、21（羽布，小林 57694，1995-8-6）、24（平戸橋町，山崎玲子 469，1993-6-2）、25 八草町，守谷茂樹 2667，1999-10-25）、36（佐久島，岡田速 s.n.，1989-7-20）、37a（東菱野町，村松 88-210，1988-11-12）、38a（岩作，芹沢 62259，1992-7-27）、43（大谷，中井三従美 53，1996-9-21）などで確認されている。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、台湾、中国大陆。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

日当たりのよい、丈の低い草地に生育する。しばしば墓地に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

緑区では公園内の墓地やその周辺に点在している。守山区では 2 株生育してただけで、その後の状況は確認されておらず、そのためこの場所は集団数から除外してある。

保全上の留意点

土地が過度に攪乱されれば消滅するが、攪乱が停止され、丈の高い草に覆われても消滅してしまう。公園や墓地を管理し、軽度の攪乱を継続することが必要である。

特記事項

2024 年の仮リストには掲載されていないが、再検討の結果復活した。コハナヤスリは本種とコヒロハハナヤスリの雑種と推定されるもので、天白区（八事霊園，芹沢 76747，2000-5-27）で採集された標本がある。八事霊園では点在していたが、墓地の改修により減少している。

関連文献

平シダ p.63, 学シダ I p.288.

（芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 コケシノブ科>

ウチワゴケ *Crepidomanes minutum* (Blume) K.Iwats.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。市街地や丘陵地には希少な着生植物である。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

小型の常緑性シダ植物。根茎は長くはい、暗褐色の毛を密生する。葉はまばらにつき、葉柄は長さ 10～20mm、細く、翼はない。葉身は扇形～広楕円形、長さ 7～15mm、基部は心形～広くさび形、辺縁は不規則に浅裂～深裂し掌状となる。葉肉部分は薄い膜質で、1 層の細胞からなる。包膜は長い鐘形、口縁は広がり全縁、胞子のう床は長く伸びる。

分布の概要

市内：1 守山区（吉根，村松 27957, 2014-12-24, A）、6 東区（徳川園，長谷川 109, 2021-7-19, N）、7 中区（名古屋城，高木順夫 10567, 2002-9-14, A）、10 熱田区（熱田神宮，寺本匡寛 s.n., 2024-4-6, N）。東区、中区の生育地は市街地に生育する例として特に貴重である。ただし東区では、その後調査した時には確認できなかったようである。

県内：東三河、西三河の山地にはやや普通に見られ、新しい標本を再採取していないところも含めて 1（八嶽山，村松 24915, 2009-9-21）、2（坂宇場，村松 22263, 2004-8-20）、3（西菌目，村松 24915, 2009-9-21）、4（水梨川，村松 20810, 2001-8-25）、6（呼間川，芹沢 62977, 1992-8-30）、7（鹿島山，芹沢 93177, 2017-9-3）、8（槇原，芹沢 36373, 1982-11-18）、9（阿寺川，芹沢 45349, 1986-11-3）、10（布里，芹沢 70508, 1994-8-28）、11（岩波～下木和田，芹沢 38949, 1983-10-27）、12（桜淵，芹沢 45323, 1986-11-3）、13（長沢，瀧崎 20796, 2003-6-14, T）、15（嵩山町，芹沢 44209, 1986-7-10）、17（六連，瀧崎 9487, 1987-7-5）、18（高木，小林 50089, 1994-3-19）、5（稲橋町，芹沢 86216, 2010-9-19）、19（杉本，村松 16174, 1995-5-27）、20（追分，芹沢 68635, 1993-10-12）、21（下山田代町，芹沢 84605, 2009-8-8）、23（北一色，塚本威彦 1732, 1995-9-29）、24（王滝溪谷，堀田善久 85-1232, 1985-9-14）、25（猿投山，畑佐武司 2472, 2001-9-15）、28（鹿勝川，芹沢 57942, 1990-10-27）、29（村積山，芹沢 47826, 1987-11-15）、30（t）、36（吉良町宮迫，芹沢 32433, 1981-4-13）、37a（広久手町，芹沢 75907, 1999-7-4）、44b（豊浜，芹沢 60652, 1991-10-3）、45（本宮山，芹沢・松田 284, 1986-10-15）、47（石金，日比野修 5077, 1999-11-13）、48（外之原町，村松 14253, 1993-9-18）などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州、琉球に分布するが、東北日本では稀である。

世界：旧世界の熱帯に広く分布する。

生育地の環境／生態的特性

林内の岩上や樹幹に着生し、通常群生してマット状となる。個体数はとりあえず各マットを 1 個体として数えている。

現在の生育状況／減少の要因

守山区では流れに近いコナラの根もとに着生していた。東区ではシイの根もとに小群落があったという。中区では名古屋城の石垣の間に小群落があっただけである。熱田区は「クスノキの樹幹に小群落を形成」と報告されている（寺本ほか 2025）。

保全上の留意点

守山区の自生地は、市内ではシダ植物が集中して生育している場所の一つであるが、近くまで造成が迫っている。生育地の保全が必要である。名古屋城の石垣は文化財として保全されているが、小群落なので、乾燥等により消失するおそれがある。

引用文献

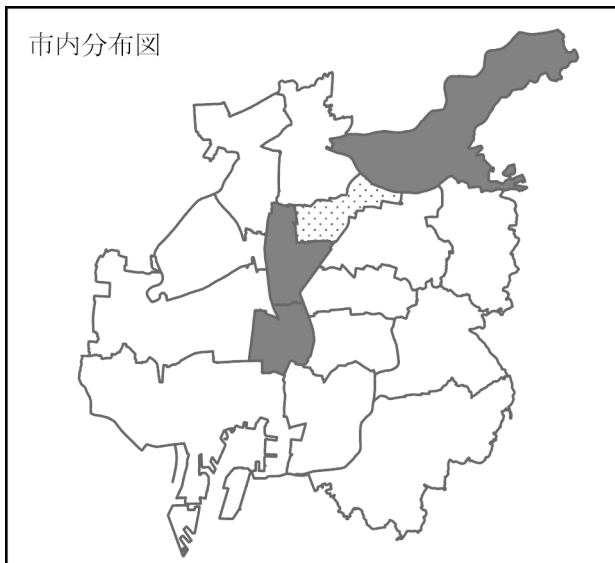
寺本匡寛・山崎俊哉・安藤義範・本宮万愛. 2025. 熱田神宮で再発見されたウチワゴケ. なごやの生物多様性 12:59-61.

関連文献

平シダ p.86, 学シダ I p.313.

倉田 悟・中池敏之(編). 1985. 日本のシダ植物図鑑 5:24-35. 東京大学出版会, 東京.

市内分布図



(芹沢俊介)

トキワトラノオ *Selenium Pekinese Hence*

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県西部分布階級 2、総点 11。尾張ではあまり多くない植物で、その中で名古屋市は比較的多い方だが、それでも生育地は限られている。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性のシダ植物。根茎は短く、葉を束生する。葉柄は長さ 2~5cm、葉身は広披針形、3 回羽状に切れ込み、長さ 8~15cm、先端は鋭頭、下部の羽片はやや短くなり、しばしば掌状に近い形になる。中部の羽片は狭卵形、葉質は厚く、表面は深緑色でやや光沢がある。胞子のう群は裂片の中肋に沿ってつき、長楕円形、長さ 1.5~2.5mm、半月形の包膜がある。

分布の概要

市内：1 守山区（上志段味東谷，村松 31704, 2020-11-5, N）、5 緑区（大高町，長谷川 686, 2023-7-10, N）、7 中区（名古屋城，村松 22967, 2006-1-21, A）、8 昭和区（鶴舞公園，鳥居ちゑ子 3916, 2018-6-21, N）に生育している。

県内：東三河と犬山には点在しているが、それ以外では少ない。2（古間立，小林 83561, 2004-11-7）、3（大入溪谷，小林 83605, 2004-11-20）、7（長江，芹沢 83019, 2008-8-24）、8（鳳来寺山，芹沢 83838, 2008-11-6）、9（乗本，芹沢 81588, 2007-6-23）、13（千両町，小林 77537, 2003-10-2）、14（金平町，小林 77447, 2002-12-21）、15（石巻山，加藤等次 215070, 1996-7-10）、21（下山田代町，芹沢 99150, 2021-9-15）、25（御船町，山崎玲子 2126, 2000-1-31）、28（鳥川町，芹沢 91555, 2016-10-1）、37a（定光寺町，村松 32725, 2021-10-24, N）、39a（諸輪，芹沢 90691, 2015-10-3）、45（池野，村松 28822, 2017-9-30, N）、47（堀の内，長谷川 463, 2022-8-30, N）、48（玉野町，村松 12993, 1993-7-28）などで確認されている。

国内：本州（関東地方南部以西）、四国、九州（最南部を除く）。沖縄本島でも採集されたことがある。

世界：日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、シベリア東部。

生育地の環境／生態的特性

本来は石灰岩の岩壁のすそなどに生育する植物と思われるが、現在では石垣に生育していることが多い。名古屋市の生育地も石垣である。

現在の生育状況／減少の要因

中区の生育地は名古屋城の石垣で、個体数も比較的多い。緑区は大高城址、昭和区は鶴舞公園内に小群落がある。守山区は民家の古い石垣に小群落があるが、石垣の改修により消失するおそれがある。

保全上の留意点

名古屋城の石垣に生育しているものは、過度の除草等が行われなければ、将来も存続すると思われる。

特記事項

近縁のコバノヒノキシダ *A. anogrammoides* H.Christ からは、葉身が細く、葉表が深緑色で光沢があることで区別できる。

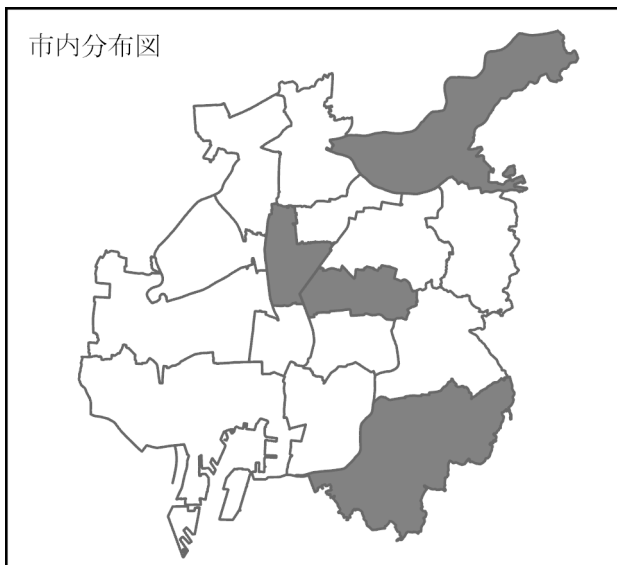
関連文献

平シダ p.149, 学シダ I p.414, SOS 旧版 p.38.

倉田 悟・中池敏之(編). 1981. 日本のシダ植物図鑑 2:124-129. 東京大学出版会, 東京.

(芹沢俊介)

市内分布図



維管束植物 <シダ植物 メシダ科>

タニヌワラビ *Athyrium otophorum* (Miq.) Koidz.

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。暖地性のシダ植物で、市内では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性の多年生草本。根茎は直立する。葉は束生し、葉柄は長さ 30~45cm、帯紅紫色、下部に披針形で黒褐色の鱗片がつく。葉身は卵形~卵状三角形、長さ 35~50cm、幅 25~40cm、2 回羽状全裂する。羽片は 7~9 対、最下羽片にはごく短い柄があるが中上部の羽片は無柄、上部の羽片はやや急に小さくなる。最下羽片の小羽片は 12~18 対、大きいものは長さ 3cm、幅 13mm くらいになり、ほぼ無柄、基部前側は耳状になる。胞子のう群は裂片の中肋寄りにつき、包膜は半月形、線形間がは鉤形、長さ 2~3.5mm である。

分布の概要

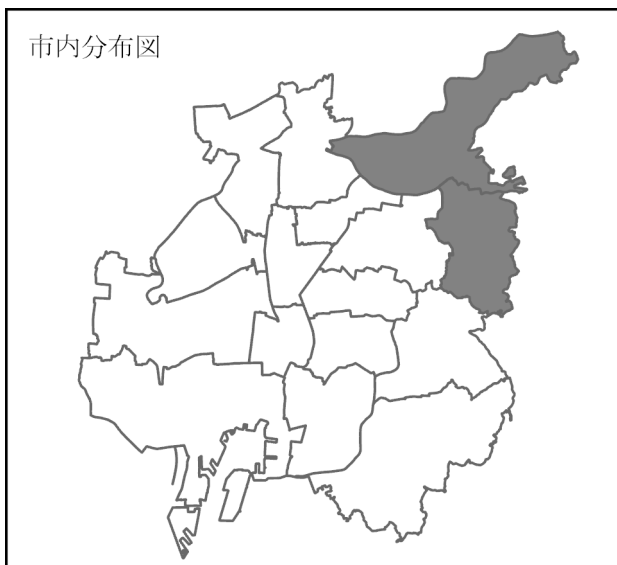
市内：1 守山区（吉根，村松 31699, 2020-11-4, N）、2 名東区（猪高町，長谷川 286, 2022-3-14, N）に生育している。守山区下志段味（犬飼 清 10354, 1990-6-11, A）で採集された標本もある。

県内：低山地に多く、3（大入溪谷，芹沢 39011, 1983-10-28）、6（川向延坂，芹沢 82595, 2007-10-6）、8（川合，芹沢 84485, 2009-7-15）、10（塩瀬，犬飼 清 12064, 1993-8-23）、12（大海，芹沢 95470, 2019-7-6）、13（御津町金野，犬飼 清 8566, 1987-10-14）、14（西浦町，犬飼 清 10505, 1990-9-5）、15（石巻山，村松 23498, 2006-11-3）、16（細谷町，小林 68227, 1999-12-7）、17（谷熊町，芹沢 79852, 2005-7-10）、19（伊熊町，芹沢 87225, 2011-8-7）、21（田折町，芹沢 84650, 2009-8-8）、25（八草町，小林 74055, 2001-11-1）、29（蓬生町，芹沢 66664, 1993-7-24）、30（羽栗町，芹沢 70979, 1994-9-22）、31（荻，金子律子 1453, 1995-10-14）、32a（井ヶ谷町，瀧崎 3381, 1979-11-3）、36（吉良町津平，芹沢 82000, 2007-8-9）、37a（広久手町，芹沢 82035, 2007-8-16）、37b（平子町，村松 20360, 2000-11-18）、44a（豊丘，芹沢 60642, 1991-10-3）、45（八曾，芹沢 44176, 1986-7-4）、47（大山，日比野修 5033, 1999-10-9）などで確認されている。

国内：本州（山形県以南）、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、インド北西部。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

沢沿いのやや湿った林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

守山区吉根では、林内に 8 株生育しているのが確認された。名東区では 1~2 株が生育していただけである。個体数階級は 2 か 3 か微妙なところだが、とりあえず 2 としておく。

保全上の留意点

生育地の林や地形を保全することが必要である。

関連文献

平シダ p.237, 学シダ II p.303.

倉田 悟・中池敏之（編）. 1990. 日本のシダ植物図鑑 6:556-566. 東京大学出版会，東京.

（芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 メシダ科>

ヒロハイスワラビ *Athyrium wardii* (Hook.) Makino

評価理由

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。低山地の沢沿いには普通に見られる植物だが、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

夏緑性のシダ植物。根茎は斜上する。葉柄は長さ 10~30cm、通常葉身よりも短く、中軸や羽軸とともに紅紫色をおび、基部は暗黒色で鱗片を密生する。鱗片は線形~披針形、長さ 6~12mm、幅約 1mm、先端は長く鋭尖頭、全縁、茶褐色だが中央部が濃色になることがある。葉身は三角形~広卵形、長さ 20~35cm、幅 20~30cm、基部が最も広く、2 回羽状複生、上方は急に狭くなる。胞子のう群は小羽片の中肋に接してつき、包膜は三日月形である。

分布の概要

市内：1 守山区（下志段味穴ヶ洞、村松 84176, 2009-6-9, A）、2 名東区（猪高町高針山、渡辺幸子 5061, 2001-5-18, N）、3 千種区（平和公園、長谷川 1100, 2024-7-13, N）に生育している。

県内：1（漆島川、芹沢 46828, 1987-8-30）、2（佐久間ダム西岸、芹沢 56136, 1990-7-31）、6（樫尾谷、村松 22826, 2005-8-28）、7（神田、芹沢 64501, 1992-10-30）、8（川合、芹沢 46020, 1987-7-23）、9（炭焼田峠、芹沢 46058, 1987-7-23）、10（愛郷、芹沢 70474, 1994-8-27）、11（荒原、芹沢 70533, 1994-8-28）、12 大海（芹沢 95472, 2019-7-6）、13（長沢、瀧崎 18067, 2000-9-18, T）、14 御堂山、芹沢 36066, 1982-10-23）、15（石巻金田町、加藤等次 215186, 1996-8-12）、16（東赤沢町、小林 40583, 1992-11-23）、17 六連町、芹沢 79862, 2005-7-10）、5（神田、芹沢 46148, 1987-7-29）、19（坪崎、芹沢 63195, 1992-9-8）、20（伊勢神峠、芹沢 30672, 1979-9-20）、21（田折町、芹沢 84639, 2009-8-8）、22（永太郎町、芹沢 92596, 2017-7-1）、23（西市野々、日比野修 3042, 1995-8-12）、24（東広瀬町、芹沢 68254, 1993-10-1）、25（猿投山、村松 s.n., 1989-10-5）、28（鹿勝川、福岡義洋 1400, 1990-9-21）、29（小美町、芹沢 66623, 1993-7-24）、30（鉢地町、芹沢 69911, 1994-6-23）、31（荻、犬飼 清 7088, 1984-7-25）、33（小川町、堀田善久 85-676, 1985-6-29）、36（西幡豆、芹沢 70226, 1994-8-2）、37a（東白坂町、芹沢 82194, 2007-9-10）、37b（新居町、村松 24321, 2008-7-20）、38b（岩崎、芹沢 62754, 1992-8-26）、41b（佐布里、村松 28420, 2016-10-22）、44a（野間、堀田善久 s.n., 1987-9-26）、45（栗栖、村松 26969, 2013-8-2）、47（大山、芹沢 87135, 2011-6-26）、48（廻間町、芹沢 69612, 1994-6-1）などで確認されている。3（大入川、恒川敏雄 53, 1954-11-7, T）で採集された標本もある。

国内：本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

通常は山地の湿潤な林床に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

守山区ではシダ植物の多い小谷に数株が生育していたらしい。千種区では平和公園内のため池周辺の湿潤な小谷の林床に数株生育している。名東区では最近の状況が確認されていない。

保全上の留意点

湿潤な林床環境を維持することが必要である。

関連文献

平シダ p.239, 学シダ II p.302.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 メシダ科>

ヒカゲワラビ *Diplazium chinense* (Baker) C.Chr.**評価理由**

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。暖地性の植物で、市内では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

夏緑性の多年生草本。根茎は匍匐する。葉は互いに接近してつき、葉柄は長さ 30～60cm、下部に披針形で黒褐色の鱗片がつく。葉身は広卵状三角形、長さ、幅とも 40～70cm、3 回羽状全裂する。羽片は 6～8 対、最下羽片には長い柄があり、上部の羽片は次第に小さくなる。最下羽片の小羽片は 11～14 対、大きいものは長さ 12cm、幅 4cm くらいになり、長さ 4～5mm の柄がある。裂片はややまばらにつき、羽状に中～深裂する。胞子のう群は裂片の中肋寄りにつくが先端はしばしば葉縁近くまで達し、線形、長さ 1.5～3mm である。

分布の概要

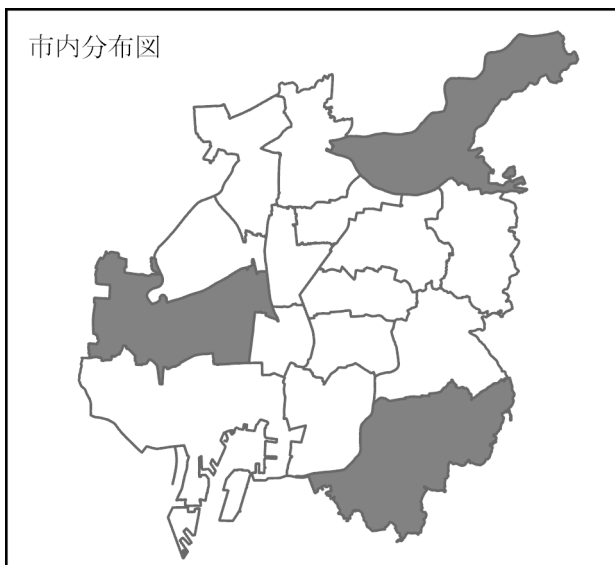
市内：1 守山区（東谷山，村松 28195, 2015-10-23, A; 弁天が丘，長谷川 1099, 2024-7-23, N）、5 緑区（鳴海町螺貝，長谷川 207, 2021-10-31, N）に生育している。15 中川区（富永，芹沢 81754, 2007-7-23, A）で採集された標本もある。

県内：東三河には点々と分布しているが西三河と尾張では少ない。2（古真立，小林 82138, 2004-7-31）、4 油戸（芹沢 96262, 2020-9-6）、8（富保，小林 66538, 1999-6-23）、9（黄柳野，芹沢 98835, 2021-8-25）、10（一色，芹沢 98916, 2021-9-4）、12（横川，芹沢 98890, 2021-9-4）、13（東上町，芹沢 96017, 2019-11-23）、15（嵩山町，芹沢 90878, 2015-11-7）、16（川崎町，小林 64602, 1998-7-12）、17（六連町，芹沢 81670, 2007-6-30）、20 下国谷（芹沢 72520, 1995-10-20）、21（田折町，芹沢 99158, 2021-9-15）、25（猿投山，村松 24017, 2007-10-7）、28（富尾町，芹沢 99190, 2021-9-15）、37a（海上町，芹沢 80635, 2006-7-19）、37b（滝ノ水池，村松 22251, 2004-8-15）、38a（岩作，村松 26554, 2012-8-28）、41b（八幡，加藤雅憲 107, 1996-4-18）、44b（内海内福寺，芹沢 101753, 2023-6-18）、48（金ケ口町，村松 18833, 1999-9-19）、58b（弥富野鳥園，小林 62900, 1997-11-11）などで確認されている。

国内：本州（新潟県以南）、四国、九州、琉球。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸、ベトナム。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

通常は山地のやや湿った林内に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

守山区弁天が丘および緑区では、緑地内の湿潤な場所に数株ずつ生育している。東谷山では、北側の沢に、葉身長 60cm 程度がよく育った株が 2 株生育していたという。現地は 1985 年頃砂防堰堤が作られた場所で、その後に定着したと思われる。しかし、2018 年 6 月に再調査した時には確認できなかったそうである。消失の原因はよくわからないが、ニホンジカによる食害の可能性もある。中川区では小群落があったが、近況は確認されていない。

保全上の留意点

生育地の林や地形を保全する必要がある。

関連文献

平シダ p.256, 学シダ II p.327

倉田 悟・中池敏之（編）. 1983. 日本のシダ植物図鑑 3:82-87. 東京大学出版会，東京.

（芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 メシダ科>

キヨタキシダ *Diplazium squamigerum* (Mett.) Matsum.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。低山地の沢沿いには普通に見られる植物だが、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

夏緑性のシダ植物。根茎は斜上する。葉柄は長さ 15-30cm、鱗片が宿存するが、上方ではまばらになる。鱗片は披針形～狭披針形、黒褐色～ほとんど黒色、光沢がありかたく、辺縁には突起がある。葉身は三角形、長さ、幅ともに 20～40cm、2 回羽状複葉。中軸には黒くて幅の狭い鱗片がつく。胞子のう群は線形、長さ 2～7mm、中肋近くについて斜上する。

分布の概要

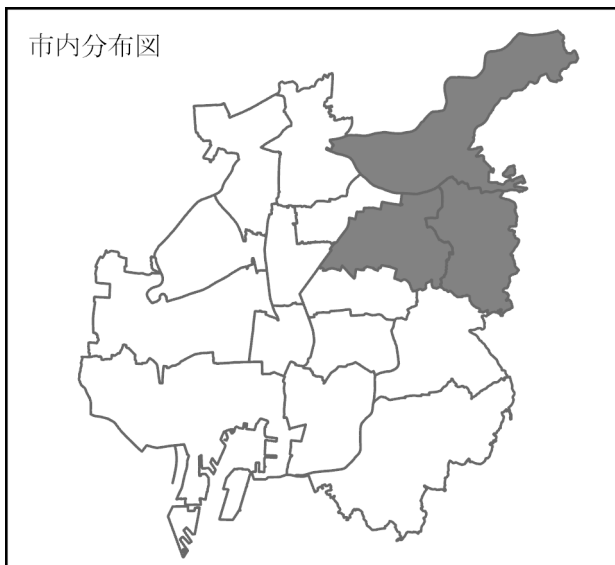
市内：1 守山区（吉根階子田，村松 31472，2020-09-08，N）、2 名東区（東名古屋病院，久納鉦一 s.n.，2000-7-31，A）、3 千種区（平和公園，長谷川 1101，2024-07-13，N）に生育している。

県内：1（大谷，芹沢 46773，1987-8-30）、2（坂宇場，村松 13058，1993-8-2）、3（本郷，瀧崎 8663，1986-7-2）、6（田内，芹沢 81551，2007-6-17）、7（川合，芹沢 52518，1989-7-31）、8（四谷，芹沢 97859，2021-6-5）、9（炭焼田峠，芹沢 46067，1987-7-23）、11（木和田，小林 51978，1994-6-5）、13（千両町，瀧崎 13708，1992-8-30，T）、15（石巻中山町，小林 66400，1999-6-10）、16（小島町，小林 66644，1999-7-7）、5（大野瀬町，芹沢 84390，2009-7-4）、20（大奥山，塚本威彦 2030，1996-7-25）、21（田折町，芹沢 84081，2009-5-27）、22（田代，芹沢 52091，1989-6-30）、23（上川口町，畑佐武司 9675，2020-9-24）、25（猿投山，芹沢・磯貝 61，1984-7-24）、30（鉢地町，芹沢 69923，1994-6-23）、37b（平子町，村松 19831，2000-8-18）、45（八曽，村瀬正成 5147，1992-6-28）などで確認されている。

国内：北海道、本州、四国、九州。

世界：日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

山地の沢沿いの林下などの、やや湿った場所に生育する。

現在の生育状況／減少の要因

守山区ではシダ植物の多い小谷に数株が生育していたという。千種区では平和公園内のため池に近い小谷の林床に数株生育している。名東区では最近の状況が確認されていない。過去からの増減は不明である。

保全上の留意点

生育地の林を保全する必要がある。

関連文献

平シダ p.256, 学シダ II p.325.

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 オシダ科>

オオカナワラビ *Arachniodes amabilis* (Blume) Tindale var. *fimbriata* K.Iwats.**評価理由**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県西部分布階級 1、総点 11。暖地性のシダ植物で、名古屋市では生育地が少ない。

評価区分

名古屋市 2025	準絶滅危惧
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性のシダ植物。根茎は横に這い、長楕円形～披針形、長さ 4～8mm で黄褐色の鱗片がやや密につく。葉柄は長さ 30～40cm、わら色～褐色、鱗片は少ない。葉身は卵状楕円形、長さ 35～40cm、幅 25～30cm、2 回羽状複生、側羽片は 5～10 対で、先端は側羽片とほぼ同形の頂羽片となる。下部側羽片の最下小羽片はしばしば羽状に全裂し、最下羽片の基部後側では特に著しい。胞子のう群は裂片の辺縁寄りにつく。

分布の概要

市内：1 守山区（東谷山、長谷川 583, 2023-3-16, N; 吉根階子田、村松 31701, 2020-11-4, N）、2 名東区（猪高緑地、長谷川 1076, 2024-04-06, N）に生育している。1995 年以降では、名東区（東名古屋病院、久納鉦一 162, 1997-9-12, A）、9 緑区（鳴海町水広下、渡邊幸子 2566, 1995-12-12, N）でも採集されている。

県内：低山地ではあちこちに生育しており、2（丸山沢～湯島、村松 14433, 1993-10-10）、8（長篠、芹沢 81611, 2007-6-27）、9（乗本、芹沢 91545, 2016-9-24）、10（布里、芹沢 70510, 1994-8-28）、12（出沢、村松 26948, 2013-7-25）、13（財賀寺、芹沢 96193, 2020-6-20）、15（石巻山、村松 23482, 2006-11-3）、16（杉山町、芹沢 59147, 1991-7-13）、17（赤羽根町高松、小林 49669, 1993-12-4）、18（石神、芹沢 36384, 1982-11-28）、21（田折町、芹沢 86098, 2010-8-22）、23（北一色、日比野修 3186, 1995-9-29）、24（上高町、畑佐武司 6681, 2003-11-12）、28（滝尻、芹沢 57967, 1980-10-27）、29（小美町、伊奈知子 1161, 1993-10-10）、31（須美北山、芹沢 99602, 2021-10-2）、35（家武町、久納鉦一 157, 1998-11-29）、36（吉良町津平、芹沢 81513, 2007-6-12）、37a（海上町、芹沢 81722, 2007-7-7）、42c（富貴深谷、芹沢 102103, 2023-7-15）、43（西之口、小林 55733, 1995-2-4）、44a（豊丘、芹沢 60463, 1991-10-3）、45（楽田、村瀬正成 4765, 1992-1-25）、47（野口、日比野修 5074, 1999-11-7）、53（妙興寺、栗田郁男 214, 1993-5-9）、54（木曽川町木曽川、芹沢 53032, 1989-9-5）などで確認されている。

国内：本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球（西表島）。

世界：日本、朝鮮半島、中国大陸からスリランカ、マレーシアにかけて分布する。

生育地の環境／生態的特性

山地の林内に生育することが多い。市内では発達した二次林内や沢沿いの崖地に生育している。

現在の生育状況／減少の要因

守山区東谷山、名東区猪高緑地ではそれぞれ数株ずつ生育している。吉根でも少数株が生育しているらしい。

保全上の留意点

生育地の林を保全する必要がある。

特記事項

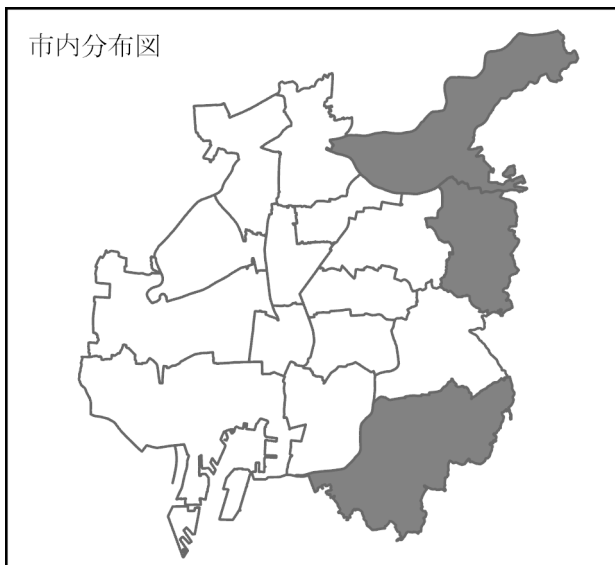
2020 年版レッドリストでは希少偶産種と判定したが、その後 3 ヶ所で自生が確認され、1995 年に採集された標本も 1 点出てきた。この状態をそのまま評価すれば集団数階級 2、総点 10 でリスト外になるが、1990 年代に採集された 2 ヶ所ではその後の生育が確認されていないので、今回はとりあえず準絶滅危惧と評価しておく。

関連文献

平シダ p.179-180, 学シダ II p.392.

(長谷川泰洋 芹沢俊介)

市内分布図



維管束植物 <小葉植物 イワヒバ科>

イヌカタヒバ *Selaginella moellendorffii* Hieron.

除外理由

名古屋市では人家の周辺に生育しているが、すべて栽培品からの逸出で、評価の対象にならない。

評価区分

名古屋市 2025	国リスト
愛知県 2025	国リスト
全国 2025	絶滅危惧Ⅱ類

形態

常緑性の多年生草本。匍匐茎は基物の上を這う。地上茎は長さ 10~20cm の柄状の部分があり、葉身状の部分は卵形~三角状広卵形、長さ 15~22cm、幅 8~20cm、3~4 回羽状に分岐し、先端は鋭尖頭になる。羽片状の側枝は 4~7 対である。枝上の葉は 2 形性、各 2 列につき、背葉は卵形、長さ 0.7~1.3mm、先端は芒状、辺縁は白色の膜状になり、辺毛がある。腹葉は卵形~長卵形、長さ 1.2~3mm、先端は前方に曲がって鋭尖頭、辺縁は狭い白膜部になる。胞子のう穂は小枝の先端につき、四角柱状、長さ 0.5~1cm である。

分布の概要

市内: 15 中川区(西日置, 高木順夫 23899, 2018-10-13) に生育している。1 守山区(小幡北山, 太田由美子 167, 1993-8-22) で採集された標本もある。

県内: 人里周辺ではあちこちに生育しており、東: 8 (榎原, 芹沢 87807, 2012-9-1)、9 (黄柳野, 芹沢 98832, 2021-8-25)、10 (一色, 芹沢 98911, 2021-9-4)、15 (石巻本町, 芹沢 82629, 2007-10-7)、25 (八草町, 山崎玲子 1345, 1996-4-2)、27 (三好丘, 芹沢 89737, 2014-10-5)、28 (くらがり溪谷, 芹沢 104478, 2024-10-5)、37b (旭ヶ丘町, 芹沢 88184, 2012-10-27)、38b (北新町, 村松 25540, 2010-11-20)、39b (沓掛町, 浅野守彦 1452, 2000-8-11)、45 (栗栖, 芹沢 85344, 2009-11-7)、49c (師勝町熊之庄, 鈴木幸子 687, 1994-10-26)、54 (尾西市三条, 渡辺幸子 4877, 2001-9-18) など で採集された標本があるが、実際にはより多くの場所に生育している。

市内分布図



国内: 自生のものは、琉球(八重山諸島)に分布しているだけである。

世界: 日本南端・フィリピンからインドシナにかけて分布している。

生育地の環境／生態的特性

自生地では沢沿いの湿った岩上に生育しているが、逸出したものは地上性またはそれに近いことが多い。

現在の生育状況／減少の要因

1995 年以降の標本は 1 点だけだが、実際には他にもあちこちに生育していると思われる。守山区でもおそらく存続していると思うので、分布図は現存として表示した。

保全上の留意点

名古屋市のものは全て逸出であり、保全の対象にならない。

特記事項

カタヒバに似ているが、地上茎の葉身状部分はあまり伸びず、側枝は著しく重なり合い、葉縁が白色になる。

関連文献

平シダ p.52, 学シダ I p.278.

(芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 マツバラ科>

マツバラ *Psilotum nudum* (L.) Beauv.**除外理由**

名古屋市のものは全て逸出で、評価の対象にならない。

評 価 区 分

名古屋市 2025	国・県リスト
愛知県 2025	絶滅危惧Ⅱ類
全 国 2025	準絶滅危惧

形態

常緑性の多年生シダ植物。根はなく、葉もない。根茎は不規則に分岐し、直径 1~2mm、褐色の仮根を密につける。地上茎は直立、斜上または下垂し、2~3 回 2 叉分岐し、高さは 10~40cm であるが愛知県のものでは大きくても 25cm 程度、緑色で無毛、枝は稜があって、断面が三角形となる。単なるが、熟すと黄色になる。胞子は黄白色である。

分布の概要

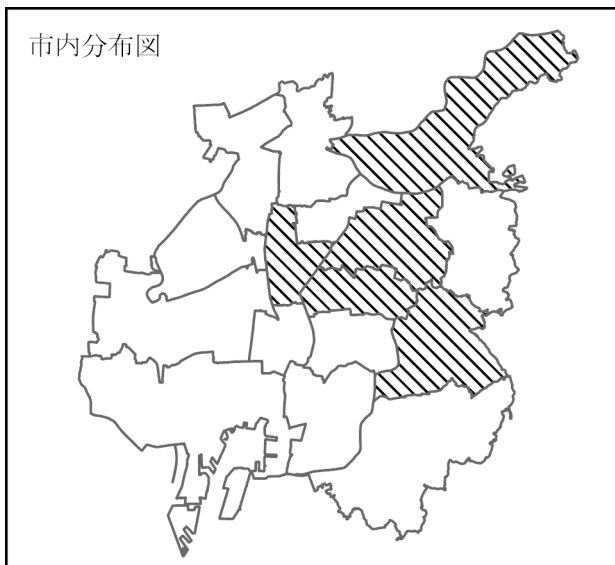
市内：1 守山区（小幡，村松 25927, 2011-7-10, A）、3 千種区（田代町，芹沢 93241, 2017-9-9, A）、4 天白区（天白町八事裏山，芹沢 88953, 2013-9-29, A；音聞山，渡邊幸子 7526, 2018-9-28, N）、7 中区（三の丸，芹沢 93219, 2017-9-8, A）、8 昭和区（鶴舞公園，鳥居ちる子 4826, 2020-9-9, N）で確認されている。

県内：県 RDB2020 p.372 参照。確実に自生と思われるものは、鳳来北東部、田原東部、西尾南部で記録されている。豊川と豊田東部でもおそらく自生と思われるものが採集されている。大原（1971）は産地として足助、松平、西尾南部、鳳来、椎代、田原を挙げており、以前はもう少し広い範囲にあったものと思われるが、裏付けとなる資料はほとんど残されていない。逸出と思われるものは、名古屋市のほか、新城、豊川、豊田東部、刈谷、安城、高浜、東浦などで確認されている。

国内：本州（太平洋側は宮城県、日本海側は石川県以南）、四国、九州、琉球、小笠原に生育しているが、全国的にも減少傾向が著しい。

世界：世界の熱帯、亜熱帯に広く分布する。

市内分布図

**生育地の環境／生態的特性**

名古屋市内ではいずれも人家近くの石垣などに生育している。

現在の生育状況／減少の要因

散発的に出現する程度で、どの場所も個体数は少ない。

保全上の留意点

名古屋市のものはすべて逸出と思われ、保全の対象にならない。

特記事項

根も葉もなく、茎だけが 2 叉分岐をくり返す単純な体制は、現生の植物では他に類似したものがない。日本では古くから観賞用に栽培され、江戸時代には多数の園芸品種が知られていた。

引用文献

大原準之助, 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.35. 名古屋営林局, 名古屋.

関連文献

平シダ p.41, 学シダ I p.295, SOS 旧版 p.35+図版 9, SOS 新版 p.43,442.

倉田 悟・中池敏之(編), 1987. 日本のシダ植物図鑑 5: 2-7. 東京大学出版会, 東京.

(芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 オシダ科>

ハガクレカナワラビ *Arachniodes yasu-inouei* Sa.Kurata

除外理由

名古屋市では 1 回採集されただけの植物だが、採集された場所から判断しておそらく樹木苗等について移入されたものと思われ、評価の対象にならない。

評価区分

名古屋市 2025	国リスト
愛知県 2025	国リスト
全国 2025	絶滅危惧Ⅱ類

形態

常緑性の多年生草本。根茎は短く匍匐する。葉は少数が接近して出て、葉柄は長さ 40~70cm、密に披針形で黒褐色の鱗片をつける。葉身は卵形~長楕円状卵形、長さ 30~50cm、幅 15~25cm、2 回羽状全裂、先端は急に狭くなる。側羽片は 4~6 対、最下羽片は長さ 14~20cm で 7~12mm の柄があり、小羽片は 12~15 対、短い柄があり、基部前側は耳状、下側第一小羽片は更に羽状に切れ込み、次のものより大きい、著しく長いというほどではない。胞子のう群はやや中肋寄りにつき、包膜は円腎形である。

分布の概要

市内：10 熱田区（神宮 1 丁目、高木順夫 7705, 1999-9-23, A）。標本は葉身長約 40cm である。

県内：愛知県内では他に採集されていない。

国内：本州（紀伊半島、山口県）、四国、九州。

世界：日本固有種。

市内分布図



生育地の環境／生態的特性

自生地では沢からやや離れた照葉樹林内に生育していることが多い。

現在の生育状況／減少の要因

名古屋市では 1 回採集されただけで、生育状況も不明である。現在まだ生育しているかどうかははっきりしない。

保全上の留意点

本来の自生ではないと思われるので特に配慮する必要はないが、名古屋市を含む愛知県での記録はほとんどないので、見かけたら標本を作成しておいてほしい。

特記事項

レッドデータブックあいち 2020 には掲載されていないが、実際には県でも国リストになる。オニカナワラビ *A. chinensis* (Rosenst.) Ching に似ているが、葉質がやや薄く、葉縁の鋸歯は先端が著しく芒状になる。オニカナワラビは愛知県では低山地に広く生育しており、名古屋市でも 1 守山区（東谷山、村松 29702, 2018-6-23, N）、3 千種区（平和公園、芹沢 101703, 2023-6-17, A）、4 天白区（天白町八事、渡邊幸子 5308, 2003-6-14, N）、5 緑区（鳴海町笹塚、渡邊幸子 3706, 1999-3-18, N、葉身長約 20cm の小さい葉だが胞子のう群はつけている）などで採集されている。

関連文献

平シダ p.181, 学シダⅡ p.394.

倉田 悟・中池敏之（編）. 1979. 日本のシダ植物図鑑 1:396-399. 東京大学出版会, 東京.

（芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 コパノイシカグマ科>

イヌシダ *Dennstaedtia hirsuta* (Sw.) Mett.**市内の生育状況**

7 中区（名古屋城，芹沢 78093, 2002-9-14, A）で採集された標本がある。葉身長は約 20cm で、本種としてはよく発育したものである。「こんな普通種が？」と笑われそうだが、市内産の標本は現在のところこの 1 点しかない。生育状況を覚えていないので、とりあえず希少偶産種としておく。

評価区分

名古屋市 2025	希少偶産
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

胞子をつける葉は夏緑性だが、秋に出る裸葉は越冬するやや小型のシダ植物。葉身は長さ 12～25cm、幅 4.5～10cm、2 回羽状深～全裂、小羽片は更に浅～中裂し、全体に毛が多い。胞子のう群は葉縁につき、包膜は杯形である。

分布の概要

県内：愛知県全体ではやや普通に見られる植物で、1（漆島川，芹沢 46817, 1987-8-30）、2（坂宇場，芹沢 26349, 1977-7-20）、3（本郷，芹沢 100428, 2022-7-2）、4（白鳥山，瀧崎吉伸 11046, 1989-8-19）、6（駒ヶ原，瀧崎 21997, 2005-7-3, T）、7（鹿島山，芹沢 63528, 1992-9-18）、8（鳳来寺山，加藤等次 215522, 1996-10-23）、9 阿寺川，芹沢 45020, 1986-10-17）、10（一色，芹沢 70484, 1994-8-28）、11（鴨ヶ谷，芹沢 42127, 1985-8-21）、13（長沢，瀧崎 18028, 2000-9-18, T）、14（御堂山，芹沢 36075, 1982-10-23）、15（嵩山町，瀧崎 18868, 2001-8-23, T）、5（小田木，塚本威彦 2343, 1997-7-15）、20（大奥山，芹沢 95484, 2019-7-6）、21（田折，芹沢 42054, 1985-9-21）、22（大ヶ蔵連，日比野修 2457, 1994-8-9）、23（大岩，塚本威彦 1667, 1995-9-9）、24（西広瀬町，佐藤久美子 1429, 1993-10-15）、25（猿投山，山崎玲子 843, 1994-7-5）、28（細光，福岡義洋 755, 1990-6-17）、29（蓬生町，伊奈知子 457, 1993-7-1）、37a（上の山町，村松 20211, 2000-9-24）、45（栗栖木曾川，佐分康之 670, 1996-7-1）、47（大山，村瀬正成 5506, 1992-9-4）、48（木附町，村松 14623, 1993-10-17）、54（尾西市玉野，渡邊幸子 3118, 1997-6-12）などで確認されているが、現在のところ知多半島では知られていない。

国内／世界：北海道、本州、四国、九州／朝鮮半島、台湾、中国大陸、ロシア極東部。

関連文献

平シダ p.101, 学シダ I p.362.

（芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 イノモトソウ科>

ナチシダ *Pteris wallichiana* J.Agardh**市内の生育状況**

5 緑区（鳴海町細根山，長谷川 932, 2023-12-27, N）の神社林と果樹園の境界の草地に、1 株生育している。現地は草刈りが定期的に行われている場所で、大きな株にはなにくそうだが、一方でよく探せば複数個体が見つかる可能性もある。

評価区分

名古屋市 2025	希少偶産
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性だが、分布域の北の方では冬に地上部が枯れることがあるシダ植物。根茎は斜上し、鱗片は広披針形～三角状長楕円形、膜質、茶褐色である。葉柄はよく育ったものでは長さ 1m に達し、黄褐色から暗紫色で光沢がある。葉身は基部で 3 岐し、側枝は後側に枝を出して五角形状になり、よく育ったものでは長さ、幅共に 1m を超えるが名古屋市のものはどちらも 40cm 程度、各枝とも 2 回羽状深裂、裂片は線状披針形でやや鎌状、長さ 1.2～2cm、幅 2～4mm である。胞子嚢群は葉縁に沿ってつくが、名古屋市のものはまだつけていない。

分布の概要

県内：南方系のシダ植物で、愛知県では極めて稀少であったが、近年名古屋市以外でもいくつかの新産地が発見されている。13（一宮町勝川，小林 55031, 1994-11-12）、15（石巻中山町，小林 57620, 1995-7-29）、18（泉福寺，小林 77184, 2002-11-16）、25（猿投山，瀧崎 36618, 2021-10-16）、36（東幡豆町，村松 35802, 2024-10-5）、41b（佐布里，村松 33998, 2022-12-8, N）、44a（小野浦，瀧崎 34896, 2019-7-28）などで確認されている。

国内／世界：本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球／台湾、中国大陸～南アジア。

関連文献

平シダ p.139, 学シダ I p.379.

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 ヒメシダ科>

イブキシダ *Thelypteris esquirolii* (H.Christ) Ching var. *glabrata* (H.Christ) K.Iwats.

市内の生育状況

1 守山区（東谷山，村松 29704，2018-6-23，N）に 1 株生育しているという。生育地は北側斜面の沢沿いと聞いている。14 中村区（中村公園，福原 稔 19069，1998-11-7，A）にも 1 株生育していた。中村区の生育地は市街地にある公園の池畔と教えてもらったが、その後現地に行った時には確認できなかった。

形態

本来は常緑性だが、愛知県では夏緑性に近いシダ植物。葉は 2 回羽状深～全裂、羽片は細く、多数、下部のものは次第に縮小し、最下数対は耳状になる。

分布の概要

県内：東三河の低山地には点在するが、西三河、尾張では少ない。2（古真立，芹沢 100928，2022-10-2）、3（大入溪谷，芹沢 39016，1983-10-28）、8（名越～川合，芹沢 38628，1983-10-7）、10（玖老勢椎平，芹沢 64535，1992-11-8）、12（日吉，芹沢 59232，1991-7-24）、13（一宮町牛の滝，芹沢 64517，1992-11-8）、15（嵩山町，瀧崎 18895，2001-8-23，T）、17（滝頭，伊藤三也 s.n.，1992-10-23）、24（王滝溪谷，畑佐武司 4424，2002-7-12）、29 茅原沢町（村松 27021，2013-8-29）、37a（北白坂町，塚本威彦 s.n.，2006-8-12）、48（玉野町，村松 13827，1993-9-5）などで確認されている。

国内／世界：本州、四国、九州／朝鮮半島、中国大陆。種としては台湾、南アジアにも分布する。

関連文献

平シダ p.217-218，学シダ I p.439.

評価区分

名古屋市 2025	希少偶産
愛知県 2025	—
全国 2025	—

（芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 メシダ科>

カラクサイヌワラビ *Athyrium clivicola* Tagawa

市内の生育状況

1 守山区（吉根，村松 14302，1993-9-25，A、葉身長約 35cm）で採集された標本がある。1 株だけだったようで、その後は確認されていない。

形態

ヤマイヌワラビに似ているが、羽片の柄が長く、小羽片の耳垂が大きく、胞子のう群がほとんど鉤形にならないことなどで区別できる。

分布の概要

県内：山地ではあちこちに生育しており、1（瀬戸，芹沢 46749，1987-8-29）、2（坂宇場，村松 13386，1993-8-24）、4（東山，芹沢 93121，2017-9-2）、6（田口延坂，村松 24472，2008-8-23）、8（川合，芹沢 46019，1987-7-23）、10（布里，小林 58455，1995-10-14）、11（西田原，芹沢 42085，1985-9-21）、13（長沢，瀧崎 18068，2000-7-18，T）、14（御堂山，芹沢 36055，1982-10-23）、15（石巻山，芹沢 28462，1978-9-10）、5（面ノ木峠，芹沢 84353，2009-7-4）、19（坪崎，芹沢 63146，1992-9-8）、20（大奥山，塚本威彦 2162，1996-10-2）、23（白川，塚本威彦 1772，1995-10-6）、24（西広瀬町，芹沢 66710，1993-7-27）、28（檜山，芹沢 59114，1991-6-29）、30（鉢地町，芹沢 69910，1994-6-23）、36（吉良町津平，芹沢 39188，1983-11-21）、37a（海上町，芹沢 75883，1999-7-4）、37b（平子町東，村松 25232，2010-6-27）、38a（長湫，村松 16686，1995-11-23）、45（八曽，芹沢 44815，1986-9-26）、47（野口，村松 18634，1999-8-7）、48（外之原町，村松 14823，1993-11-3）、57b（立田村福原，山田茂貴 1021，1995-5-7）などで確認されている。25（猿投山，岡本英一 67，1958-6-9）で採集された標本もある。

国内／世界：北海道、本州、四国、九州／朝鮮半島、中国大陆。

関連文献

平シダ p.238-239，学シダ II p.302.

評価区分

名古屋市 2025	希少偶産
愛知県 2025	—
全国 2025	—

（芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 メシダ科>

サキモリヌワラビ *Athyrium oblitescens* Sa.Kurata

市内の生育状況

1 守山区（上志段味, 村松 21812, 2003-8-13, N; 吉根, 村松 14332, 1993-9-23, A, どちらも 1 株だったという）で採集された標本がある。2 回確認されているがやや間隔があいており、定着していたとは言い難い。

評価区分

名古屋市 2025	希少偶産
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

タニイヌワラビとヒロハイヌワラビのゲノムを併せ持つ 6 倍体種で、タニイヌワラビからは羽片に短い柄があること、葉質がやや厚いことなどで区別できる。カラクサイヌワラビのゲノムを含むもの（ニセカラタニイヌワラビと仮称されている）も本種に含められることが多いが、愛知県のものは全て狭義のサキモリヌワラビと思われる。

分布の概要

県内：8（長篠, 芹沢 81614, 2007-6-27）、12（中宇利, 村松 26747, 2013-3-23）、13（音羽町萩, 犬飼 清 8003, 1986-9-27）、14（柏原町, 小林 77504, 2002-12-28）、29 小美町, 芹沢 66622, 1993-7-24）、30（藤川町, 芹沢 43351, 1985-11-17）、31（遠望峰山, 芹沢 78225, 2002-10-5）、37a（十軒町, 芹沢 79844, 2005-6-28）、37b（霞ヶ丘町, 村松 80-7, 1980-1-5）、38b（岩崎, 芹沢 62753, 1990-8-26）、45（栗栖, 村瀬正成 4947, 1992-5-31）などで確認されている。

国内／世界：本州、四国、九州／日本固有種。

関連文献

平シダ p.237, 学シダ II p.303.

（芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 オシダ科>

オシダ *Dryopteris crassirhizoma* Nakai

市内の生育状況

1 守山区（下志段味, 芹沢 84183, 2009-6-9, A）の林内に、葉長約 90cm のものが 1 株生育していた。最初の確認は 1998 年で、その後もずっと存続していたが、子株はできておらず、現状では希少偶産種の範囲を出ない。

評価区分

名古屋市 2025	希少偶産
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

夏緑性のシダ植物。根茎は斜上し、葉を輪状に束生する。葉柄は長さ 10～25cm、鱗片を密生する。鱗片は長卵形から線形、先端は尾状に伸び、辺縁には毛状突起がまばらにあり、黄褐色～黒褐色である。葉身は倒披針形、長さ 60～120cm、幅 20～30cm。2 回羽状深～全裂、羽片は狭披針形、幅 1.5～2.5cm、胞子囊群は葉身上部の羽片につき、小羽方の中肋寄りに並ぶ。

分布の概要

県内：温帯林の林床に多い。2（坂宇場, 芹沢 46855, 1987-8-30）、4（白鳥山, 芹沢 74844, 1998-8-22）、7（小松, 芹沢 66208, 1993-6-22）、8（門谷, 小林 19155, 1978-7-1）、9（上吉田, 小林 60456, 1996-10-27）、11（西田原, 芹沢 42098, 1985-9-21）、13（本宮山, 小林 79212, 2003-6-5）、14（遠望峰山, 小林 54852, 1994-10-30）、5（面ノ木峠, 芹沢 84356, 2009-7-4）、19（駒山, 畑佐武司 9620, 2020-8-4）、20（御内町, 芹沢 95407, 2019-6-17）、21（田折町, 芹沢 85882, 2010-6-16）、22（東郷町, 芹沢 92625, 2017-7-1）、23（深見町, 芹沢 81438, 2007-6-2）、24（幸海町, 芹沢 36819, 1983-5-18）、25（猿投山, 畑佐武司 75, 1994-9-10）、33（尾崎町, 堀田善久 3363, 1994-5-29）、36（西幡豆, 福原 稔 12413, 1986-4-29）、37a（海上町, 村松 23234, 2006-8-13）、45（尾張富士, 村松 31442, 2020-8-26, N）、47（大山, 村松 27009, 2013-8-17）、48（木附町, 村松 16306, 1995-8-9）などで確認されているが、東三河のいくつかの区画で標本が欠落している。6（段戸裏谷, M.Iwasaki s.n., 1959-7-28, T）で採集された標本もある。

国内／世界：北海道、本州、四国／朝鮮半島、中国大陸東北部、ロシア極東部。

関連文献

平シダ p.189, 学シダ II p.362.

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 オシダ科>

イヌイワヘゴ *Dryopteris cycadina* (Franch. et Sav.) C.Chr.

市内の生育状況

名古屋市では4天白区（天白町植田，渡邊幸子 4800, 2001-7-30, N）で葉身長 50cm ほどの1株が確認されているだけで、定着していたとは言いがたい。

形態

イワヘゴ（市 VU）に似ているが、葉柄基部の鱗片は赤褐色、羽片はより多数つき、やや鎌形に曲がり、脈の表面がへこまない。時に微妙なものがないわけではないが、イワヘゴとは種の階級で区別するのが適切と思われる。

分布の概要

県内：イワヘゴに比べれば少なく、2（古真立，芹沢 100920, 2022-10-2）、7（小松，芹沢 85949, 2010-7-4）、8（鳳来寺山，鈴木 学 3141, 1983-11-25）、13（音羽町長沢，小林 77340, 2002-11-27）、15（嵩山，芹沢 36327, 1982-11-7）、16（細谷町，小林 68225, 1999-12-7）、17（赤羽根町若見，芹沢 58608, 1991-5-26）、20（大河原，塚本威彦 2173, 1996-10-5）、22（樽俣，日比野修 2584, 1994-9-12）、24（御船町，畑佐武司 5568, 2002-11-5）、44a（恋の水神社西方，久納鉦一 s.n., 2001-2-25）などで確認されている。3（大入溪谷，加藤等次 s.n., 1967-11-23）、12（桜淵，瀧崎吉雄 210, 1953-8-7）で採集された標本もある。

国内／世界：本州、四国、九州／朝鮮半島、台湾、中国大陸。

関連文献

学シダⅡp.362-363.

評価区分

名古屋市 2025	希少偶産
愛知県 2025	—
全国 2025	—

（芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 オシダ科>

キヨスミヒメワラビ *Dryopteris maximowicziana* (Miq.) C.Chr.

市内の生育状況

2名東区（藤巻町，渡辺幸子 5165, 2002-9-21, N）で採集された標本がある。「意識して採集したものではないので、生育状況は記憶していない」とのことだが、とりあえず希少偶産種としておく。

形態

3回羽状に中～深裂した葉を持つ常緑性のシダ植物。葉柄に開出した幅広い鱗片が密生すること、葉表に多細胞毛があることなどで、容易に識別できる。

分布の概要

県内：1（八嶽山，村松 23901, 2007-8-26）、2（丸山沢～湯島，村松 14408, 1993-10-10）、3（月，芹沢 100608, 2022-9-3）、4（水梨川，村松 20806, 2001-8-25）、6（田口延坂，村松 24467, 2008-8-23）、8（川合～宇連ダム，芹沢 46022, 1987-7-23）、9（乗本，芹沢 60119, 1991-8-29）、10（布里，芹沢 63399, 1992-9-10）、11（荒原，芹沢 70536, 1994-8-28）、12（出沢，村松 26936, 2013-7-25）、13（長沢，瀧崎 17956, 2000-8-24, T）、15（嵩山，芹沢 36336, 1982-11-7）、16（細谷町，小林 68215, 1999-12-7）、5（小田木，塚本威彦 2386, 1997-7-21）、20（牛地町駒山，村松 26904, 2013-7-6）、20（川面，塚本威彦 2110, 1996-9-12）、21（蘭町，芹沢 84434, 2009-7-14）、22（大ヶ蔵連，村松 23739, 2007-7-7）、23（西市野々，日比野修 3040, 1995-8-12）、24（六所山，畑佐武司 9767, 2020-11-12）、28（鹿勝川，芹沢 57156, 1990-9-21）、30（山綱町，本多さおり 1009, 1994-10-13）、36（西幡豆，壁谷重美子 960, 1994-9-9）、37a（東白坂町，村松 10031, 1991-1-27）、44a（野間，堀田善久 s.n., 1987-10-3）、45（栗栖，芹沢 53768, 1989-10-6）、47（大山，村松 17336, 1997-10-25）などで確認されている。

国内／世界：本州（関東地方以南）、四国、九州／台湾、中国大陸。

特記事項

以前はカツモウイノデ属 *Ctenitis* とされることが多かったが、近年の分子系統解析の結果オシダ属に含まれることが判明した。名東区の他の場所にもあるようなので、標本資料が得られれば改めて評価する必要がある。

関連文献

平シダ p.202, 学シダⅡp.364.

評価区分

名古屋市 2025	希少偶産
愛知県 2025	—
全国 2025	—

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

オオマルバベニシダ *Dryopteris medioxima* Koidz.

市内の生育状況

名古屋市では4名東区（猪高町，長谷川 254, 2022-2-20, N; 相生山緑地，芹沢 101725, 2023-6-17, A）の、どちらも緑地内遊歩道沿いの斜面に、各1株生育している。両者を合わせると2株確認されているが、中間的形態を持つ無融合生殖種なので、とりあえず希少偶産種としておく。

評価区分

名古屋市 2025	希少偶産
愛知県 2025	—
全国 2025	—

形態

常緑性のシダ植物。マルバベニシダとサイゴクベニシダの中間形で、前者に似たものから後者に似たものまであるが、前者からは葉柄にやや幅広い赤褐色～濃褐色の鱗片を密につけること、後者からは孢子のう群が中肋寄りであることで区別できる。

分布の概要

県内：2（古真立，芹沢 101973, 2023-7-7）、6（田峰呼間川，芹沢 62990, 1992-8-30）、8（川売～棚山高原，芹沢 40767, 1984-9-23）、9（乗本，芹沢 62422, 1992-8-15）、10（愛郷，芹沢 70475, 1994-8-27）、12（出沢，村松 26930, 2013-7-25）、13（財賀寺，芹沢 96192, 2020-6-20）、14（御堂山，芹沢 36049, 1982-10-23）、15（嵩山町，芹沢 43976, 1986-6-3）、16（細谷町，小林 68226, 1999-12-7）、17（谷熊町，芹沢 79859, 2005-7-10）、18（山田町泉福寺，芹沢 87625, 2012-6-17）、19（坪崎，芹沢 62549, 1992-8-22）、20（下国谷，芹沢 72523, 1995-10-20）、24（野見山町，芹沢 60005, 1991-8-28）、28（夏山，瀧崎 11523, 1990-7-26）、30（藤川町，芹沢 43343, 1985-11-17）、32a（井ヶ谷町，芹沢 78053, 2002-9-7）、35（平原町，芹沢 82025, 2007-8-9）、36（吉良町津平，芹沢 81994, 2007-8-9）、37a（広久手町，芹沢 82049, 2007-8-16）、37b（平子町，村松 22246, 2004-8-15）、44a（野間，堀田善久 s.n., 1987-9-26）、45（栗栖，村松 27219, 2013-7-22）などで確認されている。

国内／世界：本州（関東地方以西）、四国、九州／朝鮮半島、中国大陸。

関連文献

学シダⅡp.371（エンシュウベニシダとして。同書のオオマルバベニシダについての記述は不適切である）。

（長谷川泰洋 芹沢俊介）

コケ植物

コケ植物については、名古屋市版レッドリスト 2020 作成以降、調査が進んでいないことから、今回は全種の掲載を見送ることとした。したがって、過去の市内の生育状況等については、既発行の名古屋市版レッドリスト 2020 およびレッドデータブックなごや 2015 を参照されたい。

なお、名古屋市版レッドリスト 2020 作成以降に新たに情報が得られた以下の種についてのみ、参考として追加情報を掲載する。

ササオカゴケ（名古屋市 EN）

守山区才井戸流湿地内の 2 か所において群落を確認した。比較的大型のセン類で、長さ 1cm くらいの枝を羽状に分枝する。環境省レッドリスト 2020 では絶滅危惧 I 類に、環境省第 5 次レッドリスト（2025）では準絶滅危惧に記載されている。愛知県内の現存する既知の生育地は、才井戸流と以外は新城市長ノ山湿原の 2 か所のみである。市内での生育適地は極めて限られていることから、国と同等以上の評価が妥当であり、生育地の才井戸流では保全活動が行われていることを踏まえて EN と判定した。

コウライイチイゴケ（名古屋市 DD）

かつては環境省レッドリストで絶滅危惧 I 類に記載されていたが、その後多くの生育地が発見されたため、現在ではリストから外れている。湿地や水路脇などの濡れた場所に生えるやや大型のセン類である。ササオカゴケ同様、市内の既知の生育地は才井戸流湿地のみである。市内での生育適地は限られており、今後もさらに減少していく恐れが高いが、調査不足のため DD と判定した。

ヨツバゴケ（名古屋市 DD）

守山区中志段味の河岸崖のスギの基部でわずかに生育しているのが確認されている。胞子体の蒴歯が 4 本であり、また茎の先端に独特のカップ状の無性芽器をつけていることが多い。落葉樹林帯を中心に分布する種で、三河地域の山間部では普通にみられるが、低地で見つかることは稀である。中志段味の生育地ではいつ消失してもおかしくない状況ではあるが、市内の他の緑地などでの調査結果を踏まえてカテゴリーを判断すべきと考えられるため、DD と判定した。

引用文献

環境省、2020、環境省レッドリスト 2020

環境省、2025、第 5 次レッドリスト（蘚苔類）

山内ほか、2023、ササオカゴケの愛知県での現状と名古屋市の新産地、なごやの生物多様性 10: 73-76

山内、2024、名古屋市才井戸流に生育するコケ植物、なごやの生物多様性 11: 17-21

（山内喜朗）

【 資 料 編 】

1. 名古屋市版レッドリストから削除された種
2. 県内分布の表示に用いた区画の略称と範囲
3. 評価手法の選定理由
4. 今回収録されなかった主要種
5. レッドデータブックなごや・植物編に関するQ & A
6. 文献について
7. 執筆責任者および協力者

1. 名古屋市版レッドリストから削除された種

2020 年の名古屋市版レッドリストに掲載されていた植物のうち、今回見直しを行った結果レッドリストから削除されたものの種名および理由は以下の通りである。

(1) 種子植物 (2 種)

ヤナギイノコヅチ (ヒユ科) (2020 年版 VU) 追加産地が発見され、評価点が 10 以下になった。

スズメノカタビラ (水田型) (イネ科) (2020 年版 NT) 追加産地が発見され、評価点が 10 以下になった。

(2) シダ植物 (1 種)

オオハナワラビ (ハナヤスリ科) (2020 年版 VU) 追加産地が発見され、評価点が 10 以下になった。

2. 県内分布の表示に用いた区画の略称と範囲

区画区分は、市町村界を基礎に、二次メッシュに相当するほぼ 100km² を基準とし、200km² を超える市町村は行政界、地形界、大型構造物などにより分割し、50km² 以下の市町村は合併するという方針で設定した。ただし、郡を超える合併は原則として避け、ある市町村を分割した区画の一つと他の市町村を合併することも避けた。

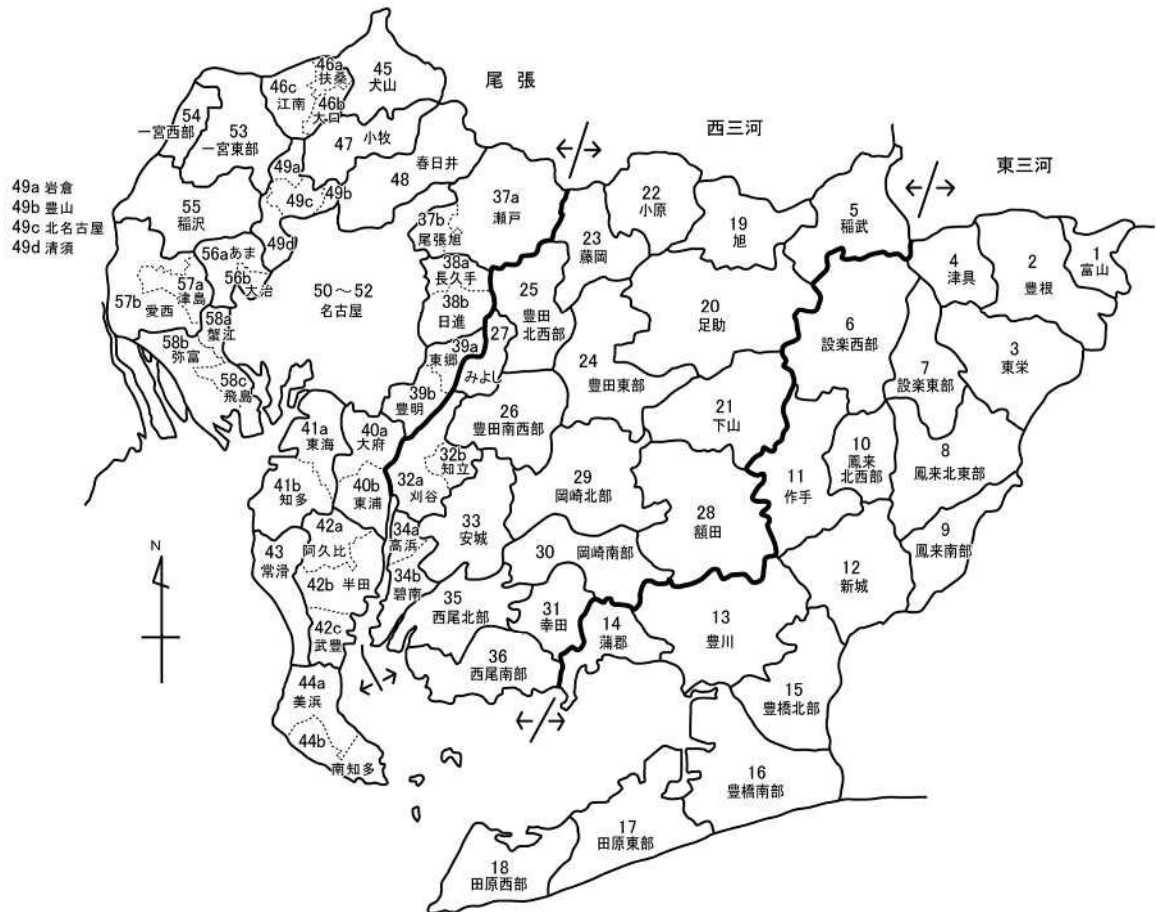


図1 県内分布区画図

表 10 調査区画一覧 (1/2)

地域	番号	略称	範囲
東 三 河	1	富山	豊根村 (旧富山村)
	2	豊根	豊根村 (旧村域)
	3	東栄	東栄町
	4	津具	設楽町 (旧津具村)
	6	設楽西部	設楽町 (旧町域の寒狭川・境川以西)
	7	設楽東部	設楽町 (旧町域の寒狭川・境川以东)
	8	鳳来北東部	新城市 (旧鳳来町の中央構造線以北、寒狭川・海老川以东)
	9	鳳来南部	新城市 (旧鳳来町の中央構造線以南)
	10	鳳来北西部	新城市 (旧鳳来町の寒狭川・海老川以西)
	11	作手	新城市 (旧作手村)
	12	新城	新城市 (旧市域)
	13	豊川	豊川市
	14	蒲郡	蒲郡市
	15	豊橋北部	豊橋市の東海道本線以北
	16	豊橋南部	豊橋市の東海道本線以南
	17	田原東部	田原市 (旧田原町、旧赤羽根町)
	18	田原西部	田原市 (旧渥美町)
西 三 河	5	稲武	豊田市 (旧稲武町)
	19	旭	豊田市 (旧旭町)
	20	足助	豊田市 (旧足助町)
	21	下山	豊田市 (旧下山村)
	22	小原	豊田市 (旧小原村)
	23	藤岡	豊田市 (旧藤岡町)
	24	豊田東部	豊田市 (旧市域の矢作川・御船川以东)
	25	豊田北西部	豊田市 (旧市域の矢作川・御船川以西、国道 153 号バイパス以北)
	26	豊田南西部	豊田市 (旧市域の矢作川・御船川以西、国道 153 号バイパス以南)
	27	みよし	みよし市
	28	額田	岡崎市 (旧額田町)
	29	岡崎北部	岡崎市 (旧市域の矢作川・乙川・男川以北)
	30	岡崎南部	岡崎市 (旧市域の矢作川・乙川・男川以南)
	31	幸田	幸田町
	32a	刈谷	刈谷市
	32b	知立	知立市
	33	安城	安城市
尾 張	34a	高浜	高浜市
	34b	碧南	碧南市
	35	西尾北部	西尾市 (旧市域)
	36	西尾南部	西尾市 (旧一色町、吉良町、幡豆町)
	37a	瀬戸	瀬戸市
	37b	尾張旭	尾張旭市
	38a	長久手	長久手市
	38b	日進	日進市
	39a	東郷	東郷町
	39b	豊明	豊明市
	40a	大府	大府市
	40b	東浦	東浦町
	41a	東海	東海市
	41b	知多	知多市
	42a	阿久比	阿久比町
	42b	半田	半田市
	42c	武豊	武豊町
	43	常滑	常滑市
張	44a	美浜	美浜町
	44b	南知多	南知多町
	45	犬山	犬山市
	46a	扶桑	扶桑町
	46b	大口	大口町
	46c	江南	江南市
	47	小牧	小牧市

表 10 調査区画一覧 (2/2)

地域	番号	略称	範囲
尾	48	春日井	春日井市
	49a	岩倉	岩倉市
	49b	豊山	豊山町
	49c	北名古屋	北名古屋市
	49d	清須	清須市
張	50～52	－	名古屋市
	53	一宮東部	一宮市（奥町を除く旧市域）
	54	一宮西部	一宮市（奥町、旧木曾川町、旧尾西市）
	55	稲沢	稲沢市
	56a	あま	あま市
	56b	大治	大治町
	57a	津島	津島市
	57b	愛西	愛西市
	58a	蟹江	蟹江町
	58b	弥富	弥富市
58c	飛島	飛島村	

3. 評価手法の選定理由

レッドデータブックなごや・植物編においては、個体数、集団数、生育環境の減少傾向、人為的圧力の程度、県西部分布の5項目についてそれぞれ4段階で評価し、その評価点の合計値をもとにカテゴリーを判定した。このような評価手法を用いた理由は、以下の通りである。

絶滅危惧生物各カテゴリーの判定基準としては、国際自然保護連合 IUCN (2001) により、およそ表 11 のようなものが示されている。

表 11 IUCN の基準の概略

カテゴリー	絶滅危惧 I A 類	絶滅危惧 I B 類	絶滅危惧 II 類
A : 10 年間または 3 世代の減少率	80%以上	50%以上	20%以上
B : 生育地面積	10km ² 未満	500km ² 未満	2,000km ² 未満
C : 減少率と 個体数の組合せ	25%以上で 250 未満	20%以上で 2,500 未満	10%以上で 10,000 未満
D : 成熟個体数	50 未満	250 未満	1,000 未満
E : 絶滅確率	10 年間または 3 世代 で 50%以上	20 年間または 5 世代で 20%以上	100 年間で 10%以上

これらの基準のうちでは、絶滅確率を示す E 基準が最も本質的なものである。しかし現実には、絶滅確率を正確に求めることは容易ではない。そこで、補助的な基準として個体数、減少率、生育面積などによる A～D 基準が設置されており、各基準で評価された結果の中で最も高位のものをその種の評価とすることになっている。ただし植物の場合は、生育面積はそれを個体のレベルでとらえるか、群落のレベルでとらえるか、それとももっと大きな地理的分布のレベルでとらえるかによって数値が全く違ってしまい、使用しにくい。また個体数と減少率は、両者を組み合わせることによってその種の将来の運命が一義的に予測できるから、別の基準とする必要はない。そこで環境庁 2000 年版レッドデータブックでは、A、C、D を組み合わせた基準と E 基準を用いて、各種の評価が行われた（環境庁 2000、矢原 2002）。環境庁版の ACD 基準は、図 2 で示すことができる。

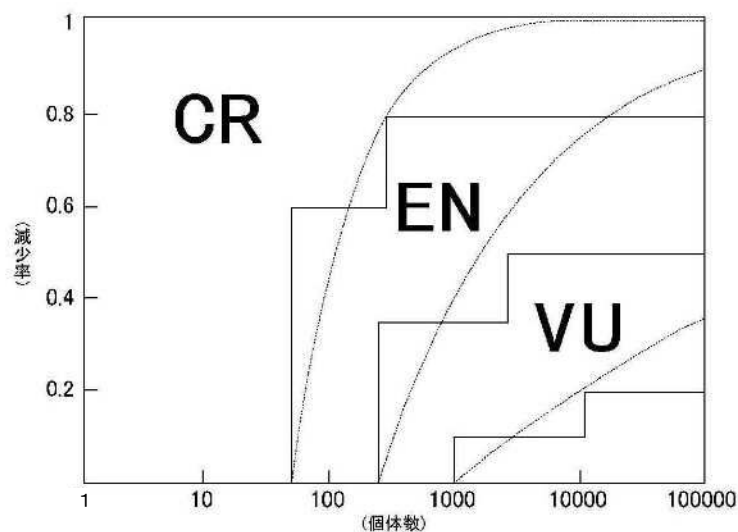


図2 環境庁版 ACD 基準（曲線）と IUCN の A,C,D 基準（折れ線）の関係

しかしながら、環境庁版の ACD 基準や E 基準計算法にはいくつかの論理的な、あるいは技術的な問題点があり（芹沢 2003a）、少なくともそのままの形で都道府県、あるいは市町村のような小地域のレッドデータブックに適用することは適切でない。そこで愛知県 2001 年版レッドデータブックでは、現存個体数と減少率、再侵入確率を、5 つの評価項目によって点数化し（表 12）、それらの合計点をもとに、原則として総点 16 以上を絶滅危惧ⅠA類、14～15 を絶滅危惧ⅠB類、12～13 を絶滅危惧Ⅱ類、11 を準絶滅危惧、10 以下をリスト外と判定するという手法を採用した（愛知県 2001、芹沢 2003b）。

表 12 愛知県版レッドデータブック（維管束植物）で用いられた評価基準

評価点	4	3	2	1
個体数	10 未満	100 未満	1,000 未満	1,000 以上
集団数	1～2	3～5	6～15	16 以上
生育環境の減少傾向	著しく減少 ・自然湿地・草地 ・やせ山・砂浜 ・石灰岩地の岩場 ・塩湿地・湿地 ・貧栄養水域 ・平野部の非汚染水域 など	やや減少 ・自然林 ・二次林 ・石灰岩地以外の岩場 ・平野部以外の非汚染水域 など	増減なし ・造林地 ・外洋 ・非汚染水域と過栄養水域の中間的環境 など	増加 ・攪乱地 ・整理済水田 ・過栄養水域 など
人為的圧力の程度	極めて強い ・極度に強い開発圧または採取圧がある ・開発圧も採取圧もあり、少なくともどちらかが強い	強い ・強い開発圧または強い採取圧がある ・開発圧も採取圧もある	あり ・開発圧（伐採を含む）または採取圧（可能性を含む）がある	なし
地域固有性	強い ・固有種 ・著しい隔離分布	やや強い ・全国的に少なく、分布の限界 ・準固有種	弱い ・隣接地に多いが、分布の限界 ・全国的に少ない	なし ・隣接地に多く、分布の限界でもない

そこで名古屋市 2004 年版レッドデータブックにおいては、上位リストとの整合性を確保するという観点から基本的な評価手法は愛知県のものを踏襲し、個体数、集団数、生育環境の減少傾向、人為的圧力の程度、再侵入確率の 5 項目を点数化して総合する手法で行った。ただし、個体数、集団数の数値基準は、対象面積が狭くなったことにあわせて、ほぼ 1 ランクずらせた。生育環境の減少に関する具体例は、名古屋市での実態にあわせて、一部修正した。再侵入確率の指標としては、可能な限り数値基準を示すことができる指標を用いることが望ましいので、地域固有性の代わりに県内の分布区画数を用いた。また、藤井（2002）の指摘するスケール依存のパラドックスを補正するため、固有度補正項を加えた。今回の 2025 年版レッドデータブックでも、2004 年版、2015 年版との整合性を確保するため、この手法がほぼそのまま使用されている。ただし県内分布区画数は、6 頁に記述したような理由で県西部分布区画数に変更した。その結果作成されたものが、8 頁表 3 に示した評価基準である。

<引用文献>

- 愛知県. 2001. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックあいち・植物編 2001.
同県環境部自然環境課
- 藤井伸二. 2002. 地方版レッドデータブックの成果と問題点. 種生物学会編：保全と復元の生物学ー野生生物を救う科学的思考 pp.95-107. 文一総合出版. 東京.
- IUCN. 2001. IUCN Red Rist Categories, versioi 3.1. IUCN.
- 環境庁. 2000. 日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー 8 植物 I (維管束植物). 自然環境研究センター. 東京.
- 芹沢俊介. 2003a. 維管束植物レッドデータブックの課題 (1) 環境庁 2000 年版レッドデータブックの意義と問題点. 分類 3:141-148.
- 芹沢俊介. 2003b. 維管束植物レッドデータブックの課題 (2) 地方版レッドデータブックの評価手法とチェック項目. 分類 3:149-158.
- 矢原徹一. 2002. 植物レッドデータブックにおける絶滅リスク評価とその応用. 種生物学会編：保全と復元の生物学ー野生生物を救う科学的思考 pp.59-93. 文一総合出版. 東京.

4. 今回収録されなかった主要種

本書の掲載種の解説に収録されなかった種のうち主要なものについて、その理由を以下に示した。資料不十分のエドヒガン（植栽のものを除く）、アケボノソウ、ユウガギクについては、確実な資料が得られた場合は、リスト掲載種に準ずるものとして取り扱う必要がある。評価した上でリスト外と判定された種はすべて評価点 10 以下だが、その中でもここに挙げたものは将来的に絶滅危惧種になる可能性があり、できることならば動向を注視する必要がある。

種子植物

被子植物・初期分岐群	ウマノスズクサ科	ヒメカンアオイ (ゼニバサイシンを含む)	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	オモダカ科	ウリカワ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	イヌサフラン科	ハウチャクソウ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	ラン科	エンシュウムヨウラン	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	ラン科	コ克蘭	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	ラン科	オオバノトンボソウ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	キジカクシ科	ミズギボウシ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	ガマ科	コガマ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	ホシクサ科	ホシクサ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	オオシマカンスゲ	逸出
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	ノゲヌカスゲ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	チャイトスゲ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	シロガヤツリ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	アオテンツキ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	ミカツキグサ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	ウキヤガラ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	ヒメホタルイ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	コマツカサススキ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	コウキヤガラ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	イネ科	ウシクサ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	イネ科	ムツオレグサ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	イネ科	オギ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	イネ科	ススキ (平野部のものはオギとの雑種が多い)	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	マツモ科	マツモ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	アワブキ科	アワブキ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	ヒメハギ科	ヒメハギ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	バラ科	クサボケ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	バラ科	エドヒガン	資料不十分
被子植物・真正双子葉類	バラ科	ビロードイチゴ	評価点 10 以下

被子植物・真正双子葉類	バラ科	コゴメウツギ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	イラクサ科	ラセイタソウ	移入
被子植物・真正双子葉類	ヤナギ科	ネコヤナギ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	ヤナギ科	オオタチヤナギ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	ヤナギ科	コゴメヤナギ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	アカバナ科	ミズユキノシタ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	アブラナ科	ハマダイコン	帰化
被子植物・真正双子葉類	タデ科	シンミズヒキ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	タデ科	シロバナサクラタデ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	タデ科	サデクサ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	モウセンゴケ科	トウカイコモウセンゴケ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	ツルナ科	ツルナ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	ハイノキ科	タンナサワフタギ	検討未了
被子植物・真正双子葉類	アカネ科	アカネ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	リンドウ科	ハルリンドウ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	リンドウ科	アケボノソウ	資料不十分
被子植物・真正双子葉類	キョウチクトウ科	コバノカモメヅル	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	オオバコ科	アブノメ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	シソ科	コムラサキ	逸出
被子植物・真正双子葉類	キキョウ科	ツリガネニンジン	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	キク科	コヒヨドリバナ	検討未了
被子植物・真正双子葉類	キク科	ノニガナ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	キク科	ユウガギク	資料不十分
被子植物・真正双子葉類	キク科	ヨメナ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	キク科	コオニタビラコ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	キク科	ニホンタンポポ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	ウコギ科	コシアブラ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	ウコギ科	ケヤマウコギ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	ウコギ科	オカウコギ	評価点 10 以下

小葉植物・シダ植物

小葉植物	ヒカゲノカズラ科	ミズスギ	評価点 10 以下
シダ植物	イノモトソウ科	タチシノブ	評価点 10 以下
シダ植物	メシダ科	ミヤマノコギリシダ	評価点 10 以下
シダ植物	オシダ科	オオイタチシダ (ベニオオイタチシダ)	検討未了
シダ植物	オシダ科	ジュウモンジシダ	評価点 10 以下
シダ植物	シノブ科	シノブ	評価点 10 以下
シダ植物	ウラボシ科	マメヅタ	評価点 10 以下

5. レッドデータブックなごや・植物編に関するQ & A

以下に、今まで公表したレッドリスト／レッドデータブックに対して寄せられた主な質問、意見等について、回答（補足説明）を掲載した。

Q1：レッドリスト掲載種は、希少種と考えてよいか。

A1：レッドリストは、それぞれの種に対して現在加えられている圧力が将来もそのまま継続すると仮定した場合、その種の絶滅リスクがどの程度であるかという観点から評価が行われています。そのため、リスト掲載種はかならずしも希少種というわけではありません。例えば、以前からごく普通に見られ現在もまだかなりの個体数が存在している種 A でも、減少傾向が著しい場合は、このまま減少したならばもともと希少であったが減少傾向が著しくない種 B よりも早く絶滅してしまうと考えられます。このような場合、種 A は種 B よりも高いランクに評価されます。ただし、生育地点が限られているという意味で希少な種は、たとえ今まで特に減少していなくても、その場所が何かの事情により破壊されれば容易に絶滅してしまう可能性があります。このように存続の基盤が脆弱な種は、その点も考慮して評価が行われています。

Q2：レッドデータブックで上位カテゴリーに属するとされた種ほど、保全上の重要性も大きいと考えてよいか／保全上の重要性は、レッドリストの評価に反映されているか。

A2：レッドデータブックは、「作成の経緯および目的」にも述べられているように、自然環境保全のための基礎資料として作られています。それなら保全上の重要性に基づいてランク分けをしたらいではないかと思う人も多いと思いますが、実は個々の種の保全上の重要性は、レッドリストの評価では考慮されていません。レッドリストの評価は、その種が名古屋市内から絶滅するリスクがどの程度かということだけに基づいて行われています。つまり保全上の重要性は、必ずしもレッドリストの評価とは一致しません。

なぜ保全上の重要性を考慮しないかという、保全上の重要性は、必ずしも一義的に決定できないからです。例えばマメナシは、名古屋市内にはまだ数十株はあり、さしあたり風前の灯火という状況ではありません。今回の評価は絶滅危惧ⅠB類です。名古屋市内の生物多様性だけを考えるならば、市内に1本しかない樹木の方が重要です。しかしマメナシは、おそらく日本全体に現存する個体の過半数が名古屋市に生育しています。名古屋市での絶滅は、日本全体での絶滅に直結します。日本全体の生物多様性を保全するために名古屋市民が負うべき責務という観点に立てば、マメナシはまだ数十株あると言っても、名古屋市内には1本しかないが周辺の山地にはたくさんある樹木より、はるかに保全上の重要性が高いでしょう。

更に保全上の重要性は、植物とは無関係な他の価値観にも依存します。きれいな（きれいかどうかは人間の主観の問題で、植物とは無関係です）花の咲く植物は、花の目立たない植物より保全上重要だという考え方もあるでしょう。「この場所は多くの市民に利用されているから、そこにある植物は他の場所にあるものと違って特に重要だ」というように、利用価値という観点からの判断もあるでしょう。このようなことを考慮していたら、評価の中立性が保てません。東海地方固有、分布域の限界、あるいは愛知県では生育地がきわめて少ないなどの理由で特に保全上重要と判断される種については、名古屋市における維管束植物の概要の項とそれぞれの種の解説の中で、評価結果とは別に記述してあります。

Q3：名古屋市で種子植物、シダ植物を合わせて 236 種が絶滅危惧というのは、多すぎないか。

A3：絶滅危惧Ⅱ類の基準は、100 年後の絶滅確率が 10%以上です。絶滅危惧種 236 の 10%は、24 種にすぎません。100 年前、すなわち大正末期以降現在までの名古屋市域の変貌を考えてみてください。「藤ヶ丘まで地下鉄を延ばしても、キツネかタヌキしか乗らんがや！」と悪口を言われたのも、そんなに昔の話ではありません。名古屋市のような大都市で、現在以上の追加的な保護対策が何もとられないとしたら、100 年後に 24 種しか絶滅しないと考えるのはむしろあまりにも控え目な見積もりでしょう。このままでいったら 100 年後には 236 種全部が絶滅すると考えても、まだ控え目かもしれません。上位カテゴリーに評価された種の存在を考慮しても、間違っても多すぎることはありません。

Q4：レッドリスト掲載種が前のレッドリストと比較して増加しているのは、名古屋市の環境がこれだけ悪化したという意味か。

A4：確かに半分はそのような意味です。今回は「絶滅」の基準を過去 30 年間未確認としましたが、そうすると過去 30 年間の環境悪化を反映して、30 年以上前には見られたのにその後確認されていない産地が相当数出現し、結果としてレッドデータブックに新たに追加されたり、ランクが上昇したりする種が多くなりました。

しかし、レッドデータブック掲載種が増加したのは、もう一つ別の理由もあります。それは、最近 5 年間に名古屋市内の植物調査が著しく進展し、名古屋市内で新たに発見された種が相当数出現したことによるものです。これらの種のほとんどは、新たに名古屋市に分布してきたというわけではなく、もともと生育していたのに私たちが気付いていなかった（つまり、以前のレッドデータブックでは当然掲載されなければならないのにもれていた）ものです。

生物の調査に完璧はありません。今回のレッドデータブックも、残念ながら完璧なものではありません。もちろん私たちは、できるだけ完璧なものになるよう、日々努力を続けています。レッドデータブック掲載種の増加は、レッドデータブックがより完全なものに近づいた証拠だという側面もあることをご理解いただければ幸いです。

Q5：名古屋市のレッドデータブックは、名古屋市独自の基準で作ればよいと思う。なぜ国際基準や国の基準を考慮するのか。

A5：名古屋市のレッドデータブックは、絶滅危惧生物に関する広範な情報ネットワークの一部をなすものです。それぞれの地域がそれぞれ勝手な基準でレッドデータブックを作成しては、情報の互換性が保証されません。そのようなわけで名古屋市のレッドデータブックは、日本全体、あるいは愛知県全体のリストと整合性を持つように評価基準を設定し、実際の評価を行っています。

Q6：固有性や隔離分布、分布の限界などは植物の学術上の貴重性であり、絶滅危惧の程度とは関係ないのではないか。

A6：世界全体、あるいは島国である日本全体の場合と異なり、愛知県、あるいは名古屋市のよう

な隣接地と地続きの地域では、植物はしばしば周辺域から分布を拡大してきます。その場所で一度絶滅しても、周辺から再度侵入してくれば、絶滅したことにはなりません。固有性、隔離分布、分布の限界などは、この再侵入確率に関係します。固有種、隔離分布種、あるいは分布域の限界にあたる種は、一度絶滅してしまったら再度侵入してくる可能性が低いため、相対的に絶滅リスクが大きく見積もられます。一方名古屋市では希少だが周辺地にはたくさんあるという植物は、現在あるものがなくなる可能性が大きくても再侵入の可能性も大きいので、相対的に絶滅リスクが小さく見積もられます。

Q7：名古屋城のツメレンゲは移入された可能性があり、レッドデータブックあいち 2020 でもその旨記述されている。それならば名古屋市での評価は絶滅危惧Ⅱ類ではなく、国・県リストになるのではないか。

A7：ご指摘の名古屋市レッドデータブックと愛知県レッドリストのずれは、安全原則（よくわからないものは、安全側に評価する）によるものです。名古屋城のツメレンゲは確かに移入の疑いがありますが、名古屋城しか生育地が知られていない名古屋市の場合は、自生の可能性をもとに評価されています。しかし名古屋城以外に確実な自生地がある愛知県の場合は、名古屋城のものを除いたらどうなるかが付記されています。

Q8：ウラギクは、最近庄内川河口部に行った時には1カ所で3個体しか見ることができなかった。ENではなくCRと評価すべきではないか。

A8：ウラギクの評価には、確かに微妙なところがあります。この種は、今回のレッドデータブックでは個体数階級3、集団数階級4として評価されています。庄内川河口部をくまなく調査することは困難ですが、仮に3個体が現存する全てであったとしても、それだけならENという評価は変わりません。ただし問題は県西部分布区画数で、今回は7以上（階級1）として評価していますが、以前たくさん生育していた三河湾沿岸で近年激減しているため、実際には6以下になっている可能性があります。その場合は、県西部分布階級2、総点16で絶滅危惧ⅠA類CRになります。

生物種の絶滅リスクは連続的な値をとるはずですが、それを不連続な4階級に分けるわけですから、境界ではどうしても微妙なものが出てしまいます。そのようなわけで、「この種はもっと危機的だと思う」、「この種はそれほど危機的ではないと思う」というものがあれば、是非ともご意見をお寄せください。

Q9：ナガバノイシモチソウは、守山区に播種され、生育している場所がある。それなのになぜ「絶滅」と評価されたか。

A9：レッドデータブックは、本来の生育地での生育状態が評価対象です。移植や播種により本来の生育地と異なる場所に生育しているものは、国際自然保護連合の指針により、一見自生状態になっていても「野生絶滅」と判定することとされています。自然の中に人為的に移植された植物は、いかに希少種であっても、侵略的帰化植物と同様外来種として扱われます。

Q10: 今回のレッドリストを見ると、市内での最新の状況が十分把握されていないように思われる。名古屋市には市民調査員制度があるのだから、それを活用して、もっと多くの人に調査に参加してもらったらどうか。

A10: 「市内をくまなくきちんと調査したか」と問われれば、それは残念ながら否と答えざるを得ません。今回の見直し調査期間を通して、私たちはできる限り現地調査を行ったつもりですが、維管束植物は種類数が多い（レッドデータブック掲載種の約半分を占める）のに調査者の人数が少なく、市内全域を十分調査するには至りませんでした。植物が絶滅する前に、植物を調査する人が絶滅しそうだ。これは笑えない現実です。新たに調査に参加してくださる人を求めて植物標本作成講座なども行い、それなりの成果はありましたが、十分な状態には至りませんでした。

維管束植物は肉眼で容易に観察できるだけでなくよい図鑑類も多数発行されていますから、調査自体は誰でもいつでも行うことができます。標本の作成も、多少面倒ですが、特別な道具が必要というわけではありません。名古屋市の特に残存緑地以外の場所は植物の生育密度が低く、調査の効率が悪いので、少数の調査者の手ではとても全部を調査しきれません。

「買い物の行き帰りにたまたま見た」というような情報の積み重ねが重要です。何かの機会に「これは」と思う植物に出会ったら、是非とも標本を作成し、なごや生物多様性センターにお寄せください。重要なのは、そのような日常的調査活動です。今回のレッドデータブックも、その相当部分は「レッドデータブックのための調査」を意識せずに蓄積された標本をもとに作成されています。

Q11: 写真は証拠資料にならないのか。

A11: 実際に写真被写体の植物の同定を試みればすぐわかることですが、写真ではたいていの場合細部がわからず、正確な種名が判定できません。しかも、写真はしばしば撮影場所や撮影年月日などのデータが明確でなく、十分な資料性がありません。図書として印刷されていない場合は、永続性という点でも問題があります。もちろん文字の記録しかないというよりはるかにましで、今回のレッドデータブックなごや・植物編でも絶滅種の一部は写真資料に依存していますが、一般的には写真は十分な証拠資料にならないと考えるべきです。

そのようなわけで、「これは」と思う植物に出会った時には、面倒でも標本を作成し、なごや生物多様性センターなどに寄託してください。この手続きを怠ると、せっかくの観察結果が、公共の資産として活用できません。必要なときに標本を作成しない人は、本人の信条としてはともかく、客観的には自然を踏み潰して歩くだけの山荒らしにすぎません。個体数が少なく採集するに忍びないという場合は、部分標本+写真という形で対応しますので、ご相談ください。不慣れでどうしても面倒だという場合は、正確な位置情報を教えていただければ、こちらで必要に応じ対処します。

Q12: 絶滅が心配されている植物を近くの湿地に植え込んで増やしたい／昔あったがなくなってしまった植物を植えこんで復活させたいが、どうだろうか。

A12: 生物の分布には歴史性があります。もともとないものは、ない状態がその場所の自然です。わかりやすい例で説明すると、セイタカアワダチソウはもともとアメリカにあって、日本に

はありません。クズはもともと日本にあって、アメリカにはありません。セイタカアワダチソウが日本に入りクズがアメリカに入れば、それぞれの地域にある植物の種類数は増加しますが、「セイタカアワダチソウがなくクズがある自然」と「クズがなくセイタカアワダチソウがある自然」の多様性は失われてしまいます。そのようなわけで最近はこの移入防止が、生物多様性保全の重要な課題になっています。どのような植物でも、自然の中にそこにもともとなかったものを持ち込むことは避けるべきです。

昔あったがなくなってしまった植物を持ち込むことも、原則として避ける方がよいでしょう。生物の集団には遺伝的な分化があり、同じ種でも違う場所のものは違うと考えるべきです。厳密にその場所にあったものを植え戻す場合でも、なくなったのは原因があるはずで、その原因を取り除かずに持ち込んだら、絶滅が繰り返されるだけです。植えるときの踏み荒らしなど、現在残っている自然に対する悪影響も深刻です。病虫害の持ち込みや遺伝的単純化などで、かろうじて残っていた自然集団に対する「最後のとどめ」となってしまうこともあります。自然には自然の回復力があります。生物多様性の保全で重要なのは、特殊な場合を除けば、実は個体の保全ではありません。生育環境を保全し、彼等が昔からのやり方で生き続けるのを側面から援助することです。

(芹沢俊介)

6. 文献について

種子植物・シダ植物

世界の分布以外は、原則として文献によらず、現地調査と標本および聞き取り調査に基づき記述した。世界の分布は、その種に関する各種文献を総合して記述した。一部の絶滅種等やむを得ず文献によった項目については、出典を各種の解説中に示した。評価手法に関する引用文献は446頁に掲載した。

7. 執筆責任者および協力者

レッドデータブック植物編（シダ植物・種子植物）の作成にあたりましては、以下の方々に現地調査、執筆、写真の提供等に協力していただきました。敬称は略させていただきました。

執筆責任者

長谷川泰洋 西部めぐみ 芹沢俊介（種子植物：シダ植物） 山内喜朗（コケ植物）

シダ植物調査統括

村松正雄

調査協力者（敬称略、五十音順）

原則として、協力の意志があったか否かにかかわらず、今回の調査の基礎になった愛知みどりの会またはなごや生物多様性センターの標本室に5点以上の名古屋市産標本がある採集者をもって、調査協力者とした。

飯尾俊介	石井日香留	一井尚子	伊藤晶子	伊藤昭康	伊藤泰輔
犬飼 清	猪俣澄江	今尾由美子	岩田妙子	梅本洋子	太田勝子
太田由美子	小澤修一	加藤 颯	河辺眞由美	鬼頭洋子	小林元男
近藤記巳子	近藤秀光	近藤正子	榊原 靖	佐藤利行	佐藤眞紀子
沢井輝男	柴田美子	白谷美代子	白谷由紀子	須賀瑛文	鈴木 淳
鈴木仁和	鈴木秀樹	鷺見順子	諏訪 斎	関 則夫	芹沢俊介
高木順夫	高津恵美子	高塚敏夫	高見千保美	竹本清子	塚本美恵子
鶴岡佐知子	寺本匡寛	富田啓介	鳥居ちゑ子	中島ひろみ	中村 肇
永田恵美子	永田晴美	西川勇夫	西部めぐみ	長谷川泰洋	花岡 昭
濱嶋育子	浜島繁隆	半田多美子	伴 知幾	日比野修	広田由紀子
広部 栄	福岡義洋	藤岡嶺子	堀田時子	丸山由加里	武藤靖子
村松正雄	山場勇佑	山根由士	油井孝夫	横井邦子	吉田 昇
吉鶴靖則	渡邊幸子				

過去の標本については、特に飯尾俊介氏、犬飼 清氏、浜島繁隆氏の協力を得て、ある程度の資料を集積できた。千葉県立中央博物館に保管されている稲垣貫一氏、井波一雄氏採集標本の検討に際しては、同館植物学研究課の天野誠氏、資料管理研究課の御巫由紀氏に大変お世話になった。また、採集者名には含まれていないが、大岡幸雄氏、横井晴正氏には、多くの分布情報を提供していただいた。

なお、21 頁に記述した千種区覚王山の 1932～34 年の標本は、愛知教育大学名誉教授沢井輝男氏（1917～2005）が、師範学校在学中に採集されたものである。

【 索 引 】

1. 索引（和名五十音順）
2. 索引（分類順）

1. 索引（和名五十音順）

（1）種子植物

No.	種名	科名	学名	国 2020	県 2025	市 2025	掲載頁
1	アカシデ	カバノキ	<i>Carpinus laxiflora</i> (Siebold et Zucc.) Blume	—	—	EN	199
2	アキザキヤツシロラン	ラン	<i>Gastrodia verrucosa</i> Blume	—	VU	EN	165
3	アギスミレ	スミレ	<i>Viola verecunda</i> A.Gray var. <i>semilunaris</i> Maxim.	—	—	VU	274
4	アギナシ	オモダカ	<i>Sagittaria aginashi</i> Makino	NT	国リスト	VU	230
5	アキノハハコグサ	キク	<i>Pseudognaphalium hypoleucum</i> (DC.) Hilliard et B.L.Burt	EN	EN	EX	102
6	アキノミチヤナギ	タデ	<i>Polygonum polyneuron</i> Franch. et Sav.	—	—	VU	284
7	アサザ	ミツガシワ	<i>Nymphoides peltata</i> (S.G.Gmel.) Kuntze	NT	EN	国・県外	374
8	アシカキ	イネ	<i>Leersia japonica</i> (Honda) Makino ex Honda	—	—	NT	331
9	アズマガヤ	イネ	<i>Asperella longearistata</i> (Hack.) Ohwi	—	—	EN	184
10	アズマナルコ	カヤツリグサ	<i>Carex shimidzensis</i> Franch.	—	—	EN	180
11	アマナ	ユリ	<i>Amana edulis</i> (Miq.) Honda	—	—	EN	158
12	アリドオシ	アカネ	<i>Damnacanthus indicus</i> C.F.Gaertn.	—	—	EN	208
13	アリマグミ	グミ	<i>Elaeagnus murakamiana</i> Makino	—	VU	EN	198
14	イガクサ	カヤツリグサ	<i>Rhynchospora rubra</i> (Lour.) Makino	—	—	VU	249
15	イガタツナミ	シソ	<i>Scutellaria kurokawae</i> H.Hara	—	—	EN	219
16	イシモチソウ	モウセンゴケ	<i>Drosera peltata</i> Thunb. var. <i>nipponica</i> (Masam.) Ohwi	NT	EN	CR	137
17	イズセンリョウ	サクラソウ	<i>Maesa japonica</i> (Thunb.) Moritz et Zoll.	—	—	VU	286
18	イセウキヤガラ	カヤツリグサ	<i>Bolboschoenus planiculmis</i> (F.Schmidt) T.V.Egorova	—	—	VU	244
19	イソヤマテンツキ	カヤツリグサ	<i>Fimbristylis sieboldii</i> Miq. ex Franch. et Sav.	—	—	VU	248
20	イチヤクソウ	ツツジ	<i>Pyrola japonica</i> Klenze ex Alefeld	—	—	NT	350
21	イトトリゲモ	トチカガミ	<i>Najas gracillima</i> (A.Braun ex Engelm.) Magnus	NT	NT	VU	231
22	イトハナビテンツキ	カヤツリグサ	<i>Bulbostylis densa</i> (Wall.) Hand. Mazz.	—	—	EX	54
23	イナカギク	キク	<i>Aster semiamplexicaulis</i> (Makino) Makino ex Koidz.	—	—	EX	99
24	イヌゴマ	シソ	<i>Stachys aspera</i> Michx. var. <i>hispidula</i> (Regel) Vorosch.	—	—	NT	356
25	イヌシデ	カバノキ	<i>Carpinus tschonoskii</i> Maxim.	—	—	VU	271
26	イヌセンブリ	リンドウ	<i>Swertia tosaensis</i> Makino	NT	NT	EN	212
27	イヌタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia australis</i> R.Br.	NT	国リスト	NT	358
28	イヌノフグリ	オオバコ	<i>Veronica polita</i> Fr. var. <i>lilacina</i> (T.Yamaz.) T.Yamaz.	NT	国リスト	NT	352
29	イヌハギ	マメ	<i>Lespedeza tomentosa</i> (Thunb.) Siebold ex Maxim.	NT	VU	EX	70
30	イワガラミ	アジサイ	<i>Schizophragma hydrangeoides</i> Siebold et Zucc.	—	—	CR	139
31	ウキシバ	イネ	<i>Pseudoraphis sordida</i> (Thwaites) S.M.Phillips et S.L.Chen	—	NT	NT	334
32	ウスゲチョウジタデ	アカバナ	<i>Ludwigia greatrexii</i> H.Hara	NT	国リスト	VU	277
33	ウツボグサ	シソ	<i>Prunella vulgaris</i> L. subsp. <i>asiatica</i> (Nakai) H.Hara	—	—	NT	355
34	ウナギツカミ	タデ	<i>Persicaria sieboldii</i> (Meisn.) Ohki var. <i>aestiva</i> (Makino)	—	—	VU	283
35	ウバユリ	ユリ	<i>Cardiocrinum cordatum</i> (Thunb.) Makino	—	—	EX	42
36	ウマスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex idzuroei</i> Franch. et Sav.	—	—	CR	120
37	ウマノアシガタ	キンボウゲ	<i>Ranunculus japonicus</i> Thunb.	—	—	CR	128
38	ウメバチソウ	ニシキギ	<i>Parnassia palustris</i> L.	—	—	CR	133
39	ウラギク	キク	<i>Tripolium pannonicum</i> (Jacq.) Schur	NT	VU	EN	225
40	ウラシマソウ	サトイモ	<i>Arisaema urashima</i> H.Hara	—	—	NT	319
41	ウラジロガシ	ブナ	<i>Quercus salicina</i> Blume	—	—	VU	269
42	ウリハダカエデ	ムクロジ	<i>Acer rufinerve</i> Siebold et Zucc.	—	—	希少遇産	378
43	ウンズケ	イネ	<i>Eulalia speciosa</i> (Debeaux) Kuntze	VU	NT	EN	185
44	オオアブノメ	オオバコ	<i>Gratiola japonica</i> Miq.	VU	VU	EN	215
45	オオアブラススキ	イネ	<i>Spodiopogon sibiricus</i> Trin.	—	—	EX	63
46	オオウラジロノキ	バラ	<i>Malus tschonoskii</i> (Maxim.) C.K.Schneid.	—	—	EN	197
47	オオカメノキ	ガマズミ	<i>Viburnum furcatum</i> Blume ex Maxim	—	—	EN	226
48	オオサンショウソウ	イラクサ	<i>Pellionia radicans</i> (Siebold et Zucc.) Wedd.	—	—	VU	267
49	オオトリゲモ	トチカガミ	<i>Najas oguraensis</i> Miki	—	NT	EN	155
50	オオバウマノスズクサ	ウマノスズクサ	<i>Aristolochia kaempferi</i> Willd.	—	VU	EN	150

51	オオバギボウシ	キジカクシ	<i>Hosta sieboldiana</i> (Lodd.) Engl.	—	—	EN	173
52	オオバグミ	グミ	<i>Elaeagnus macrophylla</i> Thunb.	—	—	CR	131
53	オオバチドメ	ウコギ	<i>Hydrocotyle javanica</i> Thunb.	—	—	VU	313
54	オオハング	サトイモ	<i>Pinellia tripartita</i> (Blume) Schott	—	DD	DD	364
55	オオヒナノウスツボ	ゴマノハグサ	<i>Scrophularia kakudensis</i> Franch.	—	—	EX	89
56	オオホシクサ	ホシクサ	<i>Eriocaulon buergerianum</i> Koern.	—	CR	EX	51
57	オオミヤマウズラ	ラン	<i>Goodyera tukamotoi</i> Seriz.	—	EN	CR	116
58	オカタツナミソウ	シソ	<i>Scutellaria brachyspica</i> Nakai et H.Hara	—	—	EN	218
59	オキナグサ	キンボウゲ	<i>Pulsatilla cernua</i> (Thunb.) Bercht. et C.Presl	NT	CR	EX	66
60	オクモミジハグマ	キク	<i>Ainsliaea acerifolia</i> Sch.Bip var. <i>subapoda</i> Nakai	—	—	VU	306
61	オグラノフサモ	アリノトウグサ	<i>Myriophyllum oguraense</i> Miki	VU	CR	国・県別	368
62	オグルマ	キク	<i>Inula britannica</i> L. subsp. <i>japonica</i> (Thunb.) Kitam.	—	—	VU	310
63	オケラ	キク	<i>Atractylodes ovata</i> (Thunb.) DC.	—	—	EN	222
64	オトコエシ	スイカズラ	<i>Patrinia villosa</i> (Thunb.) Juss.	—	—	EX	104
65	オトコゼリ	キンボウゲ	<i>Ranunculus tachiroei</i> Franch. et Sav.	—	—	EX	67
66	オドリコソウ	シソ	<i>Lamium album</i> L. var. <i>barbatum</i> (Siebold et Zucc.) Franch. et Sav.	—	—	EN	216
67	オナモミ	キク	<i>Xanthium strumarium</i> L.	VU	CR	EX	103
68	オニバス	スイレン	<i>Euryale ferox</i> Salisb.	VU	CR	CR	107
69	オミナエシ	スイカズラ	<i>Patrinia scabiosaefolia</i> Fisch. ex Trevir.	—	—	CR	149
70	カエデドコロ	ヤマノイモ	<i>Dioscorea quinquelobata</i> Thunb.	—	—	希少遇産	376
71	カガシラ	カヤツリグサ	<i>Diplacrum caricinum</i> R.Br.	VU	CR	EX	55
72	ガガブタ	ミツガシワ	<i>Nymphoides indica</i> (L.) Kuntze	NT	NT	VU	304
73	カギカズラ	アカネ	<i>Uncaria rhynchophylla</i> (Miq.) Miq.	—	—	EN	209
74	カキラン	ラン	<i>Epipactis thunbergii</i> A.Gray	—	—	EN	163
75	カゴノキ	クスノキ	<i>Litsea coreana</i> H.Lév.	—	—	NT	317
76	カザグルマ	キンボウゲ	<i>Clematis patens</i> C.Morren et Decne.	NT	EN	CR	126
77	カンワバハグマ	キク	<i>Pertya robusta</i> (Maxim.) Beauv.	—	—	VU	312
78	カセンソウ	キク	<i>Inula salicina</i> L. var. <i>asiatica</i> Kitam.	—	EN	CR	148
79	カタクリ	ユリ	<i>Erythronium japonicum</i> Decne.	—	—	CR	112
80	カナクギノキ	クスノキ	<i>Lindera erythrocarpa</i> Makino	—	—	希少遇産	376
81	カヤ	イチイ	<i>Torreya nucifera</i> (L.) Siebold et Zucc.	—	—	CR	106
82	カラコギカエデ	ムクロジ	<i>Acer ginnala</i> Maxim. var. <i>aidzuense</i> (Franch.) K.Ogata	—	VU	EN	201
83	カラタチバナ	サクラソウ	<i>Ardisia crispa</i> (Thunb.) A.DC.	—	—	NT	348
84	カワヂシャ	オオバコ	<i>Veronica undulata</i> Wall.	NT	国リスト	国リスト	373
85	カワラケツメイ	マメ	<i>Chamaecrista nomame</i> (Siebold) H.Ohashi	—	—	VU	261
86	カワラサイコ	バラ	<i>Potentilla chinensis</i> Ser.	—	VU	EN	194
87	カワラナデシコ	ナデシコ	<i>Dianthus superbus</i> L. var. <i>longicalycinus</i> (Maxim.) F.N.Williams	—	—	VU	285
88	カワラニンジン	キク	<i>Artemisia carvifolia</i> Buch. Ham.	—	—	NT	361
89	カワラハハコ	キク	<i>Anaphalis margaritacea</i> (L.) Benth. et Hook.f. subsp. <i>yeudoensis</i> (Franch. et Sav.) Kitam.	—	—	VU	308
90	カワラハンノキ	カバノキ	<i>Alnus serrulatoidea</i> Callier	—	—	VU	270
91	ガンピ	ジンチョウゲ	<i>Diplomorpha sikokiana</i> (Franch. et Sav.) Honda	—	—	VU	278
92	キキョウ	キキョウ	<i>Platycodon grandiflorum</i> (Jacq.) A. DC.	NT	VU	CR	147
93	キクムグラ	アカネ	<i>Galium kikumugura</i> Ohwi	—	NT	VU	291
94	キケマン	ケシ	<i>Corydalis heterocarpa</i> Siebold et Zucc. var. <i>japonica</i> (Franch. et Sav.) Ohwi	—	—	NT	335
95	キジムシロ	バラ	<i>Potentilla fragarioides</i> L. var. <i>major</i> Maxim.	—	—	EX	71
96	キスゲ	ススキノキ	<i>Hemerocallis citrina</i> Baroni var. <i>vespertina</i> (Hara) M.Hotta	—	—	EN	171
97	キセルアザミ	キク	<i>Cirsium Sieboldii</i> Miq.	—	—	NT	362
98	キツコウハグマ	キク	<i>Ainsliaea apiculata</i> Sch.Bip.	—	—	VU	307
99	キツネノカミソリ	ヒガンバナ	<i>Lycoris sanguinea</i> Maxim.	—	—	希少遇産	377
100	キツリフネ	ツリフネソウ	<i>Impatiens noli tangere</i> L.	—	—	EN	206
101	キヌヤナギ	ヤナギ	<i>Salix kinuyanagi</i> Kimura	—	NT	VU	273
102	キハギ	マメ	<i>Lespedeza buergeri</i> Miq.	—	—	EN	192
103	キハダ	ミカン	<i>Phellodendron amurense</i> Rupr.	—	—	EN	202
104	キヨスミギボウシ	キジカクシ	<i>Hosta kiyosumiensis</i> F.Maek.	—	—	VU	240

105	キンラン	ラン	<i>Cephalanthera falcate</i> (Thunb.) Blume	NT	NT	EN	161
106	ギンラン	ラン	<i>Cephalanthera erecta</i> (Thunb.) Blume	—	—	EN	160
107	ギンリョウソウ	ツツジ	<i>Monotropastrum humile</i> (D.Don) H.Hara	—	—	EX	83
108	ギンリョウソウモドキ	ツツジ	<i>Monotropa uniflora</i> L.	—	—	EN	207
109	クサナギオゴケ	キョウチクトウ	<i>Vincetoxicum katoi</i> (Ohwi) Kitag.	VU	NT	EX	86
110	クサノオウ	ケシ	<i>Chelidonium majus</i> L. subsp. <i>asiaticum</i> H.Hara	—	—	VU	255
111	クサボタン	キンボウゲ	<i>Clematis stans</i> Siebold et Zucc.	—	EN	EX	65
112	クサレダマ	サクラソウ	<i>Lysimachia vulgaris</i> L. subsp. <i>davurica</i> (Ledeb.) Tatew.	—	—	VU	287
113	クマノミズキ	ミズキ	<i>Cornus macrophylla</i> Wall.	—	—	EN	205
114	クマヤナギ	クロウメモドキ	<i>Berchemia racemosa</i> Siebold et Zucc.	—	—	VU	266
115	クモキリソウ	ラン	<i>Liparis kumokiri</i> F.Maek.	—	—	EN	168
116	クモラン	ラン	<i>Taeniophyllum glandulosum</i> Blume	—	—	EX	48
117	クロウメモドキ	クロウメモドキ	<i>Rhamnus japonica</i> Maxim. var. <i>decipiens</i> Maxim.	—	—	EX	73
118	クロキ	ハイノキ	<i>Symplocos licida</i> Sieb. et Zucc.	—	CR	CR	140
119	クロホシクサ	ホシクサ	<i>Eriocaulon parvum</i> Koern.	NT	EN	EX	52
120	クロミノニンゴリ	ハイノキ	<i>Symplocos paniculata</i> (Thunb.) Miq.	—	—	NT	349
121	クロモジ	クスノキ	<i>Lindera umbellata</i> Thunb.	—	—	EN	152
122	クロヤツシロラン	ラン	<i>Gastrodia pubilabiata</i> Sawa	—	—	VU	236
123	ケイリュウタチツボスミレ	スミレ	<i>Viola grypoceras</i> A.Gray var. <i>ripensis</i> N.Yamada et M.Okamoto	—	—	NT	340
124	ケタガネソウ	カヤツリグサ	<i>Carex ciliatmarginata</i> Nakai	—	—	VU	245
125	ケブカツルカコソウ	シソ	<i>Ajuga shikotanensis</i> Miyabe et Tatew.f. <i>hirsuta</i> (Honda) Murata	—	EN	EX	90
126	ケヤブハギ	マメ	<i>Desmodium podocarpum</i> DC. subsp. <i>fallax</i> (Schindl.) H.Ohashi.	—	—	EN	191
127	コアカソ	イラクサ	<i>Boehmeria spicata</i> (Thunb.) Thunb.	—	—	NT	337
128	コアジサイ	アジサイ	<i>Hydrangea hirta</i> (Thunb. ex Murray) Siebold et Zucc.	—	—	NT	347
129	コイスガラシ	アブラナ	<i>Rorippa cantoniensis</i> (Lour.) Ohwi	NT	国リスト	VU	280
130	コウガイモ	トチカガミ	<i>Vallisneria denseserrulata</i> (Makino) Makino	—	VU	EX	40
131	コウボウ	イネ	<i>Anthoxanthum glabrum</i> (Trin.) Veldkamp	—	—	EX	59
132	コオニユリ	ユリ	<i>Lilium leichtlinii</i> Hook.f. f. <i>pseudotigrinum</i> (Carrière) H.Hara et Kitam.	—	—	CR	114
133	コガクウツギ	アジサイ	<i>Hydrangea luteovenosa</i> Koidz.	—	EN	CR	138
134	コカモメヅル	キョウチクトウ	<i>Tylophora floribunda</i> Miq.	—	—	VU	294
135	コガンビ	ジンチョウゲ	<i>Diplomorpha ganpi</i> (Siebold et Zucc.) Nakai	—	—	EX	79
136	コギシギシ	タデ	<i>Rumex dentatus</i> L. subsp. <i>klotzschianus</i> (Meisn.) Rech.f.	NT	国リスト	NT	343
137	ゴキヅル	ウリ	<i>Actinostemma tenerum</i> Griff.	—	—	NT	339
138	コクサギ	ミカン	<i>Orixa japonica</i> Thunb.	—	—	EX	77
139	コケリンドウ	リンドウ	<i>Gentiana squarrosa</i> Ledeb.	—	VU	CR	142
140	コゴメカゼクサ	イネ	<i>Eragrostis japonica</i> (Thunb.) Trin.	—	CR	EX	61
141	コシオガマ	ハマウツボ	<i>Phtheirospermum japonicum</i> (Thunb.) Kanitz	—	—	EX	91
142	コジュズスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex parciflora</i> Boott var. <i>macroGLOSSa</i> (Franch. et Sav.) Ohwi	—	—	NT	328
143	コシロネ	シソ	<i>Lycopus cavaleriei</i> H.Lev.	—	—	NT	354
144	コシンジュガヤ	カヤツリグサ	<i>Scleria parvula</i> Steud.	—	VU	EN	183
145	コタスキモ	タスキモ	<i>Utricularia intermedia</i> Heyne	—	CR	EX	95
146	コバギボウシ	キジカクシ	<i>Hosta Sieboldii</i> (Paxton) J.W.Ingram f. <i>spathulata</i> (Miq.) W.G.Schmid	—	—	VU	241
147	コバノトンボソウ	ラン	<i>Platanthera tipuloides</i> (L.f.) Lindl. subsp. <i>nipponica</i> (Makino) Murata	—	—	EN	169
148	コミゾソバ	タデ	<i>Persicaria mikawana</i> Hanai et Seriz.	—	NT	VU	282
149	コメガヤ	イネ	<i>Melica nutans</i> L.	—	—	EX	62
150	コヤブタバコ	キク	<i>Carpesium cernuum</i> L.	—	—	EX	100
151	サイコクキツネヤナギ	ヤナギ	<i>Salix vulpina</i> Andersson subsp. <i>alopochloa</i> (Kimura) H.Ohashi et Yonek.	—	—	VU	272
152	サイハイラン	ラン	<i>Cremastra appendiculata</i> (D.Don) Makino var. <i>variabilis</i> (Blume) I.D.Lund	—	—	EN	162
153	ザイフリボク	バラ	<i>Amelanchier asiatica</i> (Siebold et Zucc.) Endl. ex Walp.	—	—	VU	264
154	サギソウ	ラン	<i>Pecteilis radiata</i> (Thunb.) Raf.	NT	VU	VU	238
155	サクラガンビ	ジンチョウゲ	<i>Diplomorpha pauciflora</i> (Franch. et Sav.) Nakai	VU	国リスト	国リスト	372
156	サクラタデ	タデ	<i>Persicaria macrantha</i> (Meisn.) Haralson	—	—	NT	342
157	サクラバハナムキ	カバノキ	<i>Alnus trabeculosa</i> Hand. Mazz.	NT	国リスト	NT	338
158	ササユリ	ユリ	<i>Lilium japonicum</i> Houtt.	—	—	EN	159

159	サヤヌカグサ	イネ	<i>Leersia sayanuka</i> Ohwi	—	—	NT	332
160	サワオトギリ	オトギリソウ	<i>Hypericum pseudopetiolatum</i> R.Keller	—	—	VU	275
161	サワギキョウ	キキョウ	<i>Lobelia sessilifolia</i> Lamb.	—	—	VU	302
162	サワトウガラシ	オオバコ	<i>Deinostema violaceum</i> (Maxim.) Y.Yamaz.	—	—	VU	295
163	サワラン	ラン	<i>Eleorchis japonica</i> (A.Gray) F.Maek.	—	CR	EX	44
164	シオクグ	カヤツリグサ	<i>Carex scabrifolia</i> Steud.	—	—	NT	329
165	ジガバチソウ	ラン	<i>Liparis krameri</i> Franch. et Sav.	—	—	VU	237
166	シズイ	カヤツリグサ	<i>Schoenoplectus nipponicus</i> (Makino) Soják	—	EN	EX	57
167	シソバタツナミ	シソ	<i>Scutellaria laeteviolacea</i> Koidz.	—	—	VU	300
168	シダミコザサ	イネ	<i>Sasa samaniiana</i> Nakai var. <i>yoshinoi</i> (Koidz.) Sad.Suzuki f. <i>hidejiroana</i> (Koidz.) Sad.Suzuki	—	VU	VU	254
169	シデコブシ	モクレン	<i>Magnolia stellata</i> (Siebold et Zucc.) Maxim.	NT	VU	EN	151
170	シバナ	シバナ	<i>Triglochin asiatica</i> (Kitag.) A. et D.Löve	NT	NT	EN	156
171	シベリアアメドハギ	マメ	<i>Lespedeza juncea</i> (L.f.) Pers.	—	—	EX	69
172	シマジタムラソウ	シソ	<i>Salvia isensis</i> Nakai ex Hara	VU	NT	CR	145
173	シモツケ	バラ	<i>Spiraea japonica</i> L.f.	—	—	EX	72
174	シュスラン	ラン	<i>Goodyera velutina</i> Maxim.	—	VU	CR	117
175	ジュンサイ	ジュンサイ	<i>Brasenia schreberi</i> J.F.Gmel.	—	—	EX	34
176	ショウジョウスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex blepharicarpa</i> Franch.	—	—	NT	325
177	ショウジョウバカマ	シュロソウ	<i>Helonias orientalis</i> (Thunb.) N.Tanaka	—	—	NT	321
178	シライトソウ	シュロソウ	<i>Chionographis japonica</i> Maxim.	—	—	VU	235
179	シラタマホシクサ	ホシクサ	<i>Eriocaulon nudicuspe</i> Maxim.	VU	VU	EN	176
180	シラン	ラン	<i>Bletilla striata</i> (Thunb.) Rchb.f.	NT	NT	国・県別	367
181	シロダモ	クスノキ	<i>Neolitsea sericea</i> (Blume) Koidz.	—	—	NT	318
182	スイラン	キク	<i>Hololeion kramerii</i> (Franch. et Sav.) Kitam.	—	—	EN	223
183	スズカカンアオイ	ウマノスズクサ	<i>Asarum rigescens</i> F. Maek. var. <i>brachypodium</i> T.Sugaw.	—	—	NT	316
184	スズサイコ	キョウチクトウ	<i>Vincetoxicum pycnostelma</i> Kitag.	NT	国リスト	EN	213
185	スズタケ	イネ	<i>Sasa borealis</i> (Hack.) Makino et Shibata	—	—	EN	186
186	スズメノコビエ	イネ	<i>Paspalum scrobiculatum</i> L.var. <i>orbiculare</i> (G.Forst.) Hack	—	—	NT	333
187	スノキ	ツツジ	<i>Vaccinium smallii</i> A.Gray var. <i>glabrum</i> Koidz.	—	—	VU	289
188	スハマソウ	キンボウゲ	<i>Hepatica nobilis</i> Schreb. var. <i>japonica</i> Nakai f. <i>variegata</i> (Makino) Nakai	—	NT	CR	127
189	スブタ	トチカガミ	<i>Blyxa echinosperma</i> (C.B.Clarke) Hook.f.	VU	CR	EX	38
190	スルガテンナンショウ	サトイモ	<i>Arisaema yamatense</i> (Nakai) Nakai subsp. <i>sugimotoi</i> (Nakai) H.Obashi et J.Murata	—	—	CR	109
191	セイタカハリイ	カヤツリグサ	<i>Eleocharis attenuata</i> (Franch. et Sav.) Palla	—	VU	CR	123
192	セキショウモ	トチカガミ	<i>Vallisneria natans</i> (Lour.) H.Hara	—	—	EX	41
193	セトヤナギスブタ	トチカガミ	<i>Blyxa alternifolia</i> (Miq.) Hartog	CR	CR	CR	110
194	センダイスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex lenta</i> D.Don var. <i>sendaica</i> (Franch.) T.Koyama	—	VU	EN	179
195	センブリ	リンドウ	<i>Gentiana zollingeri</i> Fawe.	—	—	EN	211
196	ダイコンソウ	バラ	<i>Geum japonicum</i> Thunb.	—	—	VU	265
197	タカアザミ	キク	<i>Cirsium pendulum</i> Fisch.	—	—	希少遇産	380
198	タカトウダイ	トウダイグサ	<i>Euphorbia lasiocaula</i> Boiss.	—	—	EX	74
199	タシロラン	ラン	<i>Epipogium roseum</i> (D.Don) Lindl.	NT	NT	EN	164
200	タチモ	アリノトウグサ	<i>Myriophyllum ussuriense</i> (Regel) Maxim.	NT	NT	CR	129
201	タツナミソウ	シソ	<i>Scutellaria indica</i> L.	—	—	VU	299
202	タニウツギ	スイカズラ	<i>Weigela hortensis</i> (Siebold et Zucc.) K.Koch	—	—	EN	227
203	タニギキョウ	キキョウ	<i>Peracarpa carnosus</i> (Wall.) Hook.f. et Thomson	—	—	VU	303
204	タニソバ	タデ	<i>Persicaria nepalensis</i> (Meisn.) H.Gross	—	—	EX	80
205	タヌキマメ	マメ	<i>Crotalaria sessiliflora</i> L.	—	—	EN	190
206	タマミズキ	モチノキ	<i>Ilex micrococca</i> Maxim.	—	—	VU	301
207	ダンコウバイ	クスノキ	<i>Lindera obtusiloba</i> Blume	—	—	EX	37
208	チゴユリ	イヌサフラン	<i>Disporum smilacinum</i> A.Gray	—	—	NT	322
209	チダケサシ	ユキノシタ	<i>Astilbe microphylla</i> Knoll	—	—	EX	68
210	ツクシクロイヌノヒゲ	ホシクサ	<i>Eriocaulon kiusianum</i> Maxim.	—	NT	VU	243
211	ツクバスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex hirtifructus</i> Kük.	—	—	VU	246
212	ツチアケビ	ラン	<i>Cyrtosia septentrionalis</i> (Rchb.f.) Garay	—	—	EX	43

213	ツメレンゲ	ベンケイソウ	<i>Orostachys japonica</i> (Maxim.) A.Berger	NT	NT	VU	259
214	ツルアリドオシ	アカネ	<i>Mitchella undulata</i> Siebold et Zucc.	—	—	VU	293
215	ツルニンジン	キキョウ	<i>Codonopsis lanceolata</i> (Siebold et Zucc.) Trautv.	—	—	EN	221
216	トキソウ	ラン	<i>Pogonia japonica</i> Rchb.f.	NT	EN	EX	46
217	トチカガミ	トチカガミ	<i>Hydrocharis dubia</i> (Blume) Backer	NT	EN	EN	154
218	トネテンツキ	カヤツリグサ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> Debeaux et Franch. var. <i>tonensis</i> (Makino) Ohwi	VU	VU	EN	182
219	ナガエミクリ	ガマ	<i>Sparganium japonicum</i> Rothert	NT	国リスト	VU	242
220	ナガバノイシモチソウ	モウセンゴケ	<i>Drosera toyoakensis</i> M.Watanabe et Seriz.	VU	CR	EX	81
221	ナガバノウナギツカミ	タデ	<i>Persicaria hastatosagittata</i> (Makino) Nakai	NT	NT	VU	281
222	ナツエビネ	ラン	<i>Calanthe puberula</i> Lindl.	VU	VU	CR	115
223	ナナミノキ	モチノキ	<i>Ilex chinensis</i> Sims	—	VU	希少遇産	380
224	ナラガシワ	ブナ	<i>Quercus aliena</i> Blume	—	EN	県リスト	369
225	ナルコユリ	キジカクシ	<i>Polygonatum falcatum</i> A.Gray	—	—	EX	49
226	ナンバンギセル	ハマウツボ	<i>Aeginetia indica</i> L.	—	—	NT	357
227	ニガキ	ニガキ	<i>Picrasma quassioides</i> (D.Don) Benn.	—	—	EN	204
228	ニガクサ	シソ	<i>Teucrium japonicum</i> Houtt.	—	—	EN	220
229	ニシノホンモンジスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex stenostachys</i> Franch. et Sav.	—	VU	CR	121
230	ニッケイ	クスノキ	<i>Cinnamomum sieboldii</i> Meisn.	NT	国リスト	国リスト	365
231	スカボシソウ	イグサ	<i>Luzula plumosa</i> E.Mey.	—	—	EX	53
232	スマカゼクサ	イネ	<i>Eragrostis aquatica</i> Honda	—	—	VU	251
233	スマダイコン	キク	<i>Adenostemma lavenia</i> (L.) Kuntze	—	—	VU	305
234	ネナシカズラ	ヒルガオ	<i>Cuscuta japonica</i> Choisy	—	—	NT	351
235	ノカンゾウ	ススキノキ	<i>Hemerocallis fulva</i> L. var. <i>disticha</i> (Don ex Ker Gawl.) M.Hotta	—	—	EN	172
236	ノグサ	カヤツリグサ	<i>Schoenus apogon</i> Roem. et Schult.	—	EN	EX	58
237	ノササゲ	マメ	<i>Dumasia truncata</i> Siebold et Zucc.	—	—	VU	262
238	ノダケ	セリ	<i>Angelica decursiva</i> (Miq.) Franch. et Sav.	—	—	VU	314
239	ノタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia aurea</i> Lour.	VU	VU	EX	92
240	ノハナショウブ	アヤメ	<i>Iris ensata</i> Thunb. var. <i>spontanea</i> (Makino) Nakai ex Makino et Nemoto	—	—	EN	170
241	ハイイヌガヤ	イチイ	<i>Cephalotaxus harringtonia</i> (Knight ex Forbes) K.Koch var. <i>nana</i> (Nakai) Rehder	—	—	CR	105
242	ハイチゴザサ	イネ	<i>Isachne nipponensis</i> Ohwi	—	—	VU	252
243	ハクサンボク	ガマズミ	<i>Viburnum japonicum</i> (Thunb.) Spreng.	—	VU	県リスト	375
244	ハタザオ	アブラナ	<i>Turritis glabra</i> L.	—	—	CR	136
245	ハッカ	シソ	<i>Mentha canadensis</i> L. var. <i>piperaescens</i> (Malinv. ex Holmes) H.Hara	—	—	VU	297
246	ハマアオスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex fibrillosa</i> Franch. et Sav.	—	—	EN	178
247	ハマアカザ	ヒユ	<i>Atriplex subcordata</i> Kitag.	—	VU	EX	82
248	ハマエンドウ	マメ	<i>Lathyrus japonicus</i> Willd.	—	—	VU	263
249	ハマボウ	アオイ	<i>Hibiscus hamabo</i> Siebold et Zucc.	—	VU	EX	78
250	ヒツジグサ	スイレン	<i>Nymphaea tetragona</i> Georgi var. <i>angusta</i> Casp.	—	—	EX	36
251	ヒトツバハギ	ミカンソウ	<i>Flueggea suffruticosa</i> (Pall.) Baill.	—	VU	EX	75
252	ヒナザサ	イネ	<i>Coelachne japonica</i> Hack.	NT	VU	EX	60
253	ヒナノカンザシ	ヒメハギ	<i>Salomonina ciliate</i> (L.) DC.	—	—	EN	193
254	ヒナノシヤクジョウ	ヒナノシヤクジョウ	<i>Burmannia championii</i> Thwaites	—	NT	VU	232
255	ヒメアオガヤツリ	カヤツリグサ	<i>Cyperus pygmaeus</i> Rottb.	—	CR	CR	122
256	ヒメイカリソウ	メギ	<i>Epimedium trifoliatobinatum</i> (Koidz.) Koidz.	—	—	EX	64
257	ヒメガヤツリ	カヤツリグサ	<i>Cyperus tenuispica</i> Steud.	—	VU	EN	181
258	ヒメクロモジ	クスノキ	<i>Lindera lancea</i> (Momiy.) H.Koyama	—	—	CR	108
259	ヒメコウガイゼキショウ	イグサ	<i>Juncus bufonius</i> L.	—	—	NT	323
260	ヒメコウホネ	スイレン	<i>Nuphar subintegerrima</i> (Casp.) Makino	CR	CR	EX	35
261	ヒメコスカグサ	イネ	<i>Agrostis valvata</i> Steud.	NT	国リスト	NT	330
262	ヒメシオン	キク	<i>Aster fastigiatus</i> Fisch.	—	EN	EX	97
263	ヒメシャラ	ツバキ	<i>Stewartia monadelphae</i> Siebold et Zucc.	—	—	希少遇産	379
264	ヒメタイヌビエ	イネ	<i>Echinochloa crus-galli</i> (L.) P.Beauv. var. <i>formosensis</i> Ohwi	—	EN	CR	125
265	ヒメドコロ	ヤマノイモ	<i>Dioscorea tenuipes</i> Franch. et Sav.	—	—	VU	234
266	ヒメビシ	ミソハギ	<i>Trapa incisa</i> Siebold et Zucc.	VU	EN	CR	135

267	ヒメミソハギ	ミソハギ	<i>Ammannia multiflora</i> Roxb.	—	NT	CR	134
268	ヒメミミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia minutissima</i> Vahl	CR	EN	EX	96
269	ヒルムシロ	ヒルムシロ	<i>Potamogeton distinctus</i> A. Benn.	—	NT	EN	157
270	ピロードスグ	カヤツリグサ	<i>Carex miyabei</i> Franch.	—	—	VU	247
271	フサタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia dimorphantha</i> Makino	VU	EX	EX	93
272	フタリシズカ	センリョウ	<i>Chloranthus serratus</i> (Thunb.) Roem. et Schult.	—	—	VU	228
273	フデリンドウ	リンドウ	<i>Gentiana zollingeri</i> Fawe.	—	—	EN	210
274	ブナ	ブナ	<i>Fagus crenata</i> Blume	—	—	希少遇産	377
275	フモトミズナラ	ブナ	<i>Quercus crispula</i> Blume var. <i>mongolicoides</i> (H.Ohba) Seriz.	—	NT	VU	268
276	ヘビノボラズ	メギ	<i>Berberis sieboldii</i> Miq.	—	NT	EN	187
277	ヘラオモダカ	オモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> A.Braun et C.D.Bouché	—	—	VU	229
278	ホクリクムヨウラン	ラン	<i>Lecanorchis hokurikuensis</i> Masam.	—	VU	EN	167
279	ホザキノフサモ	アリノトウグサ	<i>Myriophyllum spicatum</i> L.	—	—	EN	188
280	ホザキノミミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia caerulea</i> L.	—	—	NT	360
281	ホソバニセジュズネノキ	アカネ	<i>Damnacanthus indicus</i> C.F.Gaertn. var. <i>major</i> (Siebold et Zucc.) Makino	—	—	VU	290
282	ホソバノヨツバムグラ	アカネ	<i>Galium trifidum</i> L. subsp. <i>columbianum</i> (Rydb.) Hultén	—	—	VU	292
283	ホソバハマアカザ	ヒユ	<i>Atriplex patens</i> (Litv.) Iljin	—	—	NT	345
284	ホソバヒカゲスグ	カヤツリグサ	<i>Carex humilis</i> Leyss. var. <i>nana</i> (H.Lév. et Vaniot) Ohwi	—	—	NT	326
285	ホタルカズラ	ムラサキ	<i>Lithospermum zollingeri</i> A.DC.	—	EN	EX	87
286	ボタンヅル	キンボウゲ	<i>Clematis apiifolia</i> DC.	—	—	VU	256
287	ホッスモ	トチカガミ	<i>Najas graminea</i> Delile	—	—	EX	39
288	ホドイモ	マメ	<i>Apios fortunei</i> Maxim.	—	—	VU	260
289	ホルトノキ	ホルトノキ	<i>Elaeocarpus zollingeri</i> K.Koch	—	VU	県リスト	371
290	ホンゴウソウ	ホンゴウソウ	<i>Sciaphila nana</i> Blume	NT	国リスト	VU	233
291	マキエハギ	マメ	<i>Lespedeza virgata</i> (Thunb.) DC.	—	—	CR	130
292	マタタビ	マタタビ	<i>Actinidia polygama</i> (Siebold et Zucc.) Planch. ex Maxim.	—	—	VU	288
293	マツカサススキ	カヤツリグサ	<i>Scirpus mitsukurianus</i> Makino	—	—	VU	250
294	マメダオン	ヒルガオ	<i>Cuscuta australis</i> R.Br.	EN	EX	EX	88
295	マメナシ	バラ	<i>Pyrus calleryana</i> Decne.	EN	CR	EN	195
296	マルバノホロシ	ナス	<i>Solanum maximowiczii</i> Koidz.	—	—	EN	214
297	マルミスブタ	トチカガミ	<i>Blyxa aubertii</i> Rich.	VU	VU	CR	111
298	マンサク	マンサク	<i>Hamamelis japonica</i> Siebold et Zucc.	—	—	VU	257
299	ミカワシンジュガヤ	カヤツリグサ	<i>Scleria mikawana</i> Makino	VU	VU	CR	124
300	ミカワタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia exoleta</i> R.Br.	EN	CR	EX	94
301	ミクリ	ガマ	<i>Sparganium erectum</i> L.	NT	EN	CR	119
302	ミクリガヤ	カヤツリグサ	<i>Rhynchospora malasica</i> C.B.Clarke	CR	CR	EX	56
303	ミズアオイ	ミズアオイ	<i>Monochoria korsakowii</i> Regel et Maack	NT	CR	EX	50
304	ミズオオバコ	トチカガミ	<i>Ottelia alismoides</i> (L.) Pers.	NT	国リスト	NT	320
305	ミズオトギリ	オトギリソウ	<i>Triadenum japonicum</i> (Blume) Makino	—	—	VU	276
306	ミズキ	ミズキ	<i>Cornus controversa</i> Hemsl. ex Plain	—	—	NT	346
307	ミズギク	キク	<i>Inula ciliaris</i> (Miq.) Maxim.	—	NT	EN	224
308	ミズスギナ	ミソハギ	<i>Rotala hippuris</i> Makino	CR	EX	EX	76
309	ミズタガラシ	アブラナ	<i>Cardamine lyrata</i> Bunge	—	NT	VU	279
310	ミズトラノオ	シソ	<i>Pogostemon yatabeanus</i> (Makino) Press	VU	VU	EN	217
311	ミズトンボ	ラン	<i>Habenaria sagittifera</i> Rchb.f.	NT	VU	EX	45
312	ミズネコノオ	シソ	<i>Pogostemon stellatus</i> (Lour.) Kuntze	NT	VU	CR	144
313	ミズマツバ	ミソハギ	<i>Rotala mexicana</i> Cham. et Schldl.	NT	国リスト	NT	341
314	ミゾコウジュ	シソ	<i>Salvia plebeia</i> R.Br.	NT	国リスト	VU	298
315	ミノボロスグ	カヤツリグサ	<i>Carex albata</i> Boott ex Franch. et Sav.	—	VU	EN	177
316	ミミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia bifida</i> L.	—	—	NT	359
317	ミヤコミズ	イラクサ	<i>Pilea kiotensis</i> Ohwi	—	CR	CR	132
318	ミヤマウズラ	ラン	<i>Goodyera schlechtendaliana</i> Rchb.f.	—	—	EN	166
319	ミヤマシキミ	ミカン	<i>Skimmia japonica</i> Thunb.	—	—	EN	203
320	ミヤマナルコユリ	キジカクシ	<i>Polygonatum lasianthum</i> Maxim.	—	—	EN	174

321	ミヤマワレモコウ	バラ	<i>Sanguisorba longifolia</i> Bertol.	—	EN	EN	196
322	ムカゴニンジン	セリ	<i>Sium ninsi</i> L.	—	—	VU	315
323	ムサシアブミ	サトイモ	<i>Arisaema ringens</i> (Thunb.) Schott	—	DD	DD	363
324	ムサシモ	トチカガミ	<i>Najas ancistrocarpa</i> A.Braun ex Magnus	EN	EN	国・県外	366
325	ムヨウラン	ラン	<i>Lecanorchis japonica</i> Blume	—	—	CR	118
326	ムラサキトキンソウ	キク	<i>Centipeda</i> sp.	—	NT	VU	309
327	ムラサキニガナ	キク	<i>Paraprenanthes sororia</i> (Miq.) Cauge ex C.Shih f. <i>glabra</i> Yonek.	—	—	VU	311
328	ムラサキミミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia uliginosa</i> Vahl	NT	NT	CR	146
329	メハジキ	シソ	<i>Leonulus japonicus</i> Houtt.	—	—	VU	296
330	モウセンゴケ	モウセンゴケ	<i>Drosera rotundifolia</i> L.	—	—	NT	344
331	ヤガミスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex maackii</i> Maxim.	—	—	NT	327
332	ヤチヤナギ	ヤマモモ	<i>Myrica gale</i> L. var. <i>tomentosa</i> C.DC.	—	CR	県外	370
333	ヤナギスズタ	トチカガミ	<i>Blyxa japonica</i> (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gürke	—	NT	EN	153
334	ヤブサンザシ	スグリ	<i>Ribes fasciculatum</i> Siebold et Zucc.	—	EN	EN	189
335	ヤブムラサキ	シソ	<i>Callicarpa mollis</i> Siebold et Zucc.	—	—	NT	353
336	ヤマジノギク	キク	<i>Aster hispidus</i> Thunb.	—	CR	EX	98
337	ヤマスズメノヒエ	イグサ	<i>Luzula multiflora</i> (Ehrh.) Lejeune	—	—	NT	324
338	ヤマトキンソウ	ラン	<i>Pogonia minor</i> (Makino) Makino	—	VU	EX	47
339	ヤマトミクリ	ガマ	<i>Sparganium fallax</i> Graebn.	NT	VU	EN	175
340	ヤマネコノメソウ	ユキノシタ	<i>Chrysosplenium japonicum</i> (Maxim.) Makino	—	—	VU	258
341	ヤマネコヤナギ	ヤナギ	<i>Salix caprea</i> L.	—	—	EN	200
342	ヤマハッカ	シソ	<i>Isodon inflexus</i> (Thunb.) Kudô	—	—	CR	143
343	ヤマハンノキ	カバノキ	<i>Alnus hirsuta</i> (Spach) Turcz. ex Rupr.	—	—	希少遇産	378
344	ヤマムグラ	アカネ	<i>Galium pogonanthum</i> Franch. et Sav.	—	—	EX	85
345	ヤマユリ	ユリ	<i>Lilium auratum</i> Lindl.	—	—	CR	113
346	ヤマラッキョウ	ヒガンバナ	<i>Allium thunbergii</i> G.Don	—	—	VU	239
347	ラセンソウ	アオイ	<i>Triumfetta japonica</i> Makino	—	—	希少遇産	379
348	リュウノウギク	キク	<i>Chrysanthemum makinoi</i> Matsum. et Nakai	—	—	EX	101
349	リンドウ	リンドウ	<i>Gentiana scabra</i> Bunge var. <i>buergeri</i> (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.	—	—	CR	141
350	レンゲツツジ	ツツジ	<i>Rhododendron molle</i> (Blume) G.Don subsp. <i>japonicum</i> (A.Gray) K.Kron	—	—	EX	84
351	ワセオバナ	イネ	<i>Saccharum spontaneum</i> L. var. <i>arenicola</i> (Ohwi) Ohwi	—	—	VU	253
352	ワタゲカマツカ	バラ	<i>Pourthiaea</i> sp.	—	—	NT	336

(2) シダ植物

No.	種名	科名	学名	国 2020	県 2025	市 2025	掲載頁
1	アカハナワラビ	ハナヤスリ	<i>Sceptridium nipponicum</i> (Makino) Holub	—	—	CR	389
2	アスカイノデ	オシダ	<i>Polystichum fibrillosopaleaceum</i> (Kodama) Tagawa	—	—	VU	417
3	イシカグマ	コバノイシカグマ	<i>Microlepia strigosa</i> (Thunb.) C.Presl	—	NT	CR	390
4	イヌイワヘゴ	オシダ	<i>Dryopteris cycadina</i> (Franch. et Sav.) C.Chr.	—	—	希少遇産	435
5	イヌカタヒバ	イワヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i> Hieron.	VU	国リスト	国リスト	429
6	イヌシダ	コバノイシカグマ	<i>Dennstaedtia hirsuta</i> (Sw.) Mett.	—	—	希少遇産	432
7	イブキシダ	ヒメシダ	<i>Thelypteris esquirolii</i> (H.Christ) Ching var. <i>glabrata</i> (H.Christ) K.Iwats.	—	—	希少遇産	433
8	イワヘゴ	オシダ	<i>Dryopteris atrata</i> (Wall. ex Kunze) Ching.	—	—	VU	412
9	ウスバシケンシダ	メシダ	<i>Deparia longipes</i> (Ching) Shinohara	VU	VU	VU	408
10	ウスヒメワラビ	ナヨシダ	<i>Acystopteris japonica</i> (Luerss.) Nakai	—	—	VU	404
11	ウチワゴケ	コケシノブ	<i>Crepidomanes minutum</i> (Blume) K.Iwats.	—	—	NT	422
12	ウラボシノコギリシダ	メシダ	<i>Anisocampium shearerii</i> (Baker) Ching	—	—	EN	397
13	オオカナワラビ	オシダ	<i>Arachniodes amabilis</i> (Blume) Tindale var. <i>fimbriata</i> K.Iwats.	—	—	NT	428
14	オオバノハチジョウシダ	イノモトソウ	<i>Pteris terminalis</i> Wall. ex J.Agardh	—	—	EN	394
15	オオマルバベニシダ	オシダ	<i>Dryopteris medioxima</i> Koidz.	—	—	希少遇産	436
16	オシダ	オシダ	<i>Dryopteris crassirhizoma</i> Nakai	—	—	希少遇産	434
17	オニトウゲシバ	ヒカゲノカズラ	<i>Huperzia javanica</i> (Sw.) Fraser-Jenk.	—	—	NT	419
18	オニヒカゲワラビ	メシダ	<i>Diplazium nipponicum</i> Tagawa	—	—	VU	410
19	カラクサイヌワラビ	メシダ	<i>Athyrium clivicola</i> Tagawa	—	—	希少遇産	433
20	キヨスミヒメワラビ	オシダ	<i>Dryopteris maximowicziana</i> (Miq.) C.Chr.	—	—	希少遇産	435
21	キヨタキシダ	メシダ	<i>Diplazium squamigerum</i> (Mett.) Matsum.	—	—	NT	427
22	クマワラビ	オシダ	<i>Dryopteris lacera</i> (Thunb.) Kuntze	—	—	VU	413
23	クラマゴケ	イワヒバ	<i>Selaginella remotifolia</i> Spring	—	—	NT	420
24	クリハラン	ウラボシ	<i>Neolepisorus ensatus</i> (Thunb.) Ching	—	—	EN	401
25	コウヤコケシノブ	コケシノブ	<i>Hymenophyllum barbatum</i> (Bosch) Baker	—	—	VU	402
26	コモチシダ	シシガシラ	<i>Woodwardia orientalis</i> Sw.	—	—	EN	396
27	サキモリイヌワラビ	メシダ	<i>Athyrium oblitescens</i> Sa.Kurata	—	—	希少遇産	434
28	サトメシダ	メシダ	<i>Athyrium deltoideofrons</i> Makino	—	—	VU	406
29	サンショウモ	サンショウモ	<i>Salvinia natans</i> (L.) All.	NT	EN	EX	388
30	シロヤマシダ	メシダ	<i>Diplazium hachijoense</i> Nakai var. <i>shiroyamense</i> (Tagawa)	—	—	VU	409
31	タニイヌワラビ	メシダ	<i>Athyrium otophorum</i> (Miq.) Koidz	—	—	NT	424
32	タニヘゴ	オシダ	<i>Dryopteris tokyoensis</i> (Makino) C.Chr.	—	—	VU	416
33	チャセンシダ	チャセンシダ	<i>Asplenium trichomanes</i> L.	—	—	EN	395
34	ツクシヤワランシダ	ヒメシダ	<i>Thelypteris hattorii</i> (H.Itô) Tagawa var. <i>nemoralis</i> (Ching) Sa.Kurata	—	VU	CR	391
35	デンジソウ	デンジソウ	<i>Marsilea quadrifolia</i> L.	NT	CR	EX	387
36	トキワトラノオ	チャセンシダ	<i>Asplenium pekinense</i> Hance	—	—	NT	423
37	ナガバノイタチシダ	オシダ	<i>Dryopteris sparsa</i> (Buch.-Ham. ex D.Don) Kuntze	—	—	VU	415
38	ナチシダ	イノモトソウ	<i>Pteris wallichiana</i> J.Agardh	—	—	希少遇産	432
39	ニセコクモウクジャク	メシダ	<i>Diplazium conterminum</i> H.Christ	—	VU	EN	398
40	ヌカイタチシダマガイ	オシダ	<i>Dryopteris simasakii</i> (H. Ito) Sa. Kurata	—	—	EN	400
41	ヌカイタチシダモドキ	オシダ	<i>Dryopteris indusiata</i> (Makino) Makino et Yamam.	—	—	EN	399
42	ヌリトラノオ	チャセンシダ	<i>Asplenium normale</i> D.Don	—	—	VU	403
43	ハガクレカナワラビ	オシダ	<i>Arachniodes yasui-inoue</i> Sa. Kurata	VU	国リスト	国リスト	431
44	ハマハナヤスリ	ハナヤスリ	<i>Ophioglossum thermale</i> Kom.	—	—	NT	421
45	ヒカゲワラビ	メシダ	<i>Diplazium chinense</i> (Baker) C.Chr.	—	—	NT	426
46	ヒメイタチシダ	オシダ	<i>Dryopteris sacrosancta</i> Koidz.	—	—	VU	414
47	ヒメワラビ	ヒメシダ	<i>Thelypteris torresiana</i> (Gaudich.) Alston var. <i>calvata</i> (Baker) K.Iwats.	—	—	VU	405
48	ヒロハイヌワラビ	メシダ	<i>Athyrium wardii</i> (Hook.) Makino	—	—	NT	425
49	ヘラシダ	メシダ	<i>Deparia lancea</i> (Thunb.) Fraser-Jenk.	—	—	VU	407
50	ホソバナライシダ	オシダ	<i>Arachniodes borealis</i> Seriz.	—	—	VU	411
51	マツバラン	マツバラン	<i>Psilotum nudum</i> (L.) P.Beauv.	NT	VU	国リスト	430
52	ミズニラ	ミズニラ	<i>Isoetes japonica</i> A. Braun	NT	NT	EX	386

53	ミツデウラボシ	ウラボシ	<i>Seligeria hastata</i> (Thunb.) Fraser-Jenk.	—	—	VU	418
54	モトマチハナワラビ	ハナヤスリ	<i>Scepтрidium</i> sp.	—	EN	EN	392
55	ヤマドリゼンマイ	ゼンマイ	<i>Osmundastrum cinnamomeum</i> (L.) C.Presl var. <i>fokiense</i> (Copel.) Tagawa	—	—	EN	393

2. 索引（分類順）

（1）種子植物

No.	種名	科名	学名	国 2020	県 2025	市 2025	掲載頁
1	ハイイヌガヤ	イチイ	<i>Cephalotaxus harringtonia</i> (Knight ex Forbes) K.Koch var. <i>nana</i> (Nakai) Rehder	—	—	CR	105
2	カヤ	イチイ	<i>Torreya nucifera</i> (L.) Siebold et Zucc.	—	—	CR	106
3	ジュンサイ	ジュンサイ	<i>Brasenia schreberi</i> J.F.Gmel.	—	—	EX	34
4	オニバス	スイレン	<i>Euryale ferox</i> Salisb.	VU	CR	CR	107
5	ヒメコウホネ	スイレン	<i>Nuphar subintegerrima</i> (Casp.) Makino	CR	CR	EX	35
6	ヒツジグサ	スイレン	<i>Nymphaea tetragona</i> Georgi var. <i>angusta</i> Casp.	—	—	EX	36
7	フタリシズカ	センリョウ	<i>Chloranthus serratus</i> (Thunb.) Roem. et Schult.	—	—	VU	228
8	オオバウマノスズクサ	ウマノスズクサ	<i>Aristolochia kaempferi</i> Willd.	—	VU	EN	150
9	スズカカンアオイ	ウマノスズクサ	<i>Asarum rigescens</i> F. Maek. var. <i>brachypodium</i> T.Sugaw.	—	—	NT	316
10	シデコブシ	モクレン	<i>Magnolia stellata</i> (Siebold et Zucc.) Maxim.	NT	VU	EN	151
11	ニッケイ	クスノキ	<i>Cinnamomum sieboldii</i> Meisn.	NT	国リスト	国リスト	365
12	カナクギノキ	クスノキ	<i>Lindera erythrocarpa</i> Makino	—	—	希少遇産	376
13	ヒメクロモジ	クスノキ	<i>Lindera lancea</i> (Momi.) H.Koyama	—	—	CR	108
14	ダンコウバイ	クスノキ	<i>Lindera obtusiloba</i> Blume	—	—	EX	37
15	クロモジ	クスノキ	<i>Lindera umbellata</i> Thunb.	—	—	EN	152
16	カゴノキ	クスノキ	<i>Litsea coreana</i> H.Lév.	—	—	NT	317
17	シロダモ	クスノキ	<i>Neolitsea sericea</i> (Blume) Koidz.	—	—	NT	318
18	ムサシアブミ	サトイモ	<i>Arisaema ringens</i> (Thunb.) Schott	—	DD	DD	363
19	ウラシマソウ	サトイモ	<i>Arisaema urashima</i> H.Hara	—	—	NT	319
20	スルガテンナンショウ	サトイモ	<i>Arisaema yamatense</i> (Nakai) Nakai subsp. <i>sugimotoi</i> (Nakai) H.Obashii et J.Murata	—	—	CR	109
21	オオハング	サトイモ	<i>Pinellia tripartita</i> (Blume) Schott	—	DD	DD	364
22	ヘラオモダカ	オモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> A.Braun et C.D.Bouché	—	—	VU	229
23	アギナシ	オモダカ	<i>Sagittaria aginashi</i> Makino	NT	国リスト	VU	230
24	セトヤナギスブタ	トチカガミ	<i>Blyxa alternifolia</i> (Miq.) Hartog	CR	CR	CR	110
25	マルミスブタ	トチカガミ	<i>Blyxa aubertii</i> Rich.	VU	VU	CR	111
26	スブタ	トチカガミ	<i>Blyxa echinosperma</i> (C.B.Clarke) Hook.f.	VU	CR	EX	38
27	ヤナギスブタ	トチカガミ	<i>Blyxa japonica</i> (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gürke	—	NT	EN	153
28	トチカガミ	トチカガミ	<i>Hydrocharis dubia</i> (Blume) Backer	NT	EN	EN	154
29	ムサシモ	トチカガミ	<i>Najas ancistrocarpa</i> A.Braun ex Magnus	EN	EN	国・県リスト	366
30	イトトリゲモ	トチカガミ	<i>Najas gracillima</i> (A.Braun ex Engelm.) Magnus	NT	NT	VU	231
31	ホッソモ	トチカガミ	<i>Najas graminea</i> Delile	—	—	EX	39
32	オオトリゲモ	トチカガミ	<i>Najas oguraensis</i> Miki	—	NT	EN	155
33	ミズオオバコ	トチカガミ	<i>Ottelia alismoides</i> (L.) Pers.	NT	国リスト	NT	320
34	コウガイモ	トチカガミ	<i>Vallisneria denseserrulata</i> (Makino) Makino	—	VU	EX	40
35	セキシウモ	トチカガミ	<i>Vallisneria natans</i> (Lour.) H.Hara	—	—	EX	41
36	シバナ	シバナ	<i>Triglochin asiatica</i> (Kitag.) A. et D.Löve	NT	NT	EN	156
37	ヒルムシロ	ヒルムシロ	<i>Potamogeton distinctus</i> A. Benn.	—	NT	EN	157
38	ヒナノシヤクジョウ	ヒナノシヤクジョウ	<i>Burmannia championii</i> Thwaites	—	NT	VU	232
39	カエデドコロ	ヤマノイモ	<i>Dioscorea quinquelobata</i> Thunb.	—	—	希少遇産	376
40	ヒメドコロ	ヤマノイモ	<i>Dioscorea tenuipes</i> Franch. et Sav.	—	—	VU	234
41	ホンゴウソウ	ホンゴウソウ	<i>Sciaphila nana</i> Blume	NT	国リスト	VU	233
42	シライトソウ	シュロソウ	<i>Chionographis japonica</i> Maxim.	—	—	VU	235
43	ショウジョウバカマ	シュロソウ	<i>Helonias orientalis</i> (Thunb.) N.Tanaka	—	—	NT	321
44	チゴユリ	イヌサフラン	<i>Disporum smilacinum</i> A.Gray	—	—	NT	322
45	アマナ	ユリ	<i>Amana edulis</i> (Miq.) Honda	—	—	EN	158
46	ウバユリ	ユリ	<i>Cardiocrinum cordatum</i> (Thunb.) Makino	—	—	EX	42
47	カタクリ	ユリ	<i>Erythronium japonicum</i> Decne.	—	—	CR	112
48	ヤマユリ	ユリ	<i>Lilium auratum</i> Lindl.	—	—	CR	113
49	ササユリ	ユリ	<i>Lilium japonicum</i> Houtt.	—	—	EN	159
50	コオニユリ	ユリ	<i>Lilium leichtlinii</i> Hook.f. f. <i>pseudotigrinum</i> (Carrière) H.Hara et Kitam.	—	—	CR	114

51	シラン	ラン	<i>Bletilla striata</i> (Thunb.) Rchb.f.	NT	NT	国・県リスト	367
52	ナツエビネ	ラン	<i>Calanthe puberula</i> Lindl.	VU	VU	CR	115
53	ギンラン	ラン	<i>Cephalanthera erecta</i> (Thunb.) Blume	—	—	EN	160
54	キンラン	ラン	<i>Cephalanthera falcate</i> (Thunb.) Blume	NT	NT	EN	161
55	サイハイラン	ラン	<i>Cremastra appendiculata</i> (D.Don) Makino var. <i>variabilis</i> (Blume) I.D.Lund	—	—	EN	162
56	ツチアケビ	ラン	<i>Cyrtosia septentrionalis</i> (Rchb.f.) Garay	—	—	EX	43
57	サワラン	ラン	<i>Eleorchis japonica</i> (A.Gray) F.Maek.	—	CR	EX	44
58	カキラン	ラン	<i>Epipactis thunbergii</i> A.Gray	—	—	EN	163
59	タシロラン	ラン	<i>Epipogium roseum</i> (D.Don) Lindl.	NT	NT	EN	164
60	アキザキヤツシロラン	ラン	<i>Gastrodia verrucosa</i> Blume	—	VU	EN	165
61	クロヤツシロラン	ラン	<i>Gastrodia pubilabiata</i> Sawa	—	—	VU	236
62	ミヤマウズラ	ラン	<i>Goodyera schlechtendaliana</i> Rchb.f.	—	—	EN	166
63	オオミヤマウズラ	ラン	<i>Goodyera tukamotoi</i> Seriz.	—	EN	CR	116
64	シュスラン	ラン	<i>Goodyera velutina</i> Maxim.	—	VU	CR	117
65	サギソウ	ラン	<i>Pecteilis radiata</i> (Thunb.) Raf.	NT	VU	VU	238
66	ミズトンボ	ラン	<i>Habenaria sagittifera</i> Rchb.f.	NT	VU	EX	45
67	ホクリクムヨウラン	ラン	<i>Lecanorchis hokurikuensis</i> Masam.	—	VU	EN	167
68	ムヨウラン	ラン	<i>Lecanorchis japonica</i> Blume	—	—	CR	118
69	ジガバチソウ	ラン	<i>Liparis krameri</i> Franch. et Sav.	—	—	VU	237
70	クモキリソウ	ラン	<i>Liparis kumokiri</i> F.Maek.	—	—	EN	168
71	コバノトンボソウ	ラン	<i>Platanthera tipuloides</i> (L.f.) Lindl. subsp. <i>nipponica</i> (Makino) Murata	—	—	EN	169
72	トキソウ	ラン	<i>Pogonia japonica</i> Rchb.f.	NT	EN	EX	46
73	ヤマトキソウ	ラン	<i>Pogonia minor</i> (Makino) Makino	—	VU	EX	47
74	クモラン	ラン	<i>Taeniophyllum glandulosum</i> Blume	—	—	EX	48
75	ノハナショウブ	アヤメ	<i>Iris ensata</i> Thunb. var. <i>spontanea</i> (Makino) Nakai ex Makino et Nemoto	—	—	EN	170
76	キスゲ	ススキノキ	<i>Hemerocallis citrina</i> Baroni var. <i>vespertina</i> (Hara) M.Hotta	—	—	EN	171
77	ノカンゾウ	ススキノキ	<i>Hemerocallis fulva</i> L. var. <i>disticha</i> (Don ex Ker Gawl.) M.Hotta	—	—	EN	172
78	ヤマラッキョウ	ヒガンバナ	<i>Allium thunbergii</i> G.Don	—	—	VU	239
79	キツネノカミソリ	ヒガンバナ	<i>Lycoris sanguinea</i> Maxim.	—	—	希少遇産	377
80	キヨシミギボウシ	キジカクシ	<i>Hosta kiyosumiensis</i> F.Maek.	—	—	VU	240
81	オオバギボウシ	キジカクシ	<i>Hosta sieboldiana</i> (Lodd.) Engl.	—	—	EN	173
82	コバギボウシ	キジカクシ	<i>Hosta Sieboldii</i> (Paxton) J.W.Ingram f. <i>spathulata</i> (Miq.) W.G.Schmid	—	—	VU	241
83	ナルコユリ	キジカクシ	<i>Polygonatum falcatum</i> A.Gray	—	—	EX	49
84	ミヤマナルコユリ	キジカクシ	<i>Polygonatum lasianthum</i> Maxim.	—	—	EN	174
85	ミズアオイ	ミズアオイ	<i>Monochoria korsakowii</i> Regel et Maack	NT	CR	EX	50
86	ヤマトミクリ	ガマ	<i>Sparganium fallax</i> Graebn.	NT	VU	EN	175
87	ナガエミクリ	ガマ	<i>Sparganium japonicum</i> Rothert	NT	国リスト	VU	242
88	ミクリ	ガマ	<i>Sparganium erectum</i> L.	NT	EN	CR	119
89	オオホシクサ	ホシクサ	<i>Eriocaulon buergerianum</i> Koern.	—	CR	EX	51
90	ツクシクロイヌノヒゲ	ホシクサ	<i>Eriocaulon kiusianum</i> Maxim.	—	NT	VU	243
91	シラタマホシクサ	ホシクサ	<i>Eriocaulon nudicuspe</i> Maxim.	VU	VU	EN	176
92	クロホシクサ	ホシクサ	<i>Eriocaulon parvum</i> Koern.	NT	EN	EX	52
93	ヒメコウガイゼキショウ	イグサ	<i>Juncus bufonius</i> L.	—	—	NT	323
94	ヤマスズメノヒエ	イグサ	<i>Luzula multiflora</i> (Ehrh.) Lejeune	—	—	NT	324
95	ヌカボシソウ	イグサ	<i>Luzula plumosa</i> E.Mey.	—	—	EX	53
96	イセウキヤガラ	カヤツリグサ	<i>Bolboschoenus planiculmis</i> (F.Schmidt) T.V.Egorova	—	—	VU	244
97	イトハナビデンツキ	カヤツリグサ	<i>Bulbostylis densa</i> (Wall.) Hand. Mazz.	—	—	EX	54
98	ショウジョウスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex blepharicarpa</i> Franch.	—	—	NT	325
99	ケタガネソウ	カヤツリグサ	<i>Carex ciliatomarginata</i> Nakai	—	—	VU	245
100	ハマアオスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex fibrillosa</i> Franch. et Sav.	—	—	EN	178
101	ツクバスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex hirtifructus</i> Kük.	—	—	VU	246
102	ホソバヒカゲスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex humilis</i> Leyss. var. <i>nana</i> (H.Lév. et Vaniot) Ohwi	—	—	NT	326
103	ウマスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex idzuroei</i> Franch. et Sav.	—	—	CR	120
104	センダイスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex lenta</i> D.Don var. <i>sendaica</i> (Franch.) T.Koyama	—	VU	EN	179

105	ヤガミスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex maackii</i> Maxim.	—	—	NT	327
106	ビロードスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex miyabei</i> Franch.	—	—	VU	247
107	ミノボロスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex alбата</i> Boott ex Franch. et Sav.	—	VU	EN	177
108	コジュブスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex parciflora</i> Boott var. <i>macroGLOSSa</i> (Franch. et Sav.) Ohwi	—	—	NT	328
109	シオクグ	カヤツリグサ	<i>Carex scabrifolia</i> Steud.	—	—	NT	329
110	アズマナルコ	カヤツリグサ	<i>Carex shimidzensis</i> Franch.	—	—	EN	180
111	ニシノホンモンジスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex stenostachys</i> Franch. et Sav.	—	VU	CR	121
112	ヒメアオガヤツリ	カヤツリグサ	<i>Cyperus pygmaeus</i> Rottb.	—	CR	CR	122
113	ヒメガヤツリ	カヤツリグサ	<i>Cyperus tenuispica</i> Steud.	—	VU	EN	181
114	カガシラ	カヤツリグサ	<i>Diplacrum caricinum</i> R.Br.	VU	CR	EX	55
115	セイタカハリイ	カヤツリグサ	<i>Eleocharis attenuata</i> (Franch. et Sav.) Palla	—	VU	CR	123
116	イソヤマテンツキ	カヤツリグサ	<i>Fimbristylis sieboldii</i> Miq. ex Franch. et Sav.	—	—	VU	248
117	トネテンツキ	カヤツリグサ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> Debeaux et Franch. var. <i>tonensis</i> (Makino) Ohwi	VU	VU	EN	182
118	ミクリガヤ	カヤツリグサ	<i>Rhynchospora malasica</i> C.B. Clarke	CR	CR	EX	56
119	イガクサ	カヤツリグサ	<i>Rhynchospora rubra</i> (Lour.) Makino	—	—	VU	249
120	シズイ	カヤツリグサ	<i>Schoenoplectus nipponicus</i> (Makino) Soják	—	EN	EX	57
121	ノグサ	カヤツリグサ	<i>Schoenus apogon</i> Roem. et Schult.	—	EN	EX	58
122	マツカサススキ	カヤツリグサ	<i>Scirpus mitsukurianus</i> Makino	—	—	VU	250
123	ミカワシンジュガヤ	カヤツリグサ	<i>Scleria mikawana</i> Makino	VU	VU	CR	124
124	コシンジュガヤ	カヤツリグサ	<i>Scleria parvula</i> Steud.	—	VU	EN	183
125	ヒメコヌカグサ	イネ	<i>Agrostis valvata</i> Steud.	NT	国リスト	NT	330
126	コウボウ	イネ	<i>Anthoxanthum glabrum</i> (Trin.) Veldkamp	—	—	EX	59
127	ヒナザサ	イネ	<i>Coelachne japonica</i> Hack.	NT	VU	EX	60
128	ヒメタイヌビエ	イネ	<i>Echinochloa crus-galli</i> (L.) P.Beauv. var. <i>formosensis</i> Ohwi	—	EN	CR	125
129	スマカゼクサ	イネ	<i>Eragrostis aquatica</i> Honda	—	—	VU	251
130	コゴメカゼクサ	イネ	<i>Eragrostis japonica</i> (Thunb.) Trin.	—	CR	EX	61
131	ウンヌケ	イネ	<i>Eulalia speciosa</i> (Debeaux) Kuntze	VU	NT	EN	185
132	ハイチゴザサ	イネ	<i>Isachne nipponensis</i> Ohwi	—	—	VU	252
133	アシカキ	イネ	<i>Leersia japonica</i> (Honda) Makino ex Honda	—	—	NT	331
134	サヤヌカグサ	イネ	<i>Leersia sayanuka</i> Ohwi	—	—	NT	332
135	アズマガヤ	イネ	<i>Asperella longearistata</i> (Hack.) Ohwi	—	—	EN	184
136	コメガヤ	イネ	<i>Melica nutans</i> L.	—	—	EX	62
137	スズメノコビエ	イネ	<i>Paspalum scrobiculatum</i> L. var. <i>orbiculare</i> (G.Forst.) Hack	—	—	NT	333
138	ウキシバ	イネ	<i>Pseudoraphis sordida</i> (Thwaites) S.M. Phillips et S.L. Chen	—	NT	NT	334
139	ワセオバナ	イネ	<i>Saccharum spontaneum</i> L. var. <i>arenicola</i> (Ohwi) Ohwi	—	—	VU	253
140	スズタケ	イネ	<i>Sasa borealis</i> (Hack.) Makino et Shibata	—	—	EN	186
141	シダミコザサ	イネ	<i>Sasa samaniana</i> Nakai var. <i>yoshinoi</i> (Koidz.) Sad. Suzuki f. <i>hidejiroana</i> (Koidz.) Sad. Suzuki	—	VU	VU	254
142	オオアブラススキ	イネ	<i>Spodiopogon sibiricus</i> Trin.	—	—	EX	63
143	クサノオウ	ケシ	<i>Chelidonium majus</i> L. subsp. <i>asiaticum</i> H. Hara	—	—	VU	255
144	キケマン	ケシ	<i>Corydalis heterocarpa</i> Siebold et Zucc. var. <i>japonica</i> (Franch. et Sav.) Ohwi	—	—	NT	335
145	ヘビノボラズ	メギ	<i>Berberis sieboldii</i> Miq.	—	NT	EN	187
146	ヒメイカリソウ	メギ	<i>Epimedium trifoliatobinatum</i> (Koidz.) Koidz.	—	—	EX	64
147	ボタンヅル	キンボウゲ	<i>Clematis apiifolia</i> DC.	—	—	VU	256
148	カザグルマ	キンボウゲ	<i>Clematis patens</i> C. Morren et Decne.	NT	EN	CR	126
149	クサボタン	キンボウゲ	<i>Clematis stans</i> Siebold et Zucc.	—	EN	EX	65
150	スハマソウ	キンボウゲ	<i>Hepatica nobilis</i> Schreb. var. <i>japonica</i> Nakai f. <i>variegata</i> (Makino) Nakai	—	NT	CR	127
151	オキナグサ	キンボウゲ	<i>Pulsatilla cernua</i> (Thunb.) Bercht. et C. Presl	NT	CR	EX	66
152	ウマノアシガタ	キンボウゲ	<i>Ranunculus japonicus</i> Thunb.	—	—	CR	128
153	オトコゼリ	キンボウゲ	<i>Ranunculus tachiroei</i> Franch. et Sav.	—	—	EX	67
154	マンサク	マンサク	<i>Hamamelis japonica</i> Siebold et Zucc.	—	—	VU	257
155	ヤブサンザシ	スグリ	<i>Ribes fasciculatum</i> Siebold et Zucc.	—	EN	EN	189
156	チダケサシ	ユキノシタ	<i>Astilbe microphylla</i> Knoll	—	—	EX	68
157	ヤマネコノメソウ	ユキノシタ	<i>Chrysosplenium japonicum</i> (Maxim.) Makino	—	—	VU	258
158	ツメレンゲ	ペンケイソウ	<i>Orostachys japonica</i> (Maxim.) A. Berger	NT	NT	VU	259

159	オグラノフサモ	アリノトウグサ	<i>Myriophyllum oguraense</i> Miki	VU	CR	国・県リスト	368
160	ホザキノフサモ	アリノトウグサ	<i>Myriophyllum spicatum</i> L.	—	—	EN	188
161	タチモ	アリノトウグサ	<i>Myriophyllum ussuriense</i> (Regel) Maxim.	NT	NT	CR	129
162	ホドイモ	マメ	<i>Apios fortunei</i> Maxim.	—	—	VU	260
163	カワラケツメイ	マメ	<i>Chamaecrista nomame</i> (Siebold) H.Ohashi	—	—	VU	261
164	タヌキマメ	マメ	<i>Crotalaria sessiliflora</i> L.	—	—	EN	190
165	ノササゲ	マメ	<i>Dumasia truncata</i> Siebold et Zucc.	—	—	VU	262
166	ケヤブハギ	マメ	<i>Desmodium podocarpum</i> DC. subsp. <i>fallax</i> (Schindl.) H.Ohashi.	—	—	EN	191
167	ハマエンドウ	マメ	<i>Lathyrus japonicus</i> Willd.	—	—	VU	263
168	キハギ	マメ	<i>Lespedeza buergeri</i> Miq.	—	—	EN	192
169	シベリアメドハギ	マメ	<i>Lespedeza juncea</i> (L.f.) Pers.	—	—	EX	69
170	イヌハギ	マメ	<i>Lespedeza tomentosa</i> (Thunb.) Siebold ex Maxim.	NT	VU	EX	70
171	マキエハギ	マメ	<i>Lespedeza virgata</i> (Thunb.) DC.	—	—	CR	130
172	ヒナノカンザシ	ヒメハギ	<i>Salomonina ciliate</i> (L.) DC.	—	—	EN	193
173	ザイフリボク	バラ	<i>Amelanchier asiatica</i> (Siebold et Zucc.) Endl. ex Walp.	—	—	VU	264
174	ダイコンソウ	バラ	<i>Geum japonicum</i> Thunb.	—	—	VU	265
175	オオウラジロノキ	バラ	<i>Malus tschonoskii</i> (Maxim.) C.K.Schneid.	—	—	EN	197
176	カワラサイコ	バラ	<i>Potentilla chinensis</i> Ser.	—	VU	EN	194
177	キジムシロ	バラ	<i>Potentilla fragarioides</i> L. var. <i>major</i> Maxim.	—	—	EX	71
178	ワタゲカマツカ	バラ	<i>Pourthiaea</i> sp.	—	—	NT	336
179	マメナシ	バラ	<i>Pyrus calleryana</i> Decne.	EN	CR	EN	195
180	ミヤマワレモコウ	バラ	<i>Sanguisorba longifolia</i> Bertol.	—	EN	EN	196
181	シモツケ	バラ	<i>Spiraea japonica</i> L.f.	—	—	EX	72
182	オオバグミ	グミ	<i>Elaeagnus macrophylla</i> Thunb.	—	—	CR	131
183	アリマグミ	グミ	<i>Elaeagnus murakamiana</i> Makino	—	VU	EN	198
184	クマヤナギ	クロウメモドキ	<i>Berchemia racemosa</i> Siebold et Zucc.	—	—	VU	266
185	クロウメモドキ	クロウメモドキ	<i>Rhamnus japonica</i> Maxim. var. <i>decipiens</i> Maxim.	—	—	EX	73
186	コアカソ	イラクサ	<i>Boehmeria spicata</i> (Thunb.) Thunb.	—	—	NT	337
187	オオサンショウソウ	イラクサ	<i>Pellionia radicans</i> (Siebold et Zucc.) Wedd.	—	—	VU	267
188	ミヤコミズ	イラクサ	<i>Pilea kiotensis</i> Ohwi	—	CR	CR	132
189	ブナ	ブナ	<i>Fagus crenata</i> Blume	—	—	希少遇産	377
190	ナラガシワ	ブナ	<i>Quercus aliena</i> Blume	—	EN	県リスト	369
191	フモトミズナラ	ブナ	<i>Quercus crispula</i> Blume var. <i>mongolicoides</i> (H.Ohba) Seriz.	—	NT	VU	268
192	ウラジロガシ	ブナ	<i>Quercus salicina</i> Blume	—	—	VU	269
193	ヤチヤナギ	ヤマモモ	<i>Myrica gale</i> L. var. <i>tomentosa</i> C.DC.	—	CR	県リスト	370
194	ヤマハンノキ	カバノキ	<i>Alnus hirsuta</i> (Spach) Turcz. ex Rupr.	—	—	希少遇産	378
195	カワラハンノキ	カバノキ	<i>Alnus serrulata</i> Callier	—	—	VU	270
196	サクラバハンノキ	カバノキ	<i>Alnus trabeculosa</i> Hand. Mazz.	NT	国リスト	NT	338
197	アカシデ	カバノキ	<i>Carpinus laxiflora</i> (Siebold et Zucc.) Blume	—	—	EN	199
198	イヌシデ	カバノキ	<i>Carpinus tschonoskii</i> Maxim.	—	—	VU	271
199	ゴキヅル	ウリ	<i>Actinostemma tenerum</i> Griff.	—	—	NT	339
200	ウメバチソウ	ニシキギ	<i>Parnassia palustris</i> L.	—	—	CR	133
201	ホルトノキ	ホルトノキ	<i>Elaeocarpus zollingeri</i> K.Koch	—	VU	県リスト	371
202	タカトウダイ	トウダイグサ	<i>Euphorbia lasiocaula</i> Boiss.	—	—	EX	74
203	ケイリュウタチツボスミレ	スミレ	<i>Viola grypoceras</i> A.Gray var. <i>ripensis</i> N.Yamada et M.Okamoto	—	—	NT	340
204	アギスミレ	スミレ	<i>Viola verecunda</i> A.Gray var. <i>semilunaris</i> Maxim.	—	—	VU	274
205	サワオトギリ	オトギリソウ	<i>Hypericum pseudopetiolatum</i> R.Keller	—	—	VU	275
206	ミズオトギリ	オトギリソウ	<i>Triadenum japonicum</i> (Blume) Makino	—	—	VU	276
207	ヒメミソハギ	ミソハギ	<i>Ammannia multiflora</i> Roxb.	—	NT	CR	134
208	ミズスギナ	ミソハギ	<i>Rotala hippuris</i> Makino	CR	EX	EX	76
209	ミズマツバ	ミソハギ	<i>Rotala mexicana</i> Cham. et Schltdl.	NT	国リスト	NT	341
210	ヒメビシ	ミソハギ	<i>Trapa incisa</i> Siebold et Zucc.	VU	EN	CR	135
211	ウスゲチョウジタデ	アカバナ	<i>Ludwigia greatrexi</i> H.Hara	NT	国リスト	VU	277
212	ヤマネコヤナギ	ヤナギ	<i>Salix caprea</i> L.	—	—	EN	200

213	キヌヤナギ	ヤナギ	<i>Salix kinuyanagi</i> Kimura	—	NT	VU	273
214	サイコクキツネヤナギ	ヤナギ	<i>Salix vulpina</i> Andersson subsp. <i>alopochloa</i> (Kimura) H.Ohashi et Yonek.	—	—	VU	272
215	ミズタガラシ	アブラナ	<i>Cardamine lyrata</i> Bunge	—	NT	VU	279
216	コイヌガラシ	アブラナ	<i>Rorippa cantoniensis</i> (Lour.) Ohwi	NT	国リスト	VU	280
217	ハタザオ	アブラナ	<i>Turritis glabra</i> L.	—	—	CR	136
218	ウリハダカエデ	ムクロジ	<i>Acer rufinerve</i> Siebold et Zucc.	—	—	希少遇産	378
219	カラコギカエデ	ムクロジ	<i>Acer ginnala</i> Maxim. var. <i>aidzuense</i> (Franch.) K.Ogata	—	VU	EN	201
220	コクサギ	ミカン	<i>Orixa japonica</i> Thunb.	—	—	EX	77
221	キハダ	ミカン	<i>Phellodendron amurense</i> Rupr.	—	—	EN	202
222	ミヤマシキミ	ミカン	<i>Skimmia japonica</i> Thunb.	—	—	EN	203
223	ニガキ	ニガキ	<i>Picrasma quassioides</i> (D.Don) Benn.	—	—	EN	204
224	ヒトツバハギ	ミカンソウ	<i>Flueggea suffruticosa</i> (Pall.) Baill.	—	VU	EX	75
225	ハマボウ	アオイ	<i>Hibiscus hamabo</i> Siebold et Zucc.	—	VU	EX	78
226	ラセンソウ	アオイ	<i>Triumfetta japonica</i> Makino	—	—	希少遇産	379
227	コガンピ	ジンチョウゲ	<i>Diplomorpha ganpi</i> (Siebold et Zucc.) Nakai	—	—	EX	79
228	サクラガンピ	ジンチョウゲ	<i>Diplomorpha pauciflora</i> (Franch. et Sav.) Nakai	VU	国リスト	国リスト	372
229	ガンピ	ジンチョウゲ	<i>Diplomorpha sikokiana</i> (Franch. et Sav.) Honda	—	—	VU	278
230	ナガバノウナギツカミ	タデ	<i>Persicaria hastatosagittata</i> (Makino) Nakai	NT	NT	VU	281
231	コミゾソバ	タデ	<i>Persicaria mikawana</i> Hanaï et Seriz.	—	NT	VU	282
232	タニソバ	タデ	<i>Persicaria nepalensis</i> (Meisn.) H.Gross	—	—	EX	80
233	サクラタデ	タデ	<i>Persicaria macrantha</i> (Meisn.) Haraldson	—	—	NT	342
234	ウナギツカミ	タデ	<i>Persicaria sieboldii</i> (Meisn.) Ohkivar. aestiva (Makino)	—	—	VU	283
235	アキノミチヤナギ	タデ	<i>Polygonum polyneuron</i> Franch. et Sav.	—	—	VU	284
236	コギンギシ	タデ	<i>Rumex dentatus</i> L. subsp. <i>klotzschianus</i> (Meisn.) Rech.f.	NT	国リスト	NT	343
237	ナガバノイシモチソウ	モウセンゴケ	<i>Drosera toyoakensis</i> M.Watanabe et Seriz.	VU	CR	EX	81
238	イシモチソウ	モウセンゴケ	<i>Drosera peltata</i> Thunb. var. <i>nipponica</i> (Masam.) Ohwi	NT	EN	CR	137
239	モウセンゴケ	モウセンゴケ	<i>Drosera rotundifolia</i> L.	—	—	NT	344
240	カワラナデシコ	ナデシコ	<i>Dianthus superbus</i> L. var. <i>longicalycinus</i> (Maxim.) F.N.Williams	—	—	VU	285
241	ホソバハマアカザ	ヒユ	<i>Atriplex patens</i> (Litv.) Iljin	—	—	NT	345
242	ハマアカザ	ヒユ	<i>Atriplex subcordata</i> Kitag.	—	VU	EX	82
243	ミズキ	ミズキ	<i>Cornus controversa</i> Hemsl. ex Plain	—	—	NT	346
244	クマノミズキ	ミズキ	<i>Cornus macrophylla</i> Wall.	—	—	EN	205
245	コアジサイ	アジサイ	<i>Hydrangea hirta</i> (Thunb. ex Murray) Siebold et Zucc.	—	—	NT	347
246	コガクウツギ	アジサイ	<i>Hydrangea luteovenosa</i> Koidz.	—	EN	CR	138
247	イワガラミ	アジサイ	<i>Schizophragma hydrangeoides</i> Siebold et Zucc.	—	—	CR	139
248	キツリフネ	ツリフネソウ	<i>Impatiens noli tangere</i> L.	—	—	EN	206
249	カラタチバナ	サクラソウ	<i>Ardisia crispa</i> (Thunb.) A.DC.	—	—	NT	348
250	クサレダマ	サクラソウ	<i>Lysimachia vulgaris</i> L. subsp. <i>davurica</i> (Ledeb.) Tatew.	—	—	VU	287
251	イズセンリョウ	サクラソウ	<i>Maesa japonica</i> (Thunb.) Moritzi et Zoll.	—	—	VU	286
252	ヒメシヤラ	ツバキ	<i>Stewartia monadelphica</i> Siebold et Zucc.	—	—	希少遇産	379
253	クロキ	ハイノキ	<i>Symplocos licida</i> Sieb. et Zucc.	—	CR	CR	140
254	クロミノニンゴリ	ハイノキ	<i>Symplocos paniculata</i> (Thunb.) Miq.	—	—	NT	349
255	マタタビ	マタタビ	<i>Actinidia polygama</i> (Siebold et Zucc.) Planch. ex Maxim.	—	—	VU	288
256	ギンリョウソウモドキ	ツツジ	<i>Monotropa uniflora</i> L.	—	—	EN	207
257	ギンリョウソウ	ツツジ	<i>Monotropastrum humile</i> (D.Don) H.Hara	—	—	EX	83
258	イチヤクソウ	ツツジ	<i>Pyrola japonica</i> Klenz ex Alefeld	—	—	NT	350
259	レンゲツツジ	ツツジ	<i>Rhododendron molle</i> (Blume) G.Don subsp. <i>japonicum</i> (A.Gray) K.Kron	—	—	EX	84
260	スノキ	ツツジ	<i>Vaccinium smallii</i> A.Gray var. <i>glabrum</i> Koidz.	—	—	VU	289
261	アリドオシ	アカネ	<i>Damnacanthus indicus</i> C.F.Gaertn.	—	—	EN	208
262	ホソバニセジュズネノキ	アカネ	<i>Damnacanthus indicus</i> C.F.Gaertn. var. <i>major</i> (Siebold et Zucc.) Makino	—	—	VU	290
263	キクムグラ	アカネ	<i>Galium kikumugura</i> Ohwi	—	NT	VU	291
264	ヤマムグラ	アカネ	<i>Galium pogonanthum</i> Franch. et Sav.	—	—	EX	85
265	ホソバノヨツバムグラ	アカネ	<i>Galium trifidum</i> L. subsp. <i>columbianum</i> (Rydb.) Hultén	—	—	VU	292
266	ツルアリドオシ	アカネ	<i>Mitchella undulata</i> Siebold et Zucc.	—	—	VU	293

267	カギカズラ	アカネ	<i>Uncaria rhynchophylla</i> (Miq.) Miq.	—	—	EN	209
268	リンドウ	リンドウ	<i>Gentiana scabra</i> Bunge var. <i>buergeri</i> (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.	—	—	CR	141
269	コケリンドウ	リンドウ	<i>Gentiana squarrosa</i> Ledeb.	—	VU	CR	142
270	フデリンドウ	リンドウ	<i>Gentiana zollingeri</i> Fawe.	—	—	EN	210
271	センブリ	リンドウ	<i>Gentiana zollingeri</i> Fawe.	—	—	EN	211
272	イスセンブリ	リンドウ	<i>Swertia tosaensis</i> Makino	NT	NT	EN	212
273	コカモメヅル	キョウチクトウ	<i>Tylophora floribunda</i> Miq.	—	—	VU	294
274	クサナギオゴケ	キョウチクトウ	<i>Vincetoxicum katoi</i> (Ohwi) Kitag.	VU	NT	EX	86
275	スズサイコ	キョウチクトウ	<i>Vincetoxicum pycnostelma</i> Kitag.	NT	国リスト	EN	213
276	ホタルカズラ	ムラサキ	<i>Lithospermum zollingeri</i> A.DC.	—	EN	EX	87
277	マメダオン	ヒルガオ	<i>Cuscuta australis</i> R.Br.	EN	EX	EX	88
278	ネナシカズラ	ヒルガオ	<i>Cuscuta japonica</i> Choisy	—	—	NT	351
279	マルバノホロシ	ナス	<i>Solanum maximowiczii</i> Koidz.	—	—	EN	214
280	サワトウガラシ	オオバコ	<i>Deinostema violaceum</i> (Maxim.) Y.Yamaz.	—	—	VU	295
281	オオアブノメ	オオバコ	<i>Gratiola japonica</i> Miq.	VU	VU	EN	215
282	イスノフグリ	オオバコ	<i>Veronica polita</i> Fr. var. <i>lilacina</i> (T.Yamaz.) T.Yamaz.	NT	国リスト	NT	352
283	カワヂシャ	オオバコ	<i>Veronica undulata</i> Wall.	NT	国リスト	国リスト	373
284	オオヒナノウスツボ	ゴマノハグサ	<i>Scrophularia kakudensis</i> Franch.	—	—	EX	89
285	ケブカツルカコソウ	シソ	<i>Ajuga shikotanensis</i> Miyabe et Tatew.f. <i>hirsuta</i> (Honda) Murata	—	EN	EX	90
286	ヤブムラサキ	シソ	<i>Callicarpa mollis</i> Siebold et Zucc.	—	—	NT	353
287	ヤマハッカ	シソ	<i>Isodon inflexus</i> (Thunb.) Kudô	—	—	CR	143
288	オドリコソウ	シソ	<i>Lamium album</i> L. var. <i>barbatum</i> (Siebold et Zucc.) Franch. et Sav.	—	—	EN	216
289	メハジキ	シソ	<i>Leonulus japonicus</i> Houtt.	—	—	VU	296
290	コシロネ	シソ	<i>Lycopus cavaleriei</i> H.Lev.	—	—	NT	354
291	ハッカ	シソ	<i>Mentha canadensis</i> L. var. <i>piperasens</i> (Malinv. ex Holmes) H.Hara	—	—	VU	297
292	ミズネコノオ	シソ	<i>Pogostemon stellatus</i> (Lour.) Kuntze	NT	VU	CR	144
293	ミズトラノオ	シソ	<i>Pogostemon yatabeanus</i> (Makino) Press	VU	VU	EN	217
294	ウツボグサ	シソ	<i>Prunella vulgaris</i> L. subsp. <i>asiatica</i> (Nakai) H.Hara	—	—	NT	355
295	シマジタムラソウ	シソ	<i>Salvia isensis</i> Nakai ex Hara	VU	NT	CR	145
296	ミゾコウジュ	シソ	<i>Salvia plebeia</i> R.Br.	NT	国リスト	VU	298
297	オカタツナミソウ	シソ	<i>Scutellaria brachyspica</i> Nakai et H.Hara	—	—	EN	218
298	タツナミソウ	シソ	<i>Scutellaria indica</i> L.	—	—	VU	299
299	イガタツナミ	シソ	<i>Scutellaria kurokawae</i> H.Hara	—	—	EN	219
300	シソバタツナミ	シソ	<i>Scutellaria laeteviolacea</i> Koidz.	—	—	VU	300
301	イスゴマ	シソ	<i>Stachys aspera</i> Michx. var. <i>hispidula</i> (Regel) Vorosch.	—	—	NT	356
302	ニガクサ	シソ	<i>Teucrium japonicum</i> Houtt.	—	—	EN	220
303	ナンバンギセル	ハマウツボ	<i>Aeginetia indica</i> L.	—	—	NT	357
304	コシオガマ	ハマウツボ	<i>Phtheirospermum japonicum</i> (Thunb.) Kanitz	—	—	EX	91
305	ノタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia aurea</i> Lour.	VU	VU	EX	92
306	イヌタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia australis</i> R.Br.	NT	国リスト	NT	358
307	ミミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia bifida</i> L.	—	—	NT	359
308	ホザキノミミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia caerulea</i> L.	—	—	NT	360
309	フサタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia dimorphantha</i> Makino	VU	EX	EX	93
310	ミカワタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia exoleta</i> R.Br.	EN	CR	EX	94
311	コタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia intermedia</i> Heyne	—	CR	EX	95
312	ヒメミミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia minutissima</i> Vahl	CR	EN	EX	96
313	ムラサキミミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia uliginosa</i> Vahl	NT	NT	CR	146
314	ナナミノキ	モチノキ	<i>Ilex chinensis</i> Sims	—	VU	希少遇産	380
315	タマミズキ	モチノキ	<i>Ilex micrococca</i> Maxim.	—	—	VU	301
316	ツルニンジン	キキョウ	<i>Codonopsis lanceolata</i> (Siebold et Zucc.) Trautv.	—	—	EN	221
317	サワギキョウ	キキョウ	<i>Lobelia sessilifolia</i> Lamb.	—	—	VU	302
318	タニギキョウ	キキョウ	<i>Peracarpa carnosa</i> (Wall.) Hook.f. et Thomson	—	—	VU	303
319	キキョウ	キキョウ	<i>Platycodon grandiflorum</i> (Jacq.) A. DC.	NT	VU	CR	147
320	ガガブタ	ミツガシワ	<i>Nymphoides indica</i> (L.) Kuntze	NT	NT	VU	304

321	アサザ	ミツガシワ	<i>Nymphoides peltata</i> (S.G.Gmel.) Kuntze	NT	EN	国・県リスト	374
322	ヌマダイコン	キク	<i>Adenostemma lavenia</i> (L.) Kuntze	—	—	VU	305
323	オクモミジハグマ	キク	<i>Ainsliaea acerifolia</i> Sch.Bip var. <i>subapoda</i> Nakai	—	—	VU	306
324	キッコウハグマ	キク	<i>Ainsliaea apiculata</i> Sch.Bip.	—	—	VU	307
325	カワラハハコ	キク	<i>Anaphalis margaritacea</i> (L.) Benth. et Hook.f. subsp. <i>yedoensis</i> (Franch. et Sav.) Kitam.	—	—	VU	308
326	カワラニンジン	キク	<i>Artemisia carvifolia</i> Buch. Ham.	—	—	NT	361
327	ヒメシオン	キク	<i>Aster fastigiatus</i> Fisch.	—	EN	EX	97
328	ヤマジノギク	キク	<i>Aster hispidus</i> Thunb.	—	CR	EX	98
329	イナカギク	キク	<i>Aster semiamplexicaulis</i> (Makino) Makino ex Koidz.	—	—	EX	99
330	オケラ	キク	<i>Atractylodes ovata</i> (Thunb.) DC.	—	—	EN	222
331	コヤブタバコ	キク	<i>Carpesium cernuum</i> L.	—	—	EX	100
332	ムラサキトキンソウ	キク	<i>Centipeda</i> sp.	—	NT	VU	309
333	リュウノウギク	キク	<i>Chrysanthemum makinoi</i> Matsum. et Nakai	—	—	EX	101
334	タカアザミ	キク	<i>Cirsium pendulum</i> Fisch.	—	—	希少遇産	380
335	キセルアザミ	キク	<i>Cirsium Sieboldii</i> Miq.	—	—	NT	362
336	スイラン	キク	<i>Hololeion kramerii</i> (Franch. et Sav.) Kitam.	—	—	EN	223
337	オグルマ	キク	<i>Inula britannica</i> L. subsp. <i>japonica</i> (Thunb.) Kitam.	—	—	VU	310
338	ミズギク	キク	<i>Inula ciliaris</i> (Miq.) Maxim.	—	NT	EN	224
339	カセンソウ	キク	<i>Inula salicina</i> L. var. <i>asiatica</i> Kitam.	—	EN	CR	148
340	ムラサキニガナ	キク	<i>Paraprenanthes sororia</i> (Miq.) Cauge ex C.Shih f. <i>glabra</i> Yonek.	—	—	VU	311
341	カンワバハグマ	キク	<i>Pertya robusta</i> (Maxim.) Beauv.	—	—	VU	312
342	アキノハハコグサ	キク	<i>Pseudognaphalium hypoleucum</i> (DC.) Hilliard et B.L.Burt	EN	EN	EX	102
343	ウラギク	キク	<i>Tripolium pannonicum</i> (Jacq.) Schur	NT	VU	EN	225
344	オナモミ	キク	<i>Xanthium strumarium</i> L.	VU	CR	EX	103
345	オオカメノキ	ガマズミ	<i>Viburnum furcatum</i> Blume ex Maxim	—	—	EN	226
346	ハクサンボク	ガマズミ	<i>Viburnum japonicum</i> (Thunb.) Spreng.	—	VU	県リスト	375
347	オミナエシ	スイカズラ	<i>Patrinia scabiosaefolia</i> Fisch. ex Trevir.	—	—	CR	149
348	オトコエシ	スイカズラ	<i>Patrinia villosa</i> (Thunb.) Juss.	—	—	EX	104
349	タニウツギ	スイカズラ	<i>Weigela hortensis</i> (Siebold et Zucc.) K.Koch	—	—	EN	227
350	オオバチドメ	ウコギ	<i>Hydrocotyle javanica</i> Thunb.	—	—	VU	313
351	ノダケ	セリ	<i>Angelica decursiva</i> (Miq.) Franch. et Sav.	—	—	VU	314
352	ムカゴニンジン	セリ	<i>Sium ninsi</i> L.	—	—	VU	315

(2) シダ植物

No.	種名	科名	学名	国 2020	県 2025	市 2025	掲載頁
1	オニトウゲシバ	ヒカゲノカズラ	<i>Huperiza javanica</i> (SW.) Fraser-Jenk.	—	—	NT	419
2	イヌカタヒバ	イワヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i> Hieron.	VU	国リスト	国リスト	429
3	クラマゴケ	イワヒバ	<i>Selaginella remotifolia</i> Spring	—	—	NT	420
4	ミズニラ	ミズニラ	<i>Isoetes japonica</i> A. Braun	NT	NT	EX	386
5	アカハナワラビ	ハナヤスリ	<i>Sceptridium nipponicum</i> (Makino) Holub	—	—	CR	389
6	モトマチハナワラビ	ハナヤスリ	<i>Sceptridium</i> sp.	—	EN	EN	392
7	ハマハナヤスリ	ハナヤスリ	<i>Ophioglossum thermale</i> Kom.	—	—	NT	421
8	マツバラン	マツバラン	<i>Psilotum nudum</i> (L.) P.Beauv.	NT	VU	国リスト	430
9	ヤマドリゼンマイ	ゼンマイ	<i>Osmundastrum cinnamomeum</i> (L.) C.Presl var. <i>fokiense</i> (Copel.) Tagawa	—	—	EN	393
10	ウチワゴケ	コケシノブ	<i>Crepidomanes minutum</i> (Blume) K.Iwats.	—	—	NT	422
11	コウヤコケシノブ	コケシノブ	<i>Hymenophyllum barbatum</i> (Bosch) Baker	—	—	VU	402
12	デンジソウ	デンジソウ	<i>Marsilea quadrifolia</i> L.	NT	CR	EX	387
13	サンショウモ	サンショウモ	<i>Salvinia natans</i> (L.) All.	NT	EN	EX	388
14	イヌシダ	コバノイシカグマ	<i>Dennstaedtia hirsuta</i> (Sw.) Mett.	—	—	希少遇産	432
15	イシカグマ	コバノイシカグマ	<i>Microlepia strigosa</i> (Thunb.) C.Presl	—	NT	CR	390
16	オオバノハチジョウシダ	イノモトソウ	<i>Pteris terminalis</i> Wall. ex J.Agardh	—	—	EN	394
17	ナチシダ	イノモトソウ	<i>Pteris wallichiana</i> J.Agardh	—	—	希少遇産	432
18	スリトラノオ	チャセンシダ	<i>Asplenium normale</i> D.Don	—	—	VU	403
19	トキワトラノオ	チャセンシダ	<i>Asplenium pekinense</i> Hance	—	—	NT	423
20	チャセンシダ	チャセンシダ	<i>Asplenium trichomanes</i> L.	—	—	EN	395
21	イブキシダ	ヒメシダ	<i>Thelypteris esquirolii</i> (H.Christ) Ching var. <i>glabrata</i> (H.Christ) K.Iwats.	—	—	希少遇産	433
22	ツクシヤワランシダ	ヒメシダ	<i>Thelypteris hattorii</i> (H.Itô) Tagawa var. <i>nemoralis</i> (Ching) Sa.Kurata	—	VU	CR	391
23	ウスヒメワラビ	ナヨシダ	<i>Acystopteris japonica</i> (Luerss.) Nakai	—	—	VU	404
24	ヒメワラビ	ヒメシダ	<i>Thelypteris torresiana</i> (Gaudich.) Alston var. <i>calvata</i> (Baker) K.Iwats.	—	—	VU	405
25	コモチシダ	シンガシラ	<i>Woodwardia orientalis</i> Sw.	—	—	EN	396
26	ウラボシノコギリシダ	メシダ	<i>Anisocampium sheareri</i> (Baker) Ching	—	—	EN	397
27	カラクサイヌワラビ	メシダ	<i>Athyrium clivicola</i> Tagawa	—	—	希少遇産	433
28	サトメシダ	メシダ	<i>Athyrium deltoideifrons</i> Makino	—	—	VU	406
29	サキモリイヌワラビ	メシダ	<i>Athyrium oblitescens</i> Sa.Kurata	—	—	希少遇産	434
30	タニイヌワラビ	メシダ	<i>Athyrium otophorum</i> (Miq.) Koidz	—	—	NT	424
31	ヒロハイヌワラビ	メシダ	<i>Athyrium wardii</i> (Hook.) Makino	—	—	NT	425
32	ヘラシダ	メシダ	<i>Deparia lancea</i> (Thunb.) Fraser-Jenk.	—	—	VU	407
33	ウスバシケシダ	メシダ	<i>Deparia longipes</i> (Ching) Shinohara	VU	VU	VU	408
34	ヒカゲワラビ	メシダ	<i>Diplazium chinense</i> (Baker) C.Chr.	—	—	NT	426
35	ニセコクモウクジャク	メシダ	<i>Diplazium conterminum</i> H.Christ	—	VU	EN	398
36	シロヤマシダ	メシダ	<i>Diplazium hachijoense</i> Nakai	—	—	VU	409

var. <i>shiroyamense</i> (Tagawa)						
37	オニヒカゲワラビ	メシダ	<i>Diplazium nipponicum</i> Tagawa	—	—	VU 410
38	キヨタキシダ	メシダ	<i>Diplazium squamigerum</i> (Mett.) Matsum.	—	—	NT 427
39	オオカナワラビ	オシダ	<i>Arachniodes amabilis</i> (Blume) Tindale var. <i>fimbriata</i> K.Iwats.	—	—	NT 428
40	ホソバナライシダ	オシダ	<i>Arachniodes borealis</i> Seriz.	—	—	VU 411
41	ハガクレカナワラビ	オシダ	<i>Arachniodes yasui-inoue</i> Sa. Kurata	VU	国リスト 国リスト	431
42	オシダ	オシダ	<i>Dryopteris crassirhizoma</i> Nakai	—	—	希少遇産 434
43	イヌイワヘゴ	オシダ	<i>Dryopteris cycadina</i> (Franch. et Sav.) C.Chr.	—	—	希少遇産 435
44	イワヘゴ	オシダ	<i>Dryopteris atrata</i> (Wall. ex Kunze) Ching.	—	—	VU 412
45	ヌカイタチシダモドキ	オシダ	<i>Dryopteris indusiata</i> (Makino) Makino et Yamam.	—	—	EN 399
46	クマワラビ	オシダ	<i>Dryopteris lacera</i> (Thunb.) Kuntze	—	—	VU 413
47	キヨスミヒメワラビ	オシダ	<i>Dryopteris maximowicziana</i> (Miq.) C.Chr.	—	—	希少遇産 435
48	オオマルバベニシダ	オシダ	<i>Dryopteris medioxima</i> Koidz.	—	—	希少遇産 436
49	ヒメイタチシダ	オシダ	<i>Dryopteris sacrosancta</i> Koidz.	—	—	VU 414
50	ヌカイタチシダマガイ	オシダ	<i>Dryopteris simasaki</i> (H. Ito) Sa. Kurata	—	—	EN 400
51	ナガバノイタチシダ	オシダ	<i>Dryopteris sparsa</i> (Buch.-Ham. ex D.Don) Kuntze	—	—	VU 415
52	タニヘゴ	オシダ	<i>Dryopteris tokyoensis</i> (Makino) C.Chr.	—	—	VU 416
53	アスカイノデ	オシダ	<i>Polystichum fibrillosopaleaceum</i> (Kodama) Tagawa	—	—	VU 417
54	クリハラン	ウラボシ	<i>Neolepisorus ensatus</i> (Thunb.) Ching	—	—	EN 401
55	ミツデウラボシ	ウラボシ	<i>Selliguea hastata</i> (Thunb.) Fraser-Jenk.	—	—	VU 418

Threatened Wildlife of Nagoya City
RED DATA BOOK NAGOYA 2025

— Plants —

April 2025

Edited by

City of Nagoya Environmental Affairs Bureau
Environmental Planning Department Environmental Planning Division

Published by

City of Nagoya Environmental Affairs Bureau
Environmental Planning Department Environmental Planning Division
1-1 Sannomaru 3-chome, Naka-ku, Nagoya 460-8508, Japan

Tel: 052-831-8104

Fax: 052-839-1695

E-mail: bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物

レッドデータブックなごや 2025

— 植物編 —

発行年月 令和 7 年 4 月

編集 名古屋市環境局環境企画部環境企画課

発行 名古屋市環境局環境企画部環境企画課

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目 1 番 1 号

電話 052-831-8104

ファックス 052-839-1695

電子メール bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

本書に収録した写真は、著作者の了解を得て複製したものです。私的使用又は引用等著作権法上認められた行為を除き、著作者に無断で再複製を行うことはできません。



Threatened Wildlife of Nagoya City
RED DATA BOOK NAGOYA 2025
Plants
